

ほくとし
北斗市

おしあげ いせき
押上 1 遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

第 1 分冊

本編

平成 26 年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



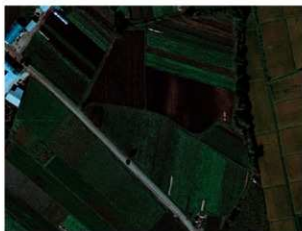
空中写真（盛土遺構のクロープマークが見える）1976. 9. 12 撮影



調査近景（A地区）



基本土層



盛土遺構のソイルマーク（左：1976.10.5.右：2011.9.27撮影）



調査近景（E地区）



調査近景（G地区）



調査近景（H地区）



縄文主体の土器



沈線文・貼付文等の土器



剥片石器・石斧



たたき石



ヒスイ製垂飾



赤色顔料



アスファルト付着礫



土器底面に残るサメの歯 (図V-1-62-637)



青雫刀形石器

例 言

1. 本書は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局が行う、北海道新幹線建設事業に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成22・23年度に実施した北斗市押上1遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査および報告書の作成は第2調査部第1調査課が行った。
3. 本書の作成にあたっては、遺構調査を中山昭大・福井淳一・立田 理・柳瀬由佳・吉田裕史洋が、現地での遺物一次整理を中山昭大・福井淳一が、現地での写真撮影は主に中山昭大・吉田裕史洋が行った。二次整理は、土器を柳瀬が行い、石器・その他は福井が担当した。遺物写真の撮影および写真図版作成は中山が担当した。全体の編集は福井が行った。各章・各節の執筆担当は文末に記してある。
4. 剥片石器の実測・トレースは、(株)トラスト技研に委託した。
5. 各種分析・鑑定は、下記に委託した。
 - ・放射性炭素年代測定 (AMS測定) : 株式会社 加速器分析研究所
 - ・玉の岩石学的分析 : アースサイエンス株式会社
 - ・動物遺存体同定・炭化種実同定 : 株式会社 古環境研究所
 - ・炭化材の樹種同定 : 株式会社 バレオ・ラボ
6. 調査終了後の出土資料は、北斗市教育委員会で保管する。
7. 調査にあたっては下記の機関および人々のご協力、ご助言をいただいた(順不同、敬称略)
北海道教育委員会、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、北斗市教育委員会
森 靖裕・三上秀則、函館市教育委員会 長谷部一弘・田原良信・佐藤智雄・野村祐一・阿部千春・福田裕二・小林貢・吉田力・松崎水徳、木古内町教育委員会 木元 豊、知内町教育委員会 高橋豊彦、松前城資料館 久保 泰、松前町教育委員会 前田正憲・佐藤雄生、七飯町歴史館 山田 央、森町教育委員会 高橋 毅、八雲町教育委員会 柴田信一・大谷茂之、上ノ国町教育委員会 斉藤邦典・塚田直哉、厚沢町教育委員会 石井淳平、乙部町教育委員会 藤田 巧、今金町教育委員会 寺崎康史・宮本雅通、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団 坪井睦美・佐藤 稔、伊達市教育委員会 青野友哉、洞爺湖町教育委員会 角田隆志、勇武津資料館(苫小牧市) 赤石慎三、厚真町教育委員会 乾 哲也・奈良智法、シン技術コンサル 時田太郎、山田あや子、函館工業高等専門学校 中村和之、南北海道考古学研究所 横山英介、函館の歴史的風土を守る会 落合治彦、北海道開拓記念館 右代啓視・鈴木琢也、弘前大学 関根達人、弘前学院大学 鈴木克彦、青森県教育委員会 斉藤慶史、青森県埋蔵文化財調査センター 神康夫、佐佐町教育委員会 大川貴弘、秋田県教育庁 五十嵐一治、秋田県埋蔵文化財センター 小林 克、東京大学埋蔵文化財調査室 清水 香、國學院大學博物館 阿部常樹、神奈川県立歴史博物館 千葉 毅、流山市教育委員会 小川勝和、佐倉市教育委員会 小倉和重、聖マリアンナ医科大学 澤田純明、金子浩昌、大沼忠春、坂下組

記号等の説明

1. 遺構については、次の記号にハイフンとともに確認順に番号を付けた。記号の頭に付したOは、
押し1遺跡の遺構と言う意味。
OH:住居跡 OP:土坑 OTP:Tビット OF:焼土 OFC:剥片集中
OS:集石 OSP:小ビット HP:住居内の柱穴・土坑 HF:住居内の焼土
2. 掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。なお、個々にスケールを付けてある。
遺 構 1:40 遺構図一部拡大 1:20
復元土器 1:3 土 器 拓 影 1:3 土製品・石製品 1:2
剥片石器 1:2 礫 石 器 1:3 骨 角 器 1:1
3. 遺構の規模については、単位をmとし、以下の要領で示した。現存長は()で示した。
竪穴住居跡・土坑:確認面の長軸の長さ/床面・底面での長軸の長さ×確認面の短軸の長さ/床面・
底面での短軸の長さ×最大の深さ
剥片集中・焼土・集石:確認面の長軸の長さ×確認面の短軸の長さ×最大の深さ
4. 土層の表記は、基本土層をローマ数字(I、II)、遺構覆土をアラビア数字(1・2)で示した。
5. 土層の観察には『新版標準土色帖』(小川・竹原2004)を用い、『土壌調査ハンドブック改訂版』
(日本ペトロロジー学会編2000)を引用した。
6. 火山灰は『北海道の火山灰』(北海道火山灰命名委員会1982)に準じ、以下の略号を用いた。
白頭山一苦小牧火山灰:B-Tm
7. 土器の実測図において、貼付の剥落の明瞭な部分をスクリーントーンで示したものがある。
また、断面図において、沈線と縄線との区別のため、横位の縄線の断面は図V-1-4-19のよう
に、縦位の断面は図V-1-8-35のように示した。
8. 石器の実測図では、たたき痕は「V-V」、すり痕は「| - |」で範囲を示した。また、アスフ
ァルト付着部分については黒塗り、使用により光沢を生じた部分にはスクリーントーンで示した。
例外的に、アスファルト付着部分をスクリーントーンで示した礫がある。
9. 土器・土製品と、石器・石製品等とは、それぞれ別に通しの掲載番号を付した。遺構図や総括図
で使用した遺物に付した番号は、この掲載番号である。

目 次

【第一分冊】

口絵

例言

記号等の説明

目次

I 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	4
4 調査の経過	4
5 調査結果の概要	4

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置	7
2 周辺の遺跡	9

III 調査の方法

1 調査区の設定と座標値	14
2 発掘調査の方法	14
3 整理の方法	15
4 基本層序	18
5 遺物の分類	20

IV 遺構

1 遺構の概要	23
2 盛土遺構	24
3 竪穴住居跡	25
4 土坑	51
5 Tピット	59
6 焼土	60
7 剥片集中	62
8 集石	62
9 柱穴状小ピット	116
10 小沢	116

V 遺物

1 土器	223
2 石器	309
3 骨角器	383
4 サメ類遊離歯	407

VI 自然科学的分析

1 押上1遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)(1)(株式会社 加速器分析研究所)	408
2 押上1遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)(2)(株式会社 加速器分析研究所)	410
3 押上1遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)(3)(株式会社 加速器分析研究所)	414
4 玉の岩石学的分析(アースサイエンス株式会社)	418
5 北斗市押上1遺跡における動物遺存体同定・炭化種実同定(株式会社 古環境研究所)	420
6 押上1遺跡出土炭化材の樹種同定(株式会社 パレオ・ラボ)	438

VII 総括

1 押上1遺跡における集落変遷	441
2 押上1遺跡の土器・土製品	446
3 押上1遺跡の石器	451
4 押上1遺跡の自然科学的分析成果	454

一覧表

引用・参考文献

報告書抄録

【第二分冊】

目次

写真図版

挿 図 目 次

I 調査の概要

図 I-1 遺跡周辺の地形と調査区	2
図 I-2 今回の調査区と土曜町教育委員会の調査区	3

II 遺跡の位置と環境

図 II-1 遺跡の位置と周辺の地質	7
図 II-2 空中写真に見る押上1遺跡周辺の景観変遷	8
図 II-3 周辺の遺跡と活断層	10

III 調査の方法

図 III-1 調査区の地区分け	15
図 III-2 調査区最終面の地形 (1)	16
図 III-3 調査区最終面の地形 (2)	17
図 III-4 基本層序柱状図	18
図 III-5 土層実測図	19

IV 遺構

図 IV-1 遺構位置図 (小ピット以外) (1)	63
図 IV-2 遺構位置図 (小ピット以外) (2)	64
図 IV-3 小ピット位置図	65
図 IV-4 遺構位置図 (1): 94~98ライン	66
図 IV-5 遺構位置図 (2): 99~103ライン	67
図 IV-6 遺構位置図 (3): 103~107ライン	68
図 IV-7 遺構位置図 (4): 130~134ライン	69
図 IV-8 遺構位置図 (5): 153~158ライン	70
図 IV-9 遺構位置図 (6): 158~162ライン	71
図 IV-10 遺構位置図 (7): 162~167ライン	72
図 IV-11 遺構位置図 (8): 167~171ライン	73
図 IV-12 西盛土遺構 (1)	74
図 IV-13 西盛土遺構 (2)	75
図 IV-14 西盛土遺構 (3)	76
図 IV-15 西盛土遺構 (4)	77
図 IV-16 東盛土遺構 (1)	78

図 IV-17 東盛土遺構 (2)	79
図 IV-18 東盛土遺構 (3)	80
図 IV-19 OH-1 (1)	81
図 IV-20 OH-1 (2)	82
図 IV-21 OH-2 (1)	83
図 IV-22 OH-2 (2)	84
図 IV-23 OH-2 (3)	85
図 IV-24 OH-3 (1)	86
図 IV-25 OH-3 (2)	87
図 IV-26 OH-4 (1)	88
図 IV-27 OH-4 (2)	89
図 IV-28 OH-5 (1)	90
図 IV-29 OH-5 (2)	91
図 IV-30 OH-6	92
図 IV-31 OH-7 (1)	93
図 IV-32 OH-7 (2)	94
図 IV-33 OH-8	95
図 IV-34 OH-9	96
図 IV-35 OH-10 (1)	97
図 IV-36 OH-10 (2)	98
図 IV-37 OH-11 (1)	99
図 IV-38 OH-11 (2)	100
図 IV-39 OH-12 (1)	101
図 IV-40 OH-12 (2)	102
図 IV-41 OH-12 (3)	103
図 IV-42 OH-12 (4)	104
図 IV-43 OH-13 (1)	105
図 IV-44 OH-13 (2)	106
図 IV-45 OH-13 (3)	107
図 IV-46 OH-13 (4)	108
図 IV-47 OH-13 (5)	109
図 IV-48 OH-14 (1)	110
図 IV-49 OH-14 (2)	111
図 IV-50 OH-15 (1)	112
図 IV-51 OH-15 (2)	113

图IV-52 OH-15 (3)	114	图IV-89 OH-33 (1)	151
图IV-53 OH-15 (4)	115	图IV-90 OH-33 (2)	152
图IV-54 OH-15 (5)	116	图IV-91 OH-33 (3)	153
图IV-55 OH-16 (1)	117	图IV-92 OH-33 (4)	154
图IV-56 OH-16 (2)	118	图IV-93 OH-34	155
图IV-57 OH-17 (1)	119	图IV-94 OH-35	156
图IV-58 OH-17 (2)	120	图IV-95 OH-36 (1)	157
图IV-59 OH-19 (1)	121	图IV-96 OH-36 (2)	158
图IV-60 OH-19 (2)	122	图IV-97 OH-36 (3)	159
图IV-61 OH-19 (3)	123	图IV-98 OH-37 (1)	160
图IV-62 OH-19 (4)	124	图IV-99 OH-37 (2)	161
图IV-63 OH-19 (5)	125	图IV-100 OH-38 (1)	162
图IV-64 OH-20	126	图IV-101 OH-38 (2)	163
图IV-65 OH-21 (1)	127	图IV-102 OH-39 (1)	164
图IV-66 OH-21 (2)	128	图IV-103 OH-39 (2)	165
图IV-67 OH-21 (3)	129	图IV-104 OH-39 (3)	166
图IV-68 OH-22 (1)	130	图IV-105 OH-40 (1)	167
图IV-69 OH-22 (2)	131	图IV-106 OH-40 (2)	168
图IV-70 OH-23 (1)	132	图IV-107 OH-41	169
图IV-71 OH-23 (2)	133	图IV-108 OH-42	170
图IV-72 OH-24 (1)	134	图IV-109 OH-43	171
图IV-73 OH-24 (2)	135	图IV-110 OH-44	172
图IV-74 OH-25 (1)	136	图IV-111 OP-1~5	173
图IV-75 OH-25 (2)	137	图IV-112 OP-6~7	174
图IV-76 OH-26	138	图IV-113 OP-8~9	175
图IV-77 OH-27 (1)	139	图IV-114 OP-10~11	176
图IV-78 OH-27 (2)	140	图IV-115 OP-12~13	177
图IV-79 OH-28 (1)	141	图IV-116 OP-14~16	178
图IV-80 OH-28 (2)	142	图IV-117 OP-17~18	179
图IV-81 OH-29 (1)	143	图IV-118 OP-19~22	180
图IV-82 OH-29 (2)	144	图IV-119 OP-23~25	181
图IV-83 OH-30 (1)	145	图IV-120 OP-26~27	182
图IV-84 OH-30 (2)	146	图IV-121 OP-28~31	183
图IV-85 OH-31 (1)	147	图IV-122 OP-32~33	184
图IV-86 OH-31 (2)	148	图IV-123 OTP-1~2	185
图IV-87 OH-32 (1)	149	图IV-124 OTP-3~4	186
图IV-88 OH-32 (2)	150	图IV-125 OP-1~4	187

图IV-126	OF-5~7	188
图IV-127	OF-8~11	189
图IV-128	OFc-1~3	190
图IV-129	OS-1	191
图IV-130	OSP (1)	192
图IV-131	OSP (2)	193
图IV-132	OSP (3)	194
图IV-133	OSP (4)	195
图IV-134	OSP (5)	196
图IV-135	OSP (6)	197
图IV-136	OSP (7)	198
图IV-137	OSP (8)	199
图IV-138	OSP (9)	200
图IV-139	OSP (10)	201
图IV-140	OSP (11)	202
图IV-141	OSP (12)	203
图IV-142	OSP (13)	204
图IV-143	OSP (14)	205
图IV-144	OSP (15)	206
图IV-145	OSP (16)	207
图IV-146	OSP (17)	208
图IV-147	OSP (18)	209
图IV-148	OSP (19)	210
图IV-149	OSP (20)	211
图IV-150	OSP (21)	212
图IV-151	OSP (22)	213
图IV-152	OSP (23)	214
图IV-153	OSP (24)	215
图IV-154	OSP (25)	216
图IV-155	OSP (26)	217
图IV-156	OSP (27)	218
图IV-157	OSP (28)	219
图IV-158	OSP (29)	220
图IV-159	OSP (30)	221
图IV-160	OSP (31)	222

V 遺物

图V-1-1	土器 (1)	240
图V-1-2	土器 (2)	241
图V-1-3	土器 (3)	242
图V-1-4	土器 (4)	243
图V-1-5	土器 (5)	244
图V-1-6	土器 (6)	245
图V-1-7	土器 (7)	246
图V-1-8	土器 (8)	247
图V-1-9	土器 (9)	248
图V-1-10	土器 (10)	249
图V-1-11	土器 (11)	250
图V-1-12	土器 (12)	251
图V-1-13	土器 (13)	252
图V-1-14	土器 (14)	253
图V-1-15	土器 (15)	254
图V-1-16	土器 (16)	255
图V-1-17	土器 (17)	256
图V-1-18	土器 (18)	257
图V-1-19	土器 (19)	258
图V-1-20	土器 (20)	259
图V-1-21	土器 (21)	260
图V-1-22	土器 (22)	261
图V-1-23	土器 (23)	262
图V-1-24	土器 (24)	263
图V-1-25	土器 (25)	264
图V-1-26	土器 (26)	265
图V-1-27	土器 (27)	266
图V-1-28	土器 (28)	267
图V-1-29	土器 (29)	268
图V-1-30	土器 (30)	269
图V-1-31	土器 (31)	270
图V-1-32	土器 (32)	271
图V-1-33	土器 (33)	272
图V-1-34	土器 (34)	273
图V-1-35	土器 (35)	274
图V-1-36	土器 (36)	275

図V-1-37	土器 (37)	276	図V-2-5	石器 (5) : 石錐 (2)	337
図V-1-38	土器 (38)	277	図V-2-6	石器 (6) : 石錐 (3)、つまみ付ナイフ (1)	338
図V-1-39	土器 (39)	278	図V-2-7	石器 (7) : つまみ付ナイフ (2)、筵状石器 (1)	339
図V-1-40	土器 (40)	279	図V-2-8	石器 (8) : 筵状石器 (2)、スクレイパー (1)	340
図V-1-41	土器 (41)	280	図V-2-9	石器 (9) : スクレイパー (2)	341
図V-1-42	土器 (42)	281	図V-2-10	石器 (10) : スクレイパー (3)	342
図V-1-43	土器 (43)	282	図V-2-11	石器 (11) : スクレイパー (4)	343
図V-1-44	土器 (44)	283	図V-2-12	石器 (12) : スクレイパー (5)	344
図V-1-45	土器 (45)	284	図V-2-13	石器 (13) : スクレイパー (6)	345
図V-1-46	土器 (46)	285	図V-2-14	石器 (14) : スクレイパー (7)	346
図V-1-47	土器 (47)	286	図V-2-15	石器 (15) : スクレイパー (8)	347
図V-1-48	土器 (48)	287	図V-2-16	石器 (16) : スクレイパー (9)	348
図V-1-49	土器 (49)	288	図V-2-17	石器 (17) : スクレイパー (10)	349
図V-1-50	土器 (50)	289	図V-2-18	石器 (18) : スクレイパー (11)	350
図V-1-51	土器 (51)	290	図V-2-19	石器 (19) : スクレイパー (12)	351
図V-1-52	土器 (52)	291	図V-2-20	石器 (20) : スクレイパー (13)	352
図V-1-53	土器 (53)	292	図V-2-21	石器 (21) : 両面調整石器 (1)	353
図V-1-54	土器 (54)	293	図V-2-22	石器 (22) : 両面調整石器 (2)、楔形石器 (1)	354
図V-1-55	土器 (55)	294	図V-2-23	石器 (23) : 楔形石器 (2)、Rフレイク	355
図V-1-56	土器 (56)	295	図V-2-24	石器 (24) : 石核 (1)	356
図V-1-57	土器 (57)	296	図V-2-25	石器 (25) : 石核 (2)	357
図V-1-58	土器 (58)	297	図V-2-26	石器 (26) : 石核 (3)	358
図V-1-59	土器 (59)	298	図V-2-27	石器 (27) : 石核 (4)	359
図V-1-60	土器 (60)	299	図V-2-28	石器 (28) : 石核 (5)	360
図V-1-61	土器 (61)	300	図V-2-29	石器 (29) : 石核 (6)	361
図V-1-62	土器 (62)	301	図V-2-30	石器 (30) : 石核 (7)	362
図V-1-63	土器 (63)	302	図V-2-31	石器 (31) : 石核 (8)	363
図V-1-64	土器 (64)	303	図V-2-32	石器 (32) : 石核 (9)	364
図V-1-65	土器 (65)	304	図V-2-33	石器 (33) : 石核 (10)	365
図V-1-66	土器 (66)	305	図V-2-34	石器 (34) : 石核 (11)	366
図V-1-67	土器 (67)	306	図V-2-35	石器 (35) : 石核 (12)	367
図V-1-68	土器 (68)	307	図V-2-36	石器 (36) : 石核 (13)	368
図V-1-69	土器 (69)	308			
図V-2-1	石器 (1) : 石鏃 (1)	333			
図V-2-2	石器 (2) : 石鏃 (2)	334			
図V-2-3	石器 (3) : 石槍	335			
図V-2-4	石器 (4) : 石錐 (1)	336			

図V-2-37	石器 (37) : 石核 (14)	369	図V-2-60	石器 (60) : 台石・石皿・砥石 (2)	392
図V-2-38	石器 (38) : 石核 (15)	370	図V-2-61	石器 (61) : 台石・石皿・砥石 (3)	393
図V-2-39	石器 (39) : 石核 (16)	371	図V-2-62	石器 (62) : 台石・石皿・砥石 (4)	394
図V-2-40	石器 (40) : 石核 (17)	372	図V-2-63	石器 (63) : 台石・石皿・砥石 (5)	395
図V-2-41	石器 (41) : 石核 (18)	373	図V-2-64	石器 (64) : 台石・石皿・砥石 (6)	396
図V-2-42	石器 (42) : 石核 (19)	374	図V-2-65	石器 (65) : 台石・石皿・砥石 (7)	397
図V-2-43	石器 (43) : 石核 (20)	375	図V-2-66	石器 (66) : 台石・石皿・砥石 (8)	398
図V-2-44	石器 (44) : 石斧 (1)	376	図V-2-67	石器 (67) : 有意の縄 (赤色顔料・アスフ アルト付着縄等)	399
図V-2-45	石器 (45) : 石斧 (2)	377	図V-2-68	石器 (68) : 石棒 (1)	400
図V-2-46	石器 (46) : 石斧 (3)	378	図V-2-69	石器 (69) : 石棒 (2)	401
図V-2-47	石器 (47) : 石斧 (4)	379	図V-2-70	石器 (70) : 鳥帽子形石器	402
図V-2-48	石器 (48) : 石斧 (5)	380	図V-2-71	石器 (71) : 青竜刀形石器 (1) ...	403
図V-2-49	石器 (49) : 石斧 (6)	381	図V-2-72	石器 (72) : 青竜刀形石器 (2) ...	404
図V-2-50	石器 (50) : 石斧 (7)	382	図V-2-73	石器 (73) : 青竜刀形石器 (3) ...	405
図V-2-51	石器 (51) : 石斧 (8)	383	図V-2-74	石器 (74) : 異形石器、三脚石器、垂飾、 石製品、骨角器	406
図V-2-52	石器 (52) : たたき石 (1)	384	図V-2-75	サメ類遊離歯	407
図V-2-53	石器 (53) : たたき石 (2)	385			
図V-2-54	石器 (54) : たたき石 (3)	386			
図V-2-55	石器 (55) : たたき石 (4)	387			
図V-2-56	石器 (56) : たたき石 (5)	388			
図V-2-57	石器 (57) : すり石 (1)	389			
図V-2-58	石器 (58) : すり石 (2)、半円状扁平打製 石器	390			
図V-2-59	石器 (59) : 石錐、石錘、加工痕のある縄、 台石・石皿・砥石 (1)	391			

VI 総括

図VII-1	押上1遺跡の住居形態	442
図VII-2	押上1遺跡の遺構分布	444
図VII-3	押上1遺跡の土器群	447
図VII-4	押上1遺跡の石器群	453
図VII-5	押上1遺跡の年代測定値	454

表 目 次

I 調査の概要

表I-1	遺構数一覧	5
表I-2	土器出土点数一覧	5
表I-3	石器出土点数一覧	6
表I-4	縄取り上げ点数一覧	6

II 遺跡の位置と環境

表II-1	周辺の遺跡	11
-------	-------------	----

VI 自然科学的分析

表VI-1-1	測定試料及び放射性炭素年代	409
表VI-1-2	放射性炭素年代及び暦年較正の結果	409
表VI-2-1	測定試料及び放射性炭素年代	411
表VI-2-2	放射性炭素年代及び暦年較正の結果	412
表VI-3-1	測定試料及び放射性炭素年代	414
表VI-3-2	放射性炭素年代及び暦年較正の結果	415
表VI-4-1	各元素の測定条件 (例)	418
表VI-4-2	FP法蛍光X線分析結果	419
表VI-5-1-1	試料一覧	422

表VI-5-1-2 検出分類群一覧	420
表VI-5-1-3 押上1遺跡における動物遺存体同定結果	424
表VI-5-II-1 試料一覧	431
表VI-5-II-2 北斗市押上1遺跡における種実同定結果	432
表VI-6-1 樹種同定結果	439

Ⅶ 総括

表Ⅶ-1 代表的な遺構の出土土器細別一覧	448
表Ⅶ-2 復元土器および底面圧痕のある土器個体数一覧	450
表Ⅶ-3 土器底面圧痕種別一覧	450
表Ⅶ-4 押上1遺跡検出炭化種実一覧	455
表Ⅶ-5 押上1遺跡検出動物遺存体一覧	456
表Ⅶ-6 津軽海峡沿岸遺跡出土動物遺存体一覧	457

一覧表

表1 検出遺構一覧(小ピット以外)	458
表2 小ピット一覧	459
表3 遺構出土土器一覧	461
表4 盛土遺構出土土器一覧	462
表5 包含層出土土器一覧	462
表6 遺構出土土製品一覧	462
表7 盛土遺構出土土製品一覧	462
表8 包含層出土土製品一覧	462
表9 遺構出土石器一覧	463
表10 盛土遺構出土石器一覧	466
表11 包含層・表土出土石器一覧	466
表12 遺構出土礎一覧	468
表13 盛土遺構出土礎一覧	468
表14 包含層・表土出土礎一覧	468
表15 掲載土器一覧(復元・図上復元)	469
表16 掲載土器(破片)・土製品一覧	475
表17 掲載石器・骨角器等一覧	481
表18 遺物分布一覧	489

写真図版目次

口絵

口絵1 空中写真
口絵2 調査近景(A地区) 基本土層
口絵3 盛土遺構のソイルマーク 調査近景(E地区)
口絵4 調査近景(G地区) 調査近景(H地区)
口絵5 縄文主体の土器
口絵6 沈線文・貼付文等の土器 剥片石器・石斧

口絵7 たたき石 ヒスイ製垂飾 赤色顔料 アスファルト付着礫 土器底面に残るサメの歯
口絵8 青竜刀形石器

Ⅷ 自然科学的分析

図版Ⅵ-5-1-1 北斗市押上1遺跡の動物遺存体	436
図版Ⅵ-5-II-1 北斗市押上1遺跡の種実	437
図版Ⅵ-6-1 押上1遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真	440

I 調査の概要

1 調査要項

事業名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査		
委託者	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局		
遺跡名	押上1遺跡		
北海道教育委員会登録番号	B-06-73		
所在地	北海道北斗市大工川176-23ほか		
調査面積	4,539㎡		
調査期間	平成22年度	平成22年9月6日～平成22年3月31日	
		(発掘調査9月6日～12月1日)	
	平成23年度	平成23年4月1日～平成24年3月31日	
		(発掘調査5月9日～9月9日)	
	平成24年度	平成24年4月1日～平成25年3月31日	(整理作業)
	平成25年度	平成25年4月1日～平成26年3月31日	(整理作業)
	平成26年度	平成26年4月1日～平成27年3月31日	(整理作業)

2 調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

理事長 坂本 均

副理事長 畑 宏明 (平成24年6月8日から、平成26年8月28日死去)

専務理事 松本昭一 (平成24年6月7日まで)

中田 仁 (事務局長兼務、平成24年6月8日から)

常務理事 畑 宏明 (平成24年6月7日まで)

千葉英一 (平成24年6月8日から)

平成22年度

第2調査部長 西田 茂

第1調査課長 遠藤香澄 (発掘担当者)

主査 中山昭大 (発掘担当者)

主任 福井淳一 (発掘担当者)

主任 柳瀬由佳 (発掘担当者)

平成24年度

第2調査部長 三浦正人

第1調査課長 遠藤香澄

主査 福井淳一

平成26年度

第2調査部長 三浦正人

第1調査課長 中山昭大

主査 福井淳一

平成23年度

第2調査部長 三浦正人

第1調査課長 遠藤香澄

主査 立田 理 (発掘担当者)

主任 福井淳一 (発掘担当者)

平成25年度

第2調査部長 三浦正人

第1調査課長 熊谷仁志

主査 福井淳一

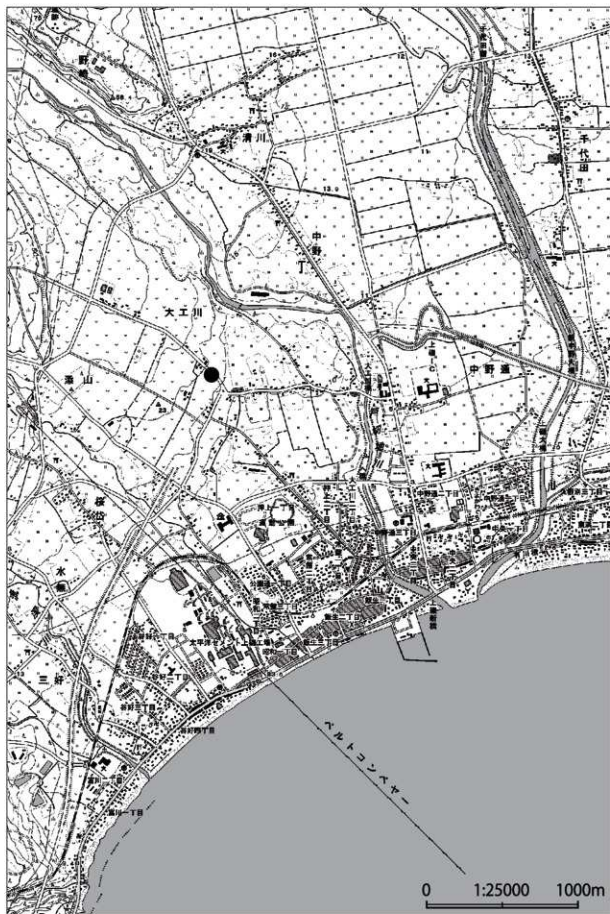


図 I-1 遺跡周辺の地形と調査区

(国土地理院平成18年発行 数値地図25000 (地図画像) 函館に加筆した)

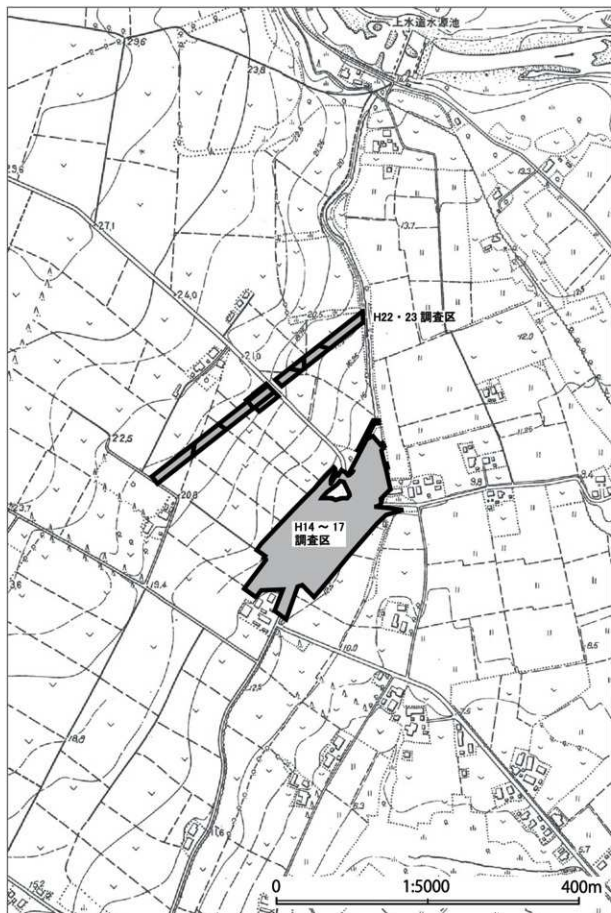


図 I-2 今回の調査区と上磯町教育委員会の調査区

(昭和43年測量 1:5,000 国土基本図 IX-SE 07・08に加筆した)

3 調査に至る経緯

北海道新幹線は、全国新幹線鉄道整備法第4条に基づき、昭和47年に指定され、昭和48年に整備計画に昇格した。平成17年、新青森—新函館（仮）間の工事認可書が国土交通省から鉄道建設・運輸施設整備支援機構に交付され、同年工事が着工した。この事業に関する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、北斗市教育委員会を經由して、北海道教育委員会あてに事前協議がなされた。協議を受けた北海道教育委員会は、平成19年11月に試掘調査を行った。押上1遺跡付近では、遺構が確認され、遺物も出土した。路線の変更は不可能なことから、発掘調査が必要であると判断された。

以上の経緯から、北海道教育委員会は、財団法人北海道埋蔵文化財センターに、3,427㎡の調査面積を指示し、平成21年3月に財団法人北海道埋蔵文化財センターが調査計画を立案した。

4 調査の経過

平成22年度は、9月6日から建設機械により表土除去作業を実施、作業員32名体制で調査を開始し、12月1日にC～G地区の現地調査を終了した。当初予定の調査期間は10月29日までで、調査面積は3,427㎡であったが、A・B地区においてトレンチ調査を行ったところ、当初計画以上に遺構・遺物が確認された。このことによりA・B地区調査面積の減少（1,234.9㎡）、および、E地区で調査範囲の追加（339.9㎡）があり（図Ⅲ-1）、最終調査面積は2,532㎡となった。

平成23年度は、A・B・H地区の調査を行った。5月9日より、作業員24名体制で調査を開始し、9月9日に現地調査を終了した。当初予定の調査期間は、8月12日までであったが、遺構数及び遺物量のさらなる増加のために変更した。

平成24年度は、5月から木古内町札苧に構えた事務所、遺物の水洗、分類を行った。11月からは江別市の北海道埋蔵文化財センターで整理作業を開始し、平成25・26年度にかけて報告書作成業務を行った。

5 調査結果の概要

調査で得られた遺構・遺物の件数は一覧表にまとめてある（表Ⅰ-1～4）。年報に掲載した概要を一部加筆して転載する。

平成22年度の調査結果

検出した遺構は、竪穴住居跡9軒、フラスコ状のものを含む土坑7基、Tピット1基、小ピット46基。竪穴住居跡は、3軒（OH-7a・7b・8）がE地区追加範囲、6軒（OH-1～6）がG地区から検出された。いずれも掘り込みが浅く、平面形は捉えがたい。OH-1、2では、床面中央部付近に焼土を圍繞した石囲炉が確認された。土坑は、D・E地区から各1基、G地区から5基検出された。フラスコ状のもの（OP-7）や墓の可能性のあるもの（OP-1・6）がある。小ピットはG地区の住居跡周辺から集中して検出している。A・B地区では、盛土遺構が確認された。また、竪穴住居跡、土坑等多数遺存することを把握したため、次年度調査することとした。

遺物は土器・石器等合わせコンテナにして42箱出土した。土器は縄文時代後期前葉のものがほとんどで、縄文時代晩期のものもわずかに認められる。特徴的な遺物としては、赤彩壺形土器がある。石器には石鏃、つまみ付きナイフ、磨製石斧などがある。剥片石器はほとんどが頁岩製である。

平成23年度の調査結果

A・B地区から検出された遺構は、縄文時代後期前葉の盛土遺構2条、竪穴住居跡33軒、フラスコ状のものを含む土坑23基、Tピット3基、小ピット343基、焼土11か所、集石1か所である。調査区全域が耕作による影響を受けていたが、A・B地区は比較的耕作深度が浅く、盛土遺構も辛うじて残存していた。盛土遺構は竪穴住居跡、土坑、小ピットなど遺構が集中する範囲の両側に東西2条確認され、調査区外に延びている。現状では畑に色調の明るい土壌が帯状に見え、遺物が濃密に散布している。厚さは最大30cmほど。竪穴住居跡は、掘り込みが浅く平面形が捉えたいものと掘り込みが明瞭なものがあり、重複が著しかった。ほとんどの住居跡から石囲炉が確認された。石囲炉は、方形を呈するものと、円形を呈するものがあり、礎が二重に配されるものもあった。土坑は、フラスコ状のものが3基含まれる。Tピットは、A地区東側でひょうたん形を呈するものが検出された。盛土遺構により埋められた住居が存在し、Tピットが住居、盛土遺構を切ることから、集落形成→盛土遺構形成→集落継続→集落廃絶→狩り場という遺跡形成過程を復元できる。

H地区から検出された遺構は、縄文時代後期前葉の竪穴住居跡2軒、土坑2基、小ピット45基。H地区は耕作深度が深く、Ⅲ・Ⅳ層での遺構確認調査となった。昨年度調査したG地区を含めて集落が形成されていたとみられる。

遺物は土器・石器等合わせコンテナにして431箱、17万2,468点出土している。土器は縄文時代後期前葉のものがほとんどで、盛土遺構や住居跡覆土から一個体が潰れた状態や半完形で出土することもあった。石器には石鏃、つまみ付きナイフ、磨製石斧などがある。剥片石器はほとんどが頁岩製である。なお、石鏃の基部にアスファルトが付着しているものもある。この他に、土偶が東盛土遺構から、青竜刀形石器、ヒスイ製垂飾（長さ49mm）が西盛土遺構から出土している。（福井）

地区	A	A・B	B	D	E	E拡張	G	H	総計
竪穴住居跡	30	2	1			3	6	2	44
土坑	21		2	1	1		5	2	32
Tピット	3						1		4
焼土	9		2						11
集石			1						1
フレイク集中	3								3
小ピット	343						46	45	434
総計	409	2	6	1	1	3	58	49	529

表 I-1 遺構数一覧

(盛土遺構を除く)

遺物名	分類	遺構						遺構 合計	m層	包含層	総計	
		住居跡	土坑	Tピット	焼土	フレイク 集中	集石					小柱穴
土器	Ⅱ群b類	3						3	5	2	10	
	Ⅲ群a類	6						6	35	18	59	
	Ⅳ群a類	35,656	1,786	931	102	31	5	1,227	39,738	36,872	46,895	123,505
	Ⅳ群c類										1	1
	Ⅴ群b類	1							1		36	37
土製品	土偶	1						1	2		3	
	円板状土製品	1						1			1	
	土器片加工 土製品	12	1						13	10	8	31
	土製品	3						3	2	2	7	
	焼成粘土塊	521	57	1	1	8		7	595	142	166	903
総計	36,204	1,844	932	103	39	5	1,234	40,361	37,068	47,128	124,557	

表 I-2 土器出土点数一覧

遺物名	分類	遺構						遺構 合計	m層	包含層	総計
		住居跡	土坑	Tピット	焼土	フレイク ク集中	小ピット				
剥片石器	石鏃	91	2	2				95	100	276	471
	石槍	5	1	2				8	6	20	34
	石鏃	87	4	2			2	95	52	104	251
	のまみ付きナイフ	5	1					6	4	21	31
	筥状石器	8					1	9	14	11	34
	スクレイパー	290	18	13			6	327	215	290	832
	両面調整石器	47	3	4				54	34	130	218
	楔形石器	29	1					30	14	21	65
	Rフレイク	1,197	61	46	3	4	27	1,338	1,160	3,455	5,953
	石核	254	11	9	1	4	8	287	257	628	1,172
フレイク	フレイク	6,399	748	72	101	2,392	105	9,817	6,687	14,770	31,274
	石斧	50	1	2	1		1	55	32	72	159
礫石器	たたき石	291	14	3	1	2	12	323	169	197	689
	すり石	31	1	1			1	34	15	20	69
	扁平打製石器	5						5	2	4	11
	石錐	2						2			2
	石鏃	1						1			1
	台石・石皿・砥石	143	5	7			4	159	32	42	233
	加工痕のある礫	8					1	9	3	8	20
	原石	47					1	48	24	173	245
	凹礫	1						1			1
	中凹礫	34	2				2	38	31	13	82
変わり石	14					1	15	8	11	34	
赤色顔料	4						4	1	1	6	
アスファルト付着礫										1	1
軽石	1						1			1	
有孔礫	2						2			2	
石棒	4					1	5	1	1	7	
石製品	鳥帽子形石器								1		1
	青竜刀形石器	2					2	6	1	9	
	異形石器	3					3	2	3	8	
	三脚石器	2					2		3	5	
	垂飾		1					1	1	2	4
	石製品									2	2
その他	銭貨(一銭)									1	1
総計		9,057	874	163	107	2,402	173	12,776	8,871	20,281	41,928

表 I-3 石器出土点数一覧

種別	砂岩	泥岩	安山岩	チャート	粘板岩	凝灰岩	石英	頁岩	片岩	礫岩	メノウ	閃緑岩	流紋岩	玄武岩	珪質岩	珪化岩	青色チャート
遺構	2,511	604	814	143	82	34	17	11	13	19	1	6	5	5		1	
包含層	1,118	619	389	54	115	24	27	24	10	2	13	5	6	3	3	2	4
m層	622	196	172	24	17	9	14	12	1		2	2	1	2	5	2	
総計	4,251	1,419	1,375	222	214	67	58	47	24	21	16	13	12	10	8	5	4
種別	赤色チャート	閃緑岩?	シルト岩?	凝灰岩?	玄武岩質安山岩	頁岩?	シルト岩	蛇紋岩	ホルンフェルス	桃色チャート	変成岩類	碧玉	泥岩?	深成岩	ひん岩	不明	総計
遺構		3	2	1	1	1	1		1				1	1	1	212	4,492
包含層												1	1			1	2,421
m層	3						1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1,087
総計	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	213	8,000

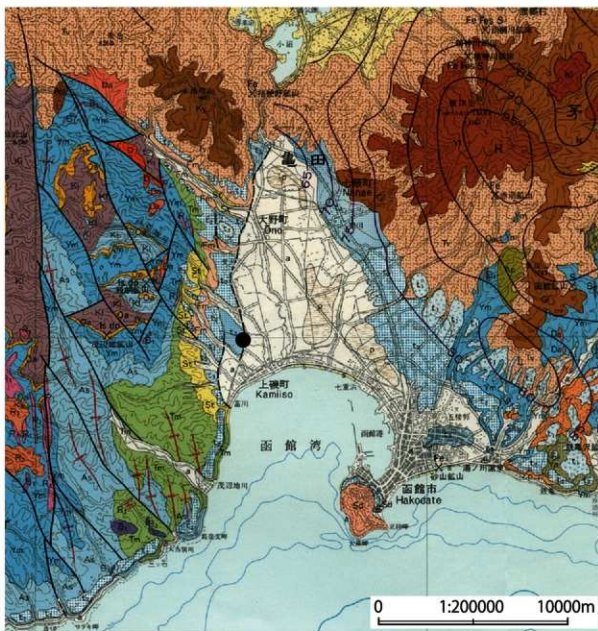
表 I-4 礫取り上げ点数一覧

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置

押上1遺跡の所在する北斗市は、北海道の南西部、津軽海峡沿岸に位置する。平成18(2006)年に、上磯町と大野町が合併して、北斗市となり、総面積397.3km²となった。

遺跡は、海岸線より直線約2km、上磯駅からは北北西に約1.7kmの「大工川」にある。地形的には、戸切地川右岸の低位段丘上に立地する。調査地点の現標高は、17.5～22.5m。調査地を含め、周辺は畑となっており、調査時には、ニンジン、カボチャ、キャベツ、ゴボウなどが栽培されていた。また、畑地の縁辺には、栗や林檎などが植栽されていた。図II-2の空中写真を見ると、戦後一貫して畑地に利用されてきたことがわかる。また、広く畑地となっているため、東に横津岳、袴腰岳、雁皮山、庄司山、やや離れる三枚岳などからなる亀田山地、西に鏡山、南に函館山、北に駒ヶ岳、木地挽山と、周囲360°を眺望することができた。



図II-1 遺跡の位置と周辺の地質

(地質調査所昭和59年発行 1:200,000地質図 函館および渡島大島の一部に加筆した)



1948年4月23日 (C E-70)



1963年5月11日 (C 7-14)



1968年6月14日 (C-11A 7)



1973年5月5日 (C10-8)



1999年5月23日 (C 5-7)



2005年10月26日 (C 5-8)

図Ⅱ-2 空中写真に見る押上1遺跡周辺の景観変遷

函館平野は、二等辺三角形形状をしており、南側は函館湾に接し、海岸砂丘が形成される。東西には山地があり、河川が開析して扇状地を形成している。扇状地に重なるように段丘も形成され、特に函館平野西側では3段の段丘面が確認されている(図II-1のt1, t2, t3)。函館平野西側の低位段丘(t1)の縁辺の一部は、活拗曲によって段差となったようで、押上1遺跡の広がる範囲も活拗曲の影響を受けた範囲にあたる(図II-3)。拗曲(とうきょく)とは、地表に近い堆積物が軟らかく、比較的弱い力の断層が地下で出来た場合、地表面が拗んでしまう現象をいう。したがって、段丘面上は、非常に緩い傾斜となっているが、拗曲部ではやや傾斜が増す。

押上1遺跡が立地する低位段丘面と沖積低地の段差は、遺跡の東側では明瞭で、5m前後の標高差があり、低地には小河川がある(図版6)。一方、南東側はやや不明瞭で、緩やかに遷移するが、土地利用は、畑地と水田とに明瞭に分かれている。また、低位段丘縁の南東側には「御前水」と呼ばれる規模の大きな湧水があり、上磯さけますふ化場の水源となっている。なお、段丘堆積物である砂礫層には、砂岩、安山岩などが含まれており、凍結擾乱現象によって地表付近まで凍上していた。

遺跡の東側を南流する戸切地川は、流路延長が22.8kmある。戸切地川の河川敷には、遺跡で出土した礫と同質の、安山岩、砂岩、泥岩、粘板岩のほか、石器素材となりうる珪質頁岩(黒色、灰色)、灰白色の流紋岩、チャート(台帳上では珪岩としたもの。オリブ灰色、灰色、褐色、赤色を呈する)、白色の石英、石灰岩、緑色凝灰岩の円礫がある。それぞれの起源は、頁岩・凝灰岩は図II-1のYm、流紋岩はR、チャート・粘板岩・砂岩・石英はKi、石灰岩はK1とみられる。なお、珪化岩はTvと関連していると考えられる。

海岸は、平野部では砂浜で、背後に三列の砂丘がある。最も内陸側の砂丘には縄文時代晩期の遺跡が確認されている。函館山周辺では岩礁、館野、矢不來周辺では平磯となっている。現在、遠浅の砂浜はウバガイ、平磯はアサリ的好漁場となっている。

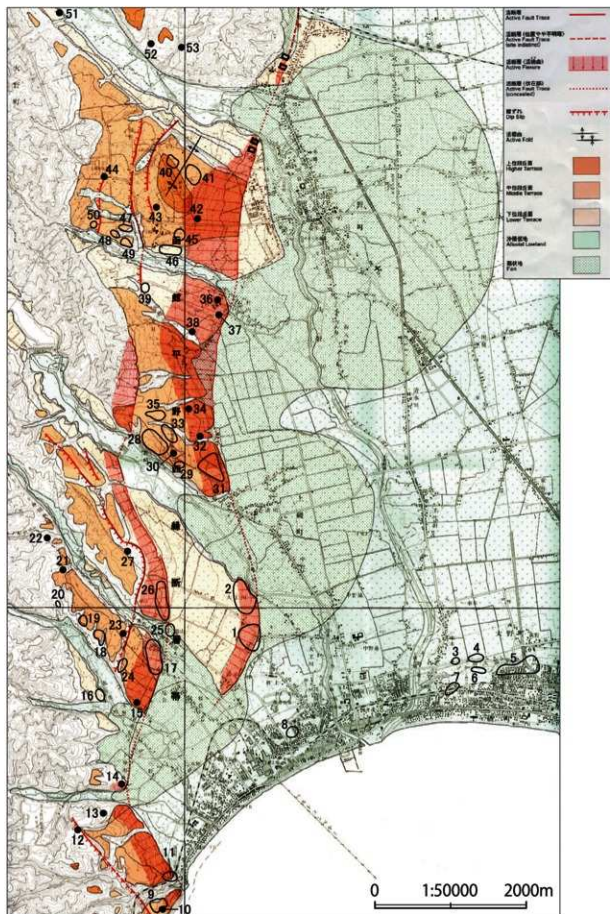
2 周辺の遺跡

押上1遺跡は、過去に函館江差自動車道建設に伴う発掘調査が上磯町(現 北斗市)教育委員会により実施されている(図I-1)。平成14~17年度の4か年度で19,355㎡が調査され、竪穴住居跡14軒、フラスコ状土坑21基、土坑30基、Tピット31基、焼土2か所が検出された。遺構・遺物は、縄文時代中期末~後期前葉のものが主体である。調査範囲のほとんどが漸移層まで耕作によって擾乱されていた。特筆される成果を列挙する。①フラスコ状土坑覆土から倒立状態で涌元式の完形土器が出土、②フラスコ状土坑床面付近から涌元式の土器とともに漆箔(漆塗の弓とみられる)が出土、③縄文時代中期末葉の集落が調査区北側に、後期前葉の集落・フラスコ状土坑群が調査区南側に位置し、後期中葉の土器が調査区北側から出土、④全城からTピットが確認され、7基から後期前葉の土器が出土。

今回の調査範囲は、平成14~17年度の上磯町教育委員会の調査地点より約200m北西に位置する。なお、「落合計策コレクション」(設楽編2001)の内、大工川遺跡出土とされるものは、本遺跡出土品を含むかもしれない。煉瓦台式、涌元I式、入江式土器とともに、石棒などの石器が収集されている。

図II-3は、活断層図に遺跡の位置を落としたもの。砂丘上のほかは、断層活動に関連する段丘上で遺跡が確認されている。押上1遺跡は、17.5~22.5mの低位段丘上に形成されており、同じ段丘上の端部には大工川1遺跡が確認されている。

函館平野を中心として、西は葛登志岬周辺、東は汐泊川河口周辺、南は函館山、北は峠下近辺までの北緯41° 44' 31.59" ~ 41° 57' 22.09"、東経140° 33' 23.54" ~ 140° 50' 39.70"の範囲(図II-1参照)、271遺跡について標高を確認したところ、最も多く遺跡が位置するのが標高30m台であった。



図Ⅱ-3 周辺の遺跡と活断層

(国土地理院平成12年発行 1 : 25,000 都市圏活断層図 函館の一部に加筆した)

低位段丘面 (t3) の遺跡

- ・大工川1遺跡 (図Ⅱ-3-2)：縄文時代中期の円筒土器文化期の集落とされるが、詳細は不明。
- ・添山遺跡 (図Ⅱ-3-25)：縄文時代晩期の遺跡。昭和8・9 (1933・34) 年には、函館郷土史会の深瀬春一氏、馬場脩氏が調査を行っている。また落合計策氏は、昭和4~7 (1929~32)、32~37 (1957~62) 年に調査を行ったようである。著名な遺跡のため、様々な人が遺物を採集したらしい。

昭和37 (1962) 年には上磯町郷土史研究会と上磯町教育委員会主体で調査が行われた。41個体の土器が得られ、大洞C2式が多いとされる。報告では、石刀と「紡錘車」が注意されている。特に「紡錘車」は、過去の採集品、函館市女名沢遺跡出土品と比較されている。

昭和54・55 (1979・80) 年には町道拡幅工事による緊急調査で、784㎡が調査され、土器の総重量870kg、復元個体数166個体と多くの遺物が出土した。2か所の石囲炉と1か所の焼土以外に遺構は検出されず、多量の遺物からなる「ブロック」が5か所あった。「ブロック」は、「土器塚」とも表現される廃棄行為の集積で、あらゆるものが含まれる。土器は、縄文時代晩期後葉の聖山Ⅱ式主体とされる。ほかに、土偶、土製円盤、三角形土製品、石鏃、石錐、尖頭器、スクレイパー、つまみ付ナイフ、石棒、石刀がある。

また、市立函館博物館には昭和6・12・27年ほか受入れとして、土器が収蔵されている。北海道開拓記念館には、熊野喜藏氏採集資料として、土器、土偶、石刀、石棒などが収蔵される。

現在は、資材置き場と水田になっている。

- ・ヤギナイ遺跡：標高10m前後の低位段丘に立地している。縄文時代前期～晩期の土器が出土し、後期初頭の住居跡・捨て場が検出されている。

中位段丘面 (t2) の遺跡

押上1遺跡周辺の函館平野に臨む中位段丘 (t2) 上には、縄文時代早～晩期、統縄文文化期、擦文文化期、近世の遺跡が確認されている。中でも、後期とされる遺跡が15遺跡と多く、次いで中期が11遺跡、晩期が5遺跡。そのうち、添山3遺跡では、落合計策氏により縄文時代中期見晴町式土器が採集されている。

- ・水無遺跡 (図Ⅱ-3-15)：縄文時代早期～後期の遺物が確認されている。遺構は、縄文時代前期後半の竪穴住居跡1軒、早期中葉～前期後半の焼土1か所が検出された。

図Ⅱ-2南端の海岸に面した中位段丘 (t2) 上には、より多くの遺跡が確認されている。時期は、旧石器時代、縄文時代早期～晩期、統縄文文化期、中世、近世までであるが、特に縄文時代中・後期に集中的に利用される。押上1遺跡と特に関連ある遺跡の概要を記す。

- ・館野遺跡 (図Ⅱ-3-10)：縄文時代中期中葉～後葉に集落が形成され、中期末葉～後期初頭はほぼ断絶し、後期前葉に集落から発展した配石・盛土遺構が形成された。断絶した時期が押上1遺跡の時期にあたる。配石・盛土遺構は、中央から広場→配石→貼り土・土坑群→盛土遺構という構造をしている。盛土遺構は、竪穴住居跡を埋める行為を起点として、形成される。竪穴住居跡の窪み以外に広がる盛土は、自然堆積層の黒色土上に堆積している。一方、貼り土は、ローム層まで削平されて、その上に堆積している。広場もローム層まで削平される。

・茂別遺跡：縄文時代早期～統縄文文化期までの複合遺跡。後期初頭の盛土遺構が検出された。盛土は2条で、中央に削平された凹地がある。凹地の幅は20~30m、推定長120m以上ある。盛土下位からは、後期初頭の竪穴住居跡が確認されている。盛土中には、縄文時代早～中期の土器、中でも円筒土器層式が多量に含まれており、部分的に中期の盛土遺構が存在する可能性もある。

海岸砂丘上の遺跡

砂丘上には、縄文時代晩期～続縄文文化期、擦文文化期の遺跡がある。

・下添山遺跡（図-Ⅱ-3-8）：続縄文文化前半期の遺跡。土器、魚形石器、環状石斧、靴型石器などが出土している。

・東浜遺跡（図-Ⅱ-3-7）：旧上磯町内で土木工事等を原因とした調査として、最も古い例。昭和38（1963）年4月13・14日に行われた。擦文式土器、土師器、須恵器、土製品、鉄製品などが出土し、久根別Ⅲ号地とも呼ばれた。落合計策氏の採集品には、須恵器、土師器、珠洲焼などがある。須恵器の甕は、五所川原市前田目窯跡出土品に類似するとされ、10世紀初頭前後と考えられている。

・久根別遺跡群（図-Ⅱ-3-3～7）：久根別A遺跡（久根別Ⅱ号地）、久根別B遺跡（久根別Ⅰ号地）とも呼ばれた。ともに、縄文時代晩期の遺跡で、大洞C1式併行土器主体。大洞C2式併行土器が少量あるとされる。調査は、落合計策氏が昭和6（1931）年に約40㎡を約1mの深さまで行っており、甲野勇氏（1932）が紹介している。また、市立函館博物館には昭和6年ほか受入れとして、土器、土偶が収蔵されている。また、久根別遺跡出土という銘頭が渡辺誠氏により紹介されている（渡辺1973）。

以上、地形と遺跡分布をみていくと、函館平野周辺において縄文時代後期前葉と晩期中葉～後葉、続縄文文化前半期、擦文文化期には、比較的標高の低い地点において遺跡が形成されたことが分かる。

石油およびアスファルト産地

添山遺跡の報告に際して、土器・石器へのアスファルト利用が注意された（上磯町教委1983）。その際、「木古内町泉沢釜谷地域の石油鉱床」（長尾・三谷・斎藤1958）を手掛かりに、木古内町釜谷上六畳間川上流において「原油井戸」が確認され、地図・写真が付されて報告されている。今回の押上1遺跡でも、多くの石織にアスファルトが付着していたことから、木古内町釜谷の産油状況をまとめておく。なお、産油地は、図Ⅱ-1の左下にある赤い「A」である。

明治8年のライマンの報告によると、産油は木古内町釜谷の「元井戸」にみられ、油質は黒色で、甚だ濃厚と表現される。周囲にも数か所石油が滲むところがあるが、アスファルト（乾油と表現）や、ガスはみられないとしている。また『北海道地質総論』では、「其量モ少ナク十碼以内ニ三ヶ所アリ然レドモ其油ノ出ルハ殆ド全ク一ヶ所」と記される。大正6年の小林（1917）の報告では、牧場の沢の3か所から滲出したという。牧場の沢の石油は、黒色粘質のものが多量に砂岩から滲み出ており、泥土に貯留していたらしい。また、サラキ岬の海中に1か所石油が滲み出ているところが報告された。昭和30年代の状況は、長尾・三谷・斎藤（1958）が報告している。そこでは牧場の沢支流油の沢1か所、黒色粘質のピッチ様の原油が沢の中で滲み出ているとされる。これとは別に、サラキ岬沖の海中の岩礁からガスを伴って僅かに滲出しており、海面に油膜を生じている様子が述べられている。

なお、木古内町教育委員会の木元氏に釜谷産油地の現状をご教示いただいたところ、数年前の状況であるものの川岸に油膜が見られる程度とのものであった。現状確認を試みたが、現地は藪がひどく、ヒグマの生息地であるため、確認を断念した。

アスファルトは重質油の揮発成分が失われた後に残ったものである。したがって、地表に石油が滲み出ている地点で生成されたと考えられる。しかし、石狩では、海岸にアスファルト塊が漂着することがあり、海底に滲み出る石油から生成された可能性が考えられている（石橋2014）。もしそのように生成されるのであれば、海底から石油が滲み出ているサラキ岬周辺でもかつてはアスファルトが生成されたものと考えられる。その当否も含め検討が必要であろう。（福井）

Ⅲ 調査の方法

1 調査区の設定と座標値

調査区設定には、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局の「埋蔵文化財発掘調査箇所（用地実測図）」（北斗市押上・大工川地内所在、縮尺1000分の1）を使用した。用地の中央線上の杭であるSTA1376とSTA1377を直線で結んだ線を基軸のMラインとし、4m方眼を設置した。この方眼は西端交点をアルファベットとアラビア数字の組み合わせで呼称する（例：L143、N173）。STA1376はM145杭、STA1377はM170杭にあたる。

この方眼の平面直角座標系は第XⅠ系で、以下のとおりである。

STA1376	X = -240, 545. 775	Y = 31, 729. 790
STA1377	X = -240, 484. 181	Y = 31, 808. 570

なお、緯度、経度については、STA1376は、北緯41° 50′ 01.84887″、東経140° 37′ 55.27574″、STA1377は、北緯41° 50′ 03.83404″、東経140° 37′ 58.70216″となっている。

2 発掘調査の方法

調査範囲は戸切地川右岸の低位段丘上の緩やかな斜面にある。調査区内を、畑の区画を利用して、A～H地区に分けた（図Ⅲ-1）。畑の区画ごとに耕作深度が異なったので、結果的に調査上有意の地区分けとなった。

表土除去・測量杭打設

調査に先立ち、表土除去を行った。表土除去では、表土のⅠ層を建設機械により除去した。ただし、A・B地区に関しては、Ⅰ層中に盛土遺構由来の遺物が多量に含まれていたため、人力で遺物を回収した。測量杭の打設は、A・B地区は表土上面から、C～H地区は表土除去後に行った。

A・B地区の調査

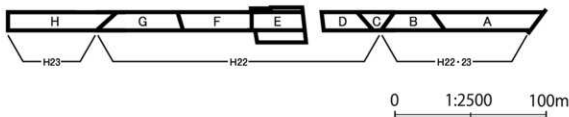
調査開始時点で、畑に遺物が多量に散布していたことから、山側に幅1mでトレンチを入れた。それによって、当初計画以上の遺構、遺物の存在を確認した。

遺物包含層であるⅡ層の上位に盛土遺構が形成されていた。これら遺物を含む土層を移植ゴテ、ねじり鎌を使用しながら掘り下げた。

表土除去した面ないし、盛土遺構が確認された範囲ではその下位で、遺構確認を行った。不明瞭な遺構が多かったため、トレンチによって広がりや重複状況を見極めて、土層観察用のベルトを残して掘り下げていった。堅穴住居跡は、適宜実測図・写真の記録を取った。遺物包含層は、遺構調査後に掘り下げた。

C～H地区の調査

耕作によりⅢ層（漸移層）～Ⅳ層（ローム層）まで攪乱されていたため、表土除去した段階で、ジョレンを使って土層面を整え、遺構確認を行った。農業機械のトレンチャーにより櫛歯状に攪乱されている部分では、遺構が確認された部分だけ、櫛歯状に食い込んだⅠ層を除去した。



図III-1 調査区の地区分け

遺物の取り上げ

包含層・盛土遺構の遺物は、層位を記録し、発掘区ごとに取り上げた。遺構の遺物は出土状況に応じて実測図を作成し、位置・層位・標高を記録して取り上げた。微細遺物の密集部分では遺物を土壌ごとに取り上げ、浮遊水洗選別した。

調査最終面・地形測量

遺構調査・包含層調査の終了後、IV層上面の精査を行い、遺物・遺構がないことを確認して調査終了とした。この面において測量を行い、調査最終面の地形図を作成した。

3 整理の方法

一次整理作業

遺物は、取り上げ後、水洗、乾燥、分類を行い、遺物台帳・遺物カードを作成した。台帳記載は、遺構出土のものは遺構ごと、発掘区出土のものは盛土遺構・盛土遺構以外の遺物包含層に分けて行った。その後、台帳整理が終わったものから順次注記作業を行った。注記は、遺跡名の略称「オシ」、発掘区・遺構名、遺物番号、出土層位の順に記した。遺構名は、同時に他の遺跡の整理作業を行っているために、区別しやすいよう頭に0を冠した。注記対象は土器、狭義の石器である。掲載遺物は、注記を消したものもある。なお、遺物台帳はパーソナル・コンピューターにてマイクロソフトエクセルに入力し管理・集計を行った。

注記例 遺 構 オシ.0H5.18.フクド
包含層・盛土遺構 オシ.M154.7.m

二次整理作業

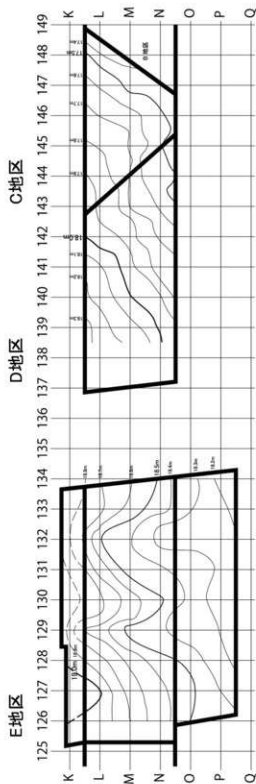
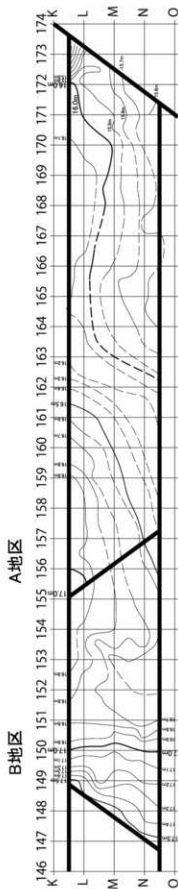
土器の整理

遺物台帳・カードの点検、台帳補正、接合、復元、実測、拓影図作成・断面実測、属性抽出などを行った。接合作業にあたっては、遺構間、遺構と盛土遺構・遺物包含層、東西の盛土遺構間の接合関係を把握することに努めた。掲載遺物は、残存率が高く復元できたものを優先し、ほかに器形のわかるもの、文様・器形などの特徴をよく表すものを対象に抽出した。

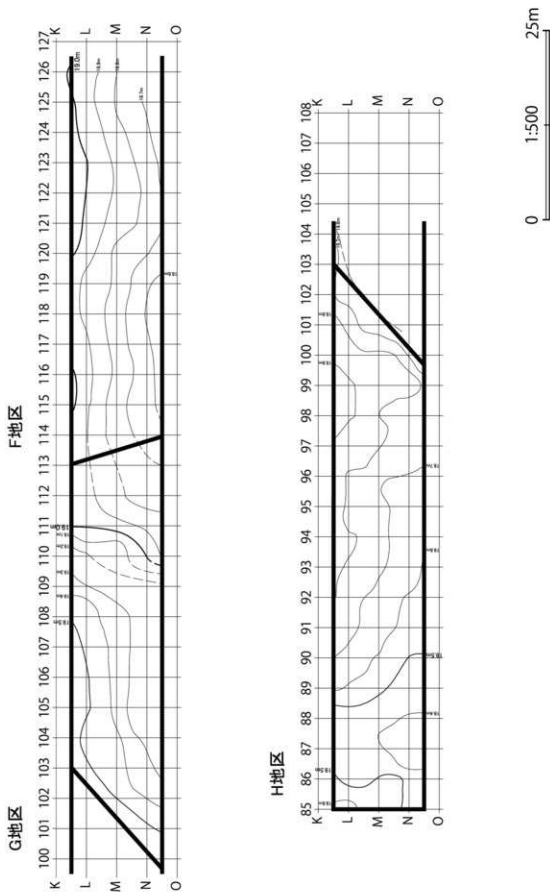
石器の整理

器種に分類し、形態や製作方法によって細分類を行った。並行して器種とその細分類を代表するものを選択し、実測した。剥片石器の実測・トレースは株式会社トラスト技研に委託した。また、遺物

IV層上面



図III-2 調査区最終面の地形 (1)



図III-3 調査区最終面の地形 (2)

台帳に、器種、石材、長さ、幅、重量、被熱の有無、使用痕の有無、付着物の有無などの属性を記録した。

微細遺物の整理

炭化物や骨片が含まれる土壌を採取し、浮遊水洗選別を行った。土囊にして124袋、2～3人組で1日4～20袋（平均14袋）のペースで選別し、11日間を要した。その後、土器、剥片、骨片、炭化材、炭化種子に分類を行った。選別・分類作業は、作業員2名で行った。分類した資料の内、骨片、炭化種子について、予備的に同定を行った後、株式会社 古環境研究所に最終的な同定を委託した。炭化材については、一部樹種同定を、パレオ・ラボに委託した。また、年代測定試料に用いた。

記録類・遺物の収納保管

遺物は、掲載遺物と未掲載遺物に分け、掲載遺物は報告書図版に対応するように収納した。

掲載土器のうち復元個体は、1点ずつエアキャップで梱包し、掲載番号を明示して数個体ずつ段ボール箱あるいは大型コンテナに収納した。破片については、1点ずつ小袋に入れて掲載番号を記載し、図版ごとに中袋にまとめた。未掲載土器は、遺構・盛土遺構・遺物包含層に大別し、遺構ごと・発掘区ごとに収納した。なお、部位（口縁部、胴部、底部）、文様で細分している場合がある。

石器の収納は、掲載遺物は図版に対応するように、1点ずつ小袋に入れた後、図版ごとに中袋に収納した。未掲載遺物については、1点ずつ小袋に入れた後、発掘区数字ラインごとに中袋に収納した。フレイクについては発掘区のアルファベットラインごとに石材別に収納した。

これらの遺物は、遺跡の所在地である北斗市教育委員会に搬送し、保管される。また、現地調査および整理作業で作成した各種図面、写真フィルム、遺物整理台帳は、道立北海道埋蔵文化財センターで保管される。

(福井・柳瀬)

4 基本層序

調査区は、北西～南東方向へ、緩やかに傾斜した段丘面で、現地表面に凹凸は観察されなかった。しかし、表土除去後のB地区中央と、F・G地区の境界周辺に成因不明の沢状の凹みが確認された。基本的な土層は、調査区全域で大きく変化していないとみられる。土層の記載には、『土壌調査ハンドブック』（日本ペトロロジー学会編2000）を参考にし、土色、土性、粘着性、堅密度、含有物とその含有率について記載した。土色については『新版標準土色帖』（小山・竹原2004）を用いた。

I層 表土 現代の耕作により攪乱された土層。

I a層：黒色（10YR2/1）。

I b層：黒色（10YR2/1）。部分的にB-Tm（にぶい黄褐色（10YR6/4））のブロックが入る。

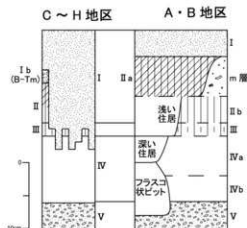
II層 クロコク土

II a層：黒色（10YR1.7/1）。乾燥するとクラックが入る。

II b層：黒褐色（10YR2/2）。

III層 漸移層：にぶい黄褐色（10YR4/3）。

IV層 ローム層



図Ⅲ-4 基本層序柱状図

G地区メインセクション



B-A' 20.3m

B' 20.3m

A-A'・B-B'

地層番号	透入層	透入層	その他
1 黒色	10PR 2/1 区	ローム層3%	部分別ニ2層褐色土層
2 黒色	10PR 2/2 区	ローム層3%	層上之境界明確
3 黒褐色	10PR 2/1 区	ローム層3%	
4 黒色	10PR 2/1 区	ローム層23%	
5 黒色	10PR 2/1 区	ローム層3%	
6 黒褐色	10PR 2/2 区	ローム層5%	
7 黒褐色	10PR 2/2 区	ローム層5%	
8 黒色	10PR 2/1 区	ローム層1%	
9 黒色	10PR 1.7/1 区	ローム層1%	

地層番号	透入層	透入層	その他
10 黒褐色	10PR 2/3 区	サニホ名	ローム層9%
1a 黒色	10PR 2/1 区	サニホ名	ローム層7%
1b 黒色	10PR 2/1 区	サニホ名	ローム層7%
2a 黒褐色	10PR 1.7/1 区	サニホ名	9-Tmプロック(10PRB.400%)
2b 黒褐色	10PR 2/2 区	サニホ名	軽質する上クアツク層
3a 黒褐色	10PR 2/3 区	サニホ名	層別層
3b 黒褐色	10PR 2/3 区	サニホ名	ローム層
4 黒褐色	10PR 2/3 区	サニホ名	透入層はB-A'・B-B'線にある

0 1:40 2m



0 1:200 10m

IVa層：「ソフトローム」。黄褐色（10YR5/6）。

IVb層：「ハードローム」。明黄褐色（10YR6/6）。

V層 砂礫層：明黄褐色（10YR6/6）。砂土。小・中～極大の礫含む。

盛土層はIIa層とIIb層の間で検出される。

北斗市館野周辺の過去の遺跡調査では、完新世の火山灰が3層確認されている。表層から駒ヶ岳d火山灰（ko-d）、砂質火山灰、白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）。ko-dは、表土に斑状に認められるもので、当調査区では明確には確認されなかった。砂質火山灰は遺構のくぼみなどで確認されるもので、今回は確認されていない。この砂質火山灰は、給源不明で、角閃石を含むので駒ヶ岳起源ではないとされる。渡島大島の降下軽石堆積物の可能性が推定されている。過去の調査で、B-Tmは、遺構のくぼみなどでは10cm近く堆積する場合もある。（福井）

5 遺物の分類

(1) 土器

土器は縄文時代早期に属するものをI群とし、以下前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群、続縄文時代をVI群、擦文時代をVII群とした。各群について、前半をa類・後半をb類、あるいは前葉をa類・中葉をb類・後葉をc類に細分した。

今回出土した土器の99%以上はIV群a類で、そのほとんどは天祐寺式～涌元式に相当するものである。この中にわずかに、横長の刺突列や押し引き文などの文様要素をもつものがみられた。これらはIII群b類に一般的な要素であるが、断片的であるため今回は一括してIV群a類とした。

I群 縄文時代早期に属する土器群（今回はいずれも出土していない）

a類 貝殻文が施されるもの

b類 縄文、燃糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等の施されるもの

II群 縄文時代前期に属する土器群

a類 縄文の施された丸底・尖底を特色とするもの（今回は出土していない）

b類 円筒土器下層式に相当するもの

III群 縄文時代中期に属する土器群

a類 円筒土器上層式およびその系譜を引くサイベ沢VII式、見晴町に相当ないしは並行するもの

b類 榎林式、大安在B式、ノダップII式、煉瓦台式に相当ないしは並行するもの（今回は出土していない）

IV群 縄文時代後期に属する土器群

a類 天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式に相当ないしは並行するもの

b類 ウサクマイC式、手箱式、鯨淵式に相当ないしは並行するもの（今回は出土していない）

c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当ないしは並行するもの

V群 縄文時代晩期に属する土器群

a類 大洞B式、大洞BC式に相当ないしは並行するもの（今回は出土していない）

b類 大洞C1式、大洞C2式に相当ないしは並行するもの

c類 大洞A式、大洞A'式に相当ないしは並行するもの（今回は出土していない）

VI群 統縄文時代に属する土器群（今回はいずれも出土していない）

a類 恵山式に相当するもの

b類 後北式に相当するもの

VII群 擦文時代に属する土器群（今回は出土していない）

土製品：土偶・円板状土製品・土器片加工土製品・土製品・焼成粘土塊が出土している。土製品とした中には、舟形土製品の可能性のあるものを含む。また、焼成粘土塊としたものは、土器と共通した胎土で焼成の良いものと、土器とは胎土の異なる焼成の悪いものがある。V章で詳述する。（柳瀬）

(2) 石器等

石器は、剥片石器、礫石器、石製品、礫に大別し、さらに後述の基準で器種分類を行った。典型的な石器については、形態、製作方法により細分類を行った。大きさは、mmを単位として用い、小数点以下第二位まで測った。長さは長軸を基準とし、測定した。不定形なものも含め、二次加工を行うにあたっては、素材の大きさに主眼が置かれ、剥片剥離軸は大きく考慮されないと考えたからである。幅・厚さは最大となる部分を測った。重量は、gを単位として用い、小型のものについては小数点第二位、大型のものについては体重計を用いたため100g単位まで量った。また、礫石器に付した記号は、「—」はすり痕、「V」は敲打痕を示す。スクリーントーンについては、使用による明瞭な光沢がみられた部分を示している。黒塗りはアスファルトの付着を示している。なお、文中で石器という場合は、剥片、礫以外の石器類を示すこととした。

剥片石器

石鏃：押圧剥離により両面が剥離され、尖頭形を呈する5cm未満のもの。

石槍（又はナイフ）：押圧剥離や平坦剥離によって両面が剥離され、尖頭形を呈する5cm以上のもの。

石錐：調整加工で尖る突出部が作り出されたもの。

つまみ付ナイフ（石匙）：端部に一對の抉りを入れることで、つまみ部が作り出されたもの。

筥状石器：両面が調整された石器で、一端に直線状ないし弧状の刃部が形成されるもの。

スクレイパー：素材の一辺に連続的に剥離を加え、刃部とするもの。

削器：剥離が素材の長辺に連続的に加えられたもの。

鋸歯状石器：抉りを連続的に作出することで、鋸歯状の刃部としたもの。

抉入石器：抉入した刃部が細部調整で作出されたもの。

両面調整石器：剥離が素材の両面に施されるが、粗い調整で、尖頭形でないもの。未成品が多い。

楔形石器：対向する小剥離が素材の両端部にあるもの。また、いわゆる両極剥離打法により発生する各種の割れの特徴を持つもの。

Rフレイク：散漫な剥離が加えられた不定形のもの。微細剥離がある、いわゆるUフレイクもここに含めた。また、耕作土から得られた石器で、表面に耕作具が当たった痕跡（鉄銹を含む線条痕）がみられたものは、ここに含めた。

フレイク（剥片）：石核、石器から剥離されたもので、二次的な剥離を受けていないもの。

石核：石器素材となりうる大きさ・形状の剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。

礫石器

磨製石斧：研磨により整形され、斧状の刃部をもつもの。

たたき石：礫に敲打痕があるものの内、能動的と考えられるもの。

すり石：礫にすり痕があるものの内、能動的と考えられるもの。

半月状扁平打製石器：半月形を呈し、弦部分に刃部をもつ。打ち下ろす様に使用した結果、刃部が平面化したものとみられる。

石鋸：扁平な礫の長辺に、断面U字形のすり痕が残る。石材などの擦り切りに使用されたとみられる。

石錘：扁平な楕円形の礫に打ち欠きを加え、抉りを入れたもの。

加工痕のある礫：不定形ながら、何らかの加工をうけた礫。

台石・石皿・砥石：礫に敲打痕・すり痕があるものの内、受動的と考えられるもの。複合するものが多いので、まとめた。

有意の礫：形態に特徴があるなど、意図的に持ち込まれたと考えられる礫。アスファルトが付着した礫、赤色顔料もここに含めた。

石製品

石棒：棒状に加工された石製品。棒状の礫の一部に加工があるものも含む。

鳥帽子形石器：石冠とも呼ばれるもので、三角錐状～三角柱状を呈する。

青竜刀形石器：青竜刀に似た形態の磨製石器。半月形の刃部、棒状の柄部からなる。

異形石器：剥片に突起や抉りを入れるなど整形のための調整を加えることで、一定の形態とするもの。

三脚石器：平面三角形で、正三角形のものから、側辺が大きく内湾するものまである。

垂飾：穿孔されており、装飾品と推定されるもの。

石材等

石材

剥片石器の石材については、頁岩が圧倒的に多い。珪質の弱いもの、珪質の強いもの、風化した泥岩質のものがあるため、まとめて頁岩と呼称した。ほかに、泥岩、砂岩、チャート、メノウ、珪化岩、珪質岩、石英、安山岩、流紋岩、玄武岩、黒曜石、粘板岩、緑色片岩、青色片岩などと特定したが、厳密な岩石学的分類とは一致しない場合もある。珪化岩としたものは、半透明で「メノウ質頁岩」と呼称されるもので、赤色、緑色、白色、褐色などを呈し、ジャスパー・碧玉とも呼称される。珪質岩は、珪質頁岩、珪化岩とも異なる珪質の岩石と呼称した。

光沢

スクレイパー、つまみ付きナイフ、Rフレイク、Uフレイクの長辺両面にみられる。イネ科植物の刈取りなどに伴って形成されたものとみられる。詳細については『野田生4遺跡』（財）北海道埋蔵文化財センター1992）を参照願いたい。

礫・礫片について

出土した遺物は、全て遺物として取り上げ、保管しているが、礫・礫片について包含層から出土したもののうち、特に有意なものでない限り、重量と石質を記録して、現地に残してきた。なお、石質を代表するものについては、一部保管している。（福井）

IV 遺構

1 遺構の概要

平成22・23年度の調査で、盛土遺構2条、竪穴住居跡44軒、土坑32基、Tピット4基、焼土11か所、柱穴状小ピット434基、フレイク集中2か所、集石1か所を検出した。遺構の分布はA・B地区、D・E地区、G・H地区の大きく3か所に分かれる。遺構の時期は、出土土器の傾向から、縄文時代後期前葉にほぼ限定されるとみられる。なお、上磯町（現 北斗市）教育委員会による調査で検出された遺構は、縄文時代中期末～後期前葉の時期のものが主体であった。

盛土遺構は、東西2条が確認された。調査区外にまで広がりを持っており、畑にソイルマーク、遺物の帯として確認できる。耕作でかなり平準化されているものの、畑の畔には高まりを残している。畑の所有者の話によると、かつては馬の背状に高まっていたとのことであった。また、空中写真でも畑にソイルマーク、クロープマークとして確認できる。東盛土は、低地へ連なる斜面への転換点より数メートル段丘側に入った平坦面上に形成されている。西盛土も平坦面上に形成され、堆積は内側から外側へなされていた。

竪穴住居跡は、Ⅰ類：舟形住居と呼ばれるもので、方形の石囲炉と「先端ピット」を持つもの、Ⅱa類：掘り込みが浅く、円形の石囲炉を持つもの、Ⅱb類：Ⅱa類の石囲炉入口側に袖石（配石）が伴うもの、の大きく3つの形態に分類できた。Ⅰ類は中期末葉にもみられる住居形態で、Ⅱ類は後期前葉に顕著な住居形態である。したがって、住居群の変遷を考える上で、住居形態が一つの根拠となりうる。個々の住居跡の記載では、他の住居跡との切り合いを観察できた範囲で述べているが、調査の過程では認識困難であった部分もある。また、Ⅱ類は、横にずれる様に建て替えを繰り返すので、その範囲を平面で把握しにくく、複数の住居跡を1軒として調査してしまった例が複数あるが、報告では極力分離に努めた。ただし、掘り込みが浅い場合が多いため、重複関係を正確に把握できなかった例もある。なお、床の認定は、斑状の汚れ、硬化範囲、焼成面によって判断した。

土坑は、フラスコ状土坑と、楕円形の土坑がある。フラスコ状土坑の数は少なく、E地区で1基、A地区で4基あった。楕円形の土坑は、18基確認され、内訳はH地区2基、G地区5基、D地区1基、B地区2基、A地区17基であった。

Tピットは、G地区で長楕円形のもの1基、A地区でひょうたん形のもの3基を検出した。A地区のTピットは、住居跡廃絶後、その窪みに「m層」が堆積し、埋まりきった後に掘削されている。

焼土は、住居跡の覆土で検出した例と、単独で検出した例がある。住居跡覆土検出例は、廃棄されたものと推測される。単独検出例は、住居の炉である可能性がある。

小柱穴は、住居跡が集中する範囲に集中して検出された。小柱穴が、検出できなかった竪穴住居の柱穴であった可能性がある。ただし、住居跡の覆土を切って構築された例のうち、柱あたりがあるものは、複数で掘立柱建物の柱であった可能性が推定される。

遺構出土の遺物については、V章で盛土遺構・包含層出土遺物とまとめて報告している。各遺構出土遺物点数は一覧表に示してある。各遺構図の土器に付した番号は掲載番号で、縮尺は1/10に統一してある。なお、遺構が著しく重複しているため、遺構と遺物の共伴関係の判断には十分な注意が必要である。

(福井)

2 盛土遺構

西盛土遺構 (図IV-12~15、表1、図版4~7)

位置 K・L・M・N152~156 (A地区)

立地 標高16.8~16.9mの平坦地 規模 確認長約20m×確認幅約10.5m×厚さ0.3m

確認・調査 M152、L153区において、II層上面を調査中、遺物の集中を検出した。集中域のII層中には黄褐色土粒や焼土粒、炭化物が混じっていた。プライマリーなII層とは異なり、盛土であることがわかった。これをm層と呼称し調査を行った。遺物を残して範囲を精査した後、上面を測量した。遺物はm層出土として取り上げたが、特にまとまりを示す土器については出土層位をm層の上面、中位、基底部の区別を行った。なお本層の分布範囲から、焼土OF-1、フレイク集中OFC-1を検出している。OF-1はm層検出面で、OFC-1はm層基底部での検出である。

土層 南東、北西の調査区両端で土層断面を記録した。図IV-12に点線で示した範囲はこの断面図を元に作成した推定範囲である。平面上でこのm層を確認したグリッドは、K155、L153、M152の3区である。土層は、南東側の壁面で8層、北西側で1層に区分している。黄褐色土粒、焼土粒、炭化物、骨片のいずれかまたは複数が混じる黒褐色土である。南東側の観察では層位は斜行する単位に区分でき、住居OH-39~41に近い北東側が古い堆積となっている。最も下位に位置する7、8層はII~IV層が混じり合った土で、炭化物や焼土粒、骨片が混入しない。より上位の5層は暗褐色土で、黄褐色土粒と炭化物が混じる。さらに上位の1~4層には、黒褐色土を主に、黄褐色土粒、焼土粒、炭化物が混じる。2層にはさらに骨片が混じっている。両壁面間の層位の新旧および連続性、各層の平面上での分布は確認していない。

遺物出土状況 出土した土器は、IV群a類主体。土製品には、土偶2点のほか、土器片加工土製品がある。なお、一部を水洗選別したところ、サメ類遊離歯、タイ類遊離歯、タラ科歯骨、哺乳類骨片などが得られた。また、植物遺体はオニグルミを検出した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉である。OH-23覆土に堆積したm層採取炭化材を年代測定したところ、 $3,910 \pm 20 \text{ yr B.P.}$ (IAAA-112607)の測定値が得られた。(福井・立田)

東盛土遺構 (図IV-16~18、表1、図版4~7)

位置 K・L・M・N165~173 (A地区)

立地 標高15.8~16.3mの平坦地 規模 確認長約24m×確認幅約22m×厚さ0.25m

確認・調査 耕作土が褐色を呈し、多量の遺物が帯状に散布していたことから盛土遺構の存在が予想された。耕作土除去後、ローム粒、焼土粒を含むにぶい黄褐色~黒褐色土(m層)のひろがりとして検出した。その広がりは、斜面には達しておらず、平坦面から斜面に転換する線よりも3mほど南西側にまで堆積していた。また、調査区北東側で小沢が確認されたが、これはm層によって埋められていた。

m層は、範囲を記録したのち、グリッドごとに掘り下げた。厚さは10~25cmであるが、耕作によりほとんどが10cm程度の厚さであった。特に盛土削平部分とした範囲は、ほとんど残存していなかった。盛土遺構は、住居跡の窪みを埋めており、初期段階では住居廃絶後の窪みを埋める様に堆積していったと考えられる。特に、OH-19・31・33の窪みに堆積したm層には大型の礫を含む多量の遺物が含まれていた。

遺物出土状況 出土した土器は、IV群a類主体。土製品には、焼成粘土塊がある。石製品には、異形石器、石棒、ヒスイ製垂飾、青竜刀形石器がある。特に、青竜刀形石器は、OH-33廃絶後の窪みに堆積したm層中から出土したものと、M170区に堆積したm層中から出土したものが接合した。なお、一部を水洗

選別したところ、サメ類遊離歯、エイ・サメ類椎骨、硬骨魚類、カモ科尺骨、哺乳類骨片などが得られた。また、植物遺体はオニグルミを検出した。

時 期 出土遺物から、縄文時代後期前葉である。(福井)

3 竪穴住居跡

OH-1 (図IV-19・20、表1、図版8)

位 置 K・L103・104 (G地区)

立 地 標高19.7m付近の平坦地

平面形 楕円形

規 模 (-) / (3.8) × (-) / (3.9) × 0.15m

確認・調査 G地区は、試掘調査での遺物点数が少なかったため、Ⅰ層耕作土、Ⅱ層黒色土を重機で除去し、Ⅲ層(漸移層)上面で遺構の有無を確認する調査方針でいた。そのように、重機で掘削していったところ、円形の石囲炉を検出した。住居跡の可能性がことから、精査したところ、掘り込みがごく浅い住居で、確認した状態でほぼ床面に達していることが判明した。そこで、石囲炉の掘り込みを観察する目的で、北東-南西方向にトレンチを入れ、断面を観察、記録した。また、北西側の一部が調査区境界にかかっていたので、その壁面で断面を観察した。

覆 土 覆土はⅡ層主体の黒色土へ黒褐色土層。僅かにローム粒を含む。

形 態 平面で壁の立ち上がりは確認できなかったが、床はⅢ層が斑紋状に汚れた範囲として認識された。調査区境界に残った断面をみると、掘り込みはごく浅く、Ⅲ層(漸移層)上面を床としたことがわかる。また、石囲炉の北側と南側の床に硬化面が確認された。

付属遺構 HF-1:住居中央よりやや南寄りの床で、礫で囲繞した炉を検出した。囲繞する礫1個ごとに、外側へ放射状に礫が配されていた。検出時、重機の爪が引っ掛かったため、南西から北東へ多数の礫が動いてしまった(図中の▲)が、掘り込みから復元して、写真撮影した。礫の石材は、砂岩、安山岩を使用するが、★印を付した西側の1点だけ白色珪化岩を使用していた。また、西側の辺の礫は、南北東側の辺の礫と比べ、やや小さいものが選択されている。なお、炉を囲繞する礫の埋め方に2種類あり、★と☆を結ぶ線を含む南西側の礫は礫の長手を地面に露出させ、残りの北東側は礫の小口方向を地面に露出させていた。放射状に配された礫は、長さ10~15cmほどの扁平な楕円礫で長手を露出する場合と小口を露出する場合の両方があった。

HP:12基確認した。HP-12は住居床面推定範囲をはずれるが、OH-1に関連するものとした。HP-1・2・8・12は床面から深さ50cm前後あり、掘り込み径20cm前後あることから、支柱穴を構成していたものとみなす。最後に確認したHP-13は断面等を記録できなかったが、深いものであった。

遺物出土状況 HF-1、HP-1~3・6・8・11・12、覆土から、IV群A類土器が出土している。石器はスクレイパー、フレイクがHP-1・3・8、覆土から出土している。なお、HF-1からオニグルミ核片が得られている。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。柱穴HP-1採取炭化材を年代測定したところ、3,850±30yr B.P. (IAAA-103333) の測定値が得られた。(福井)

OH-2 (図IV-21~23、表1、図版9)

位 置 L・M・N104・105 (G地区)

立 地 標高19.5m付近の平坦地

平面形 不整楕円形

規 模 (-) / (5.12) × (-) / (4.18) × 0.1m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層中で、Ⅱ層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。土層観察用のトレンチを十字に掘削したところ、10cm弱で床面に達したので、トレンチ両壁をベルトとして残して、黒

色土を掘り下げた。その結果、石囲炉、その南東側の床に硬化面が確認された。

覆 土 II層主体の黒色土層。ローム粒と炭化物粒を含む部分がある。

形 態 壁の立ち上がりは確認できなかったが、床はIII層が斑紋状に汚れた範囲として認識された。掘り込みはごく浅く、III層(漸移層)中を床としている。重複する遺構にOH-6があるが、互いに壁の立ち上がりが不明瞭であるので、新旧関係は不明。また、HP-8はHF-1を切って構築されていることから、重複した掘立柱とも考えられる。

付属遺構 HF-1: 住居中央よりやや南東寄りの床で、コの字形に礫が配された状態で確認された。長さ15~30cmほどの扁平で細長い礫の長手が地面に露出するように埋め込まれている。HP-8に切られる前は、方形に圍繞された炉であったと推定される。

HF-2: HF-1の北西側に隣接して確認された。

HP: 37基確認した。HP-1・2・6・7・10・11・13・17・28・29・31は住居床面推定範囲をはずれるが、OH-2に関連するものとした。HP-5も、HF-1を切るHP-8と深さや規模が似ており、この住居に伴うものではないかもしれない。

遺物出土状況 HP-1・4~6・8~10・14・17~19・23・24・28・31、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は、石鏃、Rフレイク、フレイク、たたき石、顔料がHF、HP、覆土から出土している。HF-1からは炭化したオニグルミ核片、アカネ科種子が得られている。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,840 \pm 30 \text{yr B. P.}$ (IAAA-103334) の測定値が得られた。(福井)

OH-3 (図IV-24・25、表1、図版10)

位 置 K・L105・106 (G地区) **立 地** 標高19.6m付近の平坦地

平面形 卵形か **規 模** (-) / (5.12) × (-) / (5.04) × 0.12m

確認・調査 表土除去後III層上面で、焼土を確認した。周囲を精査したところ、II層由来黒色土の斑状の汚れがみられ、複数の小ピットが確認されたので、住居跡と認定した。耕作が、ほぼ床面に達していたので、調査区境界で土層を確認した。耕作痕により櫛菌状に攪乱を受け不明瞭になっていたが、II~IV層を浅く掘り込んだ状況が確認された。

覆 土 覆土は、黒色土か黒褐色土で、ローム粒を僅かに含むものであった。ただ、断面での掘り込みも不明瞭なもの。

形 態 壁や周溝は確認されなかったので、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、卵形を呈したものと推定される。

付属遺構 HF-1: 不明瞭な焼土の下位に掘り込みが確認された。また、その周囲に浅い掘り込みが3基確認されたことから、石囲炉が存在したものとみられる。

HP: 13基確認した。HP-1・6は、あるいは住居床面範囲をはずれるかもしれない。

遺物出土状況 HP-1・4からIV群a類土器が出土している。また、炭化したニフトコ核が得られている。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

OH-4 (図IV-26・27、表1、図版11)

位 置 M・N102~104 (G地区) **立 地** 標高19.5m付近の平坦地

平面形 楕円形か **規 模** (-) / (5.76) × (-) / (4.08) × (-) m

確認・調査 表土除去後III層上面で、焼土を確認した。周囲を精査したところ、II層由来黒色土の斑

状の汚れがみられ、複数の小ピットが確認されたので、住居跡と認定した。

覆 土 表土除去後Ⅲ層上面で確認したので、覆土は残っていないかった。

形 態 壁や周溝は確認されなかったので、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。

OH-5・6と重複する可能性はあるが、明確な範囲を確認できていないので不明である。

付属遺構 HF-1：不明瞭な焼土として確認。

HP：22基確認した。HP-3・19はOH-6のHPの可能性もある。HP-1・9は、ローム質土により根固めされており、主柱穴の一つになるであろう。

遺物出土状況 HP-1～3・5・8・9・13から、IV群a類土器が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (福井)

OH-5 (図IV-28・29、表1、図版12)

位 置 L・M103・104 (G地区) **立 地** 標高19.7m付近の平坦地

平面形 楕円形か **規 模** (-) / (4.39) × (-) / (3.69) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層上面で、Ⅱ層由来黑色土の斑状の汚れがみられ、複数の小ピットが確認されたので、住居跡と認定した。

覆 土 表土除去後Ⅲ層上面で確認したので、覆土は残っていないかった。

形 態 壁や周溝は確認されなかったので、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。

付属遺構 HP：19基確認した。OSP-23やOH-4HP-11は住居床面推定範囲をはずれるが、OH-5に関連する可能性高い。HP-1、4～6、11は、主柱穴であろう。

遺物出土状況 HP-1・4～6・10・11から、IV群a類土器が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (福井)

OH-6 (図IV-30、表1、図版12)

位 置 M・N102～104 (G地区) **立 地** 標高19.4m付近の平坦地

平面形 楕円形か **規 模** (-) / (5.63) × (-) / (3.88) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層上面で、Ⅱ層由来黑色土の斑状の汚れがみられ、複数の小ピットが確認されたので、住居跡と認定した。

覆 土 表土除去後Ⅲ層上面で確認したので、覆土は残っていないかった。

形 態 壁や周溝は確認されなかったので、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。

付属遺構 HF-1：住居推定範囲中央より北東寄りの床で焼土を確認している。

HP：7基確認した。OH-2HP-7・8・26・35やOH-4HP-3・19はOH-6に関連する可能性もある。

遺物出土状況 HP-1・5・6、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器ではたつき石がHP-7から出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (福井)

OH-7a (図IV-31・32、表1、図版14)

位 置 N・O132・133 (E地区) **立 地** 標高18.4m付近の平坦地

平面形 楕円形か

規模 (-) / (3.87) × (-) / (3.2) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層中で、焼土がみられ、複数のビットが確認されたので、住居跡と認定した。耕作により、櫛歯状に攪乱されていたため、残存した土層断面を全て実測することとした。しかし、一見プライマリーに見える部分も、攪乱を受けており、確実な床面の認定はできなかった。当初は、大きな住居と認識していたが、調査を進める中で二つの住居が重複していると考えられたので、7aと7bに分離した。ただし、焼土や柱穴は連番のままにした。

覆土 僅かに残る覆土は、黒色ないし黒褐色でロームブロック・ローム粒、炭をやや多く含んでいた。掘り込み自体は極めて浅いものと推定される。また、掘方も確認された。

形態 壁や周溝は確認されなかったので、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。OH-7bと重複するものの、新旧関係ははっきりしない。しいて言えば、焼土の残りの良く、窪みにⅡ層黒色土が堆積していたOH-7bが新しいと考えられる。

付属遺構 HF-1：住居推定範囲中央より北東寄りの床で焼土を確認している。焼土に接して小ビットが確認されたので、石囲炉であったと推定している。

HP：8基確認した。OH-7bHP-12・13は、OH-7aに関連する可能性もある。

遺物出土状況 覆土から、Ⅳ群a類土器が出土している。石器はRフレイク、石核、フレイク、原石がHP2、覆土から出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HP-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,860 \pm 30 \text{yr B. P.}$ (IAAA-103335) の測定値が得られた。(福井)

OH-7b (図Ⅳ-31・32、表1、図版14)

位置 N・0132・133 (E地区)

立地 標高18.4m付近の平坦地

平面形 楕円形か

規模 (-) / (4.11) × (-) / (3.8) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層中で、焼土がみられ、複数のビットが確認されたので、住居跡と認定した。耕作により、櫛歯状に攪乱されていたため、残存した土層断面を全て実測することとした。しかし、一見プライマリーに見える部分も、攪乱を受けており、確実な床面の認定はできなかった。当初は、大きな住居と認識していたが、調査を進める中で二つの住居が重複していると考えられたので、7aと7bに分離した。ただし、焼土や柱穴は連番のままにした。

覆土 僅かに残る覆土は、褐色でローム粒、炭を含んでいた。その上位には、Ⅱ層とみられる黒色土も見られた。掘り込み自体は極く浅いものと推定される。また、掘方も確認された。

形態 壁や周溝は確認されなかったので、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。焼土の東側には床の硬化面が確認された。OH-7aと重複するものの、新旧関係ははっきりしない。しいて言えば、焼土の残りの良く、窪みにⅡ層黒色土が堆積していたOH-7bが新しいと考えられる。

付属遺構 HF-2：住居推定範囲中央より北東寄りの床で焼土を確認している。焼土に接して小ビットが確認されたので、石囲炉であったと推定している。

HP：16基確認した。OH-7bHP-12・13は、OH-7aに関連する可能性もある。

遺物出土状況 覆土から、Ⅳ群a類土器が出土している。石器はRフレイク、石核、フレイク、原石が覆土から出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

OH-8 (図IV-33、表1、図版15)

位置 N・0130・131 (E地区) **立地** 標高18.5m付近の平地

平面形 楕円形か **規模** (-) / (4.05) × (-) / (3.66) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層で、焼土がみられ、浅い窪みが確認されたので、住居跡と認定した。耕作により、楕円状に攪乱されていたため、残存した土層断面を実測した。しかし、一見プライマリーに見える部分も、攪乱を受けており、確実な床面の認定はできなかった。

覆土 僅かに残る覆土は、黒褐色でロームブロックを含んでいた。掘り込み自体は極めて浅いものと推定される。

形態 壁や周溝は確認されなかったため、不明である。ただし、床面とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。

付属遺構 HF-1:住居推定範囲中央より北東寄りの床で焼土を確認している。攪乱された焼土ブロックが、HF-1の南側の攪乱中にあった。

HP: 小形で浅いものは、断面で観察されたが、全体に攪乱がひどく、よく分からなかった。

遺物出土状況 覆土から、IV群a類土器が出土している。HF-1から同定に至らない焼け骨が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (福井)

OH-9 (図IV-34、表1、図版15・16)

位置 K・L94・95 (H地区) **立地** 標高19.9m付近の平地

平面形 楕円形か **規模** (-) / (3.0) × (-) / (2.32) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層で、焼土がみられ、浅い柱穴が確認されたので、住居跡と認定した。耕作により、楕円状に攪乱されていたため、残存した土層で断面を実測した。しかし、一見プライマリーに見える部分も、攪乱を受けており、確実な床面の認定はできなかった。

覆土 覆土は残っておらず、確認できたのは掘方のみ。

形態 壁や周溝は確認されなかったため、不明である。ただし、掘方とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。

付属遺構 HF-1:住居推定範囲中央より西寄りの床で焼土を確認している。

HP: 2基確認した。いずれも浅いもの。

遺物出土状況 伴う遺物は確認できなかった。同一地点の攪乱からはフレイクが出土している。

時期 出土遺物はないが、周囲の状況から縄文時代後期前葉とみられる。 (福井)

OH-10 (図IV-35・36、表1、図版16・17)

位置 L・M95・96 (H地区) **立地** 標高19.8m付近の平地

平面形 楕円形か **規模** (-) / (3.98) × (-) / (3.72) × (-) m

確認・調査 表土除去後Ⅲ層で、焼土がみられ、複数のビットが確認されたので、住居跡と認定した。耕作により、楕円状に攪乱されていたため、残存した土層で断面を実測した。しかし、一見プライマリーに見える部分も、攪乱を受けており、確実な床面の認定はできなかった。

覆土 覆土は残っておらず、確認できたのは掘方のみ。

形態 壁や周溝は確認されなかったため、不明である。ただし、掘方とみられる斑状の汚れの広がりから、楕円形を呈したものと推定される。

付属遺構 HF-1：住居推定範囲中央よりやや西寄りの床で確認している。また、その南側で擾乱された焼土ブロックも確認された。両者は60cmほど離れているが、同一のものとする。

HP：12基確認した。いずれも浅いもの。

遺物出土状況 遺物は確認できなかった。同一地点の擾乱からIV群a類土器、石核、フレイクが出土している。

時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉である。柱穴HP-6採取炭化材を年代測定したところ、3,680±30yrB.P. (IAAA-112602)の測定値が得られた。(福井)

OH-11 (図IV-37・38、表1、図版18)

位置 L164・165 (A地区) **立地** 標高16.1～16.2mの平坦地

平面形 不整楕円形 **規模** 5.0/4.12×3.25/2.73×0.24m

確認・調査 II層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みは複数の楕円形で構成され、単位は不明瞭で南北方向に連なり、南側は調査区外に延びていた。住居の重複を想定しトレンチを設定した。トレンチは落ち込みの南北に位置する大きな楕円形2か所の長軸、それらの中心を通り直交する計4本を基準とし、さらに落ち込みが重なりあう部分にベルトが残るようサブトレンチを追加しIV層まで掘り下げた。

土層断面の観察から、くぼみの単位と平面形を検討し、概ね半周以上に明瞭な壁が認められるものを住居跡とした。結果、大きく5軒の重複と判断した。さらに最も北側に位置する落ち込みの覆土中に焼土が認められ、遺物のまとまりもあることからこれを住居とし、計6軒の重複とした。OH-11は、OH-12、OH-36より新しい。

覆土 8層に分層した。上位には自然堆積とみられる黒～黒褐色土が堆積している。床面直上には黄褐色土粒や炭化物、焼土が混じる断片的な堆積がある。

形態 概ね北東～南西方向に長い不整な楕円形を呈する。柱穴とはしなかったが、長軸両端と中央に、浅い皿状のくぼみがある。壁の立ち上がりは極めて緩やかで、床面は起伏が多い。

付属遺構 HF-1：住居北側覆土中で、壁の緩やかな立ち上がりに沿って確認された。炭化物、骨片の混じる黒褐色土であり、移動した焼土の可能性もある。

遺物出土状況 床面、HF、覆土からIV群a類土器が出土している。石器は床面、HF、覆土から、石鏃、石錐、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、石皿・台石、礫が出土している。

時期 床面から出土する遺物から、縄文時代後期前葉である。(立田)

OH-12 (図IV-39～42、表1、図版18～20)

位置 K・L・M163～165 (A地区) **立地** 標高16.1～16.2mの平坦面

平面形 楕円形 **規模** (6.35) / (5.43) × 5.01 / 4.22 × 0.22m

確認・調査 II層調査中に黒色土の落ち込みを確認した。トレンチを設定し6軒の重複する住居跡を確認した。確認の詳細についてはOH-11で記した。OH-12はOH-11より古く、OH-36より新しい。なお、平面では確認できていないが、調査区境の壁面の観察からするとOH-24より新しいとみられる。

落ち込み長短軸に合わせたトレンチの交点に石囲炉を検出した。壁は住居北側半周において急で明瞭である。一方、OH-36との境界の立ち上がりは極めて不明瞭で調査時には確実な判断はできなかった。よって完掘、土層断面の写真は全てOH-36側に掘りすぎている。整理作業時に土層断面図、写真を検討した結果、図IV-39の点線のように平面形を修正した。炉跡の形状や位置、OH-36の平面形と

もに矛盾がない。検出した2か所の炉跡はいずれも住居の主軸に並び、住居のくぼみの深部に位置する。

覆土を掘り下げた後、床面を精査し柱穴と炉跡の探索を行った。柱穴はさらに約5cm²つ二回床面を掘り下げて確認を行い、合計33基検出した。概ね検出順に番号を付してある。なお住居西側床面壁際において、貼ロームとした黄褐色粘土層を確認した。壁際から30cmの距離に、帯状に2、3cm程度の高まりとして確認したが、作成の意図は不明である。遺物は覆土下位から出土したものが多く、取り上げにあたっては、覆土は配石の可能性のある大礫、また土器のまとまりを残して、床面の遺物は出土位置を記録した(図IV-42)。それ以外の遺物はグリッドごとに取り上げている。

覆土 黄褐色土の土粒がわずかに混じる黒色土を主とする。床と壁に近い部分では黄褐色土粒子や焼土粒が混じる黒～黒褐色土の堆積が認められる。

形態 平面形は北西-南東方向に長軸のある楕円形を呈する。床面は中心付近がやや深い緩やかな皿状である。小規模な起伏が多い。

付属遺構 HF: 2か所確認した。炉跡のうち住居中央に位置するHF-2は石囲炉である。炉石には比較的大きさのそろった扁平礫が選択されており、東西にやや膨らむ楕円に配されている。炉石は部分的に二重に配されており、全体として渦のような印象を与える構造となっている。住居主軸上の南東側延長には大礫が炉の幅に合わせるように2つ並んで出土しており、位置的にみて住居構造の一部をなすものとみられる。HF-2の調査終了後、周囲を精査すると構築以前の炉跡とみられる痕跡が認められた(図IV-42左上)。この状況から、炉は以前には南東に位置しており、南に移し替え、さらに北のHF-2へと変遷したものと推定できる。

HP: 大小さまざまな大きさの33基の柱穴のうち、幅20cm以上かつ深さ40cm以上の比較的大きな規模のものは、北側からHP-32、18、22、16、25、13、14、5である。これらは2か所の炉跡を軸に概ね左右対称に位置しており、構造は不明であるが、屋根を支える主柱穴である可能性がある。HPの番号を付したものは全て床面付近で検出したものではあるが、規模に対してやや多く、上位に位置するOH-11に伴うものや、住居の改築、また住居埋没以後につくられているものも含まれているとみられる。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土からIV群^a類土器が出土している。なお覆土には、III群^a類土器1点が含まれた。石器は、床面、HF、HP、覆土から石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、筥状石器、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、礫が出土している。

時期 床面から出土する遺物から、縄文時代後期前葉である。なお柱穴HP-22出土炭化物の放射性炭素年代測定結果は、3,890±20yrB.P. (IAAA-112608)であった。(立田)

OH-13 (図IV-43~47、表1、図版20・21)

位置 L・M161~163 (A地区)

立地 標高16.1~16.4mの平坦地

平面形 不整楕円形

規模 8.18/7.22×5.93/4.94×0.53m

確認・調査 II層調査中に確認した。経緯の詳細についてはOH-11に記した。本遺構は南側の大きい落ち込みに相当する。OH-21、36、37と重複し、いずれの住居跡より新しい。トレンチ調査により西側半周で明瞭な壁を確認できたが、東～南方向では重複により不明瞭である。

遺物は主にOH-37側から多く出土しており、大礫と土器のまとまりを残して調査を行った。床面出土の遺物、大きな礫、土器のまとまりは図化し、出土位置を記録してある(図IV-47)。

覆土 21層に分層した。落ち込みの上位にはII層相当の黒色土がレンズ状に堆積している。3層に分層し、下位のII'層、II''層には微細な黄褐色土粒がわずかに混じる。この堆積は住居中央

よりやや西側寄りに位置する石囲炉HF-3付近を中心としている。これらの層位の低位、床面近くと壁際には黄褐色土が多く混じる堆積がある。OH-37が重複する南東側には特に厚く堆積し、焼土粒や炭化物、骨片が混じる堆積もある。OH-37側の壁には、IV層を起源とするとみられる黄褐色土が貼り付けられるような状態で検出されている（図IV-99上にOH-37断面図4層、貼りロームとしたもの）。

形 態 平面形は東西に長い楕円形を呈する。北側壁の中央やや西よりには、ステップ状の段差がある。壁は全周で緩やかに立ち上がるが、OH-37との重複部分は不明瞭であり、前述した貼付けロームを立ち上がりとした。堆積状況から、OH-37を埋めて作られたとみられる。

付属遺構 HF：覆土中2か所。床面4か所の計6か所。覆土中の焼土2か所（図IV-46）はOH-37との境界方向に検出している。炭化物、焼土粒が混じる黒褐色土であり、層界は判然としている。移動した焼土とみられる。HF-3は石囲炉である。竈は、概ね焼土を囲むように配置されているが、配列は規則性がなく素材礫の大きさも不均一である。また竈の被熱部位と焼土の関係に整合性が少なく、遺構の石囲炉より抜き取ったものを使用しているとみられる。配石の中央に位置する焼土は小規模であるが明瞭に焼成するIV層である。HF-4～6は住居中央よりやや東側による位置にまとまって検出した。HF-5の低位にはOH-37の炉跡を検出している。HF-4と6は焼成するIV層であるが、HF-6は焼土より新しい柱穴と重複している。

HP：37基検出した。床面5cm²づつ二度掘り下げて確認している。番号は検出順となっている。住居の規模に比べ小さく細いものが多い。径20cm、深さ40cm以上のものは、HP-1、2、3、15の4基のみである。これら4基はOH-37側に偏っており、特にHF-3の周囲には柱穴を検出していない。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土からIV群^a類土器が出土している。石器は、床面、HF、HP、覆土から石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、筥状石器、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、石皿・台石、赤色顔料が出土している。

時 期 床面出土の遺物から、縄文時代後期前葉式のものと思われる。（立田）

OH-14（図IV-48・49、表1、図版21～25）

位 置 L・M159・160（A地区） **立 地** 標高16.3～16.6m付近の平坦地

平面形 不整楕円形 **規 模** (4.31) / (4.05) × 4.07 / 3.87 × 0.3m

確認・調査 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を南側で確認した。当初は、OH-14とOH-15の2軒が重複しているものとしていたが、さらにOH-20と重複していることが判明した。

覆 土 大きく2層に分かれる。土層5・13に代表される黒褐色系の土が最初に南西側に堆積し、土層2・4に代表される黄褐色系の土が上位に堆積している。

形 態 壁の立ち上がりは比較的明瞭であったが、南東側はOH-15により破壊されていた。それでも、床面は残存していた。焼土が2か所で確認され、HF-1とした炉の南西側には床の硬化面が確認された。重複する遺構にOH-15・20、OP-14、OSP-68・69・139・146がある。OH-15とOH-20はともにOH-14より新しい。OSP-139・146は、OH-14の覆土を切っている。

付属遺構 HF-1：住居中央よりやや南寄りの床で、3点一組の竈が埋まっていた。トレンチを入れたところ、黄褐色土の下から焼土が確認され、3点一組の竈が、もう一組相対して検出された。竈は、幅が10cmほどの長方形で、小口が地面に出よう埋め込まれている。竈はゆがんだ方形に配置されていたようで、竈抜き痕も確認された。この炉は、OH-15の床面を作る際に数点の竈を抜いて「廃炉」

とし、さらに埋められたものとみられる。

HF-2：住居のほぼ中央の床で焼土を確認した。礫抜き痕は確認されなかった。

HP：10基確認した。HP-1・7・11のような壁にかかるもの以外は、極めて浅いものであった。また、OH-15と重複することから、OH-14に関わる柱穴か特定できなかったものは、OH-15の柱穴として記録した。平面図にレベルとともに示してある。

遺物出土状況 床面、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は、HF、HP、覆土から石鏃、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、台石・石皿、変わり石が出土している。なお、HF-1覆土から出土した土器、石皿、加工痕のある礫はOH-15に、覆土上層から出土した土器、石鏃、フレイクはOH-20に振り分けられるものである。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (福井)

OH-15 (図IV-50～54、表1、図版22～25・34)

位 置 L・M・N160・161 (A地区) **立 地** 標高16.1～16.5m付近の平地地

平面形 不整楕円形 **規 模** (5.15) / 4.82 × (5.05) / 4.0 × 0.22m

確認・調査 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。当初は、OH-14とOH-15の2軒が重複しているものとしていたが、さらにOH-27と重複していることが判明した。

覆 土 床を覆うのは土層4・21としたローム粒の多い黒褐色土。上層にはくぼみを埋めた、僅かにローム粒を含む黒色土(土層1・2・3・13)が堆積する。

形 態 皿状で壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。石囲炉が二つ、地床炉が一つ確認されていることから、少なくとも3回、場合によっては4回(HF-1の改築が考えられるため)の建替えが行われているとみられる。しかし、多数の柱穴と、三つの焼土を確認した以外に重複の形跡は確認されていない。HF-1・2とした炉の南側の床には、硬化面が確認された。なお、★印を付した礫は入り口方向に配される袖石の一方と考えられる。

重複する遺構にOH-14・27がある。OH-27は後述のように少なくとも3軒重複したものとみられ、OH-15も建替えを経ているので、その状況は複雑である。一つの住居として括った範囲としては、最多の柱穴が確認されたことから、追認される。OSP-68・69もOH-15の覆土を切っている。

付属遺構 HF-1:住居中央よりやや東南寄りの床で、焼土を礫で円形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩、礫岩を使用。長さ20～30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。南東側の礫は特別に大きく40cm前後あった。礫には台石・石皿2点、たたき石1点が転用されていた。なお、圍繞する礫に接して北側に1点礫を検出した。その礫に続く様にHF-1より一回り大きい掘り込みが北側に伸びていた(断面図作成時には気づいていなかった)。この状況からすると、HF-1は改築されている可能性が高い。

HF-2：HF-1に接して、住居中央よりやや東南寄りの床で、礫が円弧に並ぶ状況を検出した。礫は砂岩、安山岩を使用し、1点は台石・石皿が転用されていた。長さ20～30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。南東側の礫は特別に大きく40cm前後あった。重量も、ほかが2～4kgなのに対し、22kgあった。礫のない部分も床と明瞭な段差がみられ、礫を抜いて「廃炉」にされたものとみられる。つまり、HF-1よりも古い炉と考えられる。

HF-3：住居ほぼ中央の床で、焼土を検出した。礫抜き痕などは検出されなかった。

HP: 77基確認した。重複関係から、OH-14・27などの柱穴も含んでしまっている。分離することは困難なので、OH-15のHPとした。したがって、支柱穴の比定も困難であるが、HF-1使用時は、HP-2・37・53・71が支柱穴であった可能性を示しておく。

遺物出土状況 床面直上、HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。また土製品が覆土から出土している。石器はHF、HP、覆土から石鏃、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、石鋸、台石・石皿、礫が出土している。また、HF-1、HF-2から焼け骨が得られているが、同定に至らなかった。しかし、覆土からタイ科遊離菌、HF-1からエイ・サメ類の椎骨が検出できた。なお、HF-1からは炭化したオニグルミ核片、イネ科果実、キハダ種子、HF-2からは炭化したオニグルミ核片、イネ科果実、ウコギ科種子、ニワトコ核が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。年代測定したところ、炉跡HF-1採取炭化材では、 $3,800 \pm 30\text{yr B.P.}$ (IAAA-112238)、炉跡HF-2採取炭化材では、 $3,840 \pm 20\text{yr B.P.}$ (IAAA-112239)の測定値が得られた。(福井)

OH-16 (図IV-55・56、表1、図版26)

位置 K・L160・161 (A地区) **立地** 標高16.3~16.6m付近の平坦地
平面形 不整楕円形 **規模** (4.78) / 4.58 × (3.98) / (3.99) × 0.2m
確認・調査 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。

覆土 床を覆うのは土層3・4・5・6としたローム粒などを含む黒褐色土。

形態 皿状で、西側を除き、壁の立ち上がりは不明瞭。床は比較的安定的。石囲炉が1つあり、その南側に二つの袖石が配されていた。石質は、安山岩と砂岩。

重複する遺構にOH-21・26がある。OH-26より新しく、OH-21より古い。

付属遺構 HF-1: 住居中央よりやや西南寄りの床で、焼土を礫で五角形状に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ20~30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。台石・石皿1点が転用されていた。なお、礫は歯抜けにされ、「魔炉」にされたとみられる。

HP: 23基確認した。重複関係から、OH-21のHPに含んでしまっているものがある。分離することは困難なので、それぞれのHPとした。したがって、支柱穴の比定も困難であるが、HF-1使用時は、HP-6・13・19、OH-21HP-42が支柱穴であった可能性を示しておく。

遺物出土状況 HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。また土偶が覆土から出土している。石器は、HF、HP、覆土から石錐、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿が出土している。HF-1から焼け骨を検出したが、同定には至っていない。なお、HF-1からは炭化したオニグルミ核片、シソ科果実が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,840 \pm 20\text{yr B.P.}$ (IAAA-122240)の測定値が得られた。(福井)

OH-17 (図IV-57・58、表1、図版27)

位置 K・L167・168 (A地区) **立地** 標高16.2~16.3m付近の平坦地
平面形 不整楕円形 **規模** 4.46 / 3.98 × 3.17 / 2.62 × 0.2m

確認・調査 表土除去後のⅡ層下部～Ⅲ層を精査したところ、黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。覆土から焼土が確認され、OF-10とした（後述）。

覆土 床を覆うのは土層1・2・3・4・7としたローム粒などを含む黒褐色土。

形態 皿状で、西側を除き、壁の立ち上がりは不明瞭。床も波打つように凹凸があり不安定。南側に二つの袖石が配されていた。いずれも楕円形の安山岩。重複遺構にOP-32がある。

付属遺構 HP：8基確認した。HP-1・3・8が主柱穴になると推定される。HP-4は根固めがされた柱穴であるが、OSP-456同様に覆土上位から掘り込まれていた可能性がある。

遺物出土状況 HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。また土製品が覆土から出土している。石器は床面、HP、覆土から石鏃、石錐、筥状石器、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、台石・石皿、異形石器が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。（福井）

OH-19（図IV-59～63、表1、図版28・29）

位置 L・M・N166～168（A地区） **立地** 標高15.9～16.2m付近の平坦地

平面形 卵形 **規模** (9.03) / (8.53) × (6.28) / (5.5) × 0.32m

確認・調査 OH-17・OP-32の切り合い関係を見るためトレンチを入れたところ、OP-32に接して落ち込みが確認された。トレンチを複数入れて、掘り広げたところ、床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。

覆土 床を覆うのは土層4や土層14としたローム粒の多い暗褐色土。上層には土層2や土層21としたロームブロック・ローム粒を多く含む黒褐色土が堆積する。覆土上層は、多くの礫や遺物を含み、盛土層に類似する。礫は大きなものが多かった。土層3としたものがHF-2の北東側に堆積していた。ロームを主体とするもので、調査時は気付くことはできなかったが、土層3のほか、土層2・3'・7・10・42～45を覆土とし、HF-2を炉とした住居がOH-19の覆土中に掘り込まれていたものと推定された。これをOH-19a、壁がはっきりしているものをOH-19bとする。

形態 壁の立ち上がりは明瞭であったが、北東側が大きく風倒木痕で攪乱されていた。床も比較的安定している。石囲炉が二つ、礫抜き痕のある焼土が三つ確認されている。石囲炉の一つはOH-19aのもので、残りはOH-19bのものとなる。このことから、OH-19bは、少なくとも四回（場合によって五回）の建替えが行われているとみられる。HF-1・2とした炉の南側の床には、硬化面が確認された。

重複遺構にOH-25、31がある。図では、OH-19の方を新しくしたが、互いの関係は不明瞭。

付属遺構 HF-1：住居中央よりやや南寄りの床で、焼土を礫で方形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ15cm前後、20cm前後、30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれていた。歯抜けになっていることから「魔炉」にされたものとみられる。また、①焼土が西側に寄る、②一回り大きな掘り込みがある、③石囲の外側にも焼土がみられる、④礫抜き痕が石囲の西側に見られる点から、この炉自体2段階あるものと推定される。礫の内、1点が台石・石皿、もう1点がたたき石を転用している。

HF-2：住居中央より西寄りの床で、焼土を礫で円形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩、礫岩、凝灰岩を使用。長さ15cm前後、30cm前後、40cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれていた。礫の内、1点が台石・石皿、もう1点がたたき石を転用している。

HF-3：住居ほぼ中央の床で、焼土を検出した。二重の方形の礫抜き痕が確認され、2段階使用された

とみられる。

HF-4：住居ほぼ中央の床で、焼土を検出した。一部、礫抜け痕が確認された。

HP：51基確認した。いずれも床面で検出した。住居北東側に柱穴がまともまっているのは、OH-19aの柱穴の影響とみられる。OH-19bの主柱穴は、HP-42・46・37・47・24・12・2と風倒木に破壊されたもの合わせて8本からなるかと推定される。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。また覆土からV群土器、土製品も出土している。石器はHF、HP、覆土から石織、石槍、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器、石鋸、台石・石皿、異形石器、赤色顔料が出土している。礫は覆土に多量に含まれており、計数しただけでも691点ある。砂岩、安山岩、泥岩、チャート、粘板岩といった石質を主体とする。覆土、HF-1、HF-2から焼け骨が得られている。覆土出土のものでは獣骨片、HF-2からは硬骨魚類椎骨、サケ科遊離歯が同定された。なお、HF-1・HF-2からは炭化したオニグルミ核片が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。年代測定したところ、炉跡HF-1採取炭化材では、 $3,890 \pm 30\text{yr B. P.}$ (IAAA-112609)、炉跡HF-2採取炭化材では、 $3,810 \pm 30\text{yr B. P.}$ (IAAA-112603)の測定値が得られた。(福井)

OH-20 (図IV-64、表1、図版22～24)

位置 L160 (A地区)

立地 標高16.6m付近の平坦地

平面形 隅丸方形形

規模 $2.66/2.41 \times (2.03) / (1.77) \times 0.13\text{m}$

確認・調査 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。当初は、OH-14の上層と考えたが、断面で東側の立ち上がり、平坦な床を確認したことで認定した。

覆土 土 床を覆うのは土層2としたローム粒の多い黒褐色土。上層にはくぼみを埋めた、焼土ブロック・焼土粒・ロームブロック・ローム粒を多く含む黒褐色土(土層1)が堆積する。土層1は盛土層に類似するもの。

形態 皿状で、壁の立ち上がりは西側で明瞭であったが、ほかは不明瞭。床は緩やかに傾斜している。焼土は確認されなかったが、存在したであろう位置にトレンチを設定してしまったので、掘り飛ばしてしまった可能性も否定できない。小型ではあるが、柱穴が複数確認されることから、建物であったと推定している。

重複する遺構にOH-14があり、その上位に掘り込まれている。また、OP-14、OSP-63・67・139・146、OF-2も重複するが、いずれもOH-20埋没後に構築されたものとみられる。

付属遺構 **HP**：9基確認した。いずれも床面で検出した。ただ、HP-1・9は覆土の状況から、より上位からの掘り込みであったかもしれない。そうすると、HP-3以外は浅いピットとなる。HP-3は、深さ30cmほどあり、しっかりとしている。

遺物出土状況 床面、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は覆土から石織、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、すり石、台石・石皿が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

OH-21 (図IV-65~67、表1、図版26・30)

位置 K・L161・162 (A地区) 立地 標高16.2~16.6m付近の平地
 平面形 不整楕円形 規模 (5.1) / (4.9) × 4.12 / 3.66 × 0.31m

確認・調査 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と立ち上がる壁を確認した。当初は、OH-16と重複しているとしていたが、さらにOH-26と重複していることが判明した。

覆土 床を覆うのは土層2としたローム粒を含む黒褐色土で、上面までほぼ1層が堆積していた。
 形態 皿状で壁の立ち上がりは比較的明瞭。床は凹凸が目立ち、安定的でない。石囲炉が一つ、地床炉が二つ確認されていることから、少なくとも3回の建替えが行われているとみられる。しかし、多数の柱穴と、三つの焼土を確認した以外に重複の形跡は確認されていない。HF-1とした炉の南側の床とHP-28周辺には、硬化面が確認された。

重複する遺構にOH-16・26がある。一つの住居として括った範囲としては、最多のOH-15に次ぐ柱穴が確認された。OH-16・26より新しく、OH-13より古い。

付属遺構 HF-1:住居中央よりやや東南寄りの床で、焼土を礫で囲繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ20cm前後と40cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれていた。歯抜けになっていることから「魔炉」にされたものとみられる。また、一番大きな礫の北側にも焼土が広がるので、この炉自体2段階あるものと推定される。

HF-2: HF-1に接して、住居中央よりやや東寄りの床で、焼土を検出した。つまり、HF-1よりも古い炉と考えられる。

HF-3: 住居ほぼ中央の床で、焼土を検出した。礫抜け痕などは検出されなかった。

HP: 48基確認した。重複関係から、OH-16・26などの柱穴も含んでしまっている。分離することは困難なので、OH-21のHPとした。したがって、主柱穴の比定も困難であるが、HF-1使用時は、HP-19・32、OH-13HP-19・24、HF-3使用時には、HP-9・20・27・44が主柱穴であった可能性を示しておく。

遺物出土状況 HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は、HF、HP、覆土から石鏃、石錐、筒状石器、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿が出土している。覆土、HF-1から焼け骨が得られている。覆土出土のものは獣骨片?でHF-1からはタイ類の遊離歯が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

OH-22 (図IV-68・69、表1、図版23・24・30)

位置 M・N158・159 (A地区) 立地 標高16.3~16.6m付近の平地
 平面形 不整円形 規模 4.02 / 3.84 × 3.73 / 3.46 × 0.18m

確認・調査 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、石囲炉を確認した。さらに直行するようにトレンチを設定し、掘り下げて床と浅い立ち上がりを確認した。

覆土 床を覆うのは土層1としたローム粒を僅かに含む黒褐色土。

形態 皿状で壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、海側へ緩やかに傾斜し、やや安定的でない。石囲炉が一つ確認されている。HF-1とした炉の南東側の床には、硬化面が確認された。なお、

★印を付した礫は入り口方向に配される袖石と考えられるが、ここでは3個の礫が配されている。礫は、砂岩、安山岩を使用。両側は、長さ35cm前後と50cm前後の礫の長手方向が地面に出るように、中央は長さ30cm弱の礫の平の面が地面に出るように埋め込まれている。一番大きな礫は台石・石皿が転用されており、さらに被熱していた。

重複する遺構にOH-27・28・32、OP-17がある。断面と床の高さからOH-27が新しいものとみなせる。OH-28は、不明瞭なもので、断面からも古いものである。OH-32についても、断面から古いとみなせる。OP-17は断面から少なくともOH-32よりも新しいと確認しているが、状況からさらにOH-22より新しいとみられる。

付属遺構 HF-1:住居中央よりわずかに東南寄りの床で、焼土を礫で円形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ20～30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。礫には台石・石皿1点が転用されていた。

HP:34基確認した。主柱穴は、HP-2・14・22・32とみられる。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は、HF、HP、覆土から石鏃、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、すり石、台石・石皿が出土している。なお、HF-1からは炭化したオニグルミ核片、マタビ種子が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,760 \pm 30 \text{ yr B. P.}$ (IAAA-112604) の測定値が得られた。(福井)

OH-23 (図IV-70・71、表1、図版31)

位置 K・L・M156・157 (A地区) **立地** 標高16.8～17.1mの平坦地
平面形 楕円形 **規模** 4.59/3.85×2.99/2.32×0.27m

確認・調査 III層上面を精査中、黒褐色土に黄褐色土、焼土粒子などを混じる汚れた土からなる落ち込みを確認した。落ち込みは明瞭な円形と不明瞭な楕円形からなっており、土坑と住居の重複が予想された。想定される遺構の長軸にかかるようにトレンチを設定してIV層まで掘り下げた。その結果プラスチック土坑1基と住居2軒の重複と判断した。プラスチック土坑OP-13は本遺構OH-23より新しい。OH-23はOH-42より古い。OH-42はさらにM156区に延びており、さらに重複が予想されたが、調査進行の都合上OP-13、23を先行して調査した。後の調査によりOH-42はさらにOH-39、40と重複し、OH-39はOH-40、42より新しい。

遺物はこぶし大以上の大きさの礫と、土器のまとまり、および床面の出土遺物について出土位置の記録を行った。それ以外は、覆土出土の遺物としてグリット単位で取り上げている。

覆土 黒～黒褐色土の堆積であるが、上位のレンズ状堆積(1、2層)と、壁際・床面直上に不規則に堆積するもの(3～11層)に区分できる。両者とも黄褐色土粒が混じる堆積で、さらに焼土粒、骨片が混じるものもある。下位の堆積にはそれらの混入割合が増える傾向にある。

形態 平面形は北西～南東方向に長い楕円形である。北西側の壁は比較的急で他は緩やかで床面と連続している。床は南東側にやや傾斜している。

付属遺構 HF:2か所検出した。地床炉と石囲炉で地床炉は床面、石囲炉は床面よりやや浮いた位置での検出である。地床炉HF-2は住居中心より北西側、石囲炉HF-1はそのやや東よりに位置している。HF-1はより新しいOSP-144に切られている。石囲いは隙間が目立ち、素材礫の大きさもばらついており、粗いつくりである。

HP:9基検出した。住居検出時に精査して確認した小柱穴は、OSPとしている。これらは本遺構OH-23

よりも新しい。HPとしたものは床面から検出したものである。いずれも浅いものだが、HP-6は住居中央に位置し、深さ約30cmで直立する。SPの坑底で検出した。

遺物出土状況 HP、覆土からは、IV群a類土器が出土している。また土製品が覆土から出土している。石器はHF、HP、覆土から石鏃、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、すり石、台石・石皿、礫が出土している。

時期 床面と覆土の出土遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。なおHF-1の土層をフローテーションし、結果得られた炭化材の放射性炭素年代測定結果は、3,850±30yrB.P. (IAAA-122241)であった。(立田)

OH-24 (図IV-72・73、表1、図版32)

位置 K・L163・164 (A地区)

立地 標高16.1~16.3mの平坦地

平面形 楕円形?

規模 (4.02) / (3.39) × (3.68) / (3.62) × 0.45m

確認・調査 2011年度のトレンチ調査において、黒褐色土の落ち込みとして確認したものである。落ち込みは北西側の調査区外に延びており、ほぼ半円形であった。調査区境を土層断面としてトレンチ調査を行った。半円の中心を通り直交する方向、さらに東側のOH-12方向にトレンチを設定し、IV層まで掘り下げた。その結果、明瞭な壁と床を検出し、住居跡とした。壁面の観察から、OH-12より古いとみられる。遺物は覆土から多く出土した。取り上げにあたっては、こぶし大以上の大礫、土器片のまとも、床面の遺物と炭化材については出土位置を記録した。

覆土 11層に分層した。1~4層は黄褐色土粒が混じる黒褐色土で、覆土上位にレンズ状に堆積する。5層はIV層起源の黄褐色土とみられるもので、10cm程度の細長い礫を伴い堆積する(図IV-72)。その下位に堆積する6層は、黄褐色土をブロックとして多く混じる堆積である。7~9層は黄褐色土粒の混じる灰黄褐色土である。10層は黄褐色土粒を多く混じる黒褐色土で、この堆積の下位には、炭化物を多量に混じる11層が堆積している。11層は住居中央部のくぼみに対応しており、11層を掘り下げた床面には礫が2点出土している。全体が不明ではあるが、礫と床面はわずかに焼成の痕跡があるため、この礫は石囲炉の一部である可能性がある。

形態 検出した部分では、平面形はやや角のある楕円形である。壁は明瞭に急激に立ち上がる。床面は細かい起伏があり硬く締まっている。床面の形状はくぼみの中央と北東端にあたる部分に緩やかにくぼむ部分がある。

付属遺構 HF: 床近くの覆土で1か所の焼土と、前述した調査区境に炉跡の可能性のある礫を検出している。焼土は住居中央のくぼみの東側縁に位置している。

HP: 15基検出した。中央のくぼみと壁間の平坦面に不規則に検出されている。HP-6、10、13は深さ40cm程度で直立する明瞭な柱穴である。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土からIV群a類土器が出土している。また土製品が覆土から出土している。石器は床面、HF、HP、覆土から、石鏃、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿、礫が出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉とみられる。(立田)

OH-25 (図IV-74・75、表1、図版33)

位置 M・N165~167 (A地区)

立地 標高15.8~15.9m付近の平坦地

平面形 不整楕円形

規模 (4.4) / (4.2) × (4.8) / (4.4) × 0.22m

確認・調査 II層上面で遺物が集中していたことから、調査区境界に沿ってトレンチを入れたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁、石囲炉を確認した。掘り込みは、II層～III層下面に留まっていた。

覆 土 床を覆うのは土層4とした暗褐色土層。ローム粒・炭を含む。ほぼ単層で、遺物も多く含み、埋められたものと推定される。南西側にみられる土層2・3はm層とみられる。

形 態 南東側の調査区範囲外に広がっているため、全体形は不明。床はほぼ平坦で、石囲炉が調査区境界壁で上下に重なった状態で検出された。そのため少なくとも1回建て替えが行われたとみられる。また下位の石囲炉に接する床で硬化面が確認された。

重複する遺構にOH-19があるが、新旧関係はつかめなかった。しかしながら、住居の形態から、OH-25のほうが新しいとみられる。

付属遺構 HF-1：住居中央よりやや南寄りの覆土中で、3点の礫が弧状に並んだ状況を検出した。中央に扁平な礫が平置きにされ、その上位に焼土が形成されていた。礫は砂岩、安山岩を使用。礫の内2点が台石・石皿が、もう1点はたたき石が転用されていた。転用礫はいずれも砂岩。

HF-2：HF-1直下の床で、5点の礫がコ状に配置された状況で検出した。長さ25cm前後の礫の長手方向が長手方向が地面に出るように埋め込まれている。礫は砂岩と安山岩を使用。

HP：18基確認した。重複関係からOH-19の柱穴となってしまうものもある。HP-10は覆土上位からの掘り込みである。また、HP-21もHF-2を壊して掘り込まれているので、上位からの掘り込みの可能性ある。HP-1・22は主柱穴であったかもしれない。

遺物出土状況 HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。また土製品が覆土から出土している。石器はHF、HP、覆土から、石鏃、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、礫が出土している。HF-1からはコイ科？の椎骨が得られている。なお、HF-2からは炭化したニワトコ核が得られている。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-2採取炭化材を年代測定したところ、 $3,840 \pm 20 \text{yr B. P.}$ (IAAA-122242) の測定値が得られた。(福井)

OH-26 (図IV-76、表1、図版26)

位 置 K161・162 (A地区) **立 地** 標高16.2～16.6m付近の平坦地

平面形 不整楕円形 **規 模** (2.4) / (2.1) × (2.6) / (2.4) × 0.3m

確認・調査 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。

覆 土 床を覆うのは土層3としたローム粒と焼土粒を黒褐色土。

形 態 皿状で壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。重複する遺構にOH-16・21がある。OH-16との新旧関係は、断面図ではOH-26の方が古いとしたが、どちらもいえない。OH-21よりは古い。

付属遺構 HP：16基確認した。重複関係から、OH-16・21に含まれてしまっているHPもある。分離することは困難なので、それぞれのHPとした。なお、HP-5には垂直に立った状態の柱材とみられる炭化材を検出した。樹種を同定したところ、コナラ属コナラ節とされた。コナラ節は、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワが含まれる。

遺物出土状況 HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器はHP、覆土から石鏃、石錐、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿、礫が出土している。HP-5からは同

定に至らなかった焼け骨が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。柱穴HP-5採取炭化材を年代測定したところ、 $3,870 \pm 20\text{yr B. P.}$ (IAAA-112605) の測定値が得られた。(福井)

OH-27 (図IV-77・78、表1、図版23・24・34)

位置 M・N159-161 (A地区) **立地** 標高16.1~16.4m付近の平地

平面形 不整楕円形 **規模** (6.2) / (5.8) × (-) / (6.0) × 0.2m

確認・調査 表土除去後のⅡ層下部～Ⅲ層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの關係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。

覆土 床を覆うのは土層4・6とした僅かにローム粒を含む黒褐色土。

形態 皿状で壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。僅かに確認できた壁も脈絡のない向きをし、石囲炉が二つ、地床炉が一つ確認されていることから、少なくとも3回の建替えが行われているとみられる。図上ではOH-27をa・b・cと分離してみたが、遺物等の分離はできないので、ここでは1軒のまま報告する。なお、★印を付した礫は、入り口に配された袖石の可能性がある。ただ、石囲炉との關係は不明である。

重複する遺構にOH-14・15・22・28がある。OH-14・22よりOH-27aは新しく、OH-15よりOH-27a・b・cは古い。OH-28との關係はよく分らないが、OH-28の遺存状態が悪いので、恐らくOH-27のほうが新しいと思われる。

付属遺構 HF-1：住居「中央」よりやや東南寄りの床で、焼土を礫で方形に囲繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ15~30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。部分的に礫が二重になっている。北西側の礫は特別に大きく30cm前後あった。礫にはたき石1点が転用されていた。なお、礫は歯抜けになっており、「魔炉」にされたものとみられる。

HF-2：HF-1に接して、住居「中央」より東南寄りの床で、焼土とそれをめぐるように点々と配された礫が確認された。礫は台石・石皿1点が転用されていた。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ20~30cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。「魔炉」に伴い、ほかの礫を抜かれたものとみられる。HF-1よりも古い炉と考えられる。なお、南側、調査区外へさらに焼土が広がっていた。場合によっては、もう1基HFがあったかもしれない。

HF-3：住居のほぼ「中央」の床で、焼土を検出した。礫焼け痕などは確認されなかった。

HP：39基確認した。重複關係から、OH-22・28の柱穴も含んでしまっている。また、OH-15の柱穴として記載しているものも多数ある。分離することは困難なので、そのままとした。したがって、主柱穴の比定も困難であるが、HF-1使用時は、HP-15・23、OH-15HP-29・53、HF-2使用時は、HP-27・OH-15HP-30、HF-3使用時は、HP-9・OH-15HP-21・44が主柱穴であった可能性を示しておく。

遺物出土状況 HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は床面、HF、HP、覆土から石鏃、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たき石、台石・石皿が出土している。HF-1からは同定に至らなかった焼け骨が得られている。なお、HF-1からは炭化したオニグルミ核片、キハダ種子、マタビ種子が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。年代測定したところ、炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,950 \pm 20\text{yr B. P.}$ (IAAA-112606) の測定値が得られた。(福井)

OH-28 (図IV-79・80、表1、図版23・24・35)

位置 M・N158~160 (A地区) 立地 標高16.3~16.4m付近の平地
 平面形 不整形円形 規模 (-) / (6.2) × (-) / (3.8) × 0.13m

確認・調査 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と焼土を確認した。当初は、OH-28aとした部分とOH-32の一部をOH-28として調査していたが、OH-28b側へ床が広がっていたので、合わせてOH-28として調査した。最終的に、焼土が3か所で確認されたことから、大きく二つの住居に分けられることが判明した。そこで、図上でOH-28aとOH-28bに分けた。両者の新旧差ははっきりしないが、焼土と石囲いの残存状況から、OH-28aのほうが新しいとみなせる。

覆土 OH-28aの床を覆うのは土層6としたロームブロック・ローム粒を僅かに含む黒褐色土。OH-28bの床を覆う土層も、似たようなものであるが、わずかに焼土ブロックを含む。

形態 皿状で壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。OH-28aは、石囲い一つ、地床炉一つ確認されていることから、少なくとも2回の建替えが行われているとみられる。OH-28bについては地床炉一つで、HP-1とした柱穴に切られている。

重複する遺構にOH-22・27・32がある。OH-27a・b・cよりは、OH-28bが古いとみられる。これは、残存状態の悪さからの推定である。OH-22とは、OH-28a・bの方が古いとみられる。OH-32との関係は、OH-28aが新しいと考えられる。

付属遺構 HF-1: OH-28a住居のほぼ中央より、焼土を検出した。大きく風倒木痕に攪乱されるが、長手面側が被熱した礫が接して出土したことから、石囲い炉であったと推定される。恐らく、「竈炉」とされ、石囲いが歯抜けになっていたと考えられる。

HF-2: HF-1に接して、OH-28a住居のほぼ中央で焼土を検出した。礫抜け痕などは検出されなかった。

HF-3: OH-28b住居の中央やや南東よりの床で、焼土を検出した。HP1に攪乱されており、礫抜け痕などは検出されなかった。

HP: 20基確認した。重複関係から、OH-22・27・32の柱穴と混合しているが、分離することは困難なので、任意にOH-28のHPとした。したがって、主柱穴の比定も困難であるが、HF-3使用時は、HP-2・5・13・18が主柱穴であった可能性を示しておく。

遺物出土状況 住居跡覆土、HP覆土から、IV群a類土器が出土している。石器として石鏃、石鏃、スクレイパー、Rフレイク、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、加工痕のある礫が床面直上、覆土、HF覆土、HP覆土から出土している。HF-1からタイ類遊離歯が得られている。なお、HF-1からは炭化したオニグルミ核片が得られている。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、3,840±20yrB. P. (IAAA-122243) の測定値が得られた。(福井)

OH-29 (図IV-81・82、表1、図版36・39)

位置 L158・159 (A地区) 立地 標高16.6~16.9m付近の平地
 平面形 不整形円形 規模 (4.1) / (3.88) × (3.9) / (3.5) × 0.2m

確認・調査 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と焼土を確認した。大きく二つの風倒木によって攪乱され、一辺を他の住居に破壊されているので、床面範囲などの認定はあまり正確ではない。

覆 土 床を覆うのは土層2・3・4としたローム粒・炭を含む黒褐色～灰黄褐色土。

形 態 皿状で、僅かに残った壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。石囲炉が一つ確認されている。重複する遺構にOH-32がある。切合いからOH-32が古いとみられる。周囲にはOF-8やOF-9があり、これらが住居の炉だとすると、三方に重複する住居があることになる。

付属遺構 HF-1：住居のほぼ中央より南西側で、焼土を礫で圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ15～25cm前後の礫の長手方向や小口方向が地面に出るように埋め込まれている。なお、礫は歯抜けになっており、「魔炉」にされたものとみられる。

HP：17基確認した。重複関係から、OH-32の柱穴と混合しているが、分離することは困難なので、任意にOH-29のHPとした。したがって、主柱穴の比定も困難であるが、HP-1・6が主柱穴であった可能性を示しておく。

遺物出土状況 HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器はHP、覆土から石鏃、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

OH-30 (図IV-83・84、表1、図版35・37)

位 置 L・M・N157・158 (A地区) **立 地** 標高16.4～16.7m付近の平地

平面形 不整楕円形 **規 模** (4.89) / (4.65) × (2.89) / (2.78) × 0.2m

確認・調査 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と焼土を確認した。壁の立ち上がりが不明瞭な部分も多く、床面範囲などの認定はあまり正確ではない。

覆 土 床を覆うのは土層1・2としたローム粒・焼土粒・炭を含む黒褐色土。部分的に、土層12・15・17のような灰黄褐色～にぶい黄褐色を呈するローム質の土層が堆積する。なかでも土層17は、HF-3の直上にあり、平面形も楕円形を呈していた。したがって、入れ子状に重複した遺構(OH-30a)の覆土であったとみられる。

形 態 皿状で僅かに残った壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。石囲炉が1基、焼土が4基確認されている。1基の焼土は、石囲炉に隣接しており、この住居が建て替えられたことが推定される。また、残り3基の焼土はこれらと離れて確認されたもので、検出できなかったが、重複した遺構に伴うものとみられる。

付属遺構 HF-1：住居のほぼ中央で、焼土を礫でほぼ方形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ15～25cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。なお、礫は歯抜けになっており、「魔炉」にされたものとみられる。

HF-2：住居のほぼ中央で焼土を検出した。床面であるIII～IV層が焼けている。なお、礫抜き痕は確認できなかったが、「魔炉」にされたものとみられる。

HF-3：住居の中央より北西側で焼土を検出した。床面というよりは、覆土が焼けているので、OH-30の覆土中に掘り込まれた遺構(OH-30a)に付属したものであったと思われる。

HF-4：住居の南東端の床面で焼土を検出した。HP-18に接する。

HF-5：住居の中央よりやや東側で焼土を検出した。HP-23に接する。

HP：29基確認した。主柱穴は明瞭ではない。HP-16の上位からは袖石とみられる大型礫が乱れた状態で出土した。

遺物出土状況 HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は、HF、HP、覆土から石鏃、石錐、

筒状石器、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿が出土している。なお、HF-1からは炭化したオニグルミ核片が得られている。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,840 \pm 20 \text{yr B. P.}$ (IAAA-122244) の測定値が得られた。(福井)

OH-31 (図IV-85・86、表1、図版38)

位 置 K・L・M165・166 (A地区) **立 地** 標高16.0～16.2m付近の平坦地

平面形 不整形円形 **規 模** (5.47) / 5.23 × (5.01) / (4.6) × 0.28m

確認・調査 表土除去後のⅡ層下部～Ⅲ層を精査したところ、黒褐色土の落ち込みと遺物の集中を検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と明瞭な壁を確認した。大きく風倒木によって攪乱され、東側をOH-19に破壊されているので、床面範囲などの認定はあまり正確ではない。

覆 土 床を覆うのは土層1としたローム粒・焼土粒を含む黒褐色土。その上部に礫を多量に含む。ある程度埋められた段階で、残った窪みに礫が投げ込まれたような状態であった。

形 態 北側を風倒木に破壊され、東側はOH-19と重複するため、全体形は不明。床はほぼ平坦。石囲炉1基、焼土2基を検出した。そのため少なくとも3回建て替えが行われたとみられる。また石囲炉に接する床に硬化面が確認された。

重複する遺構にOH-19があるが、新旧関係はつかめなかった。住居の形態から、OH-31のほうが新しいとみられる。

付属遺構 HF-1：住居のほぼ中央より南側で、焼土を検出した。焼土を礫でほぼ方形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ15～25cm前後の礫の長手方向が地面に出るように埋め込まれている。礫には台石・石皿1点が転用されていた。

HF-2：HF-1に重複するように接して、住居のほぼ中央で焼土を検出した。礫は抜かれていた。焼土が、礫抜け痕の外側に広がることから、さらなる作り変えがあった可能性もある。

HF-3：住居のほぼ中央で焼土を検出した。礫は抜かれていた。HP-11に切られている。

HP：32基確認した。重複関係から、OH-19の柱穴と混合しているが、分離することは困難なのでそのままにした。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土から、Ⅳ群a類土器が出土している。石器はHF、HP、覆土からつまみ付ナイフ、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、台石・石皿、赤色顔料が出土している。覆土、HF-1から焼け骨が得られており、覆土出土のものでは硬骨魚類の椎骨、HF-1出土のものではサケ科？遊離歯が同定されている。なお、覆土からは炭化したオニグルミ核片、イネ科果実が得られている。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。炉跡HF-1採取炭化材を年代測定したところ、 $3,800 \pm 30 \text{yr B. P.}$ (IAAA-122245) の測定値が得られた。(福井)

OH-32 (図IV-87・88、表1、図版39)

位 置 L・M158・159 (A地区) **立 地** 標高16.4～16.8m付近の平坦地

平面形 不整形円形 **規 模** 5.12 / (5.02) × (—) / (4.78) × 0.2m

確認・調査 表土除去後のⅡ層下部～Ⅲ層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と焼土を確

認した。大きく風倒木によって攪乱され、周囲を他の住居に破壊されているので、床面範囲などの認定はあまり正確ではない。

覆 土 床を覆うのはローム粒・焼土粒・炭を含む暗褐色土。

形 態 皿状で、僅かに残った壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。石囲炉が二つ、地床炉が一つ確認されていることから、少なくとも3回の建替えが行われているとみられる。HF-1とした炉の南側の床、HF-3とした炉の南東側の床には、硬化面が確認された。個別の石囲炉の詳細は後述するが、HF-1とHF-2とが接して重複する状況から、舟形住居から楕円形住居への過渡期的形態であったと推定される。

重複する遺構にOH-22・28・29・30がある。いずれも切合いからOH-32が古いとみられる。

付属遺構 HF-1：大きく風倒木痕に攪乱されるが、住居のほぼ中央より、焼土を礫で方形に圍繞した炉を検出した。礫は、砂岩、安山岩を使用。長さ15～20cm前後の礫の長手方向が地面に出るよう埋め込まれており、一部二重になっていた。礫にはたたき石1点、台石・石皿5点が転用されていた。なお、礫は歯抜けになっており「廃炉」にされたものとみられる。

HF-2：HF-1に重複するように接して、住居の中央で焼土を検出した。礫は抜かれていた。

HF-3：住居の中央やや東よりの床で、焼土を検出した。礫抜け痕などは確認されなかった。

HP：22基確認した。重複関係から、OH-22・28・29・30の柱穴と混合しているが、分離することは困難なので、任意にOH-32のHPとした。HP-7、HP-13、HP-17は浅く、それぞれHF-3、HF-1、HF-2の「先端ビット」の可能性はある。

遺物出土状況 HF、HP、覆土から、IV群a類土器が出土している。石器は、覆土から石錐、スクレイパー、Rフレイク、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、青竜刀形石器が出土している。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (福井)

OH-33 (図IV-89～92、表1、図版40・41)

位 置 L・M・N169・170 (A地区) **立 地** 標高15.8～16.1mの平坦地

平面形 楕円形 **規 模** 5.88/5.28×4.88/4.28×0.45m

確認・調査 II層の掘削中、黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは南北に長く、楕円形と半円が重なり南側の調査区外に延びていた。このことから2軒の住居が重複していると想定し、北側に位置する楕円形の落ち込みの長軸に合わせ、南側の半円の落ち込みまで延長してトレンチを設定した。さらに、北側の落ち込みには長軸を三等分した位置に直交する2本のトレンチを追加しIV層まで掘り下げた。その結果明瞭な壁、床を検出し、2軒の住居の重複であることがわかった。本遺構OH-33は、南に位置するOH-38より新しい。覆土からは多くの遺物が出土している。大きさ10cm以上を目安に遺物を残して掘り下げ、出土位置を記録した。そのほかの遺物についても、1mメッシュで取り上げを行っている(図IV-92)。図IV-91は、同一個体の破片集中とみられるものと、フレイク・チップ集中域、青竜刀形石器の出土状況。青竜刀形石器は覆土2層と、M171c区のm層基底部から出土したものが接合している。

覆 土 16層に分層した。レンズ状に堆積する黒褐色土が主であるが、ほぼすべての土層が、焼土粒、黄褐色土粒ないしブロックが多く混じるものである。2、3、5層は上位に堆積する黒～暗褐色土である。7層は黒色土で、黄褐色土粒の混入が他の土層に比し少なく、自然堆積の可能性もある。遺物の取り上げはこの層位を境界とし、上位を覆土1層、下位から床面直上までに出土しているものを覆土2層として取り上げた。壁際には9、10、13、15、16層とした、黄褐色土粒ないしブロックが多

く混じる堆積がある。

形態 平面形は南北に長く、南側に先端のある舟形を呈する。壁は全周で急に立ち上がっており、床面は平坦で、炉の周囲がわずかにくぼむ他はほぼ水平である。

付属遺構 HF: 覆土1層中に検出した焼土は4か所あり、住居の輪郭から外れるものは焼土0F-6とした。それ以外についてはHF-1〜3の番号を付した。HF-2については判然としないが、1,3についてはブロック状に混入し、層界が画然とすることから、焼成した土が移動したものである可能性が高い。床面においては石囲炉1か所(HF-4)と地床炉2か所(HF-5、HP-10)を確認している。石囲炉は住居長軸上、中心よりやや先端寄りに位置する。硬化面は炉から先端部に向かい広がっており、硬化面端には軸を同じくする対となる柱穴を伴う。炉石は概ね方形に並べられるが、大きさは不ぞろいである。なお石囲い中に大礫を1点検出している。断面観察からは、この石も炉に伴うものとみられるが、外側にあたる方形の配列が拉幅によるものか同時のものかは判然としない。HF-5、HP-10としたものは、いずれもIV層が焼成する小規模なものである。

HP: 12基検出した。平面形の明瞭さに反し、柱穴は小規模で明確な配列がない。HP-13はいわゆる先端ピットの形骸化したものだろうか。HP-13の覆土中から大礫が5点出土している。HP-8、9は対となり、住居の構造を示すものとみられる。深さ20cm程度の柱穴はHP-3、5、6、11、12と輪郭に沿って不定な間隔で並んでおり、これらが住居構造を支えた柱であるとみられる。調査終了後に5cmずつ2回掘り下げ、柱穴確認を行ったが、これ以上検出できなかった。

遺物出土状況 床面、HF、覆土からIV群a類土器が出土している。覆土からはIII群a類土器2点、II群b類土器1点も出土している。IV群a類土器の内、覆土1層は138点、覆土2層は261点ある。石器は石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たつき石、すり石、扁平打製石器、石錘、台石・石皿、青竜刀形石器片、礫が出土している。

時期 床面の出土遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性がある。(立田)

OH-34 (図IV-93、表1、図版42)

位置 K164 (A地区)

立地 標高16.1mの平坦地

平面形 楕円形?

規模 (1.2) / (1.0) × (1.2) / (1.0) × 0.22m

確認・調査 III層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは隅丸方形の一角のような形状で、北西側の調査区外に延びていた。落ち込みの輪郭は比較的明瞭であったため、遺構を想定して黒褐色土を掘り下げた。結果、比較的急に立ち上がる壁、平坦な床を検出したため、住居跡とした。掘り下げにあたっては大礫と遺物のまとまりを残しながら行った。

覆土 4層に区分した。上位の1,2層は、黒〜黒褐色土で、黄褐色土粒と炭化物をわずかに混じる。下位の3,4層はHP-1とした柱穴とみられるくぼみの覆土である。灰黄褐色土で黄褐色土粒と炭化物が混じる堆積である。

形態 平面形は不明であるが、周囲で検出される住居の形状からすると、楕円形の住居の先端部、または舟形住居の船尾部分の可能性がある。確認できた部分の壁は、急激に立ち上がっており、床面はやや起伏が多い。

付属遺構 HP: 4基確認した。このうちHP-2は、住居埋没後に掘られたものである。

遺物出土状況 HP、覆土からIV群a類土器は出土している。石器はHP、覆土から石鏃1点、Rフレイク、石核、フレイク、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。(立田)

OH-35 (図IV-94、表1、図版42)

位置 K169・170 (A地区)

立地 標高16.2mの平坦地

平面形 楕円形?

規模 (3.4) / (3.2) × (0.65) / (0.45) × 0.5m

確認・調査 III層上面を精査中、調査区外に延びる黒～黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みの輪郭が明瞭であったため、規模から住居を想定し、調査区境に土層断面を記録し掘り下げた。結果明瞭な壁と北東側に傾斜する床を確認し、住居であることがわかった。

覆土 7層に区分した。1層は黄褐色土で黒褐色土と焼土粒が混じるm層である。2～6層は黒～黒褐色土である。黄褐色土粒と炭化物または焼土粒が少量混じっており、その量で区分している。2、3層はレンズ状に堆積し、混入が少量である。これらは自然堆積かもしれない。7層は本遺構の堀上土の可能性はある。

形態 検出できた部分の平面形は長台形である。周囲の住居の形状から、楕円形の一部であるとみられる。壁は急激に立ち上がり、床面はやや凸凹し、北東方向に傾斜している。

付属遺構 検出していない。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器が出土している。石器は、覆土からRフレイク、石核、フレイク、たたき石、台石・石皿、礫が出土している。

時期 覆土で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉かそれ以前のものである可能性が高い。
(立田)

OH-36 (図IV-95～97、表1、図版43)

位置 L・M163・164 (A地区)

立地 標高16.0～16.2mの平坦地

平面形 楕円形?

規模 (5.0) / (4.8) × 5.12 / 4.33 × 0.23m

確認・調査 II層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。トレンチ調査の結果6軒の住居跡の重複であることがわかった。経緯についてはOH-11に述べた。本遺構OH-36はOH-12、13、37と重複し、OH-12、13より古く、OH-37との関係は不明である。OH-12、13の調査終了後、OH-12、13にかかるよう設定したベルトを残して覆土を掘り下げた。結果、急激に立ち上がる壁、硬化面を含む概ね平坦な床を検出し、住居の主軸に沿う位置に炉跡を検出したため、住居跡とした。

覆土 住居は重複により両端が未検出のため、土層に記録した層位の関連は不明であるが、本遺構の堆積として14層に区分している。黄褐色土粒が若干混じる黒～黒褐色土が主なもので、他には覆土の中位から床面にかけて掘られた柱穴の覆土がある。OH-13との境界は、黄褐色土ブロックの混じる堆積により区分でき、比較的明瞭に認識したが、OH-12との境界は極めて不明瞭で、断面に記した壁の立ち上がりは調査後の検討結果の位置である。

形態 平面形は確認できた部分から、楕円形とみられる。壁は比較的急、床面はほぼ平坦である。炉跡を中心に周囲1m、OH-12側にはやや広がり2mの範囲に硬化面が認められる。

付属遺構 HF：中央よりやや南寄りに石囲炉HP-6を検出した。炉跡は住居主軸に沿った長方形の掘り込みがある。炉石は北東角を中心に4個の細長の礫が配置され、さらに角には接線の延長に礫が2点配置されている。掘り込みは輪郭にそって不規則なくぼみが巡っており、炉石が抜き取られた痕跡とみられる。焼土は掘り込みの北西寄りの位置で検出している。

HP：大小浅深さまざまな26基を検出した。太く深い支柱穴の可能性のあるものは、HP-1、23、24、26があり、壁と床の接する部分にめぐらせている可能性がある。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土からIV群a類土器が出土している。石器は、HF、HP、覆土から石鏃、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、たたき石、すり石、台石・石皿、石棒、礫が出土している。

時 期 床面から出土した遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。 (立田)

OH-37 (図IV-98・99、表1、図版44)

位 置 M・N162・163 (A地区) **立 地** 標高16.1m

平面形 楕円形? **規 模** (4.1) / (3.3) × (6.4) / (4.7) × 0.4m

確認・調査 II層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。トレンチ調査の結果6軒の住居跡の重複であることがわかった。経緯についてはOH-11に述べた。OH-37はOH-13、36と重複し、13より古く、OH-36との関係は不明である。OH-13の調査終了後、OH-13との間にかかるよう設定したベルトを残して覆土を掘り下げた。結果、急激に立ち上がる壁、硬化面を含む概ね平坦な床を検出し、住居長軸に沿う位置に炉跡を検出したため、住居跡とした。

覆 土 図IV-99上はOH-13とOH-37の土層を示している。4層の貼りロームとした黄褐色土で埋められOH-13が構築されている。3層とした黒色土は黄褐色土粒と炭化物をわずかに混じる。5、6層は埋没過程で掘り返されたとみられる、いわゆる先端ピットの堆積。7～9、11層は黄褐色土粒、炭化物を比較的多く混じる層。10層は炉跡HF-1くぼみの堆積である。

形 態 確認できた部分は三日月状であるが、周囲の検出例や同時期の類例から、楕円形もしくは舟形を呈するものの先端部とみられる。壁は明瞭で急。床は炉跡HF-1の周囲がややくぼむが概ね平坦である。炉跡の周囲80～100cmでは床面が硬化している部分がある。

付属遺構 HF:住居主軸上に1か所検出した。検出面では図IV-98上段のように、10個の礫による配列がみられる。礫の間隔があいており、やや粗いつくりである。炉跡の調査を終了し、土層図の10層の堆積を除去すると、図IV-98下段のように、埋められた炉跡の痕跡を検出した。痕跡は住居主軸上280cmにわたり、計4単位の石囲炉の痕跡が認められるものである。詳細な順序は不明であるが、本住居の炉跡は住居主軸上で最低4回作り変えられていたとみられる。

HP:13基検出した。残存部分が少ないため、配列は不明であるが、HP-2、4、8、10が直立する明瞭な土層断面を示している。これらは周囲の検出例同様に、壁と床の接点付近に巡るように位置するとみられる。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土からIV群a類土器が出土している。覆土からはIII群a類土器、土製品各1点も出土している。石器はHF、HP、覆土から、石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、台石・石皿、礫が出土している。

時 期 床面および覆土出土の遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。 (立田)

OH-38 (図IV-100・101、表1、図版45)

位 置 M・N168・169 (A地区) **立 地** 標高15.7～15.9m

平面形 楕円形? **規 模** 5.4/4.96 × (2.2) / (2.0) × 0.5m

確認・調査 II層の掘削中、黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは楕円形と半円が重なりあって南側の調査区外に延びていた。このことから2軒の住居の重複があるものと想定し、北側に位置する楕円形の落ち込みの長軸に合わせ、南側の半円の落ち込みまで延長してトレンチを設定した。さらに、北側の落ち込みには直交する2本のトレンチを追加しIV層まで掘り下げた。その結果明瞭な壁、床を検出し、OH-33とOH-38の重複であることがわかった。OH-33が新しい。OH-38とした落ち込み

は半円状で南東側調査区外に延びていた。OH-33の調査終了後、調査区境にトレンチを設定してIV層まで掘り下げた。その結果、OH-38はさらにOTP-2と重複しており、本遺構OH-38が古いことがわかった。OTP-2とOH-38の重複部分は、ほぼトレンチで失われていたため、新旧は逆であるがOH-38から調査することとした。

覆 土 覆土は焼土粒、炭化物、黄褐色土粒が混じる黒～黒褐色土で掘り込み面より上位まで覆われている。壁際に堆積する7、9～11層とした堆積を除き、構成物の密度から概ね層状の単位として分層が可能である。重複するTP-2は覆土の中位である4層以下が掘り込まれていることを確認した。

形 態 平面形は検出できた部分で半円形を呈する。壁は急で床面はほぼ平坦である。

付属遺構 HF：覆土2層中で2か所の焼土を検出した。判然とはしないが、混入した焼土粒の可能性が高い。

HP：9基検出した。いずれも小規模で、全体が不明であるため配列はわからない。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器、土製品が出土している。石器は、覆土から石鏃、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、石棒、異形石器、礫が出土している。

時 期 覆土より出土している遺物から、縄文時代後期前葉がそれ以前のもつとみられる。(立田)

OH-39 (図IV-102～104、表1、図版46・47)

位 置 L・M155・156 (A・B地区) **立 地** 標高16.6～16.8mの平坦地

平面形 不整楕円形 **規 模** 5.56/5.05×4.08/3.58×0.3m

確認・調査 II層を調査中、焼土粒や黄褐色土粒の混じる黒～黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みは重なり合う3個の楕円形で、そのうち1つはOH-23の調査時に検出したOH-23より新しいものである。平面の観察結果から、最も新しいとみられる中央の落ち込みの長軸に合わせて主なトレンチを設定し、楕円形3か所の重複状況がわかるようにトレンチを追加して設定した。それぞれIV層まで掘り下げ、土層を確認した結果、落ち込みは3軒の住居の重複であることがわかった。中央の最も新しい落ち込みがOH-39で、OH-40、42と重複している。

形 態 平面形は東西に長い不整な楕円形で、東側に向かってやや急にすばまり、東端は突出する形状となっている。壁は極めて緩やかである。床面は起伏があるが、大きくは炉跡HF-4の周囲を中心にわずかにくぼむ形状である。

付属遺構 HF：覆土中より焼土3か所、床面から石囲炉1か所、焼土1か所の計5か所を検出した。いずれも住居の主軸に沿っている。覆土中のHF-1、2は、焼土粒、炭化物が混じる黒褐色土で構成され、移動した焼土である可能性が高い。HF-3は明赤褐色の焼土とみられ、7層とした黒褐色土上に形成されている。床面で検出したHF-4の上位にあたる。HF-4は石囲炉である。大ききの良く似た扁平礫を住居の軸に合わせた方形に配している。炉の南西側、炉石の角に接するように大礫が配されている。炉に伴うものと解釈したが、意図は不明である。床面を精査すると、HF-4の西側に接して覆土が方形に落ち込んでいるのを確認した。掘り下げると古い炉跡の痕跡であった(HF-5)。方形の石囲炉を最低2回作り変えているとみられる。

HP：26基検出した。他の住居に比べ、細身で深いものが多い。40cm以上の深さがあり、ほぼ直立する柱穴はHP-7、18、22、25があり、壁と床の境界付近に不定な間隔で巡る。東端の突出部は炉跡の東延長線上に当たる。突出部に沿うHP-13、14は住居構造に関わる可能性がある。

遺物出土状況 床面、HF、HP、覆土からIV群a類土器が出土している。覆土からはIII群a類土器1点も

出土している。石器は、床面、HF、HP、覆土から、石畿、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、礫が出土している。

時期 床面出土遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。 (立田)

OH-40 (図IV-105・106、表1、図版46～48)

位置 M・N155～157 (A・B地区) **立地** 標高16.3～16.6mの平坦地

平面形 楕円形? **規模** 6.53/5.86×(2.62)/(2.26)×0.3m

確認・調査 II層を調査中に検出した、黒褐色土の落ち込みである。確認の経緯についてはOH-39に記した。本遺構OH-40はOH-39と重複し、本遺構が古い。

覆土 黄褐色土粒を3～7%混じる黒～黒褐色土の堆積である。掘り込み面より下位に耕作攪乱が及んでおり、多くの柱穴が住居覆土中から掘り込まれるため、堆積単位は不明瞭である。

形態 平面形は確認できた部分で半円形である。壁はやや急で、床面は中央がややくぼむ形状を呈する。全体の形状は不明であるが、周囲の検出例から、楕円形もしくは舟形を呈するとみられる。

付属遺構 HF：検出していない。

HP：16基検出している。このうち断面の観察から、覆土中から掘り込まれたものは、HP-8、14、19、20である。これらは本来SPとするべきであるが、HPとした。このほかHP-3、5、7、12、13、15の6基は40cm以上の十分な深さがあり、住居構造を支えた柱穴とみられる。さらに床面北西側、壁から40～80cm離れたところに断続的に周溝がある。

遺物出土状況 HP、覆土からIV群a類土器が出土した。石器はHP、覆土から、石畿、石錐、筈状石器、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿、三脚石器、礫が出土している。

時期 覆土より多く出土している遺物から、縄文時代後期前葉がそれ以前のものとみられる。

(立田)

OH-41 (図IV-107、表1、図版46・48)

位置 M・N155 (A・B地区) **立地** 標高16.6～16.7mの平坦地

平面形 不整形円形 **規模** 1.92/1.56×1.78/1.47×0.13m

確認・調査 III層上面を精査中、暗褐色～黒色の落ち込みを検出した。落ち込みは明瞭で不整形円形を呈していたため、南西側を半載した。結果、浅い皿状を呈する壁と床を確認できたため、住居跡とした。断面観察の結果SP-160と重複する。本遺構OH-41が古い。

覆土 4層に区分した。1、2層は覆土から掘り込まれたSP-160の覆土である。3～6層が本遺構の覆土であるが、4層は焼土HF-1である。3、5、6層は、黄褐色土粒が多く混じる黒～暗褐色土。

形態 平面形は不整形円形を呈する。壁と床は緩やかに連続し、浅い皿状を呈する。

付属遺構 HF：検出面で住居中央よりやや北よりに焼土を検出した。焼土粒と骨片を混じる暗褐色土で、層界は画然としており、移動した焼土の可能性が高い。

遺物出土状況 覆土からIV群a類土器が出土している。石器は、覆土から石畿、スクレイパー、Rフレイク、楔形石器、フレイク、石斧、たたき石、礫が出土している。

時期 覆土より出土した遺物から、縄文時代後期前葉がそれ以前のものである。 (立田)

OH-42 (図IV-108、表1、図版46・47)

- 位置** L・M156 (A地区) **立地** 標高16.7m付近の平坦地
- 平面形** 不整楕円形 **規模** 2.28/2.10×1.53/1.38×0.14m
- 確認・調査** II層を調査中に検出した。確認の経緯はOH-39に記した。本遺構はOH-39、OH-23と重複する。前者より古く、後者より新しい。
- 覆土** 黄褐色土粒が3%混じる黒色土の単層である。
- 形態** 平面形は東西に長い不整な楕円形である。壁はやや急で床は概ね平坦である。
- 付属遺構** HP: 5基検出した。住居東側の壁際に多いが、いずれも小規模で浅い。
- 遺物出土状況** 覆土からIV群a類土器、フレイクが出土している。
- 時期** 覆土より出土する遺物から、縄文時代後期前葉かそれ以前のものである。(立田)

OH-43 (図IV-109、表1、図版48)

- 位置** K167・168 (A地区) **立地** 標高16.3m付近の平坦地
- 平面形** 不明 **規模** (2.99) / (2.86) × (1.25) / (1.18) × 0.17m
- 確認・調査** 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。掘り下げたところ、床面とわずかに立ち上がる壁を確認した。ほとんどが調査区外に広がるため、よくわからなかった。
- 覆土** 床を覆うのは土層2・3としたローム粒・炭を含む黒褐色土。
- 形態** 皿状で僅かに残った壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。重複する遺構にOH-44がある。切合いからOH-44が新しいとみられる。
- 付属遺構** HP: 5基確認した。HP-1は当住居の柱穴と考えられるが、ほかは不明。
- 遺物出土状況** HPから、IV群a類土器、フレイクが出土している。
- 時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

OH-44 (図IV-110、表1、図版48)

- 位置** K167・168 (A地区) **立地** 標高16.3m付近の平坦地
- 平面形** 不明 **規模** (-) / (4.05) × (-) / (1.02) × 0.16m
- 確認・調査** 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、複数の黒褐色土の落ち込みとして検出した。掘り下げたところ、床面とわずかに立ち上がる壁を確認した。ほとんどが調査区外に広がるため、よくわからなかった。
- 覆土** 床を覆うのは土層11としたローム粒・炭を含む黒褐色土。
- 形態** 皿状で僅かに残った壁の立ち上がりは不明瞭。床も凹凸が目立ち、安定的でない。重複する遺構にOH-17・43がある。切合いからOH-17より古く、OH-44が新しいとみられる。
- 付属遺構** HP: 5基確認した。HP-3は当住居の柱穴と考えられるが、ほかは不明。
- 遺物出土状況** HPから、IV群a類土器、スクレイパー・フレイク・すり石が出土している。
- 時期** 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(福井)

4 土坑

OP-1 (図IV-111、表1、図版21)

- 位置** M102 (G地区) **立地** 標高19.6m付近の平坦地

平面形 楕円形 規模 $1.97/1.71 \times 1.58/1.29 \times 0.39m$
 特徴 III層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土下半はロームブロックを多く含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性ある。OP-2・5より新しい。覆土から、IV群a類土器、台石・石皿が出土した。
 時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-2 (図IV-111、表1、図版21)

位置 M101・102 (G地区) 立地 標高19.6m付近の平坦地
 平面形 楕円形? 規模 $(0.87) / (0.72) \times 0.89/0.71 \times 0.23m$
 特徴 III層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土下半はロームブロックを多く含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がりながら立ち上がる。土坑墓の可能性ある。OP-1より古い。
 時期 周囲の出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-3 (図IV-111、表1)

位置 L103 (G地区) 立地 標高19.6m付近の平坦地
 平面形 楕円形 規模 $(1.0) / 0.72 \times 0.63/0.43 \times 0.2m$
 特徴 III層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームブロックを多く含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性ある。OSPより新しい。OH-5との関係ははっきりしないが、OSPがHPであれば、OP-3の方が新しいと考えられる。
 時期 周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-4 (図IV-111、表1)

位置 M102・103 (G地区) 立地 標高19.5m付近の平坦地
 平面形 楕円形 規模 $1.96/1.89 \times (1.32) / (1.02) \times 0.29m$
 特徴 III層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土下半はロームブロックを多く含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁は部分的にオーバーハングする。土坑墓の可能性ある。OP-5より古い。覆土から、IV群a類土器、フレイクが出土した。
 時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-5 (図IV-111、表1)

位置 M102 (G地区) 立地 標高19.5m付近の平坦地
 平面形 楕円形 規模 $1.58 / (1.25) \times 1.35/1.01 \times 0.33m$
 特徴 III層上面で灰黄褐色土の落ち込みとして確認した。覆土下半はロームブロックを多く含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がりながら立ち上がる。土坑墓の可能性ある。OP-1より古く、OP-4より新しい。覆土から、IV群a類土器が出土した。
 時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-6 (図IV-112、表1、図版36)

位置 L138 (D地区) 立地 標高18.2m付近の平坦地

- 平面形 楕円形 規模 1.48/1.32×0.68/0.56×0.2m
- 特徴 IV層で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土下半はほぼII層黒色土で、上半にIII層(漸移層)のブロックが混じる。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性がある。覆土から、IV群a類土器、つまみ付ナイフが出土した。
- 時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-7 (図IV-112、表1、図版49)

- 位置 M・N132 (E地区) 立地 標高18.4m付近の平坦地
- 平面形 円形 規模 1.52/1.85×1.38/1.67×0.76m
- 特徴 フラスコ状土坑。I層除去後のIV層中でぶい黄褐色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土上半はロームブロックを多く含むII・III層主体の埋め戻し土。覆土中位はロームブロック、ローム粒を含む黒褐色土(土層14)。覆土下位の土層15は崩落したローム。覆土最下層は、ローム粒を含む黒褐色土(土層17)、灰黄褐色～明黄褐色土(土層19・20)。最下層の黄褐色土は、坑底が段丘礫層に達したために、ロームで貼り床したものである。坑底は平坦で、壁はわずかにオーバーハングしながら立ち上がる。崩落したロームの堆積からすると、ある程度空間が保持されたとみられる。壁には穴が数か所見られたが、ネズミなどが掘った跡かもしれない。覆土から、IV群a類土器、石核が出土した。
- 時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-8 (図IV-113、表1、図版43)

- 位置 L159 (A地区) 立地 標高16.6m
- 平面形 楕円形 規模 1.09/(0.8)×0.92/0.62×0.1m
- 特徴 II層上面を調査中、黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みは不整で、重複する遺構の可能性があった。落ち込みの短軸に合わせてトレンチを設定してIV層まで掘り下げた。結果浅い皿状の土坑と柱穴状の土坑OSP-62が重複していることがわかった。本土坑が新しい。検出面においてOSP-58を調査している。平面上の観察により、本土坑より新しいものである。平面形は楕円形。壁は極めて緩やかである。土層は黄褐色土粒の混じる黒色土の単層である。覆土から、IV群a類土器、スクレイパー、フレイク、たたき石が出土している。
- 時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。(立田)

OP-9 (図IV-113、表1)

- 位置 L153 (A地区) 立地 標高16.9m付近の平坦地
- 平面形 円形 規模 1.01/0.67×0.93/0.63×0.41m
- 特徴 III層上面を精査していたところ、黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みは明瞭な円形を呈していたため、半載した。結果急激に立ち上がる壁とやや起伏の多い坑底を確認し、土坑であることがわかった。土層は3層に区分した。くぼみの中央にレンズ状に堆積する黒色土を1層とした。黄褐色土粒をわずかに混じるが自然堆積とみられる。2、3層は、黄褐色土粒、ブロックを混じる埋戻し状の堆積である。遺物は出土していない。
- 時期 不明であるが、III層上面で検出し、遺物が出土していないことから、縄文時代後期前葉以前のものである可能性がある。(立田)

OP-10 (図IV-114、表1)

位置	M151 (A地区)	立地	標高16.7m付近の平坦地
平面形	不整楕円形	規模	1.08/0.88×0.77/0.48×0.1m
特徴	集石OS-1の下位で検出した。II b層上面を精査すると、黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みは南西から北東方向に長い不整形形状であったため、長軸に合わせて南西側を半載した。結果、壁と起伏の多い坑底を検出できたため、土坑とした。遺物は出土していない。		
時期	不明であるが、検出状況と層位から、縄文時代後期前葉以前とみられる。(立田)		

OP-11 (図IV-114、表1)

位置	L99 (H地区)	立地	標高21.0m付近の平坦地
平面形	楕円形	規模	0.94/0.88×0.62/0.43×0.23m
特徴	I層除去後のIV層中でにぶい黄褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームブロックを含むIII層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。土坑墓の可能性はある。覆土から、IV群a類土器が出土した。		
時期	出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)		

OP-12 (図IV-115、表1)

位置	K100 (H地区)	立地	標高20.0m付近の平坦地
平面形	円形	規模	(0.54) / (0.35) × 0.47/0.38×0.25m
特徴	I層除去後のIII層中でにぶい黄褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームブロックを含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は緩く湾曲し、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土から、IV群a類土器、スクレイパーが出土した。		
時期	出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)		

OP-13 (図IV-115、表1、図版49)

位置	L156 (A地区)	立地	標高17.0m付近の平坦地
平面形	円形	規模	2.42/1.92×2.56/1.83×0.93m
特徴	フラスコ状土坑。III層上面を精査中に検出した落ち込みである。確認の経緯はOH-23に記した。OH-23と重複し、本遺構OP-13が新しい。平面形はやや歪な円形を呈する。壁は全周でオーバーハングするが、北東から北西側でよくえぐれている。坑底は平坦である。坑口付近は主に南東側に大きく張り出し、緩い傾斜を示す部分がある。土層は13層に区分した。黄褐色土粒、ブロックが混じる黒褐色土を主とするが、7、12層としたIII、IV層起源の黄褐色土、2、5、9層とした黒色土が層状に入る。覆土から、IV群a類土器、土製品、石槍、石錐、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rブレイク、石核、ブレイク、たたき石、台石・石皿、礫が出土している。		
時期	覆土より多く出土している遺物から、縄文時代後期前葉とみられる。(立田)		

OP-14 (図IV-116、表1)

位置	L160 (A地区)	立地	標高16.5m付近の平坦地
平面形	楕円形	規模	1.07/0.96×0.61/0.45×0.16m
特徴	III層上面で確認したOH-14・15・20の調査過程で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。		

覆土はロームブロック・ローム粒を含むⅡ層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がりながら立ち上がる。土坑墓の可能性ある。OH-14・15・20より新しい。覆土から、Ⅳ群a類土器、石織、スクレイパー、Rフレイク、フレイクが出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-16 (図IV-116、表1、図版49)

位置 M165 (A地区) 立地 標高16.0m付近の平坦地

平面形 円形 規模 1.27/1.08×1.17/0.91×0.88m

特 徴 フラスコ状土坑。OH-19の調査過程で、Ⅱ層中で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は土層1の黒色土、土層2の黒褐色土、土層3～8の黒褐色土、土層9のにぶい黄褐色土に大別される。土層9はしまりがなかった。土層1～8は、ロームブロック・ローム粒・焼土粒を含むⅡ層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はわずかにオーバーハングしながら立ち上がる。坑底中央に小穴がある。OH-19・OP-25より新しい。覆土から、Ⅳ群a類土器、Rフレイク、フレイクが出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-17 (図IV-117、表1)

位置 M158・159 (A地区) 立地 標高16.6m付近の平坦地

平面形 楕円形 規模 1.28/1.1×0.53/0.3×0.27m

特 徴 Ⅱ層下部～Ⅲ層で確認したOH-32の調査過程で、灰黄褐色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームブロック・ローム粒・炭を含むⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性ある。OH-32より新しい。覆土から、Ⅳ群a類土器、スクレイパー、Rフレイク、フレイク、砂岩製垂飾(712)が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-18 (図IV-117、表1)

位置 M170 (A地区) 立地 標高15.8m付近の平坦地

平面形 円形 規模 0.53/0.62×0.41/0.5×0.18m

特 徴 小規模なフラスコ状土坑。Ⅲ層上面を精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを検出した。落ち込みは明瞭な円形を呈していたため、南側を半載した。その結果、やや碗状を呈する坑底と、オーバーハングする壁を確認し、土坑であることがわかった。土層は3層に分層した。黄褐色土粒を混じる黒褐色土で構成される。遺物は出土していない。

時 期 周囲で多く出土する遺物から、縄文時代後期前葉とみられる。(立田)

OP-19 (図IV-118、表1)

位置 K170 (A地区) 立地 標高16.0m付近の平坦地

平面形 円形? 規模 0.65/0.52×(0.3)/(0.3)×0.35m

特 徴 Ⅲ層上面を精査中、調査区外に延びる黒色土の落ち込みを検出した。落ち込みの輪郭が明瞭なため、調査区境界に沿って半載した。結果、坑底と壁を検出、土坑とした。平面形は確認できた部分で半円形、坑底は碗状で壁は急、南西方向の壁は坑口付近で段差となり、平坦部がある。土層は10mm以下の黄褐色土粒が混じる黒色土の単層である。覆土から、Ⅳ群a類土器が出土している。

時 期 出土遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性が高い。(立田)

OP-20 (図IV-118、表1)

位置 L160・161 (A地区) 立地 標高16.6m付近の平坦地
 平面形 円形 規模 0.61/0.47×0.58/0.42×0.12m
 特徴 II層下部～III層で確認したOH-14・16の調査過程で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム粒を含むII層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。OP-21より古い。覆土から、IV群a類土器、フレイク、たたき石が出土した。
 時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-21 (図IV-118、表1)

位置 L160 (A地区) 立地 標高16.6m付近の平坦地
 平面形 楕円形 規模 (0.95) / (0.82) × 1.08 / 0.75 × 0.1m
 特徴 II層下部～III層で確認したOH-14・16の調査過程で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム粒・炭を含むII層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がりながら立ち上がる。土坑墓の可能性ある。OP-21より新しいが、OH-14との関係は不明。覆土から、IV群a類土器、石鏃、スクレイパー、フレイクが出土した。
 時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-22 (図IV-118、表1)

位置 K・L160 (A地区) 立地 標高16.7m付近の平坦地
 平面形 楕円形 規模 1.46/1.12×1.33/0.90×0.18m
 特徴 II層下部～III層で確認したOH-14・16の調査過程で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム粒・焼土粒を含むII層主体の埋め戻しである。礫や土器が多く含まれていた。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がりながら立ち上がる。土坑墓の可能性ある。OSPより新しい。覆土から、IV群a類土器、石鏃、スクレイパー、Rフレイク、石核、フレイク、石斧、たたき石、すり石、台石・石皿が出土した。
 時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-23 (図IV-119、表1)

位置 M161・162 (A地区) 立地 標高16.3m付近の平坦地
 平面形 楕円形 規模 (0.92) / 0.73 × (0.59) / 0.43 × 0.13m
 特徴 III層上面を精査する中で、にぶい黄褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム粒・炭を含むII・III層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性ある。覆土から、IV群a類土器、フレイクが出土した。また、焼けた硬骨魚類の椎骨、炭化したオニグルミ核片、キハダ種子が得られている。
 時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-24 (図IV-119、表1)

位置	M161 (A地区)	立地	標高16.3m付近の平坦地
平面形	楕円形	規模	1.27/1.01×1.05/0.77×0.2m
特徴	Ⅲ層上面を精査する中で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームブロック・ローム粒を含むⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性はある。OSP-274より古い。覆土から、Ⅳ群a類土器が出土した。		
時期	出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)		

OP-25 (図IV-119、表1)

位置	M165・166 (A地区)	立地	標高16.0m付近の平坦地
平面形	楕円形	規模	1.18/1.08×1.07/0.88×0.23m
特徴	Ⅱ層中で確認したOH-19の調査過程で、にぶい黄褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はにぶい黄褐色～黒色土。ロームブロック・ローム粒・焼土粒・炭を含むⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。OH-19より新しく、OP-16より古い。覆土から、Ⅳ群a類土器、スクレイパー、Rフレイク、フレイク、台石・石皿が出土した。		
時期	出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)		

OP-26 (図IV-120、表1)

位置	M・N161 (A地区)	立地	標高16.3m付近の平坦地
平面形	方形	規模	1.05/0.87×0.97/0.88×0.1m
特徴	Ⅲ層上面を精査する中で、褐色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はロームブロック・ローム粒を含むⅢ層主体の埋め戻しを縁取るように、ローム粒を含む黒褐色土が堆積していた。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。堆積状態などから、石函炉を製作途上で放棄したもののよう推定される。		
時期	周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)		

OP-27 (図IV-120、表1)

位置	M156 (A地区)	立地	標高16.6m付近の平坦地
平面形	楕円形	規模	1.02/0.69×0.79/0.45×0.21m
特徴	住居跡OH-40の覆土を掘り下げていたところ、北側に張り出す部分を確認した。一部を掘り下げたが、住居の軸とは異なる方向に延びていたため、改めて周囲を精査すると、黒褐色土の落ち込みであることがわかった。落ち込みは明瞭で、長軸東側を半截した。結果明瞭な壁、坑底を検出し、土坑とした。平面形は南北に長い楕円形、断面形は壁と坑底が緩やかに連続する碗状を呈する。土層は黄褐色土粒、炭化物、焼土粒が少量混じる黒褐色土の単層である。覆土からⅣ群a類土器が出土している。OH-40との先後関係は不明である。		
時期	周囲で検出される遺構から、縄文時代後期前葉のものとみられる。(立田)		

OP-28 (図IV-121、表1、図版49)

位置	M165 (A地区)	立地	標高16.0m付近の平坦地
平面形	円形	規模	1.51/1.68×1.45/1.49×0.68m

特 徴 フラスコ状土坑。Ⅲ層上面を精査する中で、黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は土層1の黒色土、土層2～4の黒褐色土、土層5・6の灰黄褐色土に大別される。土層5・6はしまりがなく、ロームブロック・ローム粒・炭を含むⅡ～Ⅳ層からなる埋め戻しである。坑底は平坦で、壁はオーバーハングしながら立ち上がる。覆土から、Ⅳ群a類土器、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、フレイク、台石・石皿が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-29 (図IV-121、表1)

位 置 K・L167 (A地区) **立 地** 標高16.3m付近の平地

平面形 楕円形 **規 模** 1.15/0.98×0.76/0.59×0.29m

特 徴 Ⅲ層上面を精査する中で、明黄褐色～灰黄褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム主体の土層1と、ロームブロック・ローム粒を含むⅣ層主体の土層2～5からなる。坑底は凹凸があり、壁はやや外側に広がる。覆土から、Ⅳ群a類土器、フレイクが出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-30 (図IV-121、表1)

位 置 K・L159・160 (A地区) **立 地** 標高16.7m付近の平地

平面形 楕円形 **規 模** 1.01/0.87×0.65/0.49×0.19m

特 徴 Ⅲ層上面を精査する中で、褐色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム主体の土層1と、ブロック・ローム粒を含むⅣ層主体の土層2～5からなる。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がる。土坑墓の可能性もある。覆土から、Ⅳ群a類土器が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-31 (図IV-121、表1)

位 置 N158 (A地区) **立 地** 標高16.5m付近の平地

平面形 楕円形 **規 模** 0.87/0.69×0.54/0.29×0.41m

特 徴 Ⅲ層上面を精査する中で、黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はローム粒・炭を含む黒褐色の土層1と、ブロック・ローム粒を含むⅡ～Ⅳ層主体の土層2～6からなる。坑底は平坦で、壁はやや外側に広がりがながら立ち上がる。土坑墓の可能性もある。覆土から、Ⅳ群a類土器が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-32 (図IV-122、表1、図版27)

位 置 K・L167・168 (A地区) **立 地** 標高16.2m付近の平地

平面形 不整楕円形 **規 模** (2.10) / (2.00) × 1.74 / 1.48 × 0.17m

特 徴 表土除去後のⅡ層下部～Ⅲ層を精査したところ、黒褐色土の落ち込みとして検出した。複数の落ち込みの関係がわかるようにトレンチを設定し、掘り下げたところ、床面と不明瞭に立ち上がる壁を確認した。当初は、0H-17と重複する住居0H-18としていたが、調査の過程で大きさから土坑に変更した。覆土は黒～黒褐色の土層で、ロームブロック・ローム粒を含む。形態は浅い皿状。覆土から、Ⅳ群a類土器、Rフレイク、フレイク、すり石が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

OP-33 (図IV-122、表1)

位置	N164 (A地区)	立地	標高15.7m付近の平坦地
平面形	不整楕円形	規模	0.98/0.88×0.81/0.61×0.6m
特徴	フラスコ状土坑。Ⅲ層を精査したところ、黒褐色土の落ち込みとして検出したが、調査最終段階であったので断面を精査せずに掘り上げてしまった。		
時期	周辺の出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)		

5 Tピット

OTP-1 (図IV-123、表1、図版50)

位置	K・L103 (G地区)	立地	標高19.7m付近の平坦地
平面形	長楕円形 (溝状)	規模	(1.86) / (1.42) × 0.77 / 0.23 × 1.21m
特徴	Ⅲ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土は、自然堆積した土層1~3、壁面が崩落した土層4~10。土層6・10は、有機物が堆積したものとみられるが、坑底の土層10のほか、土坑中位に土層6があるということは、一度に埋まりきらなかったか、掘りなおして再利用されたかと思われる。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。		
時期	周囲の出土遺物から縄文時代後期前葉以降の時期と考えられる。(福井)		

OTP-2 (図IV-123、表1、図版50)

位置	M・N167・168 (A地区)	立地	標高15.7m付近の平坦地
平面形	8字形 (ひょうたん型)	規模	(2.72) / (2.90) × 0.63 / 0.47 × 1.33m
特徴	OH-38の調査時、調査区境に設定したトレンチにより検出した。本遺構OTP-2はOH-38より新しい。OH-38の覆土4層から掘り込まれている。調査工程上OH-38の調査終了後に調査を開始した。落ち込みは東側調査区外に延びており、トレンチ壁面で土層断面を記録することにし、覆土を掘り下げた。結果坑底を確認し、Tピットであることがわかった。全体の3分の2を調査しているとみられるが、検出できた部分から推定すると、平面形は8の字を呈している。西側の壁は深くオーバーハングし、坑底は端部でほぼ平坦だが、中央の幅狭の部分では盛り上がっている。遺物は覆土からIV群a類土器、焼成粘土塊、土製品、フレイク、礫が出土している。		
時期	不明であるが、掘り込み面から、縄文時代後期前葉の可能性が高い。(立田)		

OTP-3 (図IV-124、表1、図版50)

位置	M・N170 (A地区)	立地	標高15.6m付近の平坦地
平面形	8字形 (ひょうたん型)	規模	(2.42) / (2.43) × 0.45 / 0.28 × 0.98m
特徴	Ⅲ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。不整な形状であったため当初は風倒木の痕跡と考えていたが、OTP-2の調査により本遺構もTピットであると認識した。形状から概ね3分の2が確認できたのみで、調査区外に延びていた。そのため調査区境で土層断面を記録することにして覆土を掘り下げた。結果坑底を確認した。遺構の平面形は北西から南東方向に長い細身の8の字を呈する。坑底は長軸両端では概ね平坦であるが、南東側が一段深くなっている。幅狭部分の坑底は盛り上がっており、北西側の壁はほぼ直立する。覆土から、IV群a類土器、フレイク、礫が出土している。		
時期	検出面、出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。(立田)		

OTP-4 (図IV-124、表1、図版50)

位置 K~M171 (A地区) **立地** 標高15.9m付近の平地地
平面形 8字形 (ひょうたん型) **規模** 4.55/5.13×0.82/0.4×1.0m
特徴 III層上面を精査中に検出した。黒色の落ち込みの北西部分を土坑と想定して半載したが、黄褐色土を検出しても、明瞭な坑底を確認できず、攪乱と判断した。その後、OTP-2、3を調査し、改めて精査して本遺構を確認した。確認時点で落ち込んだ包含層の遺物回収を行っており、土層断面を作成することができなかった。平面形は北西-南東方向に長い8の字を呈する。坑底は中央の幅狭部分で盛り上がるが、両端はほぼ同じ深さで平坦である。壁は両端で大きくオーバーハングする。覆土からIV群a類土器、石織、石錐、スクレイパー、両面調整石器、Rフレイク、石核、石斧、たたき石、すり石、石皿・台石、フレイク、礫が出土している。
時期 覆土、周囲の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性がある。(立田)

6 焼土

OF-1 (図IV-125、表1)

位置 L153 (A地区) **立地** 標高17.1m付近の平地地 **規模** 0.77×0.37m
特徴 II層調査中に確認した。焼土と焼土粒が混じる土、上面に伴うとみられる遺物を残して周囲を掘り下げた。下位に遺構がないことを確認して短軸東側を半載した。記録を作成し土壌サンプルを採取した。土層は、焼土粒、黄褐色土粒の混じる黒~黒褐色土の堆積である。層界が画然としており、移動した焼土の可能性が高い。遺物は上面でIV群a類土器、フレイク、礫が出土している。
時期 上面で出土している遺物から、縄文時代後期前葉のものとみられる。(立田)

OF-2 (図IV-125、表1)

位置 L160 (A地区) **立地** 標高42.8m付近の平地地 **規模** 0.63×0.25m
特徴 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、ローム粒・炭などを含む黒褐色土中で検出した。当初は、この黒褐色土を盛土層と考えていたが、調査を進めていく中で、OH-20の覆土であることが判明した。つまり、この焼土は住居覆土中に残された焼土で、異地性と考えられる。IV群a類土器、Rフレイク、フレイクが出土している。また、種不明の焼け骨も出土した。
時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。(福井)

OF-3 (図IV-125、表1)

位置 L・M150・151 (A地区) **立地** 標高17.1m付近の平地地 **規模** 0.82×0.42m
特徴 II層を調査中に、僅かに赤変する黒褐色土の範囲を認めた。焼土を台状に残して、下位に遺構がないことを確認して短軸西側を半載した。土層は炭化物の混じる単層である。僅かに赤変しており、層界は漸変する。検出位置でII層が焼成したとみられる。検出面でフレイクが出土している。
時期 検出層位から、縄文時代後期前葉前後のものとみられる。(立田)

OF-4 (図IV-125、表1)

位置 L168 (A地区) **立地** 標高16.2m付近の平地地 **規模** 0.36×0.17m
特徴 表土除去後のII層下部~III層を精査したところ、ローム粒・炭などを含む黒褐色土中で検出した。この黒褐色土は、OH-17の覆土で、焼土は住居覆土中に残されたものである。

時 期 周囲の出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。(福井)

OF-5 (図IV-126、表1)

位置 L170 (A地区) 立地 標高16.2m付近の平坦地 規模 0.82×0.42m

特徴 「攪乱」を調査中に検出した。「攪乱」は後にOTP-4であることがわかった。検出できた部分では重複しないが、OTP-4の覆土の一部かもしれない。南西側を半截した。やや赤みを帯びる暗褐色土で、黒色土粒、骨片を混じる堆積である。層界は判然と区分できるため、移動した焼土の可能性が高い。焼土中からフレイクが出土している。

時 期 周囲で出土する遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性がある。(立田)

OF-6 (図IV-126、表1)

位置 L169 (A地区) 立地 標高16.0m付近の平坦地 規模 0.61×0.39m

特徴 OH-33の検出面を精査中に確認した。同一面には他に3か所の焼土があったが、本遺構のみ住居跡の輪郭から外れており、OF-6としたものである。OH-33、38間に設定したトレンチ上にあり、土層断面図はこのトレンチを利用した。記録を作成した後土壌サンプルを採取した。土層は暗褐色土粒、骨片、炭化物の混じる暗赤褐色土の単層で、層界は画然としている。移動した焼土の可能性が高い。土壌サンプルからフレイクが出土している。

時 期 検出面で多く出土している遺物から、縄文時代後期前葉とみられる。(立田)

OF-7 (図IV-126、表1)

位置 M154 (A地区) 立地 標高16.8m付近の平坦地 規模 0.32×0.23m

特徴 II層調査中に検出した。土層は炭化物の混じる橙色土の単層で、層界は漸変する。検出位置でII層が焼成したとみられる。IV群a類土器が出土している。

時 期 焼土中の遺物から、縄文時代後期前葉のものである可能性がある。(立田)

OF-8 (図IV-127、表1、図版50)

位置 K・L158・159 (A地区) 立地 標高17.0m付近の平坦地 規模 0.42×0.36m

特徴 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、III層上面で検出した。焼土の周囲には礫が4点あり、被熱しているものもあったことから、石囲炉の可能性もある。周囲には多くの小柱穴も確認されており、住居が存在した可能性が推定される。OSP-418より古い。

時 期 周囲の出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。(福井)

OF-9 (図IV-127、表1)

位置 L158 (A地区) 立地 標高17.0m付近の平坦地 規模 0.53×0.41m

特徴 表土除去後のII層下部～III層を精査したところ、III層下部で検出した。OH-29の肩部分にあたり、OF-9の方が古い可能性もある。

時 期 周囲の出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。(福井)

OF-10 (図IV-127、表1)

位置 L168 (A地区) 立地 標高16.2～16.3m付近の平坦地 規模 0.39×0.28m

特 徴 OH-17覆土を掘り下げていたところ、覆土中位で検出した。
時 期 周囲の出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。 (福井)

OF-11 (図IV-127、表1)

位 置 K・L168 (A地区) 立 地 標高16.2~16.3m付近の平地地 規 模 0.35×0.22m
特 徴 OP-32覆土を掘り下げていたところ、覆土中位で検出した。
時 期 周囲の出土遺物から、縄文時代後期前葉の時期と考えられる。 (福井)

7 剥片集中

OFC-1 (図IV-128、表1)

位 置 L・M155 (A・B地区) 立 地 標高17.2m付近の平地地 規 模 0.72×0.51m
特 徴 m層調査中に検出した。m層底部にあたる。IV群a類土器、Rフレイク3点、石核2点、フレイク613点、たたき石が出土している。
時 期 検出層位から、縄文時代後期前葉とみられる。 (立田)

OFC-2 (図IV-128、表1)

位 置 M171 (A地区) 立 地 標高16.0m付近の平地地 規 模 0.25×0.22m
特 徴 m層調査中に検出した。IV群a類土器、Rフレイク1点、石核1点、フレイク75点が出土している。
時 期 検出層位から、縄文時代後期前葉とみられる。 (立田)

OFC-3 (図IV-128、表1)

位 置 M・N169 (A地区) 立 地 標高15.8~15.9mの平地地 規 模 0.76×0.62m
特 徴 OH-33覆土8層上面に沿って検出した。フレイク1,704点、石核1点からなる。
時 期 検出層位と同一面の出土遺物から、縄文時代後期前葉である可能性が高い。 (立田)

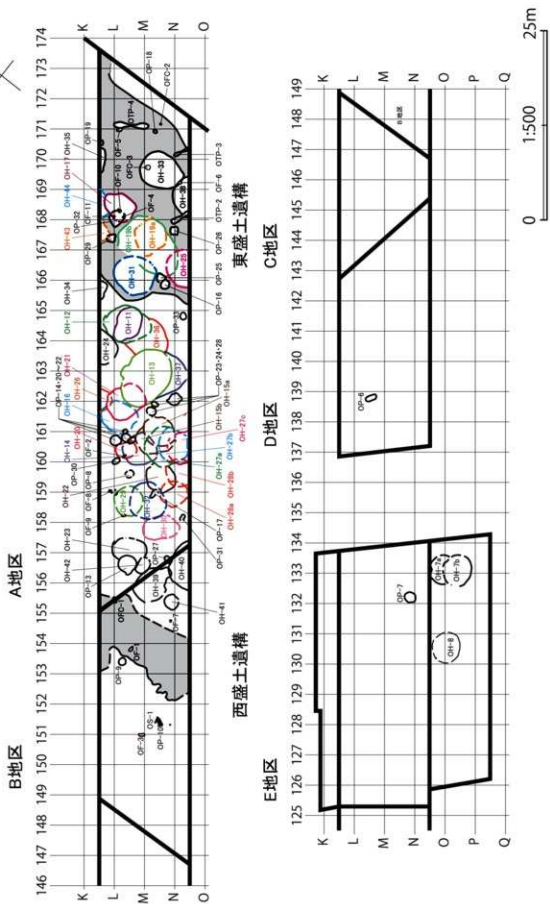
8 集石

OS-1 (図IV-129、表1、図版50)

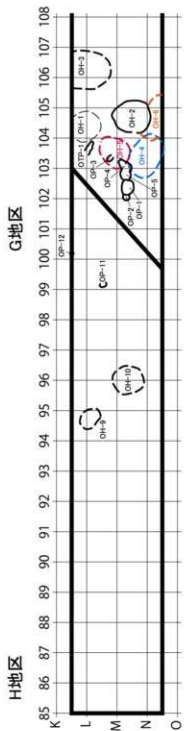
位 置 M151 (A地区) 立 地 標高17.1m付近の平地地 規 模 1.4×0.8m
特 徴 II層を調査中、礫のまとまりを検出した。礫を残してII層を掘り下げると、南北に広がる礫の集中であることがわかった。礫の大きさは比較的そろっており、選択されたものの可能性が高い。出土状況を記録しては掘り下げ、1点ずつ番号を付して取り上げる工程を3回繰り返している。
時 期 不明であるが、検出層位から縄文時代のもものとみられる。 (立田)

(116ページへ続く)

盛土遺構・竪穴住居跡・土坑・Tピット・焼土・集石

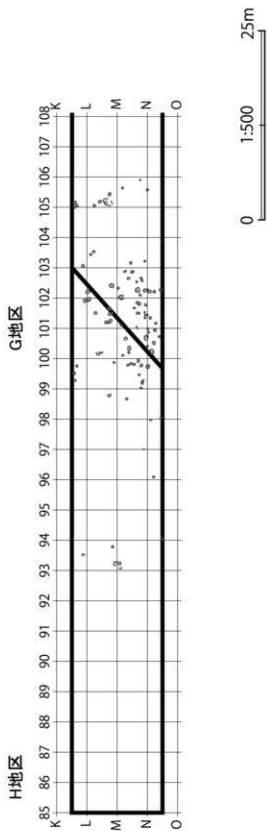
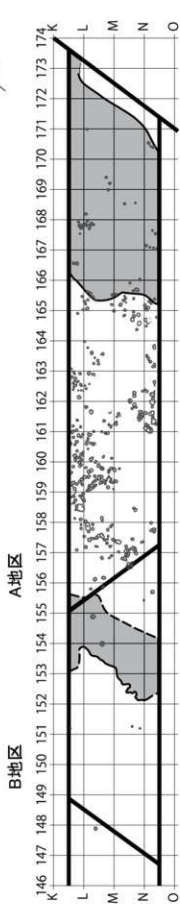


図IV-1 遺構位置図(小ピット以外) (1)

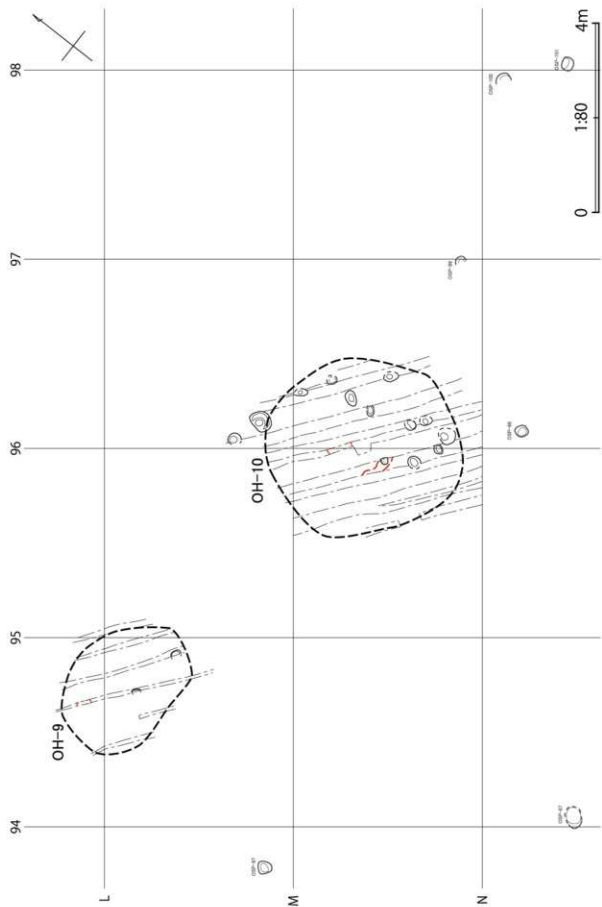


図IV-2 遺構位置図（小ピット以外）(2)

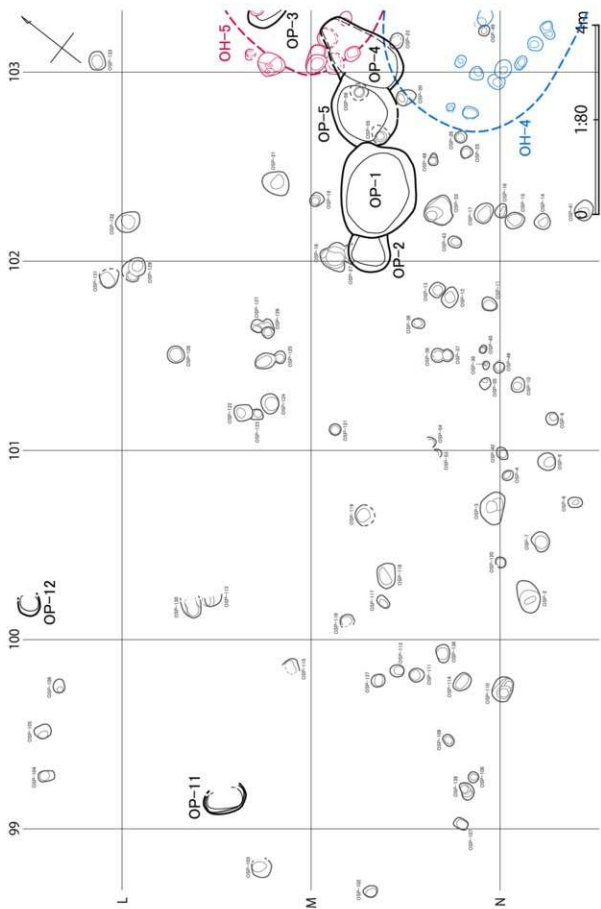
小ピット



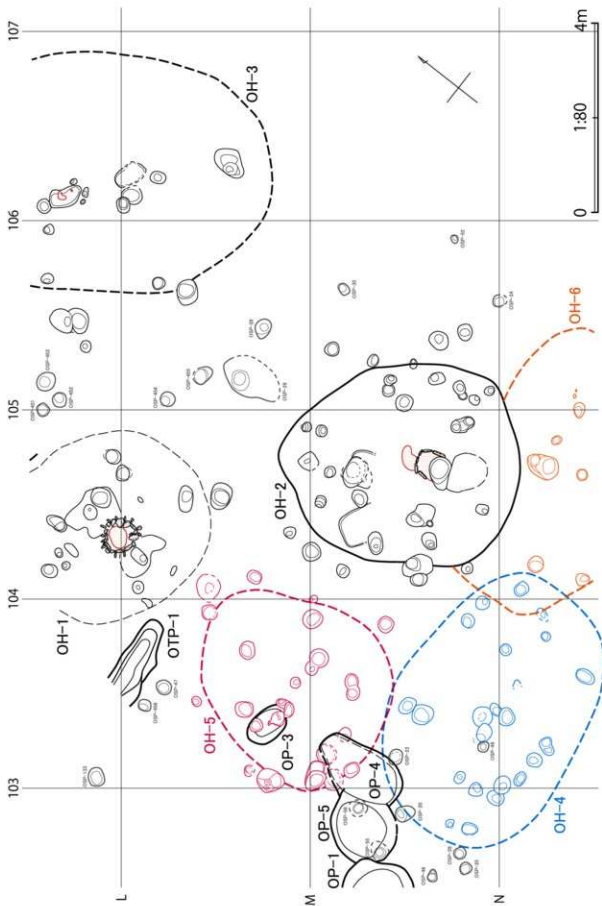
図IV-3 小ピット位置図



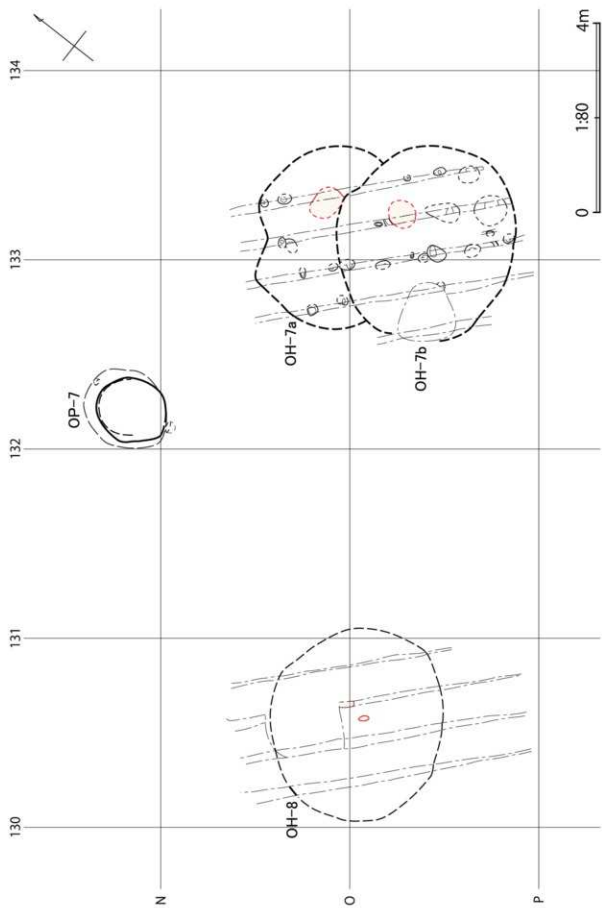
図IV-4 遺構位置図 (1) : 94~98ライン



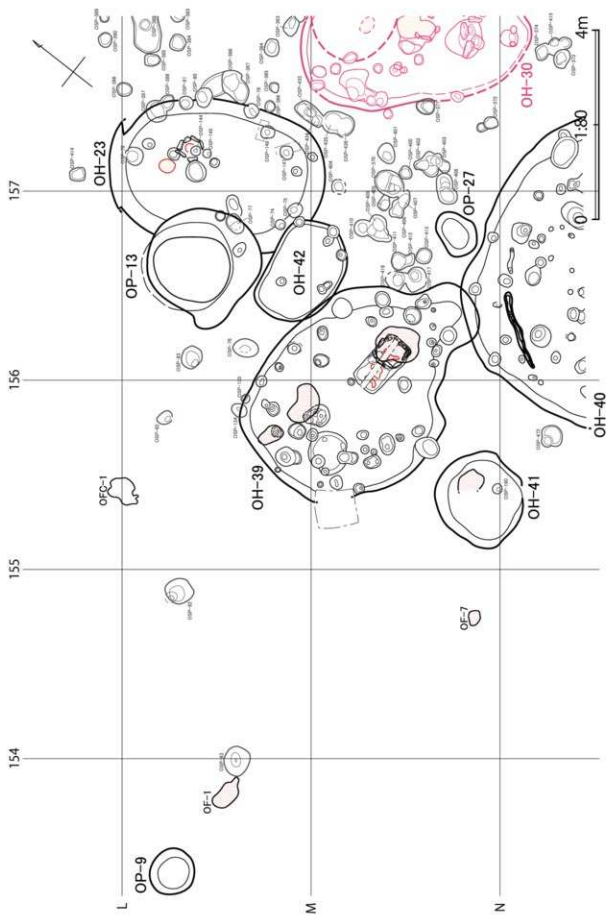
図IV-5 遺構位置図(2): 99~103ライン



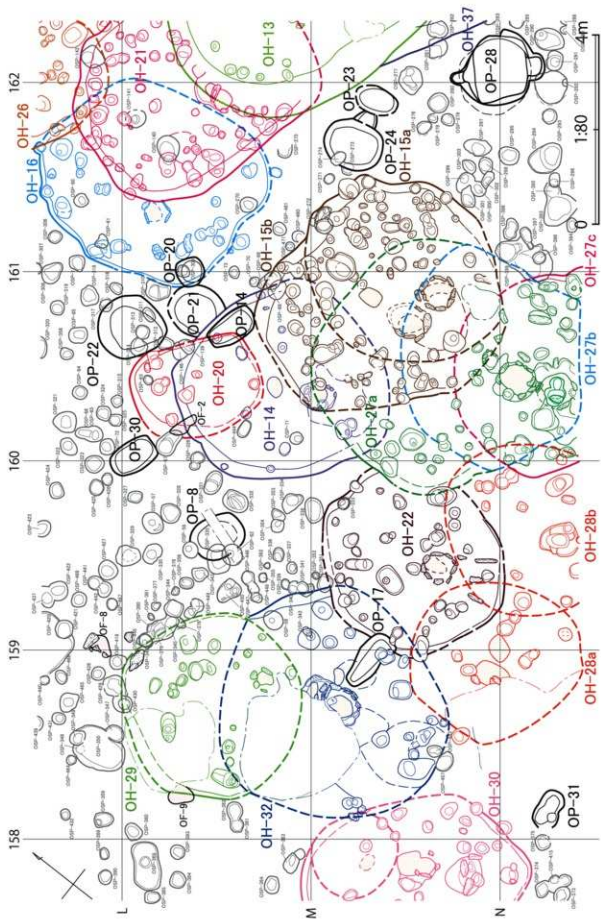
図IV-6 遺構位置図(3)：103～107ライン



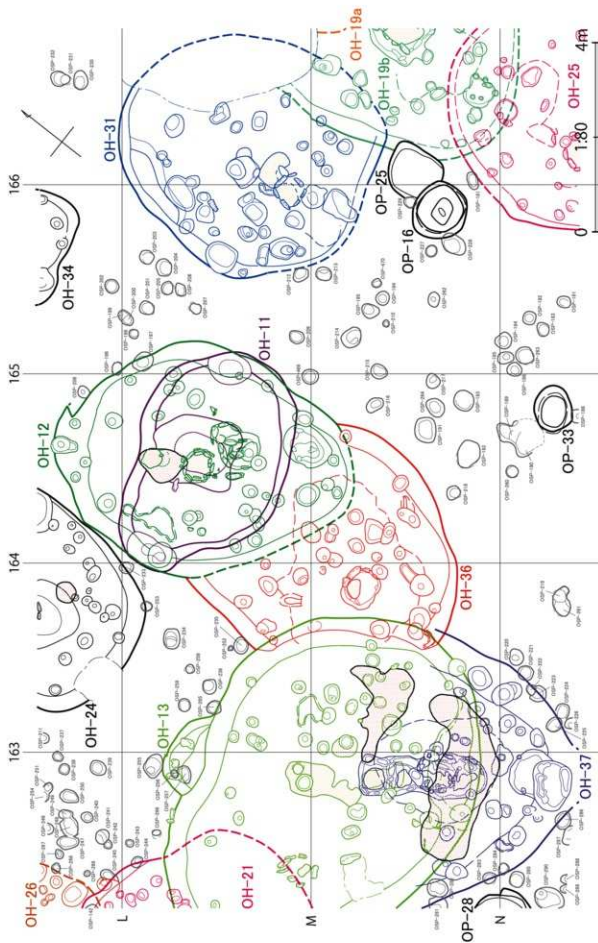
図IV-7 遺構位置図(4)：130～134ライン



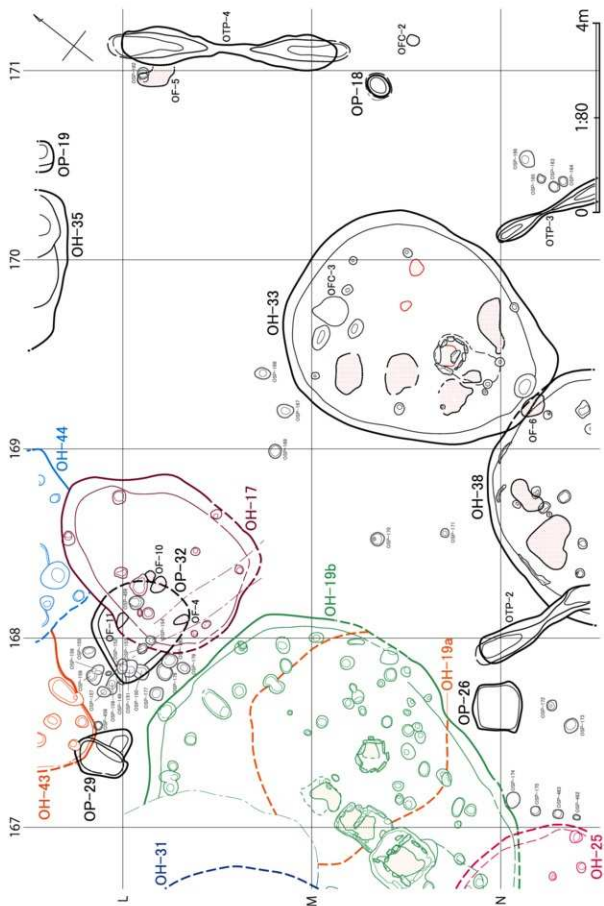
図IV-8 遺構位置図 (5) : 153~158ライン



図IV-9 遺構位置図(6): 158~162ライン

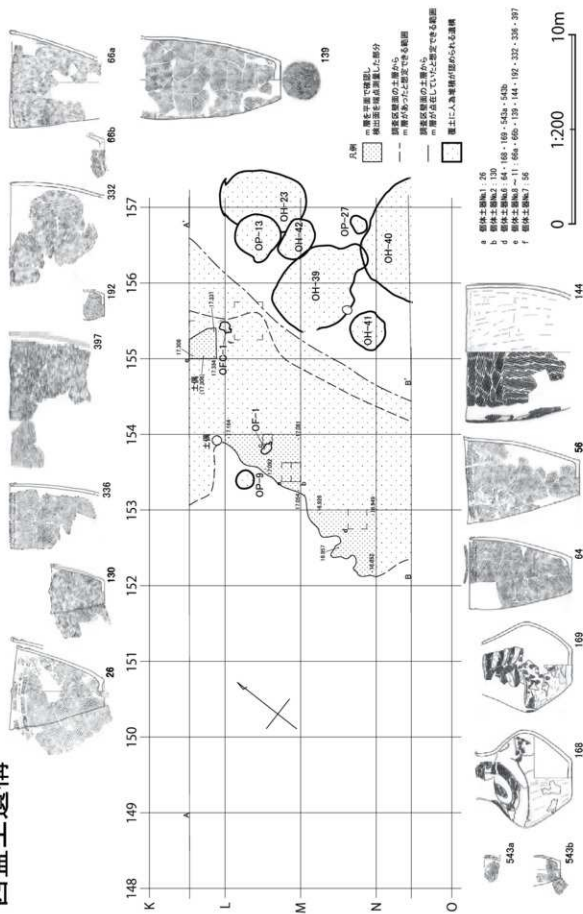


図W-10 遺構位置図 (7) : 162~167ライン

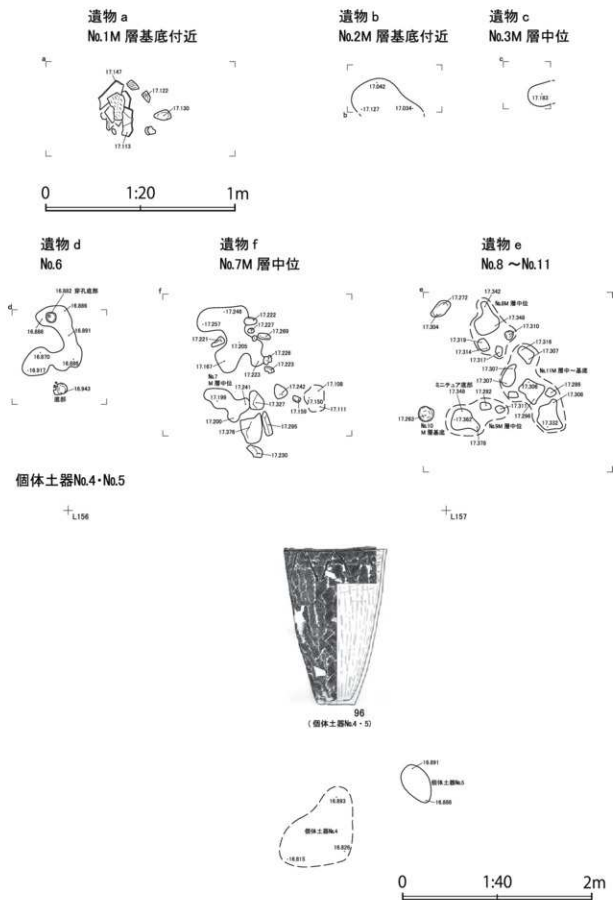


図IV-11 遺構位置図(8): 167~171ライン

西盛土遺構

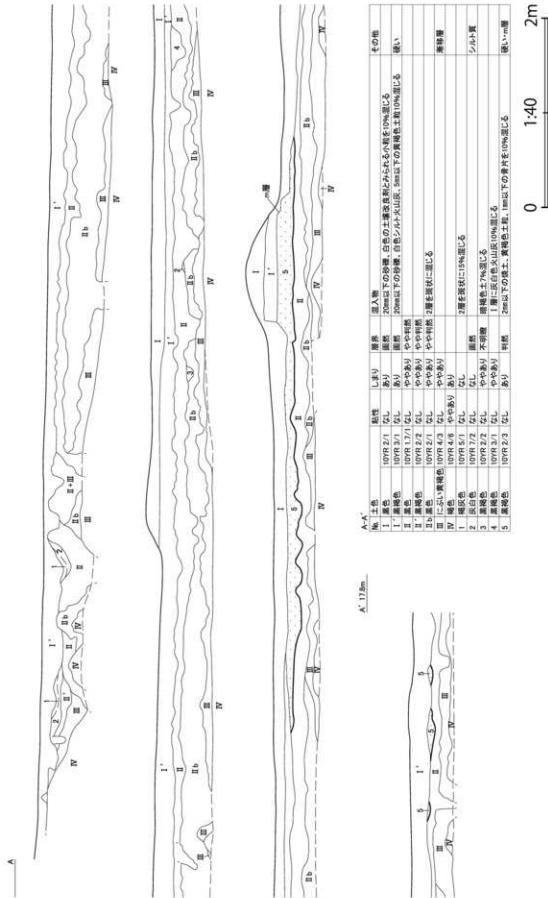


図IV-12 西盛土遺構 (1)



圖IV-13 西盛土遺構(2)

北西壁セクション



A' 175m

層・土色	材質	しまり	層厚	遺入物	その他
I' 黒褐色	007R 2/1 ㊄L	あり	黒褐色		
II' 黒褐色	007R 3/1 ㊄L	あり	黒褐色		
III' 黒褐色	007R 1/1 ㊄L	やや多量	やや粘質		
IV' 黒褐色	007R 2/2 ㊄L	やや多量	やや粘質		
IIb 黒褐色	007R 2/1 ㊄L	やや多量	やや粘質		
IV' 黒褐色	007R 4/3 ㊄L	あり	2層を混状に混じる		
IV' 黒褐色	007R 4/3 ㊄L	あり	2層を混状に混じる		
I 灰白色	007R 5/1 ㊄L	あり	2層を混状に15%混じる		
II 灰白色	007R 7/2 ㊄L	㊄L	黒褐色土7%混じる		
III 黒褐色	007R 2/2 ㊄L	やや多量	不連続		
IV 黒褐色	007R 3/1 ㊄L	やや多量	I層に灰白色土10%混じる		
V 黒褐色	007R 2/3 ㊄L	あり	判別		

2m以下の硬土、黒褐色土層、1m以下の厚片を10%混じる

図IV-14 西盛土遺構 (3)

南東壁セクション

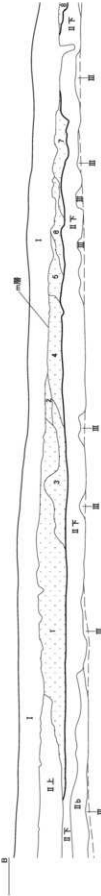


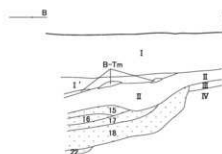
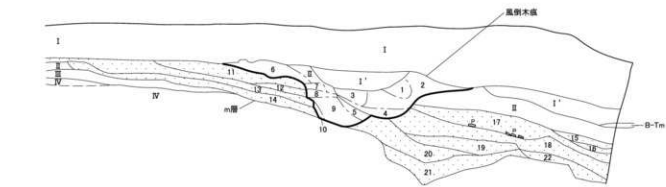
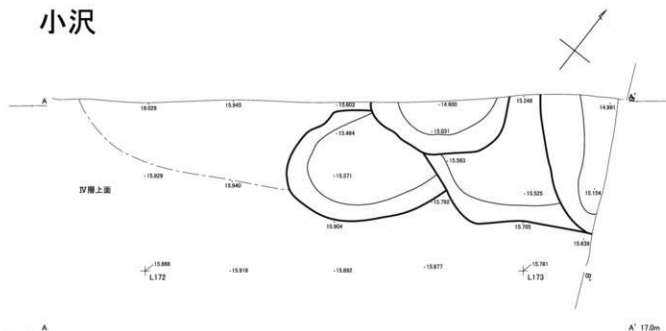
図 17.10m



地 名 色	層 性	し ま り	層 厚	産 人 物	其 の 他
黒褐色 107R 2.2	CL	CL	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.3	CL	CL	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.4	CL	やや多い	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.5	CL	多い	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.6	CL	やや多い	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.7	CL	やや多い	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.8	CL	やや多い	厚部 20cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 4.4	CL	やや多い	厚部 30cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		
黒褐色 107R 2.7	CL	やや多い	厚部 30cm以下の黒褐色土層、炭化物1%混じる		

図IV-15 西盛土遺構 (4)

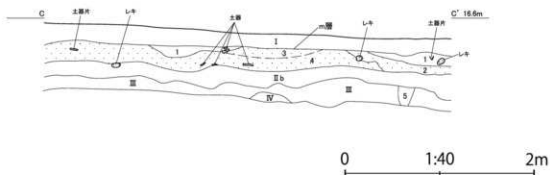
小沢



A-A'-B-B'		堅密度	混入物	その他
1	黒褐色 10YR 2/2	堅	ローム粒2%	
2	反黄褐色 10YR 4/2	堅	ローム粒2%	
3	明黄褐色 10YR 6/6	すこぶる堅	ロームブロック100%	
4	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒2%	
5	黒褐色 10YR 3/1	堅	ローム粒2%	
6	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒2%	風倒木痕
7	にがい黄褐色 10YR 4/3	堅	ロームブロック100%	
8	黒褐色 10YR 3/1	堅	ローム粒・炭1%	
9	黒褐色 10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒2%	
10	にがい黄褐色 10YR 7/4	すこぶる堅	ロームブロック100%	
11	黒褐色 10YR 3/2	堅	焼土粒・ローム粒・炭1%	
12	反黄褐色 10YR 4/2	堅	焼土粒・ローム粒・炭2%	
13	反黄褐色 10YR 4/2	堅	ローム粒・炭・焼土粒3%	
14	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒・炭・焼土粒2%	
15	黒褐色 10YR 3/1	堅	ローム粒1%	
16	黒色 10YR 2/1	堅	ローム粒1%	m層
17	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒2%	
18	黒褐色 10YR 3/1	堅	ローム粒2%	
19	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒・炭・骨7%	
20	暗褐色 10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%	
21	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒・炭3%	
22	暗褐色 10YR 3/3	堅	ローム粒・炭2%	
I	黒色 10YR 2/1	やや軟		
I'	黒褐色 10YR 3/1	堅		
B-Tm	褐色 7.5YR 4/4	やや軟		
II	黒色 10YR 1.7/1	堅		
III	反黄褐色 10YR 4/2	堅		
IV	にがい黄褐色 10YR 5/4	堅		

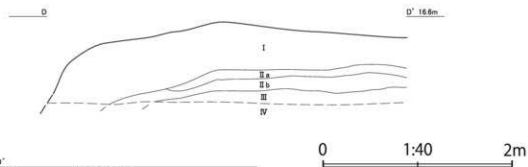
0 1:40 2m

図IV-17 東盛土遺構 (2)



C-C'

No.	土色	堅硬度	混入物	その他
1	黒褐色 10YR 3/2	堅	極小ロームわずか	サラサラ, IIa層
2	黒褐色 10YR 3/2	堅	極小ローム3~5%	サラサラ
3	黒褐色 10YR 3/2	堅	極小ローム5~15%, 上部5%, 下部15%, 漸移	m層 サラサラ
4	にぶい黄褐色 10YR 5/3	すこぶる堅	極小ローム25~40%, 小~中ロームブロック10~15%, 上部のほうが多い, 焼土粒5%, 炭7%	m層 サラサラ 粘性なし
5	黒褐色 10YR 3/2	堅	極小ローム5~15%, 上部5%, 下部15%で漸変する	
I	黒褐色 10YR 3/2	すこぶる堅	極小ローム5%, 微細焼土粒2~3%, 炭わずか	サラサラ
IIb	黒色 10YR 2/1	堅	極小ローム5%	サラサラ
III	黒褐色 10YR 3/2	軟		粘性ややあり
IV	明黄褐色 10YR 6/8	軟		粘性ややあり

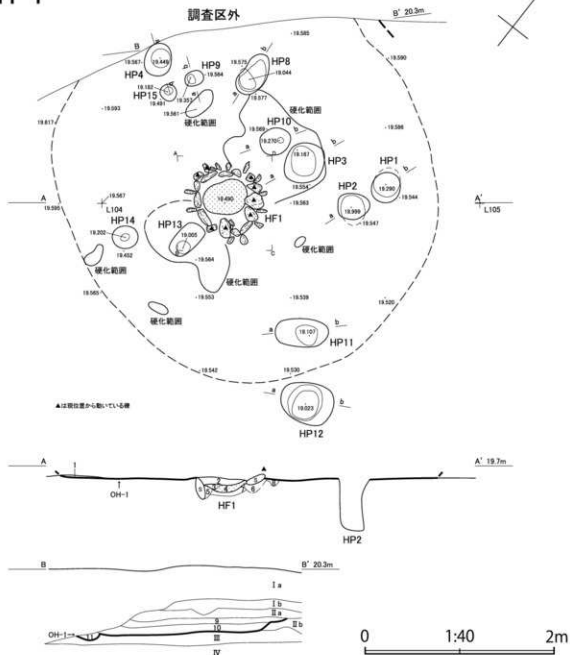


D-D'

No.	土色	堅硬度	その他
I	黒褐色 10YR 3/2	堅	表土 粘性なし, サラサラ
IIa	黒色 10YR 2/1	堅	黒色土 粘性なし, 最上部にB-Tm
IIb	黒褐色 10YR 2/2	堅	黒褐色土 粘性なし
III	黄褐色 10YR 5/3	堅	凝結層 粘性なし
IV	黄褐色 10YR 5/6	堅	ローム 粘性なし

図IV-18 東盛土遺構(3)

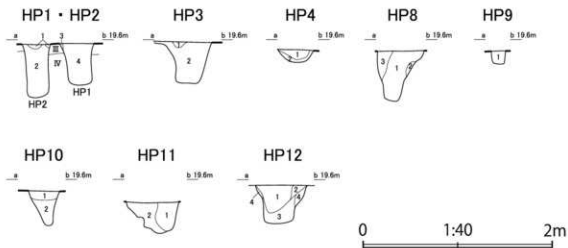
OH-1



OH-1

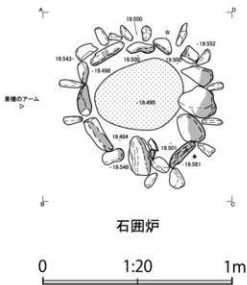
No.	土色	層深度	遺人物	その他
I a	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	ローム粒7%
I b	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	B-7mブロック(10YR6/4)40%
II a	黒色	10YR 1.7/1	堅	
II b	黒褐色	10YR 2/2	堅	
III	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	
IV	黄褐色	10YR 5/6	すこぶる堅	無縁層
1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム層
2	黒色	10YR 1.7/1	すこぶる堅	
3	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	56%被熱
4	褐色	7.5YR 4/4	すこぶる堅	76%被熱
5	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	径2cmのロームブロック10%
6	褐色	10YR 4/4	堅	
7	褐色	10YR 4/6	すこぶる堅	
8	暗褐色	10YR 3/3	堅	
9	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒3%
10	黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒2%
11	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒3%

図IV-19 OH-1 (1)



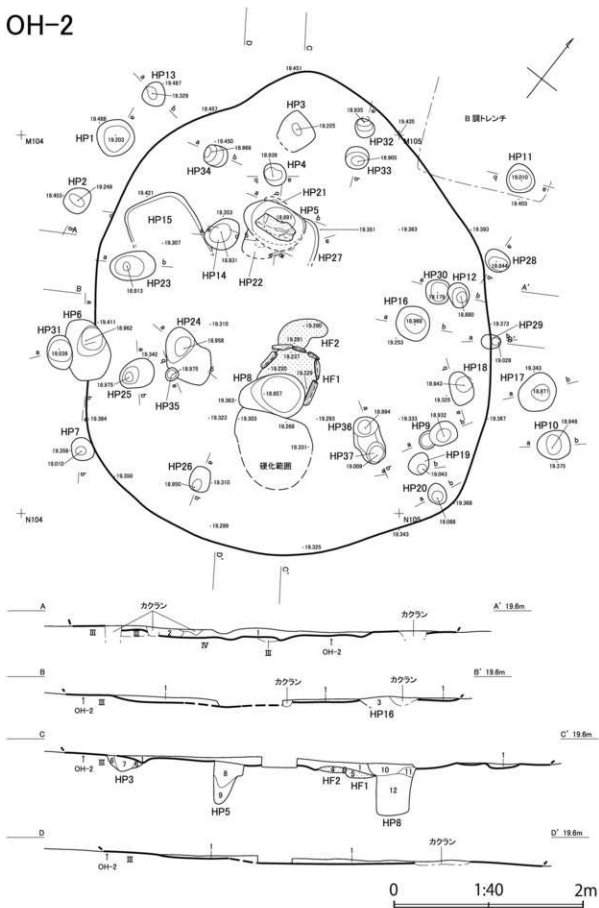
OH-1HP

遺構名	層	土色	堅密度	混入物
HP1・2	1	産褐色	10YR 2/2	すこぶる壁 焼土粒1%
	2	黒色	10YR 2/1	壁 焼土粒1%
	3	産褐色	10YR 3/3	すこぶる壁 ローム主体
	4	黒色	10YR 1.7/1	壁
HP3	1	産褐色	10YR 2/2	壁
	2	黒色	10YR 2/1	やや軟 焼土粒・炭・ローム粒1%
HP4	1	黒色	10YR 2/1	すこぶる壁 ローム粒2%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁 ロームブロック・ローム粒10%
HP8	1	黒色	10YR 2/1	壁 ロームブロック・ローム粒10%
	2	産褐色	10YR 3/3	すこぶる壁 ロームブロック・ローム粒15%
	3	褐色	10YR 4/4	すこぶる壁 ロームブロック・ローム粒50%
HP9	1	産褐色	10YR 2/2	壁 ローム粒1%
	2	産褐色	10YR 2/2	壁 ローム粒2%
HP10	1	産褐色	10YR 3/3	すこぶる壁 ロームブロック・ローム粒2%
	2	産褐色	10YR 2/1	軟 ローム粒1%
HP11	1	黒色	10YR 2/1	軟 ロームブロック・ローム粒15%
	2	褐色	10YR 4/6	やや軟
HP12	1	産褐色	10YR 3/1	壁 ロームブロック・ローム粒3%
	2	黒色	10YR 2/1	壁 ローム粒1%
	3	産褐色	10YR 3/2	やや軟 ロームブロック・ローム粒・炭7%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁 ロームブロック・ローム粒30%



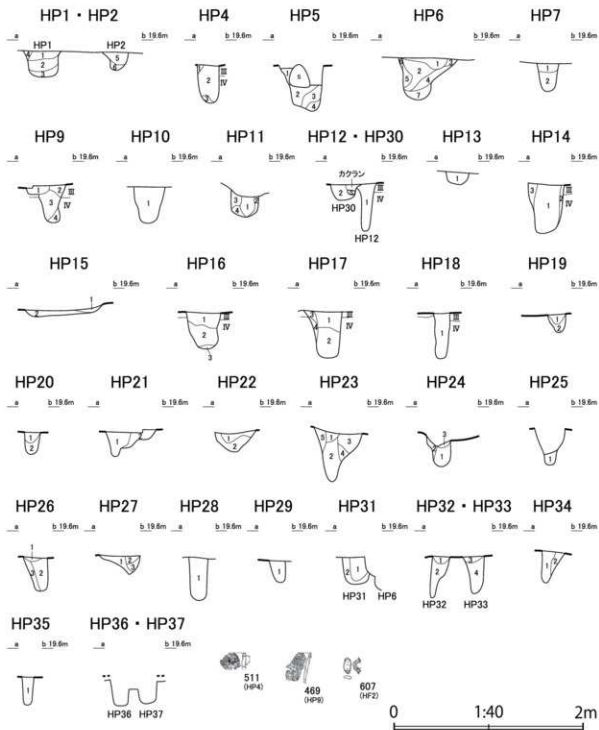
図IV-20 OH-1 (2)

OH-2



図IV-21 OH-2 (1)

OH-2				
No.	土色	堅密度	混入物	その他
1	黒色	10YR 2/1	堅	
2	黒色	10YR 2/3	堅	ローム約20%、炭化物僅か
3	黒色	10YR 2/1	やや軟	焼土粒・炭化物僅か
4	褐色	7.5YR 4/6	堅	焼土
5	黒褐色	10YR 2/3	—	10YR2/2黒色土ブロック50%、焼土粒1%
6	黒褐色	10YR 3/3	やや軟	径2cmのロームブロック20%、炭僅か
7	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	径2cmのロームブロック20%
8	黒褐色	10YR 2/2	堅	径1cmのロームブロック5%、炭僅か
9	黒褐色	10YR 2/2	堅	径1cmのロームブロック40%、炭僅か
10	黒褐色	10YR 2/2	堅	黒色土ブロック固状、径1cmロームブロック1%、炭僅か
11	暗褐色	10YR 3/4	すこぶる堅	径1cmのロームブロック5%
12	黒褐色	10YR 2/2	堅	径1cmのロームブロック5%

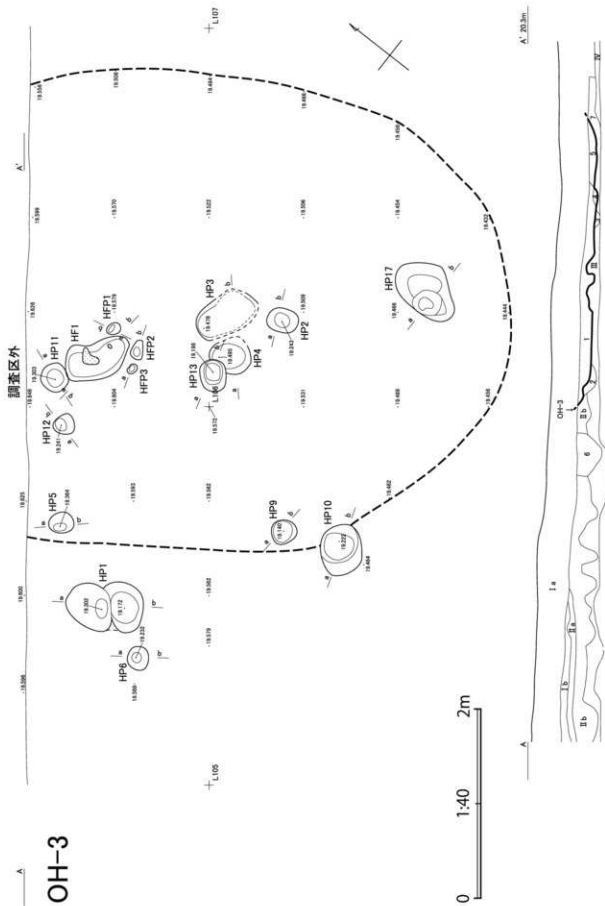


図IV-22 OH-2 (2)

OH-2HP

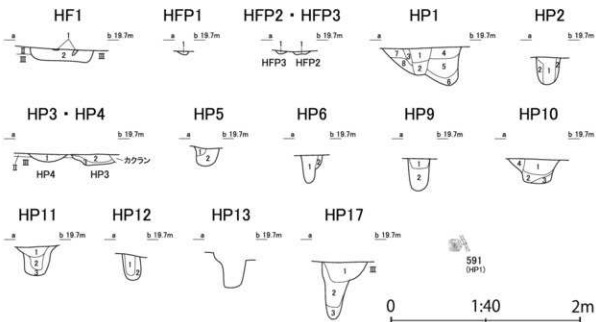
通構名	№	土色	壁密度	透入物	
HP1-2	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム靴5%
	2	黒色	10YR 1.7/1	壁	ローム靴3%
	3	黒色	10YR 2/1	壁	ロームブロック・ローム靴15%
	4	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴3%
	5	黒色	10YR 1.7/1	壁	ローム靴3%
HP4	6	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム靴15%
	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	直径4cmのロームブロック・黒色土ブロック10%
	2	黒褐色	10YR 2/2	敷	直径1cmのロームブロック5%
HP5	3	褐色	10YR 4/4	壁	
	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴・皮15%
	2	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム靴・皮10%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや敷	ロームブロック・ローム靴30%
HP6	4	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴・皮7%
	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	ローム靴2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴3%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴2%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム靴・皮20%
	5	反黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム靴15%
HP7	6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック15%
	7	褐色	10YR 4/4	やや敷	ロームブロック・ローム靴20%
	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	ローム靴7%
HP9	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム靴10%
	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	直径1cmのロームブロック10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	
	3	黒褐色	10YR 3/2	敷	直径1cmのロームブロック10%
HP10	4	褐色	10YR 4/4	敷	
	1	黒色	10YR 1.7/1	敷	直径0.5cmのロームブロック3%
	1	黒褐色	10YR 2/2	敷	皮1%
	2	黒褐色	10YR 2/2	やや敷	直径2cmのロームブロック40%、1とロームの器状遺文土
HP12-30	3	黒褐色	10YR 3/2	敷	ローム靴1%
	4	黒色	10YR 1.7/1	壁	
	1	黒色	10YR 2/1	壁	直径1cmのロームブロック5%
	2	黒色	10YR 2/1	すこぶる壁	直径2cmのロームブロック20%
HP13	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム靴3%
	1	黒色	10YR 1.7/1	やや敷	皮1%
HP14	2	黒色	10YR 1.7/1	壁	直径3cmのロームブロック20%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	直径2cmのロームブロック10%
	1	黒褐色	10YR 2/2	敷	
HP15	2	暗褐色	10YR 3/3	壁	直径1cmのロームブロック10%
	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	直径1cmのロームブロック5%
	2	暗褐色	10YR 3/3	壁	直径1cmのロームブロック・皮30%
	3	褐色	10YR 4/4	壁	直径2cmのロームブロック・黒色土ブロック20%
HP17	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	
	2	黒色	10YR 2/1	敷	直径1cmのロームブロック10%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	直径3cmのロームブロック5%
HP18	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	直径2cmのロームブロック30%
	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	ローム靴7%
HP19	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム靴15%
	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴20%
HP20	2	褐色	10YR 4/4	壁	ローム靴・皮7%
	1	褐色	10YR 4/4	壁	ロームブロック・ローム靴40%
HP21	2	黄褐色	10YR 5/6	壁	ロームブロック・ローム靴20%
	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム靴3%
HP22	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム靴20%
	1	黒褐色	10YR 2/2	やや敷	ローム靴15%
HP23	2	黒色	10YR 2/1	壁	ロームブロック・ローム靴10%
	3	反黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴30%
	4	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴40%
	5	褐色	10YR 4/4	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴10%
	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴2%
HP24	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム靴25%
	3	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム靴10%
	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム靴20%
HP26	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム靴・皮2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム靴・皮3%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム靴・皮15%
HP27	1	黒色	10YR 2/1	やや敷	ローム靴7%
	2	褐色	10YR 4/4	壁	ロームブロック・ローム靴3%
	3	褐色	10YR 4/6	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴50%
HP28	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	ローム靴1%
	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴20%
HP31	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム靴3%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム靴20%
HP32-33	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴15%
	2	反黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴30%
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴15%
	4	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴20%
HP34	1	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴7%
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる壁	ロームブロック・ローム靴50%
HP35	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム靴25%

図IV-23 OH-2 (3)



図IV-24 OH-3 (1)

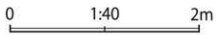
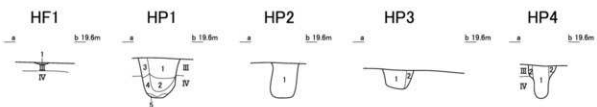
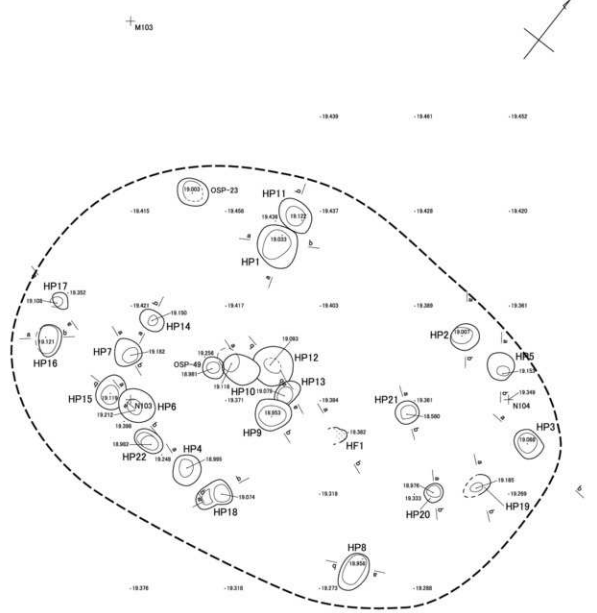
OH-3				
No.	土色	堅密度	混入物	その他
I a	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	ローム粒7%
I b	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	B-1mブロック(10YR:4/40%)
II a	黒色	10YR 1.7/1		乾燥するよクランク発達
II b	黒褐色	10YR 2/2	堅	
III	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	層移層
IV	黄褐色	10YR 5/6	すこぶる堅	ローム層
1	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒・炭3%
2	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒3%
3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒5%
4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭5%
5	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	ローム粒・炭5%
6	黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒1%
7	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ローム粒5%



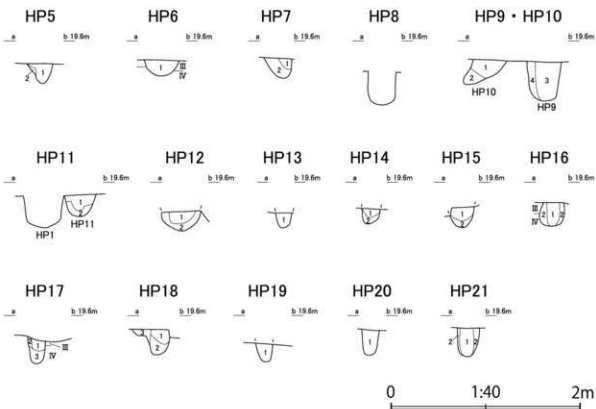
OH-3HF+HP					
遺構名	No.	土色	堅密度	混入物	その他
HF1	1	にぶい赤褐色	5YR 4/4	堅	
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	黄土
HFP1	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・炭7%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・炭7%
HFP2-3	1	黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒・炭2%
	2	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP1	1	黒色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭2%
	2	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	6	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒5%
	7	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒3%
	8	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
HP2	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP3-4	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒・炭5%
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒・炭3%
	3	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
HP5	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%
	2	黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒5%
HP6	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP9	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒5%
	2	褐色	10YR 4/6	堅	ロームブロック・ローム粒7%
HP10	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	3	黒色	10YR 1.7/1	堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP11	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・炭3%
	2	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒1%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒1%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP12	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒1%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒20%
HP17	1	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	ローム粒3%
	2	黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒2%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒50%

図IV-25 OH-3 (2)

OH-4



図IV-26 OH-4 (1)

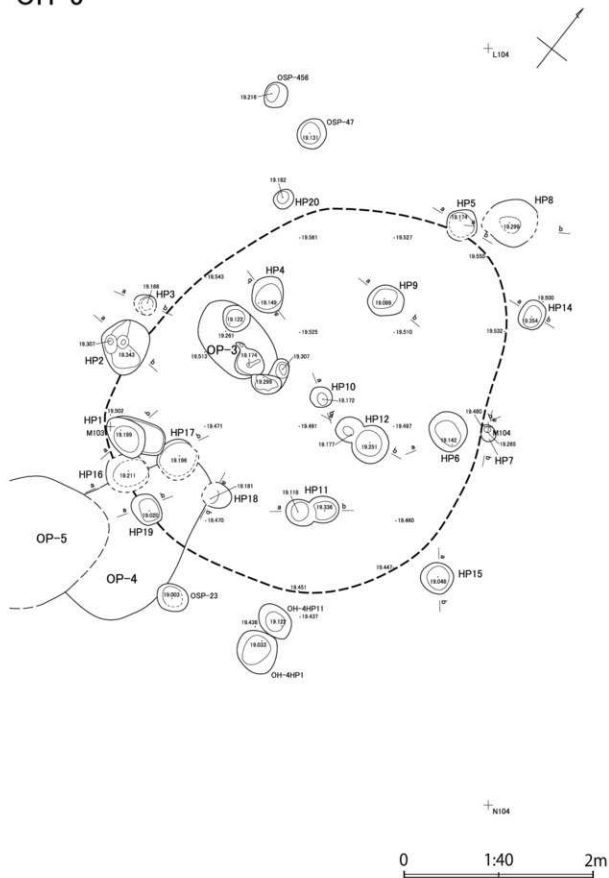


OH-4HP-HP

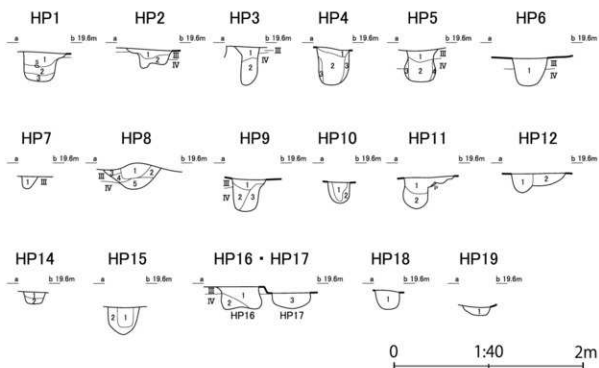
造構名	No.	土色	壁密度	埋入物	その他
HP1	1	黒褐色	75YR 2/2	壁	鉄骨か
HP1	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒3%
	2	黒色	10YR 1.7/1	敷	ローム粒5%
	3	褐色	10YR 4/6	壁	
	4	黒褐色	10YR 3/2	壁	直径2cmの褐色土・黒色土が張状
HP2	5	黒色	10YR 1.7/1	すこぶる壁	
	1	黒褐色	10YR 2/2	敷	直径1cmのロームブロック10%
HP3	1	黒色	10YR 2/1	壁	直径1cmのロームブロック5%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	直径2cmのロームブロック40%
HP4	1	黒色	10YR 2/1	敷	直径1cmのロームブロック10%
	2	褐色	10YR 3/3	壁	直径1cmのロームブロック20%
HP5	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	直径1cmのロームブロック5%
	2	黒褐色	10YR 3/3	壁	直径1cmのロームブロック20%
HP6	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	
HP7	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒3%
	2	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒1%
HP9・10	1	にぶい黄褐色	10YR 5/4		ロームブロック・ローム粒50%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3		ローム粒5%
	3	黒色	10YR 2/1		ロームブロック・ローム粒15%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3		ロームブロック・ローム粒30%
HP11	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
HP12	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒40%
HP13	1	黒褐色	10YR 2/1	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP14	1	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる壁	ローム粒3%
HP15	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
	1	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒7%
HP16	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%
	1	黒色	10YR 2/1	すこぶる壁	ローム粒7%
HP17	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%
	1	黒色	10YR 1.7/1	すこぶる壁	直径0.5cmのロームブロック50%
	3	黒褐色	10YR 2/2	壁	
HP18	3	黒褐色	10YR 3/3	すこぶる壁	直径1cmのロームブロック10%、直径2cmの黒色土ブロック5%
	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	ロームブロック・ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	ローム粒5%
HP19	3	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒3%
	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
HP20	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒7%
HP21	1	黒色	10YR 1.7/1	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%

図IV-27 OH-4 (2)

OH-5



図IV-28 OH-5 (1)

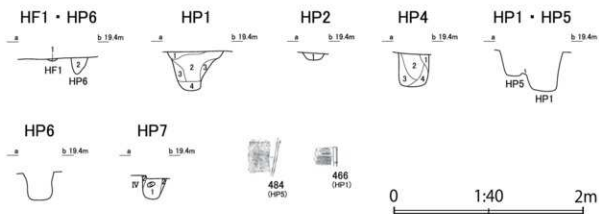
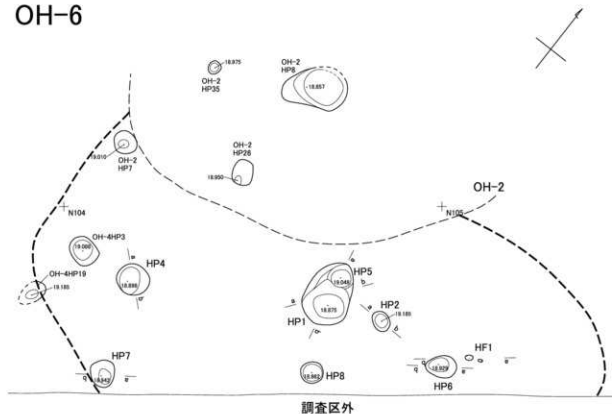


OH-5HP

透視名	No.	土色	壁密度	埋人物	その他	
HP1	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒5%	
	2	黒色	10YR 1.7/1	壁		
	3	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる壁	直径1cmのロームブロック20%	
HP2	1	黒色	10YR 1.7/1	やや軟		
	2	黒褐色	10YR 2/2	軟	直径2cmのロームブロック30%	
HP3	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	直径1cmのロームブロック10%	
	2	黒色	10YR 1.7/1	軟	直径1cmのロームブロック20%	
HP4	1	黒色	10YR 2/1	壁	ロームブロック・ローム粒3%	
	2	黒色	10YR 1.7/1	壁	ロームブロック・ローム粒2%	
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒30%	
HP5	1	黒色	10YR 2/1	やや軟	直径0.5cmのロームブロック5%	
	2	黒色	10YR 1.7/1	やや軟	直径2cmのロームブロック10%	
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	直径1cmのロームブロック10%	
	4	黒褐色	10YR 2/1	すこぶる壁	直径4cmのロームブロック50%	
HP6	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	直径1cmのロームブロック20%、炭1%	
HP7	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟		
HP8	1	明黄褐色	10YR 6/8	すこぶる壁		ローム
	2	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒5%	ローム系
	4	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒20%	
	5	黒色	10YR 2/1	壁	ロームブロック・ローム粒5%	
HP9	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒・炭5%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%	
HP10	1	黒褐色	10YR 2/1	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒5%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒7%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒40%	
HP11	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒2%	
	2	黒褐色	10YR 3/1	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒5%	
HP12	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒7%	
HP14	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒2%	
	2	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒1%	
HP15	1	黒褐色	10YR 2/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒15%	
	2	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒5%	
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%	
HP16-17	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒25%	
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%	
HP18	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒20%	
HP19	1	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%	

図IV-29 OH-5 (2)

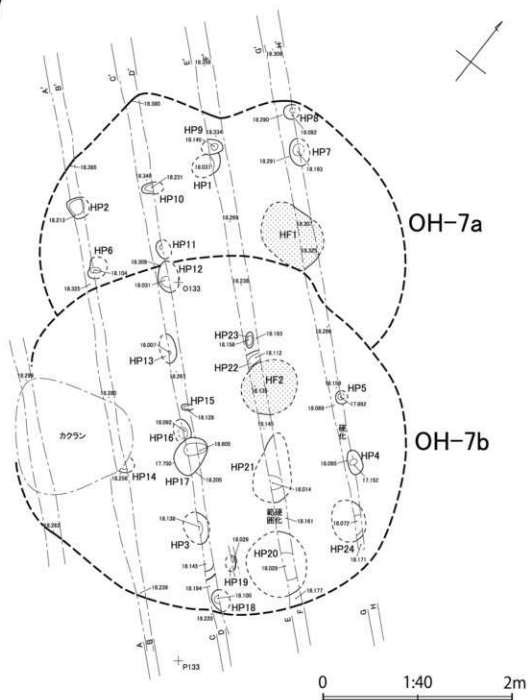
OH-6



遺構名	No.	土色	堅硬度	混入物	その他	
HF1・HP6	1	明褐色	7.5YR 5/8	堅		積土
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
HP1	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒3%	
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	炭・ローム粒2%	
	3	反黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%	
HP2	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	炭・ローム粒7%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP4	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭15%	
	2	褐色	10YR 4/4	やや軟	ロームブロック・ローム粒15%	
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	4	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒3%	
HP7	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック2%	
	2	暗褐色	10YR 3/3	軟	ロームブロック3%	

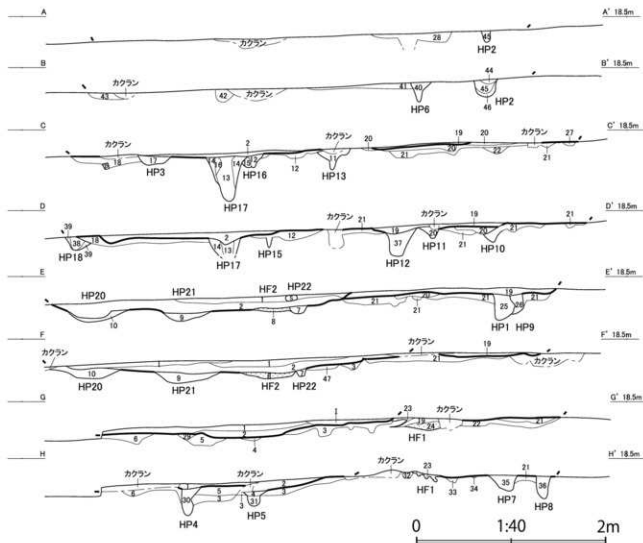
図IV-30 OH-6

OH-7



OH-7					
No.	土色	堅硬度	遺人物	その他	
1	黒色	10YR 1.2/1	堅	ローム靴・度7%	II層黒色土に相当
2	褐色	10YR 2/1	堅	ローム靴・度7%	焼土
3	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ローム靴・度50%	盛りかた
4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・度20%	
5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・度2%	
6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・度15%	
7	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム靴・焼土靴10%	
8	明赤褐色	5YR 5/8	すこぶる堅		焼土
9	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム靴10%	
10	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・度30%	
11	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・度30%	
12	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・度15%	
13	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム靴2%	
14	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム靴・度20%	
15	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ローム靴・度50%	

図IV-31 OH-7 (1)

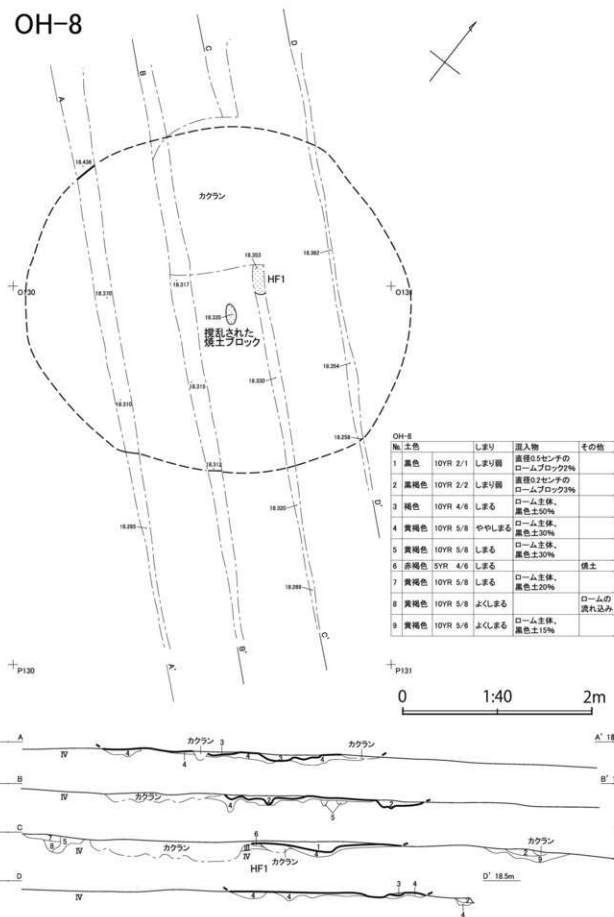


OH-7

№	土色	堅硬度	混入物	その他
16	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック-ローム粒5%
17	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック-ローム粒15%
18	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック-ローム粒20%
19	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒-炭10%
20	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック-ローム粒-炭15%
21	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒50%
22	にぶい黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒50%
23	褐色	7.5YR 4/6	すこぶる堅	
24	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	焼土ブロック-ロームブロック-ローム粒40%
25	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒20%
26	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒40%
27	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%
28	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒50%
29	黒褐色	10YR 2/1	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒7%
30	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック-ローム粒10%
31	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒50%
32	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒-焼土粒10%
33	褐色	7.5YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒7%
34	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒3%
35	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	炭-ロームブロック-ローム粒30%
36	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒50%
37	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック-ローム粒-炭20%
38	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒10%
39	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒50%
40	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒20%
41	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒15%
42	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒15%
43	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒7%
44	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒%
45	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム粒10%
46	にぶい黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅	ロームブロック-ローム粒20%
47	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	焼土ブロック-ロームブロック-ローム粒-炭30%

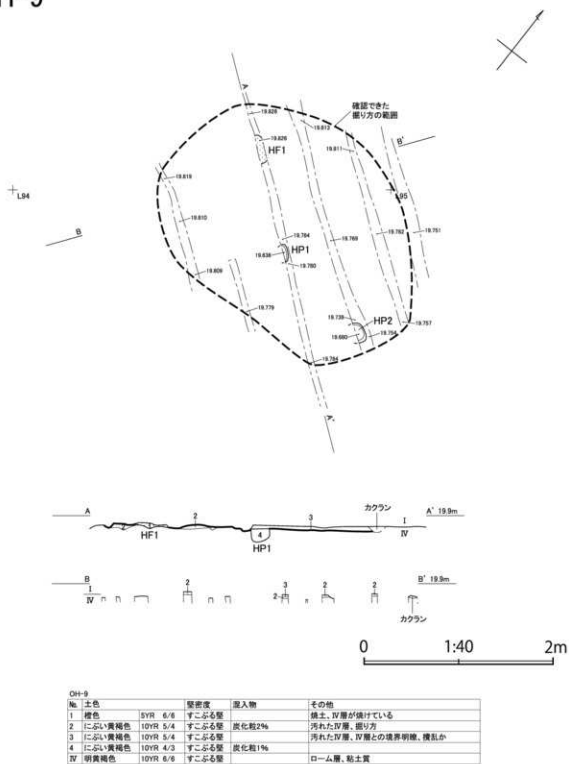
図IV-32 OH-7 (2)

OH-8



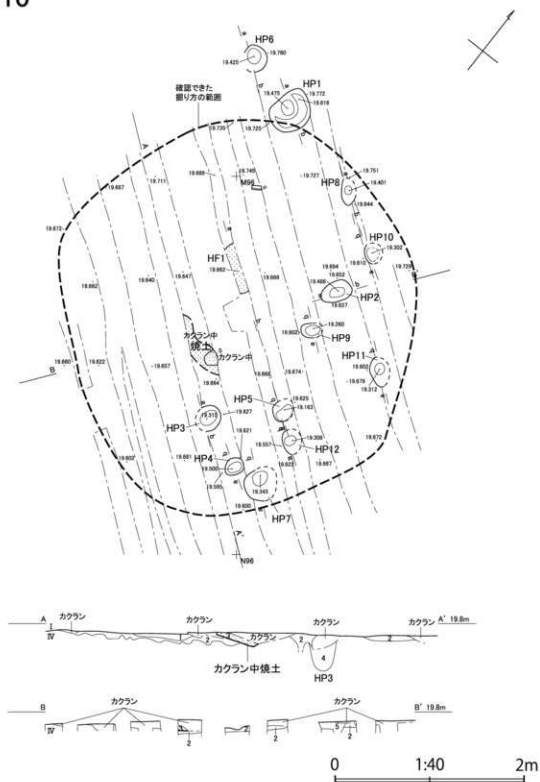
図IV-33 OH-8

OH-9



図IV-34 OH-9

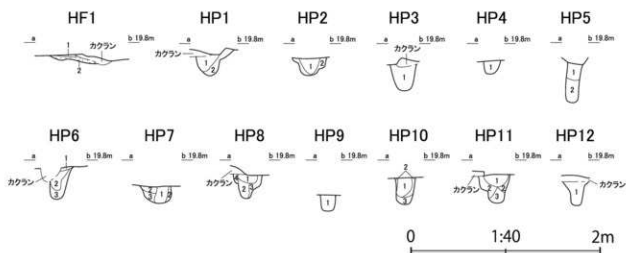
OH-10



OH-10

No.	土色	堅密度	混入物	その他
1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム靴・皮化物7%
2	にぶい黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅	炭化粒2%
3	褐色	7.5YR 4/6	すこぶる堅	雑乱中に傾けたロームブロックが集中する
4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム靴30%
5	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム靴25%

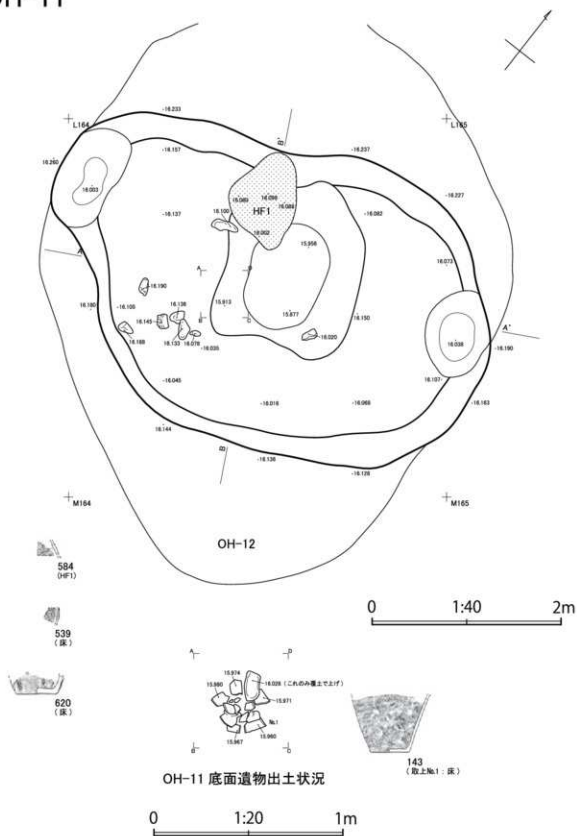
図IV-35 OH-10 (1)



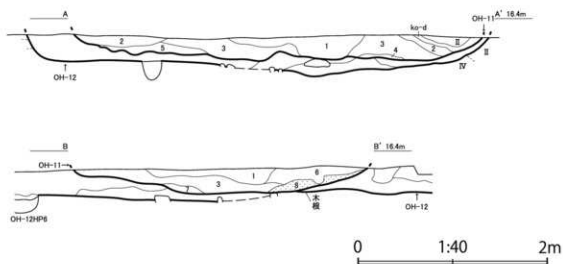
遺構名		土色	壁密度	混入物
HF1	1	黒褐色	すこぶる壁	ローム粒・炭化粒・焼土粒15%
	2	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒・ローム粒15%
HP1	1	褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒・炭化粒10%
	2	褐色	すこぶる壁	ロームブロック・クロボクブロック・ローム粒30%
HP2	1	暗褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒7%
	2	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒40%
HP3	1	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP4	1	暗褐色	壁	ロームブロック・ローム粒・炭20%
HP5	1	黒褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP6	1	暗褐色	壁	ローム粒30%
	2	暗褐色	壁	ローム粒3%
	3	にぶい黄褐色	壁	ロームブロック・ローム粒7%
HP7	1	暗褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒・クロボクブロック25%
	2	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%
	3	褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒40%
HP8	1	黒褐色	すこぶる壁	ローム粒・炭15%
	2	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%
	3	褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
	4	褐色	すこぶる壁	珪砂ローム・炭3%
HP9	1	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP10	1	暗褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
	2	褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
	3	褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP11	1	暗褐色	すこぶる壁	ロームブロック・炭15%
	2	にぶい黄褐色	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
	3	褐色	すこぶる壁	ロームブロック25%
HP12	1	褐色	壁	ロームブロック・クロボクブロック30%

図IV-36 OH-10 (2)

OH-11

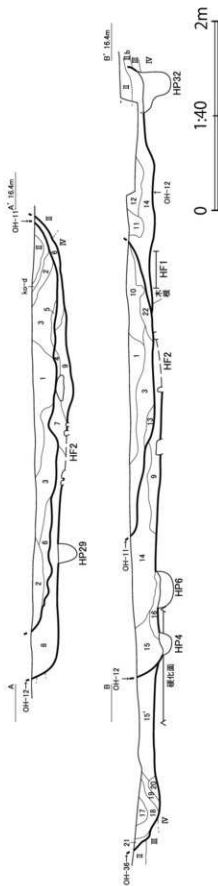


図IV-37 OH-11 (1)

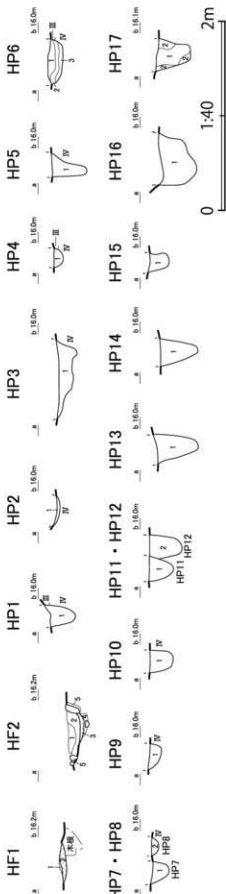


OH-11						
No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
1	黒色 10YR 1.3/1	なし	なし	薄葉		Ⅱ層相当の自然堆積
2	黒色 10YR 2/1	なし	なし	判然	5cm以下の焼土粒が混じる	
3	黒色 10YR 2/1	ややあり	ややあり	判然	5cm以下の焼土・黄褐色土粒が混じる	
4	黒褐色 10YR 2/3	なし	ややあり	判然	20cm以下の黄褐色土が混じる	
5	黒褐色 10YR 3/2	ややあり	ややあり	判然	30cm以下の黄褐色土ブロック形状に混じる	
6	黒色 10YR 1.3/1	なし	なし	薄葉		Ⅱ層相当の自然堆積
7	褐色 10YR 4/4	ややあり	ややあり	判然	黄褐色土、暗褐色土混在にみよる	
8	黒褐色 7.5YR 3/2	なし	ややあり	判然	5cm以下の炭化物、積土粒、黄褐色土粒、骨片10%混じる	HF1

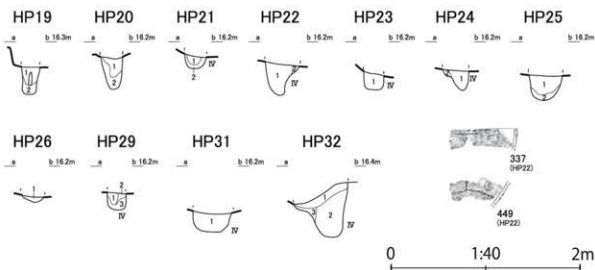
図IV-38 OH-11 (2)



施土色	層厚	層入数	粘性	しきり	層厚	層入数
13 黒褐色	107R 2/2	なし	なし	判別	10m以下の黄褐色土層、赤土層、炭化物入層になる	
14 黒褐色	107R 2/1	なし	なし	判別	10m以下の黄褐色土層、赤土層、炭化物入層になる	
15 黒色	107R 3/4	なし	ややあぶり	判別	20m以下の黄褐色土層、赤土層、炭化物入層になる	
16 黒褐色	107R 3/1	なし	ややあぶり	判別	20m以下の黄褐色土層、赤土層、炭化物入層になる	
17 暗褐色	107R 3/2	なし	ややあぶり	判別	10m以下の黄褐色土層、炭化物入層になる	
18 褐色	107R 3/4	なし	あぶり	判別	20m以下の黄褐色土層、赤土層入層になる	
19 黒色	107R 2/1	なし	あぶり	判別	10m以下の黄褐色土層、赤土層入層になる	
20 黒褐色	107R 2/2	なし	ややあぶり	判別	10m以下の黄褐色土層入層になる	
21 黒褐色	107R 2/2	なし	ややあぶり	判別	10m以下の黄褐色土層入層になる	
22 黒褐色	107R 2/2	なし	ややあぶり	判別	10m以下の赤土層、黄褐色土層、炭化物、骨片入層になる	



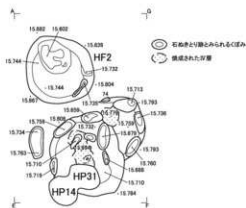
図IV-40 OH-12 (2)



OH-12HF-HP

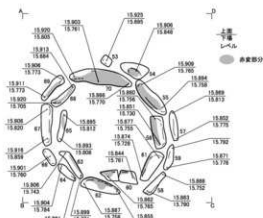
遺構名	No.	土色	粘性	しまり	層界	混入物	その他	
HP1	1	黒褐色	5YR 2/1	なし	ややあり	面底	5cm以下の鉄土粒、炭化物7%混じる	
	2	にぶい赤褐色	5YR 4/4	なし	あり	面底	黒褐色土ブロック2%混状に混じる	
HP2	1	黒褐色	7.5YR 3/2	なし	ややあり	面底	10cm以下の鉄土粒、黄褐色土粒、炭化物、骨片1%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	1cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
	3	明赤褐色	5YR 5/8	なし	ややあり	判然	1cm以下の骨片、暗褐色土3%混じる	
	4	黒褐色	10YR 3/1	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
	5	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒10%混状に混じる	
HP1	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/1	なし	あり	面底	10cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
HP3	1	黒褐色	10YR 2/1	なし	あり	面底	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物、鉄土粒、骨片5%混じる	
HP4	1	黒褐色	10YR 1.7/1	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
HP5	1	褐色	10YR 4/6	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP6	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	10cm以下の黄褐色土粒、鉄土粒、骨片10%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	ややあり	面底	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
	3	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
HP7-8	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	10cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	面底	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP9	1	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物を5%混じる	硬い
HP10	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP11-12	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP13	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	面底	10cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP14	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	面底	20cm以下の黄褐色土粒、鉄土粒、炭化物1%混じる	
HP15	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP16	1	黒褐色	10YR 3/1	なし	ややあり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、鉄土粒、炭化物、骨片5%混じる	
HP17	1	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	判然	5cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	面底	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP18	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物1%混じる	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	面底	30cm以下の暗褐色土ブロック10%混状に混じる	
HP20	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、鉄土粒、炭化物3%混じる	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	ややあり	面底	30cm以下の暗褐色土ブロック10%混状に混じる	
HP21	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	ややあり	判然	20cm以下の黄褐色土粒5%混状に混じる	
HP22	1	黒褐色	10YR 3/2	なし	ややあり	判然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒15%混状に混じる	
HP23	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物を3%混じる	
HP24	1	黒褐色	10YR 3/2	なし	あり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	面底	暗褐色土ブロック20%と混状を混する	
HP25	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	10cm以下の炭化物、黄褐色土粒3%混じる	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	判然	30cm以下の暗褐色土ブロック10%混状に混じる	
HP26	1	黒褐色	10YR 3/1	なし	あり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP29	1	褐色	10YR 4/4	なし	あり	判然	10cm以下の暗褐色土粒7%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	10cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
	3	暗褐色	10YR 2/3	なし	あり	面底	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	
HP31	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	面底	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	面底	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物、鉄土粒2%混じる	
	3	暗褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP32	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面底	5cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	面底	20cm以下の黄褐色土粒10%混状に混じる	
	3	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	面底	20cm以下の黄褐色土粒10%混状に混じる	

図IV-41 OH-12 (3)



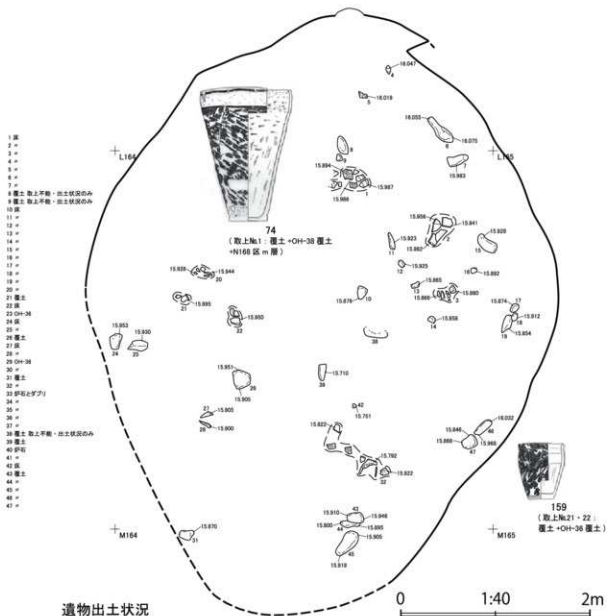
0 1:40 2m

HF2下位旧炉跡検出状況



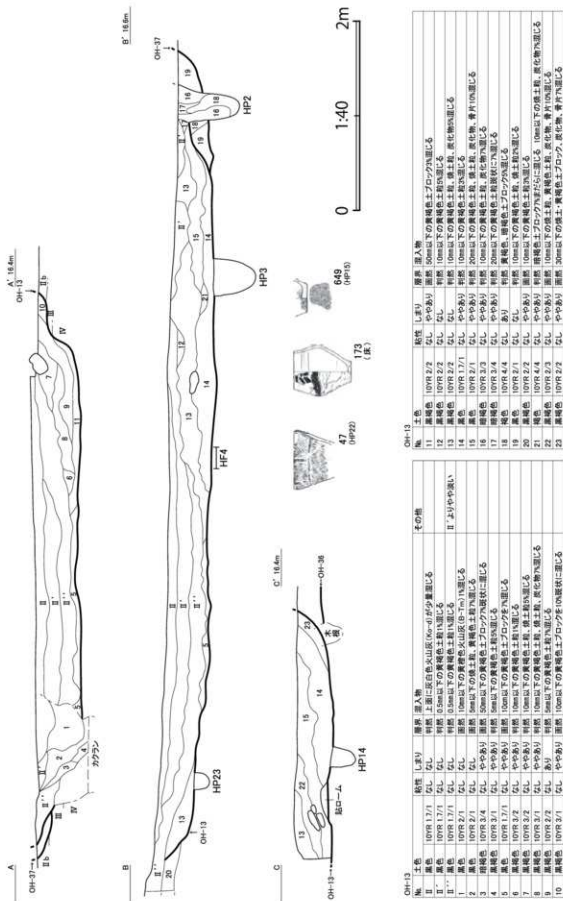
0 1:20 1m

HF2炉跡部分拡大



遺物出土状況

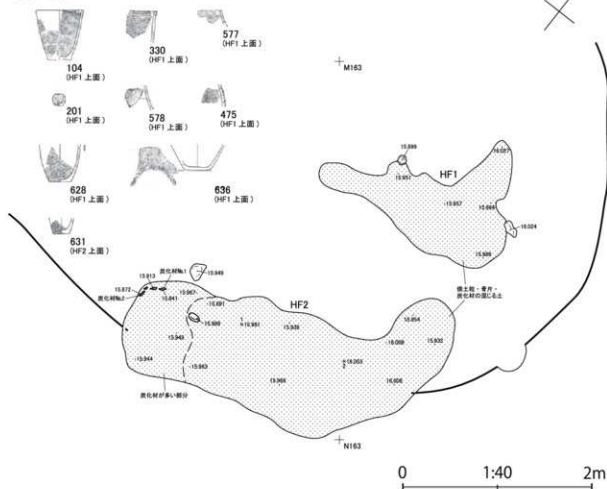
図IV-42 OH-12 (4)



図IV-44 OH-13 (2)

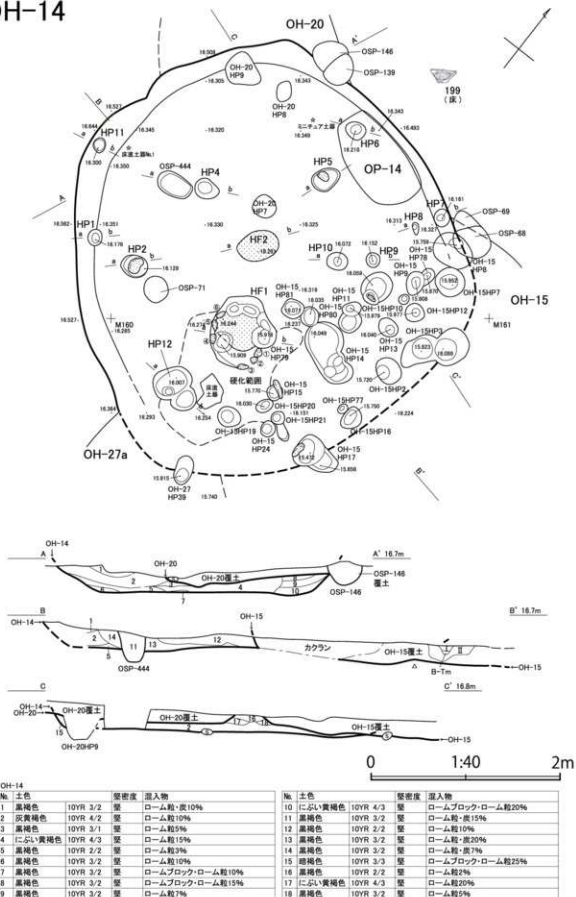
OH-13HF+HP							
遺構名 No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他	
HP16 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP17 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
2	黒褐色	10YR 2/3	なし	なし	断然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP18 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP19 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP20 1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP21 1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	断然	20cm以下の炭化物、黄褐色土粒2%混じる	
HP22 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	
HP23 1	暗褐色	10YR 3/3	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	硬い
HP24 1	黒色	10YR 1/1	なし	あり	判然	10cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
2	黒褐色	10YR 2/3	なし	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP25 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	5cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物3%混じる	硬い
HP26 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	硬い
2	褐色	10YR 4/6	なし	あり	断然	20cm以下の黄褐色土粒、暗褐色土粒7%混じる	硬い
HP27 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる	
HP28 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	
HP29 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	5cm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒2%混じる	
2	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
3	褐色	10YR 4/4	なし	あり	判然	20cm以下の暗褐色土粒30%混じる	
HP30 1	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	断然	30cm以下の暗褐色土粒、炭化物30%混じる	硬い
2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	断然	10cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
3	褐色	10YR 4/6	なし	あり	断然	10cm以下の暗褐色土粒3%混じる	硬い
HP31 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP32 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	5cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
2	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	断然	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
3	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	断然	5cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
HP33 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物2%混じる	
2	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	判然	20cm以下の黄褐色土粒20%混じる	
HP34 1	黒褐色	10YR 3/1	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP35 1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	断然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物3%混じる	
2	褐色	10YR 4/4	なし	あり	断然	20cm以下の暗褐色土粒10%混じる	
HP36 1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然	20cm以下の黄褐色土粒3%混じる	

覆土中焼土



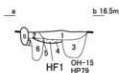
図IV-46 OH-13 (4)

OH-14



図IV-48 OH-14 (1)

HF1・OH-15HP79



HF2



HP1



HP2



HP4・OSP-444



HP5



HP6



HP7・HP8



HP9・HP10



HP11



HP12

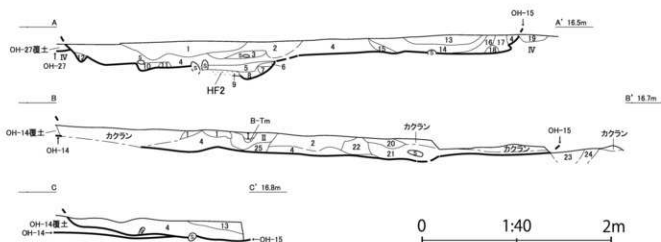
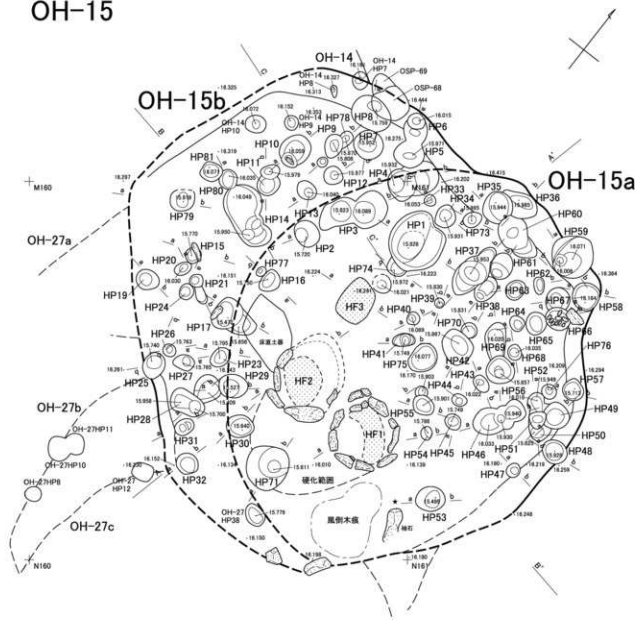


0 1:40 2m

OH-14(H)-HP						
通称名	No.	土色	堅密度	混入物	その他	
HF1・OH-15HP79	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	炭2%	粘土、IV層が透けている 様土、土層が透けている
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒20%	
	3	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる堅		
	4	赤褐色	5YR 4/6	堅		
	5	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
HF2	6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	粘土、IV層が透けている
	7	黄褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%	
HP1	1	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる堅		粘土、IV層が透けている
HP2	1	黄褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒15%	
HP4	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
HP5	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒15%	
HP6	1	黄褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%	
HP7・8	1	黄褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%	
HP9・10	2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒10%	
	1	黄褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒15%	
HP11	2	黄褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭15%	
	1	灰色	10YR 2/1	堅	ローム粒・炭2%	
HP12	2	にぶい黄褐色	10YR 5/4	軟	ロームブロック・ローム粒30%	
	1	黄褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒15%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	3	黄褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	4	黄褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%	

図IV-49 OH-14 (2)

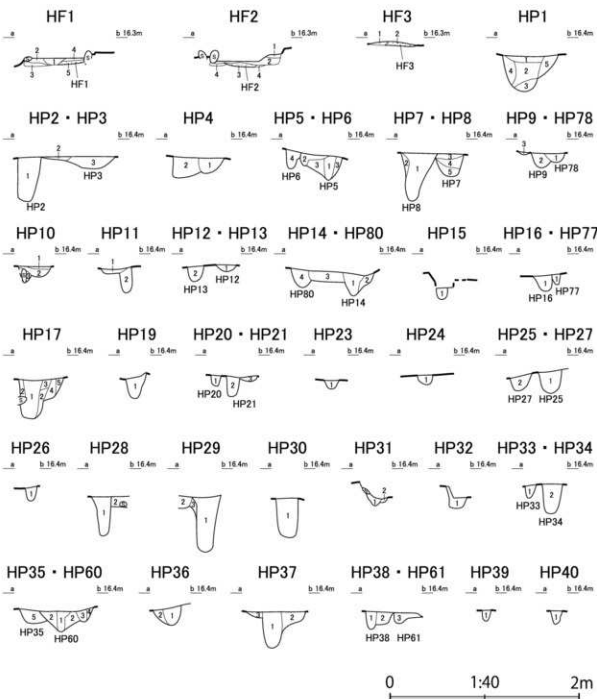
OH-15



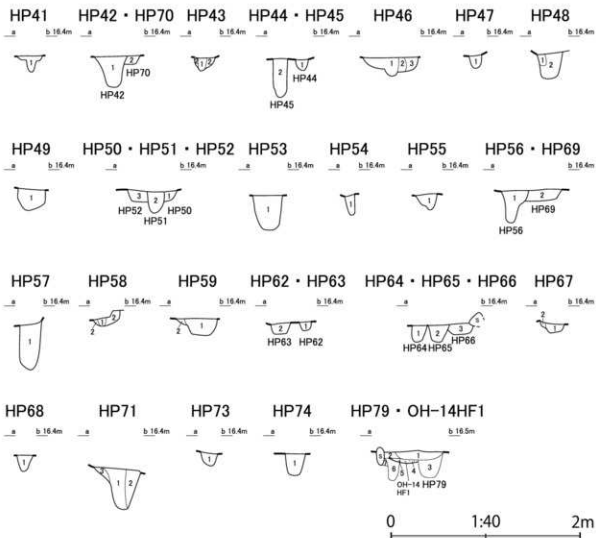
図IV-50 OH-15 (1)

OH-15

№	土色	壁密度	混入物	その他	№	土色	壁密度	混入物	その他	
1	黒色 10YR 1.7/1	壁	ローム粒1%	Ⅱ層相当	14	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒15%		
2	黒色 10YR 2/1	壁	ローム粒2%		15	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒7%	14より暗色	
3	黒色 10YR 1.7/1	壁	ローム粒1%		16	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒・炭5%		
4	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒・焼土粒7%		17	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒・炭2%		
5	黒褐色 10YR 2/2	壁	ローム粒3%		18	褐色 10YR 4/4	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒20%		
6	黒褐色 10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・炭50%以上	粘りローム	19	暗褐色 10YR 3/3	壁	ローム粒2%		
7	黒褐色 10YR 3/2	すこぶる壁	ローム粒10%		20	黒褐色 10YR 2/2	壁	ローム粒1%		
8	にぶい 黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・焼土ブロック ・ローム粒40%		21	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒・炭10%	
9	黒褐色 10YR 3/2	壁	焼土ブロック・焼土粒50%	焼土	22	黒褐色 10YR 2/2	壁	ローム粒・炭5%		
10	黒褐色 10YR 3/2	すこぶる壁	ローム粒・炭15%	HP上部	23	黒褐色 10YR 3/2	壁	ローム粒3%		
11	にぶい 黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒 ・炭30%	粘り床か	24	にぶい 黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒 ・炭40%
12	暗褐色 10YR 3/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒40%		25	黒褐色 10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒 ・炭30%		
13	黒色 10YR 1.7/1	壁	ローム粒1%	Ⅱ層相当						



図IV-51 OH-15 (2)



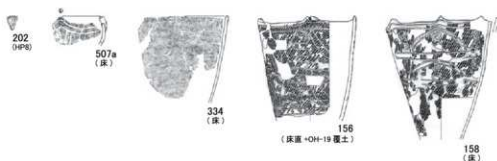
遺構名	No.	土色	堅密度	混入物	その他
HF1	1	褐色	7.5YR 4/4	堅	佛土粒・佛土ブロック40%
	2	暗褐色	10YR 3/4	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	4	暗褐色	7.5YR 3/3	堅	佛土粒・ローム粒3%
	5	褐色	7.5YR 4/6	すこぶる堅	
HF2	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒40%
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	褐色	7.5YR 4/6	すこぶる堅	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%
HF3	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
	2	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる堅	佛土、IV層が挟がる
HP1	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒・皮20%
	2	暗褐色	10YR 3/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒10%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	5	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP2-3	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・皮10%
	3	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅	ロームブロック・ローム粒・皮15%
HP4	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP5-6	2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
HP5-6	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%
HP7-8	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%

図IV-52 OH-15 (3)

OH-15HF-HP					
通構名	№	工色	壁密度	遊入物	その他
HP9-78	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒3%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒3%
HP10	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	3	黒褐色	10YR 4/4	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP11	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP12-13	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒色	10YR 2/1	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP14-60	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒40%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒7%
	4	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
HP15	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒7%
HP16-77	1	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
HP17	1	黒色	10YR 2/1	敷	ローム粒5%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	4	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒3%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
HP19	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP20-21	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP23	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒40%
HP24	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP25-27	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP28	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP28	1	暗褐色	10YR 3/3	やや敷	ローム粒7%
HP28	2	暗褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒10%
HP29	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒2%
	2	暗褐色	10YR 3/3	壁	ローム粒10%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒・皮25%
HP30	1	暗褐色	10YR 3/3	やや敷	ローム粒・皮5%
HP31	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒・皮25%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
HP32	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒・皮7%
HP33-34	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒5%
HP35-60	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒7%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒40%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	4	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒・皮3%
	5	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP36	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒・皮15%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒40%
HP37	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒3%
	2	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP38-61	1	黒褐色	10YR 3/1	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒7%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP39	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP40	1	褐色	10YR 4/1	壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP41	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP42-70	1	暗褐色	10YR 3/1	壁	ロームブロック・ローム粒・皮10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP43	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
HP44-45	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック50%
	2	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒2%
HP46	1	暗褐色	10YR 3/4	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%
	3	暗褐色	10YR 3/3	壁	ロームブロック・ローム粒10%
HP47	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒7%
HP48	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒・皮3%
HP49	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	ローム粒・皮3%
HP50-51 *52	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒30%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ローム粒10%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%
HP53	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP54	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
HP55	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP56-69	1	黒褐色	10YR 3/2	やや敷	ローム粒3%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%

図IV-53 OH-15 (4)

OH-15H-1HP		土色	堅密度	混入物	その他	
HP57	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭15%	
HP58	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック50%	
HP59	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭30%	
HP62-63	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒3%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
HP64-65 +66	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒3%	
HP67	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック50%	
HP68	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%	
HP71	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・炭3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
HP73	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
HP74	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%	
HP79-a	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	炭2%	磁りローム
OH-14	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒20%	
HP1	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%	
	4	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる堅		徳土、IV層が積っている
	5	赤褐色	5YR 4/6	堅		徳土、土層6が積っている
	6	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	7	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	



図IV-54 OH-15 (5)

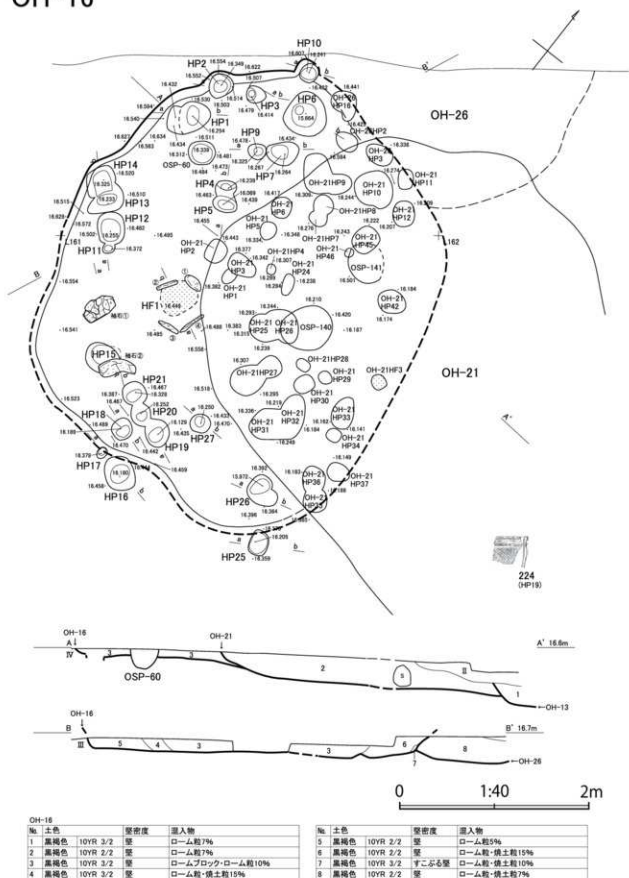
9 柱穴状小ピット (図IV-130~160、表1、図版43)

柱穴状小ピット (OSP) は、93~94、98~106、155~171ラインに集中する。いずれも住居跡が集中する地点。この小ピットが、耕作などの削平によって認定できなかった住居の柱穴であった可能性がある。ただし、住居跡の覆土を切って構築された例のうち、柱あたりがあるものは、複数で掘立柱建物の柱であった可能性が推定される。なお、遺構調査終了後黒褐色土の落ち込みをすべて掘り上げる過程で、多数の小ピットを検出した。断面の記録ができなかったものは、平面図にレベルを記載してある。OSP-1、149、294から焼骨が得られており、OSP-294出土のものが硬骨魚類?と同定された。小ピットの時期は、覆土から出土した土器がIV群a類に限られることから、縄文時代後期前葉と考えられる。(福井)

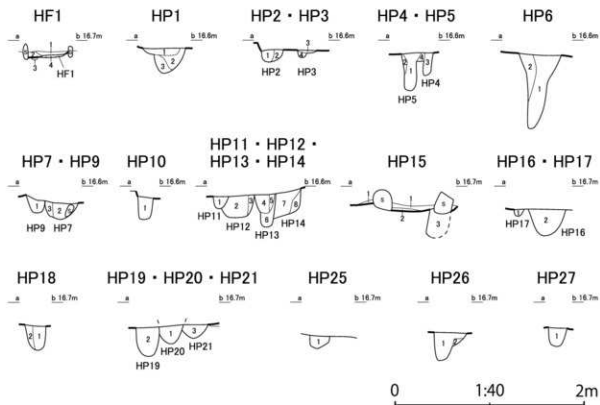
10 小沢 (図IV-17、表1、図版6)

調査区北東側のK171~173で小沢の一部が確認された。北東側の斜面に向かっている。覆土は、土色・混入物からm層と同様のものと判断した。土色は、灰黄褐色、褐色、暗褐色、黒褐色、黒色を呈していた。土層には、ロームブロック、ローム粒、炭、焼土粒などが含まれており、多くの遺物が出土した。(120ページへ続く)

OH-16



図IV-55 OH-16 (1)

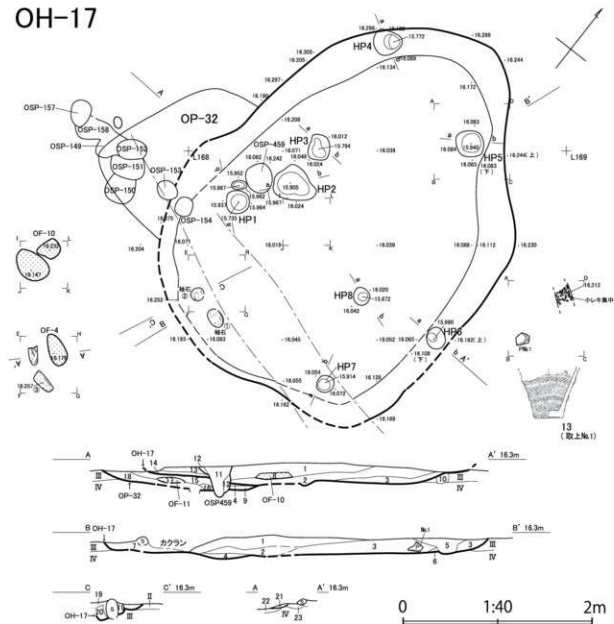


OH-16HF・HP

遺構名	№	土色	堅密度	混入物	その他
HF1	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	焼土粒・焼土ブロック10%
	2	暗褐色	10YR 3/4	堅	ローム粒15%
	3	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	4	明赤褐色	5YR 5/6	堅	
HP1	1	黒褐色	10YR 3/1	堅	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	3	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP2-3	1	黒褐色	10YR 3/1	堅	ローム粒2%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒5%
	4	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP4-5	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒2%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒5%
	4	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP6	1	黒褐色	10YR 3/1	軟	ローム粒2%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP7-9	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP10	1	黒色	10YR 1.3/1	堅	ローム粒2%
	11-12	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP11-14	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒5%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	6	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒2%
	7	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム・炭2%
HP15	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%
HP16-17	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒5%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・焼土粒・炭3%
HP18	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭19%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
HP19-20	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭7%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP25	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・炭5%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP26	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒2%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP27	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒50%

図IV-56 OH-16 (2)

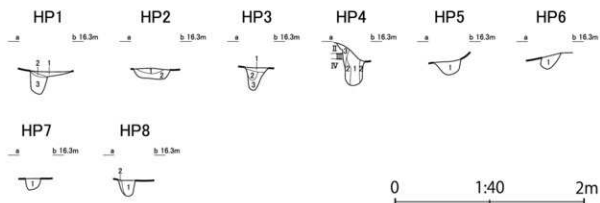
OH-17



OH-17-OSP-32

№	土色	層	厚	密度	混入物	その他
1	黒褐色	10YR	3/2	堅	ローム粒・炭15%	
2	黒褐色	10YR	3/2	堅	ローム粒10%	
3	黒褐色	10YR	2/2	堅	ローム粒5%	
4	黒褐色	10YR	3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
5	黒褐色	10YR	3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%	
6	黒褐色	10YR	3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
7	黒褐色	10YR	3/2	堅	ローム粒5%	OH-18土層15層に依る
8	黒褐色	7.5YR	3/2	堅		積土
9	にがい黄褐色	10YR	4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒25%	
10	黒褐色	10YR	3/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
11	黒褐色	10YR	3/2	堅	ローム粒・炭10%	SP
12	褐色	10YR	4/4	堅	ロームブロック・ローム粒40%	SP
13	灰黄褐色	10YR	4/2	堅	ローム粒5%	OH-18
14	黒褐色	10YR	3/2	堅	ローム粒2%	OH-18
15	黒褐色	10YR	3/2	堅	ローム粒7%	OH-18
16	黒褐色	10YR	3/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%	OH-18
17	赤褐色	5YR	4/5	堅	積土 小礫30%	OH-18
18	黒褐色	10YR	2/2	堅	ローム粒1%	OH-18
19	黒褐色	10YR	2/2	堅	ローム粒2%	
20	褐色	10YR	4/4	堅	ロームブロック・ローム粒5%	
21	褐色	7.5YR	4/4	堅		積土
22	暗褐色	10YR	3/3	堅	ローム粒7%	OH-18覆土
23	暗褐色	10YR	3/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%	OH-18覆土

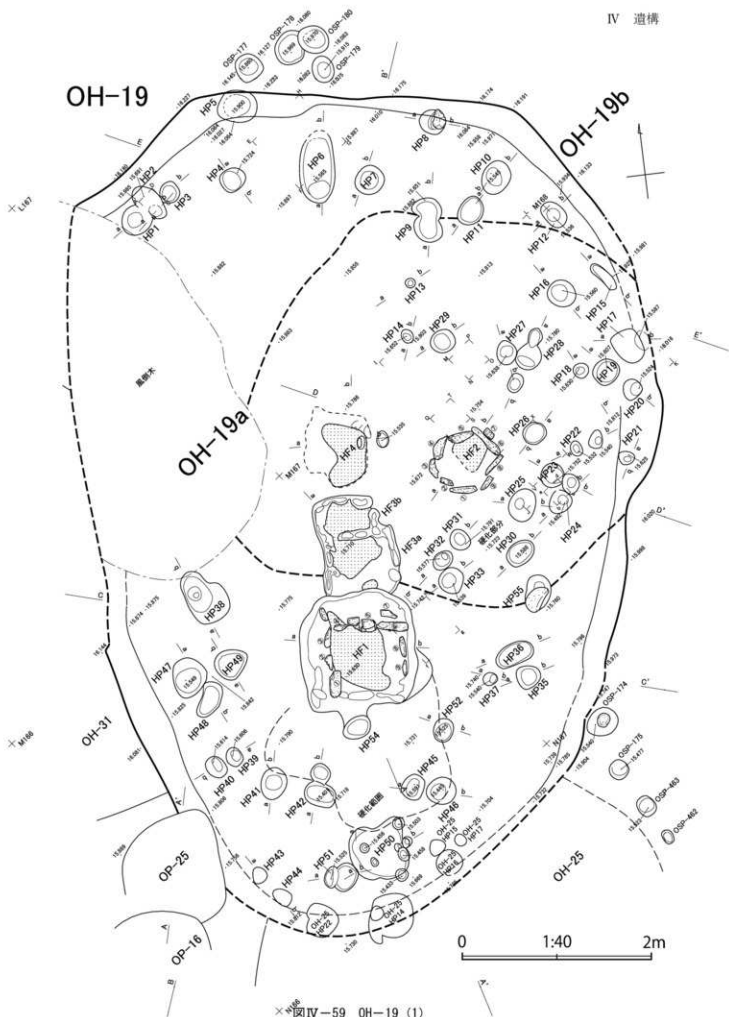
図IV-57 OH-17 (1)



OH-17HP			
遺構名 No.	土色	堅密度	遺人物
HP1	1 灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅
	2 濃い黄褐色	10YR 5/4	ローム層50%炭1%
	3 に近い黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅
HP2	1 灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	2 黒褐色	10YR 3/2	堅
	3 に近い黄褐色	10YR 4/3	やや軟
HP3	1 黒褐色	10YR 3/2	堅
	2 黒褐色	10YR 2/2	やや軟
	3 に近い黄褐色	10YR 4/3	やや軟
HP4	1 黒褐色	10YR 3/2	堅
	2 に近い黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅
	3 に近い黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅
HP5	1 黒褐色	10YR 3/2	堅
HP6	1 褐色	10YR 4/4	堅
HP7	1 に近い黄褐色	10YR 4/3	堅
HP8	1 黒褐色	10YR 3/2	堅
	2 灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅

図IV-58 OH-17 (2)

の底面はV層とした段丘礫層に達していた。IV層（ローム層）では平滑に浸食されているが、V層（礫層）に達すると凹凸が激しくなっていた。（福井）



× OH-19
 图IV-59 OH-19 (1)

北 15.3m



A. 15.1m



C. 15.2m



HP54

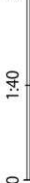
D. 15.2m



E. 15.3m



北 15.3m

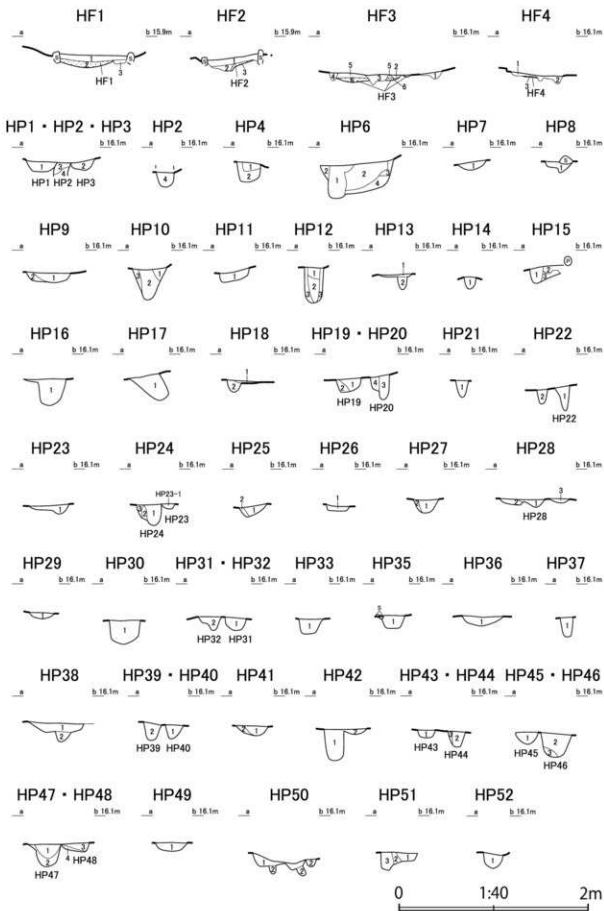


OH-19

物	土色	層深表	埋入物	その他
1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛1%	
2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛15%	
3	黒褐色	10YR 5/6 中	ロ-△鉛・炭10%	
4	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
5	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
6	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
7	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
8	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
9	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛3%	
10	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛3%	
11	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛1%	
12	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛2%	
13	赤褐色	10YR 4/2 堅	ロ-△鉛10%	
14	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
15	黒褐色	10YR 2/1 堅	ロ-△鉛・炭10%	
16	黒褐色	10YR 2/1 堅	ロ-△鉛2%	
17	にじみ黄褐色	10YR 4/3 堅	ロ-△鉛・炭10%	

物	土色	層深表	埋入物	その他
18	暗褐色	10YR 2/3 堅	ロ-△鉛2%	
19	暗褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛2%	
20	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
21	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
22	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛2%	
23	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
24	にじみ黄褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
25	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛5%	
26	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛5%	
27	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛15%	
28	暗褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛3%	
29	暗褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
30	にじみ黄褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
31	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
32	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭5%	
33	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛1%	
34	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロ-△鉛20%	
35	黒褐色	10YR 1/1 堅	ロ-△鉛2%	

物	土色	層深表	埋入物	その他
36	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛2%	
37	黒褐色	10YR 2/3 堅	ロ-△鉛1%	
38	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロ-△鉛5%	
39	暗褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛1%	
40	暗褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛2%	
41	暗褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛2%	
42	にじみ黄褐色	10YR 4/3 堅	ロ-△鉛2%	
43	暗褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
44	暗褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
45	暗褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛2%	
46	暗褐色	10YR 2/2 堅	ロ-△鉛・炭10%	
47	暗褐色	10YR 3/2 堅	ロ-△鉛・炭7%	
48	暗褐色	10YR 2/1 中軟	ロ-△鉛・炭10%	
49	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロ-△鉛・炭5%	
50	暗褐色	10YR 3/1 堅	ロ-△鉛1%	



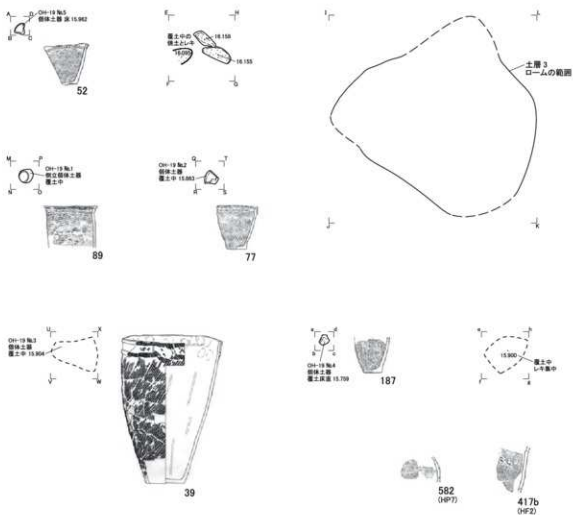
圖IV-61 OH-19 (3)

OH-19HF-HP					
遺構名	No.	土色	堅硬度	混入物	その他
HF1	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	徳土粒・ローム粒・ロームブロック7%	
	2	赤褐色	5YR 4/8 堅		徳土、ロームが散れる
	3	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HF2	1	黒褐色	10YR 3/2 堅		HF1のと同じ
	2	褐色	7.5YR 4/6 やや軟	徳土粒・徳土ブロック30%	
	3	明赤褐色	5YR 5/6 すこぶる堅		徳土
HF3	1	黒褐色	10YR 3/2 やや軟	ローム粒5%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 すこぶる堅	ローム粒1%	
	3	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒40%	
	4	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒3%	
	5	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	6	赤褐色	5YR 4/6 すこぶる堅		徳土、ロームが散れる
HF4	1	黒色	10YR 2/1 堅	ローム粒1%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 やや軟	徳土粒・炭7%	
	3	明赤褐色	5YR 5/8 すこぶる堅		徳土、ロームが散れる
HP1・2・3	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒2%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒5%	
HP4	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒・炭3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・徳土ブロック・炭30%	
HP6	1	褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒5%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	3	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
HP7	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・徳土粒・炭7%	
HP8	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒・徳土粒・炭10%	
HP9	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%	
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ローム粒2%	
HP10	1	にぶい黄褐色	10YR 5/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ローム粒・炭2%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP11	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・徳土粒・炭15%	
HP12	1	にぶい黄褐色	10YR 5/3 堅	ローム粒5%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 軟	ローム粒3%	
	3	褐色	10YR 4/4 すこぶる堅	ローム100%	
HP13	1	灰黄褐色	10YR 4/2 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・炭30%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒40%	
HP14	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
HP15	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	2	黒色	10YR 2/2 堅	ローム粒・炭2%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
HP16	1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%	
HP17	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%	
HP18	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ロームブロック・ローム粒40%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒3%	
HP19・20	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ロームブロック・ローム粒・炭30%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	3	黒色	10YR 2/1 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	4	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
HP21	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%	
HP22	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	2	黒褐色	10YR 3/1 堅	ロームブロック・ローム粒40%	
HP23	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒3%	
HP24	1	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/3 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒7%	
HP25	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒5%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP26	1	黒色	10YR 2/1 堅	ローム粒2%	
HP27	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒・炭5%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP28	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%	
	2	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒・炭2%	
	3	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒・炭3%	
HP29	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒2%	
HP30	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP31・32	1	黒褐色	10YR 3/2 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒25%	
HP33	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
HP35	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
HP36	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒10%	
HP37	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
HP38	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒7%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 やや軟	ロームブロック・ローム粒20%	ロームの割れ目に入るように多数、自然か
HP39・40	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒5%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒25%	
HP41	1	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/4 すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP42	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%	

図IV-62 OH-19 (4)

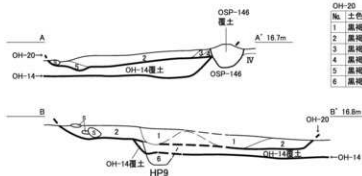
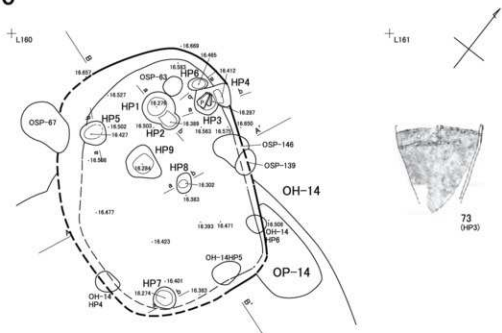
OH-19F-HP

遺構名	施	土色	層厚	壁密度	埋人物	その他
HP43-44	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒15%	
	2	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒7%	
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒50%	
HP45-46	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒2%	
	2	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒7%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒50%	
HP47-48	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒15%	
	3	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒7%	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒30%	
HP49	1	褐灰色	10YR 4/1	壁	ローム粒2%	先端p+1
HP50	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや壁	ロームブロック・ローム粒40%	
HP51	1	黒褐色	10YR 3/1	壁	ロームブロック・ローム粒20%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒50%	
	3	黒褐色	10YR 3/1	壁	ロームブロック・ローム粒10%	
HP52	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%	
HP54	1	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒1%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	軟	ローム粒15%	



図IV-63 OH-19 (5)

OH-20



OH-20			
No.	土色	堅密度	混入物
1	黒褐色	10YR 3/2	堅 機土ブロック・機土粒・ローム粒・炭15%
2	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒10%
3	黒褐色	10YR 3/2	堅 ロームブロック・ローム粒15%
4	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒7%
5	黒褐色	10YR 2/2	堅 ローム粒・機土粒15%
6	黒褐色	10YR 2/2	堅 ローム粒・炭10%

HP1・HP2



HP3・HP4



HP5



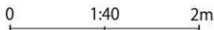
HP6



HP7



HP8

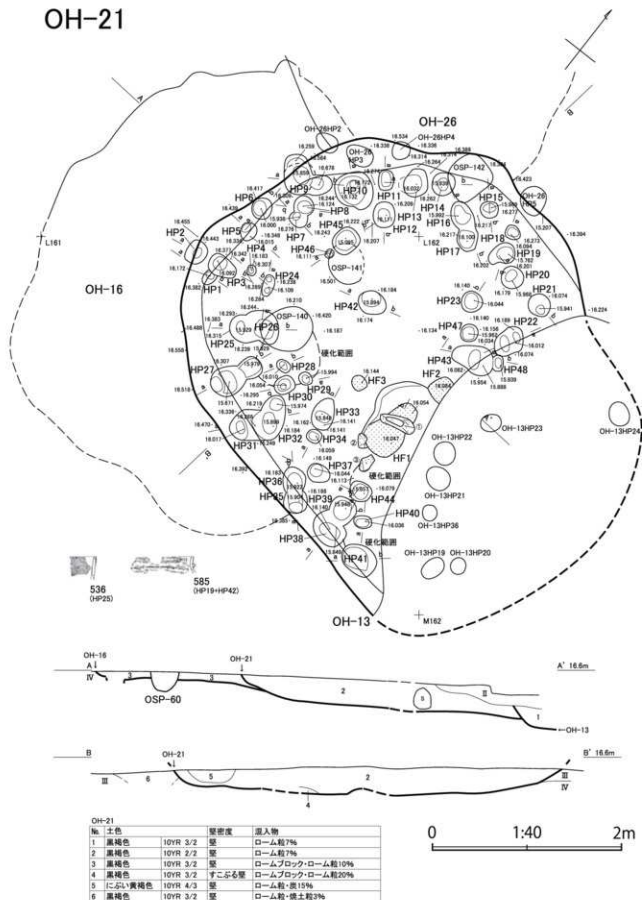


OH-20HP

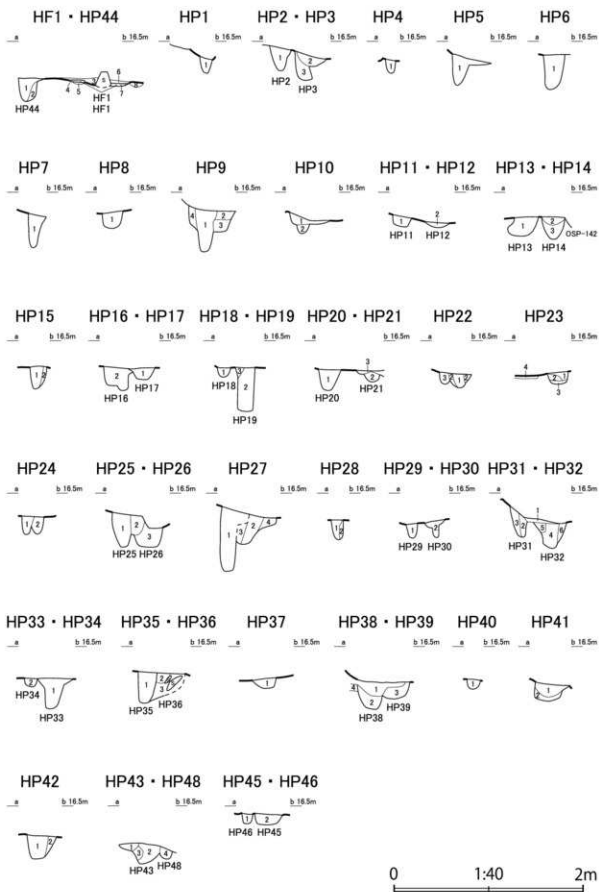
遺構名	No.	土色	堅密度	混入物	その他	
HP1-2	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒3%	
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	3	灰白色	7.5Y 8/1	すこぶ堅		粘土
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・機土粒・炭10%	
	5	にぶい黄褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒・炭20%	
HP3-4	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	機土粒・ローム粒・炭15%	
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒・炭7%	
HP5	1	暗褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%	
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・炭5%	
HP6	1	暗褐色	10YR 3/4	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	暗褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・機土粒・炭10%	
HP7	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	2	暗褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭3%	
HP8	1	暗褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・機土粒15%	
	2	暗褐色	10YR 3/2	堅		

図IV-64 OH-20

OH-21



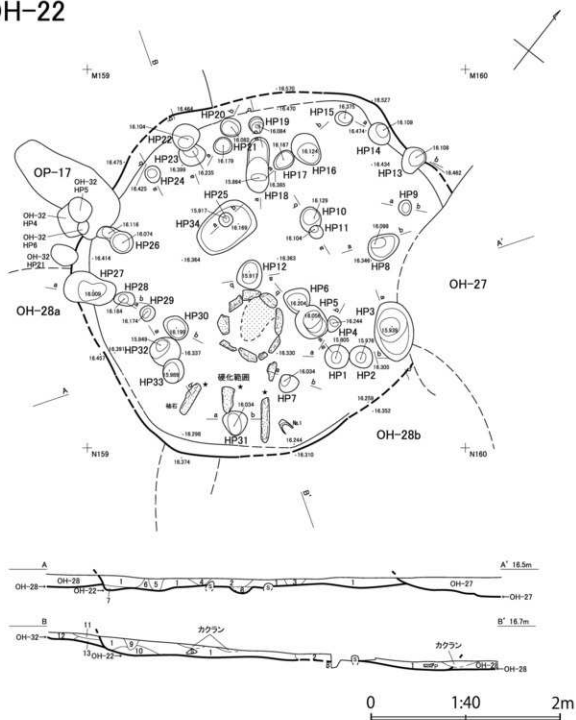
図IV-65 OH-21 (1)



OH-21HF-HP							
造構名	No	土色	堅密度	混入物	その他		
HF1-HP44	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒50%		
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%		
	4	褐色	7.5YR 4/6	堅			積土
	5	黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒2%		
	6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	積土ブロック・ローム粒15%		
	7	褐色	7.5YR 4/6	すこぶ硬			積土、ロームが混じる
	8	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
HP1	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%		
HP2-3	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
	3	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒3%		
HP4	1	黒褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%		
HP5	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒25%		
HP6	1	黒褐色	10YR 3/2	軟	ロームブロック・ローム粒10%		
HP7	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒1%		
HP8	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒1%		
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒3%		
HP10	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%		
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%		
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%		
HP11-12	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%		
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%		
HP13-14	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒1%		
	2	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒2%		
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%		
HP15	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%		
HP16-17	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%		
	2	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒2%		
HP18-19	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%		
	2	黒褐色	10YR 3/1	やや軟	ローム粒1%		
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%		
HP20-21	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
HP22	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%	OH217クド	
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒3%		
	3	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒7%		
HP23	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
	3	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒1%		
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%		
HP24	1	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%		
HP25-26	1	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒2%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒15%		
	3	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒1%		
HP27	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭2%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒10%		
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%		
	4	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒2%		
HP28	1	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒15%		
	2	黄褐色	10YR 5/6	堅	ロームブロック・ローム粒50%		
HP29-30	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒3%		
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%		
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%		
HP31-32	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%		
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒15%		
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%		
	4	黒褐色	10YR 3/1	やや軟	ローム粒2%		
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%		
	6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%		
HP33-34	1	灰黄褐色	10YR 4/2	やや軟	ローム粒%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%		
	3	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
HP35-36	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒3%		
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%		
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒15%		
HP37	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒3%		
HP38-39	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭2%		
	2	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒25%		
	3	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒20%		
HP40	4	黄褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%		
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭7%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒3%		
HP41	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒1%		
HP42	1	黒褐色	10YR 3/1	やや軟	ローム粒3%	1より明るい	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%		
HP43-48	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭7%		
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%		
HP45-46	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%		
	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%		
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%		

図IV-67 OH-21 (3)

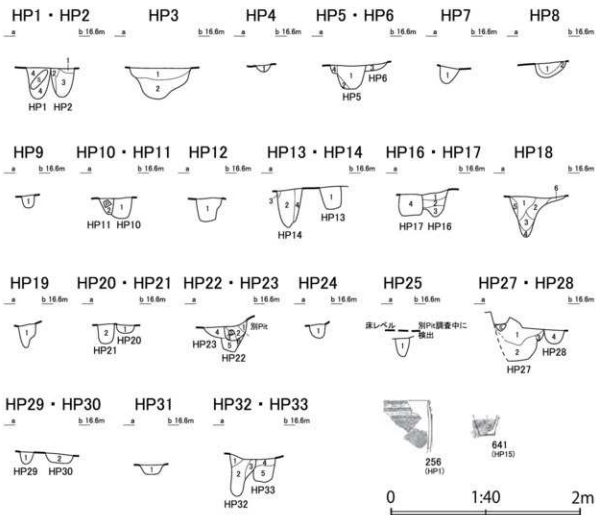
OH-22



No.	土色	堅硬度	混入物	その他
1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒1%
2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	焼土粒・ローム粒・炭10%
3	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒1%
4	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒1%
5	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒1%
6	褐色	10YR 4/4	堅	クロボクブロック・ローム粒50%
7	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	クロボクブロック・ローム粒50%
8	褐色	7.5YR 4/6	堅	焼土ブロック・ロームブロック30%
9	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒1%
10	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
11	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒5%
12	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭5%
13				II層相当



図IV-68 OH-22 (1)



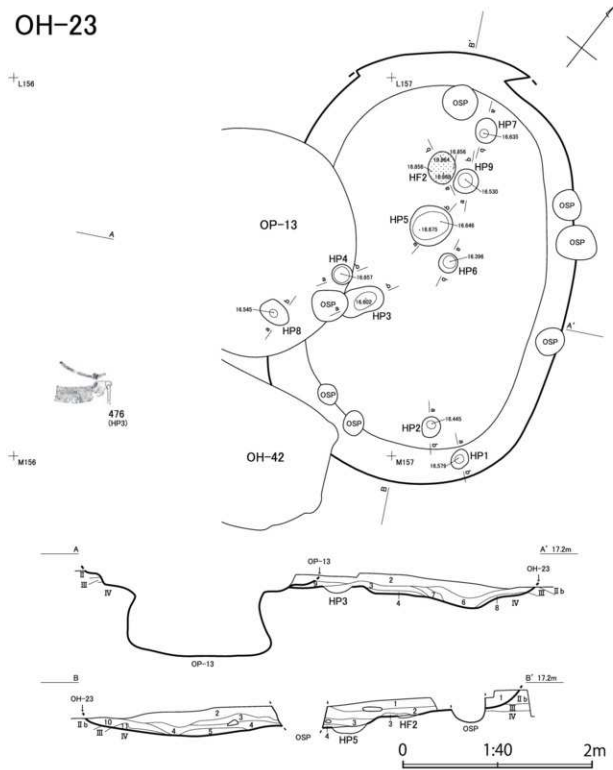
OH-22HP

造構名	No.	土色	堅密度	混入物
HP1-2	1	反黄褐色	10YR 4/2	堅
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
HP3	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	反黄褐色	10YR 4/2	堅
HP4	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
HP5-6	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	4	褐色	10YR 4/4	堅
HP7	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅
HP8	1	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅
HP12	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
HP13-14	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	2	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	4	にぶい黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅
	5	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅
HP16-17	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅
HP18-18	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅
	3	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	4	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅

造構名	No.	土色	堅密度	混入物
HP18	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	5	にぶい黄褐色	10YR 5/3	堅
HP19	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅
HP20-21	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅
	3	反黄褐色	10YR 4/2	堅
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅
HP22-23	1	黒褐色	10YR 3/2	堅
	2	反黄褐色	10YR 4/2	堅
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅
HP25	1	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	2	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	3	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅
HP27-28	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	4	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅
HP29-30	1	明黄褐色	10YR 5/6	すこぶる堅
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅
HP31	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
HP32-33	1	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅
	3	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅
	4	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅
	5	暗褐色	10YR 3/3	堅

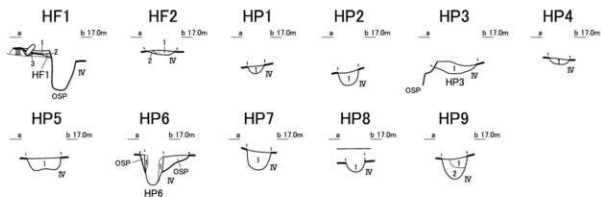
図IV-69 OH-22 (2)

OH-23



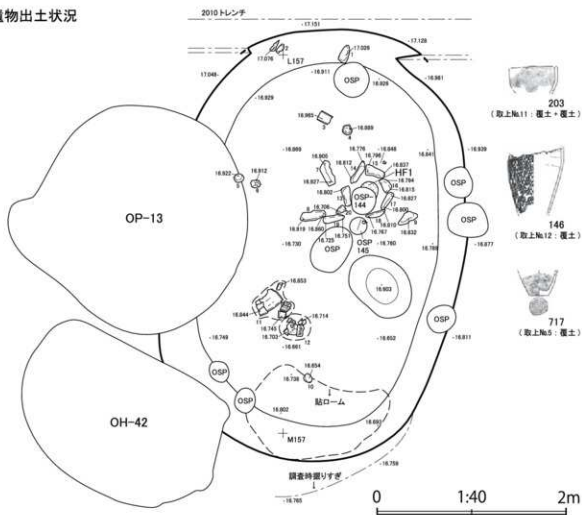
OH-23							
No.	土色	粘性	しまり	層厚	埋入物	その他	
1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物、骨片10%混じる	
2	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	自然	5cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物、骨片7%混じる	
3	黒色	10YR 2/1	なし	あり	自然	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
4	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
5	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
6	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒7%混じる	
7	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒10%混じる	
8	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒10%とまがら状に混じる	
9	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
10	褐色	10YR 4/6	なし	あり	自然	30cm以下の焼土・暗褐色土ブロック7%と面状に混じる	硬い
11	黒褐色	10YR 3/2	なし	あり	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒7%混じる	硬い

図IV-70 OH-23 (1)



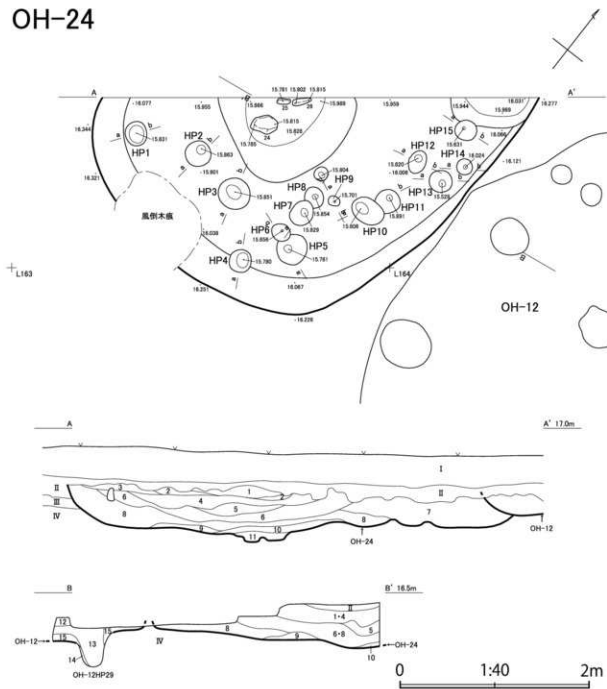
OH-23HF-HP		土色	粘性	しまり	層界	混入物	その他
HF1	1	黒褐色	10VR 2/2	なし	なし	判然	5mm以下の焼土粒、炭化物7%混じる
	2	赤褐色	5VR 4/8	なし	あり	漸変	
	3	暗褐色	10VR 3/4	なし	ややあり	漸変	徳成した官層
HF2	1	褐色	10VR 4/6	なし	ややあり	漸変	
	2	黒褐色	10VR 2/3	なし	あり	漸変	徳成IV層
HP1	1	黒褐色	10VR 2/3	なし	ややあり	判然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物9%混じる
	2	黒褐色	10VR 2/2	なし	ややあり	断然	10mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物3%混じる
HP2	1	黒褐色	10VR 2/3	なし	ややあり	判然	5mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物5%混じる
	2	黒褐色	10VR 2/2	なし	ややあり	判然	10mm以下の黄褐色土粒5%混状に混じる
HP3	1	黒褐色	10VR 2/3	なし	ややあり	判然	5mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
	2	黒褐色	10VR 2/2	なし	ややあり	判然	10mm以下の黄褐色土粒5%混状に混じる
HP5	1	黒色	10VR 1.7/1	なし	なし	断然	5mm以下の黄褐色土粒、炭化物1%混じる
	2	褐色	10VR 4/6	なし	あり	判然	10mm以下の暗褐色土5%混状に混じる
HP6	1	暗褐色	10VR 3/4	なし	あり	断然	10mm以下の焼土粒、炭化物、骨片7%混じる
	2	暗褐色	10VR 2/2	なし	ややあり	判然	1mm以下の黄褐色土粒3%混じる
HP7	1	暗褐色	10VR 3/4	なし	あり	断然	10mm以下の焼土粒、炭化物、骨片7%混じる
	2	暗褐色	10VR 2/2	なし	ややあり	判然	10mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物7%混じる
HP8	1	暗褐色	10VR 3/4	なし	あり	断然	10mm以下の焼土粒、炭化物、骨片7%混じる
	2	黒色	10VR 1.7/1	なし	なし	断然	20mm以下の黄褐色土粒3%混状に混じる

遺物出土状況



図IV-71 OH-23 (2)

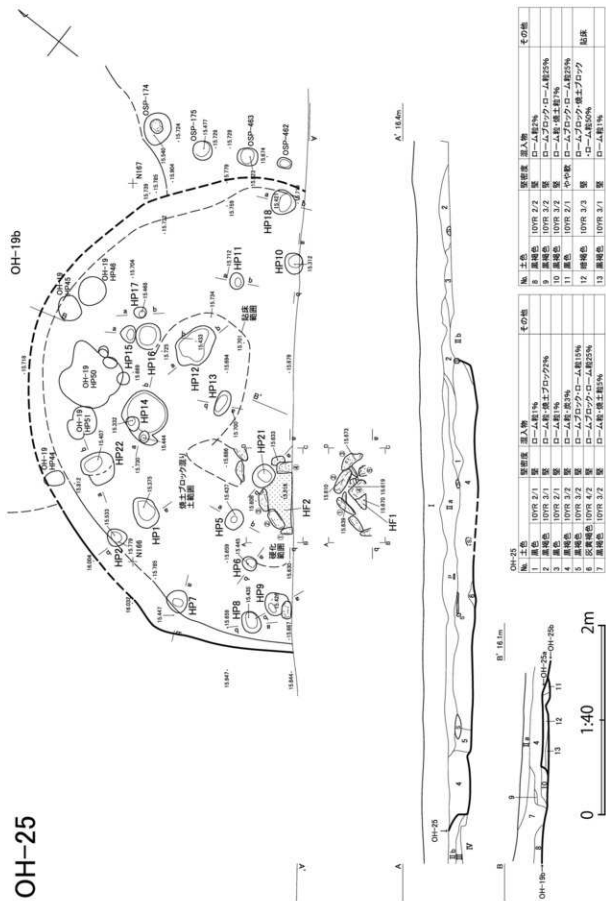
OH-24



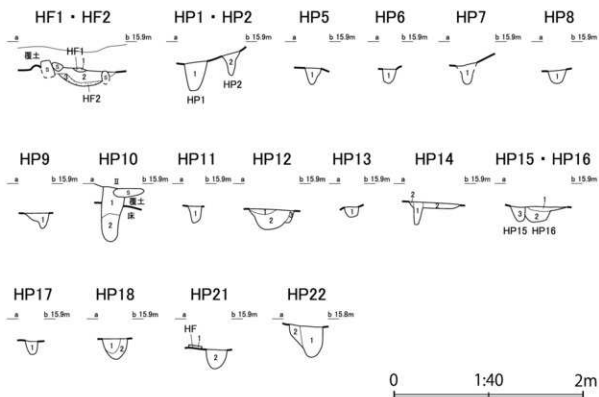
No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
1	黒褐色	10YR 3/1	ややあり		黄褐色土粒3%, 炭化物2%混じる	すこぶる堅
2	黒褐色	10YR 3/1	なし		黄褐色土粒23%, 炭化物1%混じる	すこぶる堅
3	黒褐色	10YR 3/1	ややあり		黄褐色土粒3%, 炭化物2%混じる	堅
4	黒褐色	10YR 3/2	ややあり		黄褐色土粒7%, 炭化物3%混じる	堅
5	明黄褐色	10YR 7/6	なし		黒褐色土ブロック20%, 炭化物3%混じる	すこぶる堅
6	黒褐色	10YR 3/1	なし		黄褐色土粒30%, 炭化物5%混じる	堅
7	灰黄褐色	10YR 4/2	ややあり		黄褐色土粒5%, 炭化物3%	堅
8	灰黄褐色	10YR 4/2	なし		黄褐色土粒7%, 炭化物3%混じる	堅
9	黒褐色	10YR 3/1	なし		黄褐色土粒5%, 炭化物7%	すこぶる堅
10	黒褐色	10YR 3/1	なし		黄褐色土粒30%, 炭化物3%混じる	堅
11	黒褐色	10YR 3/1	あり		黄褐色土粒10%, 炭化物3%混じる	軟
12	黒色	10YR 2/1	なし	なし	5mm以下の黄褐色土粒、焼土粒3%混じる	
13	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然 10mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物7%混じる	
14	褐色	10YR 4/6	なし	ややあり	判然 20mm以下の暗褐色土粒5%混状に混じる	
15	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然 10mm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	

図IV-72 OH-24 (1)

OH-25



図IV-74 OH-25 (1)

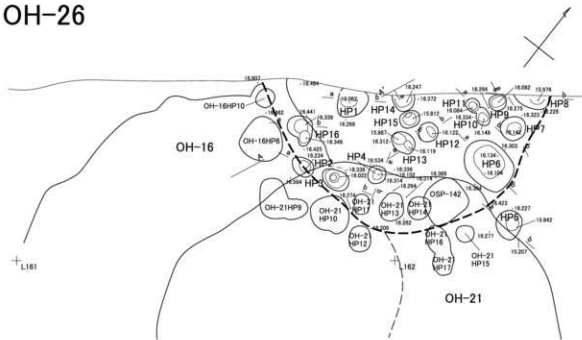


OH-25HF-HP

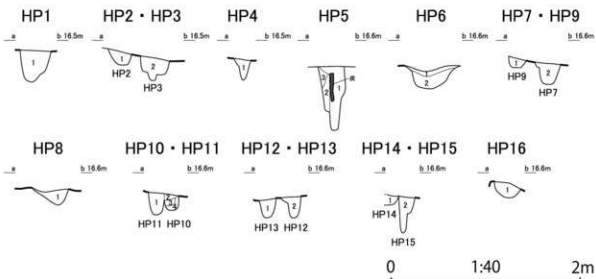
屋根色	%	土色	屋根度	置人物	その他
HF1・2	1	褐色	7.5YR 4/6	壁	旗土
	2	黒褐色	10YR 3/1	やや軟	ローム粒1%
	3	赤褐色	5YR 4/8	すこぶる壁	
HP1・2	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	ローム粒・旗土粒・炭7%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒50%
HP5	1	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP6	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒・旗土粒3%
HP7	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒7%
HP8	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒5%
HP9	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒3%
HP10	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒・旗土粒・炭20%
	2	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒5%
HP11	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒40%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	3	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒3%
HP13	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ローム粒5%
HP14	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒7%
HP15・16	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒10%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒15%
	3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒2%
HP17	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒30%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒7%
HP18	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒・炭1%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒30%
HP21	1	明赤褐色	5YR 5/8	すこぶる壁	旗土、やけローム
	2	黒褐色	10YR 3/1	壁	ロームブロック・ローム粒2%
HP22	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒5%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒30%

図IV-75 OH-25 (2)

OH-26



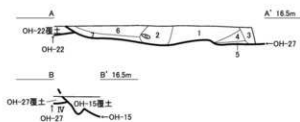
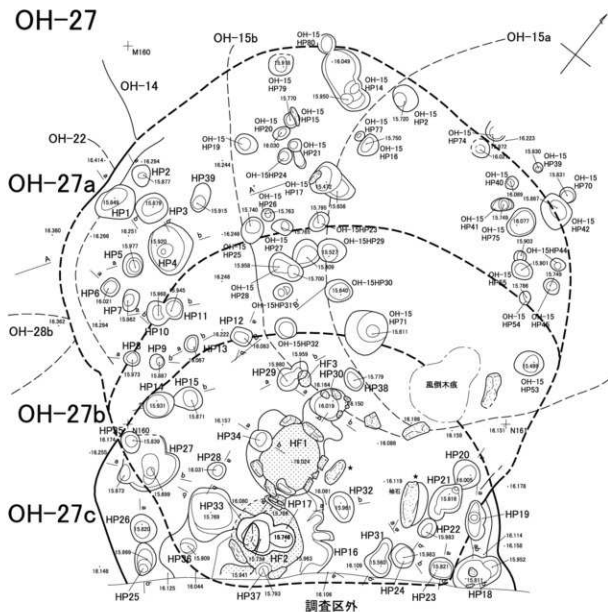
OH-26					
No.	土色	壁密度	深人物		
1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒	焼土粒15%
2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	ローム粒	焼土粒10%
3	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒	焼土粒7%



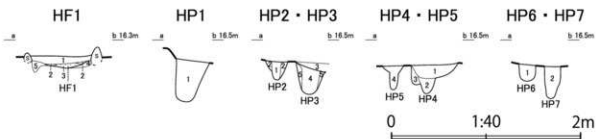
OH-26HP					
遺構名	No.	土色	壁密度	深人物	その他
HP1	1	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒5%
HP2-3	1	褐色	10YR 4/4	壁	ロームブロック・ローム粒5%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒3%
HP4	1	にぶい 黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒・灰・焼土粒5%
HP5	1	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒15%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ローム粒2%
HP6	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒・灰3%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
HP7-9	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒2%

遺構名	No.	土色	壁密度	深人物	
HP8	1	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒1%
HP10-11	1	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒2%
HP12-13	1	にぶい 黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒50%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒2%
HP14-15	1	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP14-15	1	黒色	10YR 2/1	壁	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒・灰2%
HP16	1	黒色	10YR 1.7/1	壁	ローム粒2%

図IV-76 OH-26



OH-27				
No.	土色	壁密度	埋入物	その他
1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒・灰5% 瓦割木炭か
2	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック -ローム粒25% 瓦割木炭か
3	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒5%
4	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒3%
5	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック -ローム粒10%
6	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒5%
7	黒褐色	10YR 2/2	壁	ロームブロック -ローム粒10%



図IV-77 OH-27 (1)

HP8・HP9

a b 16.5m



HP10・HP11

a b 16.5m



HP12

a b 16.5m



HP13

a b 16.5m



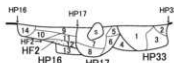
HP14・HP15

a b 16.5m



HP16・HP17・HP33

a b 16.5m



HP18

a b 16.5m



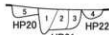
HP19

a b 16.5m



HP20・HP21・HP22

a b 16.5m



HP23

a b 16.5m



HP24

a b 16.5m



HP25・HP26

a b 16.5m



HP27

a b 16.5m



HP28

a b 16.5m



HP29

a b 16.5m



HP30

a b 16.5m



HP31

a b 16.5m



HP32

a b 16.5m



HP34

a b 16.5m



0 1:40 2m

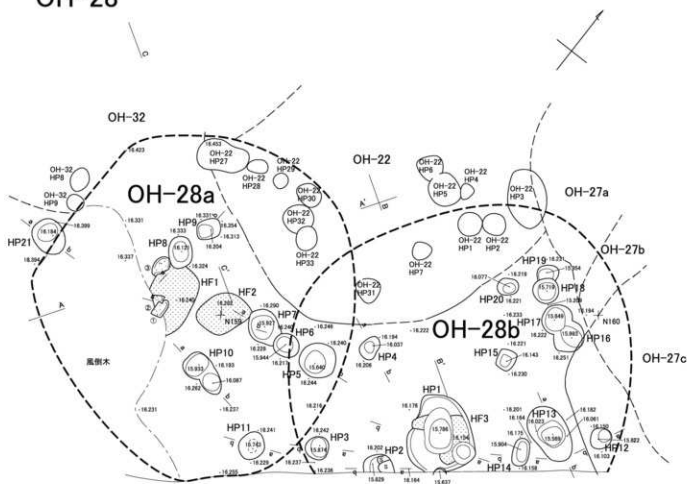
OH-27H-HP

遺構名	№	土色	堅密度	混入物
HP1	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・焼土粒5%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	焼土・ロームブロック15%
	3	褐色	7.5YR 4/6 堅	焼土・ブロック50%
	4	褐色	10YR 4/6 堅	ロームブロック・ローム粒50%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3 中	ロームブロック・ローム粒50%
HP1	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒7%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒10%
HP2-3	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・ロームブロック7%
	4	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・ロームブロック15%
	5	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP4-5	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%
	4	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒25%
	5	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒5%
HP6-7	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒5%
HP8-9	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒10%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒5%
HP10-11	1	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒30%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒15%
HP12	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒3%
HP13	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒3%
	2	黒褐色	10YR 4/2 堅	ローム粒3%
HP14-16	1	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%
	4	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%
	5	黒褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%

遺構名	№	土色	堅密度	混入物	
HP16-17	6	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	7	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭3%	
	8	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒2%	
	9	黒色	10YR 2/1 堅	ローム粒2%	
	10	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒・焼土粒7%	
	11	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・焼土粒10%	
	12	褐色	7.5YR 4/4 堅	焼土	
	13	黒色	10YR 1/1/1 堅	ローム粒2%	
	14	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒・炭3%	
	HP18	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒2%
	HP19	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%
		2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒15%
		3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%
	HP20-21	1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒・炭5%
2		黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
3		にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
4		黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%	
5		灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%	
HP23	1	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒・炭7%	
HP25-26	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭5%	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP27	1	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ローム粒10%	
	2	黒褐色	10YR 3/1 軟	ロームブロック・ローム粒10%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP28	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
HP29	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
HP30	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒10%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%	
	4	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	5	黒褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%	

図IV-78 OH-27 (2)

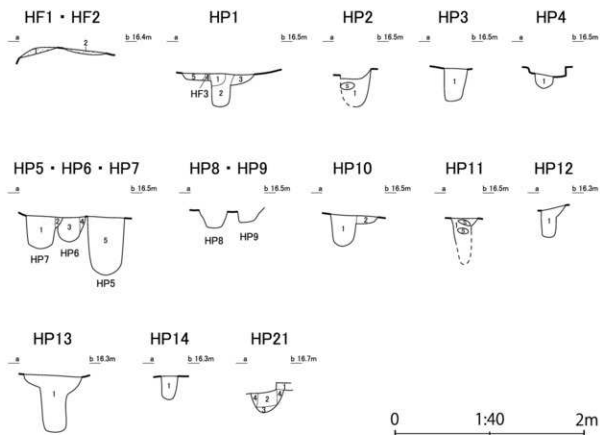
OH-28



OH-28		壁密度	混入物
№	土色		
1	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒1%
2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅 ローム粒1%・S層の落ち込み
3	灰黄褐色	10YR 4/2	堅 ローム粒1%・S層の落ち込み
4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅 クロボクブロック・ローム粒50%
5	褐色	10YR 4/4	堅 クロボクブロック・ローム粒50%
6	黒褐色	10YR 3/2	堅 ロームブロック・ローム粒2%

OH-28		壁密度	混入物
№	土色		
7	暗褐色	10YR 3/3	堅 ローム粒・焼土粒・炭7%
8	にぶい黄褐色	10YR 5/3	堅 ロームブロック・ローム粒50%
9	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒3%
10	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒2%
11	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅 ロームブロック・ローム粒15%

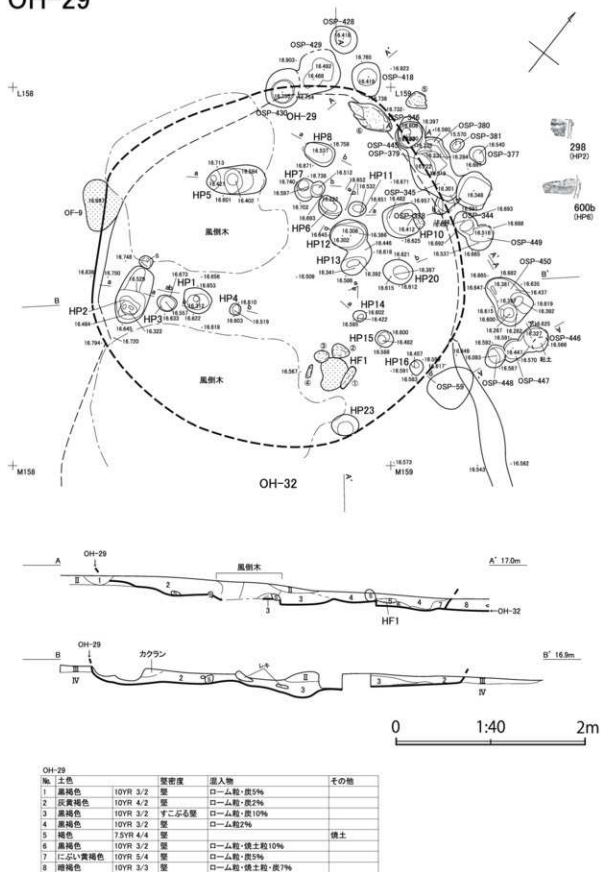
図IV-79 OH-28 (1)



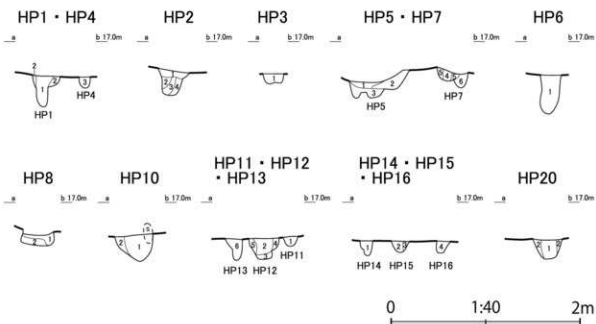
OH-28H-HP					
遺構名	No.	土色	堅硬度	混入物	その他
HF1-2	1	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる壁	
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる壁	焼土、焼けたローム
HP1	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒・灰40%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒・灰5%
	3	にぶい黄褐色	10YR 5/3	壁	ロームブロック・ローム粒7%
	4	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる壁	
	5	黒褐色	10YR 3/1	壁	ローム粒2%
HP2	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒1%
HP3	1	暗褐色	10YR 3/3	壁	ローム粒2%
HP4	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ローム粒・灰3%
HP5-6-7	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒3%
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/3	壁	ロームブロック・ローム粒10%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒5%
	4	にぶい黄褐色	10YR 5/3	壁	ロームブロック・ローム粒50%
	5	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP10	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒・灰3%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	壁	ロームブロック・ローム粒15%
HP11	1	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ローム粒3%
HP12	1	黒褐色	10YR 2/3	壁	ローム粒・灰3%
HP13	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒・灰7%
HP14	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ロームブロック・ローム粒5%
HP21	1	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	ローム粒2%
	3	にぶい黄褐色	10YR 5/4	壁	ロームブロック・ローム粒50%
	4	灰黄褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒20%

図IV-80 OH-28 (2)

OH-29



図IV-81 OH-29 (1)



OH-29HP					
遺構名	層	土色	堅密度	混入物	その他
HP1・4	1	黒色	10YR 1.7/1 堅	ローム粒1%	
	2	黒褐色	10YR 3/1 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒25%	
HP2	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒5%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒40%	風例の一部の可能性もある
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	4	にぶい黄褐色	10YR 5/4 堅	ロームブロック・ローム粒40%	
HP3	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒1%	
HP5・7	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒7%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%	風例の一部可能性ある
	3	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒・皮10%	
	4	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒7%	
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	6	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%	
HP8	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ロームブロック・ローム粒・皮・横土粒20%	
HP8	1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒7%	
	2	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP10	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
HP11・12 ・HP13	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒・皮2%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%	
	3	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒1%	
	4	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒25%	
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	6	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
HP14・15 ・HP16	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 5/3 堅	ローム粒15%	
HP20	4	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒3%	
	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒1%	
HP20	2	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒25%	

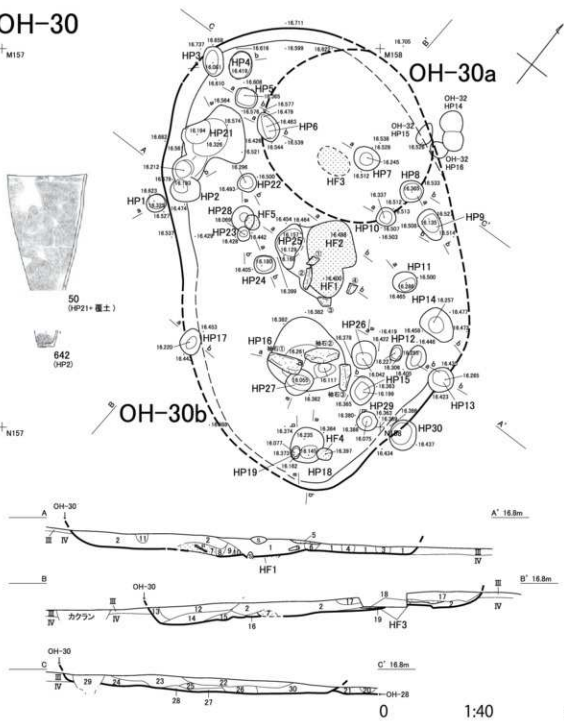
図IV-82 OH-29 (2)

OH-30

+M157

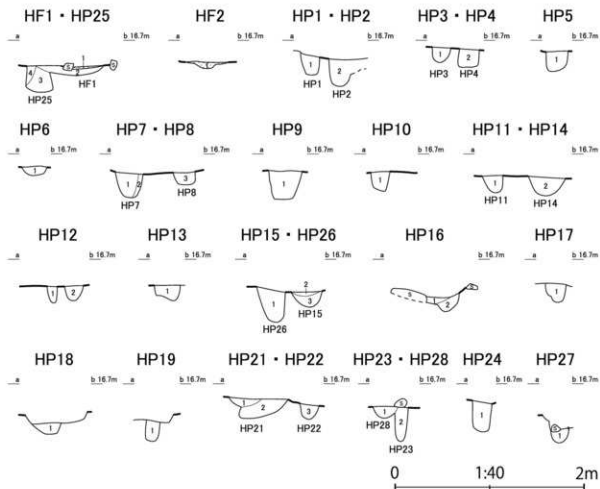
50
(HP21+覆土)642
(HP2)

+N157



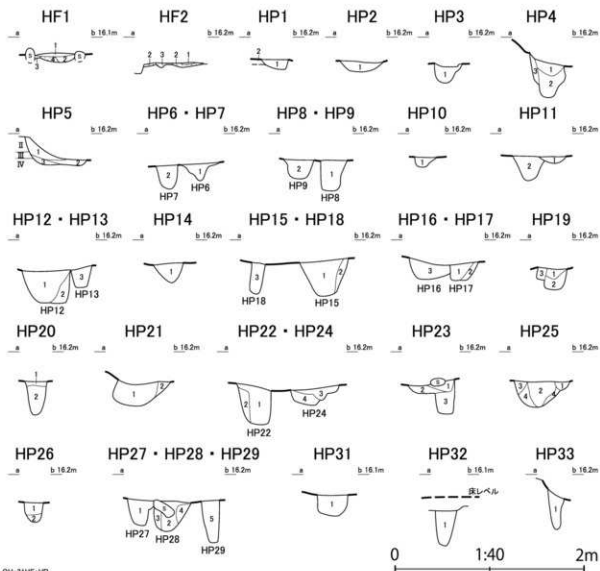
OH-30					OH-30				
№	土色	堅硬度	遺人物	その他	№	土色	堅硬度	遺人物	その他
1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム靴・焼土粒・灰3%		16	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴・焼土粒2%	
2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴・焼土粒・灰2%	1より研みい	17	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム靴50%以上	ローム埋土
3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴1%		18	にぶい赤褐色	5YR 4/4 堅		焼土
4	黒褐色	10YR 1.7/1 堅	ローム靴・焼土粒3%		19	反黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム靴30%	結床
5	暗赤褐色	5YR 3/2 堅		焼土	20	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴1%	
6	黒褐色	10YR 3/2 堅	焼土粒2%	1より粗い	21	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴・焼土粒5%	
7	暗赤褐色	5YR 3/2 堅		焼土	22	にぶい黄褐色	10YR 6/4	すこぶる堅	ローム埋土
8	反黄褐色	10YR 4/2 堅	焼土粒・灰2%		23	にぶい黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅	ローム埋土
9	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム靴1%		24	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴・焼土粒・灰7%	
10	反黄褐色	10YR 4/2 堅	ローム靴1%		25	暗褐色	10YR 3/3 堅	ローム靴・灰2%	
11	反黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム靴1%		26	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム靴10%	
12	反黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム靴15%	ローム埋土	27	にぶい黄褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム靴20%	
13	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴1%		28	にぶい黄褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム靴15%	
14	黒褐色	10YR 2/2 堅	ロームブロック・ローム靴15%		29	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム靴・灰3%	
15	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム靴30%		30	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム靴・灰3%	

図IV-83 OH-30 (1)



遺構名	土色	№	堅密度	埋入物	その他
HP1・HP25	1 明赤褐色	5YR 5/6	すこぶら堅		積土
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・炭3%	
	3 黒色	10YR 1.7/1	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
	4 にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶら堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP2	1 褐色	5YR 6/8	すこぶら堅		積土・焼けたローム
	2 黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・積土粒・炭7%	
HP3・4	1 黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・積土粒・炭10%	
	2 灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒3%	
HP5	1 黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	2 黒褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒7%	
HP7・8	1 暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒7%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶら堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	3 暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・積土粒・炭7%	
HP9	1 灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒・炭15%	
	2 黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭2%	
HP10	1 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒2%	
	2 褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
HP12	1 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒1%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・積土粒・炭7%	
HP13	1 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・炭5%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・炭2%	
HP15・26	1 暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2 褐色	10YR 4/4	すこぶら堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	3 暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・積土粒・炭7%	
HP16	1 黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%	
	2 灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒・炭15%	
HP17	1 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒15%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒3%	
HP18	1 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒1%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒1%	
HP21・22	1 黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・積土粒・炭15%	
	3 灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒10%	
HP23・28	1 にぶい黄褐色	10YR 5/3	すこぶら堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	2 にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
HP24	1 灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
	2 黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒・炭3%	
HP27	1 黒色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒・炭3%	

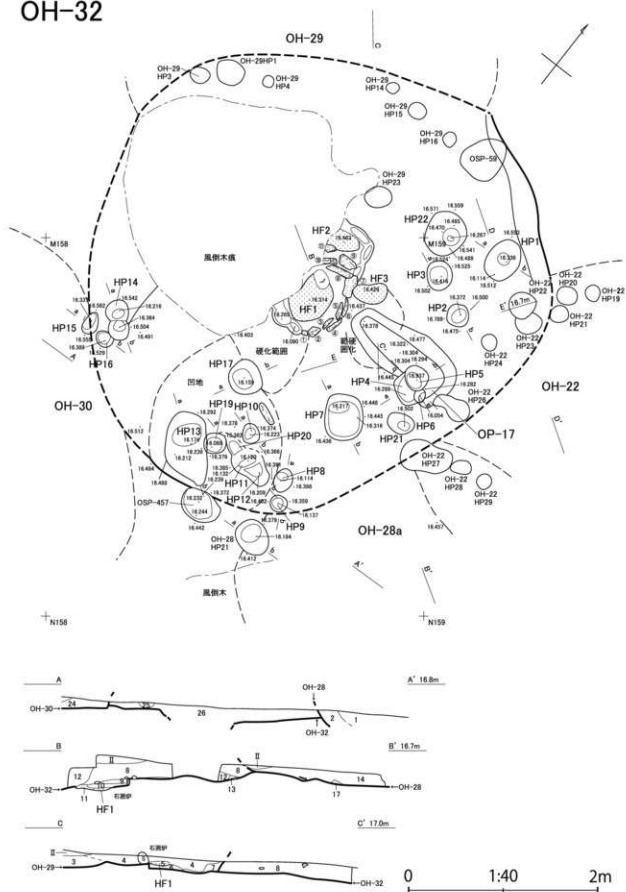
図IV-84 OH-30(2)



遺構名	No.	土色	堅硬度	埋入物など	遺構名	No.	土色	堅硬度	埋入物など
HP1	1	暗褐色	10YR 3/3 堅	焼土粒・炭10%	HP16	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・焼土ブロック20%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁
	3	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁
HP2	1	明赤褐色	5YR 5/8	焼土ブロック50%	HP19	1	灰黄褐色	10YR 3/2	堅
	2	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる壁		2	黒褐色	10YR 3/2	堅
	3	にぶい褐色	7.5YR 5/4	堅		3	黒褐色	10YR 3/2	堅
HP1	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP20	1	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%
HP2	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%	HP21	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
HP4	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%	HP22	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%		2	褐色	10YR 4/5 堅	ロームブロック・ローム粒・焼土粒50%
	3	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%
HP5	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%	HP23	1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒1%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒2%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP8	1	黒褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%	HP25	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%		3	にぶい黄褐色	10YR 5/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP9	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	炭・ローム粒3%	HP26	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%
HP10	1	暗褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP11	1	暗褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%		3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒25%
HP12	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%	HP12	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ローム粒3%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%
	3	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒3%		3	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒3%
HP14	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%	HP15	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒5%		2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁
	3	黒褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%		3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁
HP15	1	黒褐色	10YR 3/1 堅	ロームブロック・ローム粒5%	HP16	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁		2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁		3	黒褐色	10YR 2/1 堅	ローム粒2%
HP18	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%	HP17	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	暗褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%		3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒7%
HP20	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%	HP18	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁
	3	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁
HP21	1	明赤褐色	7.5YR 5/8	すこぶる壁	HP15	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・焼土粒2%
	2	赤褐色	5YR 4/6	すこぶる壁		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・焼土粒2%
	3	にぶい褐色	7.5YR 5/4	堅		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%
HP22	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP16	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%		2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP23	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%	HP17	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭10%		2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	3	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%
HP24	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%	HP18	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒5%		2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP25	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP19	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる壁
HP26	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP20	1	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭5%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP27	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭3%	HP21	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%		2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP28	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	炭・ローム粒3%	HP22	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%		2	褐色	10YR 4/5 堅	ロームブロック・ローム粒・焼土粒50%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%
HP29	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%	HP23	1	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒1%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%
HP31	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP25	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%		3	にぶい黄褐色	10YR 5/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%
HP32	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭15%	HP26	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	にぶい黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%
	3	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%		3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%
HP33	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭10%	HP27	1	灰黄褐色	10YR 4/2	堅
	2	暗褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%		2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%		3	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒7%

図IV-86 OH-31 (2)

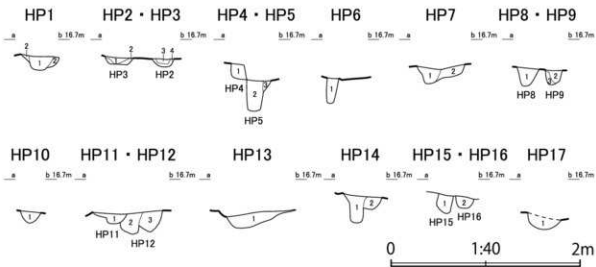
OH-32



圖IV-87 OH-32 (1)



OH-32					
No.	土色	堅密度	混入物	その他	
1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭5%		風倒木痕か
2	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭25%		風倒木痕か
3	黒褐色	10YR 3/2 すこぶる堅	ローム粒・炭10%		
4	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%		
5	褐色	7.5YR 4/4 堅			積土
6	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・積土粒10%		
7	にぶい黄褐色	10YR 5/4 堅	ローム粒・炭5%		
8	緑褐色	10YR 3/3 堅	ローム粒・積土粒・炭7%		
9	黄褐色	10YR 5/6 すこぶる堅	ローム100%		
10	褐色	7.5YR 4/4 堅	積土粒7%		
11	明赤褐色	5YR 5/6 すこぶる堅			積土、ロームがやける
12	にぶい黄褐色	10YR 5/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%		
13	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒3%		
14	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒2%		
15	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭3%		
16	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%		
17	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒15%		
18	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%		
19	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ローム粒1%		Ⅱ層のおちか
20	緑褐色	10YR 3/3 堅	ロームブロック・ローム粒15%		
21	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒5%		
22	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭5%		
23					重層相当
24	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ローム粒・炭3%		
25	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒1%		
26	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・積土粒5%		

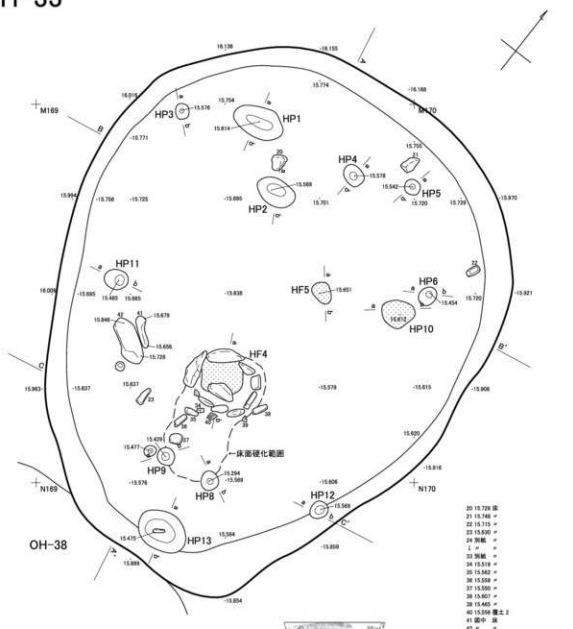


OH-32HP					
遺構名	No.	土色	堅密度	混入物など	
HP1	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	2	褐色	10YR 4/4 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
HP2・3	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	3	黒褐色	10YR 3/1 堅	ローム粒10%	
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒40%	
HP4・5	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒10%	
	2	黒色	10YR 2/1 軟	ローム粒2%	
	3	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒30%	
HP6	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒15%	

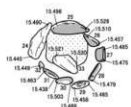
OH-32HP					
遺構名	No.	土色	堅密度	混入物など	
HP8・9	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	2	灰黄褐色	10YR 4/2 堅	ロームブロック・ローム粒10%	
HP10	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒・炭3%	
HP11・12	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%	
	3	黒褐色	10YR 2/2 堅	ローム粒・炭10%、攪乱か	
HP14	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒7%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3 堅	ロームブロック・ローム粒20%	
HP15・16	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒・炭7%	
	2	黒褐色	10YR 3/2 堅	ロームブロック・ローム粒5%	
HP17	1	黒褐色	10YR 3/2 堅	ローム粒10%	

図IV-88 OH-32 (2)

OH-33

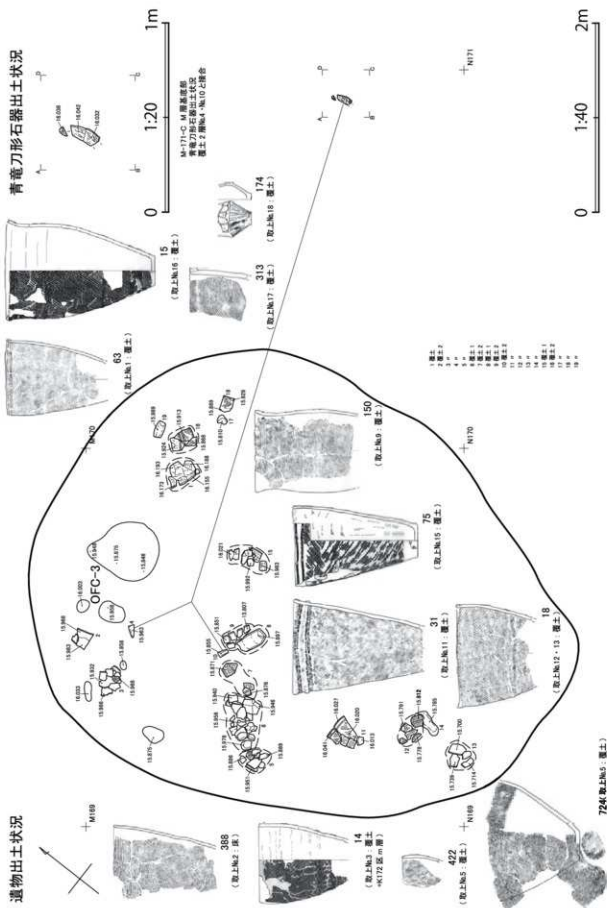


HF4炉石出土状況詳細

49
(取上輪40 覆土+床)

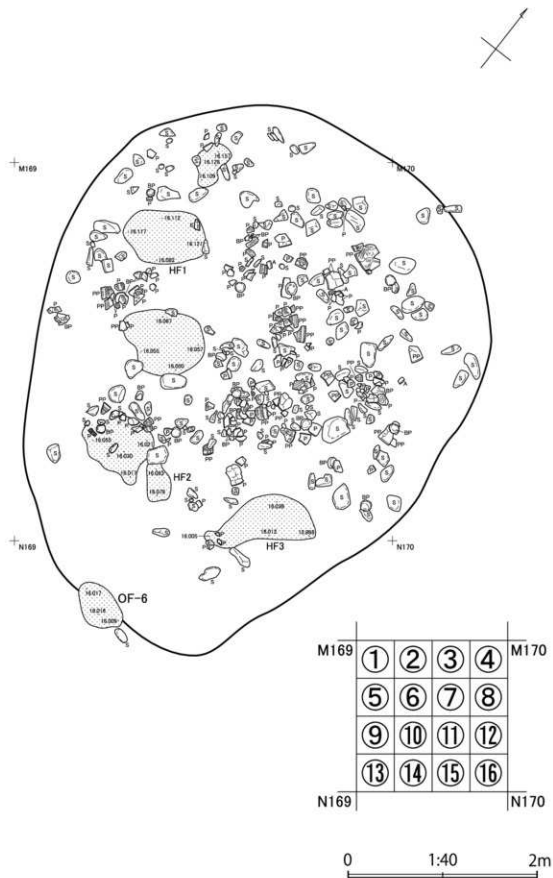
0 1:40 2m

図IV-89 OH-33 (1)



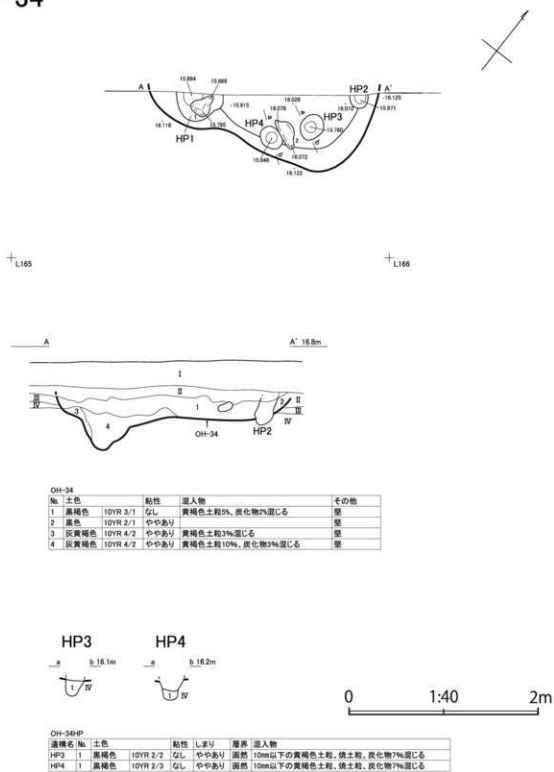
図IV-91 OH-33 (3)

覆土中の焼土及び遺物検出状況



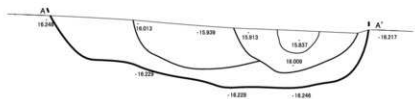
図IV-92 OH-33 (4)

OH-34



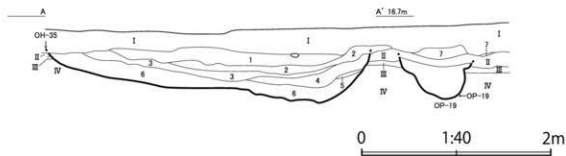
図IV-93 OH-34

OH-35



+L170

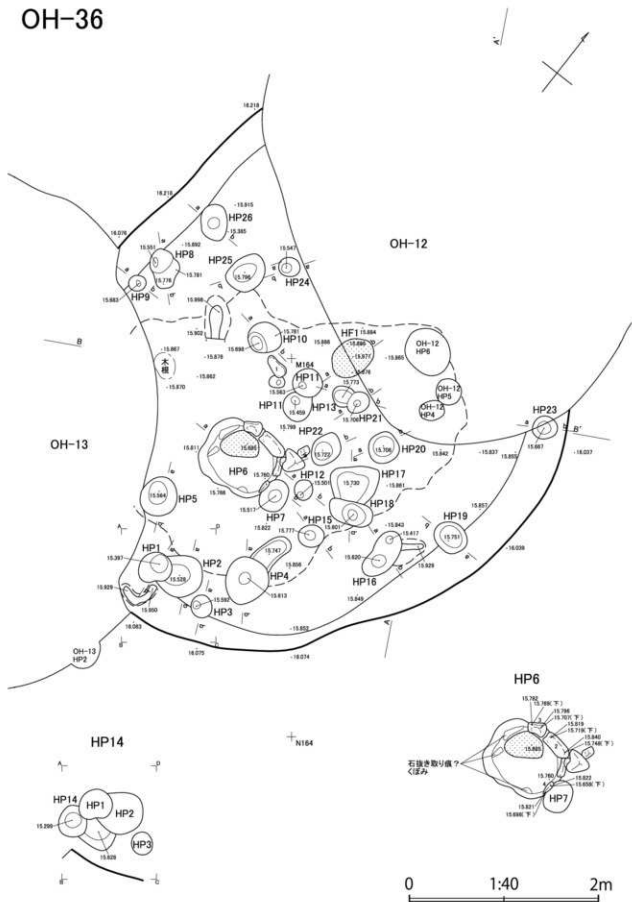
+L171



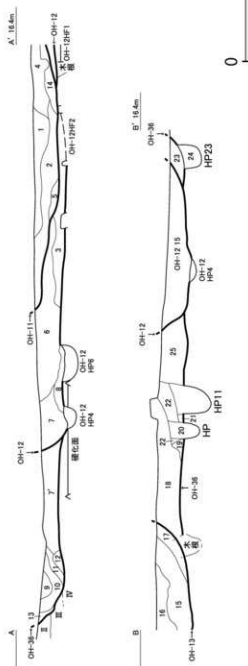
No.	土色	粘性	層厚	混入物	その他
1	黄褐色	10YR 5/8	なし	面然 20mm以下の黒褐色土粒、炭化物、焼土粒20%混じる	壤土 堅
2	黒褐色	10YR 5/1	なし	判然 10mm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる	壤土 やや堅
3	黒色	10YR 2/1	なし	判然 10mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	壤土 軟
4	黒色	10YR 2/1	なし	判然 10mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒9%混じる	壤土 堅
5	黒褐色	10YR 2/3	なし	面然 20mm以下の黄褐色土粒20%混じる	壤土 堅
6	黒褐色	10YR 2/2	なし	面然 10mm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	壤土
7	黄褐色	10YR 5/8	なし	面然 20mm以下の黒褐色土粒、炭化物20%混じる	壤土 堅

図IV-94 OH-35

OH-36

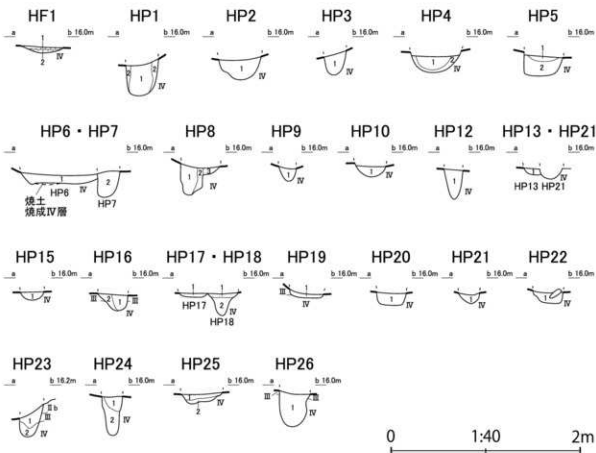


図IV-95 OH-36 (1)



OH-39		粘性	しまり	層序・埋入層	その他
1 黒色	10PR 1.7/1	GL	GL	厚層	II層相当の自然堆積
2 黒褐色	10PR 2/2	GL	ややあぶり	10m以下の粘土層、黄褐色土粒が混入する	
3 黒色	10PR 1.7/1	GL	ややあぶり	10m以下の粘土層、黄褐色土粒が混入する	
4 黒色	10PR 1.7/1	GL	GL	厚層	II層相当の自然堆積
5 褐色	10PR 4/4	ややあぶり	ややあぶり	特別 黄褐色土、暗褐色土層状に混入する	
6 褐色	10PR 2/1	GL	ややあぶり	10m以下の黄褐色土粒が混入する	
7 黒色	10PR 2/1	GL	GL	厚層 5m以下の黄褐色土粒が混入する	
8 黒褐色	10PR 2/2	ややあぶり	ややあぶり	厚層 20m以下の黄褐色土ブロックが混入する	
9 黒褐色	10PR 2/1	GL	ややあぶり	特別 黄褐色土、暗褐色土層状に混入する	
10 黒色	10PR 2/1	GL	ややあぶり	10m以下の粘土層、黄褐色土粒が混入する	
11 暗褐色	10PR 3/4	GL	ややあぶり	特別 10m以下の粘土層、黄褐色土粒が混入する	
12 黒褐色	10PR 2/2	GL	ややあぶり	特別 20m以下の黄褐色土ブロックとモザイク状	
13 黒色	10PR 2/2	GL	ややあぶり	特別 5m以下の黄褐色土粒が混入する	
14 黒褐色	7.5PR 2/2	GL	ややあぶり	特別 10m以下の黄褐色土粒が混入する	
15 黒色	10PR 1.7/1	GL	ややあぶり	特別 10m以下の黄褐色土粒が混入する	
16 黒色	10PR 2/1	GL	ややあぶり	特別 5m以下の黄褐色土粒が混入する	
17 黒色	10PR 2/1	GL	ややあぶり	特別 5m以下の黄褐色土粒が混入する	
18 黒色	10PR 1.7/1	GL	ややあぶり	特別 10m以下の黄褐色土粒が混入する	
19 黒褐色	10PR 3/4	GL	ややあぶり	特別 暗褐色土ブロック層状に混入する	
20 暗褐色	10PR 2/1	GL	ややあぶり	特別 1m以下の黄褐色土粒が混入する	
21 黒褐色	10PR 2/3	GL	ややあぶり	特別 30m以下の黄褐色土ブロックが、層状に混入する	
22 黒褐色	10PR 2/2	GL	GL	厚層 10m以下の黄褐色土粒が混入する	
23 黒色	10PR 2/1	ややあぶり	ややあぶり	厚層 5m以下の黄褐色土粒が混入する	
24 黒褐色	10PR 2/2	GL	ややあぶり	特別 20m以下の粘土層、黄褐色土粒が混入する	

図IV-96 OH-36 (2)

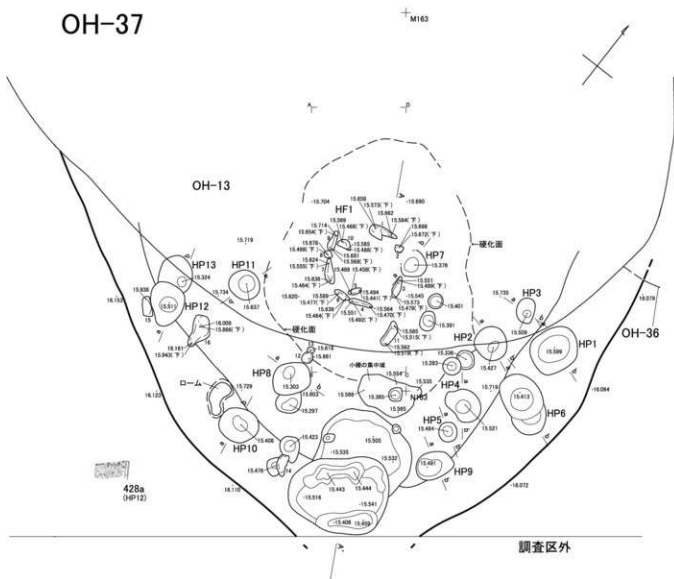


OH-36HP+HP

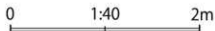
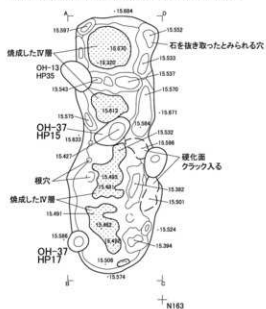
遺構名	層	土色	粘性	しまり	層界	深人物	その他
HP1	1	黒褐色	SVR 2/1	なし	薄皮	深人物	10cm以下の焼土粒、炭化物10%混じる
	2	赤褐色	SVR 4/8	なし	あり		焼成IV層
HP1	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物1%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/3	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP2	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP3	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP4	1	黒色	10YR 1.7/1	なし	判然	5cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる	
HP5	1	黒褐色	10YR 2/3	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP6・7	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	5cm以下の黄褐色土粒1%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	5cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物5%混じる	
HP8	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	5cm以下の黄褐色土粒1%混じる	
	3	暗褐色	10YR 4/6	なし	判然	20cm以下の暗褐色土粒20%混じる	
HP9	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	1cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP10	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
	2	暗褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
HP12	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP15	1	黒色	10YR 2/1	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物3%混じる	
	2	黒色	10YR 2/1	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
HP17・18	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	30cm以下の黄褐色土ブロック10%までら状を呈する	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP19	1	黒色	10YR 1.7/1	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒7%とまだら状を呈する	
	2	黒色	10YR 2/1	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
HP20	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
HP22	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	5cm以下の黄褐色土粒1%混じる	
HP24	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物7%混じる	
	2	黒色	10YR 2/1	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
HP25	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒5%混じる	
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
HP26	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	判然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	

図IV-97 OH-36 (3)

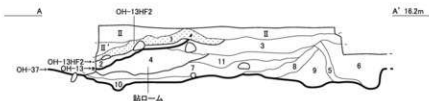
OH-37



10層を除去した炉跡(HF1)付近の状況

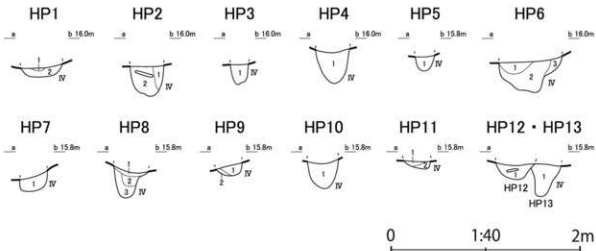


図IV-98 OH-37 (1)



OH-37

No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物
1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	判然 7cm以下の黄褐色土粒、炭土粒、炭化物、骨片7%混じる
2	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	判然 5cm以下の炭化物、黄褐色土粒5%混じる
3	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	断然 5cm以下の黄褐色土粒、炭化物1%混じる
4	黄褐色	10YR 5/6	なし	あり	断然 50cm以下の黄褐色土ブロック、円礫を5%混じる
5	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	判然 10cm以下の黄褐色土粒、炭土粒5%混じる
6	黒色	10YR 1.7/1	なし	ややあり	断然 5cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる
7	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然 20cm以下の黄褐色土粒、炭土粒、炭化物5%混じる
8	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然 10cm以下の黄褐色土粒5%混じる
9	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	断然 5cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
10	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	判然 5cm以下の炭土粒、骨片10%混じる
11	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然 20cm以下の黄褐色土粒、円礫5%混じる

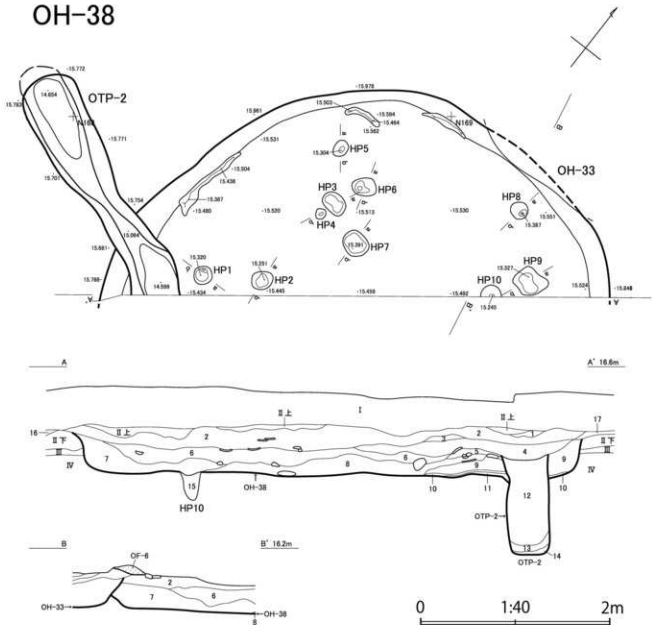


OH-37HP

遺構名	No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物
HP1	1	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	判然 20cm以下の黄褐色土粒10%混じる
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	断然 5cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP2	1	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	判然 20cm以下の黄褐色土粒、炭土粒、炭化物7%混じる
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	断然 10cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる
HP3	1	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	断然 30cm以下の黄褐色土ブロック、炭化物5%混じる
HP4	1	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	断然 20cm以下の炭土粒、黄褐色土粒、炭化物、骨片7%混じる
HP5	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然 20cm以下の黄褐色土粒5%混じる
HP6	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然 20cm以上の黄褐色土粒10%混じる
	2	黒色	10YR 2/1	なし	あり	判然 30cm以下の黄褐色土ブロック1%混じる
	3	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	断然 20cm以下の黄褐色土粒1%混じる
HP7	1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	断然 5cm以下の炭土粒、炭化物、黄褐色土粒10%混じる
HP8	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然 5cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
	2	にぶい黄褐色	10YR 5/4	なし	あり	断然 20cm以下の暗褐色土粒10%混じる
	3	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然 5cm以下の黄褐色土粒10%混じる
HP9	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	断然 10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	断然 20cm以下の暗褐色土粒20%混じる
HP10	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	断然 5cm以下の炭土粒、炭化物、骨片10%混じる
HP11	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然 5cm以下の黄褐色土粒10%混じる
	2	黒褐色	10YR 3/4	なし	あり	断然 20cm以下の黄褐色土粒10%混じる
HP12-13	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	断然 10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる

図IV-99 OH-37 (2)

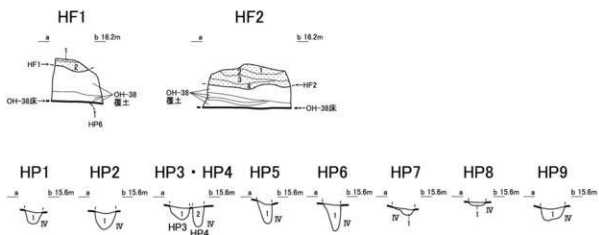
OH-38



OH-38

層	土色	粘性	しまり	層厚	埋入物	その他
I	黒色	10YR 2/1	なし	あり	自然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒3%混じる
Ⅱ上	黒色	10YR 1.7/1	なし	ややあり	薄炭	
Ⅱ下	黒色	10YR 1.7/1	なし	あり	薄炭	
Ⅲ	暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	薄炭	
Ⅳ	黄褐色	10YR 5/8	なし	ややあり	薄炭	
1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	自然	黄褐色土ブロックを20%混状に混じる
2	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	判然	30cm以下の焼土粒、炭化物、黄褐色土粒2%混じる
3	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	10cm以下の焼土粒、炭化物、骨片10%混じる
4	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	20cm以下の焼土粒、炭化物、黄褐色土粒3%混じる
5	赤褐色	5YR 4/8	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土、黒褐色土粒、骨片、炭化物7%混じる
6	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	判然	10cm以下の焼土粒、黄褐色土粒、炭化物、骨片15%混じる
7	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	自然	30cm以下の黄褐色土ブロック10%混じる
8	黒褐色	10YR 2/3	なし	なし	自然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる
9	黒褐色	10YR 2/3	なし	なし	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる
10	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	判然	
11	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる
12	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	自然	30cm以下の黄褐色土ブロック、5cm以下の焼土粒、炭化物2%混じる
13	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	なし	自然	
14	黒褐色	10YR 2/2	あり	なし	自然	
15	暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	自然	30cm以下の黄褐色土ブロック10%混じる
16	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	自然	30cm以下の黄褐色土ブロック7%混状に混じる
17	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	自然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる

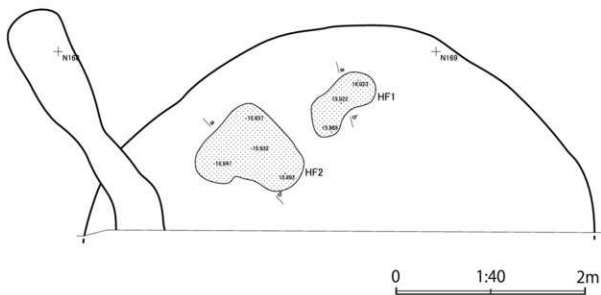
図IV-100 OH-38 (1)



OH-38HF+HP

遺構名	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他	
HF1	1 暗赤褐色	5YR 3/2	なし	あり	判然	1mm以下の骨片、炭化物10%混じる	硬い
	2 黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	顕然	5mm以下の焼土粒、骨片、炭化物10%混じる	硬い
HF2	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	20mm以下の焼土粒、骨片、炭化物20%混じる	硬い
	2 黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	5mm以下の焼土粒、炭化物、骨片7%混じる	硬い
	3 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	顕然	30mm以下の黄褐色土ブロック10%混じる	
4 黒色	10YR 1.7/1	なし	ややあり	判然	20mm以下の白色粘土、炭化物10%混じる		
HP1	1 暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	顕然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP2	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	顕然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP3・4	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	顕然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
	2 黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	顕然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる	
HP5	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	顕然	10mm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP6	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	顕然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
HP7	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	顕然	20mm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP8	1 暗褐色	10YR 3/3	なし	ややあり	顕然	20mm以下の黄褐色土粒5%混じる	
HP9	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	顕然	30mm以下の黄褐色土ブロック、炭化物7%混じる	

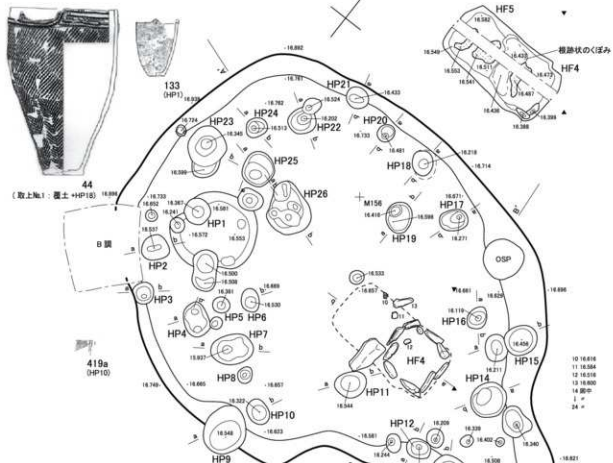
覆土中焼土



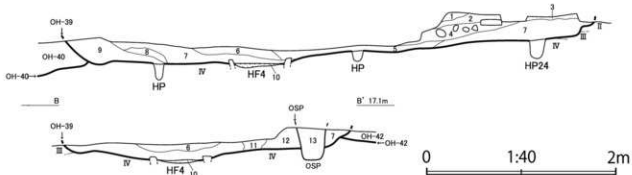
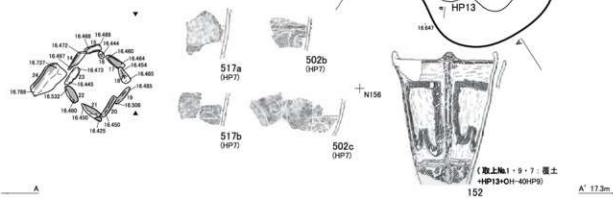
図IV-101 OH-38 (2)

OH-39

炉石・焼土堆積除去後の状況



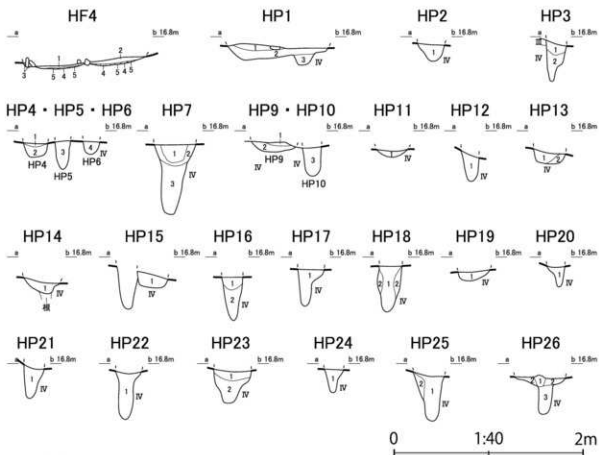
炉石被熱赤変状況



図IV-102 OH-39 (1)

OH-39

No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
1	黒褐色 7.5YR 2/2	なし	なし	自然	5cm以下の焼土粒、炭化物、骨片10%混じる	
2	黒褐色 10YR 2/2	なし	なし	自然	10cm以下の焼土粒、骨片1%混じる	
3	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20cm以下の焼土粒、炭化物10%混じる	
4	黒褐色 10YR 2/2	なし	なし	自然	10cm以上の大礫・子砂利、焼土粒、炭化物20%混じる	
5	黒褐色 10YR 2/2	なし	なし	自然	20cm以下の砂、焼土粒、炭化物30%混じる	砂質
6	暗赤褐色 5YR 3/4	なし	ややあり	判断	10cm以下の暗褐色土粒、炭化物、骨片10%混じる	
7	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20cm以下の黒褐色土粒、焼土粒3%混じる	
8	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややあり	判断	30cm以下の黄褐色土ブロック2%混じる	
9	黒色 10YR 1.7/1	なし	ややあり	自然	5cm以下の黄褐色土粒3%混じる	
10	褐色 7.5YR 4/6	あり	ややあり	寒室	骨片、炭化物混じる	焼成IV層
11	黒褐色 10YR 3/2	なし	ややあり	自然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	
12	黒褐色 10YR 2/2	なし	なし	判断	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる	
13	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややなし	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物5%混じる	



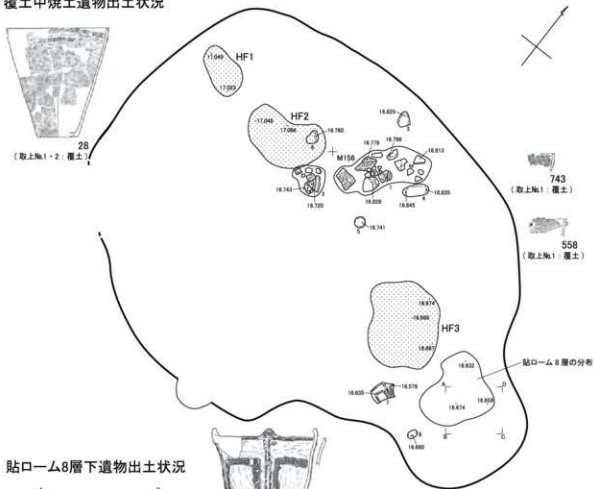
OH-39HF-HP

遺構名	No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
HF4	1	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややあり	判断	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物、骨片10%混じる	
	2	暗褐色 10YR 3/4	なし	ややあり	判断	30cm以下の黄褐色土ブロック、炭化物15%混じる	
	3	黒褐色 10YR 2/3	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
	4	赤褐色 5YR 4/8	なし	あり	寒室	20cm以下の暗褐色土層状に混じる	硬い 焼成IV層
HP1	1	にんい黄褐色 5YR 4/8	なし	あり	寒室	10cm以下の焼土粒、暗褐色土粒、炭化物5%混じる	硬い
	2	黒褐色 10YR 2/3	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒10%混じる	
	3	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややあり	判断	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる	
HP2	1	黒褐色 10YR 2/2	なし	ややあり	寒室	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
	2	暗褐色 10YR 3/4	なし	ややあり	自然	20cm以下の暗褐色土粒3%混じる	
HP4-5-6	1	黒褐色 10YR 2/3	なし	あり	判断	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる	硬い
	2	暗褐色 10YR 3/4	なし	あり	寒室	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる	硬い
	3	暗褐色 10YR 3/4	なし	あり	自然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる	硬い
HP7	1	黒色 10YR 1.7/1	なし	ややあり	自然	5cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
	2	褐色 10YR 4/8	なし	あり	自然	20cm以下の炭化物3%混じる	
HP9-10	1	にんい黄褐色 10YR 4/3	なし	あり	自然	20cm以下の焼土粒、炭化物10%混じる	硬い
	2	暗褐色 10YR 3/4	ややあり	なし	自然	20cm以下の焼土粒、炭化物7%混じる	
	3	黄褐色 10YR 5/8	なし	あり	判断	5cm以下の炭化物3%混じる	硬い
HP11	1	黒褐色 10YR 2/2	なし	あり	判断	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	
	2	黒褐色 10YR 2/3	なし	あり	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物5%混じる	
	3	暗褐色 10YR 3/4	なし	なし	自然	30cm以下の小砂利-砂50%混じる	

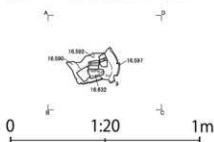
図IV-103 OH-39(2)

OH-39HF-HP								
遺構名	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他		
HP12	1 黒褐色	10YR 2/3	なし	なし	自然	20cm以下の黄褐色土粒20%混じる		
HP13	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	5cm以下の黄褐色土粒7%混じる		
HP14	2 暗褐色	10YR 3/4	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒3%混じる		
HP14	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	10cm以下の灰化土、黄褐色土粒3%混じる		
HP15	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒10%混じる		
HP16	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、灰化物10%混じる		
HP17	2 暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	自然	20cm以下の黒褐色土粒3%混じる		
HP17	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、灰化物3%混じる		
HP18	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、灰化物、焼土粒10%混じる		
HP18	2 黒褐色	10YR 2/3	なし	なし	自然	20cm以下の黄褐色土粒20%モザイク状に混じる		
HP19	1 黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒7%混じる	硬い	
HP20	1 暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、灰化物7%混じる		
HP21	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	自然	20cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、灰化物7%混じる		
HP22	1 黒色	10YR 2/1	なし	なし	自然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、灰化物5%混じる		
HP23	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒、灰化物10%混じる		
HP23	2 黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	自然	5cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、灰化物7%混じる		
HP24	1 暗褐色	10YR 3/4	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒7%混じる		
HP25	1 黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、灰化物7%混じる		
HP26	2 にふし黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	判然	20cm以下の黄褐色土粒、灰化物20%凝状に混じる		
HP26	1 褐色	10YR 4/4	なし	あり	判然	10cm以下の灰化土、暗褐色土粒7%混じる	硬い	
HP26	2 反黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	判然	10cm以下の黄褐色土粒、焼土粒、灰化物9%混じる	硬い	
HP26	3 褐色	10YR 4/4	なし	なし	自然	5cm以下の暗褐色土粒、灰化物3%混じる		

覆土中焼土遺物出土状況

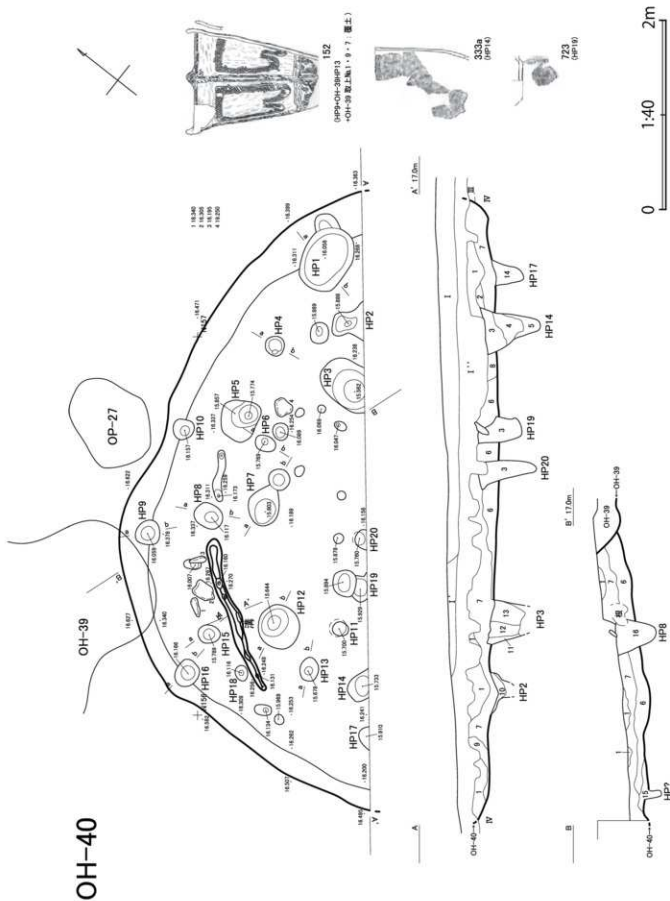


貼口一ム8層下遺物出土状況



152 (取上層1-9-7 覆土 +HP13-OH-40HP9)

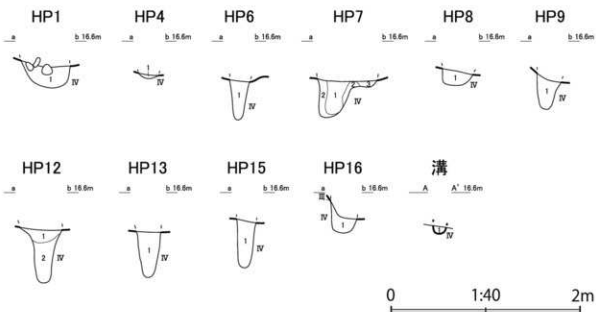
図IV-104 OH-39 (3)



図IV-105 OH-40 (1)

OH-40

No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
1	黒色	10YR 1.7/1	なし	あり	自然	50mm以下の礫～砂10%混じる
1'	黒色	10YR 1.7/1	なし	あり	自然	20mm以下の礫～砂5%混じる
1''	黒色	10YR 1.7/1	なし	あり	自然	30mm以下の礫～砂、土礫片、黄褐色土、暗褐色土粒7%混じる
1	黒色	10YR 1/2	なし	ややあり	判断	20mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物7%混じる
2	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判断	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
3	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	判断	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物15%混じる
4	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判断	10mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物10%混じる
5	褐色	10YR 4/4	なし	あり	判断	20mm以下の黄褐色土粒7%混状に混じる
6	黒色	10YR 2/1	なし	あり	自然	5mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
7	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる
8	黒色	10YR 1.7/1	なし	ややあり	自然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる
9	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	判断	20mm以下の黄褐色土粒10%混じる
10	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
11	黒褐色	10YR 3/2	なし	あり	自然	20mm以下の黄褐色土粒20%混状に混じる
12	にぶい黄褐色	10YR 4/3	なし	あり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
13	黒色	10YR 2/1	なし	なし	自然	5mm以下の黄褐色土粒3%混じる
14	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒10%混じる
15	黒色	10YR 1.7/1	なし	なし	自然	5mm以下の黄褐色土粒3%混じる
16	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック、焼土粒20%混じる

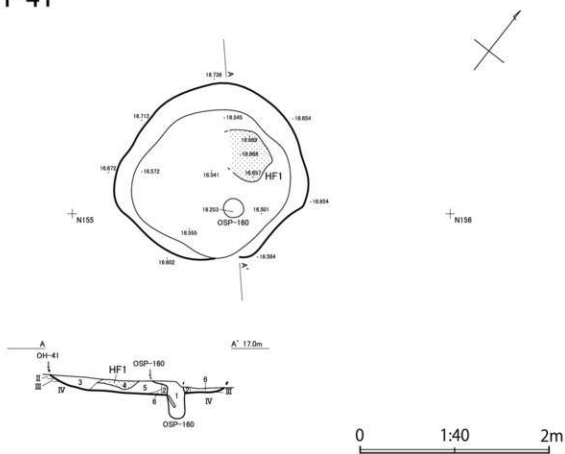


OH-40HP

遺構名	No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
HP1	1	暗褐色	10YR 3/4	なし	ややあり	判断	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる
HP4	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	判断	20mm以下の黄褐色土粒7%混状に混じる
HP6	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	5mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP7	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、焼土粒、炭化物7%混じる
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	判断	20mm以下の黄褐色土粒15%混状に混じる
	3	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP8	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP9	1	黒褐色	10YR 2/3	なし	あり	自然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる
HP12	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
	2	暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP13	1	暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP15	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	自然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物7%混じる
HP16	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物5%混じる
OH-40溝	1	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	判断	5mm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる

図IV-106 OH-40 (2)

OH-41

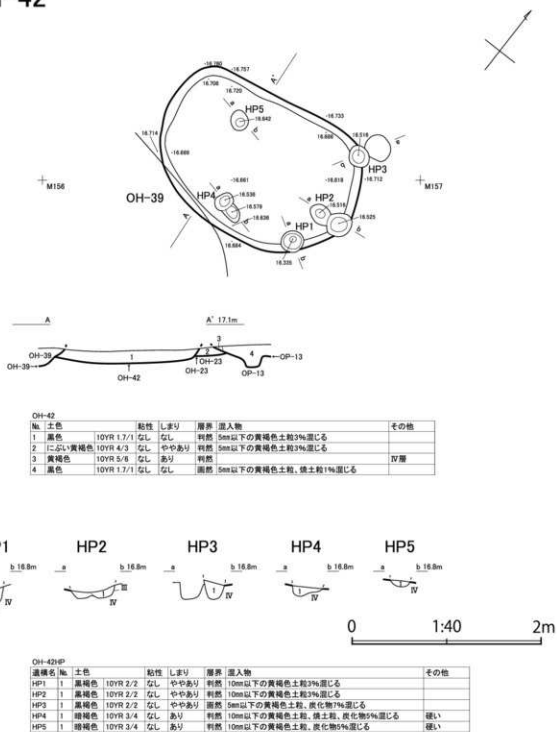


OH-41

No.	土色	粘性	しまり	層界	混入物	
1	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	自然	10cm以下の微土粒、炭化物、黄褐色土粒7%混じる
2	黄褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒15%混じる
3	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	自然	20cm以下の黄褐色土粒、炭化物3%混じる
4	暗褐色	7.5YR 3/4	なし	ややあり	自然	10cm以下の微土粒、黄褐色土粒、炭化物、骨片3%混じる
5	暗褐色	10YR 3/4	なし	あり	自然	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物、骨片3%混じる
6	黄褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	自然	2cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%混じる

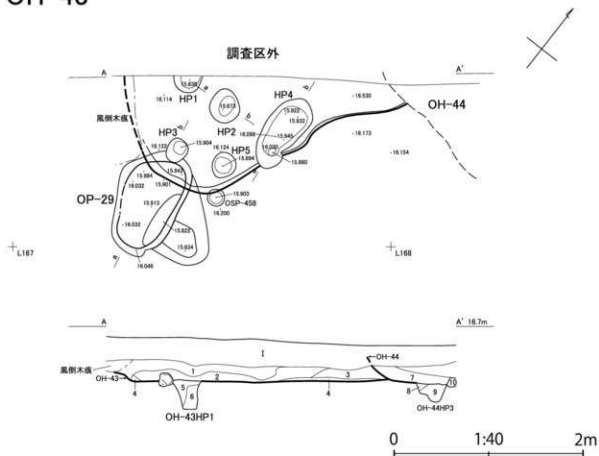
図IV-107 OH-41

OH-42

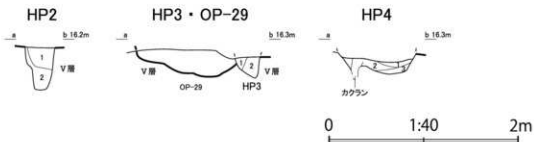


図IV-108 OH-42

OH-43



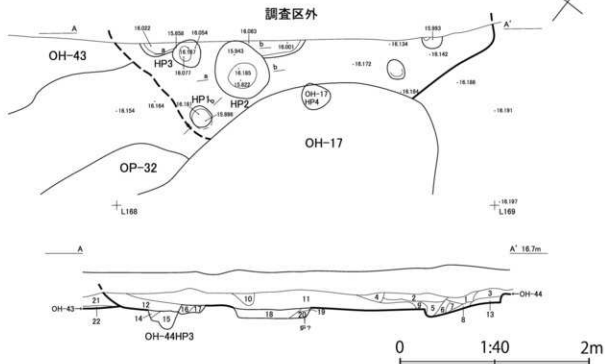
OH-43					
№	土色	堅密度	遺人物	その他	
1	黒色	10YR 2/1	すこぶる壁	極小ロームわずかに混	しまりなし
2	黒褐色	10YR 3/2	壁	極小～中ローム7%・炭2%	しまりなし
3	黒褐色	10YR 3/2	壁	極小ローム粒2%・炭1%・焼土粒わずか	しまりなし
4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる壁	ローム20%混	粘性ややあり
5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	軟	極小ローム40%・炭5%	粘性ややあり
6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	軟	極小～中ローム20%・炭3%	粘性あり
7	黒色	10YR 2/1	壁	極小ローム3%	粘性ややあり
8	反褐色	10YR 4/2	壁	ロームブロック・ローム粒30%	
9	黒褐色	10YR 2/2	壁	ローム粒・炭10%	
10	にぶい黄褐色	10YR 5/4	壁	ロームブロック・ローム粒10%	



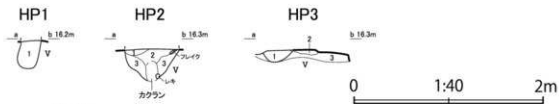
OH-43HP					
遺構名	№	土色	堅密度	遺人物	その他
HP2	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	極小～大ローム5%・炭2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	壁	極小ローム25%・炭わずか
HP3	1	明黄褐色	10YR 7/6	すこぶる壁	ローム25%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	軟	極小～大ロームブロック30%・炭7%
HP4	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	極小ローム7%
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる壁	極小ローム40%・大ロームブロック混
	3	黒褐色～3/2黒褐色が20%	10YR 3/2	すこぶる壁	極小ローム70～80%・炭7%・焼土わずか

図IV-109 OH-43

OH-44



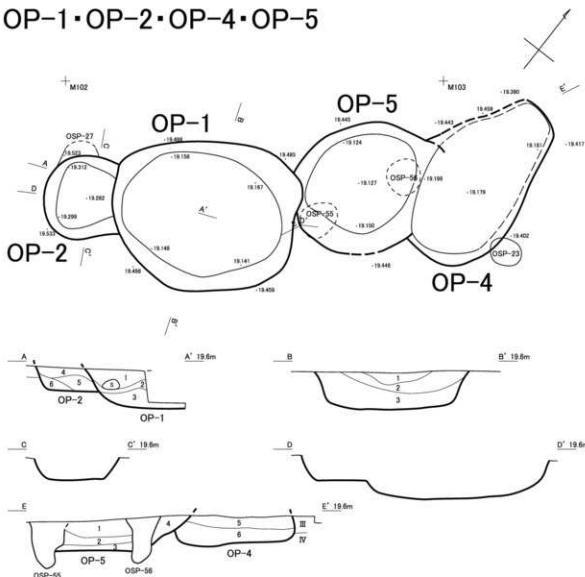
OH-44					
No.	土色	堅密度	混入物	その他	
1	黒褐色	10YR 3/1	すこぶる堅	5YR6/8褐色の焼土3%・極小ローム2%	粘性なし
2	黒褐色	10YR 3/1	すこぶる堅	焼土わずかに塵・極小ローム3%	粘性なし
3	黒褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ローム30%	粘性なし
4	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	焼土約2%・ロームわずか	粘性なし
5	黒褐色	10YR 3/2	しじょう	極小ローム5%	粘性ややあり
6	にぶい黄褐色	10YR 5/3	すこぶる堅	ローム80%	粘性なし
7	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	極小ローム5%	粘性ややあり
8	黒色	10YR 1.7/1	すこぶる堅		粘性ややあり
9	にぶい黄褐色	10YR 5/3	すこぶる堅	ローム15%	粘性なし
10	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	ローム1%・炭1%	粘性なし
11	黒褐色	10YR 3/1	堅	極小～中ローム5%・焼土約2%・炭5%	粘性ややあり
12	黒色	10YR 2/1	堅	極小ローム3%	粘性ややあり
13	暗褐色	10YR 3/3	軟	ローム80%	粘性なし
14	灰褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
15	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・炭10%	
16	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
17	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%	
18	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%	
19	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
20	黒褐色	10YR 2/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
21	黒褐色	10YR 3/2	堅	極小ローム約2%・炭1%・焼土粒わずか	しまりなし
22	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム20%	粘性ややあり



OH-44HP						
遺構名	No.	土色	堅密度	混入物	その他	
HP1	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	極小ローム7～10%	粘性なし
HP2	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	極小ローム10%・焼土わずか	粘性なし
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	極小ローム20%・焼土(5YR6/8褐色)15%・炭3%	粘性なし
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	極小～大ローム50%・炭5%	粘性なし
HP3	1	黒色	10YR 2/1	軟	極小ローム10%・炭わずか	粘性ややあり
	2	明黄褐色	10YR 6/6	軟	ローム主体・クワロクブロック15%	粘性ややあり
	3	黒褐色	10YR 3/1	軟	極小ローム7%・炭2%	粘性あり

図IV-110 OH-44

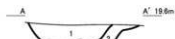
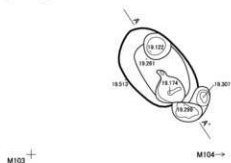
OP-1・OP-2・OP-4・OP-5



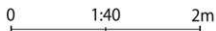
OP-1-2			
No.	土色	堅密度	混入物
1	黒褐色	10YR 2/2	中や軟 直径0.5センチのロームブロック1%
2	黒褐色	10YR 2/3	堅 直径0.5センチのロームブロック5%
3	黒褐色	10YR 2/2	堅 直径2センチのロームブロック20%
4	黒褐色	10YR 2/3	堅 直径1センチのロームブロック5%
5	黒褐色	10YR 2/3	堅 直径1センチのロームブロック20%
6	黒褐色	10YR 2/2	堅 直径1センチのロームブロック20%

OP-4-5			
No.	土色	堅密度	混入物
1	灰黄褐色	10YR 4/2	堅 ローム粒5%
2	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒3%
3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅 ロームブロック・ローム粒7%
4	黒褐色	10YR 3/2	堅 ロームブロック・ローム粒10%
5	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅 ローム粒7%
6	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅 ロームブロック・クロボクブロック・ローム粒20%

OP-3

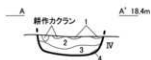
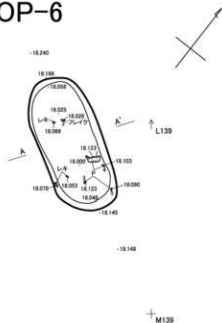


OP-3			
No.	土色	堅密度	混入物
1	黒褐色	10YR 2/2	堅 ロームブロック・ローム粒7%
2	黒色	10YR 2/1	堅 ロームブロック・ローム粒10%



図IV-111 OP-1~5

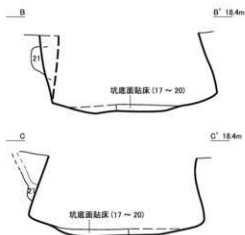
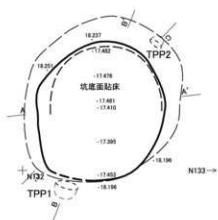
OP-6



OP-6

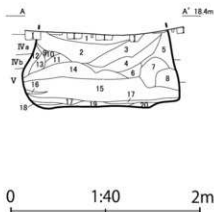
№	土色	堅密度	粘性	湿入物	その他
1	黒褐色 10YR 2/3	堅	なし		
2	黒褐色 10YR 3/2	堅	なし	黒層ブロックが7%混じった黒層	ほぼ2層
3	黒色～ 黒褐色 10YR 2/1.5	堅	なし		
4	黒褐色～ 灰黄褐色 10YR 3.5/2	すこぶる堅～ 堅	弱		

OP-7



OP-7

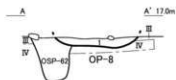
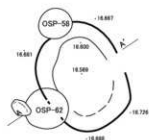
№	土色	堅密度	湿入物	その他
IVa	黄褐色 7.5YR 7/8			埴土、ソフトローム
IVb	明黄褐色 10YR 6/8			砂壤土、ハードローム
V	明黄褐色 10YR 6/6		小～中～極大の礫	砂土、砂礫層
1	にぶい黄褐色 10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
2	灰黄褐色 10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
3	黒褐色 10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
4	灰黄褐色 10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒40%	
5	黒褐色 10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒20%	
6	褐色 10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
7	褐色 10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
8	明褐色 7.5YR 5/8	堅		崩落ローム
9	明黄褐色 10YR 6/6	堅		崩落ローム
10	にぶい黄褐色 10YR 4/3	堅	ローム粒7%	
11	黄褐色 7.5YR 7/8	堅		崩落ローム
12	にぶい黄褐色 10YR 5/3	やや軟	ローム粒7%	ローム崩落後の隙間を充填
13	褐色 7.5YR 6/8	堅		崩落ローム
14	黒褐色 10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%	
15	褐色 7.5YR 6/8	すこぶる堅		
16	黒褐色 10YR 3/2	軟	ローム粒15%	崩落ローム
17	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒2%	
18	灰黄褐色 10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
19	反黄褐色 10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%	床面貼り土
20	明黄褐色 10YR 6/8	すこぶる堅	球とんどローム	床面貼り土
21	褐色 10YR 3/3	軟	ローム粒20%	



図IV-112 OP-6・7

OP-8

+L160



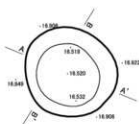
OP-8					
No.	土色	粘性	しまり	混入物	
1	黒色	10YR 2/1	なし	なし	20mm以下の黄褐色土粒3%混じる

+M160

OP-9

+L153

+L154



OP-9						
No.	土色	粘性	しまり	混入物	その他	
1	黒色	10YR 1.7/1	なし	あり	5mm以下の黄褐色土粒3%混じる	硬い
2	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	20mm以下の黄褐色土粒15%混じる	
3	黄褐色	10YR 3/2	なし	あり	50mm以下の黄褐色土ブロック20%断状に混じる	硬い

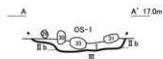
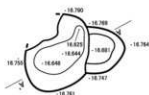
0 1:40 2m

図IV-113 OP-8・9

OP-10

+M151

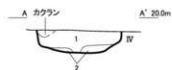
+M152



OP-10

No.	土色	堅密度	しまり	その他
1	黒色	10YR 1.7/1	なし	II層相当

OP-11

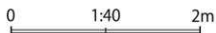


OP-11

No.	土色	堅密度	混入物
1	にふい黄褐色	10YR 4/3	壁 ロームブロック・ローム粒10%
2	褐色	10YR 4/4	壁 ロームブロック・ローム粒20%

+M09

M100→



OP-12



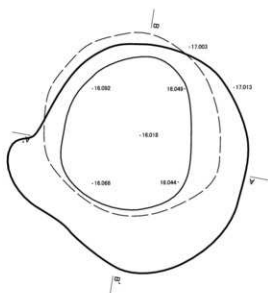
OP-12

No.	土色	堅硬度	混入物
1	にぶい黄褐色 10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%
2	黒褐色 10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒3%
3	にぶい黄褐色 10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒20%

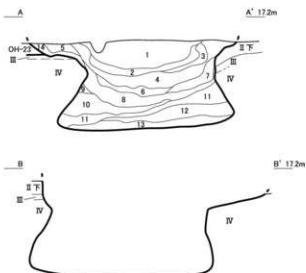
+L100

L101→

OP-13



+L157



+M157

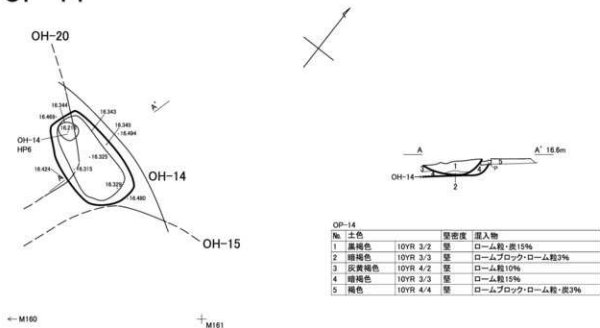
0 1:40 2m

OP-13

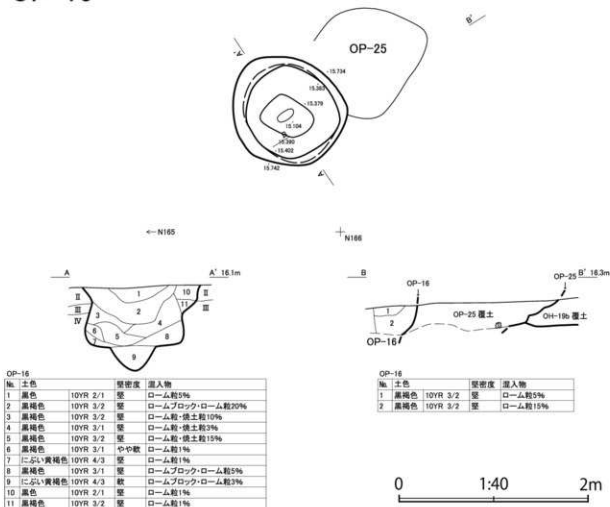
No.	土色	粘性	しまり	層厚	混入物	その他
1	黒褐色 10YR 2/2	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒、骨片10%混じる	
2	黒色 10YR 1.7/1	なし	ややあり	自然	10mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒、骨片5%混じる	
3	にぶい黄褐色 10YR 4/3	なし	ややあり	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック、炭化物10%混じる	
4	黒褐色 10YR 2/3	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒、骨片15%混じる	
5	黒色 10YR 1.7/1	なし	なし	自然	10mm以下の黄褐色土粒3%混じる	
6	にぶい黄褐色 10YR 4/3	なし	ややあり	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック15%混じる	
7	褐色 10YR 4/6	あり	あり			IV層相当
8	黒褐色 10YR 2/3	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒、骨片10%混じる	
9	黒色 10YR 2/1	なし	なし	自然	5mm以下の黄褐色土粒3%混じる	
10	暗褐色 10YR 3/4	なし	ややあり	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック10%混じる	
11	灰黄褐色 10YR 4/2	あり	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒、骨片7%混じる	
12	褐色 10YR 4/4	あり	あり	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック10%混じる	
13	黒褐色 10YR 2/2	なし	なし	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック、炭化物7%混じる	
14	黒色 10YR 1.7/1	なし	なし	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック9%混じる	

図IV-115 OP-12・13

OP-14

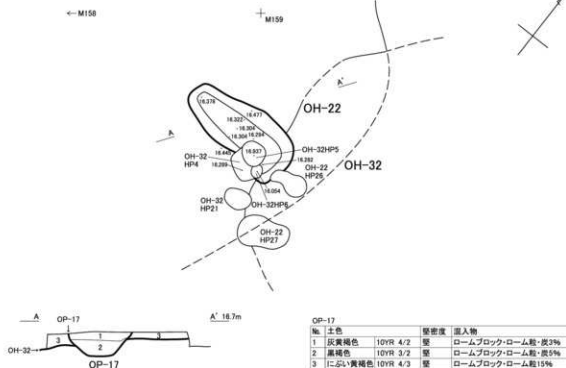


OP-16

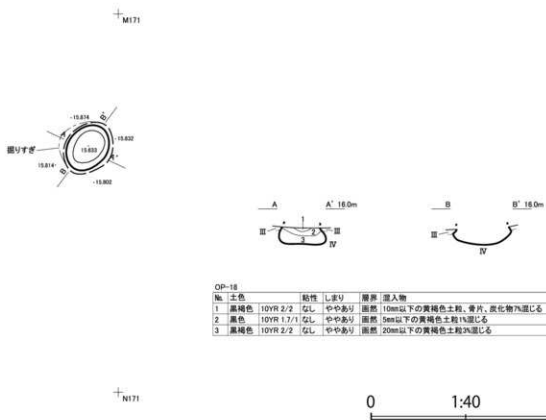


図IV-116 OP-14・16

OP-17



OP-18



図IV-117 OP-17・18

OP-19



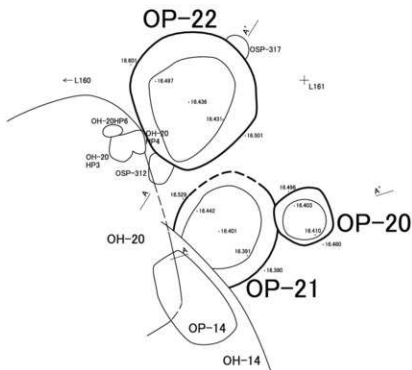
+L170



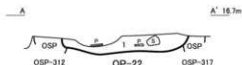
+L171

OP-19		粘性	層厚	混入物	その他
No.	土色				
1	黒色 10YR 2/1	なし	自然	10mm以下の黄褐色土粒1%混じる	塚土

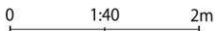
OP-20・OP-21・OP-22



OP-21		堅密度	混入物	その他
No.	土色			
1	黒褐色 10YR 2/2	堅	ローム粒15%	
2	黒褐色 10YR 3/2	堅	ローム粒・炭3%	



OP-22		堅密度	混入物	その他
No.	土色			
1	黒褐色 10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒7%	碑・土器なげこまれ

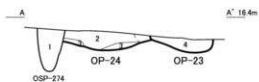
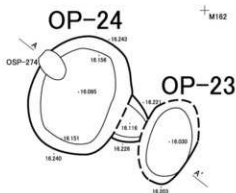


図IV-118 OP-19~22

OP-23・OP-24

+M161

+M162

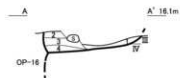


OP-23-24

No.	土色	堅密度	混入物
1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟 ローム粒・炭10%
2	黒褐色	10YR 2/2	堅 ロームブロック・ローム粒10%
3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅 ロームブロック・ローム粒50%
4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅 ローム粒・炭3%

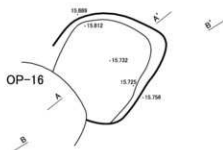
OP-25

+M166



OP-25

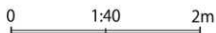
No.	土色	堅密度	混入物
1	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒・炭15%
2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅 ローム粒10%
3	黒褐色	10YR 3/3	堅 ローム粒・焼土粒・炭15%
4	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒2%



OP-25

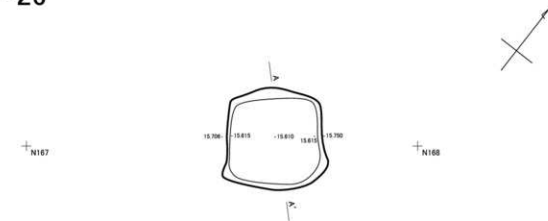
No.	土色	堅密度	混入物
1	黒褐色	10YR 3/2	堅 ローム粒2%
2	黒褐色	10YR 3/3	堅 ローム粒・炭10%
3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅 ローム粒・炭20%
4	黒褐色	10YR 2/2	堅 ローム粒2%

+N166



図IV-119 OP-23~25

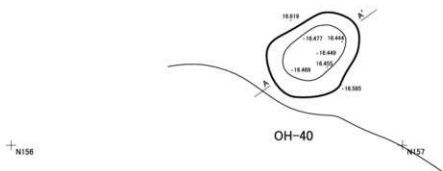
OP-26



OP-26

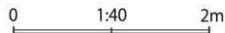
№	土色	堅密度	混入物
1	褐色	10YR 4/4	壁 ロームブロック・ローム粒3%
2	黒褐色	10YR 3/2	壁 ローム粒5%
3	褐色	10YR 4/6	壁 ロームブロック・ローム粒30%
4	にぶい黄褐色	10YR 5/4	壁 ロームブロック・ローム粒30%

OP-27



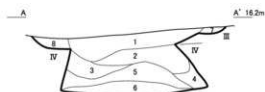
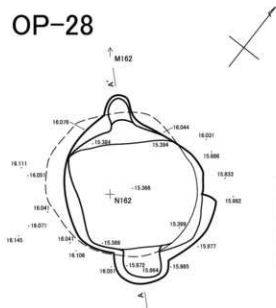
OP-27

№	土色	粘性	しまり	層界	混入物
1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	判然 10mm以下の黄褐色土粒、炭化物、焼土粒5%混じる



図IV-120 OP-26・27

OP-28



OP-28

No.	土色	壁密度	混入物	その他
1	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒3%
2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・皮3%
3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
4	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒10%
5	灰黄褐色	10YR 4/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒・皮20%
6	黒褐色	10YR 3/1	やや軟	ロームブロック・ローム粒30%
7	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%
8	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%

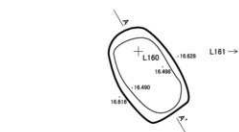
OP-29



OP-29

No.	土色	壁密度	混入物	その他
1	明黄褐色	10YR 7/6	すこぶる堅	ローム主体
2	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	極小ローム15%
3	灰黄褐色2より やや明るい	10YR 4/2	堅	極小ローム20% ・ホー中ロームブロック5%
4	にぶい黄褐色	10YR 5/3	堅	極小ローム20% ・ホー中ロームブロック40%
5	明黄褐色	10YR 6/6	軟	ローム主体

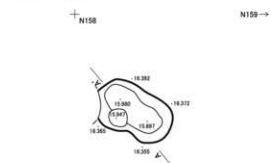
OP-30



OP-30

No.	土色	壁密度	混入物	その他
1	褐色	10YR 4/4	堅	ほとんどローム
2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%
3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%

OP-31



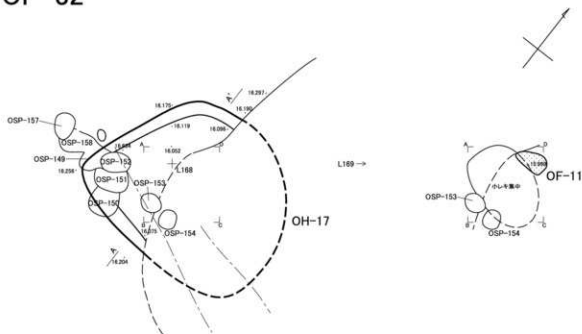
OP-31

No.	土色	壁密度	混入物	その他
1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・皮2%
2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・皮3%
3	にぶい黄褐色	10YR 5/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
4	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒10%
5	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ローム粒・皮10%
6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%

0 1:40 2m

図IV-121 OP-28~31

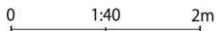
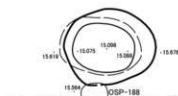
OP-32



OP-32

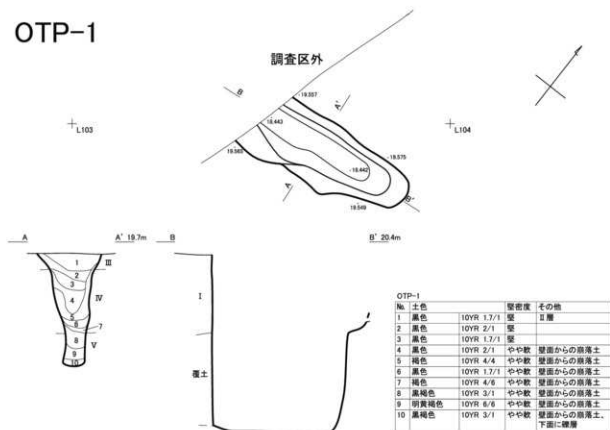
No.	土色	層密度	混入物
1	黒褐色 10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭5%
2	黒色 10YR 2/1	堅	ローム粒3%
3	黒褐色 10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒50%

OP-33

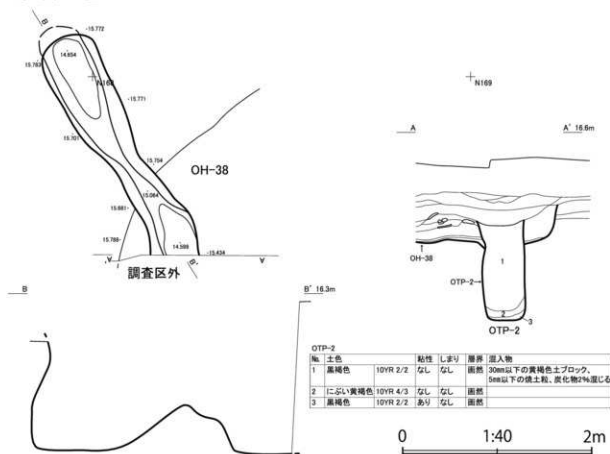


図IV-122 OP-32・33

OTP-1

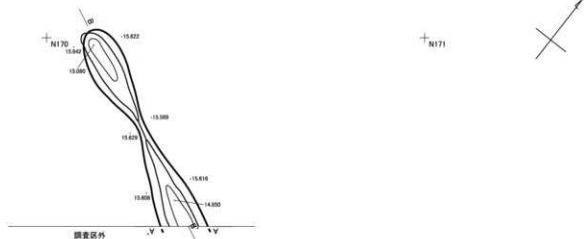


OTP-2



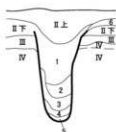
図IV-123 OTP-1・2

OTP-3



A A' 16.4m

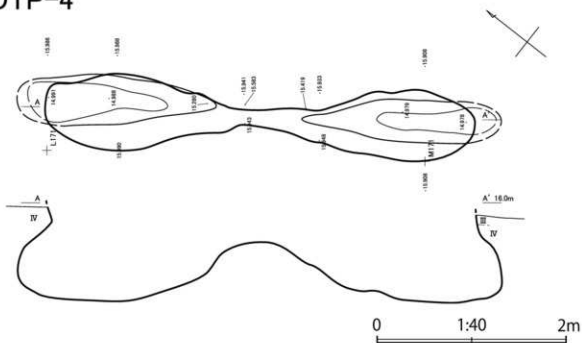
B B' 16.2m



OTP-3

No.	土色	粘性	しまり	層界	埋人物
1	黒色 10YR 2/1	なし	ややあり	自然	5cm以下の黄褐色土粒、炭化物1%混じる
2	黒褐色 10YR 2/3	なし	なし	自然	黄褐色土ブロック50%とモザイク状
3	黒色 10YR 2/1	なし	なし	自然	黄褐色土ブロック7%混じる
4	褐色 10YR 4/4	なし	なし	自然	20mm以下の黒褐色土粒7%混じる
5	黒色 10YR 1.7/1	なし	なし	自然	20mm以下の黄褐色土粒3%混じる
6	黒褐色 10YR 2/3	なし	ややあり	自然	30mm以下の黄褐色土ブロック7%混状に混じる

OTP-4



A

A' 16.0m

0 1:40 2m

図IV-124 OTP-3・4

OF-1

+L154



OF-1 上面写真より取上した遺物の範囲

+M154



OF-1

No.	土色	粘性	しまり	混入物	
1	黒色	10YR 2/1	なし	あり	5cm以下の焼土粒2%混じる
2	黒褐色	7.5YR 2/2	なし	あり	10cm以下の焼土粒20%、炭化物微量混じる
3	黒褐色	7.5YR 2/2	なし	あり	5cm以下の焼土粒7%混じる
4	黒色	10YR 2/1	なし	あり	5cm以下の黄褐色土粒3%混じる
5	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	5cm以下の黄褐色土粒3%混じる

OF-2

+L180

L181 →

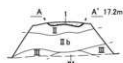


OF-2

No.	土色	堅密度	混入物	その他	
1	暗褐色	7.5YR 3/3	堅	焼土粒・炭粉・焼骨7%	すべて焼土
2	黒褐色	10YR 3/2	堅	焼土粒・ローム粒・皮粒・焼骨15%	礎土的

OF-3

+L151



OF-3

No.	土色	粘性	しまり	境界	混入物	
1	黒褐色	5YR 2/2	なし	なし	炭灰	5cm以下の炭化物少量混じる

OF-4

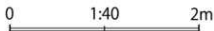
+L168

L169 →



OF-4

No.	土色	堅密度	混入物	その他	
1	褐色	7.5YR 4/4	堅	焼土	
2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒7%	OH-18覆土
3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%	OH-18覆土

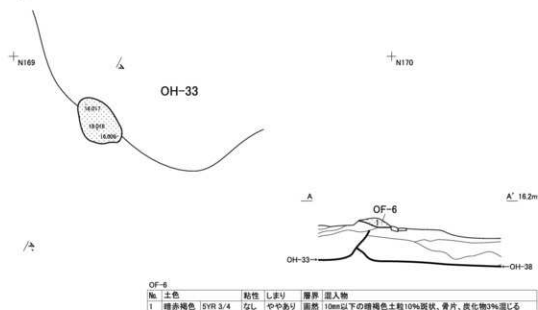


図IV-125 OF-1~4

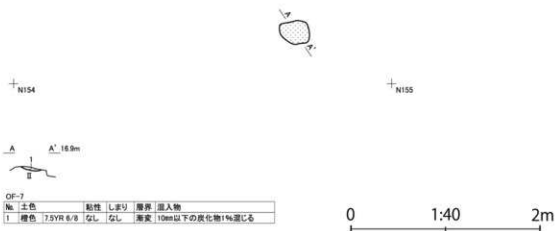
OF-5



OF-6

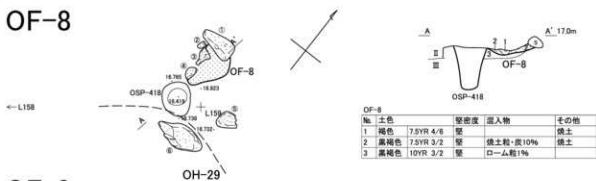


OF-7

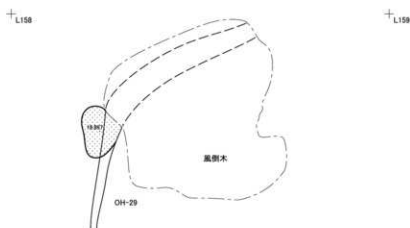


図IV-126 OF-5~7

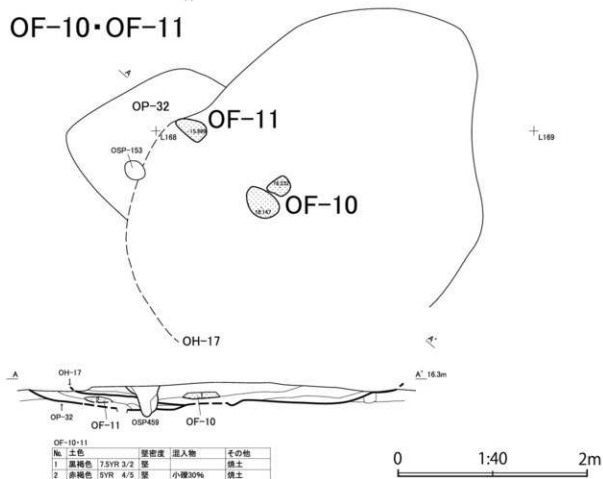
OF-8



OF-9



OF-10・OF-11



図IV-127 OF-8~11

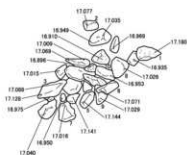
OS-1

+ M151

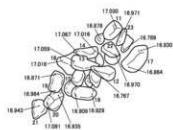
+ M151



OS-1(1回目)



OS-1(2回目)

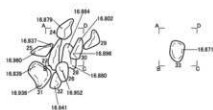


+ N151

+ N151

+ M151

OS-1(3回目)

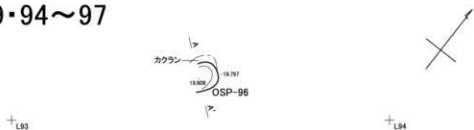


+ N151

0 1:40 2m

図IV-129 OS-1

OSP-89・94~97

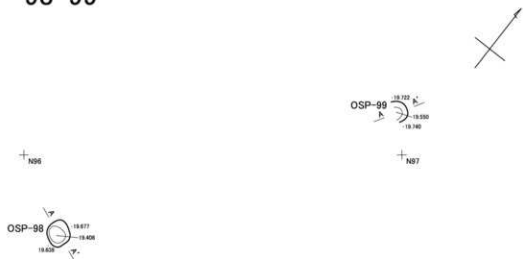


OSP-87



図IV-130 OSP (1)

OSP-98・99



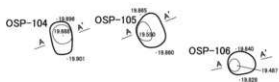
OSP-100・101



+ NB8

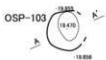
0 1:40 2m

OSP-102~106



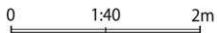
+ L99

+ L100



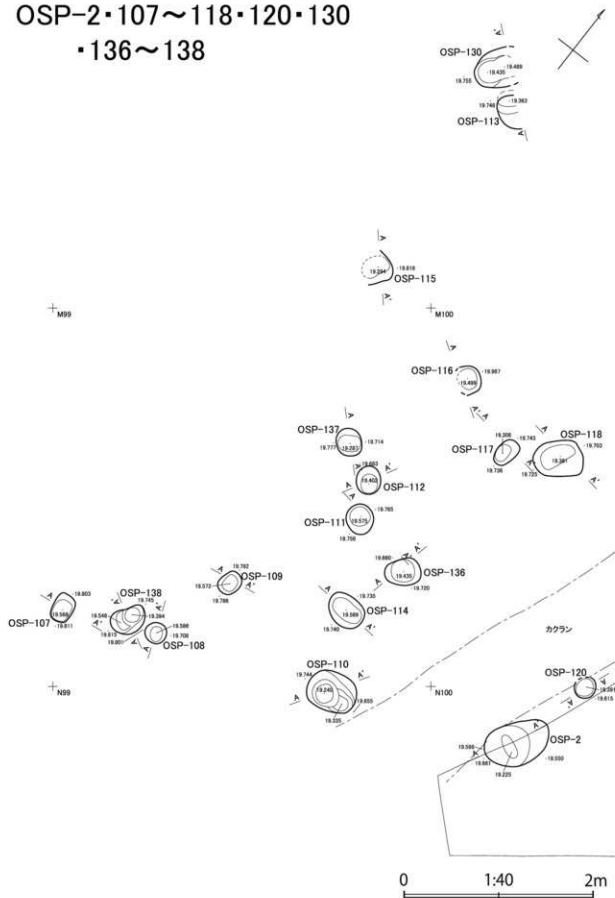
+ M99

+ M100



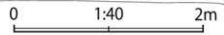
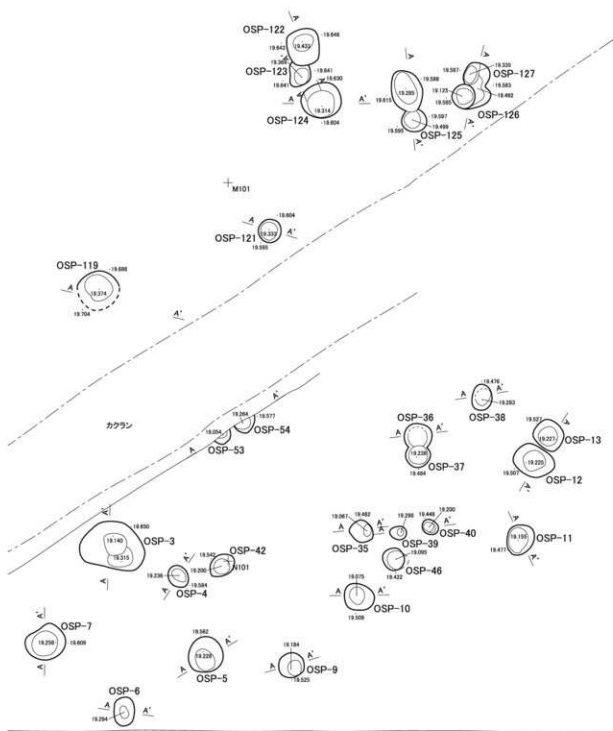
図IV-132 OSP (3)

OSP-2・107～118・120・130
 ・136～138



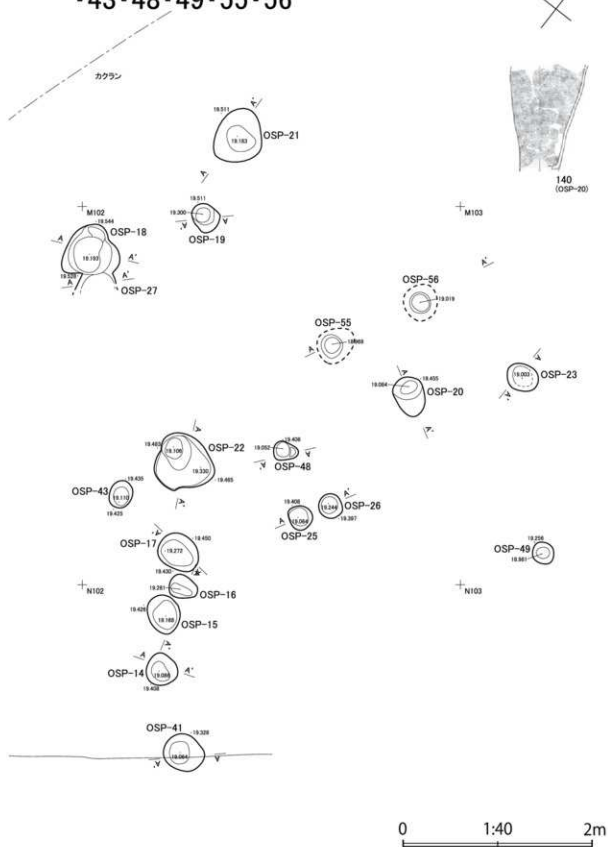
図IV-133 OSP (4)

OSP-3~7・9~13・35~40
 ・42・46・53・54・119
 ・121~128



図IV-134 OSP (5)

OSP-14~23・25~27・41
 ・43・48・49・55・56

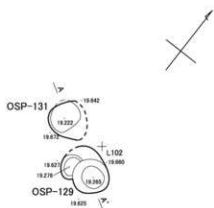


図IV-135 OSP (6)

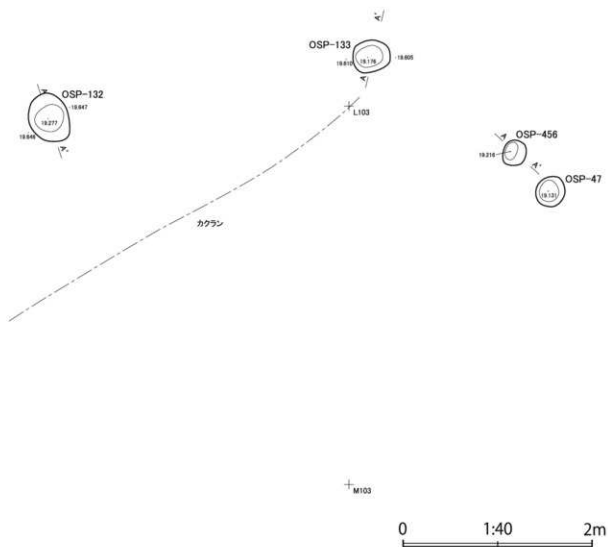
OSP-129・131

+

L101

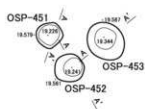


OSP-47・132・133・456

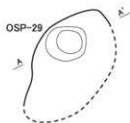


図IV-136 OSP (7)

OSP-28・29・451~455



+ L105



+ M105

OSP-24・30・52



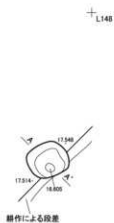
+ M105



+ N105

0 1:40 2m

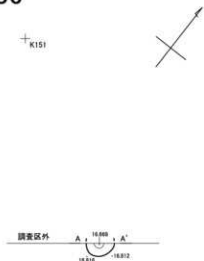
OSP-84



+L148

+M148

OSP-86



+K151

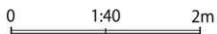
+L151

OSP-88・91



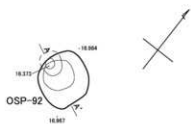
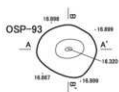
+N151

+N152



図IV-138 OSP (9)

OSP-92・93

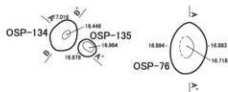


+ M154

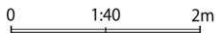
+ M155

OSP-76・82・83・134・135

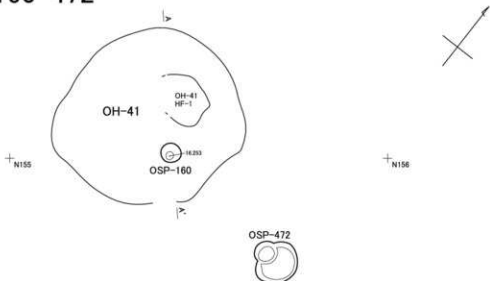
+ L156



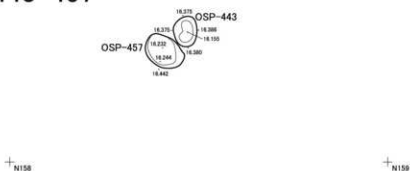
+ M156



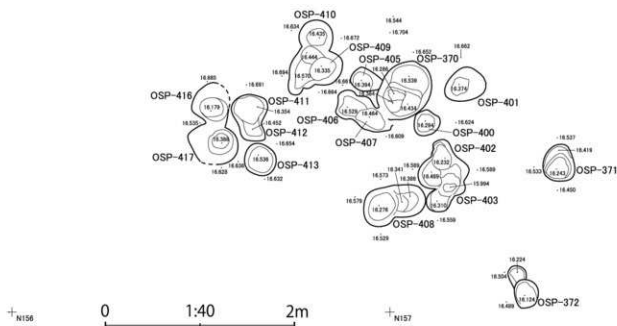
OSP-160・472



OSP-443・457

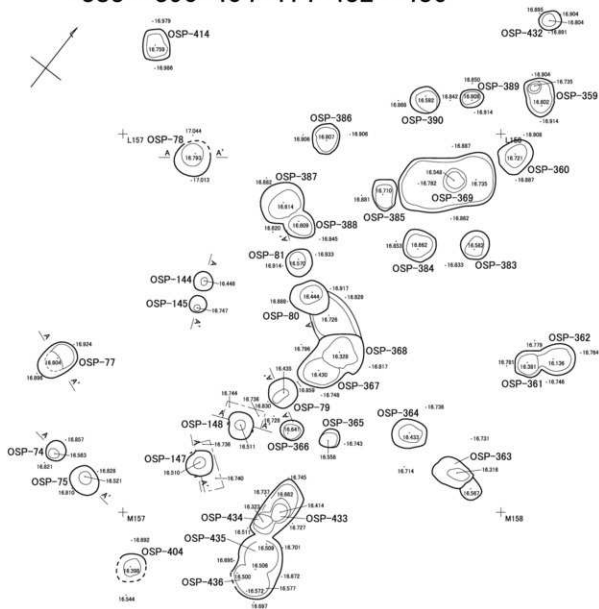


OSP-370~372・400~403・405~413・416・417



図IV-140 OSP (11)

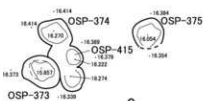
OSP-74・75・77~81・144・145・147・148・359~369
 ・383~390・404・414・432~436



OSP-373~375・415

+ N157

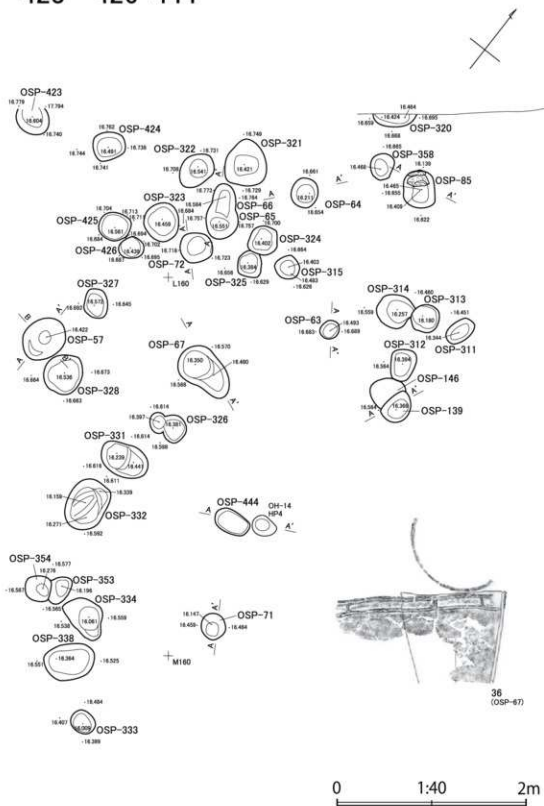
+ N158



0 1:40 2m

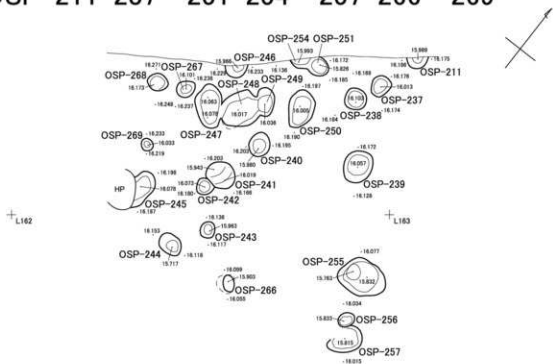
図IV-141 OSP (12)

OSP-57・63~67・71・72・85・139・146・311~315
 ・320~328・331~334・338・353・354・358
 ・423~426・444

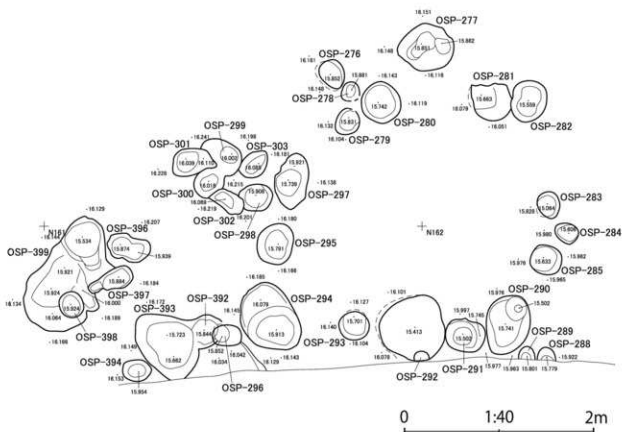


図IV-143 OSP (14)

OSP-211・237～251・254～257・266～269

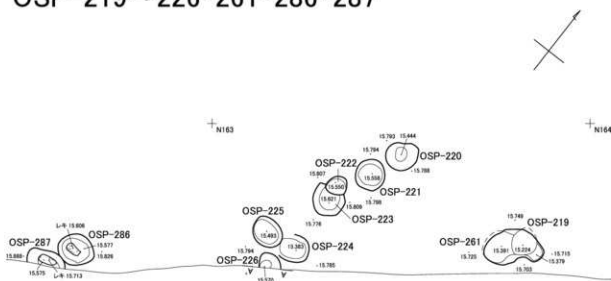


OSP-276～285・288～303・392～394・396～399

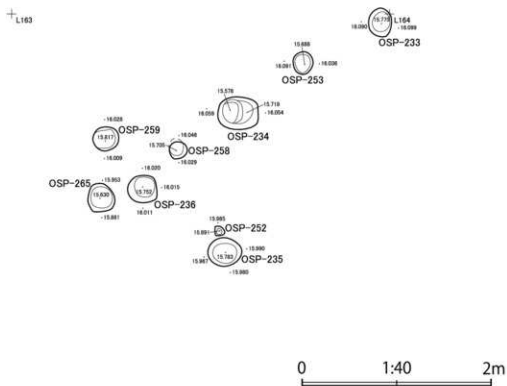


図IV-145 OSP (16)

OSP-219~226・261・286・287

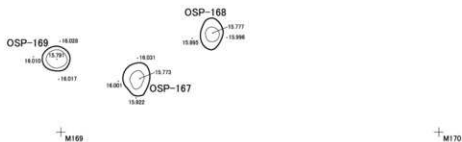


OSP-233~236・252・253・258・259・265

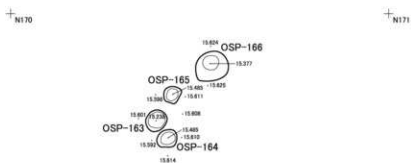


図IV-146 OSP (17)

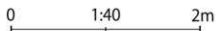
OSP-167~169



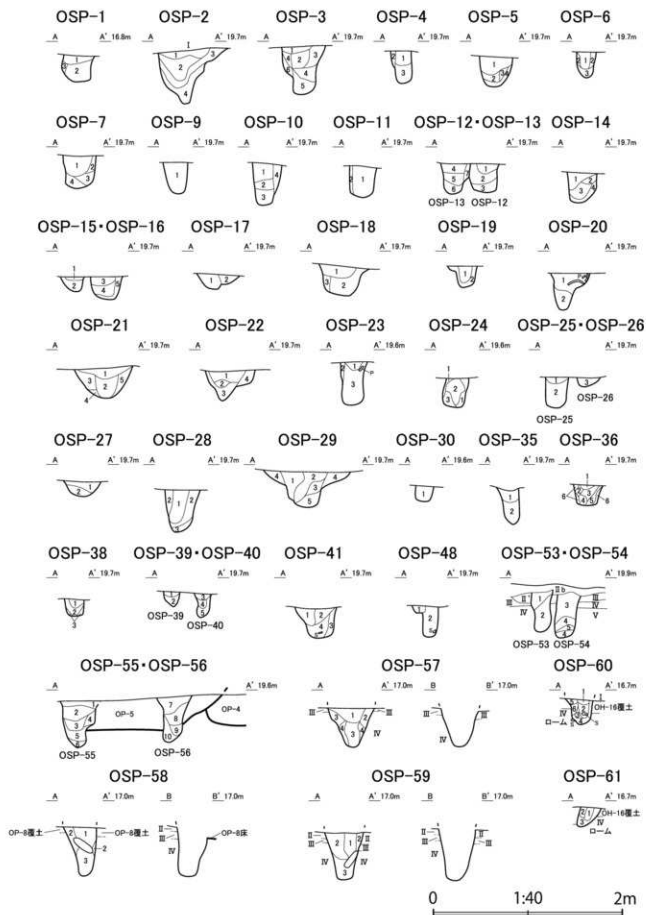
OSP-163~166



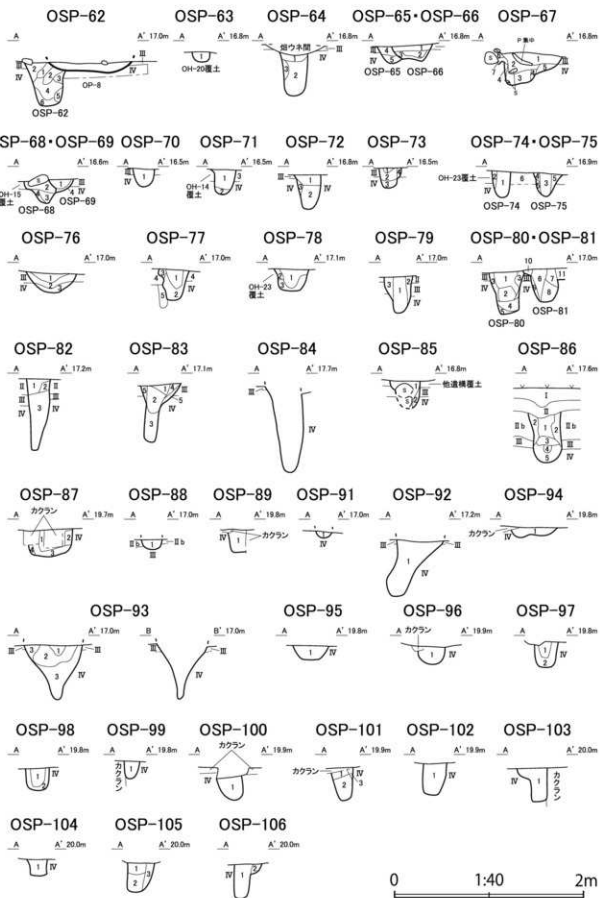
OSP-162



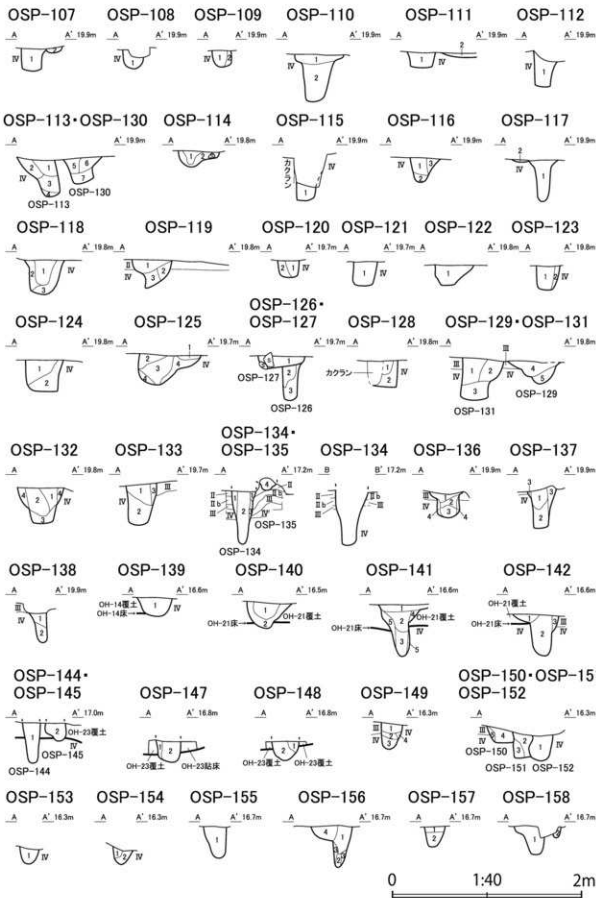
図IV-150 OSP (21)



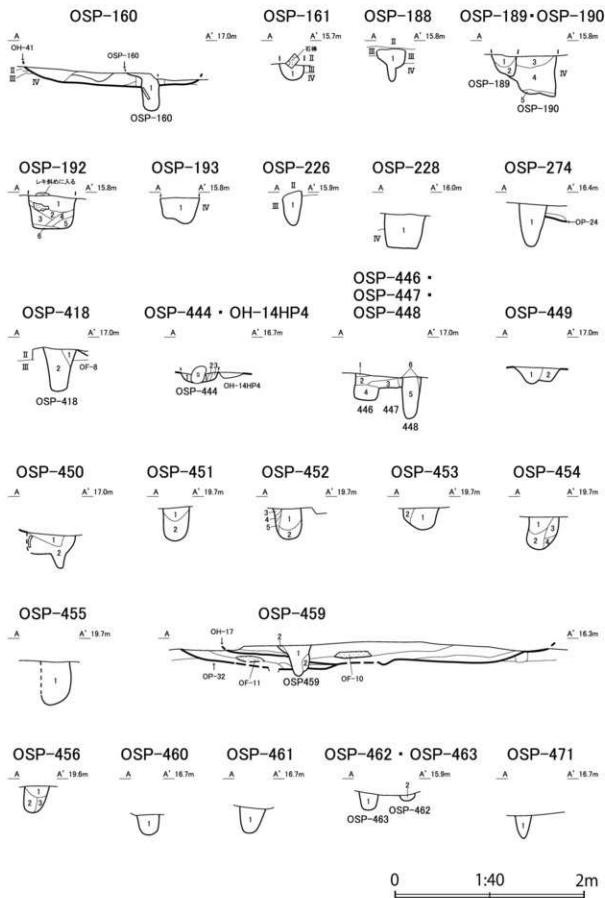
図IV-151 OSP (22)



図IV-152 OSP (23)



図IV-153 OSP (24)



図IV-154 OSP (25)

遺構名	No	土色	堅硬度	埋入物	その他
OSP-1	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・皮3%
	2	黒褐色	10YR 2/2	軟	ローム粒・皮3%
	3	暗褐色	10YR 3/3	やや軟	ローム粒2%
OSP-2	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒2%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・皮3%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・皮10%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-3	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%
	2	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒3%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%
	4	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	5	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-4	1	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒2%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-5	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒2%
	2	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	4	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-6	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-7	1	黒色	10YR 1/1	やや軟	ローム粒3%
	2	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-9	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒20%
	3	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-10	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒2%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	軟	ロームブロック・ローム粒30%
	3	黒褐色	10YR 2/1	やや軟	ロームブロック・ローム粒3%
	4	黒褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%
OSP-11	1	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒2%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒7%
OSP-12-13	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	5	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	6	黒褐色	10YR 3/1	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	7	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-14	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒3%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-15-16	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	3	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒2%
	4	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒5%
	5	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-17	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・皮5%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒1%
OSP-18	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-19	3	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒40%
	1	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-20	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	
	2	黒色	10YR 2/1	堅	直径1cmのロームブロック10%
OSP-21	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒3%
	2	黒色	10YR 2/1	軟	ローム粒2%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒15%
	4	黒色	10YR 1/1	やや軟	ローム粒1%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-22	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒3%
	2	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	3	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
	4	暗褐色	10YR 2/4	堅	ロームブロック・ローム粒3%
OSP-23	1	黒色	10YR 2/1	堅	
	2	暗褐色	10YR 3/4	すこぶる堅	
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	直径3cmの黒色土ブロック5%、直径2cmのロームブロック30%
OSP-24	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	直径1cmのロームブロック20%、皮僅か
	2	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	直径4cmのロームブロック10%、皮10%
	3	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	直径3cmのロームブロック20%、黒色土ブロック10%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	
OSP-25-26	1	黒色	10YR 1/1	堅	ローム粒2%
	2	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
	3	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-27	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒2%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-28	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	3	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒3%

遺構名	№	土色	堅密度	混入物	その他
OSP-29	1	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%
	3	黒色	10YR 2/1	軟	ローム粒5%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒1%
	5	10YR 3/3	やや軟	ローム粒5%	
OSP-30	1	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒3%
OSP-35	1	暗褐色	10YR 3/3	しまり弱	ローム40%
	2	褐色	10YR 4/6	ややしまる	ローム50%
OSP-36	1	暗褐色	10YR 3/3	しまり弱	ローム粒30%
	2	褐色	10YR 4/6	しまり弱	ローム粒50%
	3	暗褐色	10YR 3/3	しまり弱	ローム粒30%、直径0.3cmのロームブロック5%
	4	褐色	10YR 4/4	しまり弱	ローム粒40%
	5	褐色	10YR 4/6	しまり弱	ローム粒マーブル状に50%
OSP-38	6	黄褐色	10YR 5/8	ややしまる	層厚層並に
	1	暗褐色	10YR 2/3	ややしまる	ローム粒25%
	2	黒褐色	10YR 2/3	ややしまる	ローム粒25%、直径1cmのロームブロック75%
	3	黄褐色	10YR 5/8	ややしまる	黒色土40%マーブル状、ローム主体
	1	黒褐色	10YR 2/3	しまる	直径1cmのロームブロック30%
OSP-39-40	2	黒褐色	10YR 2/2	しまる	直径0.2cmのロームブロック5%
	3	暗褐色	10YR 3/4	しまり弱	ローム粒10%
OSP-41	4	暗褐色	10YR 3/4	しまり弱	ローム粒10%、直径1cmのロームブロック25%
	5	褐色	10YR 4/6	しまり弱	ローム粒40%
	1	暗褐色	10YR 3/4	しまり弱	ローム40%
	2	暗褐色	10YR 3/3	しまり弱	ローム30%
	3	黄褐色	10YR 5/8	しまる	ローム主体、黒色土20%
OSP-48	4	黒褐色	10YR 2/3	しまり弱	ロームブロック15%
	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	直径2cmのロームブロック5%
	2	暗褐色	10YR 3/4	軟	直径2cmのロームブロック・黒色土ブロック10%、視欠
	3	暗褐色	10YR 2/2	堅	直径1cmのロームブロック1%
OSP-53-54	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	直径1cmのロームブロック20%
	3	暗褐色	10YR 3/4	すこぶる堅	直径1cmのロームブロック20%、炭椀か
	4	黒褐色	10YR 2/3	すこぶる堅	直径2cmのロームブロック10%、炭椀か
	5	黒褐色	10YR 2/2	堅	直径1cmのロームブロック10%
	6	黄褐色	10YR 2/3	堅	
OSP-55-56	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒3%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・炭3%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%
	4	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒5%
	5	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	6	暗褐色	10YR 2/1	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%
	7	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒3%
	8	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%
	9	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	10	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-60	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒・炭10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	炭・ローム粒7%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	炭・ローム粒5%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	6	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
OSP-61	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・焼土粒・炭3%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒7%
	4	褐色	7.5YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・炭20%
OSP-64	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒・焼土粒15%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
OSP-65-66	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒5%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	4	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒7%
	5	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-67	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・炭・焼土粒10%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒5%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒・炭15%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	5	暗褐色	10YR 3/3	堅	焼土ブロック・ローム粒5%
	6	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒2%
	7	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒3%
OSP-68-69	1	黒色	10YR 1/1.1	堅	ローム粒1%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒3%
	3	黒色	10YR 1/1.1	堅	ローム粒3%
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-70	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・炭5%
OSP-71	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒20%
	2	黒褐色	10YR 2/1	堅	ローム粒・炭3%
OSP-72	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%

図IV-156 OSP (27)

通構名	No	土色	容密度	混入物	その他
OSP-73	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-74-75	1	褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・焼土粒・灰2%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒5%
	5	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
OSP-76	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒15%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
OSP-77	3	灰黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・灰・焼土粒20%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒・灰25%
OSP-78	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%
	4	黒褐色	10YR 2/2	堅	SP14-75の6と同じ
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・焼土粒・灰10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%
OSP-79	3	暗褐色	10YR 3/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%
	1	褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・灰粒7%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	3	暗褐色	10YR 3/4	堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-80-81	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	2	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒2%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	4	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	
	5	褐色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-82	6	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	7	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	8	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒5%
	9	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	10	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒15%
	11	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒15%
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	2	褐色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒3%
	3	黒褐色	10YR 3/2	軟	ロームブロック・ローム粒5%
	1	褐色	10YR 1.7/1	堅	ローム粒7%
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-83	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒1%
	4	黒褐色	10YR 3/2	しょう	ローム粒7%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	しょう	ロームブロック・ローム粒25%
	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒・灰15%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
OSP-87	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	暗褐色	10YR 3/4	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-89	1	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-94	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム粒1%
OSP-95	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム粒1%
OSP-96	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・灰15%
OSP-97	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒15%
OSP-98	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒20%
	1	黒褐色	10YR 2/2	すこぶる堅	ローム粒5%
OSP-103	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-99	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-100	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・灰10%
OSP-101	1	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅	ローム粒1%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒3%
	3	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅	ローム粒1%
OSP-102	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・灰20%
OSP-103	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒5%
OSP-104	1	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%
OSP-105	1	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ローム粒・灰7%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒50%
OSP-106	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-107	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-108	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-109	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-110	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム粒・灰化粒5%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒25%
	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-111	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
OSP-112	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%

遺構名	No	土色	堅硬度	埋入物	その他
OSP-113-130	1	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	4	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%
	5	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒1%
	6	にぶい黄褐色	10YR 5/4	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	7	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
OSP-114	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒10%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-115	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-116	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒3%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%
OSP-117	1	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ローム粒・皮30%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒1%
	3	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム粒・皮5%
	4	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒10%
	5	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・皮20%
OSP-118	1	灰黄褐色	10YR 4/2	すこぶる堅	ローム粒・皮1%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-120	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-121	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ローム粒・皮1%
OSP-122	1	暗褐色	10YR 3/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒7%
OSP-123	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒20%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒・皮40%
OSP-124	1	暗褐色	10YR 3/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒15%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-125	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒1%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒7%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒2%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-126-127	1	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
OSP-128	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒3%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
OSP-129-131	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒15%
	2	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
OSP-132	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・皮2%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒20%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒25%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-133	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒5%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
OSP-136	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒2%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒3%
	3	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒2%
	4	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%
OSP-137	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・皮7%
	2	褐色	10YR 4/4	しゅう	ローム粒2%
	3	黄褐色	10YR 5/6	堅	ロームブロック・ローム粒25%
OSP-138	1	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック7%
	2	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%
OSP-139	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ロームブロック・ローム粒・皮10%
OSP-140	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒・皮5%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒10%
OSP-141	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒3%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒・皮5%
	3	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒25%
	4	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒2%
	5	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-142	1	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒7%
	2	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒5%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒10%
OSP-149	1	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・皮2%
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	灰・焼土ブロック20%
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック10%
	4	灰黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒・皮40%
OSP-150-151 *152	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・焼土粒・皮10%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒・焼土粒・皮・ロームブロック30%
	3	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒15%
	4	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・皮7%
	5	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒40%
OSP-153	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・皮7%
OSP-154	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ローム粒50%
	2	暗褐色	10YR 3/3	堅	ローム粒・皮3%

遺構名	%	土色	堅硬度	混入物	その他	
OSP-155	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・度3%	
	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒・度5%	
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒5%	
OSP-156	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	4	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	1	にぶい黄褐色	10YR 5/4	すこぶる堅	ローム100%	
OSP-157	2	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒5%	
	1	にぶい黄褐色	10YR 4/5	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
OSP-158	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・度15%	
OSP-159	1	暗褐色	10YR 3/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒・焼土粒15%	
OSP-161	1	黒褐色	10YR 3/1	硬	焼土・しょう	
OSP-180	1	黒褐色	10YR 3/1	硬	焼土・しょう	粘性强
OSP-189-190	1	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	焼小～中ローム粒20%	サラサラ
	2	明黄褐色	10YR 7/6	すこぶる堅	ローム主体、黒色土30%	粘性强
	3	黒色	10YR 2/1	堅	焼小ローム5%	粘わずか
	4	黒色	10YR 2/1	しょう	焼小～中ローム40%	粘性强
	5	黒色	10YR 2/1	軟	焼小ローム7%	粘性强
OSP-192	1	黒褐色	10YR 3/1	軟	焼小～中ローム20%	粘性ややあり
	2	黒色	10YR 2/1	軟	焼小ローム20%	粘あり
	3	黒褐色	10YR 2/2	軟	焼小～大ローム40%	ぼそぼそ、粘性ややあり
	4	黒色	10YR 2/1	軟	焼小ローム7%	粘性あり
	5	黒色	10YR 2/1	しょう	焼小ローム50%	粘性ややあり
	6	黒色	10YR 2/1	軟	焼小ローム3%	粘性ややあり
OSP-193	1	黒色	10YR 2/1	堅	焼小～中ローム粒15%・度5%	サラサラ、しまりなし
OSP-226	1	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	焼小～小ローム10%	粘性强
OSP-228	1	黒褐色	10YR 3/2	すこぶる堅	ローム焼小～中7%	サラサラ、しまりなし
OSP-274	1	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ローム粒・度10%	
OSP-418	1	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒15%	
OSP-444	1	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒2%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	
	3	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック5%	
OSP-446-447 +448	1	反赤色	2.5YR 6/2	すこぶる堅		粘土
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒・度15%	
	3	黒褐色	10YR 3/1	堅	ローム粒3%	
	4	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒5%	
	5	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
OSP-449	6	暗褐色	10YR 3/3	堅	ロームブロック・ローム粒50%	
	1	反黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
OSP-450	1	黒色	10YR 2/1	すこぶる堅	粘質 ローム粒2%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	すこぶる堅	粘質 ロームブロック・ローム粒20%	
OSP-451	1	黒色	10YR 2/1	堅	ローム粒・度2%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%	
OSP-452	1	黒褐色	10YR 2/1	やや軟	ロームブロック・ローム粒3%	
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒7%	
	3	褐色	10YR 4/4	すこぶる堅	ローム粒1%	
	4	明黄褐色	10YR 6/6	すこぶる堅	ぼとんどローム	
	5	にぶい黄褐色	10YR 5/3	すこぶる堅	ロームブロック・ローム粒15%	
OSP-453	1	黒色	10YR 2/1	堅	ロームブロック・ローム粒10%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒7%	
OSP-454	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	ローム粒3%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	軟	ローム粒5%	
	3	暗褐色	10YR 3/3	やや軟	ロームブロック・ローム粒15%	
OSP-455	4	黒色	10YR 2/1	軟	ローム粒10%	
	1	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	度・ローム粒5%	
	2	黒褐色	10YR 3/2	堅	ロームブロック・ローム粒5%	
OSP-456	2	黒褐色	10YR 2/2	やや軟	ローム粒3%	
	3	にぶい黄褐色	10YR 4/3	堅	ロームブロック・ローム粒30%	
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・度10%	
OSP-459	2	褐色	10YR 4/4	堅	ロームブロック・ローム粒40%	
	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・度15%	
OSP-460	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒・度3%	
OSP-462-463	1	黒褐色	10YR 3/2	堅	ローム粒3%	
	2	黒褐色	10YR 2/2	堅	ローム粒10%	
OSP-471	1	反黄褐色	10YR 4/2	堅	ロームブロック・ローム粒20%	

遺構名	%	土色	粘性	しまり	層界	混入物	その他
OSP-57	1	黒褐色	10YR 3/1	なし	なし		20mm以下の黄褐色土粒3%
	2	褐色	10YR 4/4	ややあり	ややあり		暗褐色土ブロック10%とモザイク状
	3	黒色	10YR 2/1	なし	なし		5mm以下の黄褐色土粒5%
	4	黒褐色	10YR 3/2	ややあり	なし		10mm以下の黄褐色土粒5%
OSP-58	1	黒褐色	10YR 3/1	なし	なし		20mm以下の黄褐色土粒、黒色土粒3%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	ややあり	あり		20mm以下の暗褐色土粒5%混在に混じる
	3	黒褐色	10YR 3/1	なし	なし		20mm以下の黄褐色土粒、黒色土粒3%
OSP-59	1	黒褐色	10YR 3/1	ややあり	あり		5mm以下の黄褐色土粒、焼土粒5%
	2	にぶい黄褐色	10YR 4/3	ややあり	あり		20mm以下の暗褐色土粒10%モザイク状に混じる
	3	反黄褐色	10YR 4/2	ややあり	あり		20mm以下の暗褐色土粒10%モザイク状に混じる

図IV-159 OSP (30)

遺構名	№	土色	粘性	しまり	層界	混入物	その他	
OSP-62	1	黒色	10YR 2/1	なし	なし	2cm以下の黄褐色土粒3%		
	2	黒色	10YR 1.7/1	なし	ややあり	2cm以下の黄褐色土粒3%		
	3	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	10cm以下の黄褐色土粒3%		
	4	暗褐色	10YR 3/3	なし	ややあり	10cm以下の黄褐色土粒15%		
	5	黒色	10YR 2/1	なし	なし	10cm以下の黄褐色土粒、炭土粒3%		
	6	暗褐色	10YR 3/4	なし	なし	10cm以下の黄褐色土粒7%		
OSP-66	1	黒色	10YR 1.7/1	なし	ややあり		II層落ち込み	
	2	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	1cm以下の黄褐色土粒1%		
	3	黒褐色	10YR 3/1	なし	なし	20cm以下の黄褐色土粒2%		
	4	黒褐色	10YR 2/2	なし	なし	5cm以下の黄褐色土粒7%		
	5	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	20cm以下の黄褐色土、暗褐色土粒7%混状に混じる		
OSP-68	1	黒色	10YR 1.7/1	なし	層状		II層落ち込み	
OSP-91	1	黒褐色	7.5YR 2/2	なし	ややあり	面状	20cm以下の黄褐色土粒10%混状に混じる	
OSP-92	1	黒色	10YR 2/1	なし	なし	2cm以下の黄褐色土粒3%		
OSP-93	1	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	5cm以下の黄褐色土粒3%		
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	20cm以下の黄褐色土粒5%		
	3	暗褐色	10YR 3/3	なし	ややあり	20cm以下の黄褐色土粒5%		
OSP-134-135	1	黒色	10YR 1.7/1	なし	なし	10cm以下の炭化物、黄褐色土粒7%		
	2	黒褐色	10YR 3/1	ややあり	ややあり	10cm以下の黄褐色土粒20%		
	3	黒褐色	10YR 2/2	ややあり	ややあり	10cm以下の黄褐色土粒20%		
	4	淡黄褐色	10YR 8/3	あり	あり		硬い 粘土	
OSP-144-145	1	黒褐色	10YR 2/2	なし	ややあり	面状	10cm以下の黄褐色土粒3%	
	2	黒褐色	10YR 2/3	なし	ややあり	面状	5cm以下の黄褐色土粒、炭化物7%	
OSP-147	1	淡黄褐色	10YR 4/2	なし	あり	面状	20cm以下の黄褐色土粒7%	硬い
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	面状	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%	硬い
OSP-148	1	淡黄褐色	10YR 4/2	なし	あり	面状	20cm以下の黄褐色土粒7%	硬い
	2	黒褐色	10YR 2/2	なし	あり	面状	10cm以下の黄褐色土粒、炭化物10%	硬い
OSP-160	1	黒色	10YR 2/1	なし	ややあり	面状	10cm以下の炭土粒、炭化物、黄褐色土粒7%混じる	

図IV-160 OSP (31)

V 遺物

1 土器

1 概要

今回の調査で出土した土器は123,612点で、その99%以上をIV群a類が占めている。IV群a類では、大津式に相当する同一個体の48点以外は、ほぼすべてが天祐寺式～涌元式に相当ないしは並行すると考えられるものであり、後期初頭の単純遺跡に近い様相を示している。出土状況は、盛土遺構・遺構覆土・I層から出土したものが多くを占め、遺構の床面から出土した例は少なく、そのほとんどが破片資料である。そこで今回は、出土土器全体の傾向を捉えるために、出土位置・層位を一括し、分類ごとに掲載することとした。主体であるIV群a類の天祐寺式～涌元式については、文様要素で細分した。掲載遺物の選択にあたっては、遺構に伴うもの、復元・器形復元できるものを優先し、さらに、特徴的なもの、他の遺跡・地域・時期との比較に有効なもの、遺構間で接合したものなどを選択した。なお、遺構の床面・付風施設などから出土したものや、覆土中で出土地点を計測して取り上げたものなどについては、実測図・拓影図を縮小して各遺構図のページに掲載した。

分布状況は、IV群a類では、遺構の集中するA・B地区から大部分が出土し、遺構がまとまる102～108ライン付近と、137～144ライン付近にもやや多く分布する。A・B地区では、盛土遺構のある151～157ライン、167～174ラインに集中し、東・西盛土遺構に挟まれた遺構集中範囲からも多く出土している。II群b類・III群a類は、m層、竪穴住居跡覆土、I・II・III層及び風倒木痕に散在している。III群a類は東盛土遺構の分布範囲に偏る。IV群c類はN144II層から、V群b類(L142I層、L157表探、L・M162II層)から出土している。

以下にまず、II群b類・III群a類・IV群a類大津式相当・IV群c類・V群b類について記載し、次にIV群a類の天祐寺式～涌元式について、復元および図上復元した資料と破片資料に分けて記載する。

2 II群b類・III群a類・IV群a類大津式相当・IV群c類・V群b類

II群b類 (図V-1-1 表16 図版53 掲載番号1・2)

10点出土し、2個体図示した。いずれも円筒下層d2式に相当するもの。1は器壁が薄く、小形の深鉢の頸部破片。屈曲部より上位に多数の縄線が横走り、その下位に刺突列が2条巡る。2は深鉢の口縁部破片。肥厚帯で口縁部文様帯を区画する。口唇端部には斜位の縄の刻みが増えられる。いずれも地文は多軸絡糸体で、胎土には繊維を含む。2は摩耗が著しい。

III群a類 (図V-1-1 表16 図版53 掲載番号3・4)

59点出土し、2点図示した。3は円筒上層a1式に相当する。文様帯の下縁付近の破片で、突起下位の部分。横走する縄線間に、縦位の短い縄線が増えられる。胎土に砂粒と海綿骨針を含む。4は円筒上層b式に相当する突起部の破片。口縁部は肥厚して縦位の縄線の刻みが増えられ、横走する縄線間に、半裁竹管状工具による刺突列が増えられる。胎土は繊維と砂粒を多く含み、摩耗が著しい。

IV群a類 大津式相当 (図V-1-1 表16 図版53 掲載番号5)

48点出土した。全て同一個体で一部を図示した。大形の深鉢。口縁部は縄文地に多重のV字状沈線が、胴部には磨消縄文による文様や「く」の字状の沈線文が描かれる。口唇端部は縄文が施文される。

IV群c類 (図V-1-1 表16 図版53 掲載番号6)

1点出土し、図示した。三ツ谷式に相当すると思われるもの。薄手で、小形の壺形土器の頸部とみられる。無文地で、屈曲部に沈線が横環し、沈線間に刻みが増えられる。

V群b類 (図V-1-1 表16 図版53 掲載番号7~11)

37点出土した。破片は5個体分で、それぞれ図示した。地文が確認できるものはすべて縦走縄文である。7・8は壺の頭～肩部。9は深鉢あるいは鉢の口縁部破片。口縁部に3条の太い沈線が描かれ、最下位の沈線は施文後に埋められている。10は外反する口縁部破片で、8と同一個体と思われる。内面に沈線が1条巡る。11は鉢形のミニチュア土器。

3 IV群a類 天祐寺式～涌元式に相当ないしは並行するのもの

123,457点出土し、740個体図示した。器種は深鉢・浅鉢・壺・広口壺と、ミニチュア土器がある。深鉢については、文様要素から、I類：縄文主体のもの(85%)、II類：粘土紐による区画・縄線文・沈線文・磨消縄文・刺突列・貼付文などの文様要素をもつもの(12%)、III類：無文のもの(3%)に分類した。I類はさらに、A類：筐状の貼付帯が口縁～底部に多段に巡るもの(6%)、B類：筐状の貼付帯が口縁部に2条巡るもの(16%)、C類：筐状の貼付帯が口縁下位に1条巡るもの(3%)、D類：筐状の貼付帯が口縁上端に1条巡るもの(13%)、E類：口縁部に縄線が巡るもの(18%)、F類：地文のみが施文されるもの(29%)に細分した。数字は復元・図上復元したものにおける比率である。

文様要素のうち、主体をなす貼付帯と縄文の特徴と、その記載に使用する用語を以下にまとめる。

1) 器壁を横環する「^ア筐状の貼付帯」が特徴的である。器壁を横環するものを「貼付帯」、粘土の貼り付けによる部分的な文様を「貼付文」とする。

2) 貼付帯の主体は、器壁との段差が明瞭なものであるが、器壁との段差が不明瞭な、「折り返し口縁」に類似するものもみられる。貼付帯を「器壁の成形後に、外面に粘土帯を貼り付けたもの」、折り返し口縁を「器壁成形時の粘土の輪積みの境界を調整せずに残したもの」とすると、貼り付けの手法であるが、段差が不明瞭な例や器壁と厚みの差がない例、折り返しの手法による器壁より厚い例など、中間的なものが認められた。また、口唇や内面の調整が丁寧なものでは手法の見分けは困難であり、両者を区別することは難しかった。そのため、今回は両者をまとめて「貼付帯」と呼称し、必要に応じて「折り返し状のもの」などの説明を加えることとした。また、口縁部に2条の貼付帯をもつものには、口縁上端の「折り返し状の貼付帯」と、下位の明瞭な「貼付帯」とが共存する例がある。

3) 縄文の施文方法について

① 貼付帯が横環するもの多くでは、貼付帯上に縄文が施文される。貼付帯上の縄文は原体を横回転して施文され、胴部地文では、同じ原体を縦回転にして施文されている。これにより、貼付帯上の縄文と胴部地文の縄文とで羽状となる縄文が施文される。この手法を簡略に「手法A」と呼称する。

② ①の施文順は、「貼付帯の貼り付け→地文縄文施文→貼付帯上縄文施文」の手順である場合がほとんどである。一見すると地文に貼付帯が被っているものが多いが、これは地文施文後に貼付帯上に縄文を施文することにより、貼付帯がつぶれて地文に被さったものであり、詳細に観察すると、貼付帯の端に地文が施文されている部分があること、あるいは、貼付帯の剥落部分には地文が施文されていないことから、貼付帯の貼り付け後に地文が施文されていることがわかる。

③ 貼付帯をもたないものでは、地文に羽状縄文が施されるものが多い。口縁部では原体が横回転で施文され、胴部では同じ原体が縦回転で施文される。これにより、口縁部の縄文と胴部の縄文とで羽状となる縄文が施文される。同様に、底部付近では横回転、胴部では縦回転で縄文が施文されることにより、羽状縄文が施文されるものもある。これらを簡略に、「手法B」と呼称する。他の文様が施文されない場合と、縄線や貼付帯などと組み合わせられる場合がある。少数みられる斜行縄文の地文は、多くが縦回転によるものである。

④ 縄文原体末端の結び目の圧痕が縄線内に確認される場合がある。また、糸とともに結び目が回

転圧痕されたものも認められる。偶発的と思われる場合もあるが、羽状の境界にみられたり、等間隔に明瞭にみられる場合があり、これらは文様効果として意図的に施文したものと考えられる。「縄端結び目の圧痕」「縄端結び目の回転圧痕（あるいは回転施文）」と呼称する。

⑤ 貼付帯の1~2cmほど下位に、貼付帯と同じ縄文が観察される場合がある。貼付帯の下位が無文の場合は、疎らで不規則な縄文としてみられ、貼付帯の下位が縄文の場合は、地文の縄文に交差して重複する不規則な縄文としてみられる。これは、貼付帯上に縄文を施文する際に意図せずついたもの、例えば、貼付帯上に人差し指を置いて施文した際に、中指が器面に触れてしまい、偶発的に施文されてしまったもの、と考えられる。「偶発的な縄文」と呼称する。縄端結び目の回転圧痕が同様に観察される場合もある。意図的なものではないため、一覧表に記載した。

⑥ 貼付文上や沈線区画内への縄文の施文は、施文部位の延長方向に回転施文される場合が多い。

なお、地文については本文中で、斜行縄文以外のもの、単節以外の斜行縄文、単節で横回転の斜行縄文について記載し、記載がない場合は単節の縦回転の斜行縄文である。また、原体と地文の施文手法については、復元・器形復元した掲載番号1~204では一覧表に記載した。破片資料の205~750については、単節以外の原体と、縦回転の斜行縄文以外の地文施文手法について、一覧表に記載した。

文様以外の全般的な傾向を、以下に列挙する。口唇断面は角形が主体で、やや丸みを帯びるものや、調整が粗雑でやや不整なものもある。内面は比較的丁寧にナデ調整されるものが多く、方向は口縁部では横位、胴部以下では縦位である。指頭圧痕が残るものもよくみられるが、一定の調整はなされており、粗雑な印象はない。底部は平底が主体で、上げ底や高台状のもの、台付が少数ある。張り出さないものが多い。底面調整はナデ・ミガキで、編組製品や草木の葉の圧痕が残るものも多い。器種は深鉢が主体で、浅鉢、壺・広口壺が少数あり、壺には焼成前に切断されたものがある。深鉢の器形は、底部から胴部へかけて開き、胴部はふくらみをもち、頸部が長くややくびれ、口縁は緩やかに外反するもの（掲載番号15）、底部から口縁へ直線的に開くもの（12）、底部から直線的に開き、口縁がやや内湾するもの（24）、底部が大きめで、胴部は筒形に近く、口縁が内湾するもの（74）が代表的である。器形のゆがみが比較的良好で、口縁が不整な楕円形を呈するもの、軸が傾くもの、口縁の高さが一定しないものなどがある。地文は単節縄文が主体で、他に無節・複節・付加条ないしは直前段多条の縄文、燃糸文、網目状燃糸文などもみられ、縦回転ないしは手法Bの羽状縄文が多い。整然と条の通るものと、条の通らないものがある。縄文原体はLRが多数を占め、復元・器形復元したものの比率はおおよそ三分の二である。胎土には、輝石・角閃石・まれに黒雲母などの有色鉱物、長石・石英などの無色鉱物、数mm~1cmほどの円礫、数mmの岩片、海綿骨針などの混和剤を多く含む。比較的緻密で焼成は良好、硬質である。まれに、ワラビの葉や、イネ科と思われる平行脈の細い葉が混入した痕跡が残る。製作時の輪積み境界で割れていることが多く、その割れ目は内面から外面に傾斜する。

赤彩土器は、壺および広口壺を中心に、深鉢にも少数みられる。沈線内などの窪んだ部分や器表面に小面積で点在するものが多いが、比較的広範囲に残るものもある。内面にも塗布されるものがあり、特に179・575・577・592・600で顕著である。赤彩の残存状況の良いものは179・575・580・581・583・586・592・600・633など。このうち、575c・dの内面、580の内外面、581の外表面には光沢のある塗膜が認められ、漆の使用が想定される。同様の塗膜は、582・583・588・589・592・598~601および636・646に認められる。575b・581~583では黒色層の上位に赤色（7.5R3/4）層が、592の外表面では極暗赤褐色（2.5YR2/2）層の上位に赤色（10R4/8）層が認められる。592の内面には褐色の塗膜が全面に認められる。588は器面全面が黒色を呈し、さらに黒色塗膜が重なる。600bの内面は、刷毛状工

具の痕跡とみられる幅1.5cm前後の条痕状の痕跡が縦横に観察される。633は内面一面に赤色顔料が塗布される。636は外面に黒色塗膜、内面に黒色塗膜の上位に赤色層の重なりが認められる。646は底面外面に赤色～黒色の塗膜が認められる。179の内面には、口縁部から底面にかけて、暗赤褐色(10R3/3)の薄膜が認められる。

遠距離での接合例には、168・434・637(東・西盛土遺構間)、156(OH-15とOH-19)がある。縄文主体の土器に遠距離での接合例が確認されていないのは、個体数が多く、広範囲での個体識別が困難であったためと考えられる。

復元したものおよび図上復元したもの(図V-1-2~38 表15 図版52~82・96 掲載番号12~204)

I類：縄文主体の文様をもつもの

IA類：糞状の貼付帯が多段に巡るもの(図V-1-2~4 表15 図版53・54 掲載番号12~20)

貼付帯は明瞭である。20を除きいずれも、手法Aの縄文が施文される。施文順は、16の口縁上端の貼付帯を除き、貼り付け→地文縄文→貼付帯上縄文である。12~18は、1類：口縁部から底部にかけて多段の貼付帯をもつもの。14は貼付帯の上下が沈線縁取られ、貼付帯には縄線が加えられる。19・20は、2類：口縁部と底部付近に貼付帯をもつもの。20は地文に縦位の羽状縄文が施される。LR・RLを縦回転で貼付帯上と胴部に同時に施文した後、口縁部の貼付帯上では、RLが施文された部分にLRを重ねて横回転で施文、底部の貼付帯では全体にLRを横回転で施文する。

IB類：口縁部に2条の貼付帯が巡るもの

(図V-1-5~12 表15 図版55~60・66 掲載番号21~43・46)

貼付帯はほとんどが明瞭であるが、口縁上端の貼付帯には折り返し状のものも少数ある。また、貼付帯が3ないし4条のものが少数みられる。21は貼付帯間に縄文が施されるもの。22~43・46は貼付帯間に縄文が施されないもので、29・30・32~43は貼付帯間に縦位や斜位の貼付文が加えられる。31・40・43以外、貼付帯上には縄文が施文され、縄線が加えられるものもある。施文順は、ほとんどで貼り付け→地文縄文→貼付帯上縄文である。地文は24以外縦回転で、LRが多い。25・26は底面付近が横回転の手法Bの羽状縄文が施される。24・25・26は高台状の上げ底である。27は胴部上半の地文はRR摺糸文?縦回転、下半はLR縦回転、貼付帯上はLR横回転縄文とR縄線。36の地文はLRLを縦回転施文した後、上半では重ねて横回転で施文し、縄文が交差している。39・40は「つ」字状ないしは逆C字状の貼付文が1か所施される。40は上位の貼付帯の下端が無でつけられる。41の貼付文はN字状とみられる。42は貼付帯間に交差する貼付文が加えられていたとみられるが、ほとんどが剥落している。43は無文の口縁部に無文の貼付帯が2条付される。下位の貼付帯は部分的に途切れている。46の上位の貼付帯は折り返し状である。

IC類：口縁下部に貼付帯が1条巡るもの

(図V-1-12 表15 図版57・59・66 掲載番号44・45・47・48)

IB類にみられる2条の貼付帯のうち、下位の貼付帯のみが施されるもの。貼付帯には、47は刺突列が、それ以外は縄文と縄線、あるいは縄線が施文される。貼付帯より上位は縄文が施されるものが多く、横環する縄線や縦位の貼付文が加えられる。地文の縄文は、45は横回転、他は縦回転。44は貼付帯が「ノ」字状にカーブして口縁に向かっており、上端は欠損する。突起をなす可能性がある。47の貼付帯より上位では、拓影図右側ではLR横回転、左側はLR縦回転が施文される。

ID類：口縁上端に貼付帯が1条巡るもの

(図V-1-13~16・19 表15 図版49~62・64~66・96 掲載番号49~68・78)

貼付帯には、明瞭なものや折り返し状のものがある。49~58は貼付帯上に縄文が施されるもの。ほ

とんどで手法Aの縄文が施文される。56は貼付帯上に縄文施文後に縄線が2条、57は沈線が1条加えられる。58の胴部地文は縦回転の結束第1種羽状縄文で、羽状の方向が交互に施文される。貼付帯上にはLR横回転の斜行縄文が施される。59・60・63は無文の貼付帯上に縄線が施されるもの。59の貼付帯は折り返し状で、半周ほどで確認できるが、残る半周では境界がなで消される。63は、図化した反対面で、貼付帯上に縄線が施文された後に、口唇～貼付帯上半が切除されており、口縁を水平に調整したものである。61・62は貼付帯が無文のもの。64～66・78は、貼付帯を文様要素としない施文がなされるもの。前出49～62では、貼付帯上の施文は胴部と別になされ、貼付帯自体が文様要素となっているのに対し、64～66・78では貼付帯が文様要素とならず、貼付帯～胴部にかけて地文などが一連に施文される。貼付帯は折り返し状のものがやや多い。64は貼付帯上に1条、貼付帯下位に1条で2条一組となる縄線が巡る。65・66は貼付帯から胴部に一連に、手法Bの羽状縄文が施文される。78は貼付帯の下位に縄線が巡り、縄線より口縁側は無文になる。67・68は貼付帯の下位に貼付文が加えられるもの。手法Aの縄文が施文され、貼付帯上にも縄文が施される。

IE類：口縁部に1～4条の縄線が巡るもの

(図V-1-17～21・27 表15 図版62～67・73 掲載番号69～77・79～96・131)

施文順がわかるものは、73・84・90を除き、胴部地文施文後に縄線が施される。縄線と地文は同一原体によるとみられるものが多い。69は縄線が多段に巡るもの。70～76は、口縁部に2条ないしは2組の縄線で幅広い区画を作るもの。73は区画内に縄文が施され、71～72・74～76は区画内に縄文が施されない。71・72・73は区画内に横位・縦位や鋸歯状の縄線が加えられる。74・75は器形・胎土・文様構成が非常によく似ており、縄文原体は同一とみられる。75はOH-33覆土から出土、74はOH-38覆土とOH-12覆土出土破片が接合したもの。76は3つの突起をもち、口縁が内湾する。突起下にS字状貼付文の剥落痕が明瞭である。貼付文の残存部は無文。77・79～91・131は口縁部に1～4条で一組の縄線が巡るもの。77は口縁部の無文帯に縄線が施され、79～91・131は縄文地に縄線が加えられる。79は、手法Bの羽状縄文が施文され、羽状の境界に縄線が加えられる。口縁部に長さ1.5cmほどの横位の縄線が断続的に施文され、一部で縄線内の条をなぞるように沈線が重ねられる。80～86は、手法Bの羽状縄文が地文となるもの。82は縄線間にC字状の縄線が加えられる。底面に網状脈の葉とみられる圧痕が残る。83は結束第1種斜行縄文が施文される。87の地文は斜行縄文、88は手法Bの羽状縄文だがやや不規則なもの、89は横走縄文、90は不規則な摺糸文。91は結束第1種羽状縄文を縦位に施文後、LR縦回転の斜行縄文を部分的に加えている。92は無文地に縄線が巡るもの。93～96は縄文地で、口縁部に縄線が巡り、その下位に縄線による文様を加えられるもの。93・95・96は鋸歯状の縄線が施される。95は口縁上端が肥厚しており、貼付帯の可能性はある。96は1段LとRで2本一組とした矢羽状の縄線で文様を構成する。94は胴部に不規則な波状の縄線が施されるミニチュア土器。

IF類：地文のみのもの (図V-1-21～29 表15 図版65～74・78 掲載番号97～130・132～149)

97～121は、1類：手法Bの羽状縄文が施文されるもの。97・109は、口縁部および底部付近と胴部で羽状縄文をなすもの、98～108は口縁部と胴部で羽状縄文をなすもの、110は底部付近と胴部で羽状縄文をなすもの、111～121は口縁部と胴部で羽状縄文をなし、底部付近は欠失しており判断できないもの。102は底面にはササ類とみられる平行脈の葉の圧痕が残る。103は器面の3/4周ほどでは、口縁部と底部付近が横回転の手法Bの羽状縄文が施文され、1/4周ほどでは縦回転の斜行縄文が施される。106は現存上端から10cmほどの範囲に炭化物が多量に付着する。110は底面にLR縄文が施文される。111・112は器形・施文が類似する。114は口縁上端が肥厚しており、貼付帯の可能性はある。117は緩やかな山形突起の頂部に刻み加えられる。口縁上端に縄線結び目の回転圧痕がみられる。120は、1

段の結束第1種羽状縄文が、口縁部では横回転で、胴部では縦回転で施される。緩やかな突起には結束部が施文される。口縁部がわずかに肥厚しており、貼付帯である可能性がある。121は口縁部の内面の一部に、横回転の斜行縄文が施文される。122～130・132～137は2類:斜行縄文が施されるもの。123・133は横回転、他はすべて縦回転である。122は輪積みの痕跡が顕著である。底面に網状脈の葉の圧痕が残る。123は底面に平行脈の葉の圧痕がみられる。127の突起は5つ。器面の半周はL横回転の斜行縄文、半周は手法Bの羽状縄文が施される。134は器面の1/6ほどで無文部が残る。136・137は、口縁部に無文帯をもつ。138～143は縄文が施された胴部～底部。138は胴部に斜行縄文、一部重ねて底部付近に網目状燃糸文を施文する。139は底面中央部に網状圧痕が残る。142の原体は付加条ないし直前段多条。144・145は3類:燃糸文が施されるもの、146～149は4類:網目状燃糸文が施されるもの。144・149は口縁部では横回転で、胴部では縦回転で施文するもの。146は、図化した反対側面で149と同様に口縁部に横回転で施文された部分が確認できる。145は条を軸に結び止めた部分が回転施文される。

Ⅱ類:粘土紐による区画・縄線文・沈線文・磨消縄文・刺突列・貼付文などの文様要素をもつもの E字状の磨消縄文と短沈線が施文されるもの (図V-1-30 表15 図版71 掲載番号150)

150はE字が対向するような文様が磨消縄文で描かれる。地文・区画内とも縄文はRL縦回転。無文部分に縦位の短沈線が加えられる。下端を区画する沈線は波頭状と予想される。

粘土紐や縄線による縦位の区画をもつもの

(図V-1-30・31 表15 図版71・74・77 掲載番号151～155)

151・152は4か所の突起をもち、突起から垂下する粘土紐の貼り付けによって縦位に4区画される。青森県の牛ヶ沢(3)式に類するもの。151の粘土紐の貼り付けはややたく、爪形が加えられる。横位の粘土紐が口縁部と胴下部に巡る。突起下には、中央がくぼむ楕円形の貼付文をもつ。地文は縦回転の斜行縄文。152は粘土紐に縄文が施され、口縁上部と胴下部にも粘土紐が巡る。突起から垂下する粘土紐の2か所に環状の貼付文が加えられる。文様帯区画より下位では、地文として縦回転の斜行縄文が施される。153・154は、縄線による縦位の区画をもつもの。153は3つの突起の中間に小突起をもつ。突起・小突起には渦巻状の縄線が施され、そこから縄線が垂下する。地文は手法Bの羽状縄文。原体の閉端が回転圧痕される。底面には縄文が施文される。154は平縁に2条の縄線が巡る。2条組縄線で縦位に4区画し、さらに中間を1条の縄線で区画する。地文は手法Bの羽状縄文。口縁上端がやや肥厚しており、貼付帯である可能性がある。155は、粘土紐の貼り付けによる4つの縦位区画をもつと予想されるもの。突起は2個一対で4か所とみられ、突起間にはごく緩やかな小突起をもつ。口縁部には2条の縄線で幅広の無文帯が区画され、突起下には縄端による刺突が施され、粘土紐の貼り付けが垂下する。小突起下には渦巻状の縄線が施され、そこから縄線が垂下し、胴部中ほどと底部付近にも渦巻状の縄線が施される。地文は縦回転の斜行縄文。

沈線による蛇行文や渦巻状文をもつもの (図V-1-32・33 表15 図版75・77 掲載番号156～159)

156と158は0H-15の床面・床面直上から出土したもの。いずれも、横方向に展開する2段の文様帯をもつ。2本一組の沈線により、突起下に頂点のある三角形が描かれ、その頂部から蛇行・渦巻状沈線が垂下する。156の突起は4か所で、頂部に縄線の圧痕が加えられる。158の突起は6か所で、頂部に刺突が加えられる。地文はいずれも縦回転の斜行縄文。157は刻みのある4つの突起をもつ。突起下に2本組の沈線で、蛇行文、横U字状文が施される。地文は縦回転の無筋斜行縄文。底面に平行脈の葉の圧痕が残る。159は口縁から下「ノ」字状の沈線が多数垂下し、口縁部に沈線が1条巡る。地文は複節で、手法Bの羽状縄文。底部付近に切れ目のような深い沈線が巡る。

刺突列をもつもの(図V-1-34 表15 図版71・75・78 掲載番号160~165)

160は無文の口縁部を横長の刺突列が区画するもの。地文は縦回転の斜行縄文。Ⅲ群b類の可能性はある。161は無文地で、長楕円形の沈線文が、口縁部と胴部中ほどで横位に4つ配されて器面を巡り、突起下では縦位に配される。長楕円形文には縄文と刺突列が充填される。縄文は摩耗して不明瞭。長楕円形文の接点にボタン状貼付文が加えられる。162の地文は手法Bの羽状縄文で、口縁部には横に連続する弧状の刺突列が加えられる。163は、口縁部に2条の刺突列で区画する無文帯を設け、棒状・J字状の貼付文とボタン状貼付文が加えられる。164は無文地に刺突列が多段に横環する。165は口縁が欠失する。胴部は無文地に貼付帯と多段の刺突列が巡る。胴部の対向する2か所に環状の貼付文が付され、その上端部を水平につなぐように、刻みの加えられた貼付帯が横環する。環状の貼付文はほとんどが剥落しているが、断面形は円形で細く、無文。貼付帯との接点では、貼付帯が重ねられることにより著しく肥厚して突出する。胴部の刺突列は斜め上方から器壁を削るように施文され、貼付帯上の刻みとは施文具が異なる。粘土の輪積み痕が明瞭である。

貼付文をもつもの(図V-1-34 表15 図版75・78 掲載番号166・167)

166は棒状の貼付文が口縁から垂下する。貼付文は6か所とみられる。地文は縦走する細い燃糸文。167は口縁の対向する2か所に環状の貼付文が付され、胴部と同時に縄文が施文された後に刺突が加えられる。環状の貼付文の上端に粘土塊が加えられ、突起となっている。

壺および広口壺、浅鉢(図V-1-35~37 表15 図版52・75~78 掲載番号168~180)

170・171・177~179には部分的に赤色顔料が残存する。168~171は磨消縄文のもの。168はJ字状文と舌状文が組み合わされる構成の壺。頸部に縄文帯が横環し、そこからJ字状文と、J字の内側に舌状文が垂下する。J字状と舌状の組み合わせが3か所あり、舌状文のみが1か所ある(実測図の肩部右端の沈線)。底部には網代の圧痕が残る。胎土に黒色鉱物結晶を含まず、化粧粘土が施される。東西盛土遺構間で接合している。169は広口壺とみられる。弧状のモチーフを複数段に配置し、その外側に縄文が施文される。底面には不鮮明な圧痕がみられ、網代に類するもの可能性がある。底面の器壁寄りの部分が焼成後に穿孔されている。170は壺とみられる。モチーフはやや角ばるが、文様構成は168に類似する。171は広口壺。沈線で口縁の無文帯を区画し、胴部には168のJ字状と舌状が連結したような、S字状文に類する縄文帯が施文される。172・173は縄文が施文される広口壺。172は縄線で口縁の無文帯を区画する。地文は、底部付近が横回転となる手法Bの羽状縄文。173は算盤玉形を呈し、屈曲部は肥厚する。口縁上端には折り返し状の貼付帯が1条巡り、胴部と連続して横回転の斜行縄文が施される。174~179は無文地に沈線文が施されるもの。174は173と同様の器形とみられる。屈曲部に沈線が巡り、胴部上半には沈線文が、下半には縦位の沈線が多数描かれ、一部に縦回転の斜行縄文が加えられる。175は壺の下半部。屈曲部に横環する沈線と、その上位に曲線的な沈線文が描かれる。176はミニチュア土器。底面に網代の圧痕が残る。177は粘土紐の貼り付けによる縦位の区画をもつ壺。屈曲部を横環する貼り付けによって文様帯下端が区画され、文様帯内は貼り付けによって縦位に4区画される。区画内には太い沈線文が描かれる。上端の断面は摩耗が著しく切断土器の可能性もある。178は細い沈線による渦巻状文が描かれる壺。屈曲部は角張り、やや肥厚する。179はG地区出土。頸部に2本組の隆帯が横環し、4か所の橋状把手をもつ。4つの突起の頂部に刺突が加えられる。頸部下の沈線文間はやや隆起する。胴部は主に3本組の沈線でひし形に区画され、内部には垂下する沈線や相似形のひし形文が描かれる(図V-1-35拓影図)。口縁部や沈線内に赤色(10R4/8)顔料が、内面には暗赤褐色(10R3/3)の薄膜がみられる。トリサキ式に相当すると考えられる。

180は上面観が楕円形を呈する浅鉢。口縁の長軸上に耳状把手をもち、そこから幅の狭い山形の貼

付文が底部まで垂下する。貼付文上には縦回転の縄文が施文される。地文は横回転の斜行縄文。

Ⅲ類：無文のもの、およびミニチュア土器（図V-1-38 表15 図版76～80 掲載番号181～204）

無文の小形土器とミニチュア土器を一括した。大きさの変化は漸移的で、明確な区別はつげたいが、今回は便宜的に器高10cm以下、185以降のものをミニチュア土器とする。187・203は口縁部・底部を欠いており、器壁も厚いため小形に含める。183は口縁上端に貼付帯が1条巡る。折り返し状である。189は台付きに近い上げ底で貫通孔が1か所ある。191は算盤玉形の広口壺に近い器形。193は口縁が著しく傾斜する。196は緩やかな突起をもつとみられる。197～199は浅鉢状。198は指頭状の窪みが目立つ。199～202は非常に小形で、202は自立しない。204は壺形の可能性がある。

破片資料（図V-1-39～68 表16 図版52・78・80～95 掲載番号205～750）

IB類：口縁部に2条の貼付帯が巡るもの

（図V-1-39～43 表16 図版78・81～83 掲載番号205～289）

貼付帯は明瞭なものが多い。2条を基本とし、3条のものが少数ある。また、2条のうちの一方の貼付帯が縄線などと置き換わっているものも少数みられる。

205～218は貼付帯間に縄文が施されるもの。205・206は地文の縄文施文後に貼付帯が付されるもの。手法Aの縄文が施文される。206は上位の貼付帯のみ地文施文前に付される。地文の施文後、下の2条の貼付帯を付し、側面を指などで整形した後に縄文が施文される。207～218は、貼付帯が付された後に地文の縄文が施文されるもの。貼付帯上にも縄文が施されるものが多く、そのほとんどは、手法Aによる施文である。施文順は、貼り付け→胴部地文・貼付帯間縄文→貼付帯上縄文が多い。207・213は貼り付け→胴部地文→下位貼付帯上縄文→貼付帯間縄文→上位貼付帯上縄文。208・209は貼付帯の間隔が広く、IA類の可能性がある。211は上下の貼付帯上とその間に同時に結束第1種羽状縄文を施文するもので、貼付帯間の中央に結束部が施文される。215～218は貼付帯間にJ字状、弧状などの貼付文が加えられるもの。215・216は、貼付帯自体が「つ」字状のカーブを描く。216は本来は左右対称に付されたもので、左側は剥落している。217は網目状捻糸文を胴部では縦回転で、貼付帯上と貼付帯間には同時に横回転で施文するもの。bの上位の貼付帯上には、結び目部分が回転施文されている。218は口縁部が屈曲して外反する。屈曲部の内面には帯状に粘土が付加され、肥厚する。小突起をもち、突起下には縦位の貼付文、突起の頂部には、口縁円周方向の縄線が加えられる。

219～275は貼付帯間に縄文が施されないもの。手法Aの縄文が施文されるものが多く、貼付帯上にはさらに縄線や沈線が加えられるものがある。219～232は、貼付帯上に主に縄文や縄線が施文されるもので、貼付帯間に文様が加えられないもの。220の原体は付加条ないしは前段の条の太さの異なるもの。221は上位の貼付帯が2重の折り返し状。2重のうち上段にのみ縄文が施され、下段は無文部分に含まれる。222は胴部地文に縄線結び目が回転施文される。226は捻糸文を貼付帯上で横回転で、胴部では縦回転で施文したもの。223～225・227・228は貼付帯上に縄線が加えられる。223・225・227は縄文に重ねて縄線が、224・228は無文地の貼付帯に縄線が施される。224は地文の縄文施文後に貼付帯が付される。貼付帯上は無文地にLの縄線。225は拓影図の下端が無文で、貼付帯が3条である可能性がある。227は1段R・L・Rの3本組による矢羽状の縄線。229は手法Aの縄文が施され、胴部では重ねて網目状捻糸文が施文されるもの。230～232は上位の貼付帯がやや不明瞭。230の上位の貼付帯は厚みはあるが段差はない。上位の貼付帯には縄文が、下位の貼付帯は無文地に縄線が施される。231は貼り付けであるが、器壁との厚さの差は少ない。上位の貼付帯は縄文、下位の貼付帯は縄文地に縄線が施される。232の上位の貼付帯は2重の折り返し状で、縄文が施される。233～252は、貼付帯上に主に縄文や縄線が施文されるもので、貼付帯間に縄線・貼付文・沈線などが加えられるもの。233は

無文の貼付帯に縄線が加えられ、波状の縄線が上下の貼付帯をつなぐように施文される。地文は縦走縄文。全体につくりが粗雑。234～238は貼付帯間に縄線が加えられる。234～236は横位の縄線が加えられる。234は上位の貼付帯上の縄文は横回転で胴部と羽状をなし、下位の貼付帯では胴部と同方向に施文される。貼付帯上と貼付帯間に縄線が加えられる。236は上位の貼付帯上は縄文、下位の貼付帯上は縄文地に縄線。237は縦位の縄線が加えられる。地文は同一原体を縦・横交互に回転することによる横位の羽状縄文。胎土内に、イネ科草本とみられる平行脈の葉の痕跡が認められる。238は鋸歯状の縄線が加えられるもの。上位の貼付帯上は縄文、下位の貼付帯上は縄文地に縄線。239～250は貼付帯間に貼付文が加えられるもの。239は斜位の貼付文と横環する縄線が、240は縦位の貼付文と、それを中心とする山形の縄線が加えられる。縦位の貼付文は口唇に伸び、突起を形成する。地文は縦走する。241は2本組の縦位の貼付文が加えられる。242・243は無文地に縄線をもつ波状の貼付文が付される。242は波の頂部が突起となる。244も同様の構成をもつと予想される。刺突の加えられる突起をもつ。245は弧状の貼付文が加えられる。246は無文の山形の貼付文が、247は無文の斜位の貼付文が付される。248・249はボタン状貼付文が加えられるもの。248は刺突の加えられる突起をもつ。249の上位の貼付帯は2重。250は環状の貼付文が付される。251・252は沈線が加えられるもの。251は2本組の弧状の沈線が、252は波状の沈線が描かれる。貼付帯上は縄文地に縄線が施される。253～262は貼付帯が3条のもの。手法Aの縄文が施されるものが多数を占め、貼付帯上には縄線が加えられるものもある。253は、胴部地文は結束第1種羽状縄文が縦回転で施文され、上位の貼付帯にはLR横回転、中・下位の貼付帯にはRL横回転の縄文が施文される。胴部で用いた羽状原体のRL部とLR部を使い分けたものとみられる。258～262は貼付帯に縄線が加えられるもので、260が摩耗して不明瞭な以外は、すべて縄文の上に加えられる。258は上位の貼付帯が折り返し状である。259は貼付帯間に縄線が加えられる。260は現存しないが3条の貼付帯をもつと予想されるもので、貼付帯は薄く、上位には縄線が、中位には縄端による刺突列が加えられる。261は下の2条の貼付帯がやや右上がりに付されている。原体は無節の結束第1種羽状原体で、地文は縦回転。262は上位の貼付帯は縄文、下2条の貼付帯は縄文地に縄線が加えられる。貼付帯に重ねて山形の貼付文が付され、頂部が突起をなしている。263～266は貼付帯上に刻み列が加えられるもの。文様構成が良く似る。263・264は貼付帯が2条、265・266は3条付され、266を除き貼付帯間には縄線が加えられる。263・264は突起をもち、その下に縦位の貼付文が垂下する。265・266は突起の有無は不明だが、263・264同様に縦位の貼付文が垂下する。263は、下位の貼付帯の下に地文施文後の縄線が巡る。267～275は貼付帯上に刺突列が加えられるもの。267～269・272・273・275は縄文地に刺突列が加えられるもので、267～269は手法Aの縄文が施文される。270・271・274は貼付帯に刺突列のみが施されるもの。貼付帯間には、268は縦位の刺突列が、270は刺突列が加えられた山形の貼付文が、273は刺突が、274は縦位の無文の貼付文が加えられる。271は山形の貼付文の剥落痕がみられる。267の刺突は断面角形の工具による斜位のもの、他は断面円形の工具ないしは竹管状工具による。268は、胴部下位にも貼付帯が巡る。272は突起部の破片で、貼付帯の間隔が狭く、突起の形状に沿う。

276～285は2条の貼付帯の一方が縄線などと置き換わっているもの。276～281は、上位に縄線、下位に貼付帯が付されるもの。276・277は貼付帯と縄線の間に縄文が施され、278～281は縄文が施されない。276・277の施文順は、貼付帯貼り付け→貼付帯上縄線→貼付帯上・口縁部縄文で、縄文は口縁部と貼付帯上に同時に施文される。276は、縄線と貼付帯の間に楕円形の縄線が加えられる。地文は手法Bの羽状縄文が基調で、胴部には縦回転→斜回転で斜行→横走縄文が施文される。全体に作りが粗雑で、貼付帯の段差は明瞭な部分と不明瞭な部分がある。278は突起をもち、その下位に縄線が

加えられた環状の貼付文が付される。279は山形の貼付文が、281は縄線による文様が加えられる。278・279は、環状・山形貼付文施文後に口縁上端の縄線が施される。282は上位に縄文帯、下位に貼付帯が付されるもの。手法Aの縄文が施され、縄文帯は貼付帯上と同じ縄文である。貼付帯には縄線が加えられる。283は口縁上端に貼付帯が付され、その下位が下端を区画されない無文帯となるもの。手法Aの縄文が施され、貼付帯上に刺突列が加えられる。貼付帯と同じ施文の縦位の貼付文が垂下する。284は上位に貼付帯、下位に縄文帯が付されるもの、285は上位に貼付帯、下位に縄線が付されるもの。いずれも、縄線が加えられたJ字状の貼付が加えられる。284は手法Aの縄文が施され、縄文帯は貼付帯上と同じ縄文である。貼付帯には縄線が加えられる。285の貼付帯は無文地。

286～289は、口縁上端に幅の狭い無文帯をもつもの。288は貼付帯間に縄文が施されるもの、286・287・289は縄文が施されないもの。286の貼付帯は無文地に縄線。287～289は手法Aの縄文が施される。287は縦位の貼付文が加えられる。288は上位の貼付帯上に縄線が加えられる。貼付帯間の縄文は縦回転で、施文順は、貼付帯貼り付け→胴部・貼付帯間縄文→貼付帯上縄文。289は貼付帯間に横位の縄線が加えられる。

IC類：口縁下部に貼付帯が1条巡るもの（図V-1-43 表16 図版83 掲載番号291～309）

IB類にみられる2条の貼付帯のうち、下位の貼付帯のみが施されるもの。口縁上端から貼付帯までの幅が狭いものも含めたが、これについてはID類の類型とも考えられる。

290～299は口縁上端から貼付帯までの幅が狭いもの。290・293は手法Aの縄文が施される。293は縦位の貼付文が加えられ、胴部と同時に縄文が施文される。291・292は貼付帯が無文地のもの。291は貼付帯に刺突が加えられる。貼付帯の下位は無文帯となり、拓影図下端で地文がみられる。292は細い貼付帯と器面の境界に刺突が加えられる。294は口縁上端～貼付帯で横回転、胴部で縦回転とする手法Bの羽状縄文が施される。295・297は貼付帯の上位に、296は貼付帯の上下端に縄線が加えられる。295は無文地の貼付帯に刺突が、297は無文地の貼付帯に縄線が加えられる。297の地文は横回転。296は手法Aの縄文が施される。298・299は無文地に無文の貼付帯が付されるもの。

300～309は口縁上端から貼付帯までの幅が広いもの。300～305は、貼付帯より上位が無文になるもの。300・301は手法Aの縄文が施され、301は縄線が加えられる。302は無文地の貼付帯に縄線が施される。口縁上端が肥厚し、貼付帯の代替のようにもみえる。303～305は無文地の貼付帯に刺突が施されるもの。302・303・305は地文に縄文が施され、304は無文。306～309は貼付帯より上位に縄文が施文されるもの。306は、貼付帯を含む口縁部と胴部とで、手法Bの羽状縄文が施される。口縁～貼付帯は同時に施文される。307は貼付帯の下位に渦巻状の貼付文が付され、貼付帯を境界にした手法Bの羽状縄文が施される。貼付帯には縄線が加えられる。308は地文施文後に貼付帯と縦位の貼付文が施される。貼付帯・貼付文はやや細く、断面三角形を呈する。309は2条の貼付帯が弧状に付され、貼付帯を含めた口縁部に網目状燃糸文が横回転で施文される。

貼付文をもつ胴部破片（図V-1-43 表16 図版83 掲載番号310・311）

貼付文の断面形状や施文手法が、口縁部に巡る貼付帯と共通するもの。310は貼付文上と地文に手法Aの縄文が施される。311は貼付文を施文後に胴部と同時に縦回転の斜行縄文が施文される。

ID類：口縁上端に貼付帯が1条巡るもの

（図V-1-44～46 表16 図版83～86 掲載番号312～360）

312・313は、貼付帯に胴部地文と同一方向の縄文が施文されるもの。捲り方向の異なる原体を用い、口縁部は横回転、胴部は縦回転で、同じ傾きの縄文を施文する。312の貼付帯上はRL横回転、胴部はLR付加条ないしは直前段多条の原体を縦回転で施文する。313は貼付帯上はLR横、胴部はRL縦回転。

314～317は、手法Aの縄文が施されるもの。315・316は貼付帯上に縄線が加えられる。316は口唇端部縄文・貼付帯上縄文の左半・縄線はLR、貼付帯上縄文の右半と地文はLLR?で、地文は縦回転横走気味。317は貼付帯上に断続的な縄線が施文され、bの左端ではそれを粘土で埋める部分のみられる。318は結束第1種羽状原体が用いられるもの。胴部には縦回転で、貼付帯上には同一原体のRL部分とLR部分を横回転で施文する。319・320は捻糸文が施されるもの。胴部は縦回転で、貼付帯上は横回転で施文される。319は貼付帯上に胴部と同一原体を横回転で施文後、重ねて別の原体を横回転に施文している。320は胴部がLR、貼付帯上がLの原体。321・322は網目状捻糸文が施されるもの。いずれも、胴部は縦回転、貼付帯上は横回転で施文される。323・324は貼付帯上に縄線のみが施されるもの。323の胴部は結束第1種斜行縄文。326・327は貼付帯が無文のもの。327は胴部に網目状捻糸文が施される。325は貼付帯が剥落している。胴部には縦回転の斜行縄文に、部分的に網目状捻糸文が重ねられる。

328～347は、貼付帯を文様要素としない施文がなされるもの。前出312～327では、貼付帯上は胴部と別に施文され、貼付帯自体が文様要素となっているのに対し、328～347では貼付帯が文様要素とならず、貼付帯から胴部にかけて、地文などが一連に施文される。貼付帯は段差の不明瞭な折り返し状のものが多い。328～337は手法Bの羽状縄文が施されるもの。335～337では、貼付帯上に縄線が加えられる。330・331の貼付帯は2重になる。337は貼付帯の下位に斜位の縄線が加えられる。338～347は、2～3条一組の縄線が、貼付帯から胴部にかけて施文されるもの。338・342・343は手法Aの縄文が施されるもの、340・341は手法Bの羽状縄文が貼付帯から胴部に一連に施されるもの、339は貼付帯は無文地で胴部に斜行縄文が施されるもの。341は貼付帯上に縄線が横渡し、貼付帯から胴部にかけて横に連続する弧状の縄線が施文される。343の原体は結束第1種斜行。344は貼付帯上から胴部へ一連に結束第1種羽状縄文が縦回転で施され、貼付帯上に1条の縄線が巡るもの。頂部に刻みのある2個一対の突起をもつ。345～347は貼付帯が無文地のもの。縄線の下位に地文縄文が施される。345の地文はRLR、縄線はLR。347の貼付帯は2重の折り返し状。

348～352は貼付帯の下位に貼付文が加えられるもの。貼付文には、弧状・ボタン状・円形などがある。縄文は多様で、348は手法Aの縄文が、350は貼付帯は無文で胴部に斜行縄文が、349・351は貼付帯から胴部にかけて一連に手法Bの羽状縄文が、352は貼付帯・貼付文から胴部にかけて一連に斜行縄文が施される。348・350では地文施文後に貼付文が、349・351・352では貼付文施文後に縄文が施される。349・351では、地文は貼付文を避けて施文され、352では貼付文上にも施文される。351は貼付帯上の縄線施文後に地文が施文される。ボタン状貼付文には縄端の刺突が加えられる。

353～359は貼付帯が幅広のもの。355・356は特に幅広である。353・355～357・359は手法Aの縄文が施文される。358の貼付帯は無文で胴部に斜行縄文が、354は結束第1種羽状縄文を貼付帯上は横、胴部は縦に施文する。353・354は貼付帯上に縄線が加えられる。357は3条一組の縄線が貼付帯から胴部にかけて施される。359は貼付帯上に弧状の縄線に重ねて縦位の沈線が施文される。

360は無文の貼付帯をもち、緩やかな突起に貫通孔のあるもの。

IE類・口縁部に1～4条の縄線が巡るもの (図V-1-47・48 表16 図版86・87 掲載番号361～392)

胴部の地文と縄線は同一のものが多く、確認できるものでは、縄線は地文施文後に施される。地文は、361・363～365・369～371・376・388・389・391・392は斜行縄文、372～375・378～381・385・386は手法Bの羽状縄文、377・382・383・387は横回転の斜行縄文の口縁部で、手法Bの羽状縄文ないしは斜行縄文、384・390は捻糸文。

361～375は、口縁部に2条の縄線で幅広の区画をつくるもの。361～367は区画内に縄文が施されないもの。区画内には斜位・鋸歯状・「く」の字状、環状などの縄線が加えられるものがある。363は斜

位の縄線に沿って縄端による刺突列が施文される。366はRとLの原体を使い分け、山形の縄線を左右対称としている。369・370は下位の縄線がなく無文帯をもつもの。369の地文はR縦回転で、R横回転が部分的に重ねられる。371は区画内に2本組の山形縄線が施された後に縦走縄文が充填されるもの。372～376は、地文縄文に重ねて縄線が施文されるもの。372・374・375の地文は手法Bの羽状縄文。372では羽状の境界に下位の縄線が重ねられる。373の地文は縦回転の斜行縄文で、区画内では同一原体を横回転で重ねて施文する。374の縄線は2条一組で施文される。

376～391は口縁部に1～4条一組の縄線が巡るもの。376～385は地文に重ねて縄線が施されるもの。377は縄線に代えて綾織り文が施文される。378は横環縄線に重ねて縦位の縄線が加えられる。385は羽状の境界に縄線が重ねられる。383は横環する縄線に重ねて鋸歯状の縄線が加えられる。382・384は横環する縄線の下位にJ字状の縄線が施される。384の原体は軸の軟らかい絡条体で、全体に縦位に回転施文し、口縁部では横位に重ねて回転施文する。口縁部では側面圧痕を縄線に代えて施文する。388・389・391は口縁部の無文帯に縄線が施されるもの。389は縦位に縄線が加えられる。391は横環する縄線の下位に、横に連続する弧状の縄線が施され、aの左側の弧状縄線の連結部分に渦巻状の縄線が加えられる。穿孔途中の補修孔が一對みられる。

368・386・387・390は横環する縄線をもたないが、文様構成が類似するため、ここに含めた。368・390は無文地、386・387は縄文地。386は突起の右辺に沿って縄線が付される。地文はLRによる手法Bの羽状縄文で、縄線はL。387は鋸歯状の縄線が施文される。390は緩やかな突起部分に横位の短い縄線が施される。胴部には縦位の燃糸文がまばらに施文される。

392は横走気味の縄文地に、斜位に交差する縄線が施文される胴部破片。aでは胴部下位に縄線が巡る。拓影図の左端の断面が磨られており、やや湾入している。

IF類：地文のみが施されるもの（図V-1-49～51 表16 図版87・88 掲載番号393～428）

393～405は羽状縄文が施されるもの。393は、口縁上端が横回転、胴部が縦回転で施文され、その間が無文帯となるもの。394・395は横位の羽状縄文が複数段施文されるもの。同一原体を用い、口縁部は横回転、以後順に縦回転、横回転と繰り返して羽状とする。396～405は手法Bの羽状縄文が施されるもの。399は突起に2か所あるいは4か所の刻みが加えられる。400は口縁上端がやや肥厚し無文帯となる。402は縄端の結び目が羽状の境界と胴部に回転施文されるもの。403は胴部に結束第2種羽状縄文が縦回転で、口縁部には同一原体のLR部分を横回転で施文する。404は口縁部の横回転の縄文に重ねて、1.5cm角ほどの縦回転の縄文を間隔をあけて施文し、文様としている。405は結束第1種斜行の原体を用いる。406～411・414は斜行縄文が施されるもの。406は横回転、他はすべて縦回転である。406は口唇端部に刻みがあり、緩やかな突起となるとみられる。410は縄端の結び目が回転施文されるもの。411はLを3条ほどまとめて結んだ結節部とみられる原体が縦回転で施文されるもの。地文はRLRの縦回転で、結節部に先行して施文される。414は内面に筥状工具の明瞭な痕跡が観察される。412・413は斜行縄文と燃糸文が組み合わせられるもの。412は屈曲部より上位は横回転の斜行縄文、下位は縦回転の燃糸文が施される。413は最大幅より上位は横回転の斜行縄文、下位は縦回転の網目状燃糸文が施される。415～423は燃糸文が施されるもの。415～419は、同一原体を用いて、口縁部は横回転で、胴部は縦回転で施文するもの。419の原体はRとLの2本一組の矢羽状。419cは輪轆みの痕跡が明瞭である。420は燃糸文が斜位に、421は縦位と斜位に施文される。422・423は燃糸文が縦回転で施文される。423は突起部の破片。424～428は網目状燃糸文が施されるもの。424・428は回転で施文される。425・426は口縁部は横回転、胴部は縦回転で施される。427は網目が平行四辺形を呈するもの。口縁部に無文帯をもつ。

Ⅲ類：無文のもの（図V-1-51 表16 図版88 掲載番号429～432）

430～432は、Ⅱ類のうち、無文地に沈線文が施されるものの口縁部の可能性がある。430は大型の口縁部で、2個一対の突起をもつ。431・432は左右非対称の突起部。

Ⅱ類：粘土紐による区画・縄線文・沈線文・磨消縄文・刺突列・貼付文などの文様要素をもつもの
細い粘土紐の貼り付けなどの文様をもつもの

（図V-1-52・53 表16 図版88・89 掲載番号433～454）

粘土紐の貼り付けによる縦位の区画をもち、151～155に類するものである。粘土紐への施文は、433の口縁上端は縄線、胴部の横位は横長で斜位の刺突。434の口縁上端は刻み、435～438・444・446は縄文、439・440・450は縄線、451は刺突、445は粘土紐の際に刺突が施文される。433の縦位・434の胴部・441・442・448・449の粘土紐は無文である。地文は、433はLR縦回転で斜行～横走気味、446はRL縦回転、447・449はLR縦回転。

434は東西盛土出土の破片が接合した。突起部に貫通孔があり、突起から垂下する粘土紐の剥落痕が残る。435は平行する4条の粘土紐が突起に沿って付される。440・442は突起部が欠失する。448・449は胴部下位の破片で、文様帯の下位の区画となる横位の粘土紐がみられる。449は垂下するU字形の沈線の下端に沿って、U字形に細い粘土が貼り付けられる。451は人体の胴部と右手のように見えるもの。「手」は、粘土塊を貼り付け、4か所に刻みを入れるようにして五本の「指」を表現している。「胴」は縦位の粘土紐に刺突が加えられる。深鉢の下半部の破片とみられる。

452は刺突が加えられた粘土紐が十字に施される胴部破片。粘土紐の交点にボタン状貼付文が加えられる。453は縄文が施された粘土紐が垂下する胴部破片。剥落しているが、粘土紐は2本組で、間にU字状の粘土紐が付される。刻み状の斜位の沈線が連続して施される。いずれも、地文は縦回転、粘土紐はやや幅広・扁平で、310・311の貼付文の形態に類似する。454は縄線が加えられた粘土紐を横環させて口縁部に無文帯を形成し、横環する縄線、渦巻状の縄線、円形貼付文を施す。円形貼付文には刺突が渦巻き状に加えられる。地文はLR縦回転。

沈線による文様をもつもの（図V-1-53～55 表16 図版89・90 掲載番号455～491・504）

455～467・504は縄文地のもの。地文は、455・457・460はLR横回転、456・459はLR縦回転、463・467はRL縦回転、458はRL縦走、466はLR横走、464はRLによる手法Aの縄文、465はLRによる手法Bの羽状縄文。455～457・459・460・463・504は曲線的な沈線が描かれるもの。455・457は口縁に2条の縄線が巡る。455は蛇行沈線が垂下する。457の沈線は2本組で弧状をなすとみられる。456は縄線と沈線で横に連続する弧状文などが描かれる。459～461は口縁部に幅の狭い無文帯をもつ。459・460は無文帯の下位に、461は不完全に磨り消された無文帯に沈線が描かれる。463は口縁の一部に折り返し状の部分がある。504は口縁上端に無文の貼付帯が1条巡り、縄文地に渦巻状文が描かれる。文様構成は502に類似する。458・462・464～467は直線的な沈線が描かれるもの。458は突起が剥落している。口縁部が2条の縄線が幅広く区画され、その下位に沈線が数条巡るとみられる。462は横環する縄線・沈線の間に刺突が加えられる。464は口縁上端に貼付帯が1条巡る。465は底部付近に縄線が2条巡る。467は156・158に類似するものとみられる。468～491は無文地のもの。469は器面の調整が粗く、沈線は浅く不明瞭。口縁は折り返し。472は2本組の沈線でU字状やS字状のモチーフが描かれる。474・475は刺突列が組み合わされるもの。476・477は塊状の粘土を貼り付けた立体的な突起をもつもの。478は口縁上端に貼付帯をもつ。479は胴部に格子目状の沈線が描かれる。口縁は折り返して肥厚し、横に連続する弧状の沈線が胴部にかけて施文される。480～487は沈線が非常に細いもの。480は口縁上端に貼付帯が1条巡るもので、貼付帯には縄線が加えられる。胴部には格子目状の沈線が描かれる。

481は口縁部に沈線が1条巡り、重ねて大ぶりの格子目状の沈線が描かれる。482は口縁部・胴部に沈線が横環する。483は不規則な格子目が施文される。484は大きく蛇行する沈線が横位に施される。沈線施文前の爪痕がみられる。485は正方形に近い格子目状の沈線が描かれる。486～491は底部。486は正方形～長方形の格子目状沈線。487の沈線は非常に細く、4本組で、底部際を横環するものと、斜位のもの。488・489は紡錘形状のモチーフで、463や470と共通する。490・491の沈線は、篋状工具で削り取ったように深くて鋭い。491の底面は楕円形ないしは長方形を呈するとみられる。

磨消縄文をもつもの (図V-1-55・56 表16 図版52・90・91 掲載番号492～503・505～517)

地文は、496・498・499・505・506・509・510はLR縦回転、502はRL縦回転、516はRLR縦回転、495・501はL縦回転。492～494は、縦位の縄文帯が施文される。493の表面には赤色顔料が残存する。495～497はボタン状貼付文が加えられる。495の口縁上端には折り返し状の貼付帯が巡る。497は突起部の破片で、口唇端部に刺突列が加えられる。499は突起の内面が鱗状のもの。内・外面ともよく磨かれる。500・501は口縁上端に、下に向かって肥厚する幅広の貼付帯をもつ。500は胴部の沈線間に燃糸文が充填される。501では貼付帯の一部が鱗状に整形され、円形の刺突が加えられる。胴部には、2本組の沈線間に竹管状工具による斜め下からの刺突が加えられる。502・503・505は、胴部に2～3本組の沈線で渦巻状の文様が描かれるもの。502・503は、頸部に細い粘土紐が巡る。502は粘土紐上に横回転の縄文が施され、503の粘土紐は無文。507は刺突が加えられる棒状に近い突起をもつ。510・511は大ぶりの円形貼付文が付されるもの。512・513は口縁部に無文帯をもつ。512は口縁上端に貼付帯が1条巡り、貼付帯上と貼付帯下端に沈線が加えられ、沈線間に縄文が施文される。513は突起の頂部は欠失するが、縦に並ぶ2個の貫通孔がみられる。516は無文帯が良く磨かれる。

刺突列が施されるもの (図V-1-57 表16 図版90・91 掲載番号518～546)

518～520は横長の刺突列や押し引き列が施されるもの。Ⅲ群b類の可能性もある。519は縄文地に縦横に押し引き列が施される。地文はRL縦回転。520は2条の横長の刺突列で口縁部に無文帯を区画する。地文はLR縦回転。521～524は、刺突列と貼付帯が組み合わされるもの。521～523は口縁上端に貼付帯が1条巡るもの。521・522は手法Aの縄文が施される。521は貼付帯上に縄線が加えられる。胴部には斜めに切断した半裁竹管状の工具による刺突列が複数段巡る。522は貼付帯上に刺突が加えられ、胴部には、斜め下からの刺突列が山形あるいは鋸歯状に施される。523は無文地で、貼付帯とその下位に竹管状工具による刺突列が加えられ、さらにその下位に半裁竹管状工具による沈線が施文される。524は口縁下部に貼付帯が巡り、口縁部と貼付帯上に刺突列が加えられる。525～534は刺突列と縄線が組み合わされるもの。横環する縄線間に刺突が加えられる例が多い。地文は、526・528・532・533はLR縦回転、525はR縦回転、527は手法Bの羽状縄文、531は斜位の綾くり文。525は口縁上端に縄線が1条、その下位に竹管状工具による刺突列が2条巡る。貫通孔が1か所みられる。528の縄線は、LとRを組み合わせた矢羽状。529は縄線と沈線で口縁部を区画し、押し引き列で充填する。530は網目状燃糸文を口縁部は横回転で、胴部は縦回転で施文し、口縁部に原体の側面圧痕と刺突列が加えられる。531・532は口縁部に縄線が巡り、その上位に刺突列が加えられるもの。533は縄線・刺突列を重ねて縦位の沈線が描かれる。534は横環する縄線と縦位の縄線が施される。535～539は縄文地に刺突列が施されるもの。地文は、535・537は手法Bの羽状縄文、540はLR縦回転、536はRL縦回転、538はL縦回転、539は縦回転の網目状燃糸文。535は口縁上端に刺突列が1条巡り、胴部には刺突列が縦位に施文される。538は刻み列が口縁上端を巡る。539は口縁上端に、不明瞭な刺突列が巡る。540は横長の刺突が横環する。口縁部に無文帯をもち、縦位の貼付文とボタン状貼付文が加えられる。541～545は無文地に刺突列が施されるもの。542はボタン状貼付文が加えられる。543は底部付近まで刺突列が曲線的に施さ

れる。544は突起部の破片で、円形の肥厚部の周縁を沈線で縁取り、肥厚部と口縁部が刺突で充填される。545は爪形が施されるもの。546は短沈線のような太い斜めの刺突が施される。地文は縦位の結束第1種羽状縄文。

貼付文が付されるもの (図V-1-58 表16 図版91 掲載番号547~573)

地文は、549・561・562・564・569・570・572・573は手法Bの羽状縄文、548・552・554~556はLR縦回転、547・558・571は口縁部にLR横回転で、手法Bの羽状縄文ないしは斜行縄文、567はRLR縦回転。547~560はボタン状貼付文をもつもの。547~552は横環する縄線と組み合わせられる。547・549・551は口縁部が縄文地、548・550・552は口縁部が無文地。547は突起部を欠失する。548の縄線はR。550は縄による刻みのある突起をもち、突起の下位に、縦位の細いU字状の貼付文が垂下し、ボタン状貼付文が加えられる。貼付文には縄文が施される。552bは斜位のU字形の沈線の閉端にボタン状貼付文が加えられる。554は拓影図の左側にボタン状貼付文が剥落した痕跡が明瞭。559は刻みのある突起にボタン状貼付文が付けられ、縄線が加えられた逆C字状の貼付文が加えられる。560は口縁上端に貼付帯をもち、突起部に環状の縄線が施文される。561~573は環状・V字状・弧状などの貼付文をもつもの。561・564・571~573の貼付文上は胴部と同時に縄文が施文される。561は環状の貼付文に縄文と刺突が加えられる。貼付文の上端に粘土塊を付し、2個一對の突起とする。562は突起部に、縄線が加えられたU字状の貼付文が付けられる。564はV字状の貼付文上に縄文と刺突が加えられる。565の貼付文は鋸歯状と予想され、縄線が施文される。566の貼付文は沈線で縁取られ、刺突が加えられる。貼付文の内側に渦巻状の沈線が描かれ、左右対称に2か所の貫通孔がある。567~573は弧状の貼付文が付けられるもの。567~569は貼付文に刺突列が加えられるもので、567の貼付文上は縄文地、568・569は無文地。569は刻みのある突起から貼付文が垂下する。570・571は貼付文に縄文が、572・573は貼付文に縄文と縄線が施文される。

壺・広口壺、注口土器 (図V-1-59・60 表16 図版52・91・92 掲載番号574~619)

沈線・磨消縄文で文様が描かれるものが多く、貼付帯や縄文が施されるものも少数ある。赤色・黒色・赤褐色などの顔料が塗布されたものが多くみられ、これらについては「概要」の項に詳述した。

574~578・613~619は広口壺。574・575は磨消縄文のもの、576~578・617は無文のもの。613~616・618・619は縄文が施されるもの。613~615は口縁部に2条の貼付帯が巡るもので、手法Aの縄文が施される。613は結束第1種斜行の原体が用いられ、貼付帯上には縄線が加えられる。614の貼付帯は薄く段差が不明瞭で、貼付帯上の縄文はまばら。615は上位の貼付帯上は無文地で刺突が施される。下位の貼付帯上には縄文施文後、やや太い原体による不規則な縄線が加えられる。616は縄線で口縁部の無文帯を区画する。地文はRL縦回転の斜行縄文。618は口縁上端に折り返し状の貼付帯が1条巡り、貼付帯から口縁部にかけてLR横回転の斜行縄文が、胴部にはLとRによる縦位の羽状縄文が施される。619は算盤玉形の器形になるとみられ、屈曲部に貼付帯が巡り、手法Aの縄文が施される。579~592・600は壺ないしは広口壺。579・580は磨消縄文のもの、581~592・600は無文地に沈線文が施されるもの。585は鐮状の貼付帯が巡る壺の口縁部。橋状把手が剥落した痕跡がある。587~589は渦巻状の沈線が施される。590は底面に植物の葉とみられる不鮮明な圧痕が残る。592は、縦位に貫通孔のある楕円形貼付文の剥落痕がみられる。600aは拓影図上端が平滑で、磨られたもの。593~599・601は切断壺形土器の切断部分。593~596は、焼成前の切断痕が明瞭。593~595は同一個体。597~599・601は、切断痕は不明瞭であるが、拓影図の上辺について、直線的で、断面形が器壁と直行し、わずかに肥厚する、焼成を受けているなど、切断痕の明瞭なものも共通する特徴をもつことから、切断土器の可能性が高いと判断した。597・598は同一個体。602は上端部が焼成前に滑らかに調整され、上端際に沈

線の痕跡が認められる。沈線施文後に切断し、切断面を調整したと想定され、切断土器の可能性がある。

603～605は注口土器。603は注口部が欠損する。604・605は注口部。内外面に赤色顔料が塗られ、器壁との接合部付近で破損している。606～608は橋状把手。609は耳状把手をもつもの。深鉢の口縁部とみられる。器壁に横位の棒状工具の圧痕が観察され、棒状工具に粘土をかぶせて把手を作り出したものと想定される。610～612は片口とみられるもの。611は603のような注口土器の可能性もある。

底部破片 (図V-1-61～67 表16 図版52・80・92～95 掲載番号620～737)

620～627は貼付帯が付されるもの。620は、欠失部に貼付帯をもつと想定される。縦位の貼付文に縄線が付された後、胴部・貼付文に同時に縄文が施文される。貼付文の間隔は不規則で、9か所。621に類する構成の可能性もある。621・622は貼付帯と縦位の貼付文で格子目をなすもの。621の施文順は、地文→横位貼付帯貼り付け→貼付帯上縄文→縦位貼付文貼り付け→貼付文上縄文。横位の貼付帯と胴部には手法Aの縄文が施される。縦位の貼付文上は地文同様縦回転で施文される。下位の横位貼付帯を除き、縄線が加えられる。622の貼付帯は無文。貼付帯上に一旦施文した縄線を磨り消し、薄く平らに整形される。貼付帯間にうすく横回転の縄文が確認できるため、貼付帯には縄文も施されていた可能性がある。地文は、貼付帯整形後に縦回転で施される。623は底部付近に無文の貼付帯が2条巡る。胴部地文は貼付帯を付した後に縦回転で施文される。624は胴部下位に貼付帯が2条、底部付近に縄線が4条巡る。貼付帯は薄く不明瞭。貼付帯上には胴部と同時に縦回転の縄文が施され、刺突が加えられる。Ⅲ群b類の可能性もある。625は底部近くに貼付帯が巡り、貼付帯上と底部際では横回転で、胴部では同一原体が縦回転で施文され、手法Aと手法Bが併用される。貼付帯上には縄線が加えられる。底部際の横回転の縄文部分はやや肥厚しており、貼付帯の可能性もある。626は貼付帯が2条巡る胴部下位の破片。貼付帯間は無文。貼付帯を付した後に、貼付帯上と貼付帯より上位の胴部にLRによる手法Aの縄文が施され、貼付帯には刺突が加えられる。貼付帯より下位にはRL縦回転の斜行縄文が施文される。627は胴部下位に無文の貼付帯が1条巡り、その下位に無文地に多数の横環縄線が施文される。628～630は縄線による文様が施されるもの。628は無文地で胴部下位と底部際に縄線が巡り、その間に鋸歯状の縄線が付される。629は胴部下位に縄線が2条巡る。地文はLR縦回転で、縄線間では部分的にRL縦回転が加えられる。縄線はRL。631・632は刺突列が施されるもの。631は断面長方形の工具による刺突列が2条、底部際を巡る。632は底部近くに細い縄線が3条めぐり、縄線間に刺突が加えられる。地文は縄線より太い原体の縦回転、底部際は縄線と同一原体の横回転。底面の周縁にササ類とみられる平行脈の葉の圧痕が残る。633～636は地文の縄文のみのもの。633・636は赤色顔料が塗布される。633は底面が楕円形を呈する。636はまばらな細い斜行縄文が施される。637は網目状捻糸文が施されるもの。底面に被熱したアオザメの歯が付着している。歯は破片が2点あり、1点では歯冠部の全体が圧痕され、部分的に歯が残る。周囲には微細な焼骨片がみられる。

638～651は、台、上げ底、底面が楕円形や角丸長方形のものなど。638は台部分。下端は摩耗している。底面は角丸長方形を呈するとみられ、角に切れ目がある。無文地の貼付帯に刺突が加えられる。639・640は底面の周縁がやや高まり、高台状になるもの。640は底面が楕円形。641～644は上げ底のもの。641は底面から外面への貫通孔を2か所もつ。645は台の破片。646は底面外面に赤色塗膜が認められる。647は底面が楕円形で、底面の周縁に放射状に棒状工具の圧痕がみられる。648・649は底面が角丸長方形を呈する。650は、焼成前に底面が部分的に切り取られたと思われるもの。図の▲部分で、断面に直行するキャタピラ状の凹凸がみられ、切断土器の切断面に類似する。651は底面の中央に穴があるもの。底面の拓影図の下端が、焼成前に断面丸形に滑らかに成形されている。

652～655は、底面に縄文、捻糸文、沈線が施されるもの。652は縄文、653は沈線、654は数条の捻

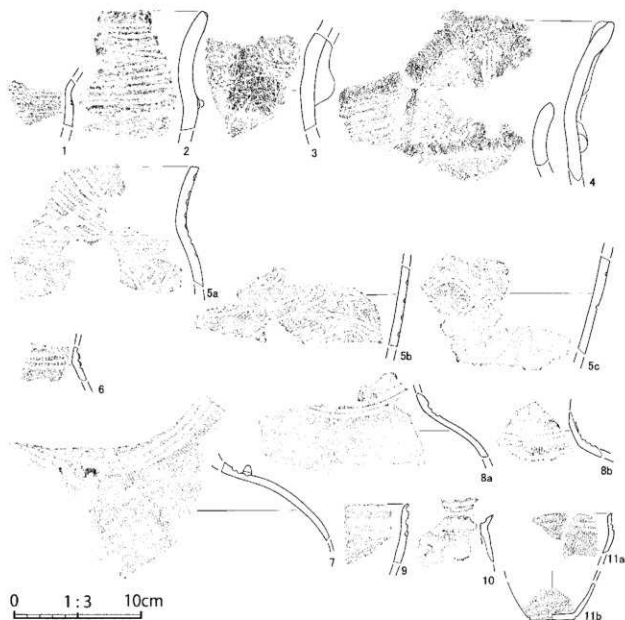
糸文が施文される。655は方向を変えながら重なり合う多数の沈線が施される。656～678は底面に編組製品による圧痕が残るもの。656～672は網代編み製品によるもの。確認できたものはすべて、1本超え-1本潜り-1本送りのものである。図示した位置を基準とした横条・縦条ともに、断面が角張る素材を多く用いる。横条は幅2～3mmで、圧痕の浅い例が多い。表面には延長方向の複数の筋がみられる。縦条は、幅は2～3mmで、大部分のものは2mm前後。圧痕は深く明瞭、表面は滑らかで横条のような筋はみられない。657・660は内面に赤色顔料が付着している。673～675はもじり編み製品の圧痕が残るもの。素材の幅は縦・横とも2mm前後。横条は断面の角張る素材で、表面には延長方向の複数の筋がみられる。縦条は断面が角張らない。673・675の表面には延長方向の筋がみられ、674の表面は滑らか。675は底面周縁の高まった部分に圧痕が認められる。676～678は5～7mmほどの幅広の素材による編組製品の圧痕が残るもの。676・677では縦・横方向、678では縦・横・斜め方向の配列がみられ、網代編み製品の一種と考えられる。679～716は、底面に植物の葉の圧痕が残るもので、葉脈が網状脈のもの。687は、2枚の葉が重なっている。底面側の葉には波状の特徴的な葉縁が認められ、カシワの葉と判断できる。もう一方の葉も葉脈の形態からカシワとみられる。主脈と側脈のなす角度が小さく、側脈の間隔は1～1.5cm、側脈と細脈のなす角度は直角で、細脈の間隔は2～3mmであることなどが特徴である。共通した特徴をもつものは680・685・686・688・699で、これらはカシワの葉と考えられる。683・701は主脈と側脈の形態が、716は側脈と細脈の形態がカシワの葉に類似する。681・684・702・703・705～707・711・713は主脈と側脈のなす角度がカシワより大きく、側脈間隔が1.5～2.0cm程度のもの。ホオノキの葉の葉脈と類似するが、側脈間隔に違いもみられる。689～698・704・714・715は、側脈の間隔が2cmを超えるもの。側脈の間隔ではイタドリ・クズの葉と近いが、細脈の形態などに違いがみられる。698・704・712は細脈の形態がクズに類似する。710は主脈と側脈のなす角度が大きい。705・707～709は葉脈が太くて浅い圧痕となっているもの。主脈と側脈の形態は、708はカシワの葉に、709はトチノキの葉に似る。685は葉を剥離後に底面が調整され、圧痕は部分的に残存する。686は底面周縁の高まった部分に圧痕がみられる。694の胎土中にはワラビの葉とみられる痕跡がある。712は、主脈と側脈と沈線を組み合わせて、全体で格子目を表現している。684・688・701・706・713・714は2方向の圧痕が重なる。715は、網状脈と平行脈の圧痕が重なるもの。717～737は、底面に植物の葉の圧痕が残るもので、葉脈が平行脈のもの。ほとんどがササ類の葉の圧痕とみられる。720・724・727・730・732は細脈間に微細な長方形の網状組織が認められる。722・724・725・727は葉の表面の刺状の圧痕が顕著にみられる。

ミニチュア土器 (図V-1-68 表16 図版95 掲載番号738～750)

738は口縁に沈線が1条巡り、弧状の沈線が横位に連続する。739・740は地文に手法Bの羽状縄文が施され、739は口縁に縄線が1条加えられる。741は壺形を呈すると思われ、屈曲部より上位は無文となる。742は網目状捻糸文が口縁部は横位に、胴部は斜位に施文される。743は捻糸文が口縁部で斜位に、胴部で縦位に施される。746は壺形で、沈線による縦横の区画内に渦巻状沈線が施文される。747も壺形で、刺突列が屈曲部を巡り、胴部には鋸歯状と思われる刺突列が施文される。748は広口壺形で、上半は横回転の斜行縄文、下半は斜位回転の横走縄文。749は無文で盤蓋玉形を呈するとみられ、口縁部に貫通孔をもつ。750は台部分で、斜行～縦走縄文が施され、屈曲部に縄線が加えられる。

4 土製品・焼成粘土塊 (図V-1-68・69 表16 図版95・96 掲載番号751～796)

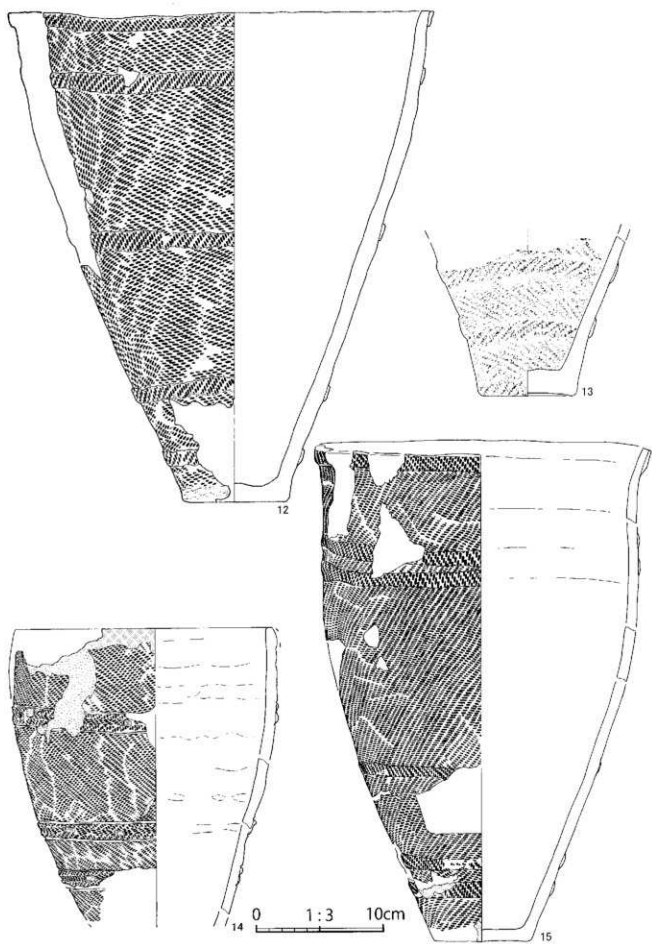
土製品は42点、焼成粘土塊は903点出土した。土製品の内訳は、土偶3点、土器片加工土製品31点、その他の土製品8点で、このうち37点を図示した。焼成粘土塊のうち、人為的な変形を受けたものは5点で、このうち4点を図示した。残る898点の焼成粘土塊は、人為的な変形を受けたとは考えにくい形



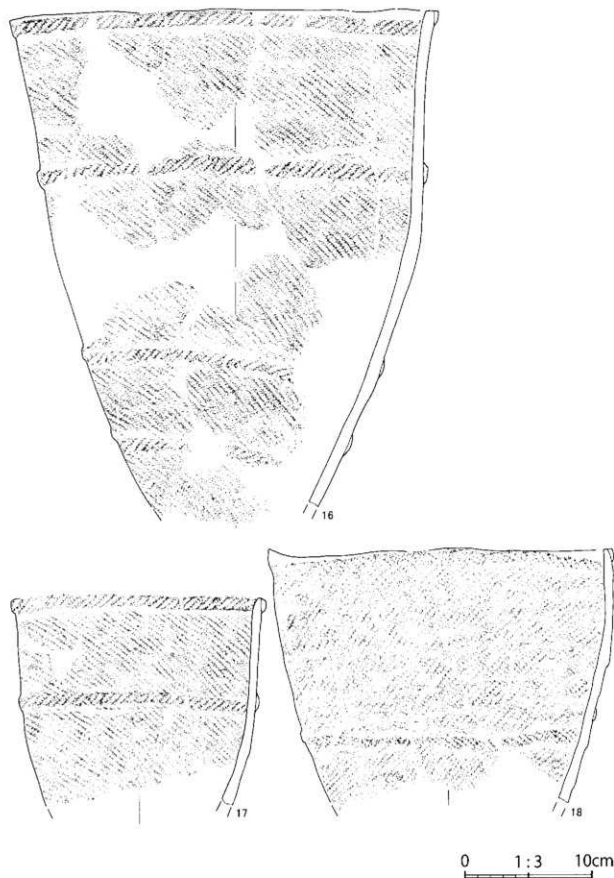
図V-1-1 土器 (1)

状、混和剤がごく少ない、焼成が弱い、軟質で脆弱、住居跡の覆土や床面から多量に出土する、などの特徴がある。このことから、住居跡の床面となったⅢ～Ⅳ層の土壌が、炉の炎によって弱く焼成されたものと考え、掲載対象からは除外した。795・796はⅢ群a類に伴うもの、他はすべてⅣ群a類に伴うものである。

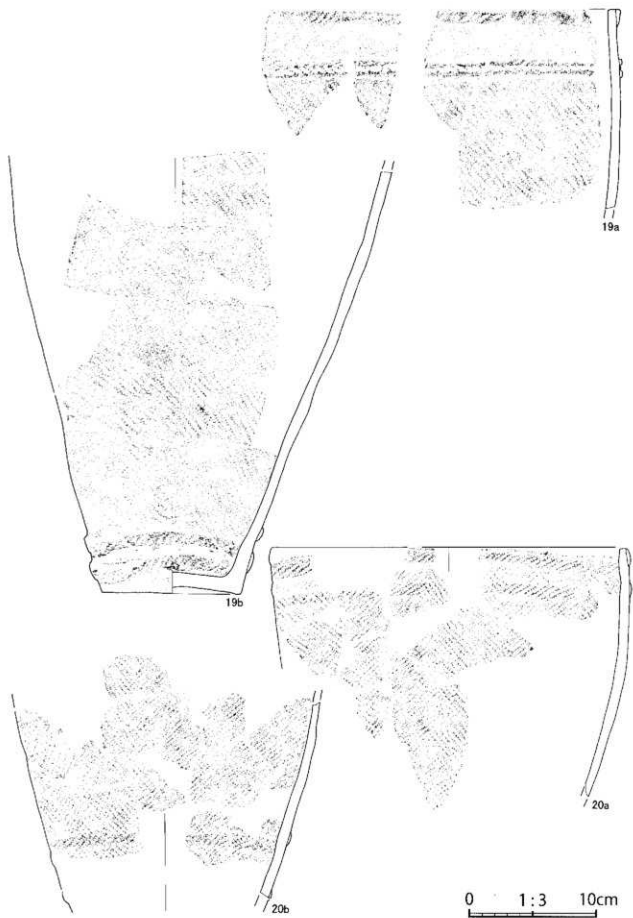
751～753は土偶。出土した3点を図示した。751・752は西盛土遺構から、753は0H-16覆土から出土。751は胴～脚部の破片。前面は縦に刺突列が施され、粘土を貼り付けて下腹のふくらみを表現している。背面には沈線と刺突列で文様が描かれる。752は腕の破片。沈線と刺突列による文様が施される。文様の簡素な面を背中側と仮定すると、左腕である。周縁は断面が滑車状に整形される。「肩」から「脇」へ貫通孔が抜ける。これにほぼ平行して、貫通しない脇からの穿孔があり、一度穿孔に失敗したもの
(287ページへ続く)



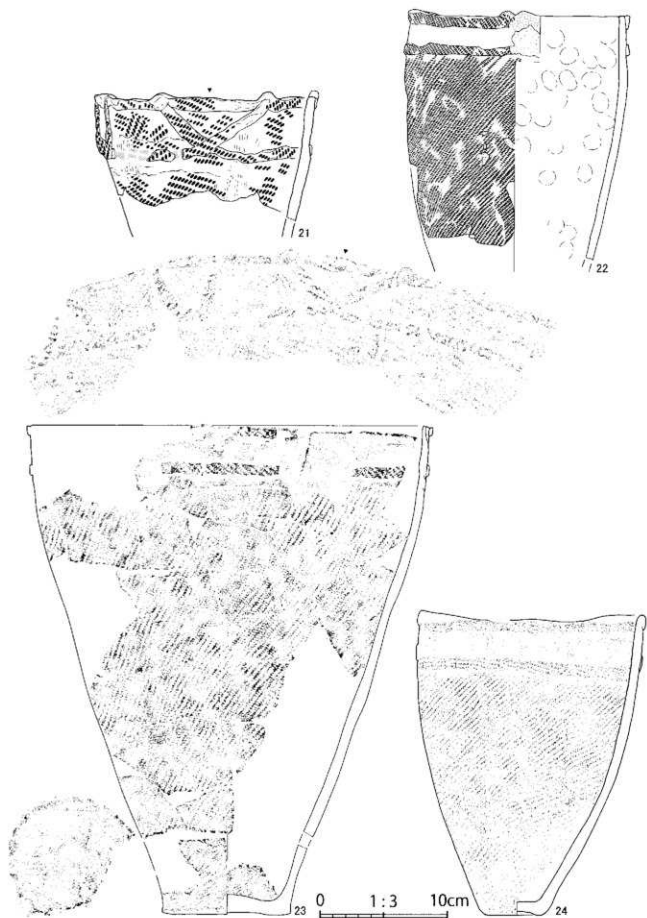
圖V-1-2 土器(2)



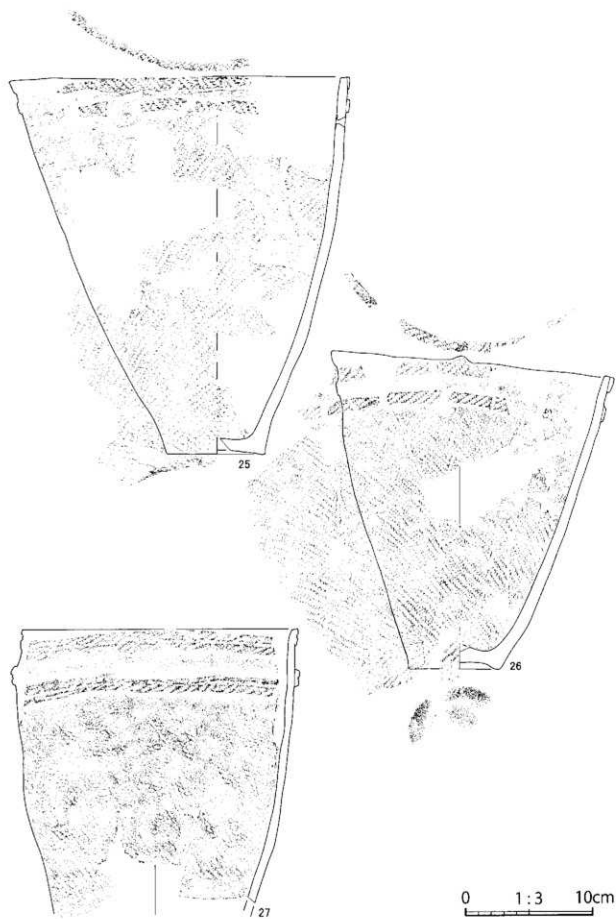
図V-1-3 土器 (3)



図V-1-4 土器 (4)



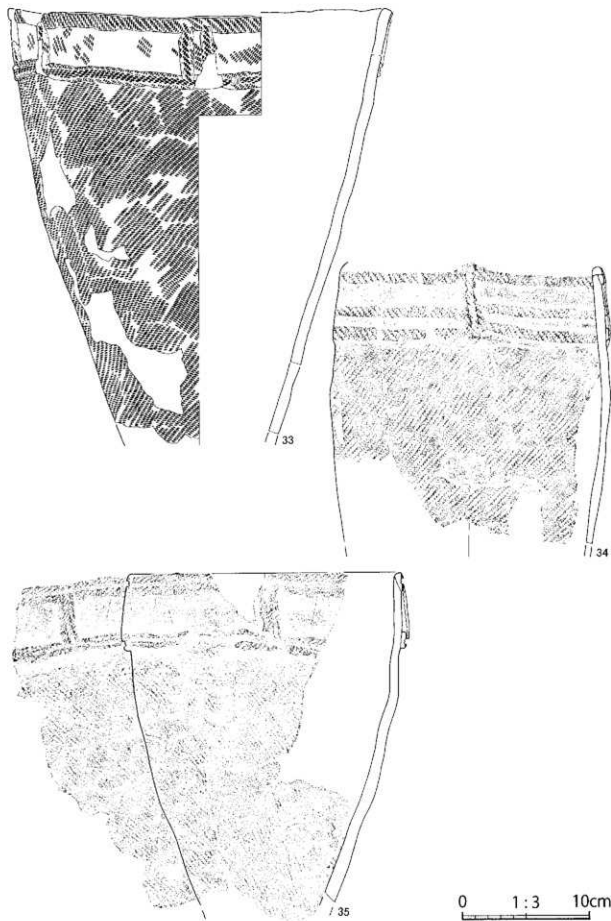
図V-1-5 土器(5)



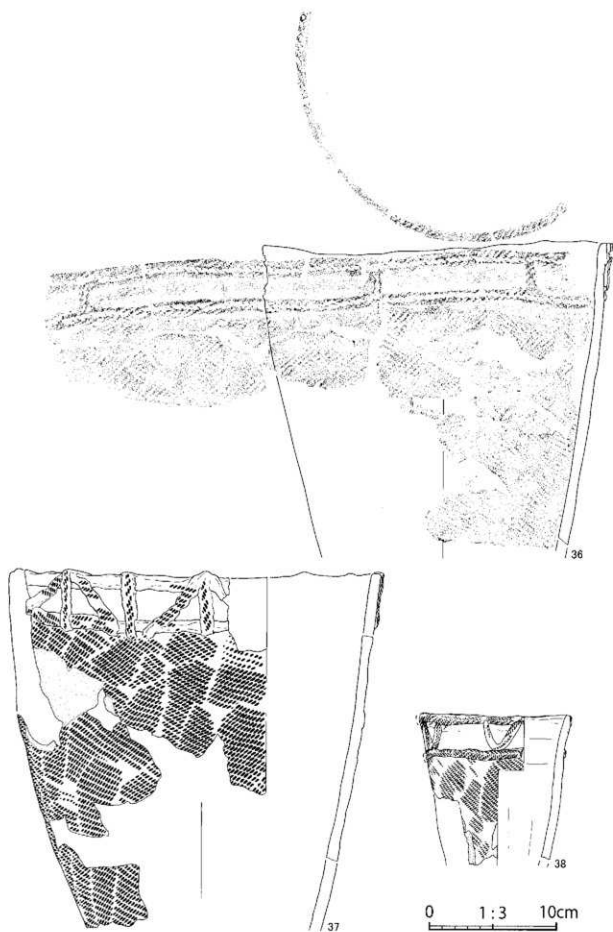
圖V-1-6 土器(6)



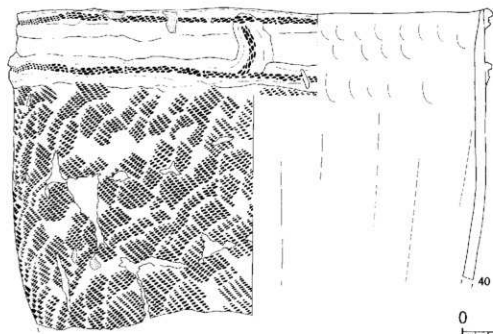
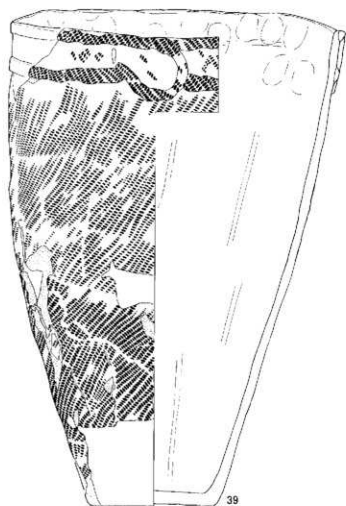
図V-1-7 土器 (7)



圖V-1-8 土器(8)

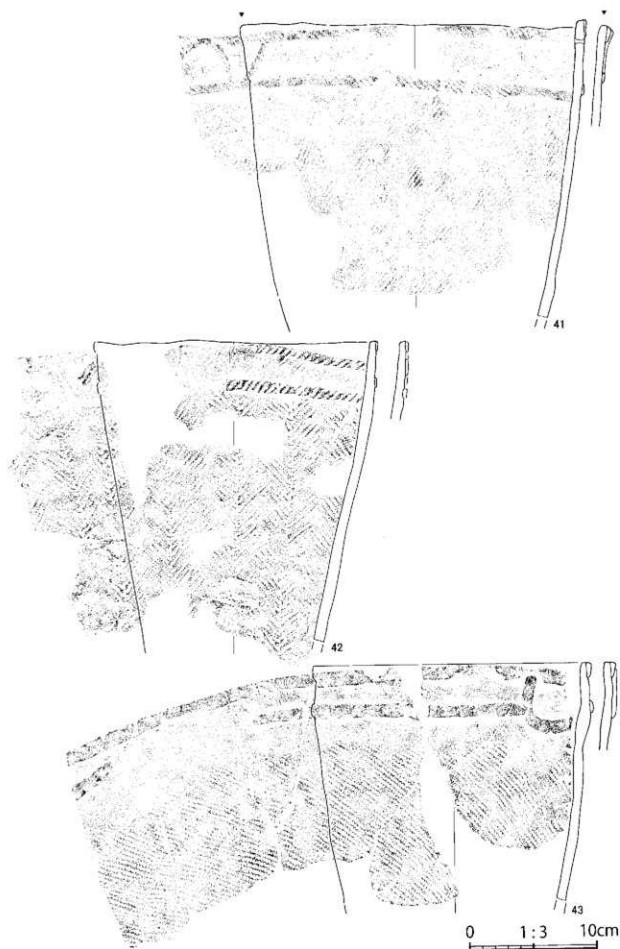


図V-1-9 土器(9)

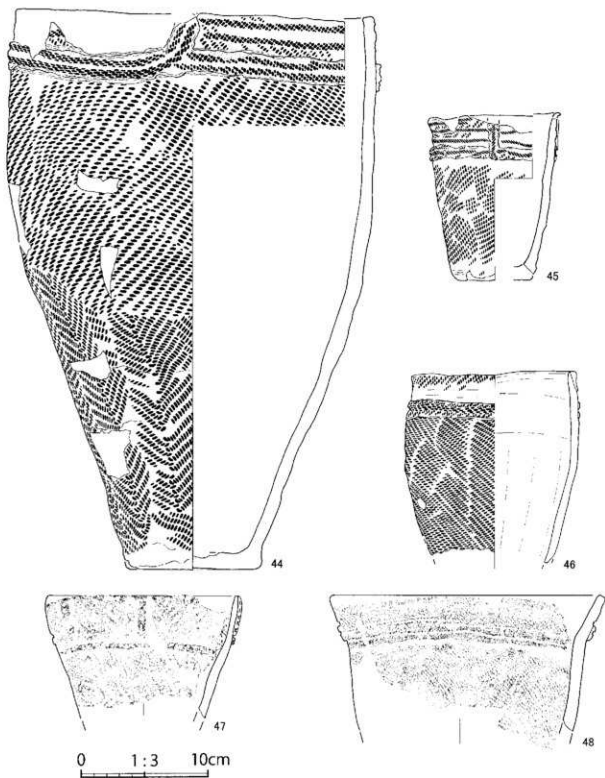


0 1:3 10cm

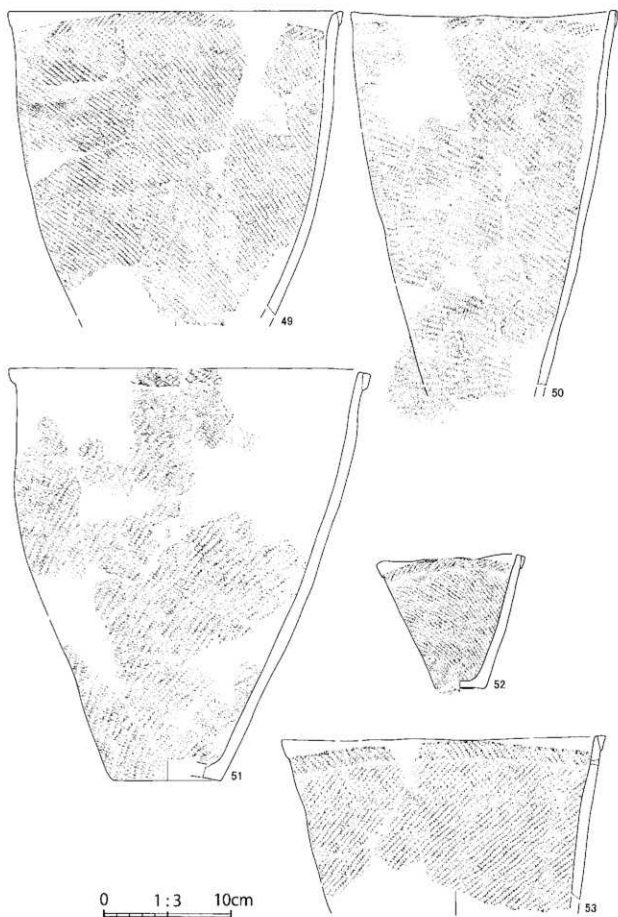
图V-1-10 土器 (10)



圖V-1-11 土器(11)



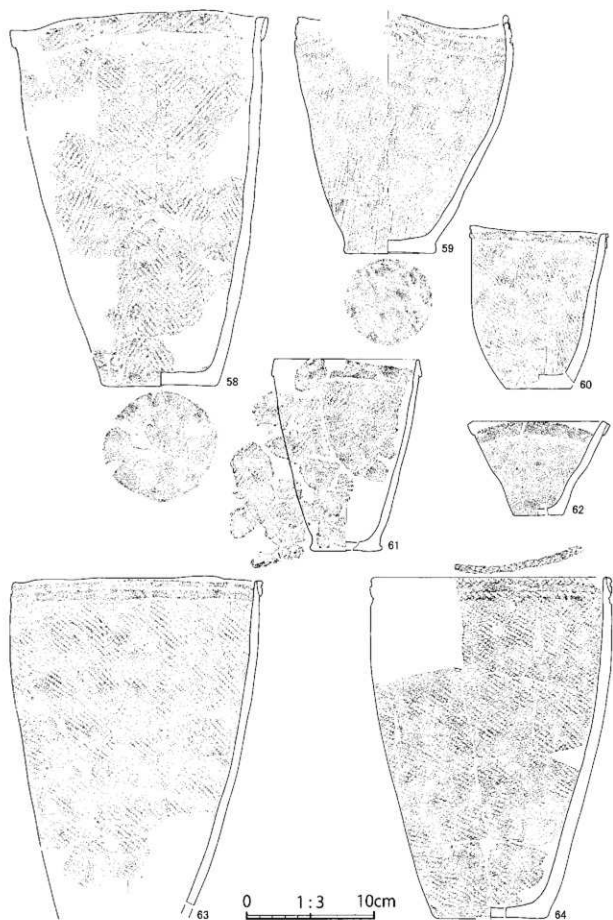
圖V-1-12 土器 (12)



図V-1-13 土器 (13)



图V-1-14 土器 (14)



図V-1-15 土器 (15)



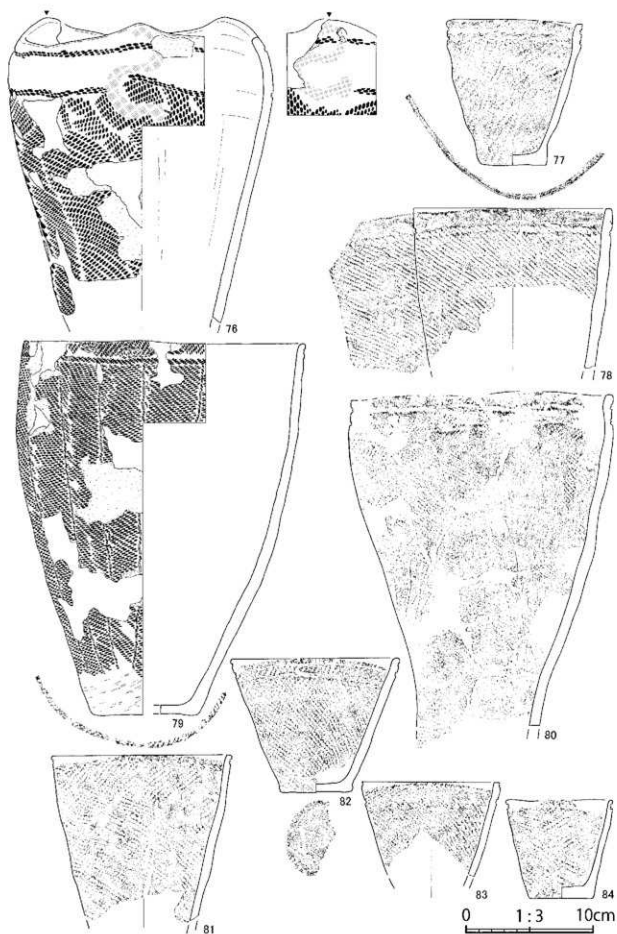
図V-1-16 土器 (16)



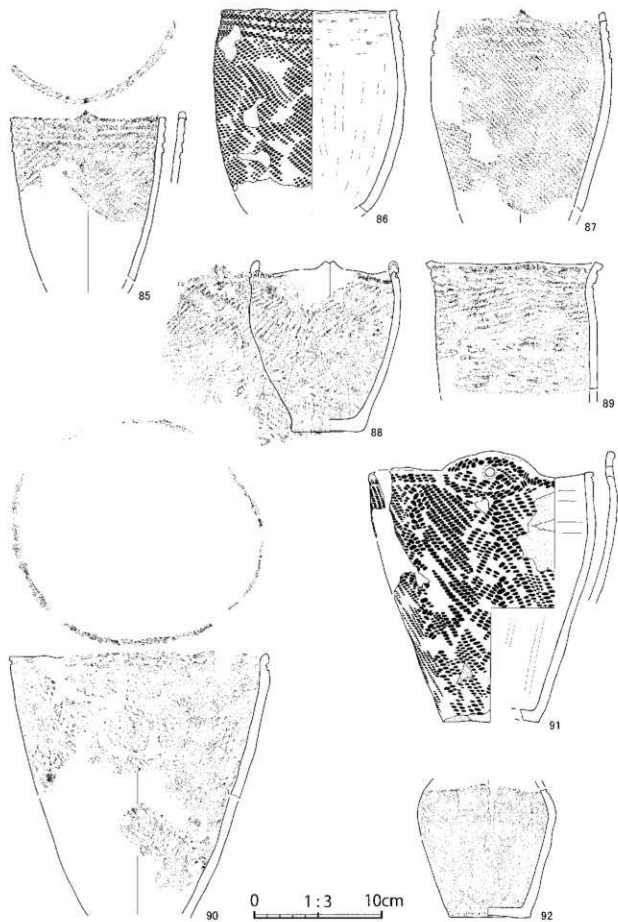
図V-1-17 土器 (17)



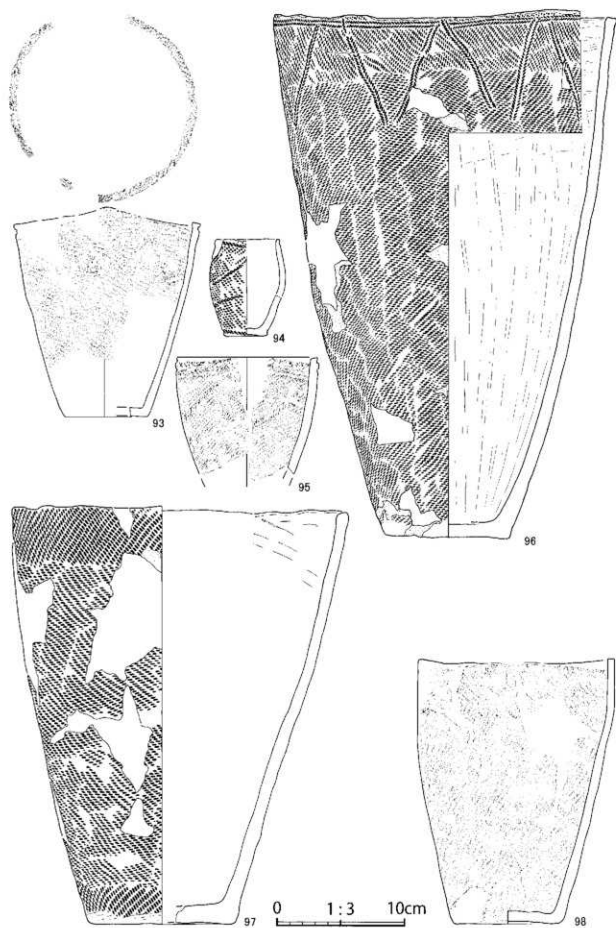
图V-1-18 土器 (18)



図V-1-19 土器(19)



图V-1-20 土器 (20)

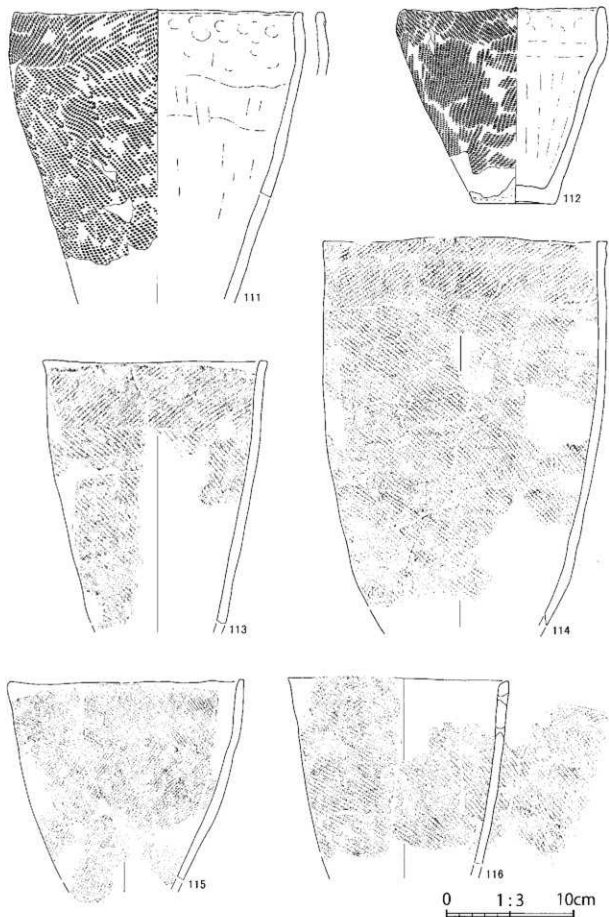


図V-1-21 土器 (21)

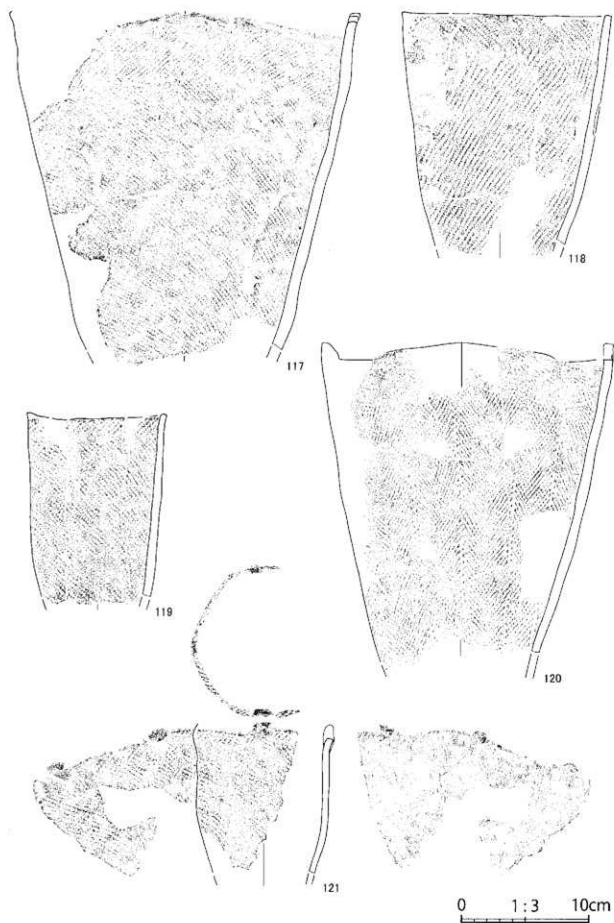


图 V-1-22 土器 (22)

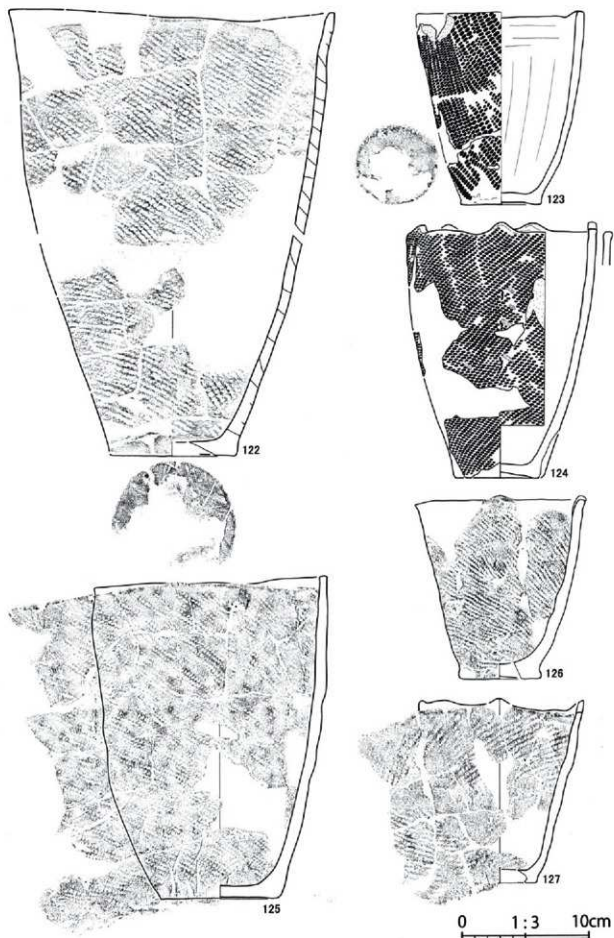




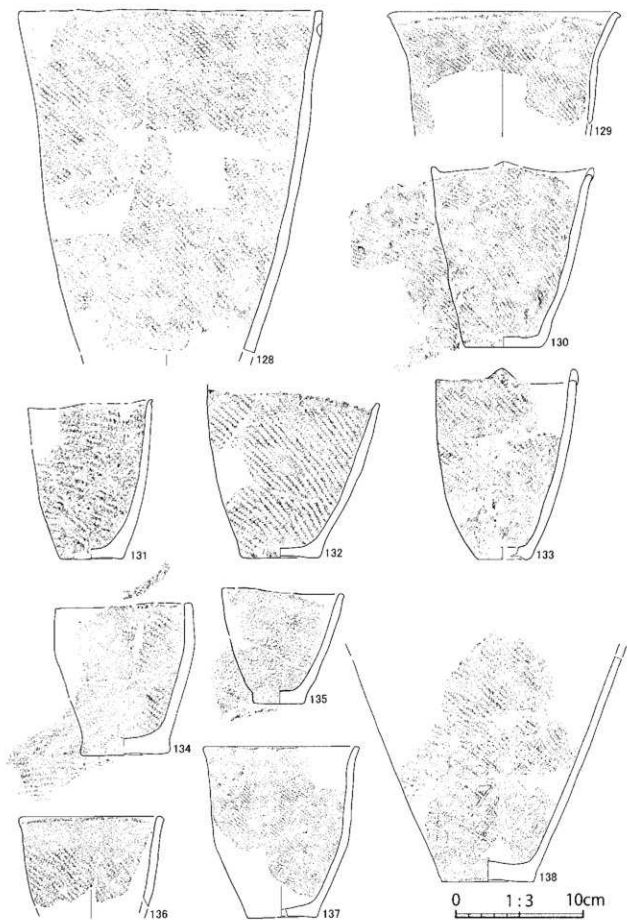
图V-1-24 土器 (24)



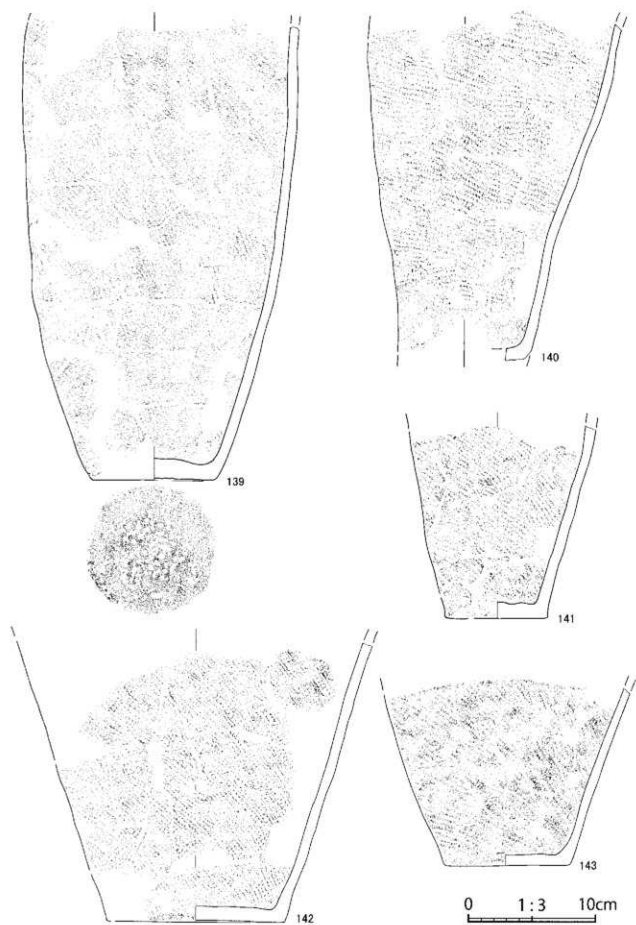
図V-1-25 土器 (25)



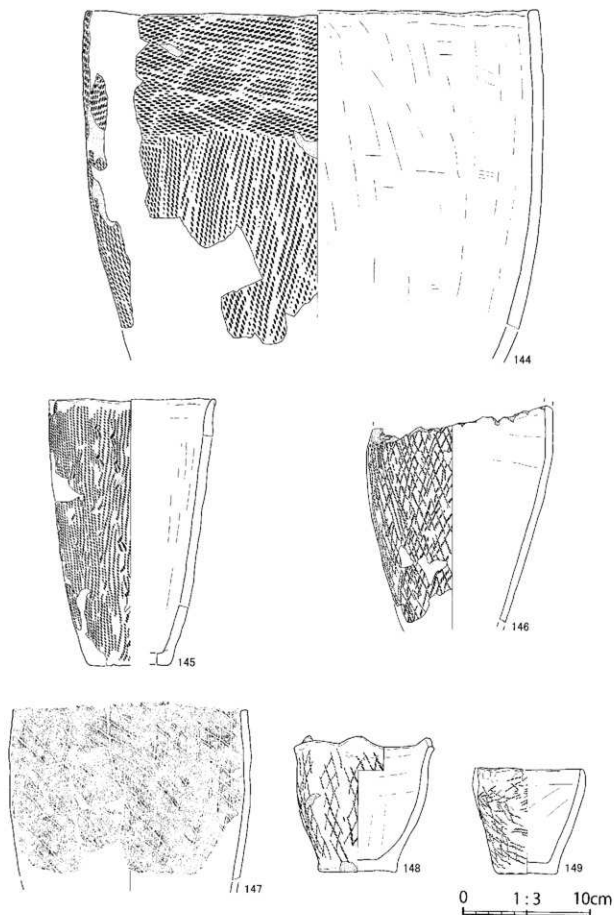
図V-1-26 土器 (26)



図V-1-27 土器 (27)



図V-1-28 土器 (28)



図V-1-29 土器 (29)

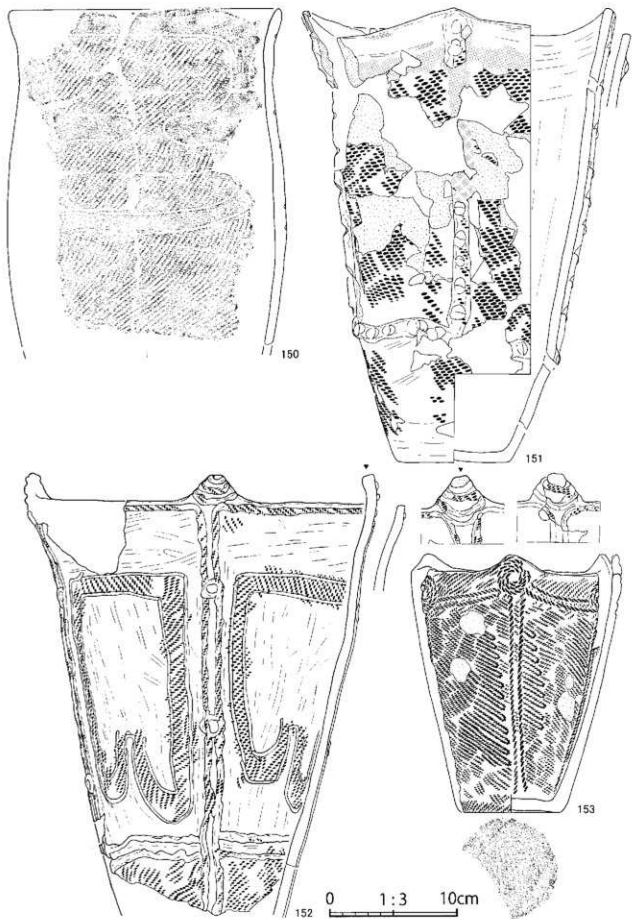
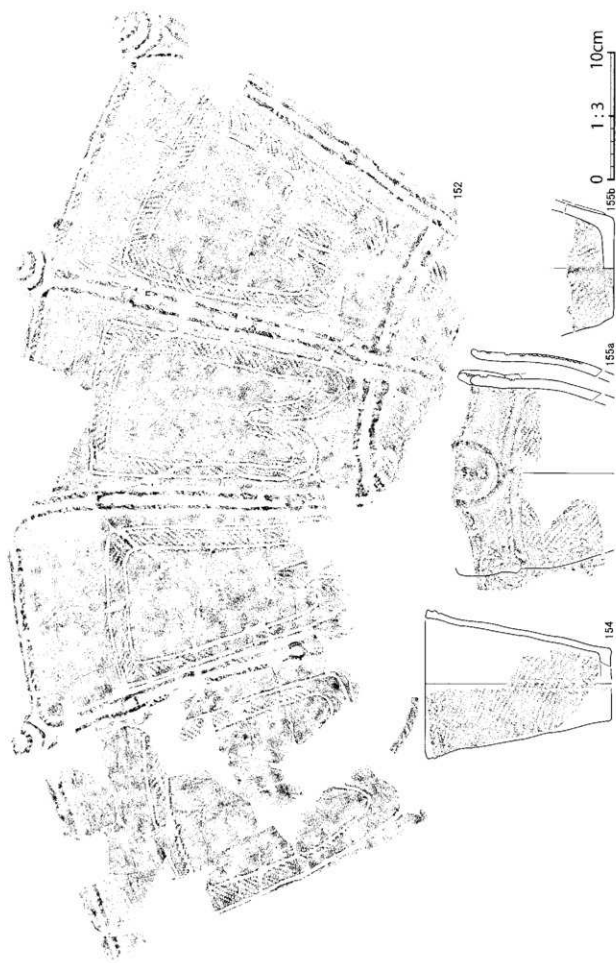
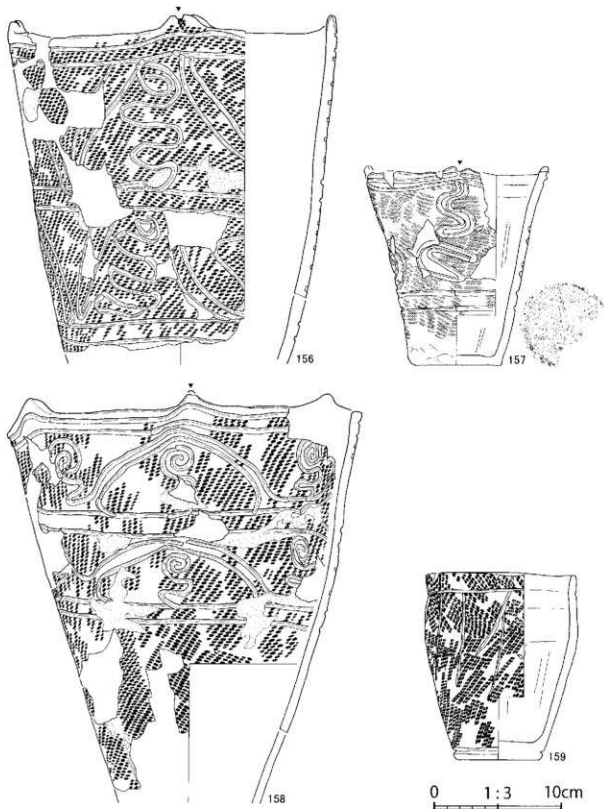


图 V-1-30 土器 (30)



図V-1-31 土器(31)



图V-1-32 土器 (32)



156



158

図V-1-33 土器(33)

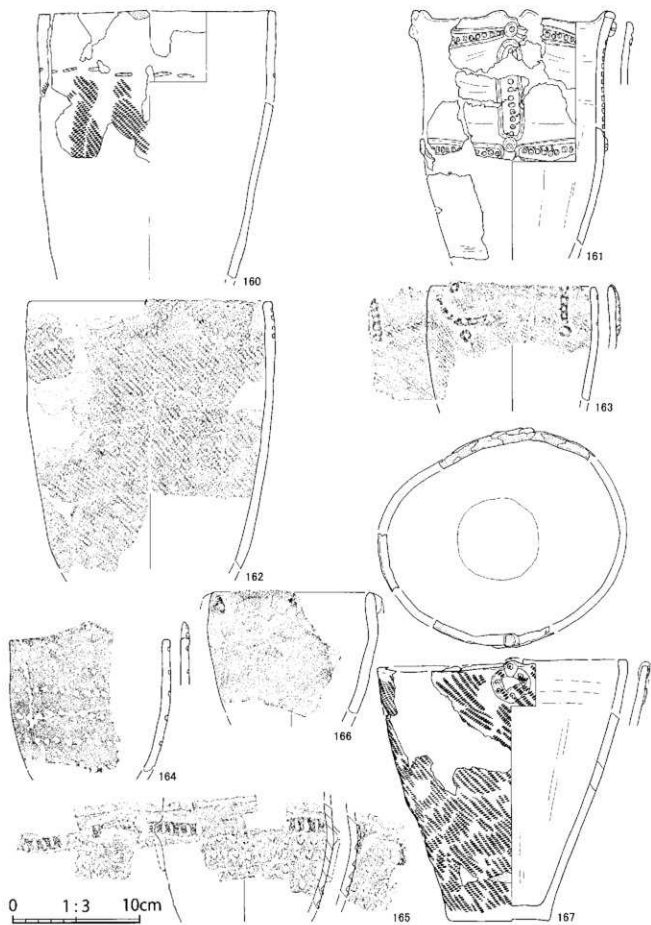
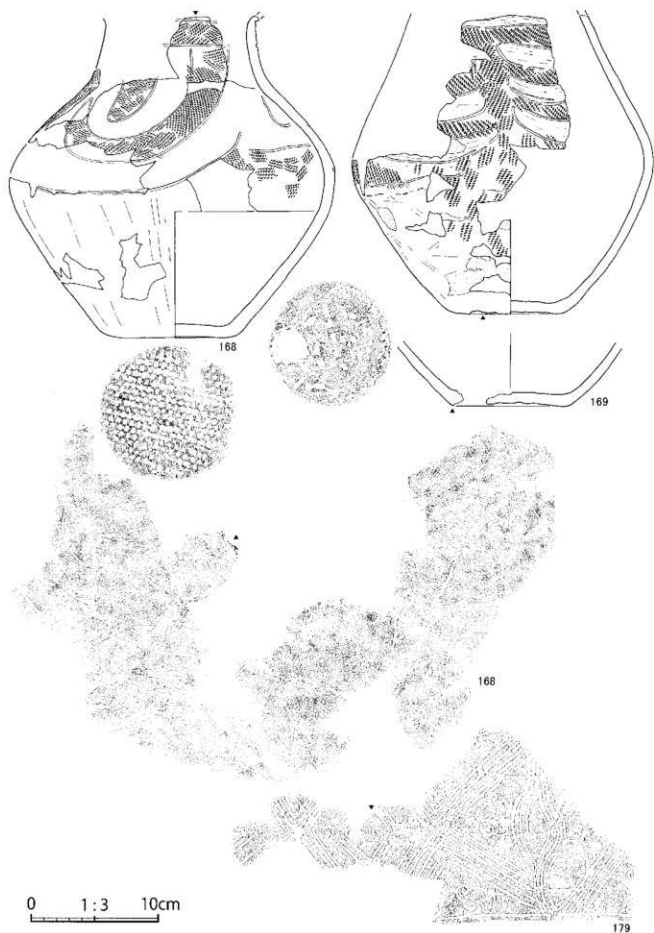


图 V-1-34 土器 (34)



図V-1-35 土器 (35)

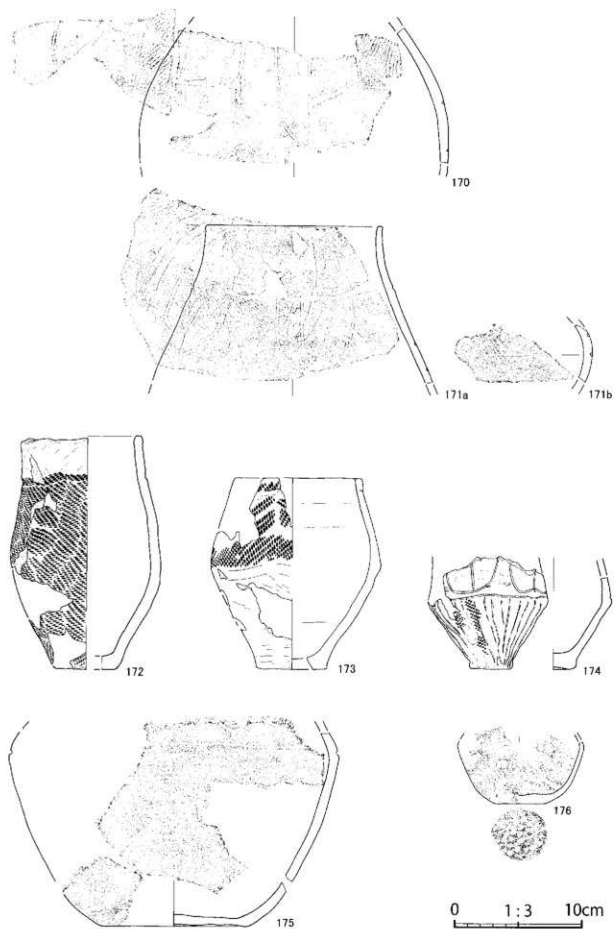
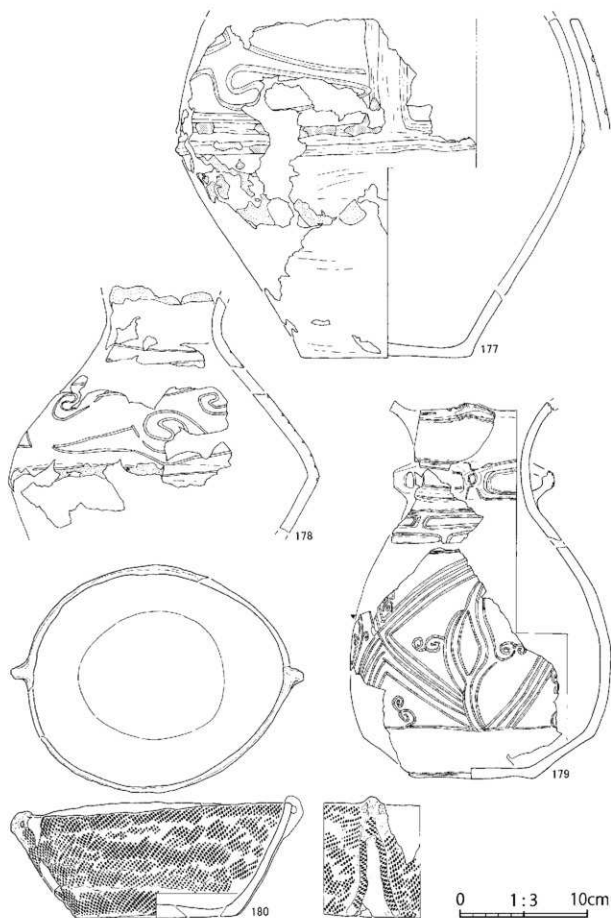


图 V-1-36 土器 (36)



圖V-1-37 土器 (37)

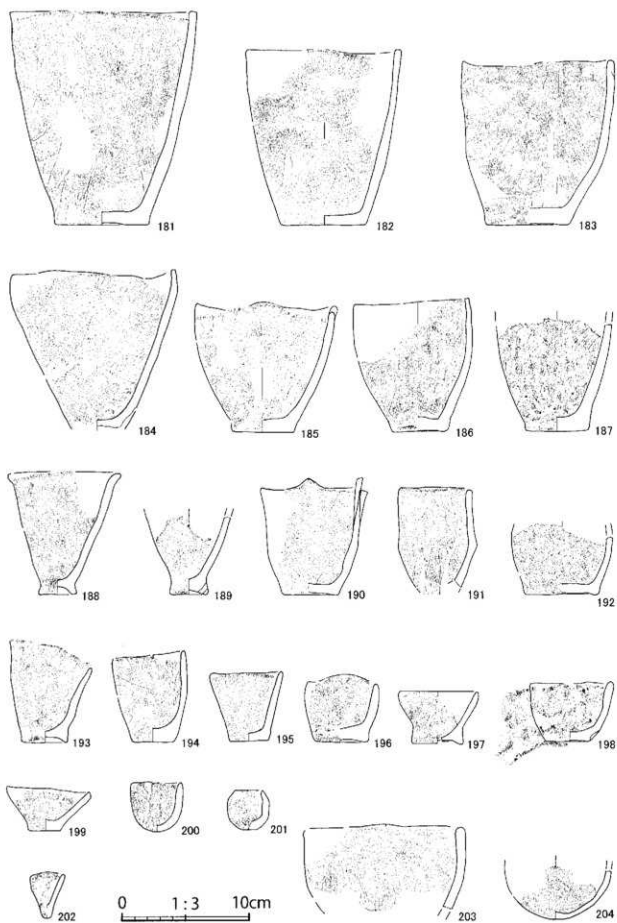
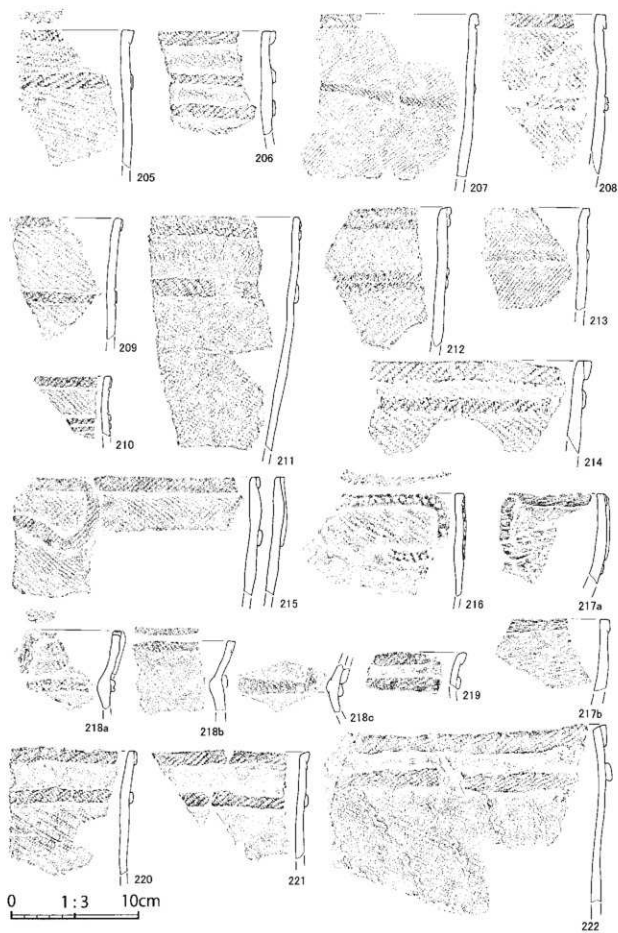


图 V-1-38 土器 (38)



図V-1-39 土器 (39)

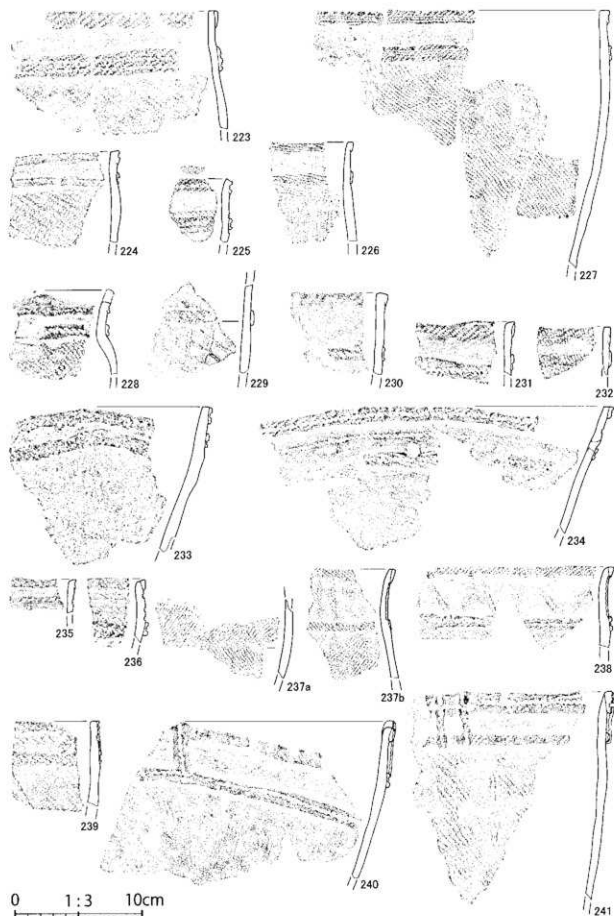


图 V-1-40 土器 (40)



圖V-1-41 土器 (41)



图V-1-42 土器(42)



図V-1-43 土器(43)

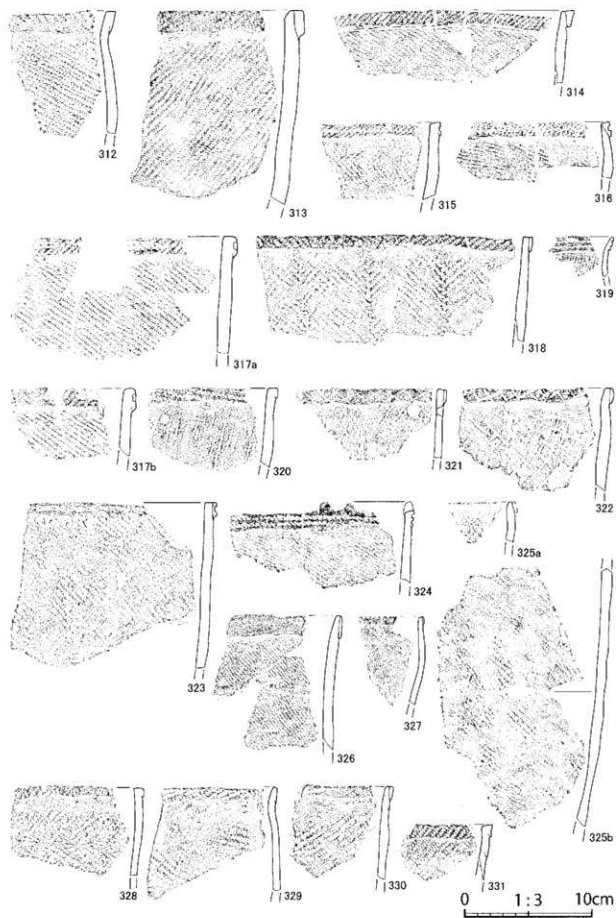
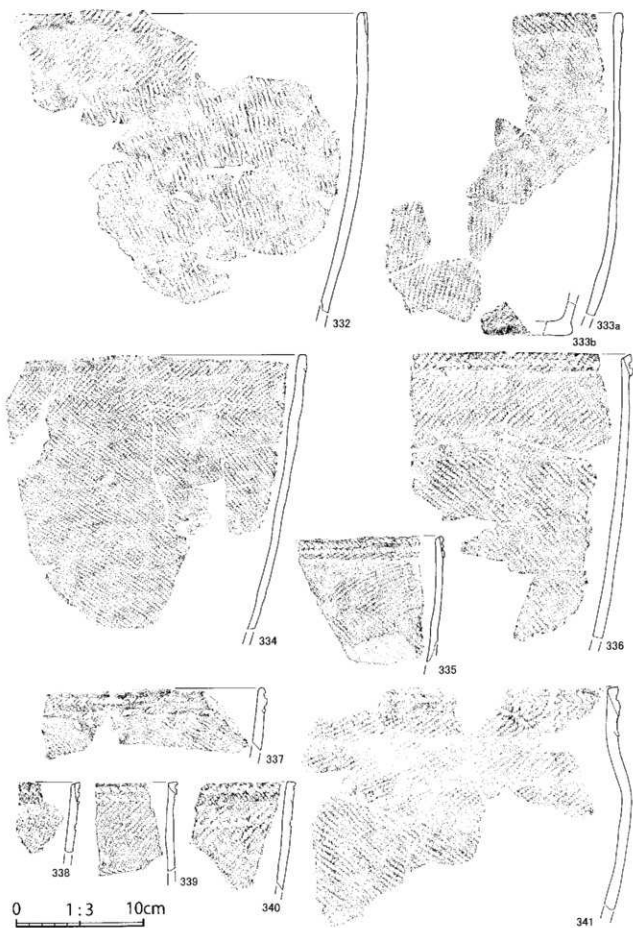


图 V-1-44 土器 (44)



図V-1-45 土器 (45)

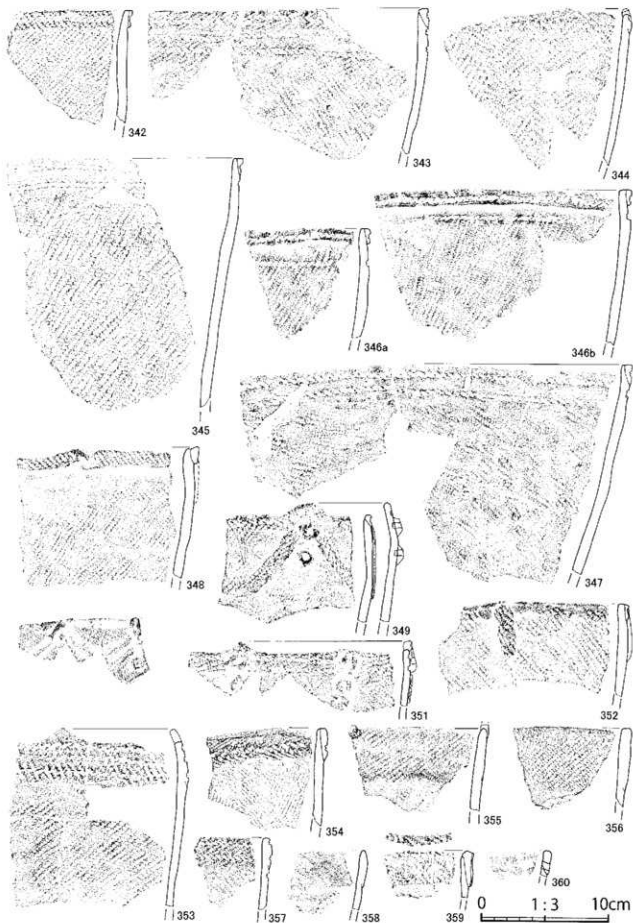
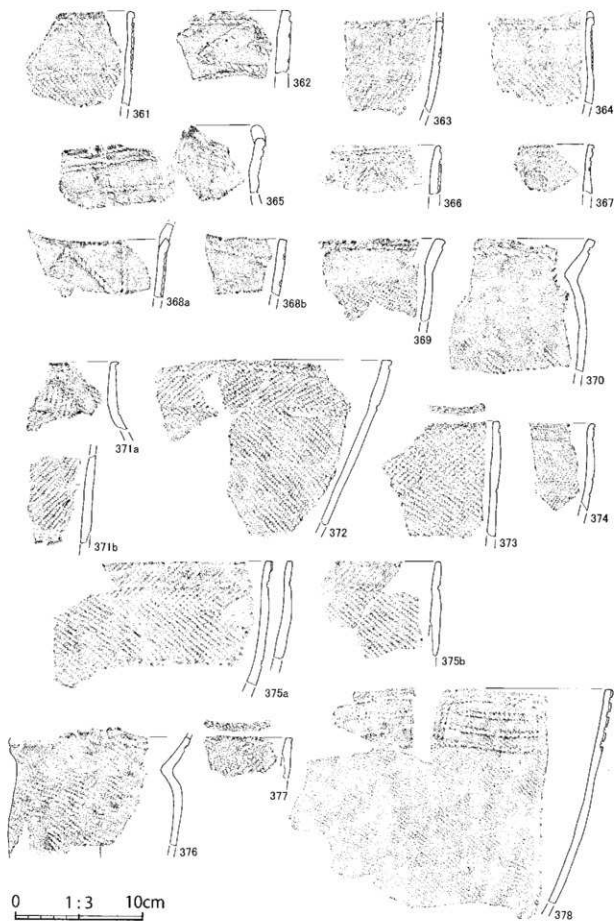
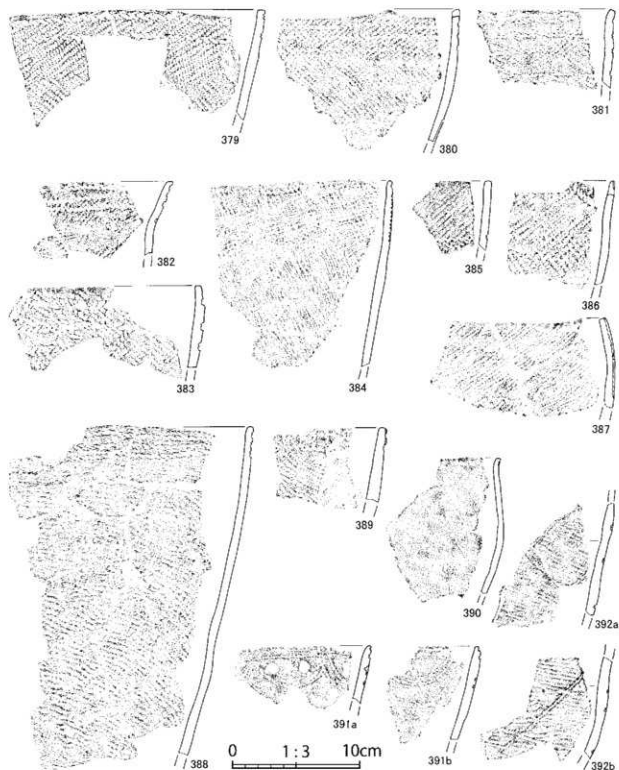


图 V-1-46 土器 (46)



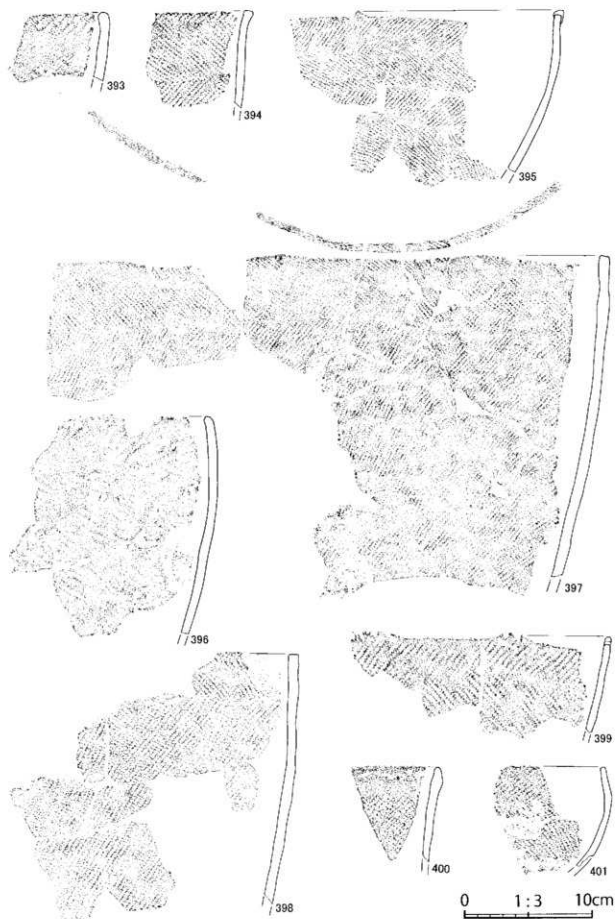
図V-1-47 土器(47)



図V-1-48 土器(48)

とみられる。図左側の割れ面には、これらとやや角度の異なる細い穴がみられる。753も腕の破片とみられる。無文で、図の左右方向に細い貫通孔がある。754・755・757～762はその他の土製品の破片。754・755は緩やかに窪む皿状のもの。上面観は楕円形を呈するとみられ、全体形は舟形土製品に類似すると予想される。757は板状で、刻みをもつ隆起帯が付されたもの。器壁が薄く、裏面が湾曲する

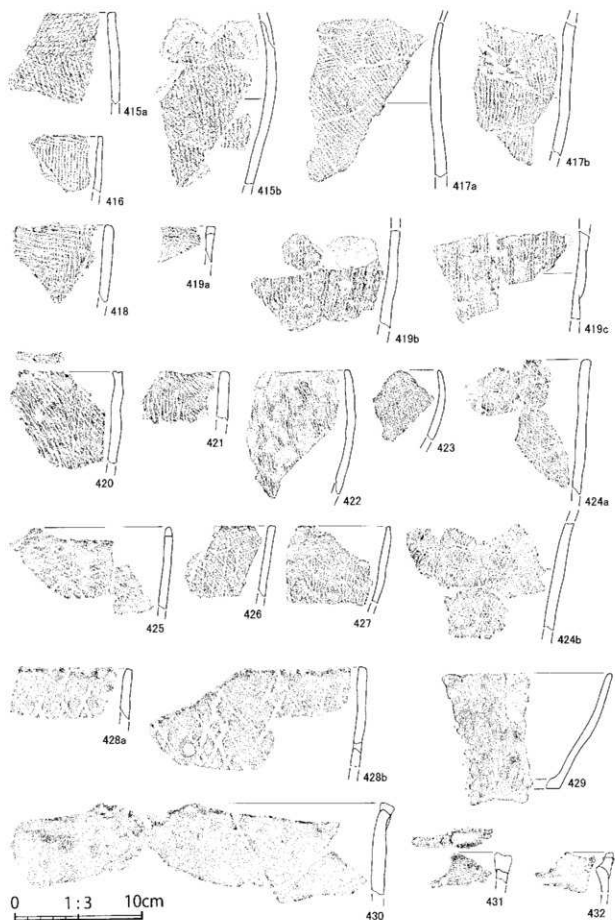
(295ページへ続く)



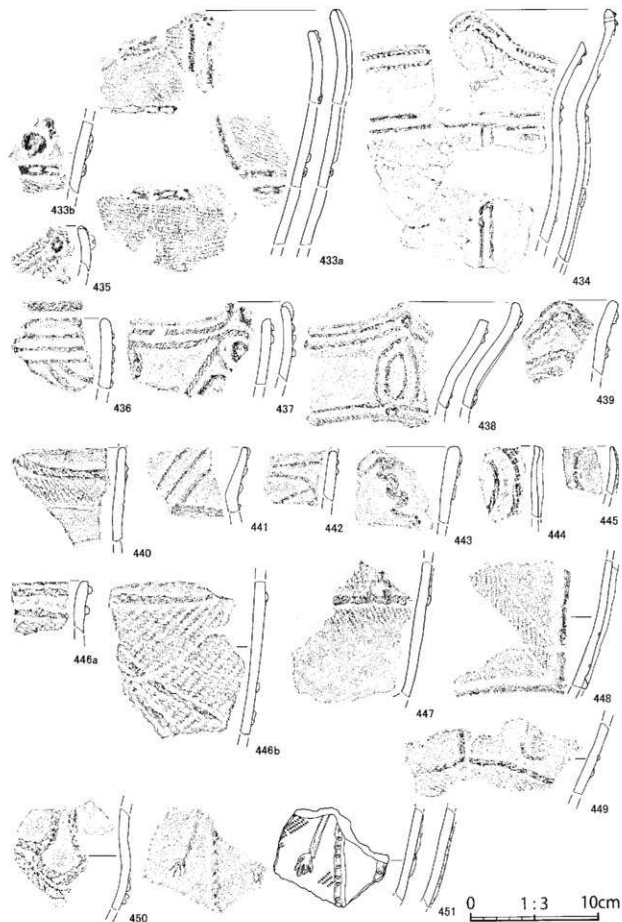
図V-1-49 土器(49)



图 V-1-50 土器 (50)



図V-1-51 土器(51)



图V-1-52 土器(52)

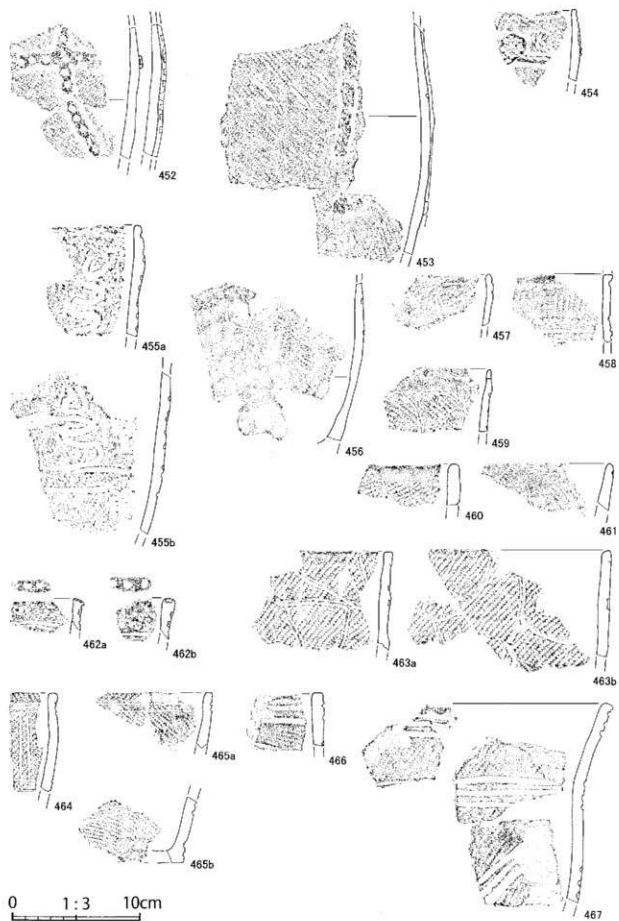
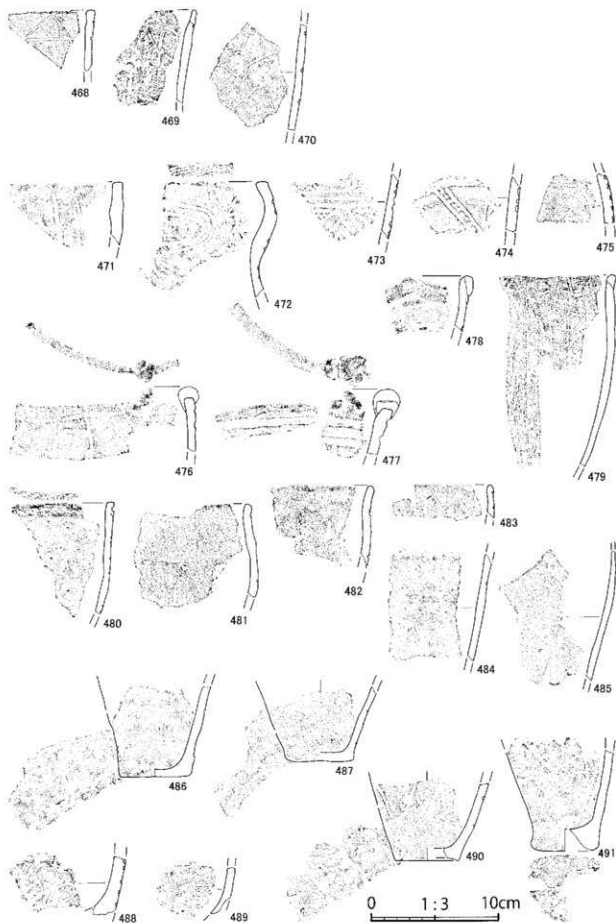
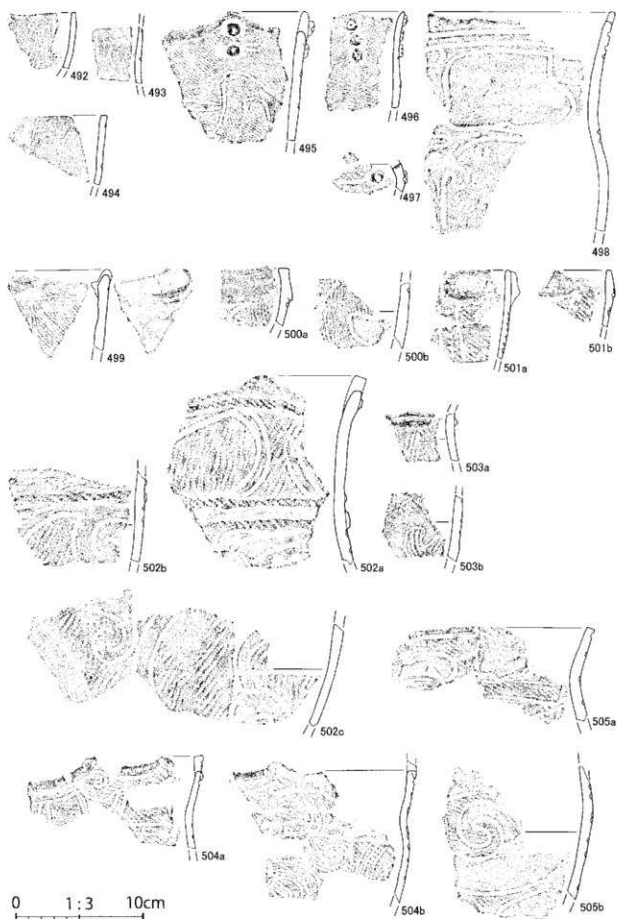


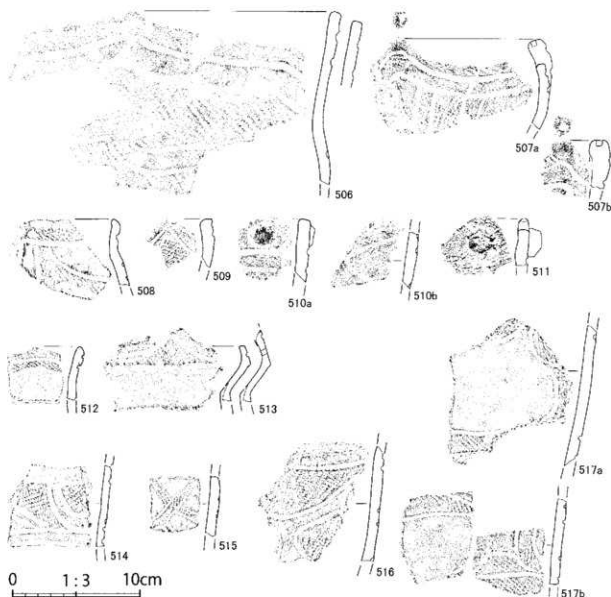
図 V-1-53 土器 (53)



图V-1-54 土器(54)



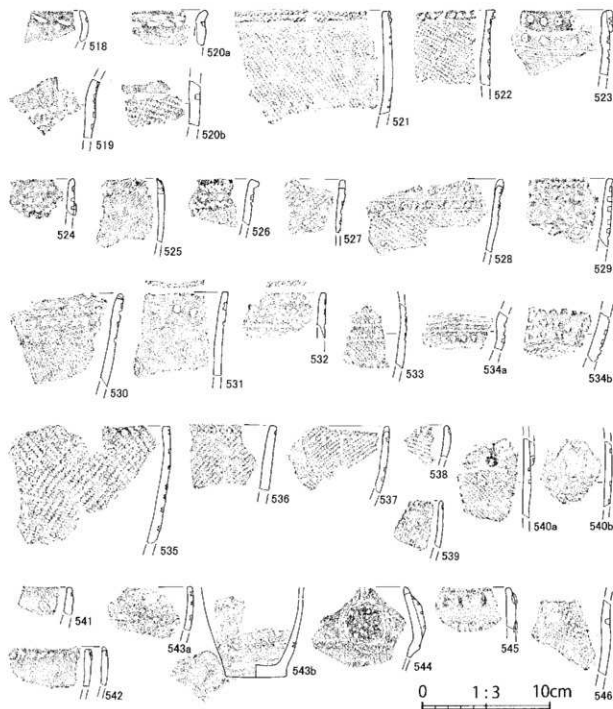
図V-1-55 土器(55)



図V-1-56 土器 (56)

ため土器の破片ではないものと判断した。758・759は板状のもの。759の図の右縁に貫通孔があり、そこで破損している。760はカマボコ状の粘土塊に方向の異なる複数の貫通孔がみられるもの。本来の形状は円筒状であったものとみられる。761はカマボコ状を呈する。図断面の下縁は平坦で安定している。762は下面は平坦、上面は凸状のもの。上面中央部の高まった部分に、棒状工具の圧痕と、指頭の圧痕が見られる。土器の底面の可能性もあるが、つくりが粗雑である。756・763～765は焼成粘土塊。756は板状で、草本の茎と思われる圧痕が多数みられる。763～765は棒状のもの。いずれも上下端は欠損している。766～785・787～796は、土器片加工土製品。西盛土遺構とその範囲のI層から10点、東盛土遺構とその範囲のI層から6点、II層から1点、遺構覆土から13点、表採1点、合計31点出土し、30点図示した。未掲載のものを含め、欠損しているのは5点のみである。整形は、打ち欠きによるもの、部分的に磨るもの、丁寧に磨るものがある。形状には三角形、円形、台形、不整五角形がある。766～781は三角形のもので、土器の湾曲を意識して破片を利用している。766～769はやや

(296ページへ続く)



図V-1-57 土器(57)

縦長のもの、770~776は正三角形のもの、777~781はやや横長のもの。766は口縁部破片を用いる。図の上辺が口唇で、左右の辺は刺突列に沿って整形される。767も口縁部の破片と思われる。左右の辺は縄線に沿って整形される。782~784は台形、785は不整な五角形。787~796は円形のもの。787~789・795は有孔で、いずれも表裏両面から穿孔される。774と784、768・775・782・783・785はそれぞれ同一個体の土器片を素材としており、ほかに未加工の同一個体土器片が同一・隣接調査区から出土している。786は円板状土製品。沈線施文後、焼成前に穿孔されている。(柳瀬)

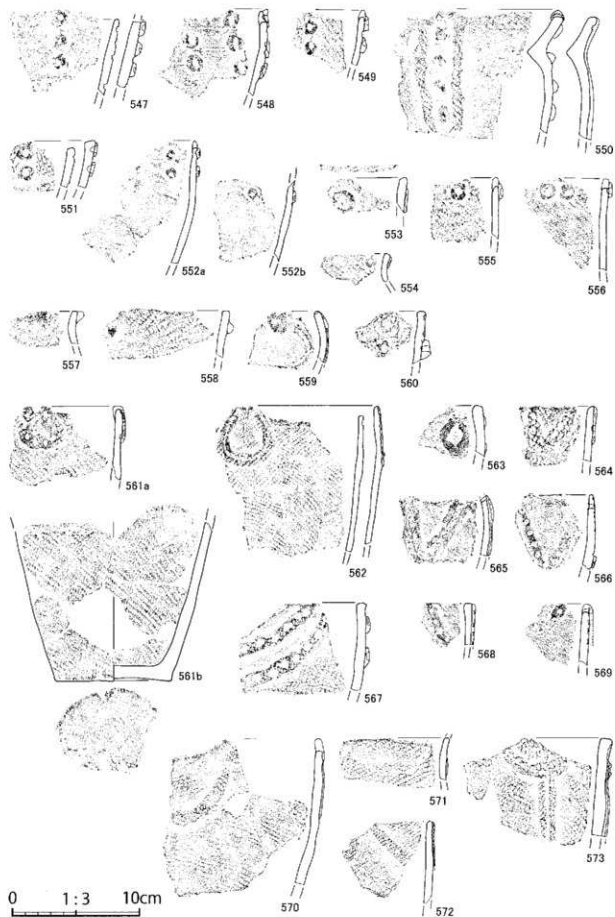
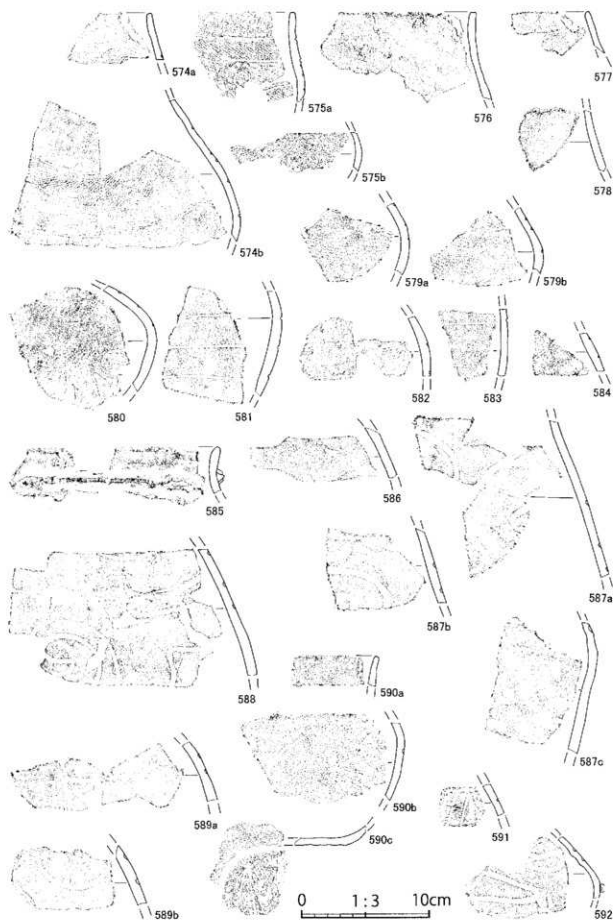


图 V-1-58 土器 (58)



図V-1-59 土器(59)

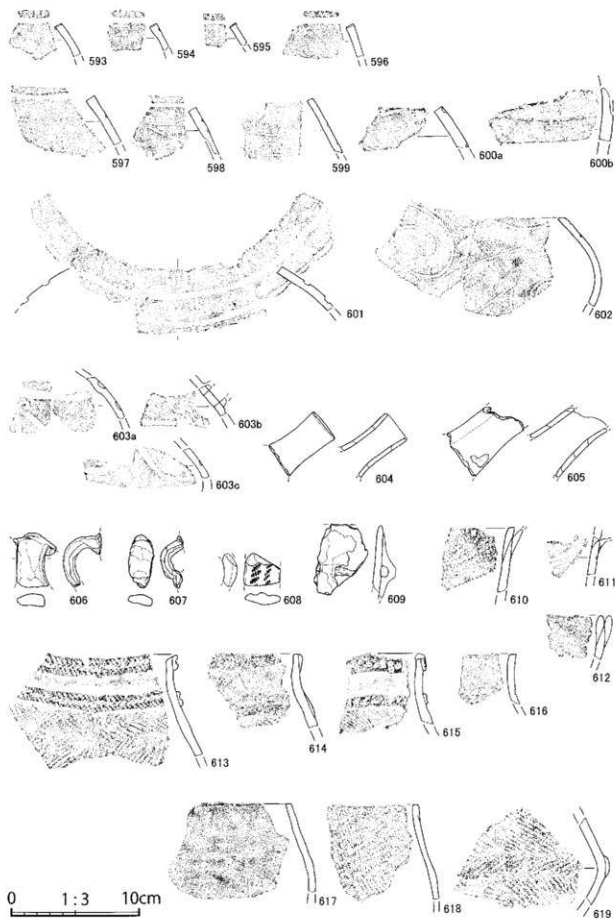
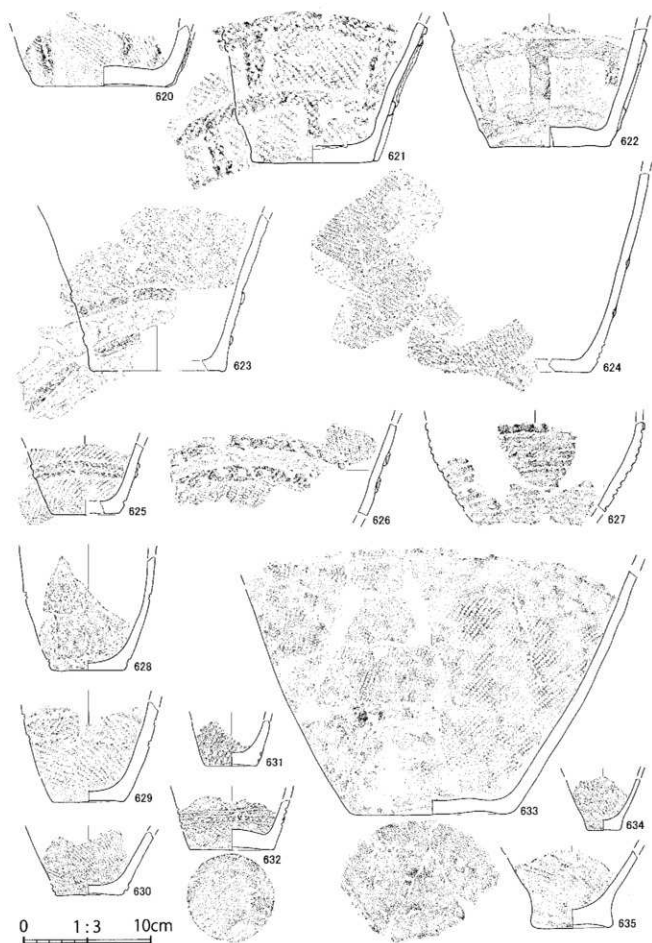


图 V-1-60 土器 (60)



図V-1-61 土器(61)

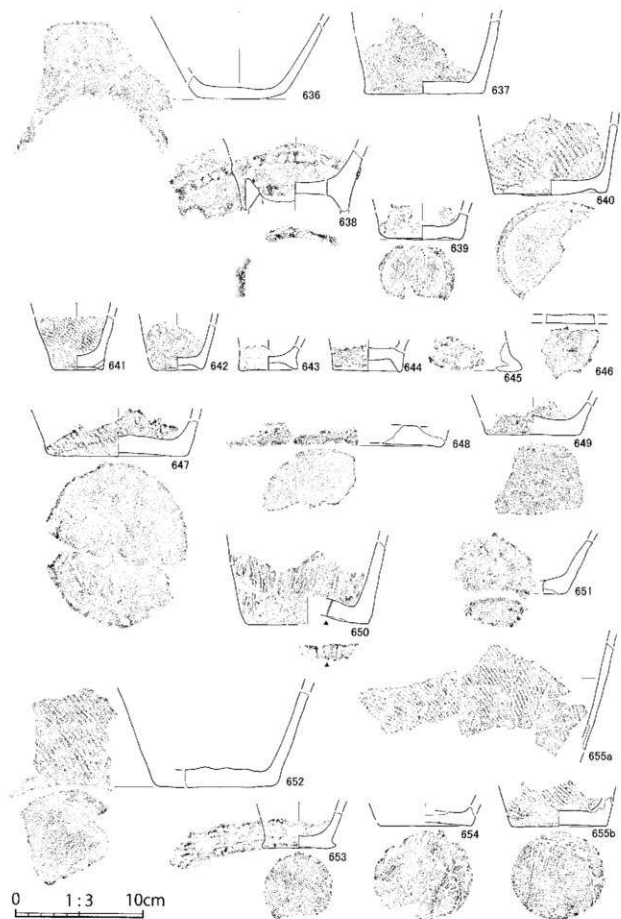
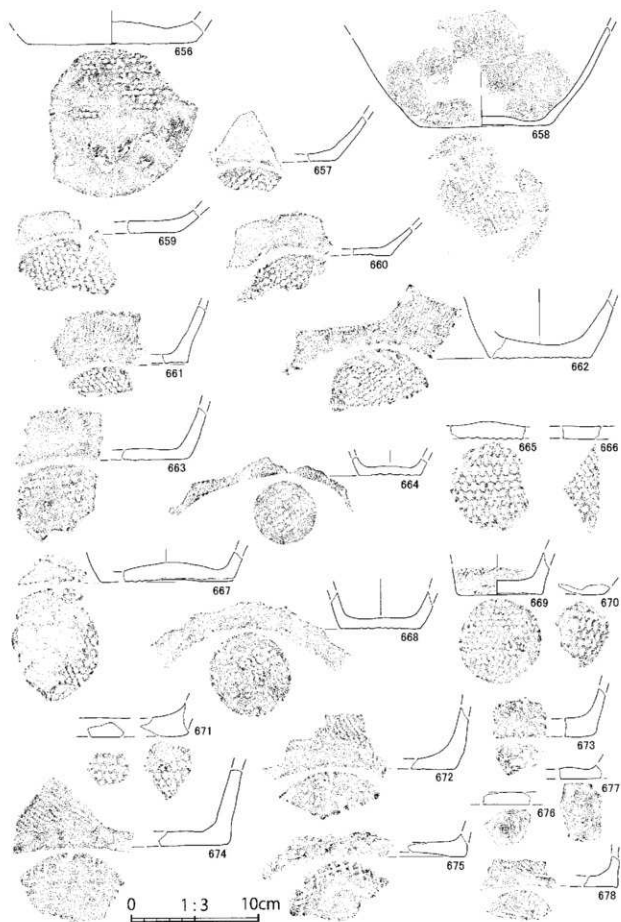


图 V-1-62 土器 (62)



図V-1-63 土器(63)

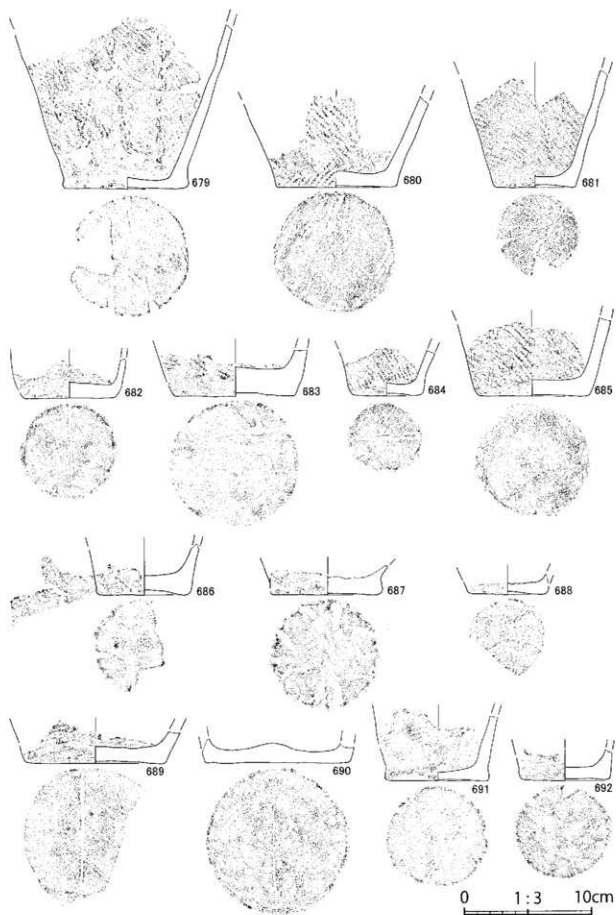
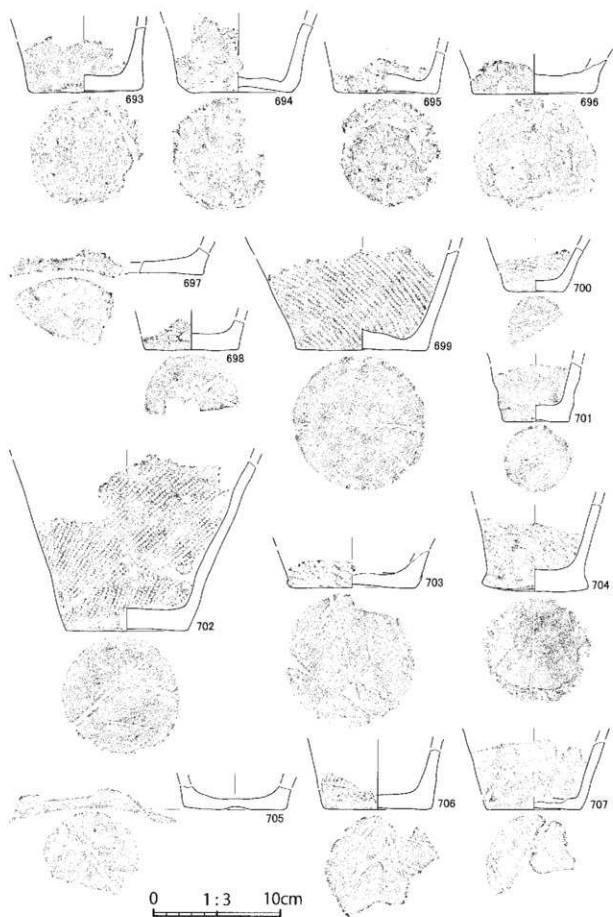
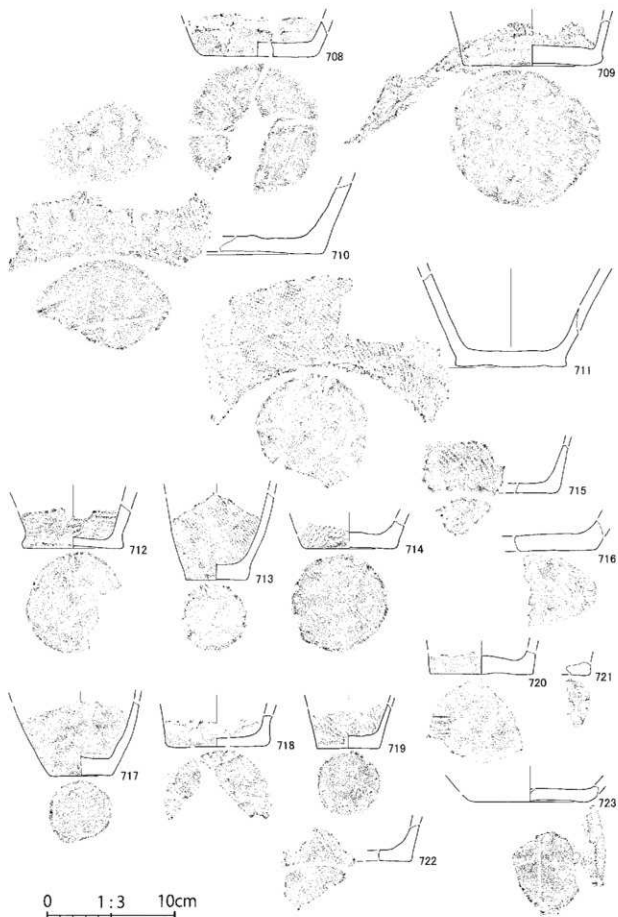


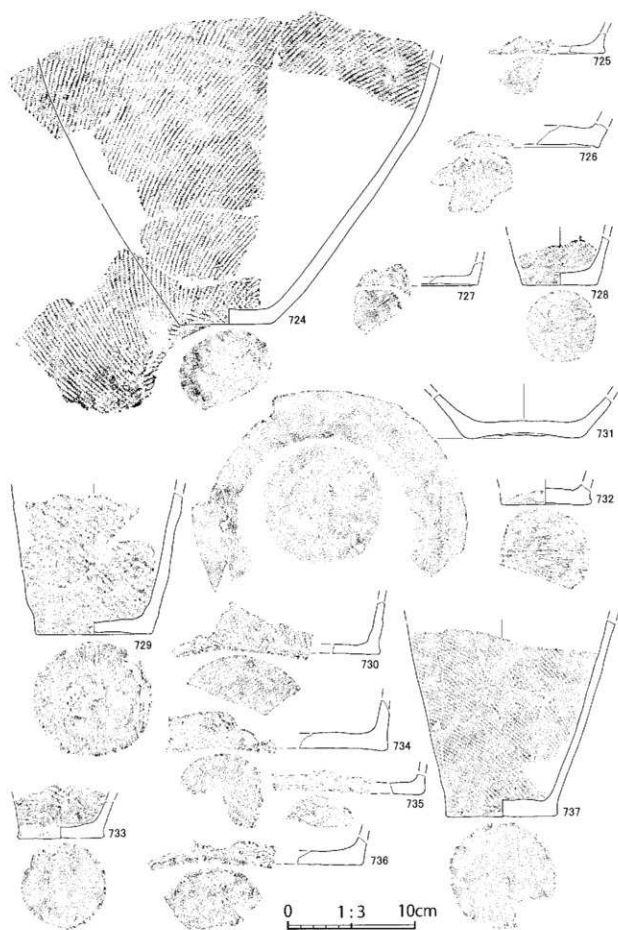
图 V-1-64 土器 (64)



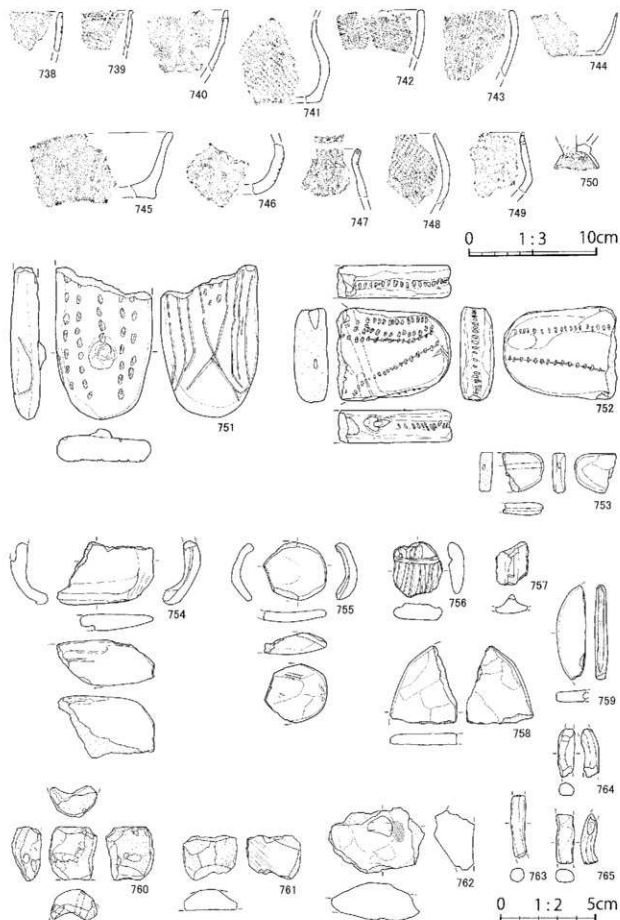
図V-1-65 土器 (65)



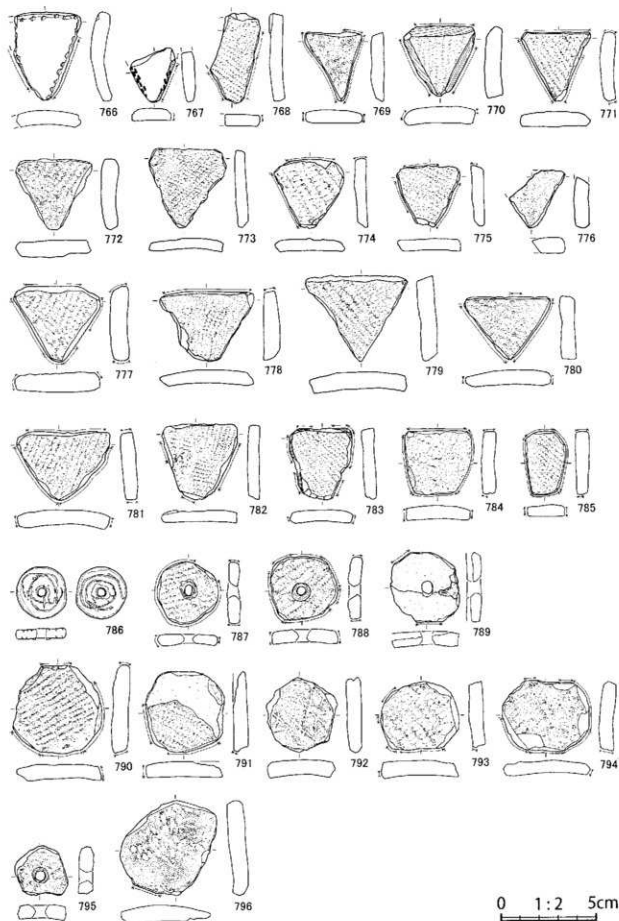
图V-1-66 土器 (66)



図V-1-67 土器 (67)



图V-1-68 土器 (68)



図V-1-69 土器(69)

2 石器

1 概要

今回の調査区では、縄文時代後期前葉（IV群a類）の土器だけが出土したといっても過言ではない。したがって、遺構、遺物は後期前葉の短期間の様相を示している可能性が高い。一方、出土状況は、m層（盛土層）、遺構覆土、I層（耕作土）から出土したものがほとんどで、住居跡床面から出土した石器は28点だけであった。その内訳は、石鏃1点、スクレイパー2点、Rフレイク6点、石核1点、フレイク12点、たたき石2点、台石・石皿2点、有意の礫2点である。そこで、石器については、縄文時代後期前葉の組成を明らかにすることを目的に、出土地点にかかわらず細分類し、提示することとした。図示遺物の選択にあたっては、全点分類・細別し、一部の器種については計測も行った上で、器種細別の特徴を代表するものの抽出に努めた。遺構ごと、発掘区ごとの様相は、図示した遺物のほかは、石器器種の点数を一覧表で示すこととした。

2 剥片石器・剥片

9,061点の剥片石器および31,274点の剥片が出土し、その内491点を図示した。図示した遺物は剥片・Rフレイクを除く3,108点の剥片石器全体の約16%である。

剥片石器の内訳は、Rフレイク5,953点が最も多く、石核1,172点、スクレイパー832点、石鏃471点、石錐251点、両面調整石器218点、楔形石器65点、石槍又はナイフ34点、寛状石器34点、つまみ付きナイフ31点である。

剥片石器の総重量は237.97kgある。内訳は、Rフレイク111.5kg、石核93.4kg、スクレイパー23.5kg、両面調整石器3.7kg、石錐2.5kg、石鏃1.0kg、楔形石器0.7kg、つまみ付きナイフ・寛状石器0.6kg、石槍0.5kgとなる。

剥片石器の石材は、頁岩が8,718点と圧倒的に多く、次いで珪化岩206点、流紋岩55点、黒曜石24点、チャート23点、メノウ17点、泥岩7点、珪質岩5点などがある。重量でも、頁岩が228.7kgと圧倒的で、チャート3.4kg、流紋岩2.6kg、珪化岩2.2kg、泥岩0.4kg、珪質岩・メノウ0.2kg、黒曜石0.1kgなどと続く。頁岩、泥岩、流紋岩、メノウ、粘板岩、珪質岩、チャートなどは、いずれも近隣の産地（戸切地川など）から採取されたものと考えられる。珪化岩も、七飯町のタタラ沢川で採取されたものとみられる。黒曜石は、肉眼観察では白滝産も含まれるが、赤井川産が多いようである。

分布の濃淡をみると、104～107ライン、133～144ライン、148～174ラインの大きく3カ所に分かれる。104～107ラインはG地区で遺構が集中する地点、133～144ラインはD地区、148～174ラインは前二者と比べ、多量の剥片石器が出土しており、A・B地区の遺構が集中する地点にあたる。その中でも、152～156、162・163、168～172ラインは各ライン1,000点以上出土している。162・163は住居跡覆土、152～156、168～172は盛土遺構に由来していると考えられる。

剥片石器の出土量は、包含層4,956点（55%）、104.5kg（44%）、遺構覆土2,249点（25%）、73.4kg（31%）、m層1,856点（20%）、60.0kg（25%）となる。ただし、包含層の中では、I層耕作土から採取したものが86%を占め、これらは大半が盛土遺構のm層に由来するものと考えられる。

石鏃（図V-2-1・2 表17 図版97 掲載番号1～78）

総数471点出土し、78点図示した。出土地点は、遺構覆土から95点（20.2%）、m層100点（21.2%）、包含層276点（58.6%）となっている。出土層位をみると、表採（26点）、I層耕作土（211点）からの出土が多く、51%を占める。また、遺構からの出土層位は、91点が覆土で、床面から1点、柱穴か

ら2点ある。分布は、A・B地区に偏り、中でも東盛土遺構（153～156ライン）、西盛土遺構（168～170ライン）に集中しており、次いで住居の集中した156～166ラインで多く出土している。

細別は、茎の形態（無茎、有茎、尖基、円基）、返し形態（平基、凹基、凸基、片袖）、側辺の形態（直線、外湾、内湾、下部外湾、上部内湾）で行った。すべてについて長さ、幅、厚さの計測を行い、長さをもとに大きさの区分をした。その区分は、超特大（5.0cm以上）、特大（4.2～4.9cm）、大（3.7～4.1cm）、中一大（3.4～3.6cm）、中（3.1～3.3cm）、中一小（2.7～3.0cm）、小（2.4～2.6cm）、特小（1.9～2.3cm）の8区分。石鏃と石槍の区分は、基本的には長さ5cmを境界としたが、長さ5cm以上ある43・44・64については、形態や幅、厚さから石鏃に含めた。形態では有茎鏃が343点と大半を占め、無茎鏃は20点、尖基13点、円基2点、ほかに未成品や破片などが92点ある。有茎鏃は、平基54点、凸基277点、片袖12点となり、無茎鏃は、平基三角形2点、平基五角形1点、凹基18点となる。ただし、有茎の凸基と平基との区分は不明瞭で、一体のものと考えたほうがよいのかもしれない。破片は、細分できない先端側や体部のみのもので、細分可能な基部片は、成品中で扱った。欠損は、先端、基部、両端、片側、両側として記録した。

石材は、頁岩が373点と最も多く、珪化岩（メノウ質頁岩）70点、黒曜石17点、メノウ7点、流紋岩3点、珪質岩1点。アスファルトが付着するものは144点あり、全体の31%に付着していることになる。有茎鏃の内では132点で38%。無茎凹基のうちでは11点で60%。

なお、先端部が回転により摩耗した例や、稜線が潰れた例が多くみられた。錐に転用されたことみなせ、明瞭なものは石鏃として報告しているが、判断の難しい資料は石鏃とした。また、有茎鏃側縁の返し部分が摩耗しているものが36点あり、有茎凸基26点、有茎片袖5点の両者で大半を占める。

①無茎凹基（1～8）：18点あり、8点図示した。メノウが2点（1：ピンク色と紫色の斑模様、2：ピンク色）含まれ、珪化岩（メノウ質頁岩）が5点（3：浅黄色～灰白色）含まれる。ほかは、頁岩製（にぶい褐色、灰白色各1点、黒色5点、ほかは灰色～黒色）。側縁は、ほとんどが直線的外湾するが、明瞭に内湾するものが3点あった（5～7）。特に7は、長さ、幅とも異質で、調整も入念であり、機能性よりも、三つ又の形態を追求したものと推定できる。アスファルトは、11点に付着する（1・3・4・6・8）。明瞭に付着した3・6をみると、根ばさみ状のものに装着されたようで、基部の最も凹んだ部分から先端にかけて、体部中軸に細長く三角形に付着している。

8以外の長さは、1.4～1.8cm、2.1～2.3cm、2.6～2.8cmに大きく分かれる。幅は、1.0～1.5cmに収まる。長幅比では計測可能な15点の内、1.4と1.5に各3点、2.0～2.2に3点ある。つまり、幅1に対して長さ1.5前後のものが多く、2前後のものもあることになる。

8は、異質で唯一幅2cmを超える。先端を欠くが、推定長は4cmに及びそうである。これは、戸井貝塚において銛先鏃と報告されたものと同一形態である。特徴の一つとして、基部の凹部から先端側へ平行剥離を入れている。

②無茎平基（9・10）：2点あり、ともに図示した。頁岩製（灰色）。10は基部両面を細かく調整している。一方、9は、大きな剥離で僅かに凹ませている。

③五角形（11）：1点あり図示した。頁岩製（灰色～黒色）。基部は不明瞭な二又となる。基部の調整法は、9に似る。

④有茎平基で側縁直線形（12～24）：32点あり、13点図示した。黒曜石2点（斑雪1点（19）、モヤ1点（12））、珪化岩（メノウ質頁岩）11点（灰白色7点（13）、浅黄色～灰白色1点（16）、灰色1点、黒色1点（15）、にぶい黄褐色1点（22））、ほかは頁岩製（白色1点、にぶい黄褐色1点、灰色～黒色16点、黒色1点）。

アスファルトが付着するものは18点（13・16～18・20）と半数以上。基部から返し周辺体部中央に

付着する。16・17・20をみると、基部を筒状の矢柄に挿入した様子が想定される。

24は、側縁を鋸歯状にしている。また、14は先端を角形に調整している。16・17・20は、側縁の返し部分が摩耗している。摩耗・光沢は一部体部にも及ぶ。

長さの区分では、小10点、中10点、中一大2点、大3点、特大5点、超特大1点。長さ24～36mm、幅11～18mmの間にほとんど収まるが、特大(21・23・24)、超特大(22)は特異なもの。長幅比では計測可能な19点の内、1.3～2.1に10点あり、2.4～2.7に6点ある。つまり、幅に対して長さが2以下の幅広いもの(12・13・17・18)と、2.5前後の細長いもの(15・16・20・22)に分かれる。

⑤有茎平基で側縁外湾(25・26):18点あり、2点図示した。珪化岩(メノウ質頁岩)2点(灰白色)のほかは、頁岩(白色1点、灰白色2点、灰色～黒色4点、灰黄褐色5点、黒色3点)。

25の返し側縁は、摩耗というほどではないが、稜が丸みを帯び、光沢をもつ。26は側縁を鋸歯状にしている。アスファルトが付着するもの3点(25)。

大きさは、長さ24～44mm、幅10～20mmの間にほとんど収まる。長さの区分では、小3点、小一中3点、中4点、中一大1点、大3点、特大2点。長幅比では計測可能な9点の内、2.4に3点あり(25・26)、ほかは1.8～2.6の間に5点散在する。

⑥有茎平基で側縁内湾(27・28):4点あり、2点図示した。すべて頁岩製(灰色～黒色3点、にぶい黄褐色1点)。27の基部にアスファルトが付着している。図示した2点は、側縁が内湾するというよりも、返しが突出し、翼状を呈している。長さの区分では、中1点、中一大1点、大1点、特大1点。

⑦有茎凸基で側縁直線(29～44):135点あり、17点図示した。黒曜石3点(斑雪(球顆を多く含むもの)1点(34)、黒色1点(39)、光沢強い点)、珪化岩(メノウ質頁岩)32点(白色1点、灰白色15点(29・30)、明黄褐色2点(41)、明褐色～灰色6点、赤色～灰色4点(35)、浅黄色～黒色1点)、メノウ1点(灰白色)、珪質岩1点(オリーブ灰色)、ほかは頁岩(白色3点、灰白色8点、暗褐色～黒色1点、にぶい黄褐色15点、灰色～黒色55点、黒色15点)。

アスファルトが付着するものは51点(31～33・35～38・40・43)で、4割弱。基部から返し周辺体部中央に付着する。また、黒曜石製1点(34)、頁岩製8点(32・33・43)に側縁の返し部分が摩耗しているものがある。34は側縁だけでなく、両面の中軸付近の稜に摩耗と光沢がみられる。

大きさは、長さ24～42mm、幅11～17mmの間にほとんど収まる。長さの区分では、特小7点、小24点、小一中23点、中35点、中一大11点、大30点、特大3点、超特大2点。長幅比では計測可能な74点の内、31点が2.3～2.6(30～33・35)に集中し、29点が1.7～2.2に散在する。29は長幅比1.5に近いもの。44は長幅比3.9。

⑧有茎凸基で側縁外湾(45～64):138点あり、20点図示した。黒曜石4点(斑雪1点、黒色2点、モヤ(細かな結晶質を含むもの)1点)、流紋岩3点(灰白色2点、灰色1点)、メノウ2点(灰白色1点、浅黄色～灰白色1点)、珪化岩(メノウ質頁岩)14点(灰白色5点、白色～灰白色1点(56)、浅黄色～灰白色5点(47)、灰色1点(62)、明黄褐色2点)。ほかは頁岩製(白色4点、灰白色19点、浅黄色2点、黄褐色～灰色7点、にぶい黄褐色7点、灰色～黒色48点、黒色22点、若草色1点)。

アスファルトが付着するものは55点(47・49・50・52～54・57～64)で、4割以上。基部から返し周辺体部中央に付着する。また、黒曜石製2点、頁岩製16点(49・53・54・59)に側縁の返し部分が摩耗しているものがある。53のように軟質な頁岩であるほど、明瞭に摩耗する。45は一边が外湾するが、もう一边は直線的なものであるが、側縁外湾に含めた。

大きさは、長さ25～42mm、幅11～18mmの間にほとんど収まる。長さの区分では、特小5点、小20点、小一中21点、中30点、中一大19点、大29点、特大9点、超特大3点。長幅比では計測可能な63点の内、2.1

と2.5(47)に各7点あり、22点が1.8~2.6に散在する。64は4.2、63は4.5で、有茎鐵の中では最も細長い。

⑨有茎凸基で側縁内湾:4点あり。未図示。1点黒曜石製、ほかは頁岩製(灰色)。1点にアスファルト付着。

⑩有茎で片袖(65~71):返しを片側のみもつもので、有茎鐵と尖菱形鐵の中間形態。12点あり、7点図示した。67のような細身のものから、71のような幅も厚みもある大型品まである。

黒曜石が5点(花十勝1点(66)、斑雪2点(68・70)、ほか2点)あり、残りは頁岩(灰白色1点、灰色~黒色5点、黒色1点)。細別中で、黒曜石が4割を超えるのは、この形態だけである。

黒曜石製3点(65・69・70)、頁岩製2点は、側縁の返し部分が摩耗している。69・70の摩耗は、最大幅となる部分の両側縁にみられ、さらに体部にまで及んでいる。一方、65は突出する一側縁にのみ摩耗がみられる。また、アスファルトの付着は未図示の2点でみられた。

大きさは、長さ21mm、幅9mmの65のほかは、長さ30~40mm、幅9~17mmの間に収まる。長さの区分では、小2点、小一中1点、中5点、中一大1点、大3点。

⑪尖基(72~77):13点あり、5点図示した。黄褐色メノウが1点(72)あるほかは、頁岩製(白2点、灰白3点、にぶい黄褐色3点、灰色~黒色4点、黒色1点)。

大きさは、長さ2.2~2.5cm、幅1.0~1.2cmのもの、長さ3.2~3.8cm、幅1.5~1.7cmのもの、長さ4.4~4.7cm、幅1.8~2.1cmのものに三分される。形態的には、最大幅部分が器体中央付近のものと、基部側によるもの(72・74)がある。73・76にアスファルトが付着している。

⑫円基(78):2点あり、1点図示。頁岩製(灰色~黒色)。ともに基部の加工がほとんどなされていない。未成品の可能性もある。78は、斜軸剥片を素材に、両面の縁辺を調整している。

⑬未成品:63点ある。小型の両面調整体を選択したので、石錐の未成品が含まれる可能性はある。メノウ1点(灰白色)、珪化岩(メノウ質頁岩)4点(1点黄褐色、ほか灰白色)で、ほかは頁岩(白色5点、灰白色10点、灰白色~にぶい黄褐色9点、灰色~黒色29点、黄褐色~黒色1点、黒色1点)

⑭破片:29点ある。12点が先端部含むもの。体部のみのもの7点、基部含むもの5点。2点が黒曜石、2点メノウ質頁岩(灰白色)で、ほかは頁岩(白色2点、灰白色4点、灰白色~にぶい黄褐色3点、灰~黒色7点、黒色2点)。

石槍(図V-2-3 表17 図版98 掲載番号79~96)

総数34点出土し、18点図示した。出土地点は、遺構覆土から8点(23.5%)、m層6点(17.6%)、包含層20点(58.8%)となっている。包含層出土の層位をみると、表探2点、I層耕作土13点、II層黒色土5点となっている。分布もE地区出土の1点以外は、A・B地区から出土している。細別は、茎の形態(無茎、有茎)と全体の形態をもとに行った。石材は、頁岩が29点と多く、珪化岩(メノウ質頁岩)2点、黒曜石、流紋岩、安山岩各1点。

①無茎で幅広のもの(79~82):10点あり、4点図示した。長幅比2.6以下を基準とする。珪化岩(メノウ質頁岩)が2点(白~灰白色、浅黄色~灰白色(79))あるほかは、頁岩製。長さは例外的に4.4cmのものも含む(79)が、ほかは36cm前後5点(81)、7cm前後2点(80・82)に分かれる。80は、断面D字形で、側縁はスクレイパー様を呈している。先端が磨耗しており、錐としても機能したとみられる。81・82は断面凸レンズ状で、側縁が波状になるように粗く成形している。

②無茎で細長いもの(83~89):10点あり、7点図示した。長幅比2.6以上を基準とする。安山岩が1点(89)あるほかは、頁岩製。長さは5cm前後(83~85)、6cm前後、7cm前後(86・87)、12cm前後(88)に分かれる。幅広の①よりは、調整は入念にみえるが、石鐵ほどではない。それでも、86・88といった大型品は入念な両面調整がなされている。88は、先端が僅かに磨耗している。

③有茎のもの(90~93):4点あり、すべて図示した。93が黒曜石製で、ほかは頁岩製。90は形態が左

右対称で整っており、刃部を鋸歯状にしている。体部中央から基部にかけて厚みがあるのが特徴。91は入念に両面加工するも、一部に礫表面を残す。形態は石鏃のようでもあるが、厚みがあるのでここに含めた。92の調整は丁寧であるが、形態がいびつで、先端には磨耗もみられる。錐に転用されたものかもしれない。93は、丁寧な両面調整がなされる。先端は舌状を呈する。器体の厚さと基部の大きさからして、先端側も当初は2倍以上の大きさがあったのかもしれない。

④破片(94~96):10点あり、3点図示した。94・95は先端部側の破片で、いずれも薄手。残存形態から、無茎で細長いものと推定される。側縁は、ごく緩い波状か直線的になるよう、入念に両面調整されている。96は中間部の破片。先に下方側が折れたとみえ、折れ面から調整を施している。当初は入念に両面調整しているが、最終的に側縁は波状になるよう粗く成形している。

石鏃(図V-2-4~6 表17 図版99・100 掲載番号97~153)

総数251点出土し、57点図示した。石鏃からの転用品もここに含めた。出土地点は、遺構覆土から95点(37.8%)、m層52点(20.7%)、包含層104点(41.4%)となっている。包含層出土層位をみると、表探6点、I層耕作土80点、II層黒色土17点となっている。石鏃に比べ遺構覆土からの出土率が高い。細別は、体部の調整方法、全体の形態で行った。石材は、頁岩が236点と最も多く、珪化岩(メノウ質頁岩)10点、黒曜石2点、メノウ、泥岩、流紋岩各1点。

①石鏃転用品(97~107):44点あり、11点図示した。107は、有茎の石槍に分類されるが、ほかは有茎石鏃を転用したもので、転用品の認定は、肉眼的に観察できる先端の摩耗や潰れから判断したので、石鏃とした中にもまだ含まれていると推定される。石材は、珪化岩(メノウ質頁岩)7点、黒曜石1点のほかは頁岩製。大きさは多様で、1.8~5.2cmまでであるが、主体は2.6~4.4cm。

97・98はともに珪化岩製の特小石鏃を転用したもので、先端が磨耗する。97は特に磨耗著しく先端が凸形に変形している。100は、有茎石鏃の茎部を錐機能部に転用したとみられるが、磨耗によって変形している。また、磨耗した面には器体長軸に並行する線状痕が複数みられる。99・102・105は、基部が若干折れるが、先端に磨耗がみられない限り石鏃と分類されるであろう。104・106については、先端の摩耗以外折れもなく、基部にはアスファルトが付着している。ほかに、101・103のように石鏃としては未完成のものを錐化したものも存在する。

②体部と機能部を調整したもの(108~125):45点あり、18点図示した。さらに全体形状から、紡錘形、棒状、粗製に細別した。

(ア)紡錘形(108~116):18点あり、9点図示した。2点が珪化岩(メノウ質頁岩)で、ほかは頁岩製。調整は片面調整(108・110・112・113・116)と両面調整(109・111・114・115)がある。長さは、3~4cm前後が多いが、5cm前後もある(115・116)。小型品は両端に機能部を持つもの(108~111)、一端に機能部を持つもの(112~114)がある。

(イ)棒状(117~119):7点あり、3点図示した。1点黒曜石製(117)で、ほかは頁岩製。長さは3.7~5cmと紡錘形より大型傾向となる。いずれも入念に両面調整されている。118は両端に機能部を持ち、磨耗著しい側にアスファルトが付着している。

(ウ)粗製(120~125):20点あり、6点図示した。すべて頁岩製。逆三角形になるように体部が整えられる。機能部は比較的入念な両面調整がなされる。縦長剥片の打点側に機能部を作るもの(120)、縦長剥片の末端に機能部を作るもの(121)、横長剥片を利用するもの(122)、斜軸剥片を利用するもの(123・125)など多様。125は機能部を突出するように調整している。なお、124の体部上半は素材の一部を折り取っただけだが、機能部側を入念に両面調整しているので、ここに含めた。

③機能部主体に調整したもの(126~152):157点あり、27点図示した。体部はほとんど調整せずに、

素材の形態の中で機能部に利用できそうな部分にだけ調整を加えたもの。機能部の作出方法から、4種に細別した。

(ア) 機能部が小さく突出するもの(126~132):23点あり、7点図示した。1点は流紋岩製で、ほかは頁岩製。長さにして2~8cmの開きがある。突出部分とそれに隣接した縁辺に調整を加える。132は、スクレイパーの一端を鈍化したもの。機能部を下に置いて、体部が幅広になるものが多く、127・129がこれにあたる。

(イ) 素材のやや鋭い角に調整を加えるもの(133~144・147):100点あり、13点図示した。1点はメノウ製で、ほかは頁岩製。大きさは様々で、1.7~9.1cmの開きがある。機能部には両面調整を加え、その隣接部分にも調整を加えるが、素材形態を変えるほどではない。また、ほとんど調整を加えないものもある。133・138のように、両端を使用したものもある。また、133・138のように、折断によって生じる断面三角形の角を利用する例も多い。

(ウ) 素材の厚みのある角に調整を加えるもの(145・146・148~151):25点あり、6点図示した。1点は泥岩製で、ほかは頁岩製。機能部にほとんど調整を加えず、僅かな微細刻痕か磨耗しか観察されない。スクレイパーやRフレイクの一端を機能部とする例が多い。145・146のように複数か所使用される場合もある。先鋭ではない角が使用されることから、穿孔初期の当たりつけのためと推定される。

(エ) 機能部だけ大きく作り出すもの(152):9点あり、1点図示した。1点は珪化岩製で、ほかは頁岩製。機能部周辺に調整を加え、大きく突出させている。

④その他(153):2点あり、1点図示した。いずれも頁岩製。153は、つまみ付きナイフの一端を鈍化したもの。もう1点は機能部の破片。

つまみ付きナイフ(図V-2-6・7 表17 図版100・101 掲載番号154~169)

総数31点出土し、16点図示した。出土地点は、遺構覆土から6点(19.4%)、m層4点(12.9%)、包含層21点(67.7%)となっている。包含層出土層位をみると、表採1点、I層耕作土15点、II層黒色土2点となっている。細別では、①縦型22点、②斜め型5点、③その他4点がある。石材はすべて頁岩。

①縦型(154~164):23点あり、11点図示した。調整の程度と形態により、細別した。すべて頁岩製。

(ア) つまみ部のほか縁辺に不連続な調整しかなされないもの(154~158):8点あり、5点図示した。縦長剥片の一端に不明瞭な調整でつまみ部を作り出している。素材剥片は不定形で、154のように寸詰まりのものもある。

(イ) つまみ部のほか縁辺に連続した調整を加えるもの(159~164):14点あり、6点図示した。縦長剥片を素材としており、159・160のように逆三角形を呈するもの、161のように下膨れの筒形を呈するもの、162のような寸詰まりのものなど多様な形態で、不定形。刃部の形態も不定で、163のように挿入するものもあれば、164のように鋸歯状を呈するものもある。なお、159の末端は鈍化している。

(ウ) 背面は全面調整、腹面は縁辺のみ調整するもの。1点あり、図示していない。I層出土の末端側破片。縄文時代早期後半の可能性を持っているので、記載だけしておく。

②斜め型(165~169):7点あり、5点図示した。すべて頁岩製。つまみ部に対し、体部長軸が斜めになるものを斜め型とした。169は、背面全面と腹面縁辺に調整を加えたもの。ほかは、縁辺に連続的な調整を加えている。

③その他:1点ある。図示していないが、つまみ部側の破片。

筈状石器(図V-2-7・8 表17 図版101・102 掲載番号170~186)

総数34点出土し、17点図示した。出土地点は、遺構覆土から9点(26.5%)、m層14点(41.2%)、包含層11点(32.4%)となっている。細別では①撥形26点、②凸形7点、破片1点がある。石材は泥岩が

1点あるほかは頁岩製。

①楕型 (170~183) : 26点あり、14点図示した。形態によりさらに細別した。

(ア) 短冊形 (170~174) : 6点あり、5点図示した。刃部が直線的で、基部と刃部の幅の差が2倍にならないもの。170は長さ2.3cmと小型で、背面は全面調整、腹面は縁辺調整がなされる。171は背面が縁辺調整で、腹面が全面調整。長さ4.1cmと中間的な大きさで、刃部は搔器に似る。172は体部両面を全面調整するが、刃部は素刃。173・174はほぼ片面調整で刃部を形成しており、7cm弱ある。体部両側に調整剥離がみられるとともに、基部側で器体調整のために大きな剥離がなされている。

(イ) 洋梨形 (175~177) : 9点あり、3点図示した。刃部が舌状を呈するもので、長さ4~6cmのものが多い。176・177が一般的な形態。176の刃部は、片面は膨らみを残し、もう片面は平坦になるように調整している。177の刃部は、搔器様刃部が場所を違えて両面に形成されている。175は紡錘形で、特異な形態をとるが、一端に片面調整で舌状の刃部を形成している。

(ウ) 三角形 (178~183) : 11点あり、6点図示した。刃部が角型~弧状を呈する。長さで4~5cmの小型 (178~180)、6cm前後の中型 (181)、7cm前後の大型 (182・183) に三分される。178はノミ状、179は搔器様、180は素刃の刃部を持つ。181の刃部は、片面は僅かに膨らみを残し、もう片面は平坦になるように調整している。182の加工は粗雑で、未成品かもしれない。183は、基部は両面調整するも、刃部は素刃となっている。

②凸型 (184~186) : 7点あり、3点図示した。刃部は角型~弧状を呈する。長さから4cm前後の小型 (184)、5~6cmの大型 (185・186) に二分される。184は両面を入念に調整することで、弧状の刃部と柄部を作出している。刃部は、片面はごく僅かに膨らみを残し、もう片面は平坦になるようにしている。185はノミ状、186は搔器様の刃部にしている。

スクレイパー (図V-2-8~20 表17 図版102~110 掲載番号187~315)

総数831点出土し、129点図示した。出土地点は、遺構覆土から327点 (39.4%)、m層215点 (25.9%)、包含層290点 (34.9%) となっている。細別では、削器で刃部が外湾するもの253点、削器で刃部が直線的なもの230点、削器で刃部が内湾するもの68点、鋸歯縁石器73点、急斜度の刃部を持つもの20点、抉入石器128点、多様な刃部形態が複合するもの54点、その他4点に分けられる。内湾した刃部と抉入石器の刃部の判別基準は、直径2cm前後の棒状品 (親指の太さ) の湾曲を基準としている。

石材はチャート、黒曜石、砂岩、泥岩、粘板岩各1点、流紋岩11点、珪化岩 (メノウ質頁岩) 14点のほかは、頁岩製。刃部に使用光沢が観察されるものが33点あり、刃部の形態での内訳は、直線的なもの14点、外湾するもの9点、内湾するもの4点、鋸歯状刃部1点、複数刃部形態5点。

①削器で刃部が外湾するもの (187~215)

(ア) 背面左辺を調整するもの (187~195) : 打面が大きいものが多い。189・191には使用光沢がある。189のような整った調整を行うものは少なく、微細剥離が連続した程度のもので、連続的ではあるものの剥離の大きさがまちまちのものが多い。

(イ) 背面右辺を調整するもの (196~198) : 197の末端辺は、ウートラバッセになる。また、196・198は、背面に凹部がある。198は腹面末端辺に鋸歯状刃部もある。196の腹面には使用光沢がみられる。

(ウ) 腹面右辺を調整するもの (199~203) : 打面が大きいものが多い。腹面左辺の縁辺についても、調整したり、一部に剥離を加えて刃潰しを行ったりしている。

(エ) 腹面左辺を調整するもの (204~207) : 204~206は打面が大きい。207は末端側を折断後、刃部調整している。刃部は鋸歯状刃部に類似する。205の背面には使用光沢がみられる。

(オ) 腹面末端辺を調整するもの (208) : 刃部両面には使用光沢がみられる。

(カ) 一部両面を調整するもの(209・210):209は右辺～末端辺、210は左辺を刃部とする。背面調整を基本とするが、腹面にも不規則な調整がなされている。

(キ) その他(211～215):211はボジボジ剥片を素材に、背面右辺に刃部を形成しているもの。左辺は両面を調整することで刃潰しとしている。刃部両面に使用光沢がある。刃縁の一部は磨耗している。212は腹面右辺の凸状を呈する部分に調整を加えたもの。末端辺は折断調整している。213は縦長剥片を素材に、長軸に対し斜位となった末端辺を刃部とするもの。214・215は素材が肉厚で、刃部角も50°を超えている。214は石核を素材としている。

② 削器で刃部が直線的なもの(216～254)

(ア) 背面左辺を調整するもの(216～221):縦長で、打面が大きいものが多い。217・218には使用光沢がある。221は、やや寸詰まりだが、素材の直線的な辺を利用して、複数辺を刃部としている。

(イ) 背面右辺を調整するもの(223～231):223～228は、打面が大きい。224・226は使用光沢がみられる。229～231は折断面をもつ。226～229は、腹面左辺に刃潰し調整がある。

(ウ) 背面左右辺を調整するもの(222):短冊形の縦長剥片に調整を加えている。左右両辺とも使用光沢がみられるが、腹面左辺が顕著。打面側と末端辺は刃潰しがなされている。

(エ) 腹面右辺を調整するもの(232～234):打面が大きいものが多い。233は腹面左辺に剥離を入れ、刃潰しとしている。

(オ) 腹面左辺を調整するもの(235～238):236・238は大型剥片を素材にしている。刃部と相対する側に厚みがある。235は末端を折断している。237は楕形縦長剥片に調整を加えている。左辺に使用光沢がみられる。右辺にも不規則な剥離がなされ打面側と末端辺も刃潰しがなされている。

(カ) 腹面末端辺を調整するもの(239・240):一辺に折断面を持つ。239には使用光沢がみられる。

(キ) 横長剥片の末端辺を調整するもの(241～248):半円形～三角形の横長剥片を選択している。パルプの膨らみが目立つ。241～243は背面を、244・245は腹面を、246～248は両面を調整している。246は、ほぼ未調整の素刀部分に使用光沢がみられる。

(ク) 斜軸剥片を調整するもの(249～252):三角形を呈する斜軸剥片を選択している。V字形になる二辺の背面に調整を入れる場合(249・251・252)と、一辺の背面に調整を入れる場合(250)がある。249・252には使用光沢がみられる。

(ケ) その他(253・254):253は、70°以上の急斜度の刃部を持つ。刃縁は階段状に潰れている。267にも類似した刃部がある。254は、縦長剥片の背面右辺を調整して刃部としている。左辺は両面調整で刃潰しされている。明瞭に背縁処理されるものが少ないので、その他とした。

③ 削器で刃部が内湾するもの(255～266)

(ア) 背面左辺を調整するもの(255～257):255は70°以上の急角度の刃部を12mmある肉厚な部分に形成している。256は幅1cm内外の弧状の小刃部が二つ隣接して、m字形を呈している。また、腹面左辺の打面側にも弧状の小刃部が二つ隣接して形成されている。257は打面が大きく、左側が肉厚の剥片を選択しており、使用光沢がある。

(イ) 背面右辺を調整するもの(258～260):いずれも打面が大きい。258は腹面にも剥離が散発している。259は、背面左辺や腹面打面に散発的に剥離をしているものの、主な刃部は右辺とみられる。折断面を利用し、隣接して二つの弧状の刃部を形成する。260は連続した剥離で、ごく緩い弧状の刃部を形成する。使用光沢がみられる。

(ウ) 背面末端辺を調整するもの(261):末端辺と左辺の弧状部分に連続した剥離がみられる。

(エ) 腹面右辺を調整するもの(262～264):262は末端側に刃部をもち、腹面中位両辺に剥離がみら

れる。263は5mm前後の厚さのある刃に、70～90°の急斜度刃部を形成する。264は、打面が大きく、左側が内厚のもの。

(オ) 腹面左辺を調整するもの(265・266):265は右辺に折断面をもつ。左辺背面上部も剥離される。

④ 刃部が急斜度のもの(267～273)

(ア) 剥片端部に刃部を形成するもの(267・268・271・273):搔器に類似するもの。267・268は小型品。267は70°の刃部角をもつ。末端刃以外にも、急斜度刃部を形成する。特に、右辺打面側には、刃部角90°前後の刃部を形成している。268は短辺両端に急斜度の刃部を形成している。271は、打面に剥離を加えて刃部としている。刃部角は90°を超えている。273は、縦長剥片の末端を刃部とするもの。刃部角は50°前後。

(イ) 剥片の一边に刃部を形成するもの(269・270・272):269は斜軸剥片の末端刃に急斜度剥離を加えている。刃部角は70°以上。270は、厚みのある末端刃に急斜度刃部を形成している。左側は背面、右側は腹面が調整されている。272は腹面左辺に急斜度刃部を形成する。刃部角は70°以上。

⑤ 鋸歯状石器(274～288)

(ア) 小型紡錘形(274):背面を半円状に刃部にし、打面側の両面を調整している。右辺に2つの突起、左辺に3つの突起を作り出している。

(イ) 中型紡錘形(275～277):楕円形を呈する素材に調整を加えている。276は厚みのある素材で、打面側以外に刃部を形成している。右辺に4つの突起、末端刃に3つの突起、左辺に3つの突起を作り出している。275・277は中厚で、275の左辺、277の右辺に3～4の突起を作り出している。277は刃部以外を両面調整している。

(ウ) 不定形(278～288):278は背面全面に調整を加えている。刃部は、左辺に限られ、3つの突起を作り出している。末端刃、打面側にはそれぞれ凹部を作り、右辺は背面調整→折断→一部調整を行っている。279は大型剥片の右辺に5つの突起を作り出している。左辺は主に腹面を調整している。280～285は背面を調整したもので、286・287は腹面を調整したもの。282は別に搔器状の刃部をもつ。284には使用光沢が残る。288は砂岩製横長剥片に背面調整を加えたもの。

⑥ 挟入石器(289～300)

(ア) 刃部が厚手のもの(289～294):刃部の厚さが7mm以上で、刃部角65°以上になるもの多い。289・290・292は小型で厚みのある剥片に刃部を形成するもの。290は凹んだ急斜度刃部と直線的な急斜度刃部が背面と腹面にそれぞれある。291は打面と腹面左辺に凹んだ急斜度刃部を形成している。293・294は厚みのある剥片の一端が凹むように剥離している。

(イ) 刃部が薄手のもの(295～300):刃部の厚さは6mm以下。295～297は、やや小型。折断で調整されている。298～300は、中型の剥片に刃部を形成している。297には使用光沢がある。

⑦ その他(301～315)

(ア) 直線的な刃部の一端が湾曲するもの(301～306):縦長剥片の長辺に直線的な刃部を形成し、短辺へ弧状に刃部を伸ばしている。301・306のように末端刃へ延長する例、302・303・305のように打面側へ延長する例、304のように打面側と末端刃へ延長する例がある。301以外には使用光沢がみられる。

(イ) 刃部形態が複合するもの(307～313):307は背面末端刃に搔器状刃部、腹面左辺に挟入刃部、腹面右辺に直線的刃部を形成する。どの刃部も急斜度で刃角65°以上ある。308は、背面右辺と末端刃に外湾する刃部、腹面末端刃に内湾する刃部を形成する。309は背面左辺に、打面側が内湾し、末端側が外湾する刃部をもつ。310は背面右辺に外湾する刃部、打面側に挟入する刃部がある。311は背

面打面側に直線的な刃部、末端辺に内湾する刃部を形成する。312は腹面右辺に僅かに内湾する刃部、末端辺に挟入刃部がある。313は直線的な刃部が左辺にあるが、打面側は腹面、末端側は背面に形成される。また、末端辺には挟入刃部をもつ。

(ウ) 柄部をもつもの(314・315)：314は打面側背面左右辺を大きく抉るように調整する。末端側は腹面右辺を不明瞭な鋸歯状の刃部をしている。315は打面側背面左右両辺に外湾した刃部を形成する。いずれもやや鋸歯状を呈する。末端側は両面調整している。ともに未成品の可能性もある。

両面調整石器(図V-2-21・22 表17 図版110・111 掲載番号316~342)

総数218点出土し、27点図示した。出土地点は、遺構覆土から54点(24.8%)、m層34点(15.6%)、包含層130点(59.6%)となっている。いずれも粗く両面調整をしたもので、先鋭にしたり、刃部を形成したりという意図は感じられない。石楯や石槍、筥状石器の未成品の可能性も高い。形態により、①紡錘形に近いもの(8cm以上の大型品、5cm以上8cm未満の中型品、5cm未満の小型品)、②不定形なものに分けた。石材は、黒曜石・流紋岩各1点、珪質岩(メノウ質頁岩)8点以外は、頁岩製。

①紡錘形に近いもの(316~335)

(ア) 小型品(316~323)：317・318・320~322は比較的人念に調整されており、317・321は直線的な刃縁形態、318・320・322は波状の刃縁形態。321はナイフと呼べる。316・319・323は整っていない。

(イ) 中型品(324~331)：324~327・330は比較的人念に調整されており、324・327は鋸歯状の刃部をもち、325・326・330は波状の刃縁形態となる。328・329・331は整っていない。

(ウ) 大型品(332~335)：333は折れているが、一辺に直線的な刃部を形成している。ほかは、粗く両面を調整した石器の未成品とみられる。

②不定形なもの(336~342)：大きなものから小さなものまでであるが、いずれも未成品とみられる。

楔形石器(図V-2-22・23 表17 図版111 掲載番号343~350)

総数65点出土し、8点図示した。出土地点は、遺構覆土から30点(46.2%)、m層14点(21.5%)、包含層21点(32.3%)となっている。細別では剥片素材に対向する二側縁に階段状剥離がみられるものが44点、剥片素材に対向する四側縁に階段状剥離のみられるものが21点。石材は、泥岩・チャート各1点、珪質岩(メノウ質頁岩)8点以外は、頁岩。楔形石器に分類したものの、階段状剥離がみられるだけで、整形に両極打法を採用しているRフレイクを多く含んでいるものと考えられる。

343~347は対向する二側縁に階段状剥離がみられるもの。折断面での打撃を、343・344・347は一辺で、346は二辺でしている。348~350は対向する四側縁に階段状剥離がみられるもの。348の一辺は折断面、349の一辺は平坦な自然面、350の一辺は斜位の自然面から打撃している。

Rフレイク(図V-2-23 表17 図版112 掲載番号351~360)

総数5,953点出土し、10点図示した。出土地点は、遺構覆土から1,338点(22.5%)、m層1,160点(19.5%)、包含層3,455点(58.0%)となっている。Rフレイクには、微細剥離がみられるもの(Uフレイク)、散漫な二次加工がみられるもの(狭義のRフレイク)があり、それぞれスクレイパー的なものの、未成品、偶発的に剥離が起きたものに分けられる。今回は、このような細別は行わなかった。

石材は、頁岩5,823点(97.83%)、108,876.73g(97.62%)、珪質岩(メノウ質頁岩)70点(1.17%)、903.37g(0.81%)、流紋岩31点(0.52%)、969.6g(0.87%)、チャート11点(0.18%)、380.5g(0.34%)、メノウ8点、61.7g、珪質岩4点、218.3g、黒曜石2点、1.7g、泥岩2点、96.6g、安山岩1点、20.2g。

今回は、I層耕作土から多量の石器が得られたが、鉄錆を伴う条線がつくものなど、耕作によって二次的に剥離を起こしているものが多く含まれた。スクレイパーや石核、剥片とも考えられたが、判別不能なものはRフレイクに含めた。したがって、I層出土2,740点や表採279点などの扱いには注意

が必要である。

351～355は、微細剥離があるもの。351は右辺打面側で背面、右辺末端側・左辺で腹面に微細剥離が連続してみられる。352・353・355は右辺背面、354は右辺背面のほか、左辺腹面末端側にも微細剥離がある。そのうち、352には使用光沢がみられる。354には腹面末端側にアスファルトが付着する。

356～360は、散漫な二次加工がみられるもの。356・357は右辺両面に散漫な剥離がある。357は折断されているが、左側両面に使用光沢が残る。358は剥片の中央に自然の穴があるものであるが、腹面打面側、末端側に散漫な剥離がみられる。この剥離は刃潰しとみられる。また、腹面左辺側には穴から左辺にかけてにぶい光沢がみられる。素材が半透明な褐灰～灰白色の珪化岩（メノウ質頁岩）であることから、垂飾であったと推定される。359は一端に数枚の連続した剥離がみられるもの。360は風化した石刃様剥片に二次加工を加えたもので、パティナに差がある。末端側は両面調整を行うが、体部～打面側にかけては腹面両辺に散漫な剥離を施すだけとなっている。未成品であろう。

剥片

総数31,274点出土した。今回図示したものはない。出土地点は、遺構覆土から9,817点（31.4%）、m層6,987点（21.4%）、包含層14,770点（47.2%）となっている。石材は、頁岩29,613点（94.69%）、239,202.7g（93.85%）、珪化岩（メノウ質頁岩）615点（1.97%）、3,205.7g（1.26%）、泥岩399点（1.28%）、3,477.85g（1.36%）、流紋岩236点（0.75%）、4,044.9g（1.59%）、チャート138点（0.44%）、2,158.2g（0.85%）、珪質岩87点、1,496.1g、粘板岩56点、290.2g、黒曜石34点（0.11%）、14.38g（0.01%）、砂岩27点、346.08g、石英22点、160.7g、メノウ18点、209.3g、凝灰岩10点、148.3g、安山岩10点、94.8gなど。このうち、黒曜石以外は近隣から採取されたものと考えられる。

1点あたりの重量を、重量/点数で割り出すと、全石材平均で8.2gとなる。頁岩は8.1gとほぼ同じで、珪化岩5.2g、泥岩8.7g、流紋岩17.1g、チャート15.6g、珪質岩17.2g、粘板岩5.2g、黒曜石約0.4gとなる。この数字は、石材供給と、剥離頻度の両者の影響が複合された結果とみられる。

石核（図V-2-24～43 表17 図版112～118 掲載番号361～491）

総数1,172点出土し、131点図示した。出土地点は、遺構覆土から287点（24.5%）、m層257点（21.9%）、包含層628点（53.5%）となっている。細別では、①最終形態がサイコロ状を呈するもの550点、②最終形態が盤状をなすもの464点、③両極剥離によるもの16点、④単一面を打面に固定しているもの39点、⑤その他103点に分けられる。石材は頁岩1,128点、珪化岩（メノウ質頁岩）23点、チャート10点、流紋岩7点、メノウ・黒曜石・石英・泥岩各1点。

①サイコロ状のもの（361～394）：550点中、34点図示した。便宜的に長さで三分すると、長さ5cm未満の小型253点、長さ5cm以上9cm未満の中型278点、9cm以上の大型19点。

（ア）最終形態に至るまで頻りに打面・作業面を入れ替え、典型的なサイコロ状になったもの（361～372）：361～366は、小型のもの。最小のものは長さ約2cm。361では、最終作業面で長さ2cm、幅2.5cmの剥片を剥離している。ほかにも長さ2～3cmほどの剥片を剥離している。361～364・366には自然礫面が残る。367～370・372は、中型のもの。367の最終作業面では長さ・幅約5cm、370では長さ3.5cm、幅4.5cmの剥片が得られている。ただ、最終剥離直前には、長さ2～2.5cmの剥片がより多く剥離されたようにみえる。370以外自然礫面が残る。371は大型のもので、長さ約12cmある。最終工程では、最大で長さ4cm、幅6cmの剥片が得られている。二面に自然礫面が残る、長手中心に剥離を行った結果、棒状を呈している。

（イ）打面・作業面を入れ替えるものの、一面で集中的に剥離したため、やや扁平形態となったもの（373～375）：図示したものは、いずれも中型で、自然礫面を残す。一面に複数の剥離面を残すが、

ほかの面には1~2枚の剥離面しか残っていない。複数剥離痕を残す面では、373では4回、374・375では6回剥離されている。最終工程では、最大で長さ4cm、幅3~6cmの剥片が得られている。

(ウ) 最終形態で打面を固定し、その周縁で剥離を行うもの(376~384): 図示したものは、いずれも中型。380以外は自然礫面を残す。剥離面打面を設定し、剥離を行う。376・380のように打面周縁を一周するように剥離が進行している例もある。384のように中型~大型への境界サイズでは長さ、幅約5cmの剥片が得られている。しかし、ほかの石核をみると、最終段階では長さ2~3cmの剥片を剥離している。なお、377~380では長さ4cmの剥片も得られている。

(エ) 三面以上が自然面で、残りの面を打面・作業面として入れ替えるもの(385~394): 385~389・391は中型。385で長さ、幅約5cm、391で長さ8cm、幅5cmの剥片が得られている。しかし、最終段階では、ほとんどは2~4cmの剥片を剥離している。390・392~394は大型。390で長さ5cm、幅7cm、393は長さ6cm、幅4~5cm、394は長さ5cm、幅9cmの剥片が得られている。また長さ3~4cmの剥片も剥離している。

②盤状のもの(395~448): 464点あり、55点図示した。便宜的に長さで三分すると、長さ5cm未満の小型159点、長さ5cm以上9cm未満の中型281点、9cm以上の大型24点。

(ア) 作業面が主剥離面に固定される(395~408): 397・400は小型、396・404は大型で、ほかは中型。多くは、背面が自然礫面の剥片を利用し、主剥離面を作業面にしている。二方向から剥離される例が多いが、401・404・405のように一方向、408のように三方向から剥離される例もある。また、396~398のように背面に剥離面をもつ剥片の主剥離面で、剥片剥離を行っているものもある。396では、長さ約5cm、幅約7cm、404では長さ約4cm、幅約8cmの剥片が得られているが、ほとんどは2~4cmの剥片を剥離している。

(イ) 二面の作業面・打面を入れ替えるもの(409~448): 409~427は、剥片を素材としているもの。411・414は小型、426・427は大型で、ほかは中型。409以外では自然礫面を残す部分のみられる。両面とも作業面とするため、複数方向から剥片剥離する。420・425では長さ4~5cmの剥片が得られているが、小型や中型では、長さ2~3cmの剥片を主に剥離している。424では剥片剥離に両極剥離も利用している。426では長さ4cm以上の剥片が複数得られている。428~436は、ほとんどが剥片素材とみなせるが、主剥離面が残っていないため、剥片素材か礫素材か判断できなかった。432は小型、435は大型で、ほかは中型。430以外では自然礫面を残す部分がある。複数方向から剥片剥離する。得られている剥片の大きさも剥片素材のものと同じ。437~440・443は、一面に大きく自然面を残し、その面の剥離は打面形成程度。反対面では複数方向から剥片剥離を行っている。437は剥片素材、それ以外は剥片素材か礫素材か判断できない。

(ウ) 扁平な礫から剥片剥離したもの(441・442・444~448): 444・446・447は大型で、ほかは中型。444は両面を数回剥離して放棄されている。441・442・447・448は、一面で打面形成し、もう一方の面を主な作業面としている。445・446は両面を作業面としている。

③両極剥離によるもの(449~451): 16点あり、3点図示した。便宜的に長さで三分すると、長さ5cm未満の小型15点、長さ5cm以上9cm未満の中型2点。あまり多くないが、449のような中型、450・451のような小型がある。

④打面を一面に固定し、剥離作業を行うもの(452~459): 39点あり、8点図示した。便宜的に長さで三分すると、長さ5cm未満の小型10点、長さ5cm以上9cm未満の中型20点、長さ9cm以上の大型9点。454・456・458は小型、452・453・457は中型、455・459は大型。小型のものは断面三角の楔形を呈するものが多い。457は中型であるが、剥片剥離最終段階で打面を固定し剥離したために楔形を呈する。

中型の452は、大きな剥離面、453は主剥離面を打面に固定し、周囲から剥片剥離を行っている。大型の455は大きな剥片を数枚剥離した後、一稜面を打面に固定して剥片剥離を行っている。459は剥離面打面を設定し、そこから剥片剥離を行っている。

⑤その他：103点あり、31点図示した。便宜的に長さで三分すると、長さ5cm未満の小型36点、長さ5cm以上9cm未満の中型51点、長さ9cm以上の大型15点。

(ア) 剥片剥離が良く進行したもの(460~465)：460~463は小型、464・465は中型。かなり頻繁な打面・作業面入れ替えをし、折衝調整もしているため、剥離工程がつかみにくい。全般に扁平な形態をし、1~2枚の最終剥離だけが打面のネガ面を残している。

(イ) 礫から数枚剥片剥離したもの(466~491)：466・471は小型、467~470・472・473・475~477・481~483・485・489は中型、474・478~480・484・486・487・488・490・491は大型。468~471・477~480・482・485は数回の試し割り程度で放棄している。466・467・472~476・481・483・484・486~489・491は節理割れを持つ原石のため、放棄している。490は流紋岩の円礫を大きく剥離して打面形成し、剥片剥離するも、作業面の石質の状態が悪く放棄されたもの。

3 礫石器

1,184点の礫石器が出土し、その内174点を図示した。図示した遺物は礫石器全体の約15%である。

礫石器の内訳は、たたき石689点が最も多く、台石・石皿233点、石斧159点、すり石69点、加工痕のある礫20点、扁平打製石器11点、石鋸2点、石錘1点である。

重量をみると、台石・石皿718.9kg、たたき石431.9kg、すり石32.6kg、石斧10.9kg、扁平打製石器7.8kg、石錘1.2kg、石鋸0.08kgとなる。

石材は、砂岩が763点と圧倒的に多く、次いで安山岩163点、緑色片岩75点、青色片岩72点、泥岩31点、玄武岩14点、チャート13点、粘板岩13点などがある。重量でも、砂岩が886.9kgと圧倒的で、安山岩270.9kg、玄武岩17.6kg、泥岩5.5kg、緑色片岩・礫岩5.1kg、青色片岩4.6kg、凝灰岩4.6kg、チャート2.7kg、石英2.5kg、閃緑岩2.0kg、粘板岩1.9kgなどと続く。

石器の分布の濃淡をみると、152~156、162~164、168~171ラインで、各30点以上磨製石器、礫石器が出土している。分布の傾向は、剥片石器と同様になっている。

石器の出土地点は、包含層343点(29%)、遺構覆土588点(50%)、m層253点(21%)。包含層では、表採、I層耕作土から採取したものが60%を占め、盛土遺構のm層に由来するものと考えられる。したがって、礫石器は、剥片石器と異なり遺構覆土とm層に半々で含まれていたことになる。

磨製石斧(図V-2-44~51 表17 図版119~122 掲載番号492~553)

総数159点出土し、62点図示した。出土地点は、遺構覆土から55点(34.6%)、m層32点(20.1%)、包含層72点(45.3%)となっている。包含層出土層位をみると、表採24点、I層耕作土41点、II層黒色土4点となっている。分布もD地区出土の2点以外は、A・B地区から出土している。中でも東盛土遺構(153~155ライン)、西盛土遺構(168~169ライン)に集中しており、次いで住居の集中した160ラインで多く出土している。畑の所有者の話では、耕作していると「まさかり」がよく出た」とのことであった。表採したもので24点あり、当遺跡の石斧保有の多さを暗示している。

細別は、長さ、厚さと全体の形態をもとに行った。石材は、緑色片岩74点と青色片岩72点で二分される状況で、ほかに粘板岩6点と、その他の石質が8点認められる。緑色片岩(緑色泥岩)は、いわゆる青虎石で、平取町藤平川周辺が産地とされている。青色片岩としたものは、片理が発達した黄緑色(緑礫石)と暗藍色(藍閃石)が縞状をなす。そして、斑状に白色鉱物(曹長石)が入るものと、入

らないものがある。旭川市神居古潭峡谷周辺が産地であるとされている。3点輝緑岩（ドレライト）製とみられるものがある。輝緑岩は、主に亀田半島に分布している。

成品（89点）、再生品（5点）、破片（65点）がある。成品は大きさや形態で細別した。厚さについては、厚手（2～3cm）、中厚（1.5～2cm）、薄手（1～1.5cm）、超薄手（1cm以下）に分けた。また長さは、超大型（15cm前後）、大型（12cm前後）、中型（10cm前後）、小型（8cm前後）超小型（6cm前後）に分けた。そして両者を組み合わせて細別し、①厚手超大型10点、②厚手大型5点、③中厚大型5点、④薄手大型1点、⑤厚手中型2点、⑥中厚中型6点、⑦薄手中型8点、⑧薄手小型4点、⑨薄手超小型5点、⑩超薄手超小型5点となった。一部破損した成品も大きさ、形態から細別に振り分けている。なお、破片の計測は、部位との関係を無視して、大きさを示すために、単純に計測した。

形態では、楕形（52点）、短冊形（12点）、紡錘形（10点）に分けた。ほかに、両側非対称で、一方の側面が直線的、もう一方の側面が外湾するものが12点あり、目立つ。直線的な側面は平板な面をなす例が多く、湾曲した側面は曲面となっている。直線的な側面に接する刃部に破損がみられる。また、両側非対称は中型以上、紡錘形は大型以上のものに限られた。断面形態は側面の状態によって、側面が平坦な断面隅丸長方形と、側縁が曲面の断面楕円形に分けられた。刃部の形態は、両刃と片刃に分けられる。片刃は、弱凸強凸片刃が主流である。

欠損状況は、完形、1/2以上、1/2～1/4、1/4以下で分けた。中型以下の大きさでは、完形～ほぼ完形が3割以上。一方、大型以上の大きさでは、完形～ほぼ完形は3割以下で、残存率1/2以上のものが3割以上含まれる状況であった。なお、基部側の残存率が高い。また、刃部には使用光沢、線状痕、潰れ、剥離などが観察された。

石材と大きさの関係をみると、緑色片岩が多用されるのは、薄手超小型、薄手小型、厚手大型、厚手超大型。薄手超小型のすべて、薄手小型、厚手の7割で使用される。一方、青色片岩が多用されるのは薄手中型、薄手大型。薄手大型は全て、薄手中型の6割5分で使用される。また、緑色片岩と青色片岩の使用が拮抗するのが、超薄手超小型、中厚大型、厚手中型となっている。形態も、石材の性質と関係するようで、短冊形、紡錘形、両側非対称は青色片岩に多く、楕形は緑色片岩が多い。

①超薄手超小型（492～495）：4点すべて図示。厚さ1cm未満で、長さ5cm前後の一群。刃部は493・494が直刃、492は緩やかな弧状、495は欠損のため不明。石材は、493が緑色片岩、492・495が粘板岩、494が青色片岩。いずれも裏面の刃部に明瞭な線状痕がみられる。492・493は短冊形のほぼ同じ大きさで、機能的共通性が推測される。492の鑿は、正面と裏面とで傾く方向が逆になる。493の鑿に両面の差はない。494・495は楕形で同大であり機能的共通性が推測される。体部の正面は平坦で、裏面は曲面となる。494は両面に鑿を持ち、傾きの方向も同一。

②薄手超小型（496～500）：5点すべて図示。厚さ1～1.5cm、長さ6cm前後の一群。すべて緑色片岩製の楕形で、断面隅丸長方形。機能的共通性が推測される。刃部は緩やかな弧状が多いが、498は直刃。497・498の正面は、左右方向には湾曲しないが、刃部－基部方向へは大きく湾曲する。一方、裏面は、左右方向、刃部－基部方向ともに湾曲する。499・500は、体部に表裏の顕著な差はないが、刃部で正面側が緩やかに湾曲するのに対し、裏面は鑿を持つ。496には鑿はないが、裏面がより湾曲する。496・498～500の刃部一面には、淡い光沢とともに使用線状痕がみられる。特に496・498の刃部は磨耗しており、裏面の使用線状痕は明瞭である。499・500も線状痕は裏面にみられる。また497の刃縁には極短い線状痕がみられ、正面に微細剥離が点在する。そして、裏面基部側35mmの範囲と基端部には、着柄に伴う淡い光沢がみられる。

③薄手小型（501～504）：13点あり4点図示。厚さ1～1.5cm、長さ8cm前後の一群。すべて楕形。502・504は、

断面隅丸長方形であるが、501・503は断面楕円形。石材は青色片岩3点（502・503）、粘板岩1点（501）、緑色片岩9点（504）。501～503は、緩やかな弧状の刃部を持つ。502の裏面基部側62mm、503の両面には、着柄に伴う淡い光沢がみられる。501の刃部はやや摩耗しており、裏面刃部には不明瞭な使用線状痕がみられる。また、503は基部側も刃部となる。504は断面隅丸長方形で、刃部は直刃。2010年度に表採したもの、2011年度調査の住居跡OH-14覆土から出土したものが接合したもの。体部中央両面に着柄にともなう光沢がある。また、刃部には使用光沢がみられ、裏面には使用線状痕と微細剥離がみられる。

④薄手中型（505～511）：11点あり、7点図示。短冊形4点（505～507）、楕形7点（508～511）。石材は、緑色片岩4点（508）、青色片岩8点（505～507・509～511、509は「蛇紋岩」の可能性ある）。刃部は弧状の刃部を持つものがほとんどであるが、506は直刃、505は偏刃。また、断面隅丸長方形を主とするが、509は断面楕円形。

505は、両刃で偏刃。両面に使用線状痕が観察される。刃縁には潰れがみられる。506の正面は平坦。裏面は鏝のある刃部に、直交する使用線状痕、幅5mmの光沢がみられる。507は裏面刃部を剥離欠損するが、その後一部研ぎ直される。剥離のある裏面体部が湾曲し、正面が平坦になる。508は刃部の凸の強弱関係は不明瞭ながら、裏面刃部には刃縁に極短い線状痕がみられる。510は、裏面刃部に直交する使用線状痕と摩耗痕、幅5mmの光沢がみられる。正面刃部にも光沢はみられるが淡い。体部は、裏面が湾曲し、正面が平坦。509は基部を欠損し、裏面に鏝を持つ以外は、510とほぼ同様な状態を観察できる。511は厚手超大型の527と並んで出土したもの（図版7）。体部は、裏面が平坦、正面が湾曲する。刃部は裏面側が剥離欠損しているが、僅かに残る面に荒れと光沢が確認される。正面の刃部にも光沢はある。断面隅丸長方形で入念な作り。なお、510は裏面基部側80mm、511は両面基部側76mmの範囲には、着柄に伴う光沢がみられる。

⑤中厚中型（512～514）：3点ですべて図示。いずれも楕形で、断面隅丸長方形。512・514が緑色片岩、513が青色片岩。いずれも刃部は破損して、偏刃様になる。各々形態は個性的であるが、正面は、左右方向にはあまり湾曲しない。一方、裏面は、左右に湾曲し、基部一刃部方向にも湾曲する弱凸強凸片刃。512は、刃部剥離欠損後、裏面が研ぎ直され、鏝のようになっていた。

⑥厚手中型（515～516）：5点のうち2点図示。両側非対称4点、短冊形1点（516）。2点青色片岩（515）、2点緑色片岩、1点不明（輝緑岩？、516）。516は短冊形で断面隅丸長方形。刃部は緩やかな弧状で、両刃。体部と基端部に敲打整形痕を残す。裏面体部には淡い光沢が残るが、使用と研ぎ直しによって刃縁から最大2cmまで線状痕を残す。刃部の剥離は裏面に顕著で、特に左側が著しい。515は両側非対称で、体部左側面を中心に敲打整形痕を残す。刃部は剥離で欠損している。

⑦薄手大型（517）：2点のうち1点図示。厚さ1～1.5cm、長さ10cm以上の一群。すべて短冊形で、1点が青色片岩、もう1点は片岩。517は、刃部を欠損するが、現存長で10cmを超えている。断面隅丸長方形。

⑧中厚大型（518～521）：12点のうち4点図示。厚さ1.5～2cm、長さ12cm前後の一群。9点が楕形、2点が両側非対称？、1点が紡錘形。6点青色片岩、6点緑色片岩。518～520は楕形で、断面隅丸長方形。518はわずかに右に偏る偏刃、弱凸強凸の片刃。519の断面は楕円形～レンズ状。刃部は直刃で、わずかに右に偏る両凸刃。体部両面に剥離整形痕を残す。基部側と刃部両面に光沢がみられる。刃部の光沢は、正面で最大幅29mm、裏面で最大幅16mm。線状痕は裏面刃部右側で不明瞭なものが観察される。正面側刃部には整形に伴う線状痕が刃部と平行して観察される。また、微細剥離は正面右側に集中する。520の刃部は弧状の弱凸強凸片刃。刃部裏面が剥離欠損している。体部正面は平坦で、刃部側で緩やかに湾曲する。裏面は、左右、基部一刃部方向へ大きく湾曲する。正面基部から91mmの範囲に、

着柄に伴う淡い光沢がみられる。521は、紡錘形。体部正面は平坦で、刃部側で緩やかに湾曲する。裏面は、左右に湾曲し、基部—刃部方向へも大きく湾曲する。刃部は直刃で、不明瞭な弱凸強凸片刃。正面に線状痕がみられる。基部には、刃部と直交する小刃部がある。基部から11～67mmの範囲全周に、着柄に伴う明瞭な光沢がみられる。

⑨厚手大型（522～526）：10点のうち5点図示。厚さ1.5～2cm、長さ12cm前後の一群。8点が楕形、1点が両側非対称、1点が紡錘形。6点緑色片岩、2点青色片岩、1点粘板岩、1点輝緑岩。522・523・525は楕形。522は断面隅丸長方形。刃部は剥離を伴う潰れて偏刃となっている。正面は、平坦な面で、刃部側で緩やかに湾曲する。裏面は、左右に湾曲し、基部—刃部方向へも大きく湾曲する。523も断面隅丸長方形で、長さ8cmの基部片。正面平坦面の中央には着柄に伴う明瞭な光沢がみられ、それを切るように基端部に敲打痕が残る。着柄調整のためであろう。524は、紡錘形で断面隅丸長方形。刃部は緩やかな弧状。両刃で、刃縁から4cmまで光沢がみられる。正面から見て左側に刃縁の潰れがあり、正面刃部には右下がりの不明瞭な使用線状痕が観察される。525は正面が平坦で、裏面が湾曲しているが、刃部を大きく欠損している。526は長さ約7.5cmの基部片。正面は平坦、裏面は湾曲する。敲打による調整がなされているが、研磨後のもので、着柄に伴うものとみられる。

⑩厚手超大型（527～536）：16点のうち10点図示。厚さ2～3cm、長さ15cm前後の一群。両側非対称5点、紡錘形6点、楕形4点。1点は形態不明。9点緑色片岩、5点青色片岩、1点黒色片岩、1点輝緑岩？。527・528・530は、両側非対称。527は、511（薄手中型）と並んで出土したもの（図版7）。正面基部から80mmの範囲に、着柄に伴う淡い光沢がみられる。528は断面楕円形で乳棒状。刃部は大きく欠損するが、僅かに残る研ぎ面と、剥離が正面左に寄る。530は基部側断面が五角形を呈するが、刃部側断面は潰れたD字形を呈する。刃部は欠損するが、剥離が裏面左に寄る。529・531～533は、紡錘形。基部だけでは紡錘形と楕形が区別できないので、刃部側しかない。529は、直刃の強凸弱凸片刃。531は、偏刃の両刃。裏面刃部左側に使用光沢がある。右側面の折れ面近くに敲打痕がある。532は、偏刃の両刃。敲打調整痕が側辺—両面への稜部分に残る。533は使用による衝撃でか、基部側が剥離している。断面隅丸長方形。正面が平坦で、裏面は湾曲する。刃部は緩やかな弧状で、両刃。刃部両面に使用線状痕が観察され、刃部の潰れ、剥離が正面左に寄る。正面の線状痕は右下がりになる。534～536は楕形。断面は稜の丸みが強い長方形—楕円。基端部にも調整が入る。1点除き、緑色泥岩製。534は、偏刃の両刃。正面左側は、摩耗し、刃縁の潰れも目立つ。正面の基部側29mmの範囲に着柄に伴う光沢がみられ、固定部分との境界で折れたと推定される。535は、右側面に擦り切りの痕跡を残すもの。今調査では、擦り切り痕跡は敲き石に転用された554と本例にみられるだけである。536は基部から約80mmの範囲の両側面に、着柄に伴う淡い光沢がみられる。また、敲打整形痕も残る。

⑪再生品（537～540）：5点あり4点図示した。537は短冊形で断面隅丸長方形。正面刃部の湾曲は急斜度で、体部に大きな一枚の剥離面がある。裏面は、左右に湾曲し、刃部側へ緩やかな湾曲となる。弱凸強凸片刃。正面の剥離面は、基部折損後、折れ面からの打撃で剥離している。単なる破損品にもみえるが、大きな剥離面の末端、刃部側と接する部分の稜線に、極僅かな摩耗がみられる。したがって、折損後も使用されたと推測される。539・540も短冊形。体部に剥離面がみられるが、基部折損後両極打法で側面から打撃を行ったもの。刃部の摩耗、光沢は正面側で顕著。538は厚手の石斧から剥がれた破片を再加工したもの。不定形ながら、正面側刃部の使用線状痕は明瞭。

⑫未成品（541～545）：加工途上で、刃部形成未了のものとする。5点ありすべて図示した。541・542・544・545は、厚手のものが破損して、再加工している最中に、放棄されたものと考えられる。現状の大きさは中厚中型。541は緑色片岩製で、側面から打ち欠きを加えたのち、敲打で形態を整え、

研磨で刃部を形成しようとしている。542・544・545は青色片岩製で、側面から敲打・剥離することで、器体の厚みを調整し、刃部末端からも剥離を加えて、刃部研磨の下準備としている。中厚中型より薄く小型のものは、遺跡内で再生されたものを含む可能性がある。また、543は刃部を形成しようとして、途中で放棄された超小型品。竊状構造を持ち、淡い緑色を呈するため緑色片岩と思い研磨したようであるが、実際は硬質な頁岩であったことから、放棄されたと推測される。ほかに扁平、棒状の粘板岩礫が2点あるが、石斧素材として持ち込まれたかは不明。

③破片(546~553): 残存率25%以下のものとする。65点あり8点図示した。基部、体部、刃部に分かれるが、体部の破片が多い。調整、再生、転用の過程で、石斧を分割、剥離した際にでたものとみられる。緑色片岩製品は、貝殻状に剥離しているが、片岩製品は、片理に沿って割れるため、塊状で剥離方向を見極めるのが難しい。それでも、器体を側面から敲くことで、調整・分割した例が多いようである(550~553)。また、小さな剥片も含まれる(548・549)。546は、中厚大型で短冊形の基端部片。現存長4.8cmで、断面隅丸長方形。折れ面には多数の剥離を伴う敲打痕、基端部からの剥離もみられるので、楔として転用されたのかも知れない。また547は刃部の破片であるが、剥離面の凸部に研磨痕が残る。

たたく石(図V-2-52~56 表17 図版122~126 掲載番号554~607)

総数689点出土し、54点図示した。出土地点は、遺構覆土から323点(47%)、m層169点(25%)、包含層197点(28%)となっている。

細別は、使用位置から、①礫末端(小口)、②長礫長辺側面(長手)、③長礫正面(最大面)、④短礫端部、⑤短礫角、⑥長礫角、⑦三角柱状礫角に細別した。なお、複数の部位が利用されるものも多かった。礫の形状は、不定型なものが多いが、大きくは短礫(幅1、長さ1)と長礫(幅1、長さ1以上)に分けることが可能である。長礫は、棒状(幅1、長さ2以上)、楕円形(幅1、長さ1.5以上)、扁平(厚さ/幅0.67以下)、正三角柱状、長三角柱状、三角形(幅1、長さ1~1.5)、長三角形(幅1、長さ1.5以上)に、短礫は、円形(幅/長さ0.67以上)、球形(幅/長さ、厚さ/幅0.67以上)に、細分することが可能である。使用痕跡は、a. 敲打痕(1: 潰れ、2: 潰れから変形、3: 潰れに剥離伴う)、b. 回み、c. 不明瞭な傷状に分けられる。使用箇所は、1か所から複数か所あり、場合によっては、全面的に使用されるものもあった。

石材は、537点が砂岩で、ほかに安山岩80点と泥岩26点、チャート13点、石英9点、頁岩・玄武岩・粘板岩各5点、礫岩2点などがある。

①礫末端(554~560): 68点あり、7点図示した。緑色片岩(554)・チャート(556)・石英各1点、粘板岩2点、泥岩(557)3点、安山岩6点、ほかは砂岩。556・560は礫短辺の一端に、554・555・557~559は礫短辺両端に敲打痕が残る。礫の形態は、短礫、長礫ともあり、形態は棒状、楕円、扁平と多様で、大きさ・重さも多様。敲打痕は、使用の進行によって、平坦化する。557のように、硬度も粘度も砂岩などに劣る泥岩を使用する例が3点ある。554は、磨製石斧の破片を転用したもの。石斧は擦り切り技法で製作されている。一端は平坦面、もう一端は剥離によって鈍い刃部様になる。558の体部には、擦り面が観察され、「砥石」でもあったとみられる。

②長礫長辺側面(561~568): 113点あり、8点図示した。頁岩、珪質岩(564)、チャート、玄武岩各1点、粘板岩3点(562)、泥岩10点(565・567)、安山岩15点(568)、ほかは砂岩。563・564・566・568は、僅かな敲打痕しか残さない。563は棒状礫の一端にごく僅かに敲打痕が残る。564には爪痕状の敲打痕が残る。不明瞭ながら敲打により形成された面が、566では一側縁に、568では二側縁にある。一方、561・562・565・567は、剥離を伴う明瞭な敲打痕を残す。561は断面ひし形の棒状礫の側縁に、

範囲の狭い敲打痕が残る。565は棒状礫、567は楕円礫を使っている。567は4か所に敲打痕がある。

③長礫正面(569~574):120点あり、6点図示した。石材は、安山岩21点、泥岩7点、玄武岩2点のほかは砂岩。図示したものは全て砂岩。使用痕跡は、敲打痕から回み(571・572・574)にまで至る。礫形態は棒状と楕円形に分かれ、大きさは長さ15cmを境に大小に分かれる。570・573のように、三角形を呈する棒状礫の最大幅にあたる部分を使用するものが目立つ。使用痕は、569・570・573は1か所、571は三面に各1か所、572は同一面の上下2か所と反対面に1か所、574は両面1か所ずつにある。571の凹部は爪痕状になっている。

④短礫端部(575・576):18点あり、2点図示した。安山岩1点のほかは図示したものも含め砂岩。576は不明瞭ながら敲打痕らしきものが残されている。

⑤短礫角(577~580):65点あり、4点図示した。石材は、メノウ1点、玄武岩・頁岩2点、チャート6点(577)、石英7点、安山岩12点(579)のほかは砂岩(578・580)。亜角礫~亜円礫の角を使用する。578は1か所、577・580は2か所、579は3か所に敲打痕が残る。チャート製の577、緻密な安山岩製の579は使用が進行し、剥離を伴う。

⑥長礫角(581・582):84点あり2点図示した。側面長辺と短辺が交わる角の部分を使用するもの。礫岩・チャート各1点、泥岩2点、安山岩10点、ほかは図示したものも含め砂岩。581は、断面三角形の棒状礫、582は扁平な楕円礫を利用している。一端の両角に敲打痕がある。敲打痕は潰れと剥離を起こしており、582は潰れで平坦化している。

⑦三角柱状礫側縁(583~590):128点あり、8点図示した。断面が、正三角形のもの、長三角形のものがある。また、重量で1kgを境に大小に分かれる。礫岩・チャート・閃緑岩・火成岩各1点、泥岩2点(583)、安山岩9点のほかは砂岩。583・584・588~590は小型品。583は断面正三角柱状で、泥岩製。使用痕は剥離を伴う敲打痕で、一側縁に限られる。584、588~590は断面長三角形状で、薄手のもの。平坦な「すり面」をもつものはなく、敲打痕だけが認められ、扁平打製石器とは区別される。589・590とも、一側縁に剥離を伴う敲打痕がある。敲打痕は側縁中央に集中し、内湾しており、剥離は一面に偏る。584も同様なものともみられるが、欠損している。588は、一側縁に剥離を伴う敲打痕がある。台石・石皿の破片を素材にしたようで、敲打痕のほか、緩やかに凹む直径7cmほどのすり面が2つ隣り合っている。585~587は大型品。585は断面長三角形状で、相対する二側縁に敲打痕がある。586、587は断面正三角形で、三側縁ともに敲打痕がある。大形品の敲打痕は、側面に剥離を伴い、さらに潰れにより面化している。

⑧複合(591~607):92点あり、17点図示した。頁岩・流紋岩(607)・石英(604)・ひん岩? (460)各1点、泥岩2点(593)、チャート3点(603)、安山岩6点のほかは、砂岩。使用位置は、側面53例、正面45例、末端43例、長礫角36例、礫正面末端16例、三角柱状礫側縁9例、短礫角5例となる。組み合わせに類出するのは、末端と長礫角36例、末端と側面25例、側面と正面23例であるが、各々複雑に使用痕が組み合わせられている。

591・592は、末端と側面に敲打痕を残す。この例は12点ある。592の末端機能部は面を形成するまで使用されている。593~598・600は、棒状礫に3か所以上の複数の敲打痕を残すもの。593は同一正面と角に各2か所、末端、側面に残る。594は末端、側面、正面に残る。595は末端、側面、正面端部に残る。596は、三角柱状礫の同一正面2か所、末端、側縁に残る。正面の敲打痕は回みをなす。597は、側面、角、末端に残る。598は正面端部と角、側縁に残る。599は、末端と正面端部に残る。600は正面端部と正面両面に残る。601~605は、楕円~円形の礫に複数の敲打痕が残る。601は正面端部、側面、角に残る。いずれも面化している。602は正面、側面に残る。603は正面両面と側面、角に残る。604

は側面、角に残る。605は正面端部と角に残る。606は三角錐状礫の側縁角三か所と末端に残る。607は、流紋岩の剥片を利用し、側縁、角、末端縁に残る。

すり石 (図V-2-57・58 表17 図版126・127 掲載番号608~632)

総数69点出土し、25点図示した。出土地点は、遺構覆土から34点 (49.3%)、m層15点 (21.7%)、包含層20点 (29.0%) となっている。

すり面の位置から、①礫正面 (最大面)、②礫正面端部、③礫長辺側面 (長手)、④複合に細別した。

礫の形状は、不定形なものが多いが、棒状 (幅1、長さ2以上)、楕円形 (幅1、長さ1~2)、円形 (幅1、長さ1)、球形 (幅、長さ、厚さ1)、扁平 (厚さ3cm以下)、三角柱状、扁平三角柱状、三角 (幅1、長さ1~2)、長三角 (幅1、長さ2以上) に分けることが可能である。石材は、閃緑岩・凝灰岩各1点、玄武岩6点、安山岩27点のほかは砂岩。

①礫正面 (608~623) : 51点あり、16点図示した。凝灰岩1点 (612)、玄武岩6点 (616・617)、安山岩21点 (608・609・613・615・618~622) のほかは砂岩。608~614は、長さ8cm以下の小型品。すり面が不明瞭なものも多く、明らかなのは611・612だけ。612は複数の線状痕が残る。615~622は、長さ8cm以上の中型品。すり面が明瞭なものが多い。ただ、617・618はすり面にざらつきを残している。623は大きさからすり石に含めたが、台石として受動的な使われ方であった可能性がある。重量では、619・623が1000gを超えるが、ほかは900g以下。おおよそ47g (608)、140~207g (609・611・612)、230~530g (610・613~615・620・621)、600~900g (616~618・622) に分かれる。

②礫正面端部 : 2点ある。図示しなかった。

③長礫長辺側面 (624~630) : 9点あり、7点図示した。624は小型品で、ざらつきのあるすり面をもつ。すり面は2面が隣接し、屈曲したようにみえる。625~628は中型品。625・626は礫の一边にややざらつくすり面がある。625のすり面は弧状に膨らみを持っている。626のすり面はごく狭い範囲で、使用初期段階とみられる。627は不整形の棒状礫の一边に滑らかなすり面をもつ。ただし、すり面は僅かに波打つ。また正面にも滑らかな部分がある。628は閃緑岩製で、長方形を呈する。扁平礫の両小口を剥離し、形態を整えている。長手の一方には剥離を伴う平坦なすり面、もう一方の長手には剥離を伴う敲打痕が残る。扁平打製石器同様、敲打とすりによって形成された機能面とみられるが、使用面が2cmを超え2.8cmとなること、磨り面が平滑であることで、すり石に含めた。629・630は厚みのある中型品。629は長手両辺にざらつくすり面があり、正面両面に滑らかなすり面がある。ざらつくすり面は、敲打とすり、滑らかなすり面はすりだけの結果とみられる。630は正面と長手にざらつくすり面をもつ。630の場合、石英を多く含む石質なので、面がざらついている。

④複合 (631・632) : 2点あり、図示した。最大面とその反対面の端部にすり面がある。

半円状扁平打製石器 (図V-2-58 表17 図版126・128 掲載番号633~638)

総数11点出土し、6点図示した。出土地点は、遺構覆土から5点 (45.4%)、m層2点 (18.2%)、包含層4点 (36.4%) となっている。

平面形態から、①半円形、②長方形~楕円形、③不整形に細別した。加工状況は、a. 片面をほぼ全面調整、b. 周縁のみ調整、c. 部分的に調整、d. 端部のみ加工あり、使用痕跡は、1. ほぼ全面が平面、2. 平面と剥離縁が混在、3. ほぼ全面が剥離縁、4. 部分的に敲打、5. 未使用に分けることが可能である。使用による平面には、ざらつきが残っている。すり石の場合は、ざらつきは残っておらず、磨いたようになっている。この僅かな差は、作業に敲打とすりが複合する場合と、すり主体の場合の結果と推定される。また、使用面の幅も2cmを大きく超えることはないようである。この差を持って、半円状扁平打製石器と、すり石とを区別する。石材は、凝灰岩、安山岩、閃緑岩が各1点あり、ほかは砂岩

製である。

①半円形 (635・636) : 635は、閃緑岩製で、周縁と両端のほか、表面をほぼ全面調整する。使用面は平坦なすり面で、裏面に剥離を伴う。上縁は鈍い刃部状に剥離調整するが、両端は敲打された面。

636は砂岩製で、両端以外は部分的な調整にとどまる。使用面は平坦なすり面で、表面に「はがれ」がある。上縁は敲打痕がある。両端の状態は、一端が敲打された面、もう一端は鈍い刃部状。

②長方形～楕円形(633・367・638) : 633は凝灰岩製で、小型品。形態と使用痕跡から扁平打製石器とした。使用面はやや潰れるものの剥離した状態に近い。実用ではない模倣品か。637は砂岩製で、未成品。正面下辺と左辺に剥離調整がなされるが、右側が欠損している。638は砂岩製で、上辺と両端を剥離調整するが、下辺にはごく部分的な敲打痕がみられる未成品。

③不整形 (634) : 砂岩製で、上部は分割により面をなす。上部の一端には敲打痕がある。また、裏面に向かって上面から複数剥離を加えている。使用面はほぼ平坦なすり面があり、剥離を伴う。

石鏃 (図V-2-59 表17 図版128 掲載番号639)

総数2点出土し、1点図示した。639は、OH-19覆土から出土した閃緑岩製。二側縁に使用痕が残る。小口は左辺が自然面で、右辺は折れによる欠損面。未図示品は、OH-15覆土出土の泥岩製。

石鏃 (図V-2-59 表17 図版128 掲載番号640)

総数1点出土し、図示した。640はOH-33覆土出土の安山岩製。扁平な楕円礫の小口両端に打ち欠きを入れるが、その稜線が面となるまで敲打・研磨を行っている。形態から石鏃としたが、その加工状態は一般的ではなく、長辺側面にすり面を持つすり石の未成品とも考えられる。

加工痕のある礫 (図V-2-59 表17 図版128 掲載番号641～646)

総数20点出土し、6点図示した。出土地点は、遺構覆土から9点、m層3点、包含層8点となっている。641・642は粘板岩の棒状礫に部分的に研磨が施されたもの。641は一端を尖らす様に、642は側辺の半分だけを研磨している。643は不明瞭ながら、敲打・研磨で形態を整えている。644は板状の泥岩礫の側面両面に、辺に直行する研磨痕がみられるもの。研磨面は、折断によって生じた角で削るようにした結果できたものとみられる。645は板状の安山岩礫の一面の角を落とす様に剥離を加えている。未成品であろう。646は石英を多く含む脆い安山岩で、表面に剥落とも敲打痕ともみられる細かな凹凸がある。すり石の630と同じ石質で、未成品かとみられる。

台石・石皿・砥石 (図V-2-59～66 表17 図版128～131 掲載番号647～666)

総数233点出土し、20点図示した。出土地点は、遺構覆土から159点 (68.2%)、m層32点 (13.7%)、包含層42点 (18.0%) となっている。使用痕の状態から、①すり面のあるもの、②敲打痕のあるもの、③すり面と敲打痕があるもの、④使用痕が明瞭でないものに分けた。さらに、使用面の状態から、明瞭に凹む、緩やかに凹む、平坦、凹凸、膨らむ、溝状、整形に分けた。使用面の大きさからは、面の半分以上の広範囲、面の半分以下の狭い範囲、使用痕が散在するもの、不明瞭なものに分けることが可能である。溝状のすり面を持つものを砥石、平坦な面に使用痕を持つ台石、凹んだ面に使用痕を持つ石皿に分類される。以上のものをまとめたのは、相互の使用痕跡が複合しているためである。石材は、礫岩1点、凝灰岩2点、玄武岩3点、安山岩47点のほかは砂岩。

①すり面があるもの (647～662) : 154点あり、15点図示した。玄武岩1点、凝灰岩2点、安山岩24点あるほかは砂岩。使用面が平坦なもの90点と最も多く、緩やかに凹むもの26点、面が膨らむもの22点、溝状になるもの12点と続く。ほかに明瞭に凹むもの、凹凸があるもの、平坦面と膨らむ面の複合が各5点ある。647・649・651～653は、使用面が浅い溝状となる、いわゆる砥石で、滑らかなすり面を持つ。647は正面に滑らかなすり面があるが、それを横切るように幅約1cmで2条の溝状すり面が残されている。

る。左側面と下面にも溝状すり面はある。特に下面は、不明瞭ながら5条以上の浅い溝状すり面となっている。649も正面に滑らかなすり面があるが、それを横切るように幅約4cmの1条の溝状すり面が残されている。右側面には幅約3cmの溝状すり面がある。651は正面に幅約3cmの明瞭な溝状すり面があるが、それ以前に少なくとも2条の溝状すり面があったことが確認できる。裏面にも狭い範囲にすり面がある。652は両面に明瞭な凹みを持ち、一見石皿様であるが、すり面中に溝状すり面の痕跡を残している。653は正面にやや滑らかな浅皿状すり面が隣接して2か所あり、両者をまたぐように爪跡のような溝状すり面がある。この溝状すり面は、幅が0.5cm以下。幅は狭いが、底面は滑らかになっており、玉砥石様のもつと理解した。648・650・654~657は、平滑で滑らかなすり面を持つもので、すり面は礫面の凹凸に沿っている。648は扁平でやや不整な楕円形の礫両面にすり面が残る。裏面では幅2.5cmのごく浅い溝状の部分がある。650は正面に滑らかなすり面を持つが、凹凸がある。すり面はごく浅い皿状の凹みが連続しており、場所により礫面の凹みを残している。不明瞭ながら裏面には敲打痕らしきものも残る。654は板状の凝灰岩の正面にすり面が残る。一部敲打痕らしきものもあるが、正面全面がすり面になっており、使用により一部緩やかに凹んでいる。655は長さ10cm前後と手持ちの大きさで、正面中央にすり面を持つ。すり面はごくわずかに凹んでおり、線状痕が幅1~1.5cmの多条単位で複数残っている。受動的に使用されたとみて、ここに含めた。656は、板状の安山岩の両面にすり面がみられるもの。平坦で、滑らかになっている以外使用痕跡はみられない。657は直方体状の礫の長手にすり面を持つもの。OH-14の炉石に転用されていた。図の状態です中に埋設され、右側面を焼土側に向けていた。658・659はいわゆる石皿で、この2点だけ確認された。両者とも凹みを明瞭に作り出している。658は脚付石皿の破片。脚の側面に溝を入れている。659は、正面が敲打で大きく窪んでいるが、使用の結果というより、加工されたものとみなせる。また、細長くすばまった一端が敲打されている。右側面や裏面の一部も敲打整形している。裏面中央の稜は、加工によるものか、自然なものか判然としない。全体的な形態からは、石棒や烏帽子形石器（広義の石冠）とも理解できる。OH-30入口袖石の一つにされていた。

②敲打痕があるもの（660~662）：36点あり、3点図示した。玄武岩・礫岩各1点、安山岩5点あるほかは砂岩。使用面が平坦なものが21点と最も多く、膨らむもの9点、凹凸があるもの5点と続く。660は亜円礫の正面中央に敲打痕がある。敲打痕は、図上半が爪痕状、図下半がアバタ状になっている。661は円磨の非常に高い円礫の図正面、図左端に敲打痕がある。正面には爪痕状とアバタ状両方、左端はアバタ状のみが残されている。OH-17入口袖石の一つにされていたもの。673と対になる。662は大型の円礫の一面が平坦化しており、敲打痕が散在している。使用により平面化したとみられる。

③すり面と敲打痕があるもの（663・664・666）：13点あり、3点図示した。安山岩1点、砂岩12点。使用面が平坦なものが9点と最も多く、溝状になるもの2点、緩やかに凹むもの、平坦面と凹凸の複合各1点がある。663は一面に平滑なすり面、一側縁に敲打痕が残るもの。敲打痕は能動的な運動により残された可能性もある。664には同一面に滑らかなすり面とアバタ状の敲打痕が残る。両者は一部重なって合っている。666は断面三角形の大型の礫で、上面の後縁に敲打痕が残る。また、後縁より左右の面には滑らかなすり面が残されている。

④使用痕が不明瞭なもの（665）：27点あり、1点図示した。玄武岩1点、安山岩11点、砂岩12点。使用面が平坦なものが14点と最も多く、凹凸のあるもの8点、緩やかに凹むもの5点となる。665は板状の礫で、明瞭なすり面ではないが、自然面とは異なると思われた。

有意の礫（図V-2-67 表17 図版132・133 掲載番号667~685）

総数371点を取り上げ、17点図示した。出土地点は、遺構覆土から110点(29.6%)、m層63点(17.0%)、

包含層198点(53.4%)となっている。有意の礫としたものの内訳は、原石245点、中型円礫82点、変
わり石34点、赤色顔料6点、有孔礫2点、円礫1点、軽石1点である。

原石としたものは、剥片石器の材料として持ち込まれた可能性が考えられるもの。頁岩163点、メ
ノウ21点、チャート15点、石英14点、粘板岩9点、珪質岩6点、珪化岩5点、流紋岩・泥岩各3点、玄武
岩2点、安山岩・片岩・凝灰岩・ジャスパー各1点。

667~671は、中型円礫としたもの。4~64mmの中礫大の円礫で、特に使用痕はないが、形態が整っ
ており、投石、ボーラとしての使用が想定される。重さは3~100gの間で、石質は砂岩46点、泥岩26点、
玄武岩4点、頁岩・凝灰岩各2点、チャート・安山岩各1点となっている。他の遺跡では、真球に近い
例もあるが、この遺跡ではやや歪んでいる。673は円磨度の高い円礫。敲打痕やすり痕はない。0H-
17入口袖石の一つ。661と対になる。674~679・681は変わり石としたもの。形態がくびれていたり、
柱状であったり、象徴的であったりするもの。674は一部打ち欠かれているが、盤状のもの。円盤形
石製品の未成品とも考えられる。675は勾玉形をしている。676は正面と側面に自然の盲孔がある。
677は円柱状の礫。一部敲打痕らしきものも観察でき、ストーンリタッチャーとして機能したかもし
れない。678は陰石と考えられるもの。679・681は陽石と考えられる角柱状の礫。681は柱状節理の安
山岩で、上端を僅かに打ち欠いている。680はアスファルトが厚く付着した礫。土器中に蓄えたアスファ
ルトを攪拌するのに使用したと推定される。アスファルトの付着状況は、手元側に濃く、先に行くに
従い薄くなる。似た例は、岩手県陸前高田市貝畑貝塚で知られる。

682~685は、赤色顔料とみられるもの。682・683は原材で、金属鉱山のヤケと推定される。683は
石英の周囲に黄橙色と赤色部分があり、両者は連続している。黄橙色部分では石英・長石の結晶が含
まれている。非常に軽い。一方、682は非常に重い。石英の周囲が赤鉄鉱化しているようにみえる。
一部軟質化した部分が赤色を呈している。684・685はクレヨン様のもの。684は三角柱状を呈している。
長辺の三面とも平坦面となっており、線状痕がある。685はやや軽い。外湾した部分の一部に線状痕
がある。また、反対の内湾した部分にも線状痕があり、一端が段となっている。こちらは石器などで
削り取ったようにみえる。発色が悪く、褐鉄鉱を加熱したものと推定される。

4 礫

総数8,000点を取り上げた。出土地点は、遺構覆土から2,419点(30.2%)、m層1,087点(13.6%)、
包含層4,494点(56.2%)となっている。調査地点のIV層(ローム層)には、V層(段丘礫層)に含
まれる礫が凍結擾乱によって含まれていた。また、フラスコ状土坑の掘削は段丘礫層に達していたも
のもあった。したがって、調査区内に存在する礫のすべてが人為的に持ち込まれたものでないと判断
された。そこで、調査時に拳大以下のもの、形が不定形でいびつなもの、黄褐色シルト層がこびりつ
いているものなど、礫石器として使用された可能性の少ないものは取り上げなかった。取り上げた礫
は、すべて使用痕の有無を確認した。また、すべての重量、石材を記録し、6,420点を現地で廃棄した。

取り上げた礫の石材は、砂岩4,251点、泥岩1,419点、安山岩1,375点、チャート(珪岩としたもの)
227点、粘板岩214点、凝灰岩67点、石英58点、頁岩47点、片岩24点、礫岩21点、メノウ16点、閃緑岩
13点、流紋岩12点、玄武岩10点、珪質岩8点、珪化岩4点など。

近接する戸切地川の河原にみられる岩石は、青色硬質砂岩、やや黄色味がかかる安山岩、白色泥岩・
頁岩を主体に、チャート、石英、流紋岩、頁岩、泥岩、粘板岩が目立っていた。頁岩は、よく珪化し
ており、風化部分以外は黒色~灰色を呈するもので、石器石材に適しているものも多い。また、大き
さも拳大以上のものも採集できた。なお、段丘礫層の岩石も同様な構成を示す。

5 石製品

石棒 (図V-2-68・69 表17 図版133・134 掲載番号686~692)

総数7点出土し、全て図示した。686~689は紡錘形で、長さ15~17cmの中型品。686は風倒木痕から出土したもので、閃緑岩製。両端は敲打によって面が形成され、ややずれている。体部は滑らかであるが、たたき石にみられるものと同様な敲打痕が6か所認められる。敲打痕の規模は、1~1.5cmの小単位が単体ないし2~4まとまっている。687は安山岩製で、両端に敲打痕があり、一見たたき石のようである。しかし、体部に不明瞭ながら、敲打と研磨によって整形した痕跡をみることができるので、石棒とした。688も安山岩製で、体部のほぼ全面と一端を敲打整形している。689は泥岩製。両端に小規模な敲打痕があり、体部にも不明瞭ながら、敲打と研磨によって整形した痕跡がある。

690は紡錘形で、長さ約41cmと大型の安山岩製。両端に小規模な敲打痕があり、体部にも不明瞭ながら、敲打と研磨によって整形した痕跡をみることができる。

691・692は円柱状のもの。いずれも被熱している。ともに白斑の目立つ安山岩で、同一個体ないし同一産地と思われる。692はM170区のm層、691はOSP-161 (N165区) 覆土から出土した。ともに焼けはじけが片側に顕著で、火に対し横位に置かれたと推定される。体部は入念に研磨されている。691は一部端部が残存している。691は直径9cmほど、692は直径8cmほどと両者の直径には隔たりがあり、同一個体だとすると、かなり大型のものであったと推定される。

鳥帽子形石器 (石冠棒石器) (図V-2-70 表17 図版134 掲載番号693)

総数1点出土し、図示した。三角柱状の形態をした砂岩の三面にすり面がある。二面はほぼ全面がすり面となるが、下方のすり面は凹んだ部分を残す。小口面は未整形。被熱した痕跡が下面の左右両側に当たる稜にある。被熱状況から、埋没・埋設後に上部で火を焚かれ、その後振り返され、再度埋没・埋設後に上部で火を焚かれた状況が推察される。単なる台石であった可能性も残る。

青竜刀形石器 (図V-2-71~73 表17 図版134・135 掲載番号694~699)

総数6点出土し、全て図示した。694は軟質の凝灰岩製で、灰白色を呈すが、被熱した部分にはぶい橙色となっている。大きく3つに分かれて出土し、柄部分は2つに割れてOH-33覆土から出土した。刃部分はM170区m層から出土し、両者は約6m離れていた。全体に削り痕が明瞭に残され、木製であるような印象を受ける。削り痕は、3mmほどの明瞭な溝状を呈する部分、2mmほどの浅い溝状の部分、明瞭な線状痕の集合、やや明瞭な線状痕の集合など多様。被熱によってはじけた部分も認められるが、線状痕を切っている焼けはじけ、線状痕に切られる焼けはじけ、被熱変色した部分を切る線状痕が観察され、複数回の被熱、再加工がなされたことが推定される。また、焼けはじけが片面に偏るので、火に対する置き方に一定の規則があった可能性がある。また、柄部と刃部で変色に差があり、柄部には焼けはじけが確認されないことから、柄部と刃部とを折断した後、刃部だけさらに被熱している可能性も高い。加工は、柄部では比較的自然面を残す。両面に自然面が残ることから、盤状の素材を選択したとみられる。整形は、刃部に近づくに従い入念になる。刃部は両面とも入念に整形されており、背側が特に入念。背は刃のように鋭くなっている。刃には溝が入れられ、その土手部分は自然面と整形面が混在している。鋒には節理面が残る。695も凝灰岩製の柄部分の破片。被熱していないが694同様刃間で折断している。全面に研磨痕と敲打痕が残る。

696~699は板状節理の安山岩を素材にし、粗く整形したもの。699は縁辺を打ち欠き、敲打整形している。刃部の半分近くが失われているので、正確な形態は不明。しかし、柄部をもち、「刃部」は側面が鋭利で、もう側面は面をなすので、青竜刀形石器に含めた。698も同様で、さらに扁平なもの。しかし、刃間があり、刃側は剥離調整がある。背側は自然のままであるが、鋭利になっている。

696・697はこれらの柄部の破片と推定している。

異形石器 (図V-2-74 表17 図版135・136 掲載番号700~705・711)

総数8点出土し、7点図示した。異形石器は、抉りを入れる剥離調整で、各種形態に整形していることを特徴としている。700・701はM字形を呈するもの。ともに赤色珪化岩製。700はOH-38覆土、701はOH-17覆土から出土しているが、共に西盛土遺構の範囲であり、関係性を持った存在かもしれない。702は三叉になるもので、上位に置いた一端に紐掛けとして突起が左右に作り出されている。これも赤色～白色の珪化岩製。703は相対する二側縁は直線的にし、もう一つの相対する二側縁に抉りを入れる事で四隅が突出したような形態を作り出している。珪化の進んだ灰色の頁岩製で、一面には暗オリーブ色の礫表面も残す。704は四辺に抉りを入れ、四隅が突出する形態を作り出している。白色地に黄色と赤色が斑に散る珪化岩を素材にしている。705はS字形を呈するもので、黄灰色の頁岩製。711は、泥岩の分厚い剥片を素材に、四辺に抉りを入れている。打面側の二辺は背面側から、末端側の二辺は腹面側から剥離が行われている。

三脚石器 (図V-2-74 表17 図版135・136 掲載番号706~710)

総数5点出土し、全て図示した。異形石器同様、抉りを入れる剥離調整で、三角形に整形したものと理解される。706・707は小型のもので、706は明瞭に湾曲するが、707の湾曲はごく僅か。706は頁岩製、707は灰黄色～淡黄色を呈する珪化岩製。

708～710は大型のもので、708・710は扁平な礫の周囲を打ち欠いたもので、両面に原石面を残す。709は剥片素材。石材は708・709が頁岩、710が凝灰岩。いずれもごく僅かに湾曲する程度。

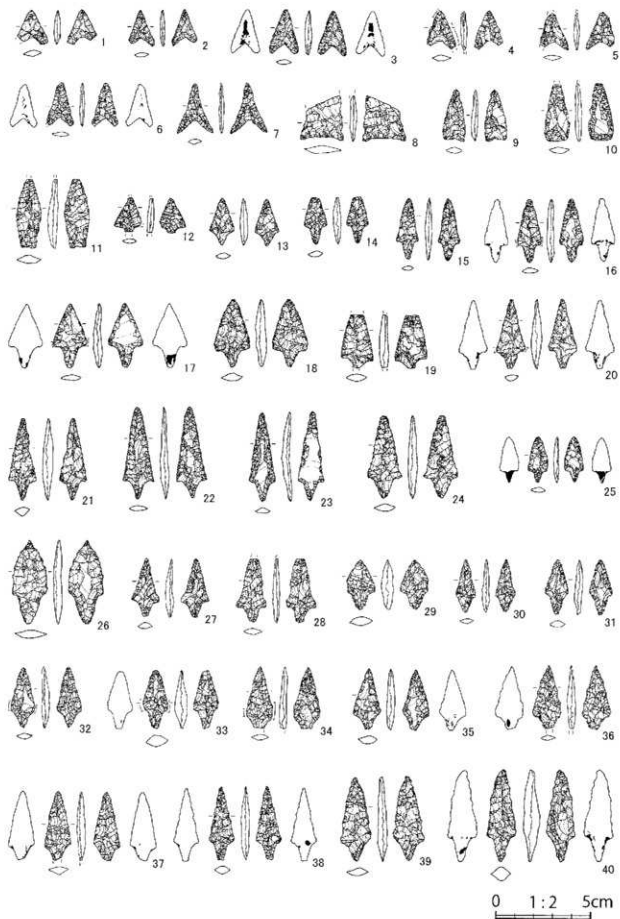
垂飾 (図V-2-74 表17 図版136 掲載番号712~716)

総数5点出土し、全て図示した。712はヒスイ製品。長さ約5cm、幅約3cm、厚さ約1.7cm。灰白色地に白色と緑色が網状になっている。孔は、正面に置いた側が大きく、裏面は小さいが、両面から穿孔している。孔縁について、正面では上部、裏側は左側～上部の角が取れており、紐擦れと思われる。上面と右側面は面取りするが、他の面は自然の曲面を生かしている。713は砂岩製品。扁平な原石の側縁を研磨して整形している。左右側面は滑らかになっているが、上部は僅かに整形した程度。穿孔は両面からされており、明瞭な紐ずれは確認されない。714は泥岩製品。楕円形の原石に二つの穿孔を施すだけで、整形痕跡はない。いずれも両面穿孔。715は軽石製品。研磨により板状に整形している。一端に穿孔がある。両面穿孔。716は、泥岩製小玉とみられる。穿孔に関わる痕跡がみられないため、人工でない可能性も持つ。長さ0.27cm、直径0.23cm。

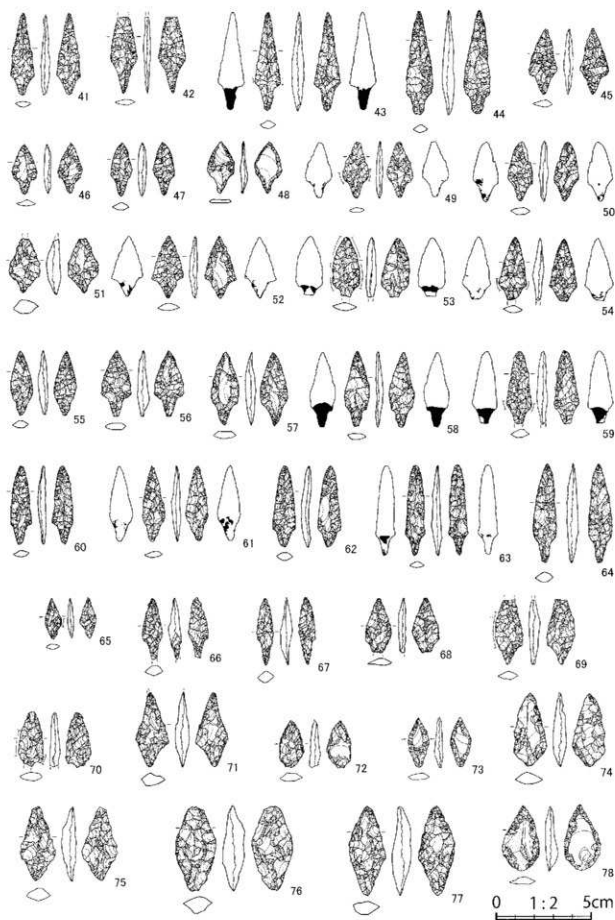
その他の石製品 (図V-2-74 表17 図版136 掲載番号717)

総数1点出土し、図示した。717は棒状の製品で、石質はロディン岩。上半は断面円形で、多数の線状痕がある。部分的に削りによってできた稜もみられる。下半は断面多角形で、削りにより面が7つできている。面には、線状痕が残る面と、削りによる複数の段が残る面とがある。両端は折損している。回転による線状痕はなく、長軸と並行する線状痕しかみられないので、穿孔後の穴を整形するために使用されたものと推察される。

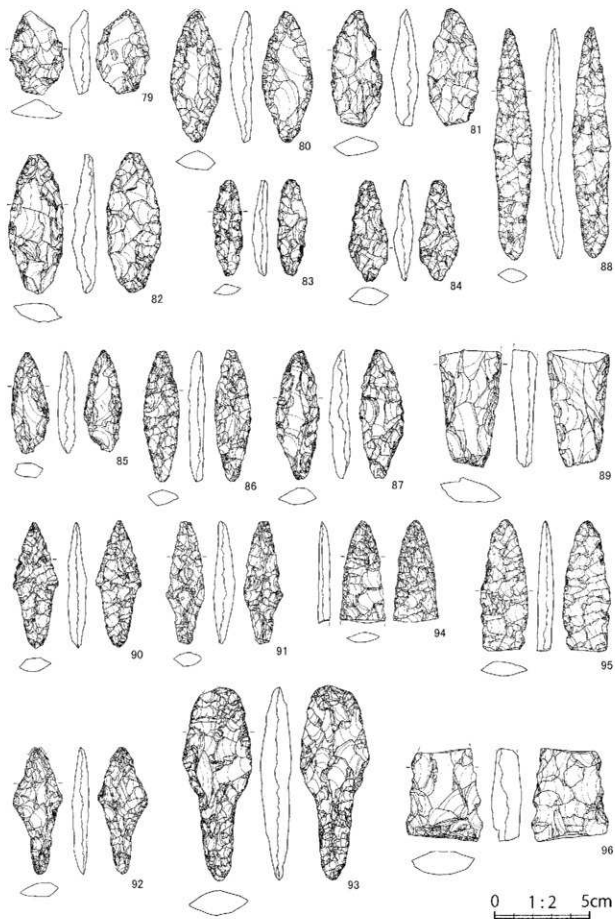
(383ページへ続く)



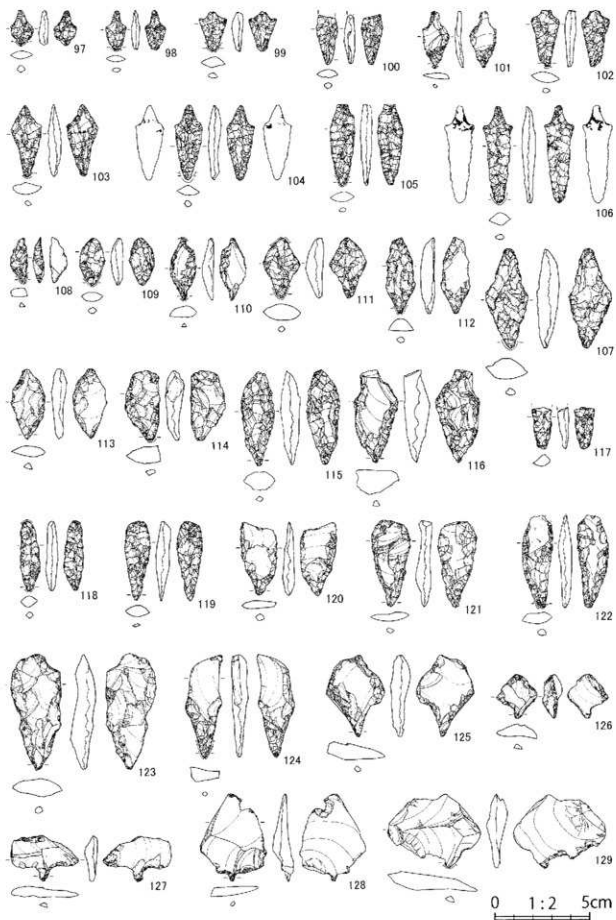
圖V-2-1 石器 (1) : 石鏃 (1)



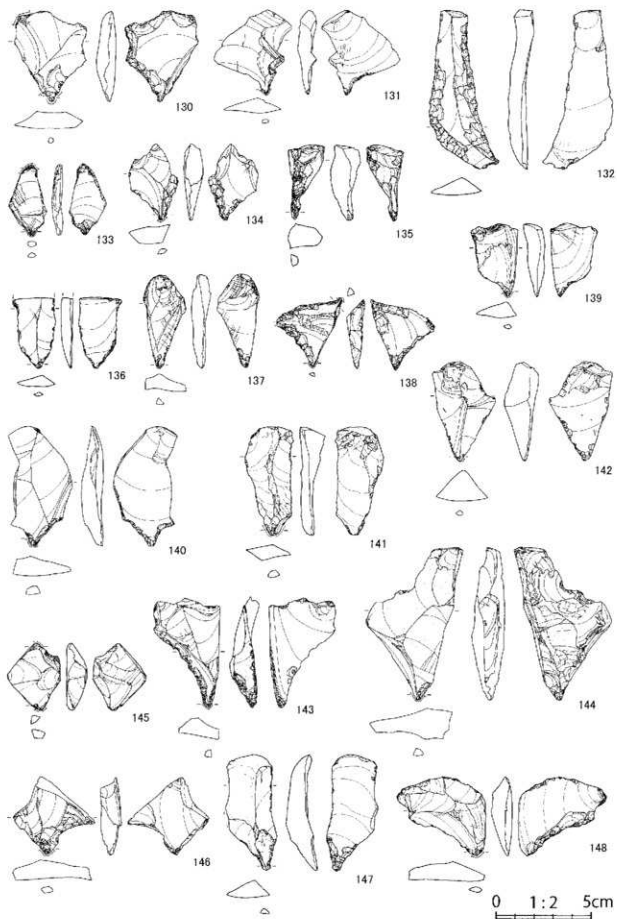
圖V-2-2 石器(2):石鏃(2)



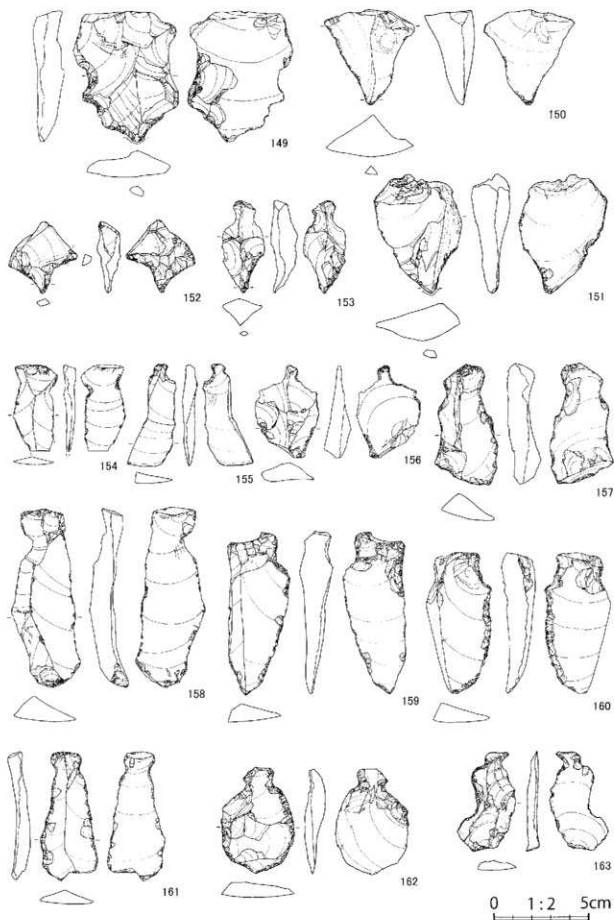
图V-2-3 石器(3):石槍



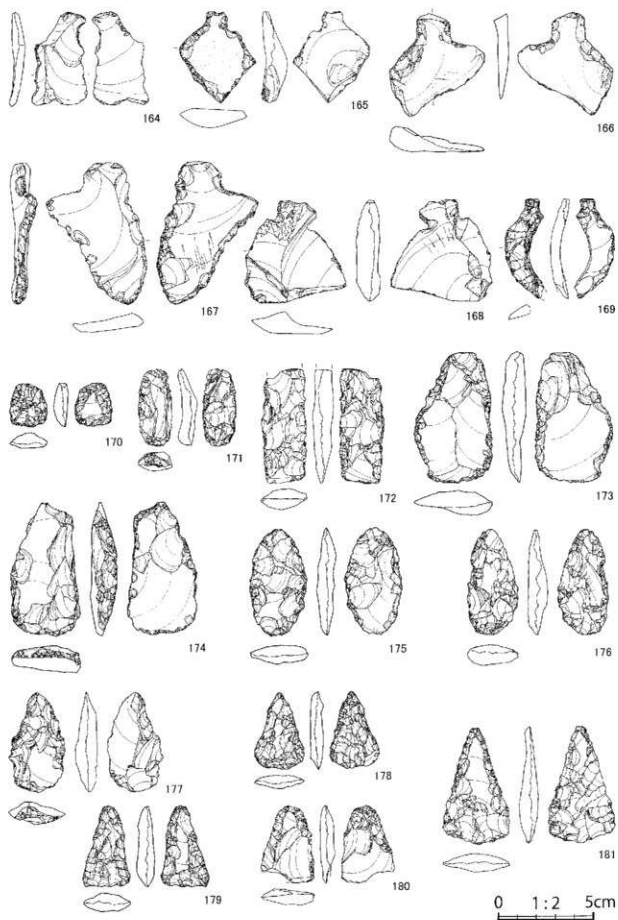
圖V-2-4 石器(4):石錐(1)



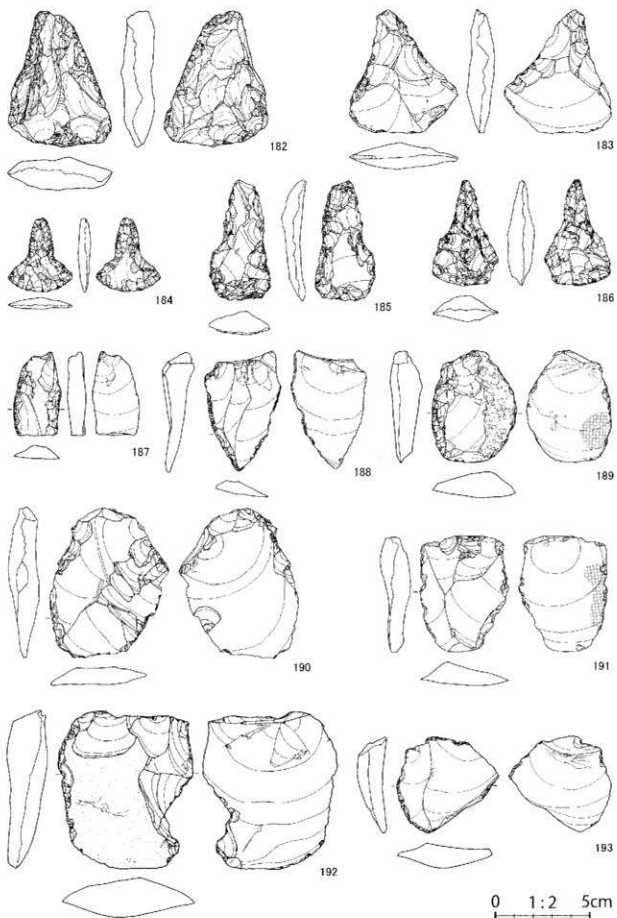
図V-2-5 石器(5):石錐(2)



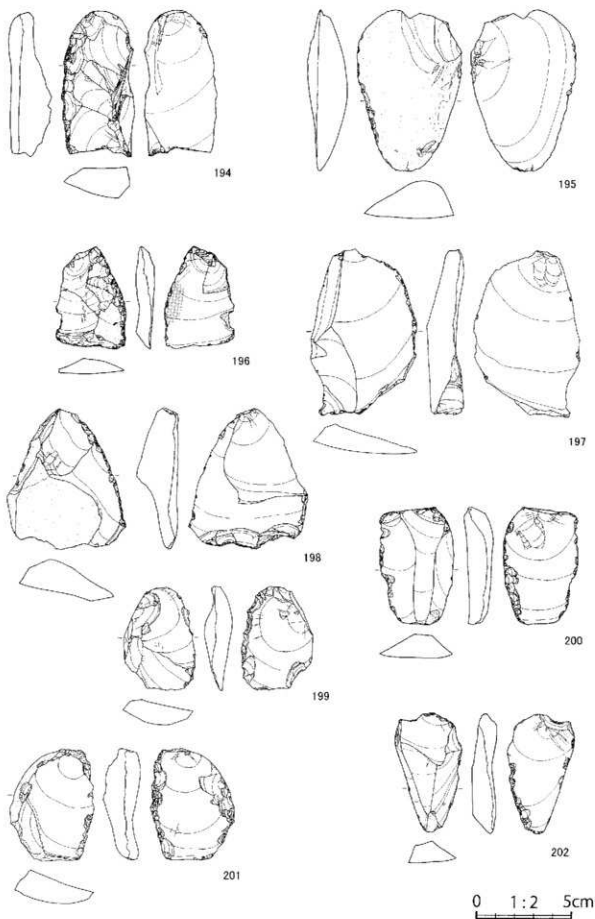
図V-2-6 石器(6):石錐(3)、つまみ付ナイフ(1)



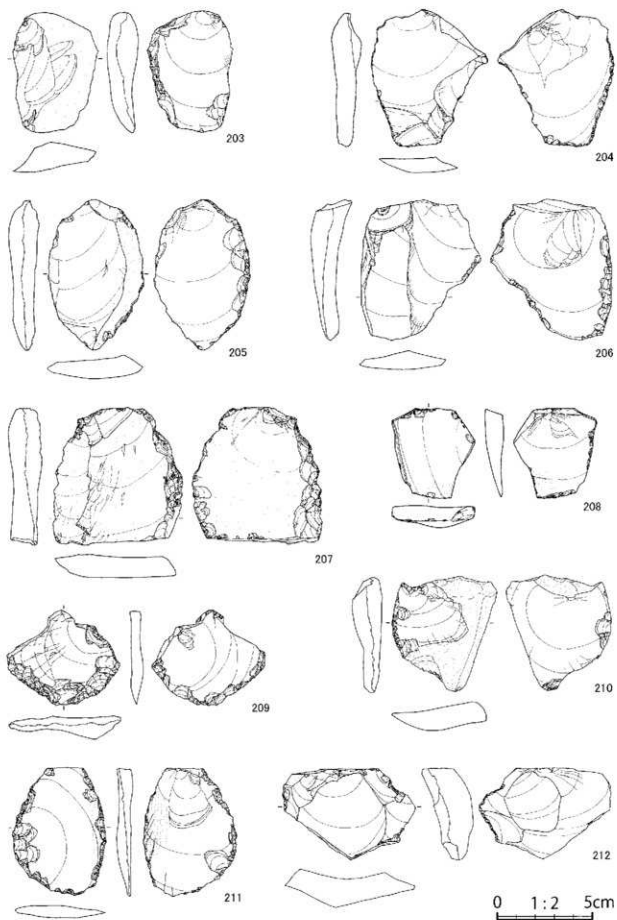
図V-2-7 石器 (7): つまみ付ナイフ (2)、籠状石器 (1)



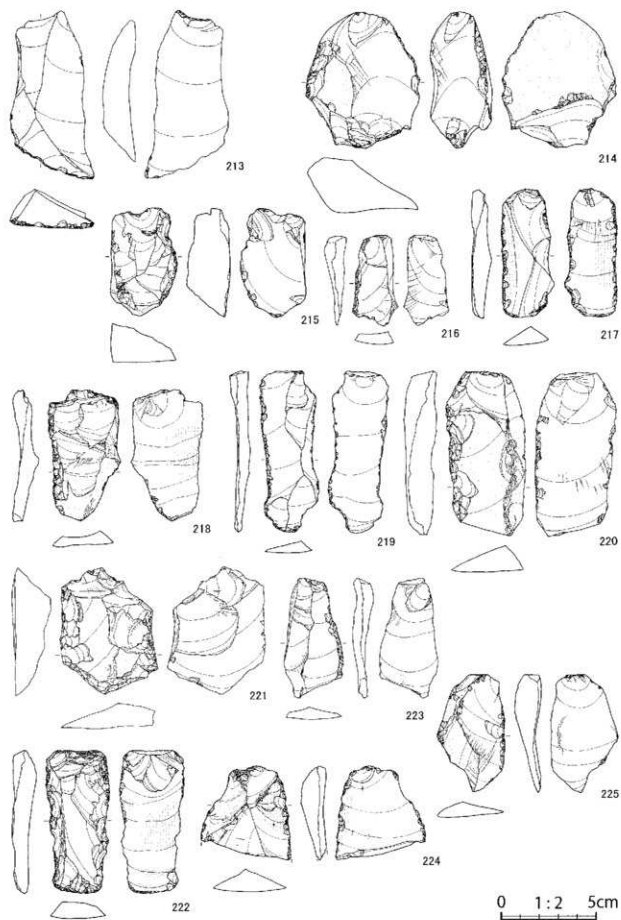
図V-2-8 石器 (8) : 籠状石器 (2)、スクレイパー (1)



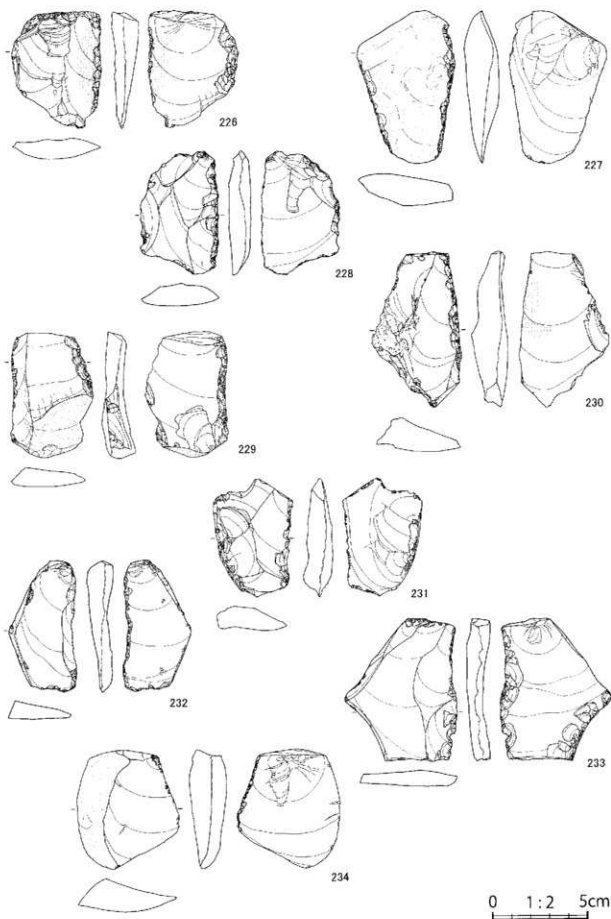
図V-2-9 石器(9):スクレイパー(2)



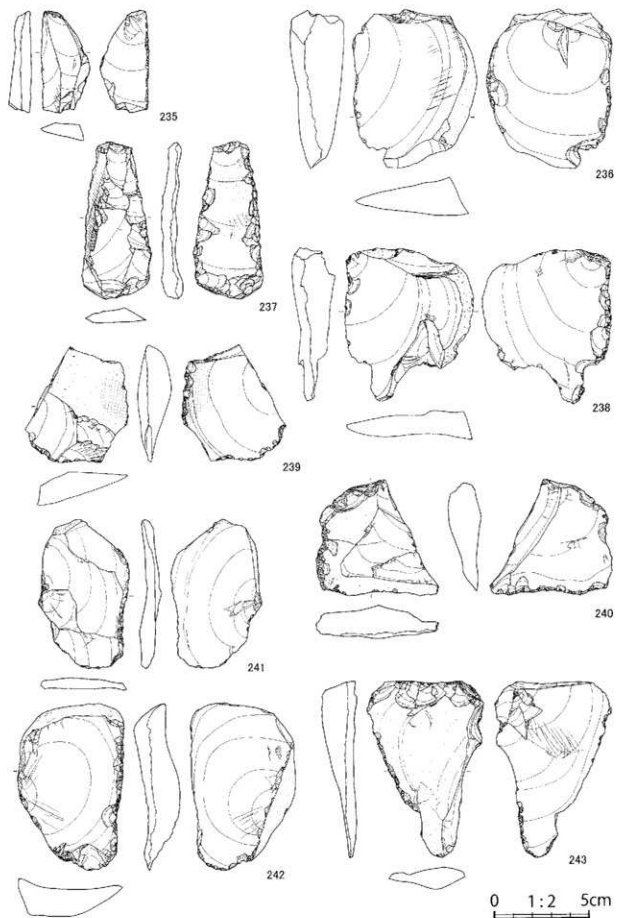
図V-2-10 石器 (10) : スクレイパー (3)



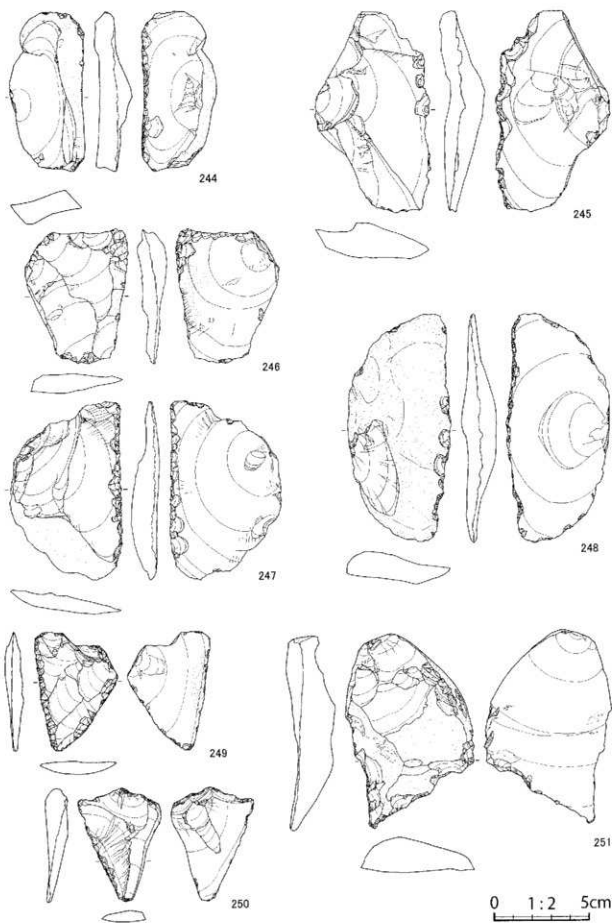
図V-2-11 石器 (11): スクレイバー (4)



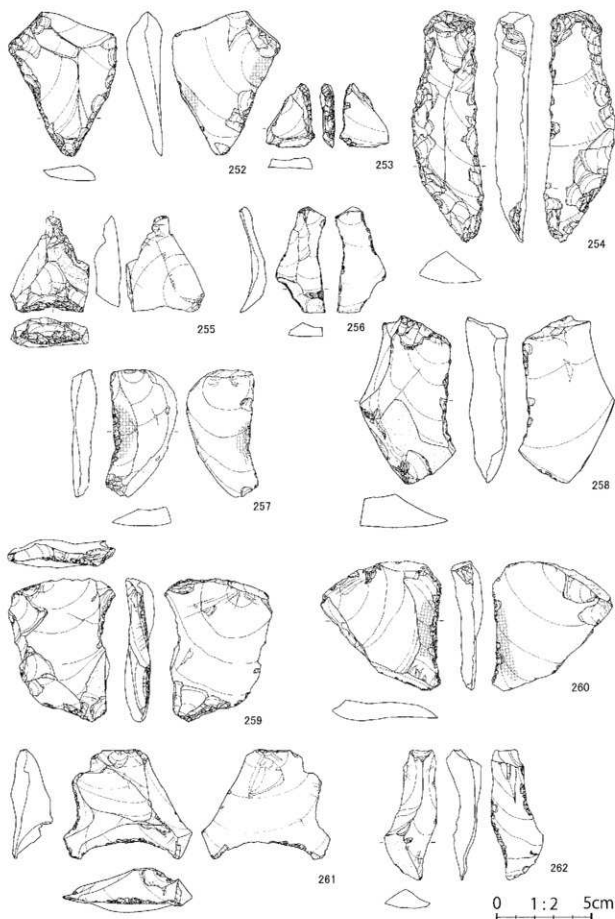
図V-2-12 石器 (12) : スクレイバー (5)



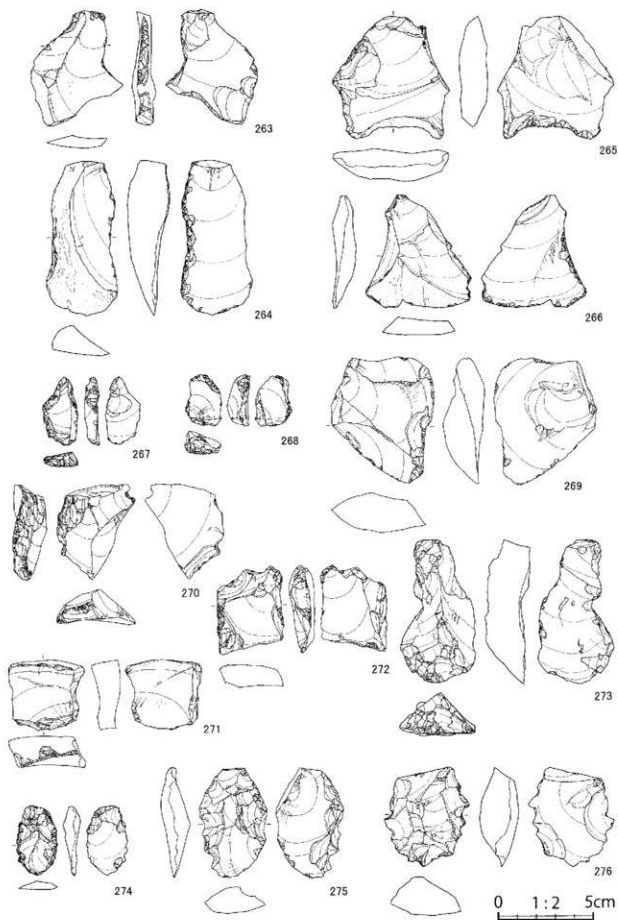
図V-2-13 石器 (13) : スクレイパー (6)



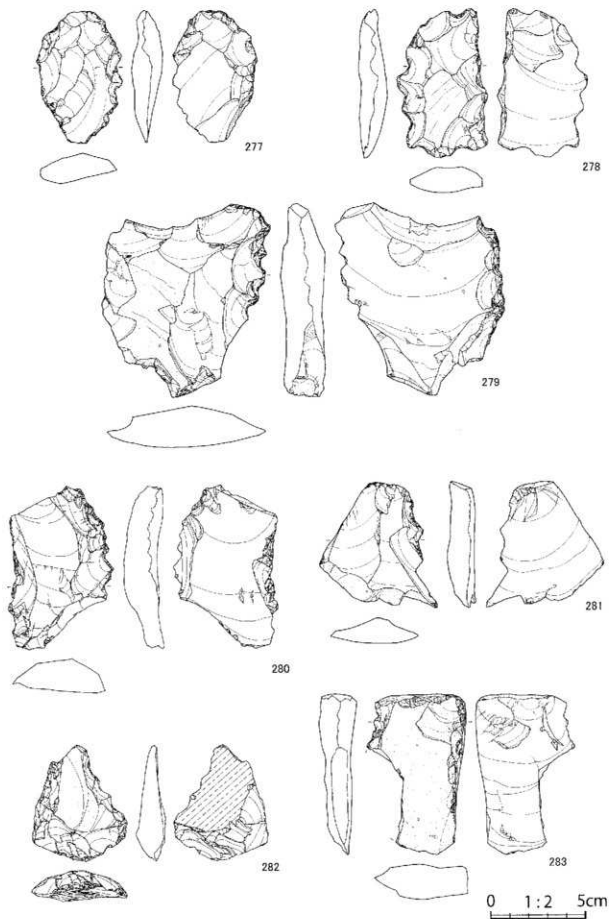
図V-2-14 石器 (14) : スクレイパー (7)



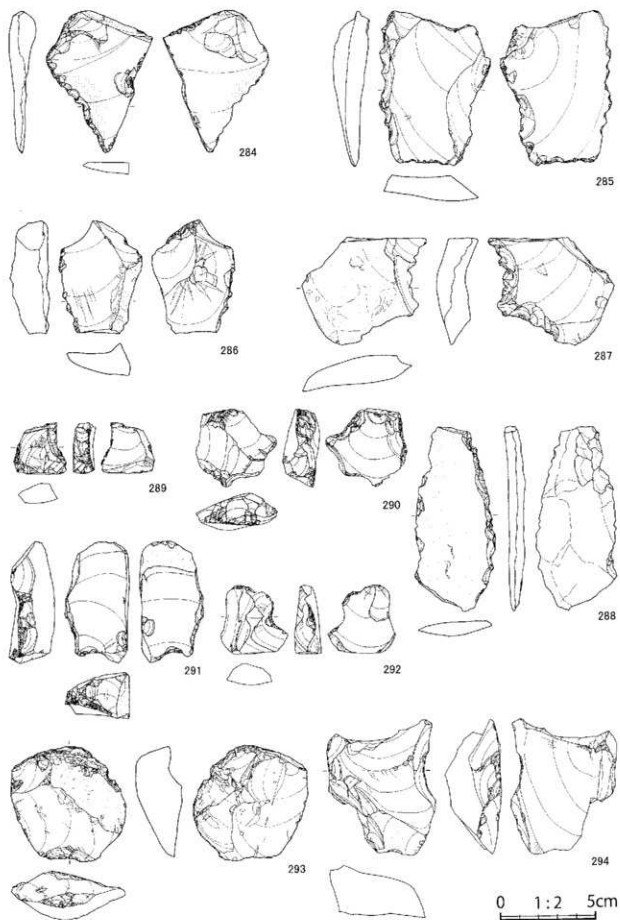
図V-2-15 石器 (15): スクレイパー (8)



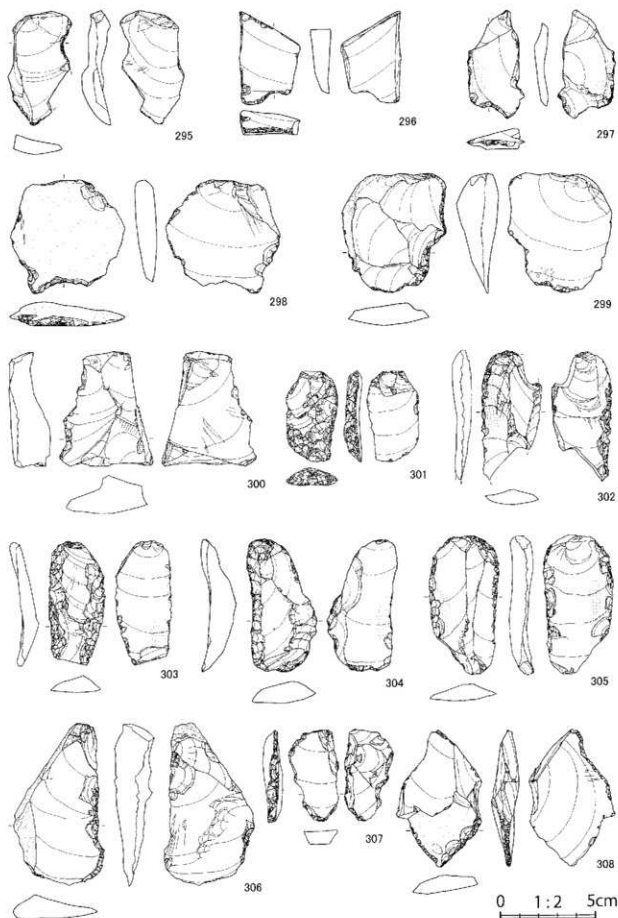
図V-2-16 石器 (16) : スクレイパー (9)



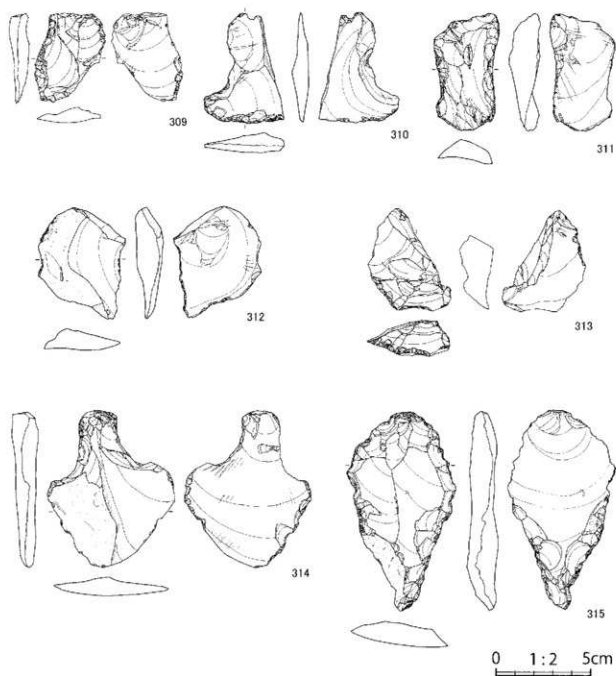
図V-2-17 石器 (17) : スクレイパー (10)



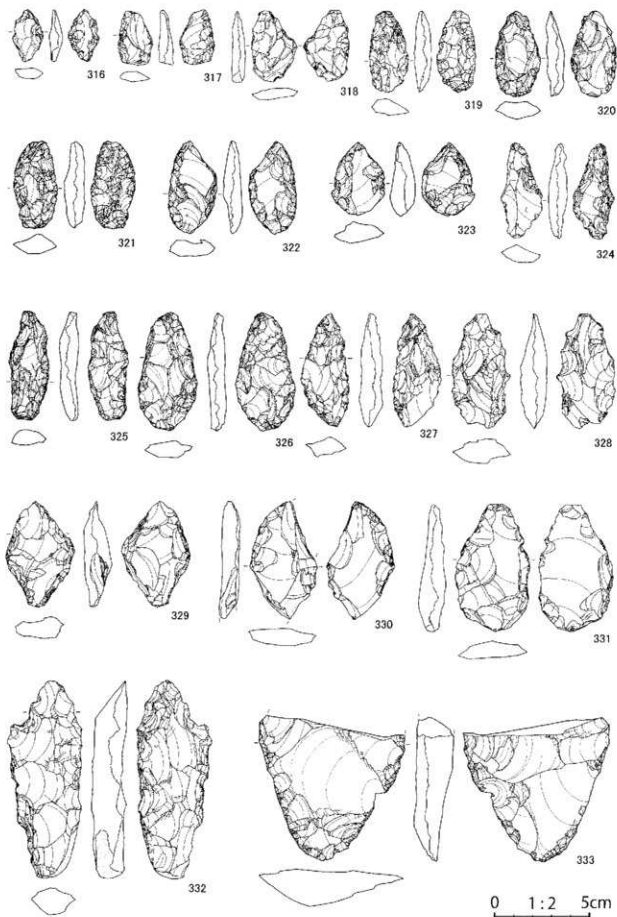
図V-2-18 石器 (18) : スクレイパー (11)



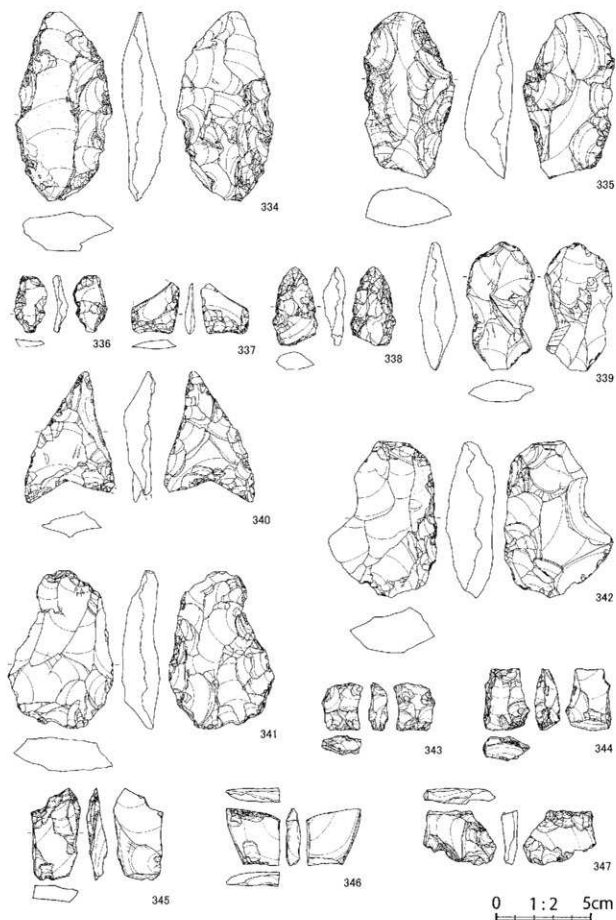
図V-2-19 石器 (19) : スクレイパー (12)



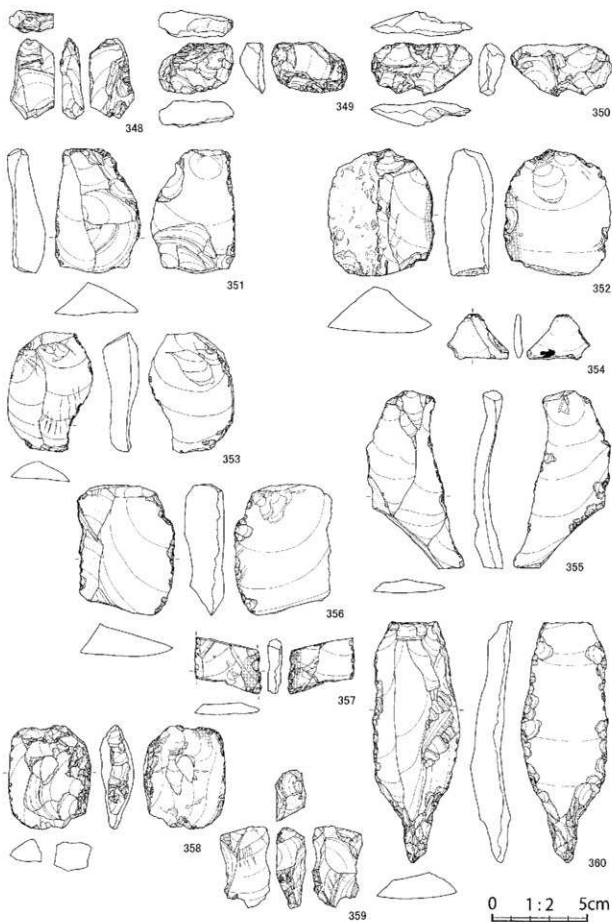
図V-2-20 石器 (20) : スクレイパー (13)



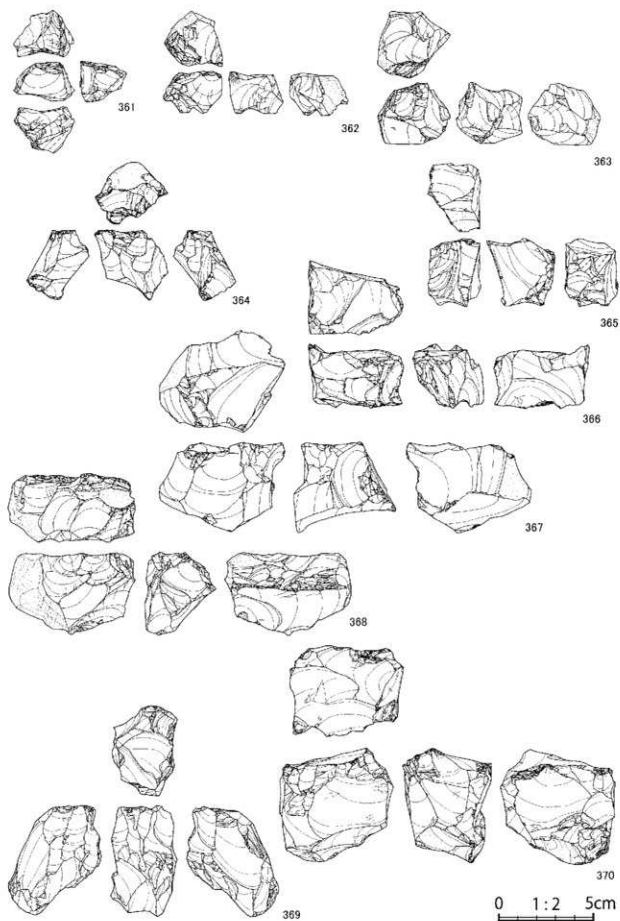
圖V-2-21 石器 (21): 兩面調整石器 (1)



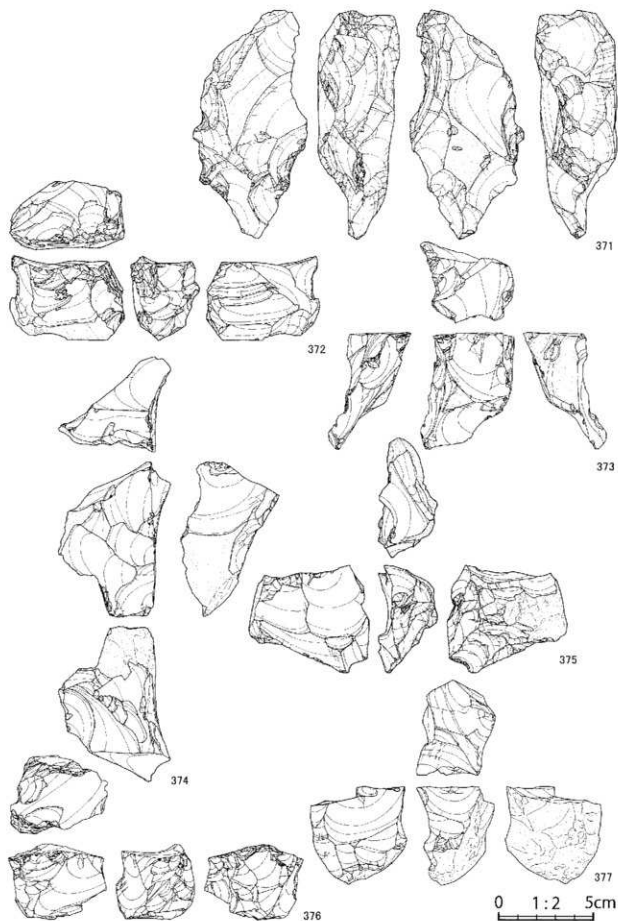
圖V-2-22 石器(22): 兩面調整石器(2)、楔形石器(1)



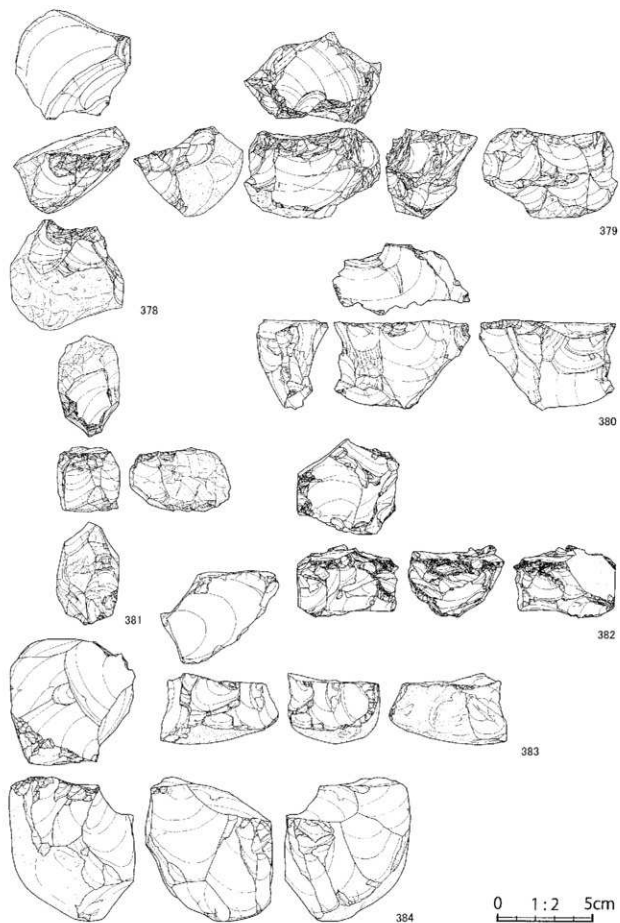
図V-2-23 石器(23): 楔形石器(2)、Rフレイク



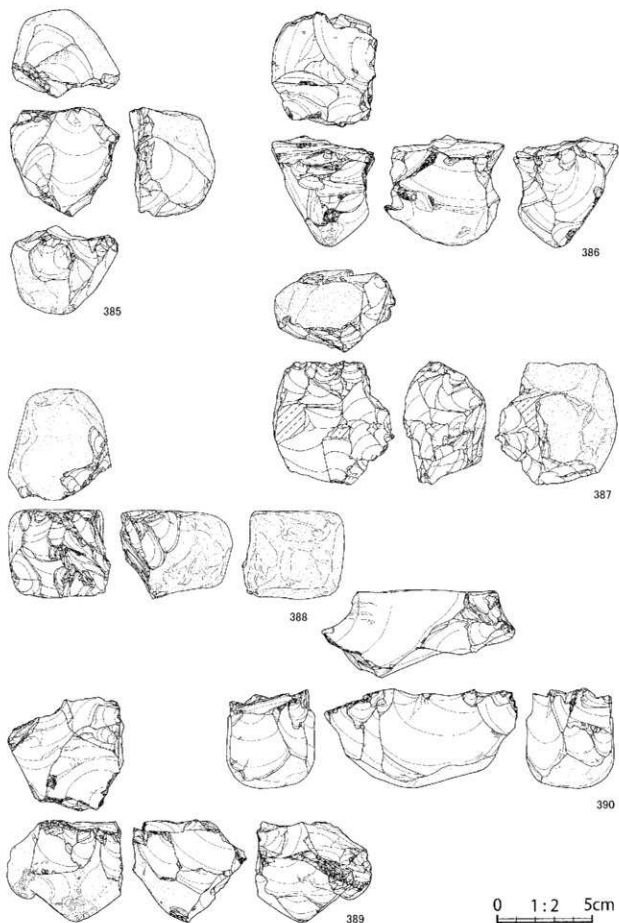
圖V-2-24 石器 (24) : 石核 (1)



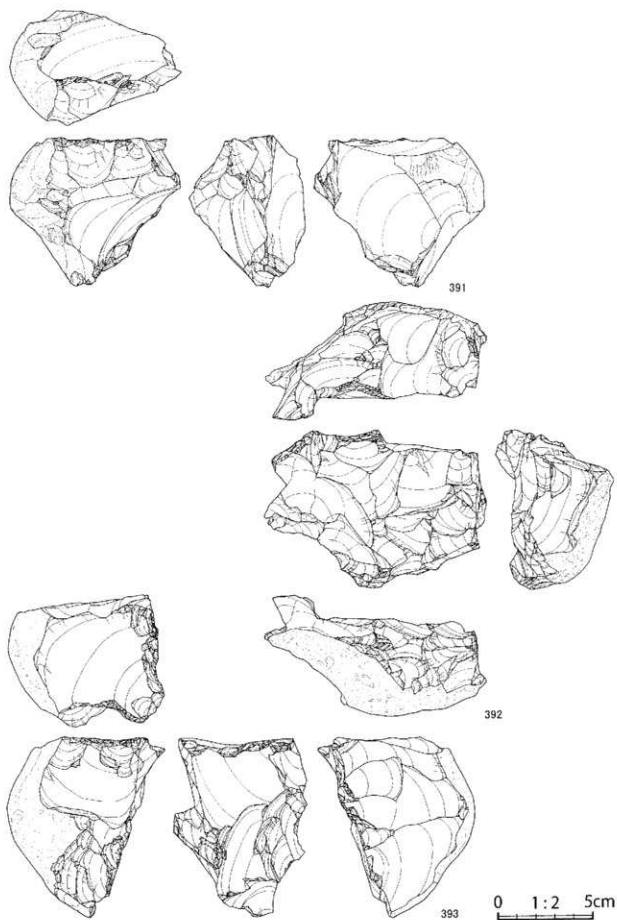
图V-2-25 石器(25):石核(2)



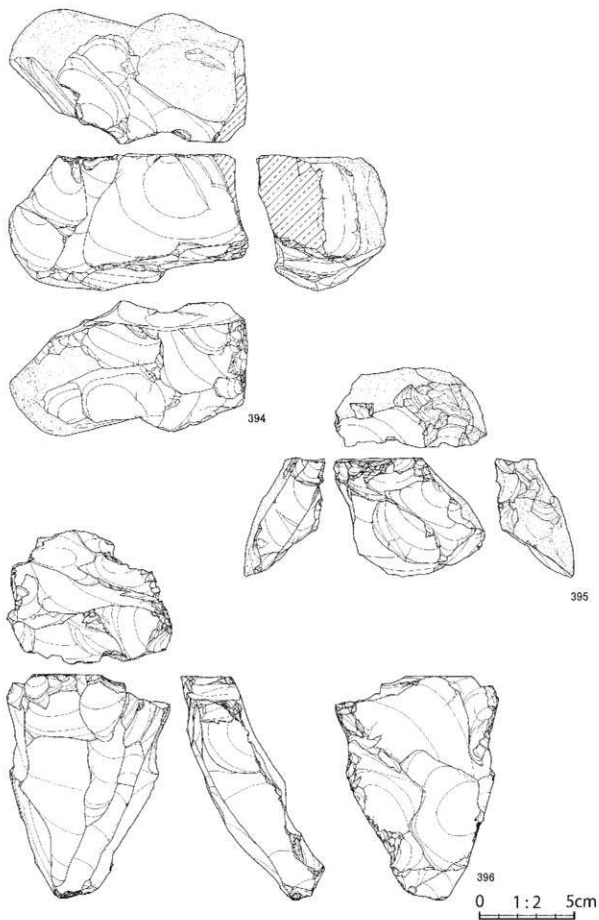
図V-2-26 石器(26):石核(3)



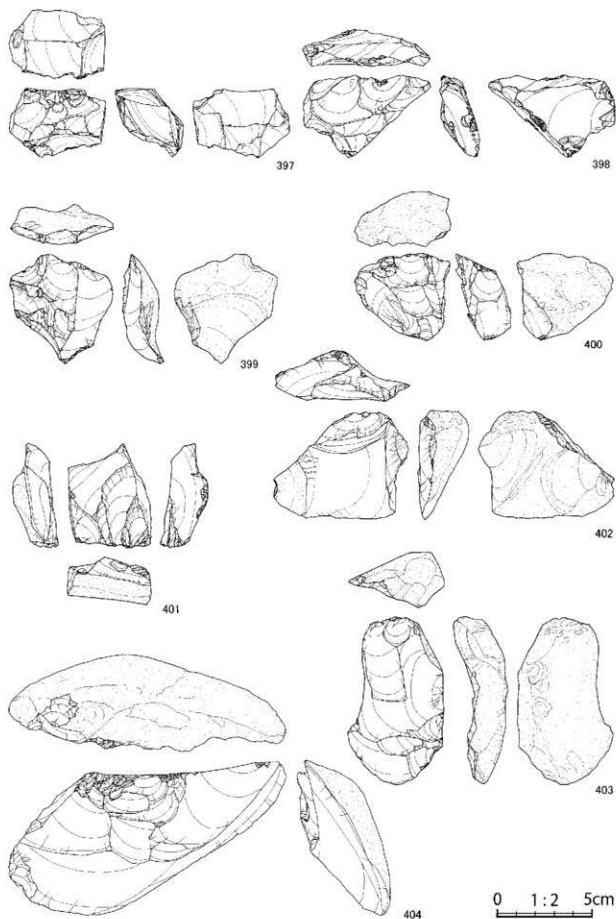
图V-2-27 石器(27):石核(4)



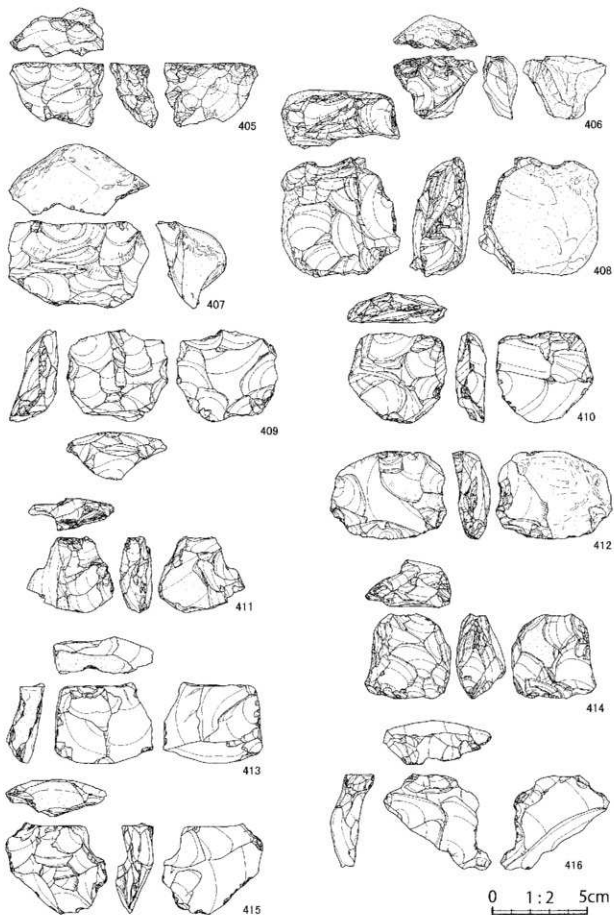
図V-2-28 石器(28):石核(5)



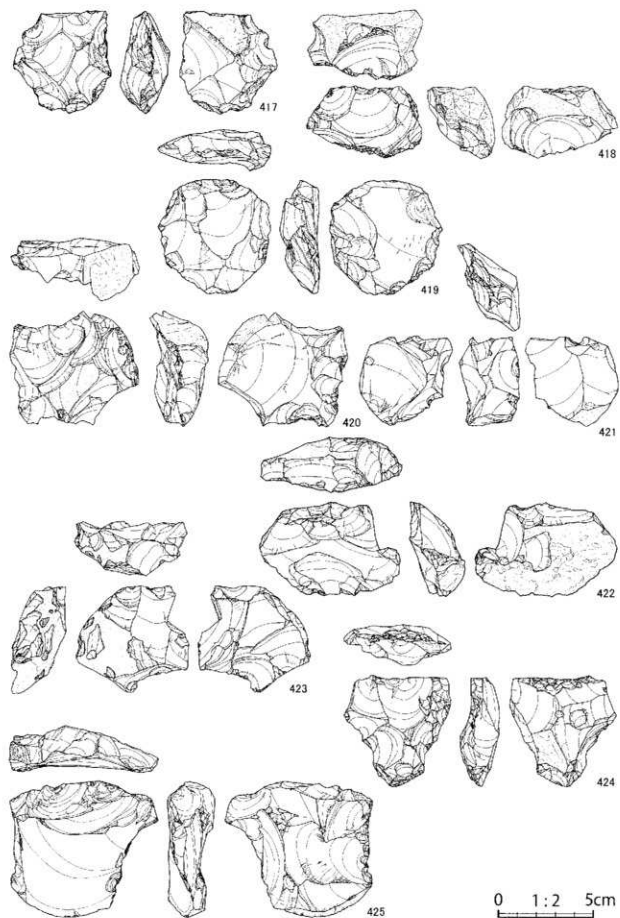
图V-2-29 石器 (29): 石核 (6)



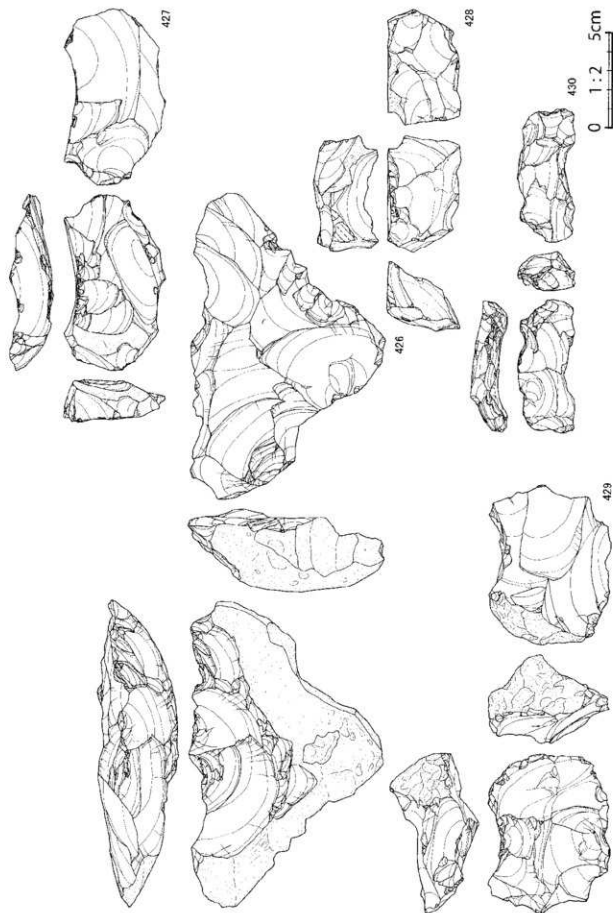
図V-2-30 石器(30):石核(7)



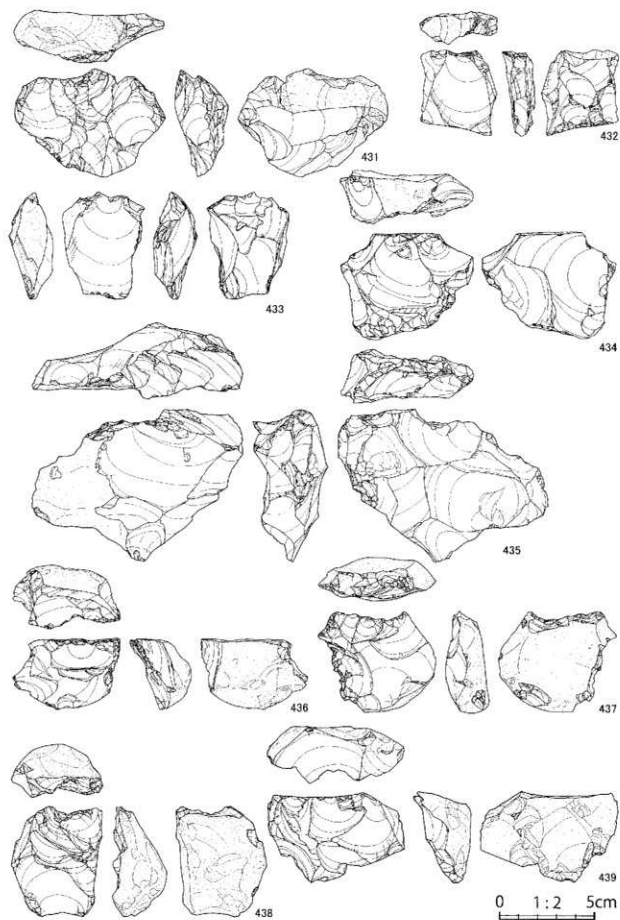
图V-2-31 石器 (31): 石核 (8)



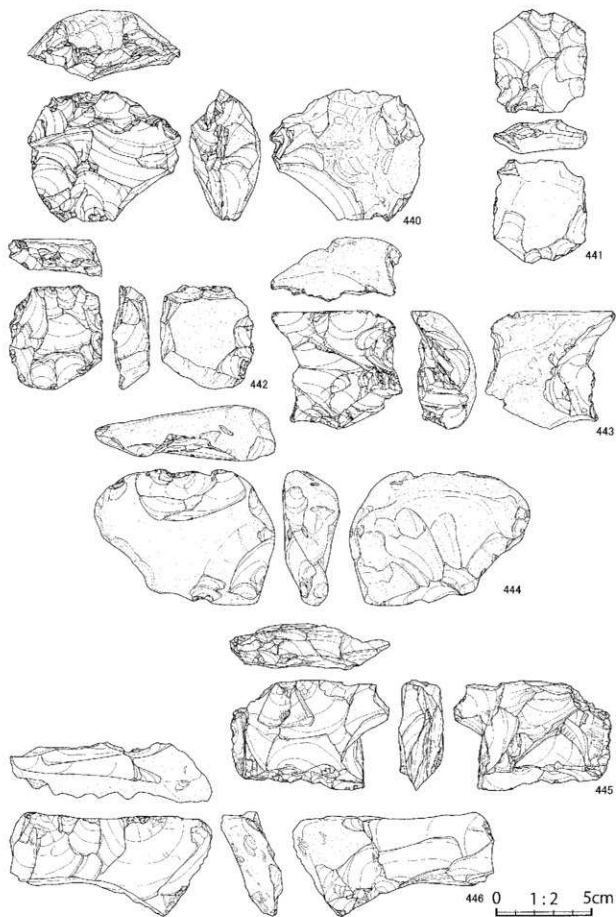
図V-2-32 石器(32):石核(9)



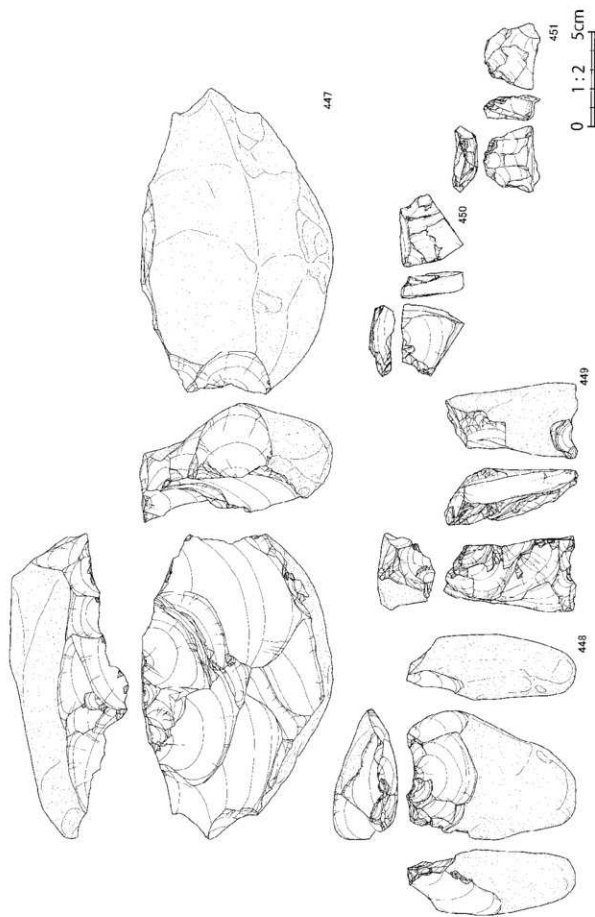
图V-2-33 石器(33):石核(10)



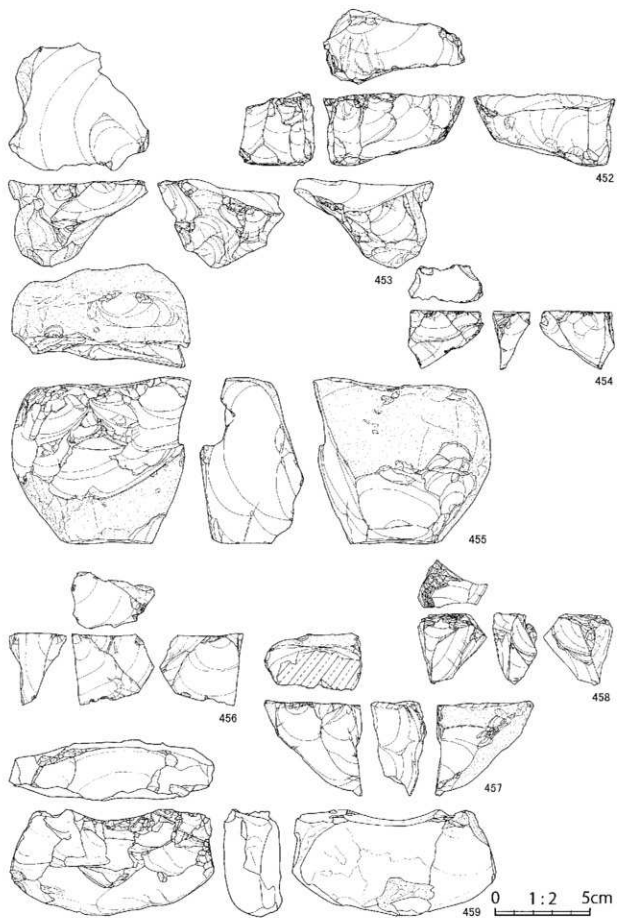
図V-2-34 石器 (34) : 石核 (11)



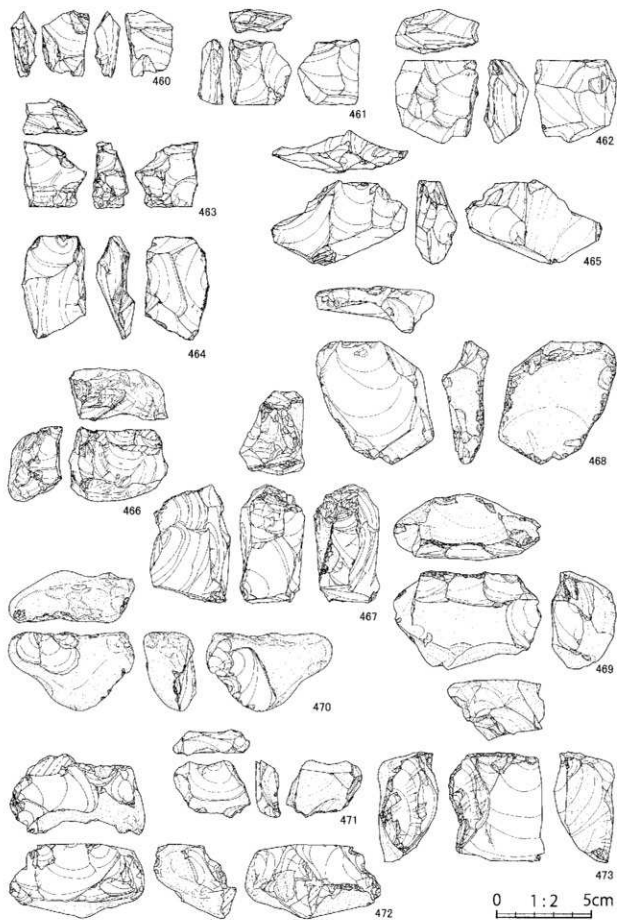
图V-2-35 石器(35):石核(12)



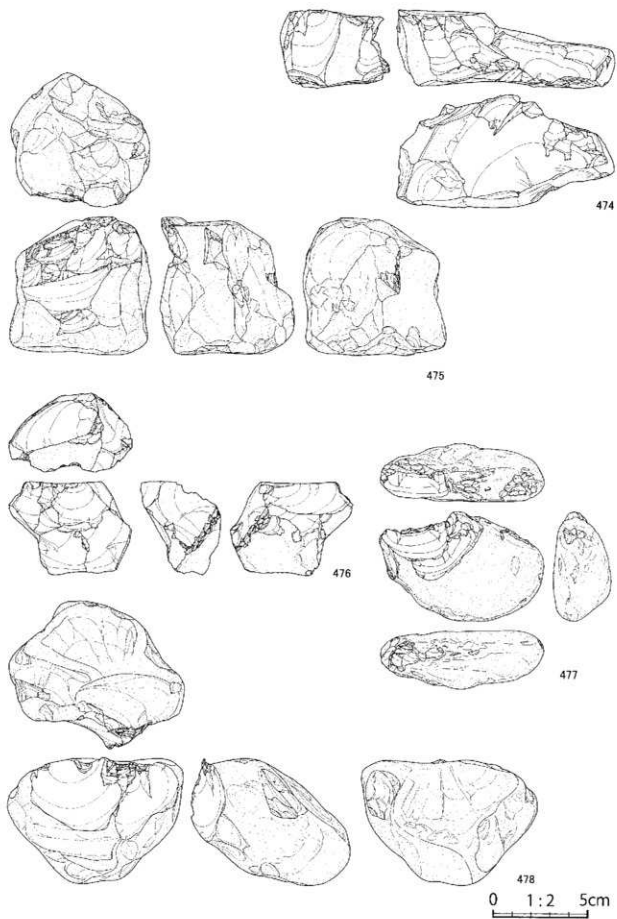
図V-2-36 石器(36):石核(13)



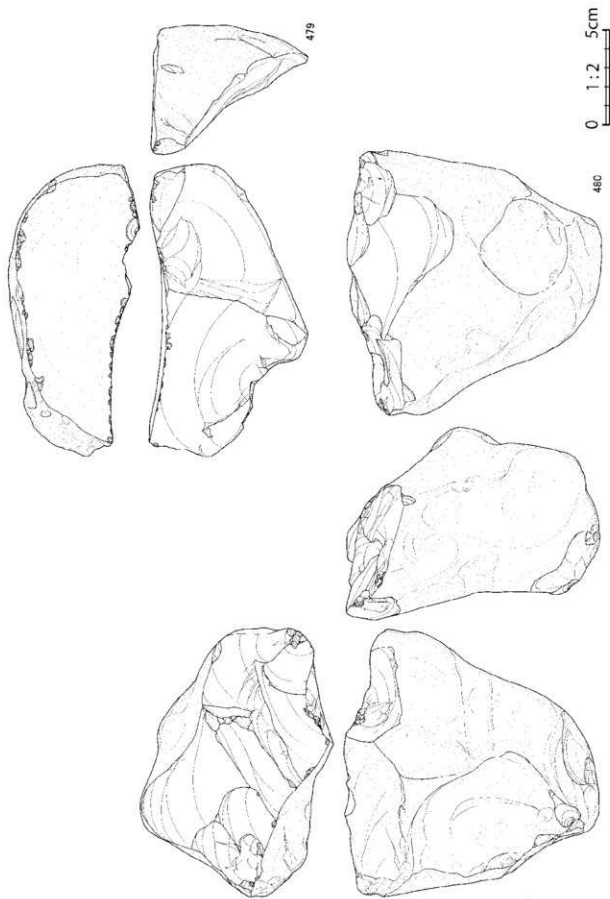
图V-2-37 石器 (37) : 石核 (14)



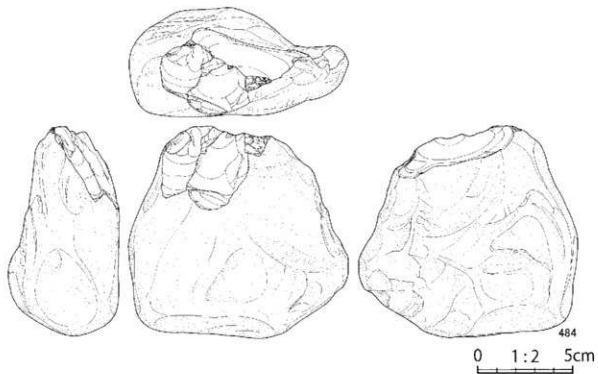
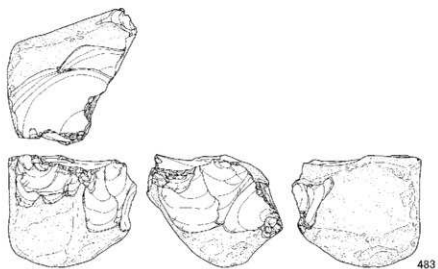
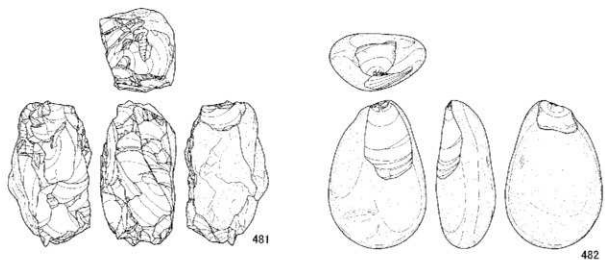
図V-2-38 石器(38):石核(15)



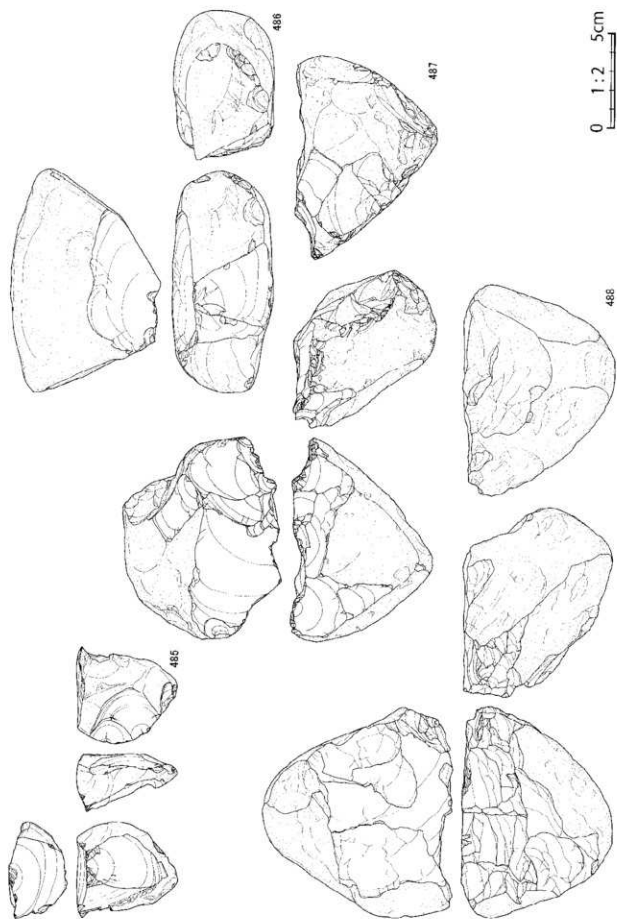
图V-2-39 石器 (39): 石核 (16)



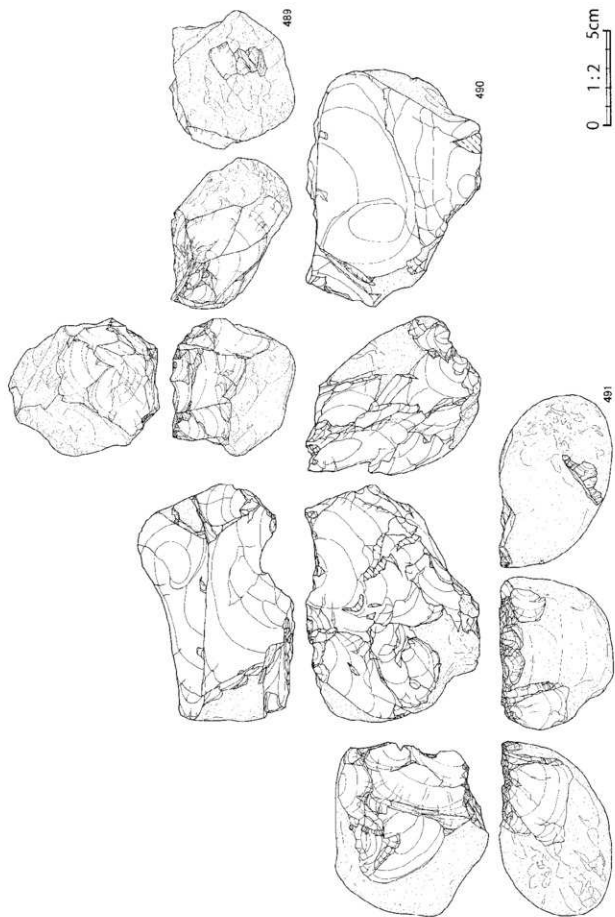
圖V-2-40 石器(40)：石核(17)



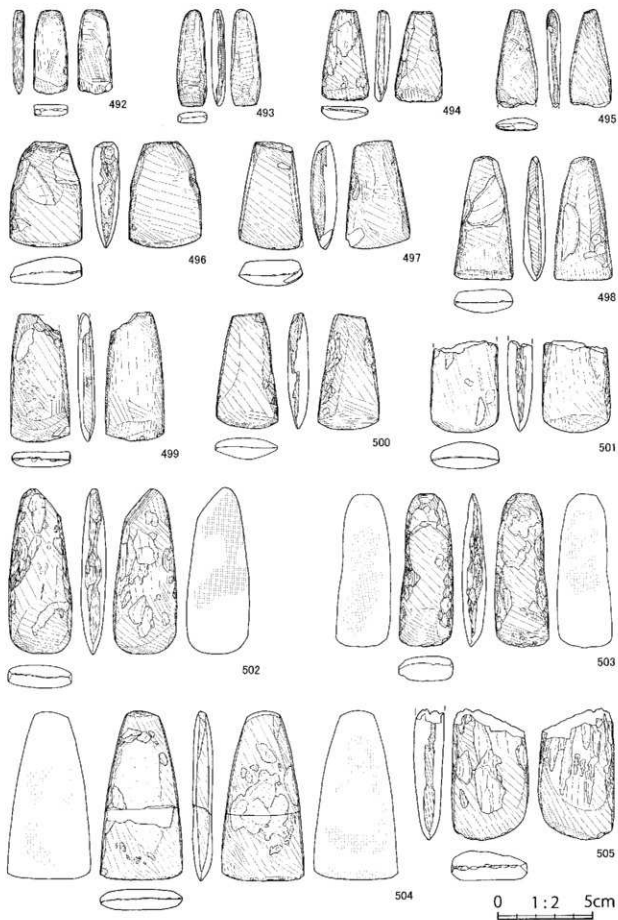
图V-2-41 石器(41):石核(18)



圖V-2-42 石器(42):石核(19)



图V-2-43 石器(43): 石核(20)



图V-2-44 石器(44):石斧(1)

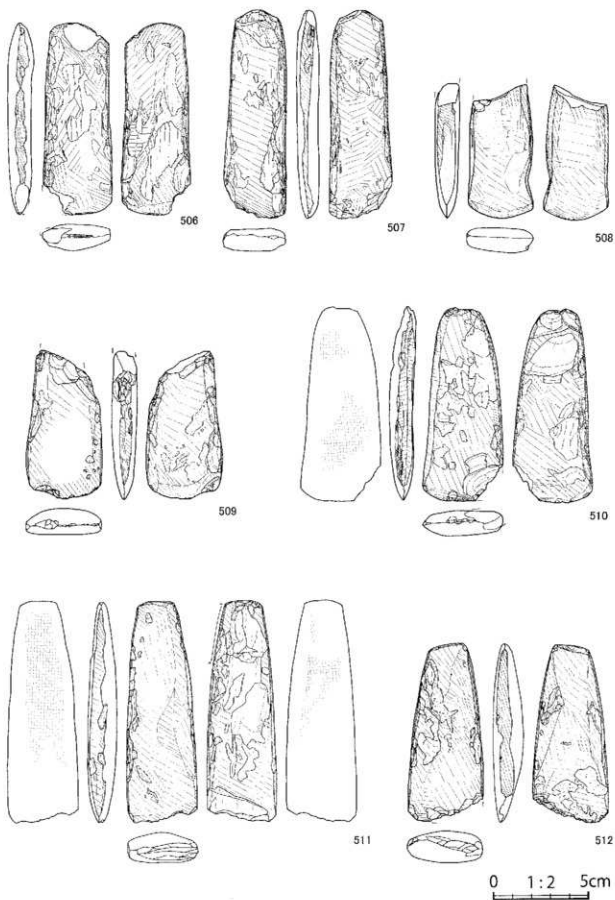
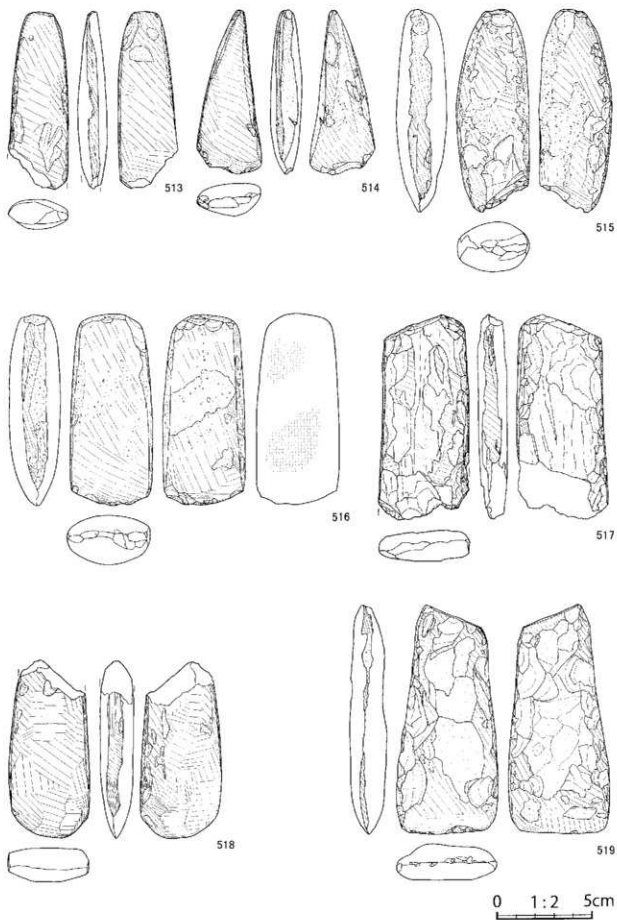
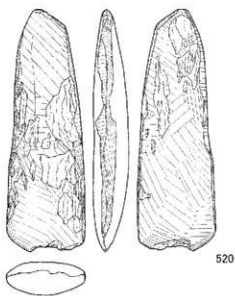


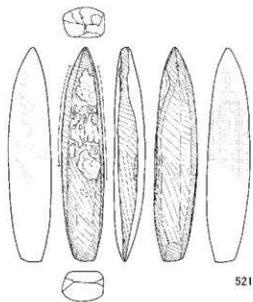
图 V-2-45 石器 (45) : 石斧 (2)



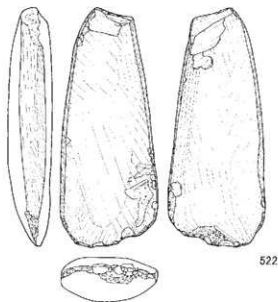
図V-2-46 石器(46):石斧(3)



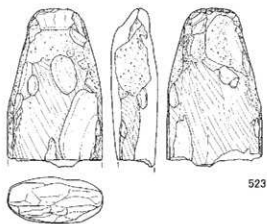
520



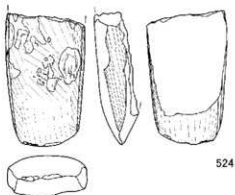
521



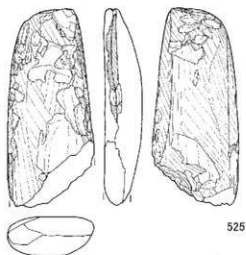
522



523



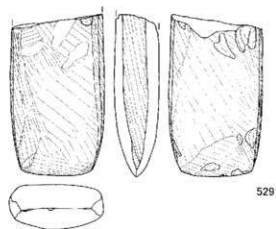
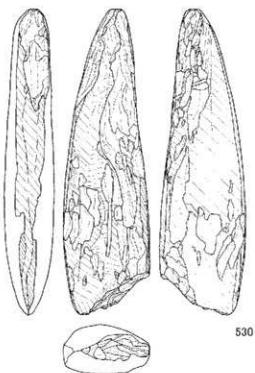
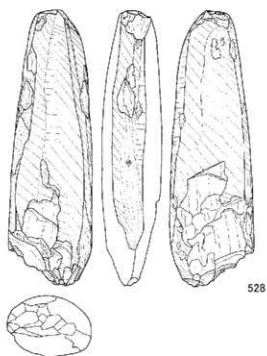
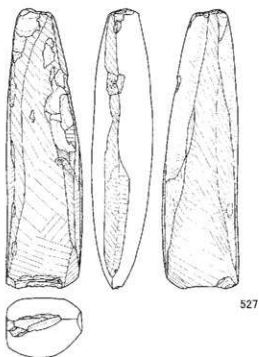
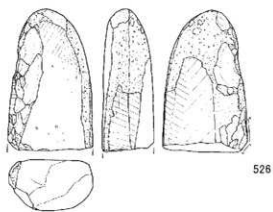
524



525

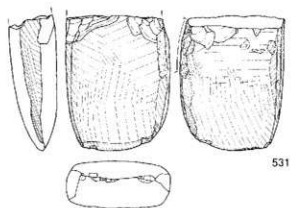
0 1:2 5cm

图V-2-47 石器(47):石斧(4)

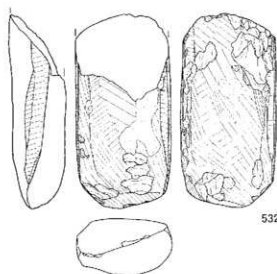


0 1:2 5cm

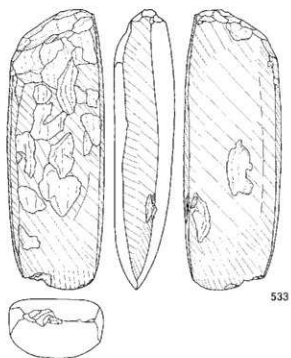
図V-2-48 石器(48):石斧(5)



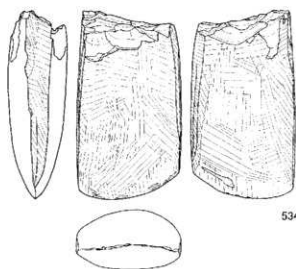
531



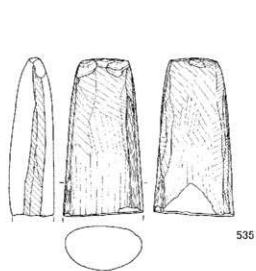
532



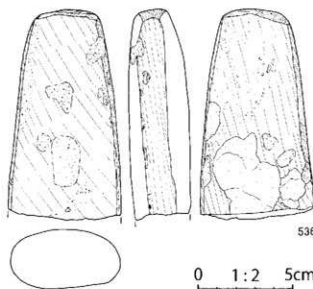
533



534



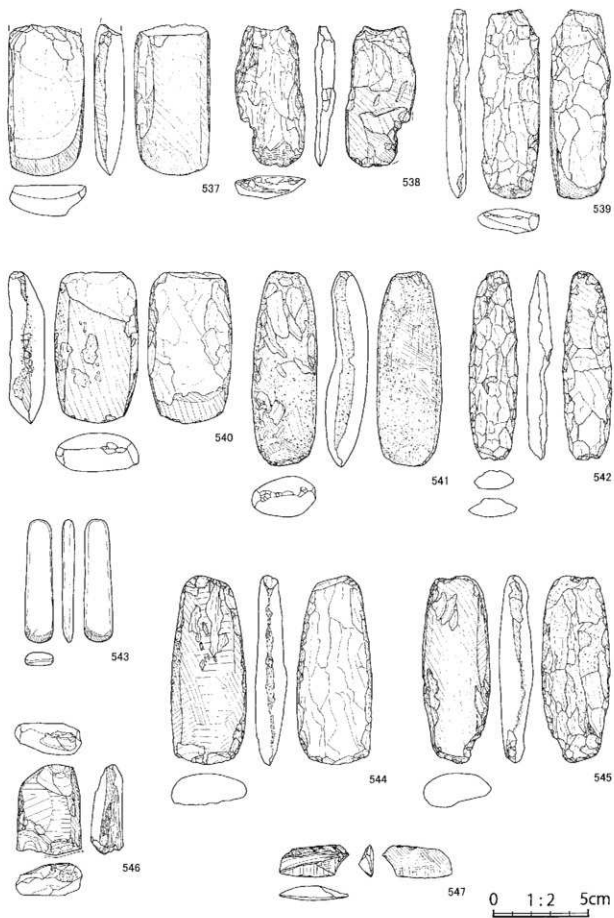
535



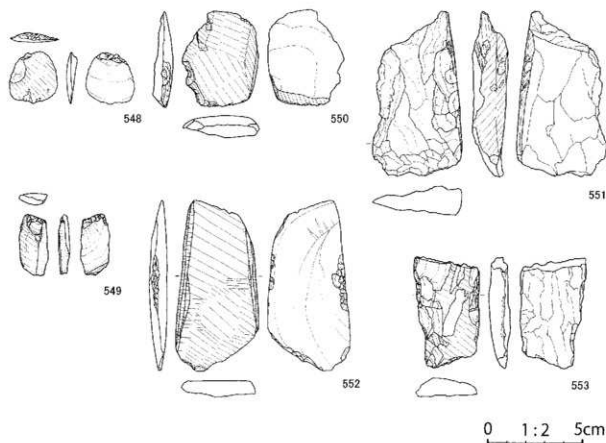
536

0 1:2 5cm

图 V-2-49 石器 (49): 石斧 (6)



図V-2-50 石器(50):石斧(7)



図V-2-51 石器 (51) : 石斧 (8)

3 骨角器 (図V-2-74 表17 図版136 掲載番号718~720)

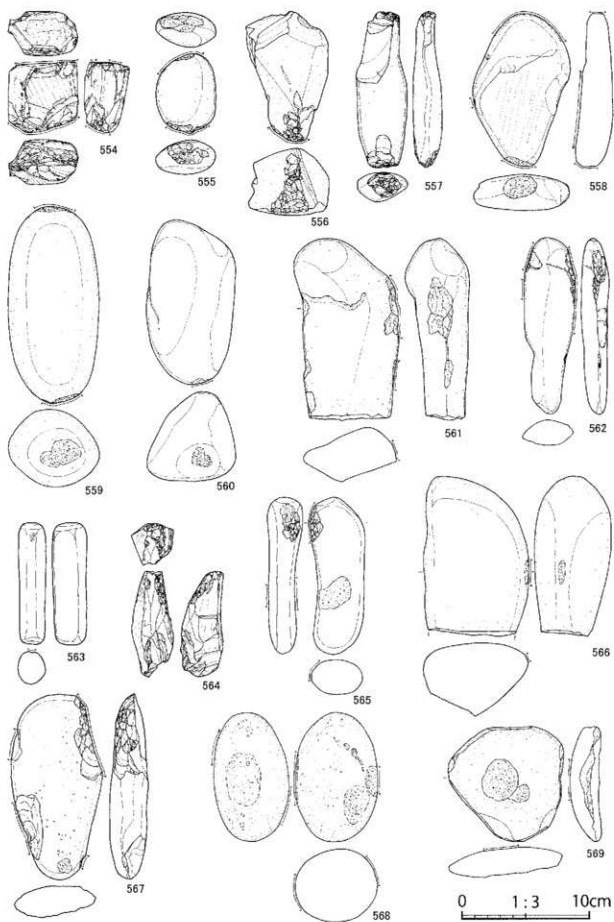
焼骨が確認された土壌を採取し、水洗選別したところ、4点の骨角器を確認し、3点図示した。

718・719は、残片とした。いずれも棒状の骨角器を加工、調整する際に把手とされた部分。

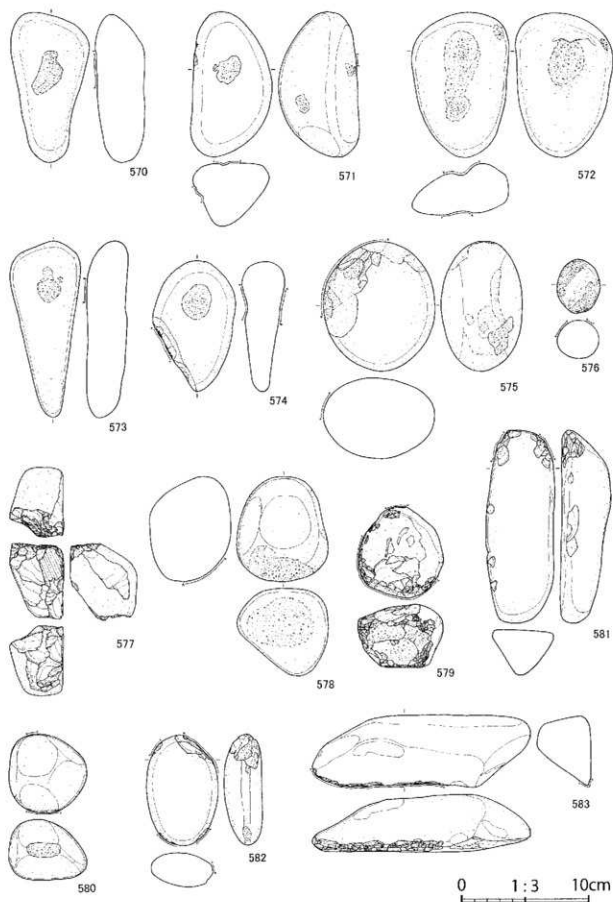
718は、陸獣骨製と推定される。最大厚5.05mm、実体顕微鏡下で、断面にはハバース管を中心にもつ円形の骨単位(オステオン)を、明瞭にみることができる。表面から内面までオステオンの構造は均質。断面形は、かまぼこ形～扇形。表面は、右側に骨の表面、左側に複数の線状痕が残る平坦面が二面ある。中央の面は剥離したのか平滑面となっている。裏面は、右側に骨の内面、左側に被打つ剥離面。末端は、不明瞭ながら鋸歯状の折れ面となっている。上方は、被熱後に破損しており、切り離した痕跡をみることはできない。ただ、整形状況などから、骨の剥片に研磨ないし挽き切り加工を施し、刺突具を製作した後に残された残片と判断した。

719は、陸獣骨製と推定される。最大厚5.73mm、断面は、扇形を呈し、実体顕微鏡下で、骨単位を不明瞭ながら観察することができる。扇形の弧にあたる部分は、骨表面で、僅かに研磨されている。側面の一つは、平滑で、特に加工痕は見いだせない。人為的な剥離面というよりは、乾燥などによるひびによってできた面と思われる。もう一面には、長軸に沿って、明瞭な線状痕が複数残る。線状痕は、骨表面を下にして、4段ほどの階段状になっている。つまり、骨内面側から挽き切りしたものと推定される。上端部は、平滑な折断面となっている。この折断面に接する、線状痕のある面の一角に、長軸に直交する挽き切り痕がある。下端部は、二段をなすが、いずれも平滑な面。

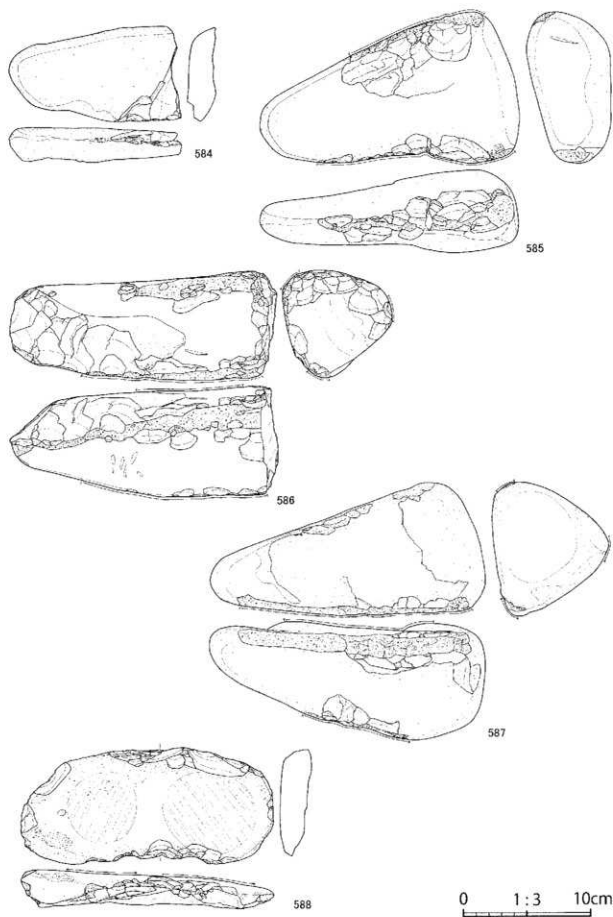
(407ページへ続く)



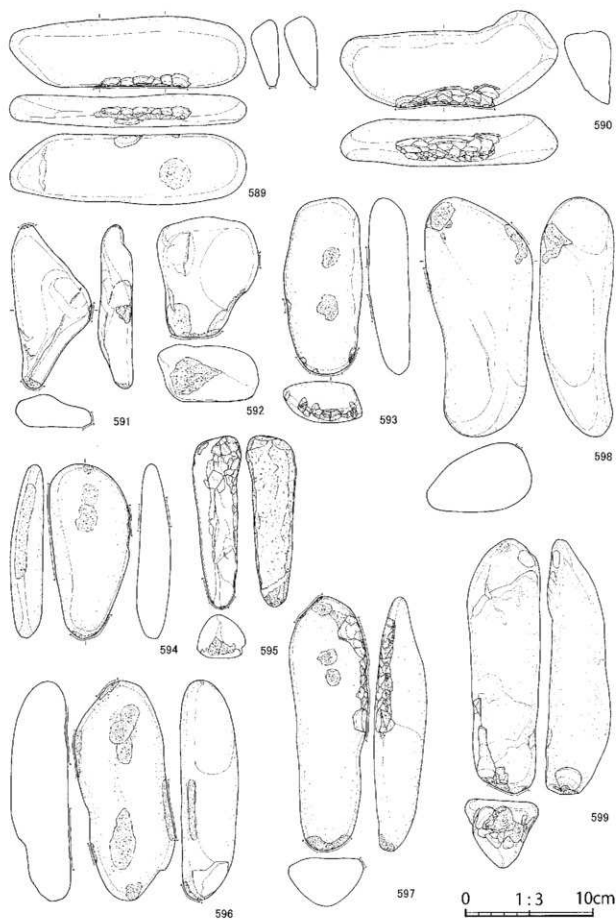
図V-2-52 石器(52):たたき石(1)



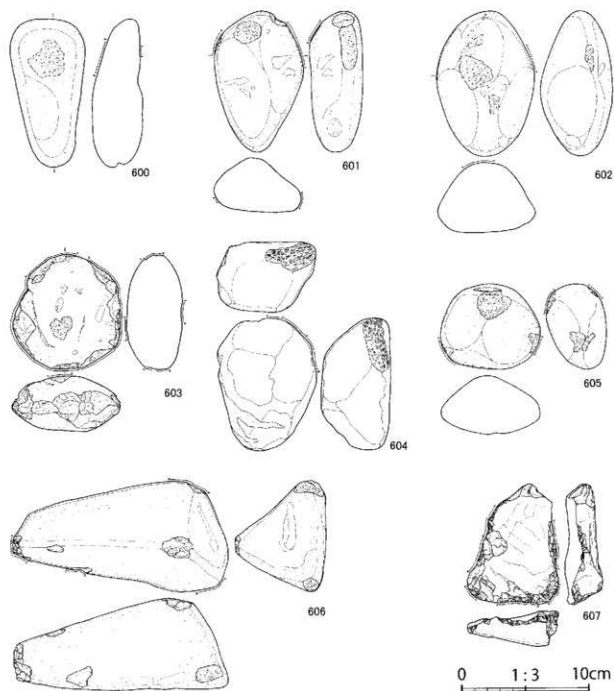
図V-2-53 石器 (53) : たたき石 (2)



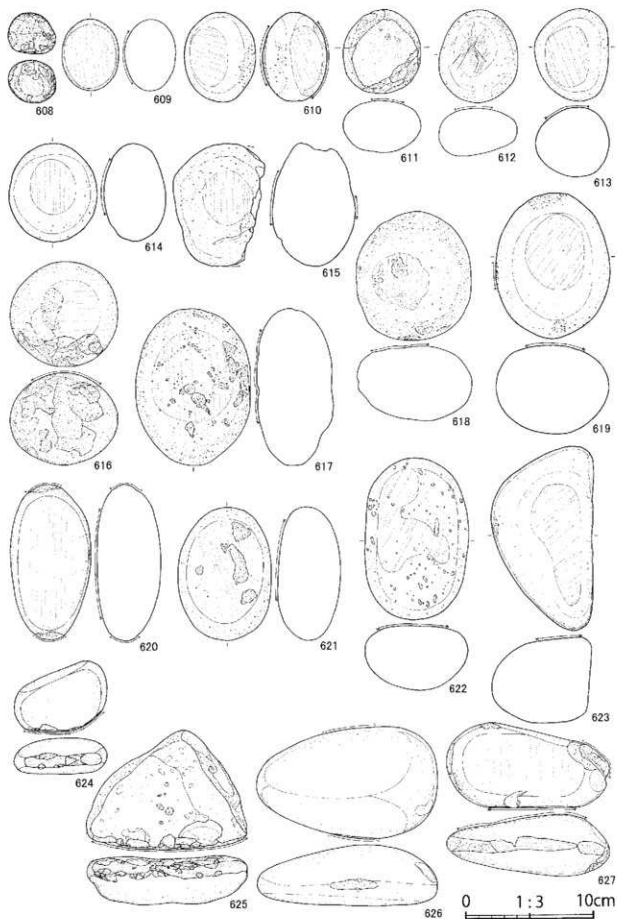
図V-2-54 石器 (54) : たたき石 (3)



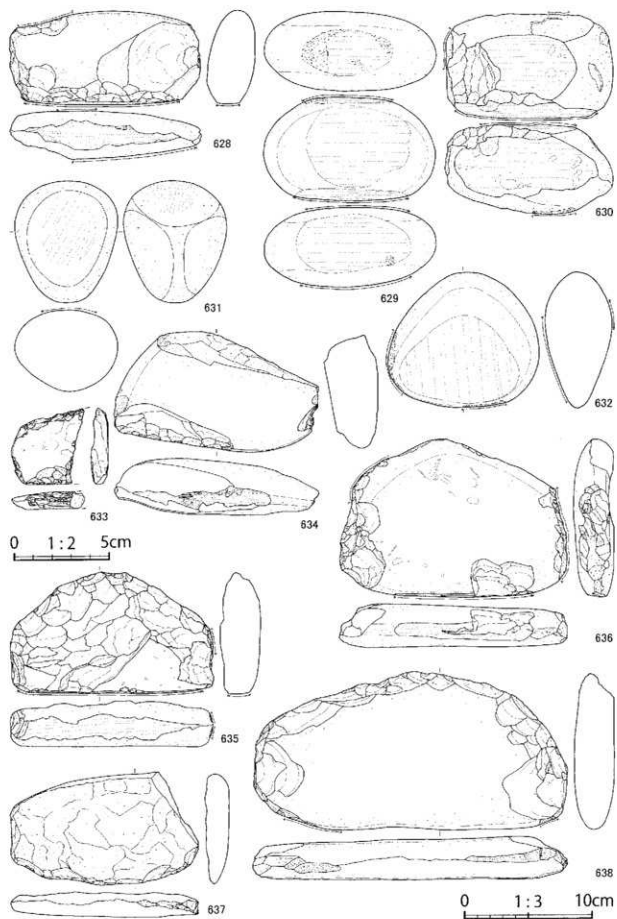
図V-2-55 石器 (55) : たたき石 (4)



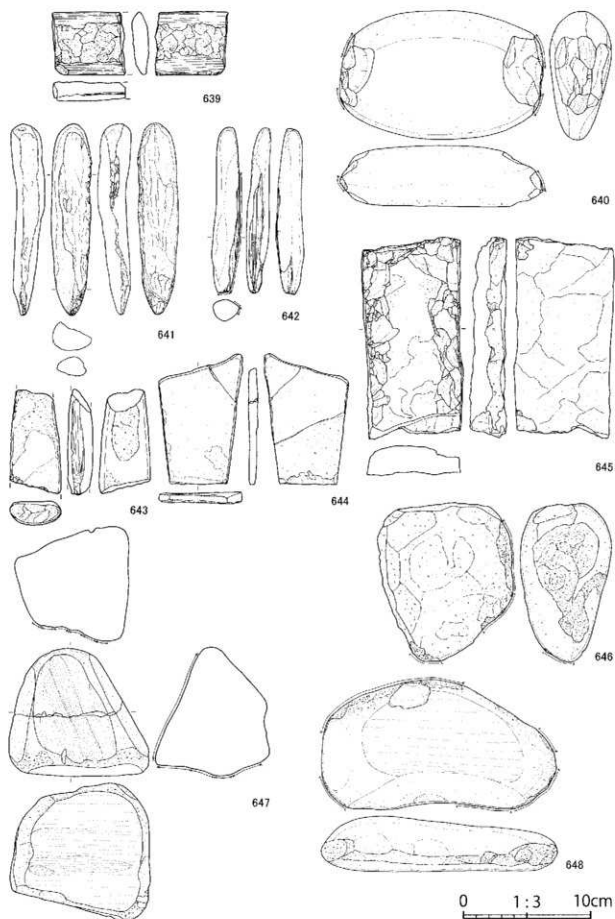
図V-2-56 石器(56):たたき石(5)



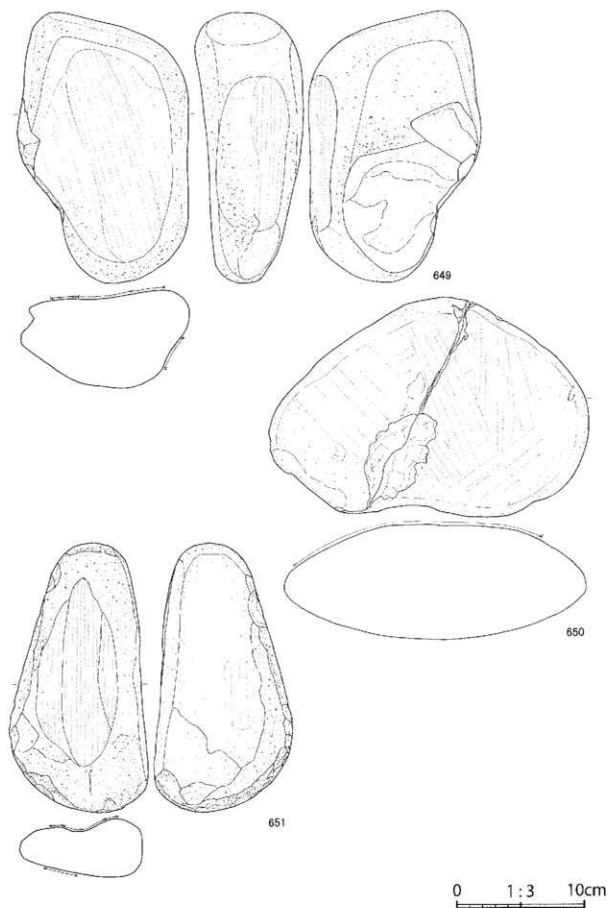
図V-2-57 石器(57): すり石(1)



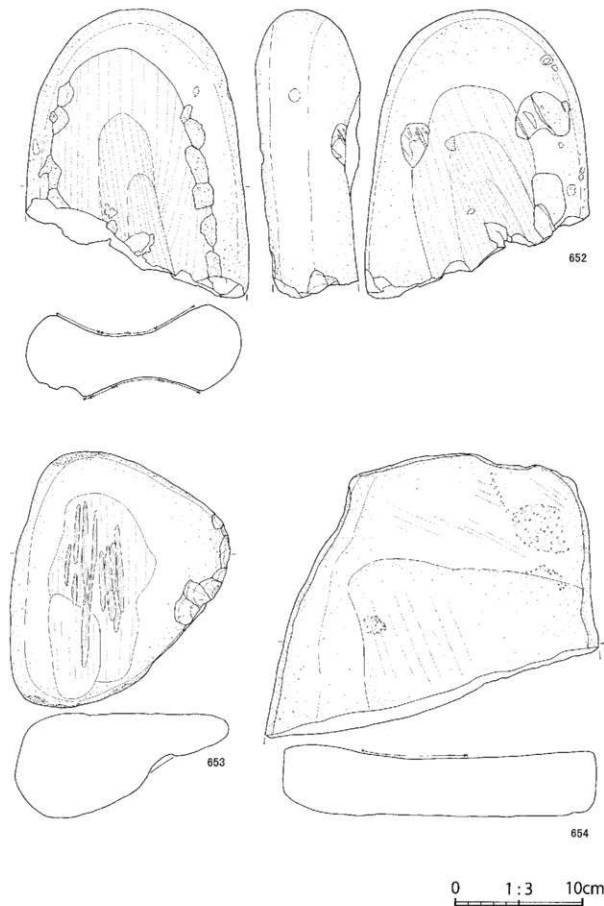
図V-2-58 石器(58): すり石(2)、半円状扁平打製石器



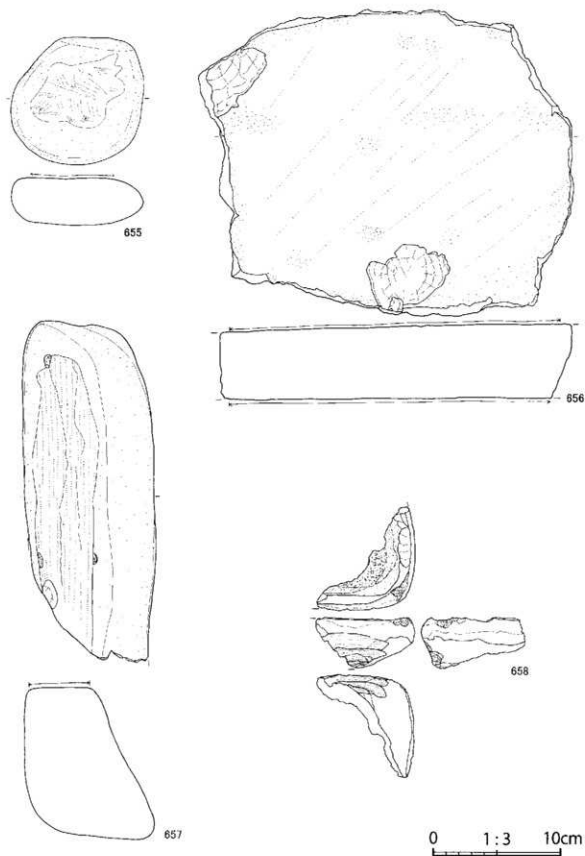
図V-2-59 石器(59)：石鋸、石錘、加工痕のある礫、台石・石皿・砥石(1)



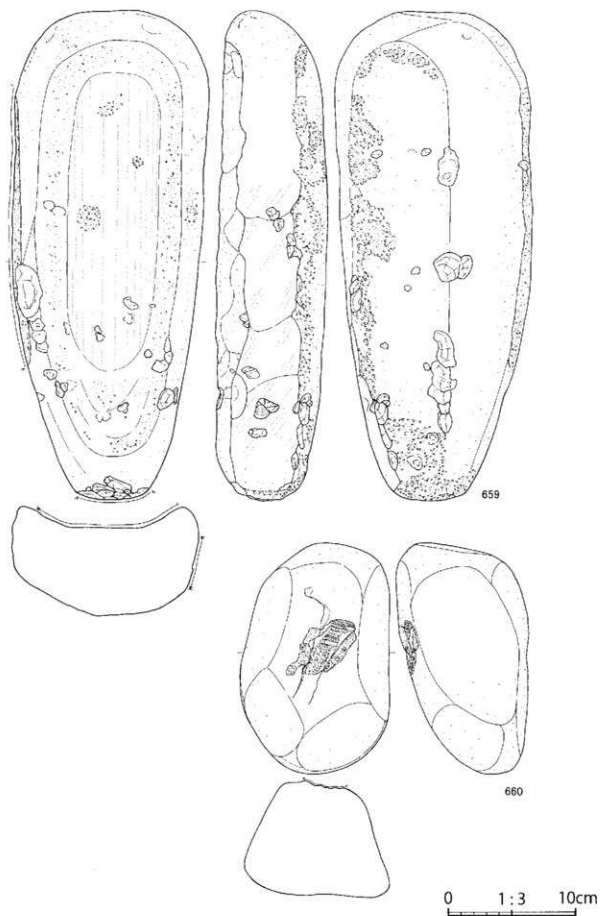
図V-2-60 石器(60):台石・石皿・砥石(2)



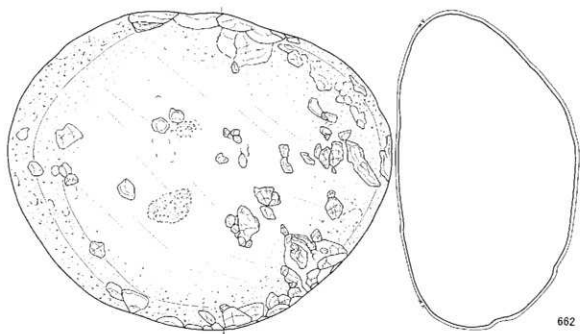
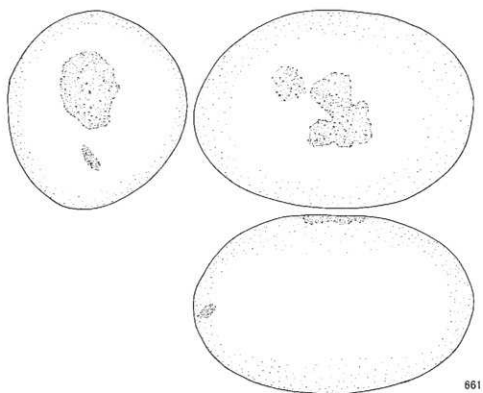
図V-2-61 石器 (61) : 台石・石皿・砥石 (3)



圖V-2-62 石器(62):台石・石皿・砥石(4)

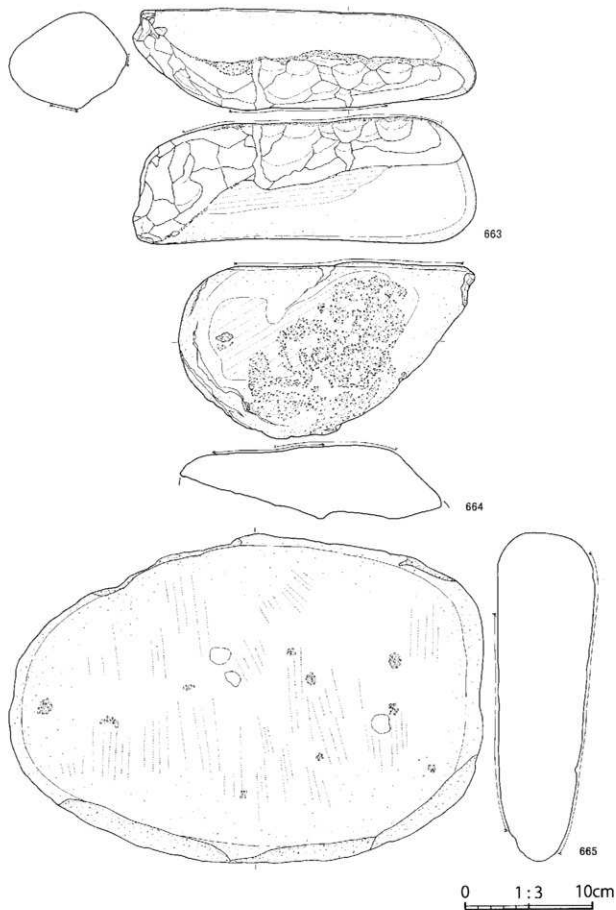


図V-2-63 石器(63): 台石・石皿・砥石(5)

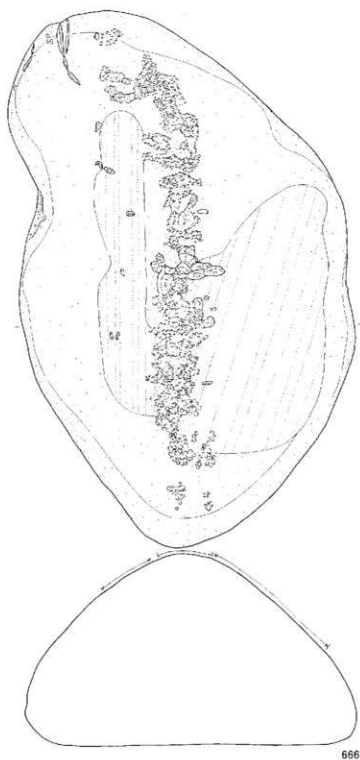


0 1:3 10cm

図V-2-64 石器(64):台石・石皿・砥石(6)

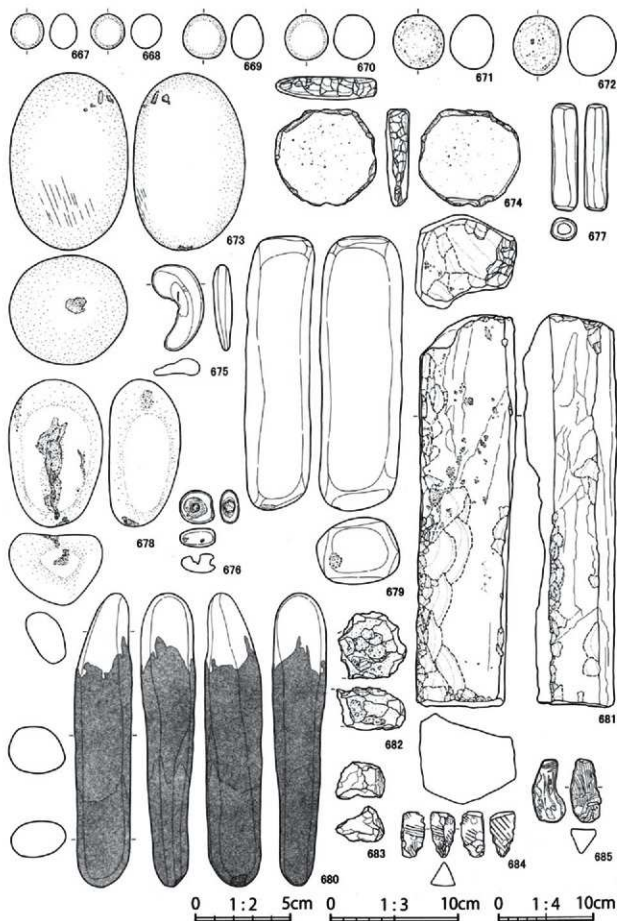


図V-2-65 石器(65):台石・石皿・砥石(7)



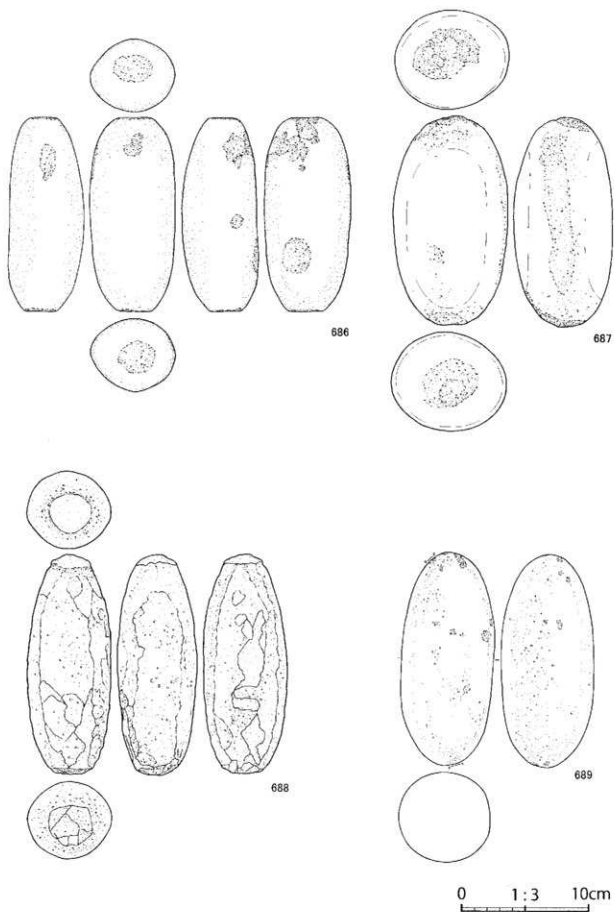
0 1:3 10cm

図V-2-66 石器(66):台石・石皿・砥石(8)

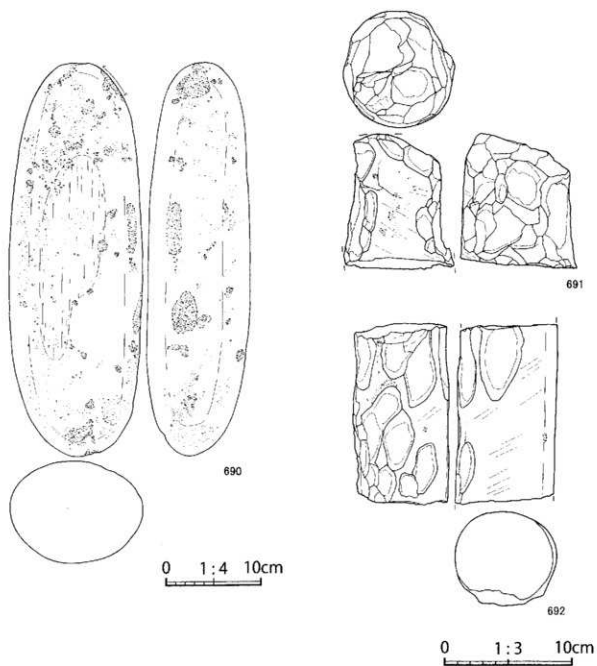


図V-2-67 石器 (67) : 有意の礫 (赤色顔料・アスファルト付着礫等)

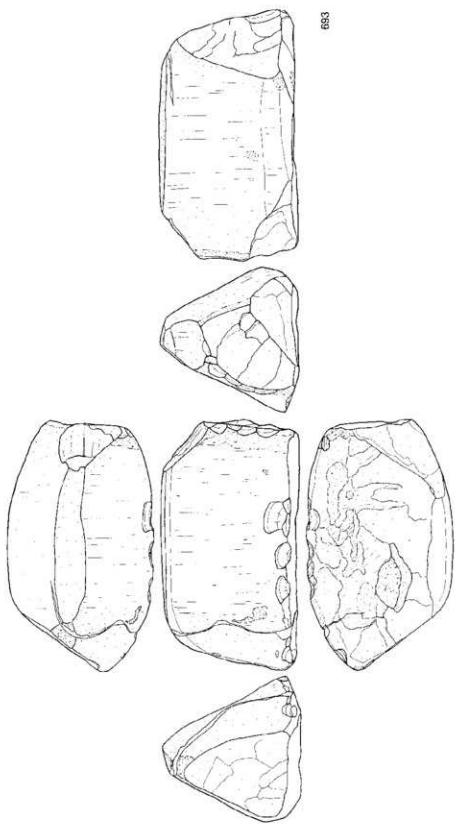
(673 : 1/4、674・676・678・682~685 : 1/2、他は1/3)



図V-2-68 石器(68):石棒(1)



図V-2-69 石器 (69) : 石棒 (2)



圖V-2-70 石器(70):鳥帽子形石器

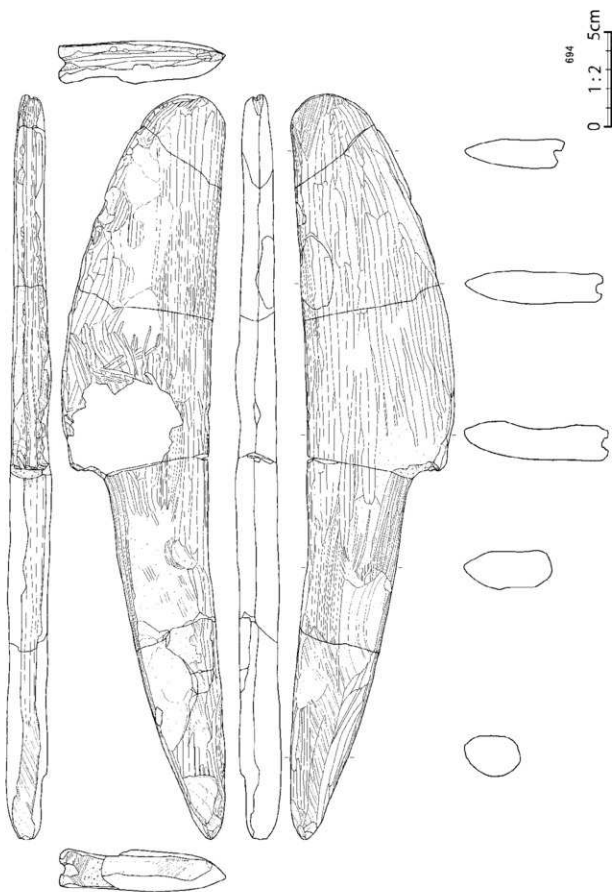
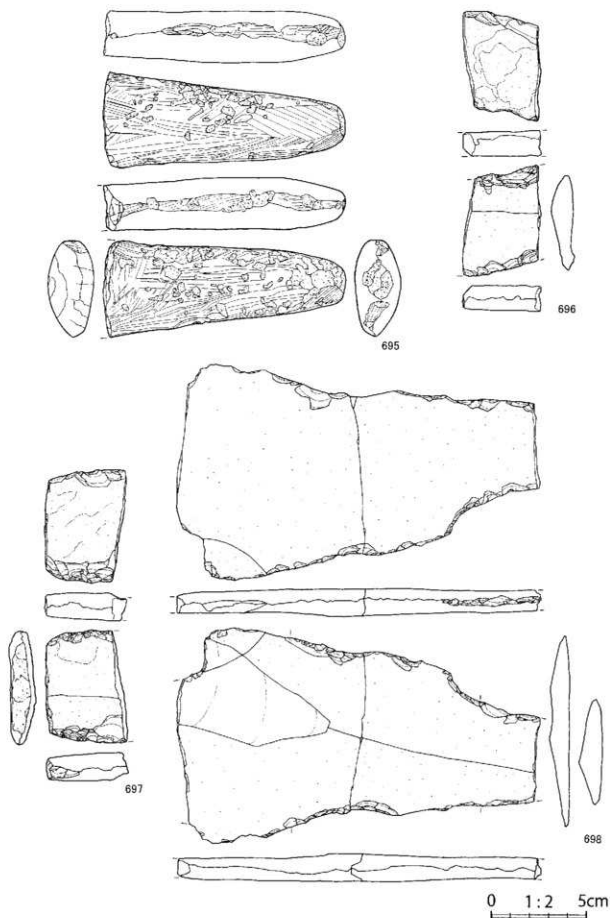
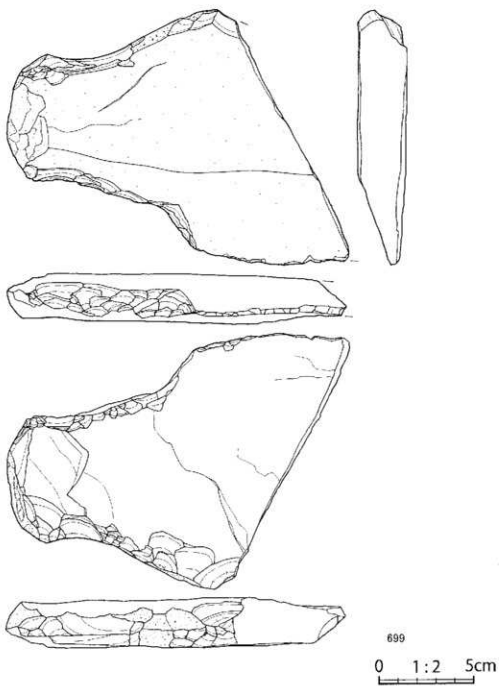


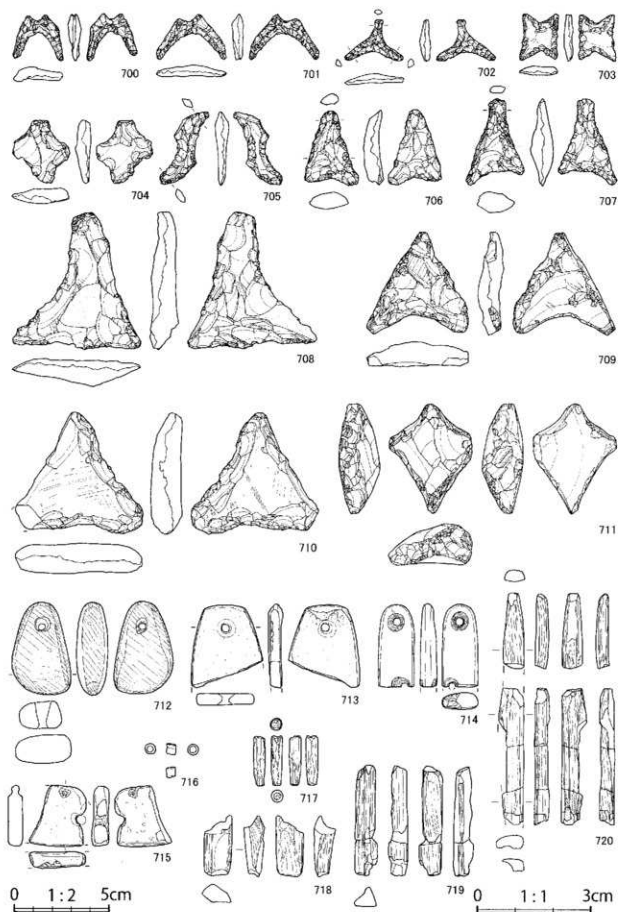
圖 V-2-71 石器 (71) : 青竜刀形石器 (1)



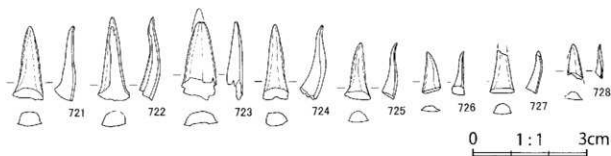
図V-2-72 石器 (72): 青竜刀形石器 (2)



図V-2-73 石器(73):青竜刀形石器(3)



図V-2-74 石器(74): 異形石器、三脚石器、垂飾、石製品、骨角器



図V-2-75 サメ類遊離歯

720は刺突具未成品とみられる。2点からなる。陸獣骨製で、最大厚3.24mm。実体顕微鏡で観察すると、断面にはハバース管を中心にもつ骨単位（オステオン）をみることができる。オステオンの形態は、内面側で円形、表面側で扁平なラミナ状を呈する。表面は、一部に緻密骨表面を残すが、大半は剥落している。剥落面には、縦に複数の浅い溝がみられるが、これは骨の組織であるハヴァース管である。一方、僅かに残る緻密骨表面には、比較的明瞭な溝が縦に、あるいは斜めにある。これは、削りに伴う線状痕である。側面は、切断後研磨されているので、光沢をもつ。側面上方にも、縦方向の明瞭な線状痕が残る。下方には、研磨時とみられる細かな斜め方向の線状痕が残る。内面は、溝が入れられており、削りによる線状痕が残る。内面側の溝により中央付近では断面コ字形を呈するが、下方1/3では断面L字形になっている。

4 サメ類遊離歯（図V-2-75 表17 図版136 掲載番号721～728）

盛土遺構から10点のサメ類の遊離歯を検出した。そのうち、8点がアオザメ（721～727）、1点がメジロザメ類（728）、1点が種不明のもの。8点を図示した。アオザメの歯は、長さにより、第1歯・第2歯と第3歯以降が明瞭に区分できる。また、幅によって、上顎第2歯、下顎第1歯、上顎第1歯・下顎第2歯が区分できる（仲谷1979）。さらに、断面形態により、丸いものは下顎で、平らなものは上顎に分けられる。その基準を参考にすると、2点が上顎第1歯（721・722）、1点が上顎第2歯（723）、1点が下顎第1歯（724）の可能性があり、3点は第3歯以降であると推定された。サメの遊離歯は、いずれも火を受けており、歯冠部分が残存している状態であった。出土地点の遺構覆土は、盛土遺構由来の土層であり、盛土遺構中に他の焼けた骨と共に埋藏されていたものである。（福井）

VI 自然科学的分析

1 押上1遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) (1)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

押上1遺跡は、北海道北斗市大工川176-23ほか(北緯41° 50' 03"、東経140° 37' 58") に所在し、段丘上に立地する。測定対象試料は、堅穴住居跡出土木炭3点(0A-1: IAAA-103333~ 0A-3: IAAA-103335) である(表VI-1-1)。試料はいずれも調査現場にて土層より直接採取された。

(2) 測定の意義

縄文時代後期前葉に位置づけられる遺構の年代を推定するための一試料とする。

(3) 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAJ」と表VI-1-1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

(4) 測定方法

3MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9SDH-2)をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁵N濃度(¹⁵N/¹⁴N)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表VI-1-1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表VI-1-1に、補正していない値を参考値として表VI-1-2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差(±1σ)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC(percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合 Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表VI-1-

11に、補正していない値を参考値として表VI-1-2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma = 68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma = 95.4\%$)で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{14}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース(Reimer et al. 2009)を用い、OxCalv4.1較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表VI-1-2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

(6) 測定結果

竪穴住居跡出土試料の ^{14}C 年代は、OH-1柱穴HP-1覆土出土のOA-1が $3850 \pm 30\text{yrBP}$ 、OH-2炉跡HF-1出土のOA-2が $3840 \pm 30\text{yrBP}$ 、OH-7b炉跡HF-1出土のOA-3が $3860 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代(1σ)は、OA-1が2401~2210cal BC、OA-2が2396~2209cal BC、OA-3が2451~2234cal BCの間に各々複数の範囲で示され、いずれも縄文時代後期前葉に相当する。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表VI-1-1 測定試料及び放射性炭素年代

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{14}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-103333	OA-1	竪穴住居跡OH-1 柱穴HP-1覆土	木炭	AAA	-25.67 ± 0.58	3,850 ± 30	61.94 ± 0.23
IAAA-103334	OA-2	竪穴住居跡OH-2 炉跡HF-1	木炭	AAA	-26.68 ± 0.65	3,840 ± 30	61.98 ± 0.21
IAAA-103335	OA-3	竪穴住居跡OH-7b 炉跡HF-1	木炭	AAA	-26.93 ± 0.73	3,860 ± 30	61.87 ± 0.22

[#4219]

表VI-1-2 (1) 放射性炭素年代及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-103333	3,860 ± 30	61.86 ± 0.21	3,847 ± 29	2401calBC - 2382calBC (8.5%)	2459calBC - 2417calBC (11.4%) 2410calBC - 2205calBC (84.0%)
				2348calBC - 2278calBC (42.4%)	
				2252calBC - 2229calBC (12.0%)	
				2222calBC - 2210calBC (5.4%)	
IAAA-103334	3,870 ± 30	61.77 ± 0.20	3,842 ± 27	2396calBC - 2385calBC (3.7%)	2458calBC - 2418calBC (8.6%) 2407calBC - 2376calBC (9.7%) 2367calBC - 2356calBC (1.7%) 2351calBC - 2203calBC (75.4%)
				2346calBC - 2275calBC (41.3%)	
				2255calBC - 2209calBC (23.2%)	

表VI-1-2 (2) 放射性炭素年代及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-103335	3,890 \pm 30	61.63 \pm 0.20	3,856 \pm 28	2451calBC - 2447calBC (1.6%)	2461calBC - 2274calBC (81.5%) 2256calBC - 2208calBC (13.9%)
				2436calBC - 2420calBC (6.8%)	
				2405calBC - 2378calBC (12.9%)	
				2350calBC - 2284calBC (40.9%)	
				2248calBC - 2234calBC (5.9%)	

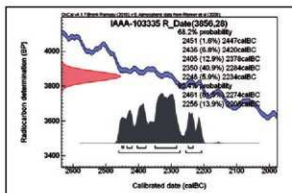
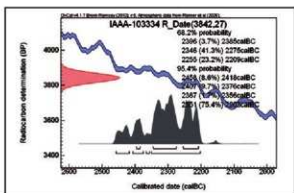
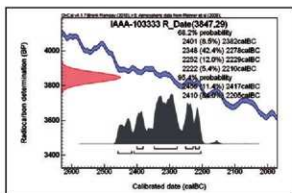
[参考値]

文献

Stuiver M and Polach H.A.1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3) , 355-363

Bronk Ramsey C.2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1) , 337-360

Reimer, P.J. et al.2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4) , 1111-1150



[参考]暦年較正年代グラフ

2 押上1遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) (2)

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

押上1遺跡は、北海道北斗市大工川176-23ほか(北緯41° 50' 03"、東経140° 37' 58")に所在し、段丘上に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡 0H-10柱穴 HP-6覆土出土木炭(OA-4: IAAA-

112602)、堅穴住居跡 OH-19 炉跡 HF-2 覆土出土木炭 (OA-5: IAAA-112603)、堅穴住居跡 OH-22 炉跡 HF-1 覆土出土木炭 (OA-6: IAAA-112604)、堅穴住居跡 OH-26 柱穴 HP-5 覆土出土木炭 (OA-7: IAAA-112605)、堅穴住居跡 OH-27 炉跡 HF-1 覆土出土木炭 (OA-8: IAAA-112606)、盛土遺構 L157 区盛土層出土木炭 (OA-9: IAAA-112607)、堅穴住居跡 OH-12 柱穴 HP-22 覆土出土木炭 (OA-10: IAAA-112608)、堅穴住居跡 OH-19 炉跡 HF-1 覆土出土木炭 (OA-11: IAAA-112609) の合計 8 点である (表 VI-2-1)。堅穴住居跡 OH-10、OH-22、OH-26、OH-27 は縄文時代後期前葉、OH-19 は中期末～後期前葉、OH-12 は中期末葉、盛土遺構は後期前葉と考えられている。

- (2) 測定の意義 (VI 章 1 節と同じため省略)
- (3) 化学処理工程 (VI 章 1 節と同じため省略)
- (4) 測定方法 (VI 章 1 節と同じため省略)
- (5) 算出方法 (VI 章 1 節と同じため省略)
- (6) 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、堅穴住居跡 OH-10 柱穴 HP-6 覆土の OA-4 が $3680 \pm 30\text{yrBP}$ 、堅穴住居跡 OH-19 炉跡 HF-2 覆土の OA-5 が $3810 \pm 30\text{yrBP}$ 、堅穴住居跡 OH-22 炉跡 HF-1 覆土の OA-6 が $3760 \pm 30\text{yrBP}$ 、堅穴住居跡 OH-26 柱穴 HP-5 覆土の OA-7 が $3870 \pm 20\text{yrBP}$ 、堅穴住居跡 OH-27 炉跡 HF-1 覆土の OA-8 が $3950 \pm 30\text{yrBP}$ 、盛土遺構 L157 区盛土層の OA-9 が $3910 \pm 20\text{yrBP}$ 、堅穴住居跡 OH-12 柱穴 HP-22 覆土の OA-10 が $3890 \pm 20\text{yrBP}$ 、堅穴住居跡 OH-19 炉跡 HF-1 覆土の OA-11 が $3890 \pm 30\text{yrBP}$ である。8 点の値は $3950 \pm 30\text{yrBP}$ (OA-8) から $3680 \pm 30\text{yrBP}$ (OA-4) の範囲に収まり、全体的におおむね近い値となっており、誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なるものも含まれる。OH-19 出土の OA-5、OA-11 は、誤差範囲では重ならないが、おおむね近接した値である。

暦年較正年代 (1σ) は、OA-4 が $2134 \sim 2029\text{cal BC}$ の間に 2 つの範囲、OA-5 が $2286 \sim 2203\text{cal BC}$ の範囲、OA-6 が $2205 \sim 2136\text{cal BC}$ の範囲、OA-7 が $2455 \sim 2292\text{cal BC}$ の間に 3 つの範囲、OA-8 が $2548 \sim 2351\text{cal BC}$ の間に 4 つの範囲、OA-9 が $2468 \sim 2349\text{cal BC}$ の間に 3 つの範囲、OA-10 が $2457 \sim 2345\text{cal BC}$ の範囲、OA-11 が $2457 \sim 2344\text{cal BC}$ の範囲で示される。いずれも縄文時代中期末葉から後期前葉の時期に収まり、古い方から順に OA-8 が縄文時代中期末葉から後期初頭頃、OA-7、9～11 が後期初頭頃、OA-4～6 が後期前葉頃におおむね相当すると考えられる。遺構について推定される時期とおおよそ矛盾しない結果であるが、より厳密な議論には出土遺物と対比するなどの詳細な検討を要する。

試料の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 VI-2-1(1) 測定試料及び放射性炭素年代

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-112602	OA-4	堅穴住居跡 OH10 柱穴 HP6 覆土	木炭	AaA	-25.19 ± 0.48	3,680 ± 30	63.22 ± 0.21
IAAA-112603	OA-5	堅穴住居跡 OH19 炉跡 HF2 覆土	木炭	AaA	-25.63 ± 0.55	3,810 ± 30	62.27 ± 0.20
IAAA-112604	OA-6	堅穴住居跡 OH22 炉跡 HF1 覆土	木炭	AAA	-23.65 ± 0.50	3,760 ± 30	62.65 ± 0.20
IAAA-112605	OA-7	堅穴住居跡 OH26 柱穴 HP5 覆土	木炭	AAA	-28.91 ± 0.51	3,870 ± 20	61.79 ± 0.18
IAAA-112606	OA-8	堅穴住居跡 OH27 炉跡 HF1 覆土	木炭	AAA	-31.11 ± 0.56	3,950 ± 30	61.19 ± 0.20
IAAA-112607	OA-9	盛土遺構 L157 区 盛土層	木炭	AAA	-25.41 ± 0.54	3,910 ± 20	61.44 ± 0.18

表VI-2-1(2) 測定試料及び放射性炭素年代

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-112608	0A-10	竪穴住居跡OH12 柱穴HP22覆土	木炭	AAA	-26.82 ± 0.52	3,890 ± 20	61.62 ± 0.19
IAAA-112609	0A-11	竪穴住居跡OH19 炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-26.88 ± 0.52	3,890 ± 30	61.64 ± 0.20

[#4891]

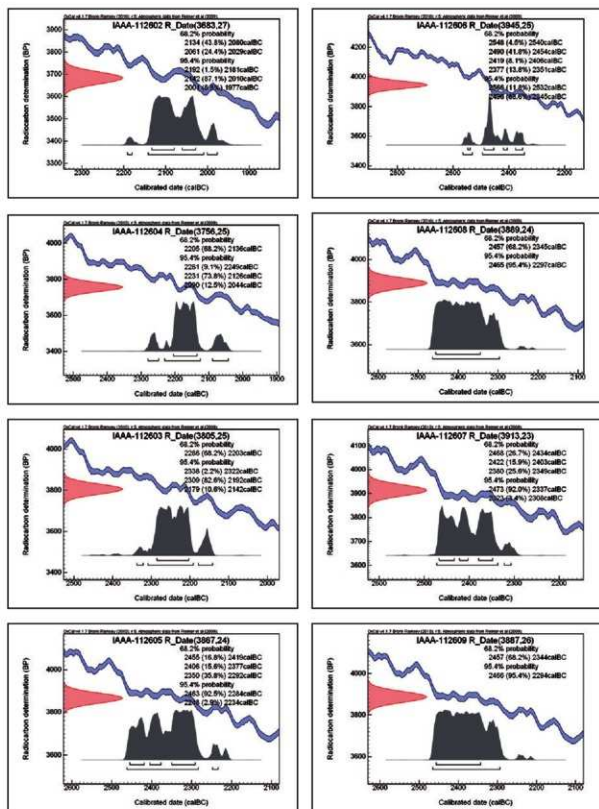
表VI-2-2 放射性炭素年代及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-112602	3,690 ± 30	63.20 ± 0.20	3,683 ± 27	2134calBC - 2080calBC (43.8%)	2192calBC - 2181calBC (1.5%)
				2061calBC - 2029calBC (24.4%)	2142calBC - 2010calBC (87.1%)
					2001calBC - 1977calBC (6.8%)
IAAA-112603	3,820 ± 20	62.19 ± 0.19	3,805 ± 25	2286calBC - 2203calBC (68.2%)	2338calBC - 2322calBC (2.2%)
					2309calBC - 2192calBC (82.6%)
					2179calBC - 2142calBC (10.6%)
IAAA-112604	3,730 ± 20	62.82 ± 0.19	3,756 ± 25	2205calBC - 2136calBC (68.2%)	2281calBC - 2249calBC (9.1%)
					2231calBC - 2126calBC (73.8%)
					2090calBC - 2044calBC (12.5%)
IAAA-112605	3,930 ± 20	61.29 ± 0.17	3,867 ± 24	2455calBC - 2419calBC (16.8%)	2463calBC - 2284calBC (92.5%)
				2406calBC - 2377calBC (15.6%)	2248calBC - 2234calBC (2.9%)
				2350calBC - 2292calBC (35.8%)	
IAAA-112606	4,050 ± 20	60.42 ± 0.18	3,945 ± 25	2548calBC - 2540calBC (4.5%)	
				2490calBC - 2454calBC (41.8%)	2566calBC - 2532calBC (11.8%)
				2419calBC - 2406calBC (8.1%)	2496calBC - 2345calBC (83.6%)
				2377calBC - 2351calBC (13.8%)	
IAAA-112607	3,920 ± 20	61.39 ± 0.17	3,913 ± 23	2468calBC - 2434calBC (26.7%)	2473calBC - 2337calBC (92.0%)
				2422calBC - 2403calBC (15.9%)	2323calBC - 2308calBC (3.4%)
				2380calBC - 2349calBC (25.6%)	
IAAA-112608	3,920 ± 20	61.39 ± 0.17	3,889 ± 24	2457calBC - 2345calBC (68.2%)	2465calBC - 2297calBC (95.4%)
IAAA-112609	3,920 ± 30	61.40 ± 0.19	3,887 ± 26	2457calBC - 2344calBC (68.2%)	2466calBC - 2294calBC (95.4%)

[参考値]

文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150



[参考] 暦年較正年代グラフ

3 押上1遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) (3)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

押上1遺跡は、北海道北斗市大工川176-23ほか(北緯41° 50' 03"、東経140° 37' 58")に所在し、段丘上に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡 OH15炉跡 HF1覆土出土木炭(OA-12: IAAA-122238)、同炉跡HF2覆土出土木炭(OA-13: IAAA-122239)、竪穴住居跡OH16炉跡HF1覆土出土木炭(OA-14: IAAA-122240)、竪穴住居跡 OH23炉跡 HF1覆土出土木炭(OA-15: IAAA-122241)、竪穴住居跡 OH25炉跡 HF2覆土出土木炭(OA-16: IAAA-122242)、竪穴住居跡 OH28炉跡 HF1覆土出土木炭(OA-17: IAAA-122243)、竪穴住居跡 OH30炉跡 HF1覆土出土木炭(OA-18: IAAA-122244)、竪穴住居跡 OH31炉跡 HF1覆土出土木炭(OA-19: IAAA-122245)、竪穴住居跡 OH33炉跡 HF1覆土出土木炭(OA-20: IAAA-122246)、竪穴住居跡 OH39炉跡 HF4覆土出土木炭(OA-21: IAAA-122247)の合計10点である(表VI-3-1)。試料は、調査現場において採取された土壌の中から水洗選別によって回収された。

この遺跡では縄文時代中期末葉から後期前葉の遺構が検出されている。試料が出土した竪穴住居跡は、いずれも縄文時代後期前葉に位置づけられている。

2 測定の意義(VI章1節と同じため省略)

3 化学処理工程(VI章1節と同じため省略)

4 測定方法(VI章1節と同じため省略)

5 算出方法(VI章1節と同じため省略)

6 測定結果

試料の¹⁴C年代は、竪穴住居跡 OH15炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-12が3800±30yrBP、同炉跡HF2覆土出土木炭 OA-13が3840±20yrBP、竪穴住居跡 OH16炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-14が3840±20yrBP、竪穴住居跡 OH23炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-15が3850±30yrBP、竪穴住居跡 OH25炉跡 HF2覆土出土木炭 OA-16が3840±20yrBP、竪穴住居跡 OH28炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-17が3840±20yrBP、竪穴住居跡 OH30炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-18が3840±20yrBP、竪穴住居跡 OH31炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-19が3800±30yrBP、竪穴住居跡 OH33炉跡 HF1覆土出土木炭 OA-20が3830±20yrBP、竪穴住居跡 OH39炉跡 HF4覆土出土木炭 OA-21が3850±20yrBPである。竪穴住居跡 OH15から出土した2点の値は、誤差(±1σ)の範囲で重なり、近い年代を示す。

暦年較正年代(1σ)は、OA-12が2287~2202cal BCの範囲、OA-13が2343~2209cal BCの間に2つの範囲、OA-14が2390~2209cal BCの間に4つの範囲、OA-15が2401~2210cal BCの間に4つの範囲、OA-16が2341~2208cal BCの間に2つの範囲、OA-17が2342~2209cal BCの間に2つの範囲、OA-18が2341~2208cal BCの間に2つの範囲、OA-19が2287~2202cal BCの範囲、OA-20が2299~2206cal BCの間に2つの範囲、OA-21が2401~2213cal BCの間に4つの範囲で示される。これらの年代値はいずれも縄文時代後期前葉頃に相当し(小林編2008)、推定される竪穴住居跡の時期におおむね一致すると見られる。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表VI-3-1(1) 測定試料及び放射性炭素年代

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-122238	OA-12	竪穴住居跡OH15 炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-28.14 ± 0.46	3,800 ± 30	62.29 ± 0.20

表VI-3-1(2) 測定試料及び放射性炭素年代

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-122239	0A-13	竪穴住居跡OH15	炉跡HF2覆土	木炭	AAA	-22.93 ± 0.40	3,840 ± 20 62.00 ± 0.19
IAAA-122240	0A-14	竪穴住居跡OH16	炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-26.44 ± 0.45	3,840 ± 20 61.98 ± 0.19
IAAA-122241	0A-15	竪穴住居跡OH23	炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-26.15 ± 0.30	3,850 ± 30 61.95 ± 0.19
IAAA-122242	0A-16	竪穴住居跡OH25	炉跡HF2覆土	木炭	AAA	-24.32 ± 0.32	3,840 ± 20 62.02 ± 0.18
IAAA-122243	0A-17	竪穴住居跡OH28	炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-24.69 ± 0.37	3,840 ± 20 62.00 ± 0.19
IAAA-122244	0A-18	竪穴住居跡OH30	炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-23.75 ± 0.30	3,840 ± 20 62.02 ± 0.18
IAAA-122245	0A-19	竪穴住居跡OH31	炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-26.17 ± 0.35	3,800 ± 30 62.28 ± 0.20
IAAA-122246	0A-20	竪穴住居跡OH33	炉跡HF1覆土	木炭	AAA	-25.93 ± 0.36	3,830 ± 20 62.09 ± 0.18
IAAA-122247	0A-21	竪穴住居跡OH39	炉跡HF4覆土	木炭	AAA	-25.74 ± 0.45	3,850 ± 20 61.92 ± 0.19

[#5452]

表VI-3-2(1) 放射性炭素年代及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-122238	3,850 ± 30	61.89 ± 0.19	3,803 ± 25	2287calBC - 2202calBC (68.2%)	2337calBC - 2323calBC (1.8%) 2309calBC - 2191calBC (81.6%) 2180calBC - 2141calBC (12.0%)
IAAA-122239	3,810 ± 20	62.26 ± 0.18	3,840 ± 24	2343calBC - 2276calBC (42.8%) 2254calBC - 2209calBC (25.4%)	2458calBC - 2418calBC (6.7%) 2407calBC - 2376calBC (8.2%) 2351calBC - 2203calBC (80.5%)
IAAA-122240	3,870 ± 20	61.79 ± 0.18	3,843 ± 24	2390calBC - 2385calBC (2.0%) 2346calBC - 2277calBC (44.2%) 2253calBC - 2228calBC (15.2%) 2223calBC - 2209calBC (6.8%)	2458calBC - 2418calBC (8.0%) 2407calBC - 2376calBC (9.5%) 2351calBC - 2204calBC (77.9%)
IAAA-122241	3,870 ± 20	61.80 ± 0.19	3,847 ± 25	2401calBC - 2382calBC (7.7%) 2348calBC - 2278calBC (43.9%) 2251calBC - 2229calBC (11.7%) 2221calBC - 2210calBC (4.8%)	2458calBC - 2418calBC (10.1%) 2409calBC - 2374calBC (11.8%) 2369calBC - 2267calBC (51.0%) 2261calBC - 2206calBC (22.5%)
IAAA-122242	3,830 ± 20	62.11 ± 0.18	3,837 ± 23	2341calBC - 2275calBC (39.1%) 2255calBC - 2208calBC (29.1%)	2457calBC - 2419calBC (5.0%) 2406calBC - 2377calBC (6.6%) 2351calBC - 2202calBC (83.8%)
IAAA-122243	3,830 ± 20	62.04 ± 0.18	3,839 ± 24	2342calBC - 2276calBC (42.1%) 2253calBC - 2209calBC (26.1%)	2458calBC - 2418calBC (6.3%) 2407calBC - 2376calBC (7.8%) 2351calBC - 2202calBC (81.3%)

表VI—3—2(2) 放射性炭素年代及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-122244	3,820 \pm 20	62.18 \pm 0.18	3,837 \pm 23	2341calBC - 2275calBC (39.1%)	2457calBC - 2419calBC (5.0%)
				2255calBC - 2208calBC (29.1%)	2406calBC - 2377calBC (6.6%)
					2351calBC - 2202calBC (83.8%)
IAAA-122245	3,820 \pm 30	62.14 \pm 0.19	3,803 \pm 25	2337calBC - 2202calBC (68.2%)	2337calBC - 2323calBC (1.8%)
					2309calBC - 2191calBC (81.6%)
					2180calBC - 2141calBC (12.0%)
IAAA-122246	3,840 \pm 20	61.97 \pm 0.18	3,828 \pm 23	2299calBC - 2271calBC (22.8%)	2432calBC - 2423calBC (0.8%)
				2259calBC - 2206calBC (45.4%)	2404calBC - 2380calBC (3.4%)
					2349calBC - 2199calBC (90.6%)
IAAA-122247	3,860 \pm 20	61.83 \pm 0.18	3,850 \pm 24	2401calBC - 2382calBC (9.3%)	2459calBC - 2416calBC (11.5%)
				2348calBC - 2281calBC (46.7%)	2411calBC - 2371calBC (65.2%)
				2250calBC - 2231calBC (9.6%)	2259calBC - 2207calBC (18.7%)
				2219calBC - 2213calBC (2.6%)	

[参考値]

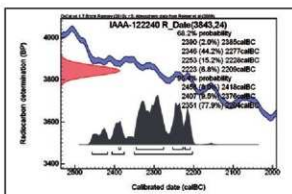
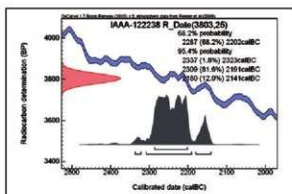
文献

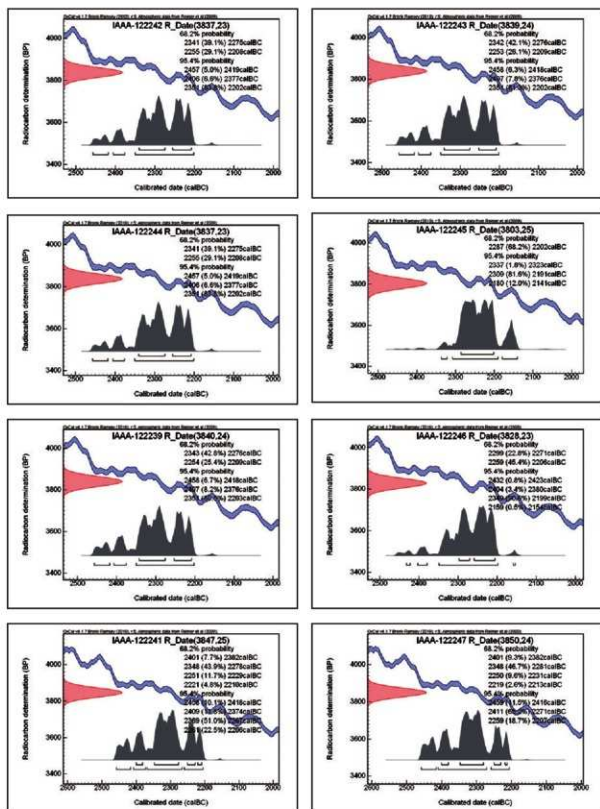
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1) , 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4) , 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3) , 355-363





4 玉の岩石学的分析

アースサイエンス株式会社

肉眼鑑定・まとめと考察：加藤 孝幸

全岩化学分析：飯田 友章

1. 肉眼鑑定

肉眼鑑定はルーペと実体鏡を用いて行った。

押上1遺跡No. 56

長さ42mm、短径28mm、厚さ16mm。細身の端に近い部分に、直径7mmの穴。

全体としてやや透明感のある微細な灰白色鉱物の集合体であるが、この集合部が直径数mm～1cmのブロックに分離し、その間を直径2mm以下の緑色短柱状鉱物と白色長柱状の集合が充填し、ネットワークをつくる。

2. FP法蛍光X線分析概要

蛍光X線分析のうちファンダメンタルパラメータ法(FP法)による分析は、試料をそのまま非破壊で、また粉末状態で、あるいは微量でも分析できるため、簡便な分析方法である。

以下はJEOL製 JSX-3100R II (XRF) 分析装置を使用した場合である。各元素の測定条件を表に示す。X線管球は、エンドウィンドウ型のRh管球を用いている。測定環境は大気および真空状態で測定している。なお、試料室(大気および真空状態)とX線強度の関係は、軽元素(Na～Ca)のX線は大気により吸収され減衰する。よってFP法の場合は真空状態で測定を行ない、測定時間は一試料につき約60秒である。

100 μ m以下に粉砕した試料を樹脂製リング(外径 ϕ 26mm、内径 ϕ 20mm、厚4mm)に詰めてプレス機で6t(22Mpa)程度加圧し、錠剤化(ディスク作成)したものを試料室にセットし測定を行う。

定量分析は付属のソフトを用いファンダメンタルパラメータ法(FP法)によって行う。

なお、この装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C、N、Oといった軽元素は検出できない。

試料の測定で用いるFP法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数(ファンダメンタルパラメータ)の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、上述のように試料の形状や量に関わらず前処理なしで定量できるメリットがある。

表VI-4-1 各元素の測定条件(例)

スペクトル名				蛍光X線 エネルギー (KeV)	スペクトル 強度比
K線		L線			
K α	K β	L α	L β		
Na-P				1.04-2.01	K α /K β 比 \approx 5~7
S-Ba	S-Ba			2.31-36.38	
		La-U	La-U	4.65-17.22	L α /L β 比 \approx 1

※ 特性X線、コンプトン散乱線(Rh) :RH k α COMP, Rh K β COMP

分析を行なった試料は錠剤化(ディスク作成)したものを試料室にセットし真空状態で測定を行なった。鉱物の分析であり、ビーム径は最小の1mmとした。以下に分析結果を示す。

表VI-4-2 FP法蛍光X線分析結果

遺跡名 遺物番号 番号 試料 写真	押上1遺跡 No. 56					
	1		2		3	
元素	重量%	ヤル%	重量%	ヤル%	重量%	ヤル%
SiO ₂	61.07	68.64	56.25	58.40	57.35	62.86
TiO ₂	0.13	0.11	0.29	0.28	0.12	0.10
Al ₂ O ₃	23.09	15.16	14.89	9.19	21.10	12.63
FeO	0.49	0.17	1.89	0.74	0.99	0.41
Cr ₂ O ₃			0.16	0.07	0.03	0.01
MnO			0.02	0.02		
MgO	0.82	1.42	9.43	14.58	3.12	5.14
CaO	0.82	1.04	5.92	6.58	2.81	3.31
Si ₂ O	0.00	0.00	0.07	0.04	0.03	0.02
Na ₂ O	12.21	13.18	9.16	9.20	12.80	13.60
K ₂ O	0.40	0.28	0.49	0.33	0.24	0.17
P ₂ O ₅	0.74	0.37	1.07	0.47	1.18	0.55
SO ₃	0.21	0.25	0.18	0.18	0.20	0.21
NiO			0.10	0.09		
ZnO			0.01	0.01		
ZrO			0.03	0.01		

※1: 重量成分(ピーク強度が低い)のため参考値として表記。
分析方法: 試料をそのままFPMで分析(非破壊)。100%フローライズ。
※: MgとNaは軽元素のため測定が入りません。



3. 考察

押上1遺跡No. 56

3ポイントの分析を行った結果、ポイント1とポイント3は白色の鉱物で、ひすい輝石(Na₂₀>>MgO)である。ポイント2は緑色と白色が混ざった部分で、ひすい輝石とオンファス輝石が混在すると考えられる分析値である。クロムがわずかに検出される。

糸魚川産の「ひすい」は白色のひすい輝石と緑色のオンファス輝石が混在する岩石であることが知られている(例えば、国立科学博物館, 2004)。

この点で本試料は「ひすい」であり、ひすい輝石とオンファス輝石が混在することがある点からも糸魚川産のひすいであるとして矛盾はない。

参考文献

国立科学博物館(2004):「翡翠展—東洋至宝」, 202p.



・蛍光X線分析(FPM)
・分析試料セット状況



・蛍光X線測定状況
日本電子製JXA-3100R II

5 北斗市押上1遺跡における動物遺存体同定・炭化種実同定

株式会社古環境研究所

I. 動物遺存体同定

1. はじめに

一般に日本の国土は、火山灰性の酸性土壌に広く覆われ、動物遺存体の保存状態には恵まれていない。そのため、遺跡で動物遺存体が出土するのは、貝塚、石灰岩地帯の洞穴や岩陰が代表的で、近年では湿地環境の遺跡や遺構からも多くの動物遺存体が報告されつつある。それらの種類を同定し、過去の人々の生業や食生活に関する情報を得ることができる。

2. 試料

試料は、北斗市押上1遺跡において採取された堆積物より水洗・選別により抽出されたものである。表VI-4-I-1に詳細を示す。

3. 方法

試料は、肉眼および実体顕微鏡によって観察し、形態的特徴を現生骨格標本との比較によって同定した。

4. 結果

魚類ではエイ・サメ類、コイ科、サケ科、ニシン科、タラ科、タイ類の6種類、鳥類ではウ科、カモ科の2種類、哺乳類ではエゾシカ、ネコの2種類、全10種類を同定した。

魚類は総数48点を同定した。エイ・サメ類は13点出土しており、これらのうち9点は顎骨から遊離したサメ類の歯である。その他の4点は、エイ類とサメ類の判別ができない椎骨である。コイ科の椎骨が、4点出土している。サケ科は11点出土しており、これらのうち9点は椎骨、その他の2点は顎骨から遊離した歯である。タラ科は5点出土しており、これらのうち2点は歯骨、その他の1点は前上顎骨、残りの2点は前上顎骨と歯骨の区別ができない小片である。タイ類は14点が出土しており、いずれも顎骨から遊離した歯である。ニシン科の椎骨が1点出土している。

鳥類は総数4点を同定した。ウ科の尺骨が1点、カモ科の尺骨が2点、鳥口骨が1点出土している。また、種類を特定できなかった鳥口骨、脛足根骨、足根中足骨が各1点出土している。

哺乳類は総数2点を同定した。エゾシカの尺側手根骨が1点、ネコの下顎骨が1点出土している。これらのほか、イノシシ/エゾシカの指骨3点が出土している。

表VI-5-I-2 検出分類群一覧

脊椎動物門 Vertebrata

軟骨魚綱 Chondrichthyes

板鰓亜綱の一種 Elasmobranchii, order, fam., gen. et sp. indet.

硬骨魚綱 Osteichthyes

ニシン目 Clupeiformes

ニシン科 Clupeidae

- ニシン科の一種 *Clupeidae* gen. et sp. indet.
- コイ目 *Cyprinida*
- コイ科 *Cyprinidae*
- コイ科の一種 *Cyprinidae* gen. et sp. indet.
- サケ目 *Salmoniformes*
- サケ科 *Salmonidae*
- サケ科の一種 *Salmonidae* gen. et sp. indet.
- タラ目 *Gadiformes*
- タラ科 *Gadidae*
- タラ科の一種 *Gadidae* gen. et sp. indet.
- スズキ目 *Percidae*
- タイ科 *Sparidae*
- タイ科の一種 *Sparidae* gen. et sp. indet.
- 鳥綱 *Aves*
- カツオドリ目 *Suliformes*
- ウ科 *Phalacrocoracidae*
- ウ科の一種 *Phalacrocoracidae* gen. et sp. indet.
- カモ目 *Anseriformes*
- カモ科 *Anatidae*
- カモ科の一種 *Anatidae* gen. et sp. indet.
- 哺乳綱 *Mammalia*
- 食肉目 *Carnivora*
- ネコ科 *Felidae*
- ネコ *Felis catus*
- 偶蹄目 *Artiodactyla*
- シカ科 *Cervidae*
- エゾシカ *Cervus nippon yesoensis*

5. 考察

出土した資料の大部分は住居跡やピットから出土したものであり、白色や青灰色などに変色していることから被熱したものと考えられる。魚類が最も多く同定され、そのなかでもサメ類やタイ類の歯が多く、顎骨から遊離した状態で出土している。コイ科は淡水産であり、そのほかのエイ・サメ類、ニシン科、タラ科、タイ類は海水産である。サケ科は大型の遡河性のサケ・マス類を含む可能性があるが、破片からそれらを特定することは困難であった。鳥類のウ科、カモ科には、淡水域と海水域の両方に生息する種が含まれる。哺乳類のエゾシカは、北海道では一般的に出土しており、食用、毛皮、骨角などが利用される。ネコは小形のイエネコとほぼ同等の大きさであり、縄文時代の遺跡から出土するオオヤマネコとは異なる。被熱しておらず、他の資料に比べて保存状態が良いことから、縄文時代の資料ではない可能性がある。

表VI-5-I-1 試料一覧(1)

骨No.	資料No.	遺構名	層位	グリッド	内容	採取日付	骨No.	資料No.	遺構名	層位	グリッド	内容	採取日付
1	4	OH15 HF2			土サンプル	2011/7/26	47	61	OP13	フクド②壁層		土サンプル	2011/7/15
2	7	OH16 HF1			土サンプル	2011/7/27	48	62	OH24 HF1			土サンプル	2011/7/28
3	8	OH16 HF1			土サンプル	2011/7/27	49	63	OH24	フクド(炭化物層)	K-163	土サンプル	2011/7/28
4	9	OH19 HF2			焼土サンプル	2011/8/4	50	64	OH24 HF1			土サンプル	2011/8/1
5	10	OH31	フクド		焼土サンプル	2011/8/4	51	65	OF5			土サンプル	2011/8/1
6	11	OH15 HF1			焼土サンプル	2011/8/8	52	66	OH33 HF3			土サンプル	2011/8/12
7	12	OH15 HF2			焼土サンプル	2011/8/8	53	67	OH33 HF2			土サンプル	2011/8/11
8	13		m層	L-172	フレイク入土	2011/9/2	54	68	OH36 HF1			土サンプル	2011/8/12
9	14	OH33	フクド③	M-169	土器の中土	2011/8/5	55	69	OH25 HF2			土サンプル	-
10	16	OSP1	フクド	K-161	骨	2010/9/21	56	70	OH37 HF1			土サンプル	2011/8/19
11	17	OH38 HF1			土サンプル	2011/8/10	57	71	OH38 HF2			土サンプル	2011/8/19
12	18	OH38 HF2		N-168	土サンプル	2011/8/10	58	74	OH13		M-163	焼土サンプル	2011/7/1
13	19	OH13 HF5			炭化物・骨	2011/8/8	59	75	OH13 HF1			土サンプル	2011/7/6
14	20	OH21 HF1			焼土サンプル	2011/8/11	60	76	OH13 HF2			土サンプル	2011/7/6
15	21	OH13 HF5			炭化物	2011/8/8	61	77	OH13 HF1			土サンプル	2011/7/6
16	22	OH19 HF1			焼土サンプル	2011/8/4	62	78	OH13 HF1			土サンプル	2011/7/20
17	23	OP13	フクド③壁層		土サンプル	2011/7/15	63	79	OH13 HP3		M-163	土サンプル	2011/7/22
18	24	OH13 HF1			土サンプル	2011/7/15	64	80	OH23	フクド		土サンプル	2011/7/20
19	25	OTP4			土サンプル	2011/7/21	65	82	OH13	フクド	M-162	焼土サンプル	2011/7/1
20	26	OP13	フクド①層		土サンプル	2011/7/15	66	83	OH15			土サンプル	2011/7/25
21	27	OP13	フクド①層		土サンプル	2011/7/15	67	84	OH15 HF1			土サンプル	2011/7/25
22	28	OP13	フクド②壁層		土サンプル	2011/7/15	68	85	OH15 HF1			土サンプル	2011/7/25
23	29	OH12 HF2	フクド①層		土サンプル	2011/8/2	69	88	OH15 HF2			土サンプル	2011/7/26
24	30	OH12 HF2	フクド③層		土サンプル	2011/8/2	70	90	OH27 HF1			土サンプル	2011/7/25
25	31	OH12 HF2			土サンプル	2011/7/15	71	92	OH24		K-163	土サンプル	2011/7/26
26	32	OH19 HF1	フクド		焼土サンプル	2011/8/4	72	93	OH36 HF1			焼土サンプル	2011/8/11
27	33	OH31 HF1	フクド		焼土サンプル	2011/8/4	73	94	OF3			土サンプル	2011/8/12
28	34	OH19 HF1	フクド		焼土サンプル	2011/8/4	74	95	OH38 HF2			土サンプル	2011/8/10
29	35	OH19 HF2	フクド		焼土サンプル	2011/8/4	75	96	OH33 HF1			土サンプル	2011/8/12
30	36	OH12 HF2			炭化物・骨	2011/8/4	76	97	OP23			焼土サンプル	2011/8/20
31	38	OH39 HF2			土サンプル	2011/8/24	77	98	OF6			土サンプル	2011/8/19
32	39	OH33	フクド	M-169	焼土サンプル	2011/8/5	78	99	OH38 HF3			土サンプル	2011/8/20
33	40	OH39 HF3			土サンプル	2011/8/24	79	100	OH38 HF3			土サンプル	2011/8/20
34	41	OH38 HF2		N-168	土サンプル	2011/8/10	80	101	OH38 HF3			土サンプル	2011/8/20
35	42	OH13 HF2			土サンプル	2011/8/19	81	102	OH33 HF1			土サンプル	2011/8/20
36	43	OH12 HF1			土サンプル	2011/7/13	82	103	OH30 HF1			焼土サンプル	2011/8/24
37	44	OH12 HF2	フクド②層		炭化物	2011/8/2	83	104	OH39		M-156	土サンプル	2011/8/23
38	45	OH38		N-168-a	焼土サンプル	2011/8/11	84	106	OH2 or 5 HF18	フクド		土サンプル	2010/10/20
39	46	OH38		N-168-a	焼土サンプル	2011/8/11	85	108	OH41 HF1			土サンプル	2011/8/22
40	47	OP13	フクド③壁層		土サンプル	2011/7/15	86	109	OH33 HF10			炭化物	2011/8/22
41	48	OP19	フクド		埴立個体土器土	2011/7/22	87	110	OH28 HF1			土サンプル	2011/8/22
42	50	OH33 HF1			土サンプル	2011/8/19	88	111	OP23			焼土サンプル	2011/8/20
43	56	OH8 HF1			焼土サンプル	2010/11/25	89	112	OH23 HF1			土サンプル	2011/8/22
44	57	OH24 HF1			土サンプル	2011/8/3	90	115	OF7		M-159	土サンプル	2011/8/25
45	58	OH11 HF1			土サンプル	2011/7/11	91	116	OH23 HF1			土サンプル	2011/8/25
46	60	OH11 HF1			土サンプル	2011/7/12	92	117	OH23 HF2			土サンプル	2011/8/26

表VI-5-I-1 試料一覧(2)

骨No.	資料No.	遺構名	層位	グリッド	内容	採取日付	骨No.	資料No.	遺構名	層位	グリッド	内容	採取日付
93	118	0E39			炭化物集積土	2011/8/27	163	233	0E33 HF1				2011/8/26
94	119	0E39 HF2			土サンプル	2011/8/26	164	234	0P13	フタド2層	—		2011/7/15
95	120	0E39 HF3			土サンプル	2011/8/26	165	235	0H13 HF2				2011/7/6
96	121	0E39 HF4			土サンプル	2011/8/29	166	238	0E36 HF14	—	—		2011/9/2
97	122	0E39 HF5			土サンプル	2011/8/29	167	239	0E23	フタド	—		2011/7/15
98	123	0E37 HF1			土サンプル	2011/9/2	168	240	0H16 HF1	—	L-161		2011/8/2
99	124	—	m層	L-156	半形形土層中上	2011/6/1	169	241	0H13 HF1	—	—		2011/7/18
100	133	0P13	フタド	—	—	2011/7/11	170	242	—	m層	L-156		2011/6/3
101	134	0E38	フタド	N-168-d	—	2011/8/11	171	244	0E38	フタド	N-169		2011/8/20
102	135	—	m層	N-168	—	2011/8/10	172	245	0E39 HF4	—	—		2011/8/26
103	136	0H13 HF1	—	—	—	2011/7/6	173	246	0H19	フタド	—		2011/7/7
104	137	—	m層	M-169-d	—	2011/7/28	174	247	0TP3	フタド	—		2011/8/24
105	139	—	フタド	M-169	—	2011/8/5	175	248	0H19 HF51	フタド	—		2011/8/26
106	140	0E23	フタド	L-157	—	2011/7/15	176	249	—	フタド	N-169		2011/8/9
107	141	0H13 HF2	—	—	—	2011/7/6	178	250	0H13 HF22	フタド	L-162		2011/7/22
108	142	0H13 HF1	—	—	—	2011/7/6	179	251	0E37 HF1	—	—		2011/8/19
109	143	0E38	フタド	—	—	2011/8/30	180	252	0E37	—	M-163		2011/8/9
110	144	0H19 HF1	フタド	—	—	2011/8/4	181	253	0H19 HF38	フタド	—		2011/8/11
111	148	0E38	フタド	N-168	—	2011/8/20	182	254	0E39 HF1	—	—		2011/8/26
112	149	—	m層	M-169-a	—	2011/7/28	183	255	0H13 HF8	フタド	M-163		2011/7/22
113	150	0H13 HF1	—	—	—	2011/7/19	184	257	0E31	フタド	—		2011/8/4
114	152	—	m層	M-169-a	—	2011/7/29	185	259	—	m層	M-169-c		2011/7/29
115	153	0E38	フタド	N-169	—	2011/8/20	186	260	—	フタド	N-169-d		2011/7/25
116	155	0E39 HF3	—	—	—	2011/8/24	187	261	—	m層	M-169-b		2011/7/28
117	158	0E33	フタド	M-169	—	2011/8/8	188	262	—	m層	M-169-d		2011/7/28
118	159	—	—	N-164	—	2011/8/30	189	263	—	フタド	N-153-a		2011/8/19
119	160	—	m層	M-169-d	—	2011/7/29	190	264	0E33	フタド	M-169-a		2011/8/5
120	162	0H13 HF2	—	—	—	2011/7/7	191	265	0E33	フタド	N-169		2011/8/5
121	163	—	m層	N-168-d	—	2011/8/10	192	267	0H11 HF1	—	—		2011/7/11
122	164	0TP2	—	—	—	2011/8/20	193	268	0E28	フタド	—		2011/8/31
123	165	0P23	—	—	—	2011/8/20	194	269	0H37 HF1	フタド	—		2011/8/29
124	167	0E38	フタド	N-168	—	2011/8/30	195	270	0S294	フタド	—		2011/9/1
125	171	0E23	フタド	—	—	2011/7/12	196	271	—	フタド	M-169		2011/8/5
126	173	—	m層	M-169-c	—	2011/7/28	197	274	—	フタド	N-153-d		2011/8/19
127	174	0P13	フタド(800層)	—	—	2011/7/15	198	275	0H19	フタド	—		2011/8/1
128	175	0E38	フタド	N-168-d	—	2011/8/12	199	276	0H13 HF2	—	—		2011/8/19
129	176	0E38	フタド	N-168-d	—	2011/8/11	200	277	0SP149	フタド	—		2011/8/2
130	177	0E38	フタド	N-168	—	2011/8/11	201	278	0H12 HF31	フタド	—		2011/8/3
131	178	0E36 HF7	フタド	—	—	2011/8/9	202	279	0E39 HF6	フタド	—		2011/8/31
132	180	0E39 HF1	フタド	—	—	2011/8/29	203	280	0E39	—	M-156		2011/8/23
134	186	0H19 HF1	—	M-166	—	2011/8/2	204	281	—	m層	M-169-b		2011/7/28
135	187	0H19 HF2	フタド	—	—	2011/8/4	205	282	0E33	フタド	N-169		2011/8/5
136	191	0H2 HF6	フタド	—	—	2011/7/25	206	283	0E39	フタド	M-156		2011/8/22
137	195	0H13 HF2	—	—	—	2011/7/6	207	284	—	目層	L-163		2011/8/25
138	196	0E36 HF3	—	—	—	2011/8/20	208	285	—	フタド	L-169		2011/8/1
139	197	—	m層	L-157	—	2011/5/30	209	286	—	m層	N-168		2011/8/10
140	199	0E38 HF3	—	—	—	2011/8/20	210	287	0H19	フタド	—		2011/7/12
141	200	—	m層	L-156	—	2011/5/30	211	288	0E39 HF5	—	—		2011/8/30
142	201	0H13 HF12	フタド	M-163	—	2011/7/22	212	289	—	m層	M-169-a		2011/8/1
143	203	0H19 HF11	フタド	—	—	2011/8/9	213	290	0E31 HF1	フタド	—		2011/8/19
144	205	—	m層	K-160	—	2011/5/25	214	291	0H13 HF13	フタド	M-163		2011/7/22
145	206	0H15 HF2	—	M-160	—	2011/8/2	215	293	0E39	フタド	M-155		2011/8/21
146	208	—	フタド	L-157	—	2011/5/30	216	294	0H13 HF1	—	—		2011/7/6
147	209	0H13 HF1	—	—	—	2011/7/20	217	295	0H13 HF7	フタド	M-163		2011/7/22
148	210	0E39	フタド	L-155	—	2011/8/22	218	296	0E33	フタド	M-169		2011/8/12
149	211	0P434	フタド	M-157	—	2011/9/6	219	297	0P13	フタド(4層)	—		2011/7/15
150	212	—	目層	K-153	—	2011/9/5	220	299	0E39 HF4	フタド	—		2011/8/25
151	213	0E39 HF4	—	—	—	2011/8/29	221	301	0H13 HF1	—	—		2011/7/15
152	214	0E23	フタド	—	—	2011/7/20	222	304	0H19 HF1	—	—		2011/7/28
153	215	0E23	フタド	—	—	2011/7/13	223	305	0E23 HF1	—	—		2011/8/22
154	216	—	m層	M-170-d	—	2011/7/27	224	306	0H19 HF1	—	—		2011/7/28
155	218	0E2	焼土	L-160	—	2011/5/25	225	307	0H19	フタド	—		2011/7/29
156	219	—	m層	L-155	—	2011/6/13	226	308	0TP4	フタド	—		2011/7/21
157	220	0E33	フタド(II層)	M-169	—	2011/8/12	227	309	0E13	フタド(II層)	—		2011/7/15
158	224	—	フタド	M-153-b	—	2011/8/18	228	310	—	フタド	N-154-a		2011/8/19
159	226	0H13	フタド(II層)	M-162	—	2011/7/7	229	312	0H13	フタド2	M-162-163		2011/7/7
160	227	0E2	焼土	L-160	—	2011/6/30	230	313	—	目層	M-155		2011/8/2
161	228	0TP4	フタド	—	—	2011/8/24	231	314	0E21	フタド	—		2011/7/7
162	231	0E24	フタド(2層)	K-163	—	2011/7/26							

表VI-5-1-3 押上1遺跡における動物遺存体同定結果(3)

骨号	材質	骨種	アソート	通称名	日付	層位	骨長	骨径	種	科・属・種	部位	形状	左右	状態	備考	点数
001	138	S-300-J	0010	2013/8/11	フタド	0.06	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
002	139	S-300-J	0010	2013/8/11	フタド	0.12	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
003	136	S-300-J	0011	2013/7/28	フタド	0.16	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
004	137	S-300-J	0011	2013/7/28	フタド	0.03	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
005	130	S-300-J	0013	2013/6/5	フタド	2.3	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
006	139	S-300-J	0013	2013/6/5	フタド	2.3	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
007	140	L-127	0013	2013/7/15	フタド	1.23	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
008	141	L-127	0013	2013/7/15	フタド	0.56	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
009	142	---	0013	2013/7/6	---	0.05	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
010	143	---	0010	2013/8/26	フタド	0.16	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
011	144	---	0019	2013/6/4	フタド	0.04	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
012	146	S-300-J	0020	2013/6/26	フタド	0.04	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
013	146	S-300-J	0020	2013/7/28	フタド	0.09	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
014	156	---	0013	2013/7/19	---	0.53	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
015	156	---	0013	2013/7/19	---	0.53	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
016	152	S-300-J	0013	2013/7/28	フタド	0.02	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
017	152	S-300-J	0020	2013/6/26	フタド	0.02	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
018	155	---	0019	2013/8/24	---	0.34	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
019	156	S-300-J	0013	2013/6/5	フタド	4.02	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
020	159	S-300-J	0013	2013/6/26	---	0.3	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
021	160	S-300-J	0013	2013/7/28	---	0.44	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
022	162	---	0013	2013/7/7	---	0.44	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
023	163	S-300-J	0020	2013/8/24	---	0.53	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
024	164	---	0019	2013/8/20	---	0.26	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
025	165	---	0023	2013/6/20	---	0.11	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
026	167	S-300-J	0019	2013/6/20	フタド	0.12	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
027	171	---	0023	2013/7/12	フタド	1.52	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
028	171	---	0023	2013/7/12	フタド	1.53	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
029	173	S-300-J	0020	2013/7/28	---	0.86	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
030	172	S-300-J	0013	2013/7/28	フタド	0.72	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
031	174	---	0013	2013/7/15	フタド	0.74	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
032	175	S-300-J	0026	2013/6/12	フタド	0.92	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
033	175	S-300-J	0010	2013/8/12	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
034	176	S-300-J	0010	2013/8/11	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
035	177	S-300-J	0020	2013/6/13	フタド	2.27	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
036	177	S-300-J	0019	2013/6/11	フタド	2.27	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
037	177	S-300-J	0010	2013/6/11	フタド	2.27	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
038	178	---	0016	2013/8/9	フタド	0.97	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
039	180	S-300-J	0019	2013/8/20	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
040	186	S-300-J	0019	2013/6/2	---	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
041	187	---	0019	2013/6/14	---	0.52	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
042	187	---	0019	2013/6/14	フタド	0.52	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
043	191	---	0013	2013/7/25	フタド	0.91	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
044	191	---	0013	2013/7/6	---	0.91	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
045	196	---	0020	2013/6/20	---	0.1	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
046	197	L-137	0013	2013/5/28	---	0.08	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
047	190	---	0013	2013/6/20	---	0.11	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
048	200	L-156	---	2013/5/20	---	0.27	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
049	201	S-300-J	0013	2013/7/22	フタド	0.94	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
050	202	---	0019	2013/6/9	フタド	0.16	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
051	202	---	0013	2013/5/25	---	0.08	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
052	206	S-300-J	0013	2013/6/2	---	0.91	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
053	208	L-137	---	2013/5/20	---	0.27	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
054	209	---	0013	2013/7/20	---	0.26	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
055	214	---	0023	2013/7/20	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
056	215	---	0023	2013/7/13	フタド	0.1	高線*	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
057	216	S-370-J	---	2013/7/27	---	0.94	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
058	218	L-160	002	2013/5/25	---	0.94	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
059	219	L-153	002	2013/6/7	---	0.12	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
060	227	S-300-J	0013	2013/6/12	フタド	0.38	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
061	1	224	S-323-J	---	2013/8/18	---	0.23	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
062	2	224	S-323-J	---	2013/8/18	---	0.23	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
063	226	S-362	0013	2013/7/7	フタド	0.91	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
064	227	L-160	002	2013/6/20	---	0.96	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
065	1	228	---	0014	2013/6/24	フタド	1.24	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
066	2	228	---	0014	2013/6/24	フタド	1.24	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
067	4	228	---	0014	2013/6/24	フタド	1.24	高線*	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
068	4	228	---	0014	2013/6/24	フタド	1.24	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
069	8	228	---	0014	2013/6/24	フタド	1.24	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
070	8	228	---	0014	2013/6/24	フタド	1.24	高線*	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
071	224	S-300-J	0014	2013/7/26	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
072	224	S-300-J	0014	2013/7/26	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
073	223	---	0013	2013/6/26	---	0.18	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
074	1	224	---	0013	2013/7/15	フタド	0.36	絶交骨線	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
075	224	---	0013	2013/7/15	フタド	0.36	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
076	225	---	0013	2013/7/6	---	1.99	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
077	1	228	---	0016	2013/6/2	---	0.57	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
078	2	228	---	0016	2013/6/2	---	0.57	絶交骨線*	骨ノ髄	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	動物類	1
079	3	228	---	0014	2013/6/2	---	0.57	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
080	228	---	0023	2013/7/10	フタド	0.5	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
081	240	L-184	0016	2013/6/2	---	0.61	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
082	240	---	0013	2013/7/18	---	0.17	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
083	242	L-136	---	2013/6/3	---	0.16	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
084	244	S-300-J	0019	2013/6/20	フタド	0.92	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1
085	245	---	0020	2013/6/26	---	0.3	高線	ウチ	鳥類	ウチ	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	鳥類	1

表VI-5-1-3 押上1遺跡における動物遺存体同定結果(4)

種名	数量	検出率 %	種別	種名	目	科	学名	種	科・属・種	部位	種分	左右	状態	備考	点数			
173	240	—	0819	2013/7/7	アザミ	0.19	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	1			
174	146	—	0813	2013/6/19	アザミ	0.20	哺乳類	ゾウシノシキ	不明	剥離片	—	白骨	—	剥離片	剥離片	1		
175	146	—	0819	2013/6/28	アザミ	0.20	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
176	120	5-100	0813	2013/6/9	アザミ	0.51	哺乳類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
178	250	1-100	0813	0812	2013/7/22	アザミ	0.02	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
179	251	—	0817	0817	2013/8/19	—	0.08	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
180	252	0-103	0817	2013/8/9	—	0.27	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
181	252	—	0819	2013/6/11	アザミ	0.11	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
182	254	—	0819	0817	2013/6/26	—	0.5	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
183	255	0-103	0813	0812	2013/7/22	アザミ	0.04	哺乳類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
184	257	—	0811	2013/6/4	アザミ	0.20	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
185	259	0-100-g	—	2013/7/28	▲類	0.10	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
186	260	0-100-g	—	2013/7/25	▲類	0.26	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
187	261	0-100-g	—	2013/7/28	▲類	0.19	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
188	262	0-100-g	—	2013/7/28	▲類	1.22	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
189	263	0-102-g	—	2013/6/19	▲類	0.93	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
190	264	0-100-g	—	2013/6/7	アザミ	1.20	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
191	265	0-100	0813	2013/6/5	アザミ	0.11	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
192	1	267	0811	0817	2013/7/11	—	0.34	哺乳類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
193	2	267	0811	0817	2013/7/11	—	0.34	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
194	268	—	0820	2013/6/21	アザミ	0.20	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
195	1	269	—	2013/6/29	アザミ	0.17	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
196	2	269	—	0817	0817	2013/6/26	アザミ	0.17	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
197	1	270	—	0820	2013/6/1	アザミ	0.17	哺乳類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
198	2	270	—	0820	2013/6/1	アザミ	0.17	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
199	1	271	0-100	0813	2013/6/5	アザミ	1.60	哺乳類	コウモリ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
200	2	272	0-100	0813	2013/6/5	アザミ	1.60	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
201	273	0-100	0813	2013/6/5	アザミ	0.19	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
202	274	0-102-g	—	2013/6/19	▲類	0.19	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
203	275	—	0819	2013/6/1	アザミ	0.33	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
209	276	—	0813	0812	2013/6/19	—	0.01	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
200	277	—	0819	2013/6/2	アザミ	0.06	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
201	278	—	0812	0813	2013/6/3	アザミ	0.21	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
202	279	—	0826	0817	2013/6/24	アザミ	0.11	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
203	280	0-130	0819	2013/6/22	—	0.36	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
204	281	0-100-g	—	2013/7/28	▲類	0.1	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
205	282	0-100	0813	2013/6/5	アザミ	0.20	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
206	283	0-130	0819	2013/6/22	アザミ	0.12	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
207	284	1-263	—	2013/6/25	▲類	4.6	哺乳類	ネコ	下顎骨	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
208	1	285	1-100	0813	2013/6/5	アザミ	2.00	哺乳類	ヒツジ	手骨	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
209	2	285	1-100	0813	2013/6/5	アザミ	2.00	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
210	1	286	0-100	—	2013/6/10	▲類	1.12	鳥類	ウナギ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
211	2	286	0-100	—	2013/6/10	▲類	1.12	鳥類	ウナギ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
212	2	286	0-100	—	2013/6/10	▲類	1.12	鳥類	ウナギ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
213	4	286	0-100	—	2013/6/10	▲類	1.12	哺乳類	ヒメ・キヌ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
214	3	286	0-100	—	2013/6/10	▲類	1.12	哺乳類	ヒメ・キヌ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
215	1	287	—	0819	2013/7/12	アザミ	1.11	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
216	1	288	—	0819	0817	2013/6/26	—	0.29	哺乳類	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
217	2	288	—	0819	0817	2013/6/26	—	0.29	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
218	289	0-100-g	—	2013/6/1	▲類	0.54	哺乳類	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
219	290	—	0811	0817	2013/6/19	アザミ	0.13	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
220	291	0-103	0813	0812	2013/7/22	アザミ	0.06	哺乳類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
221	292	—	0813	2013/6/24	アザミ	0.06	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
222	293	—	0813	0812	2013/6/24	アザミ	0.06	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
223	294	—	0813	0817	2013/7/22	アザミ	0.26	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
224	296	0-100	0813	0812	2013/6/12	アザミ	0.06	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
225	1	297	—	0813	2013/7/12	アザミ	1.21	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
226	2	297	—	0813	2013/7/12	アザミ	1.21	鳥類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
227	299	—	0819	0819	2013/6/25	アザミ	0.05	哺乳類?	ヒツジ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
228	1	301	—	0813	0817	2013/7/15	—	0.1	哺乳類?	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
229	2	301	—	0813	0817	2013/7/15	—	0.1	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
230	1	304	—	0819	0817	2013/7/28	—	1.2	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
231	305	—	0813	0812	2013/6/22	—	0.43	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1	
232	306	—	0819	0817	2013/7/28	—	0.23	哺乳類?	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
233	307	—	0819	2013/7/29	アザミ	0.4	哺乳類?	不明	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
234	308	—	0819	2013/7/29	アザミ	0.19	不明	不明	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
235	309	—	0813	2013/7/12	アザミ	0.4	不明	不明	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
236	310	0-100-g	—	2013/6/19	▲類	0.54	哺乳類?	不明	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
237	312	0-103	0813	2013/7/7	アザミ	0.03	不明	不明	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1
238	313	0-103	—	2013/6/2	▲類	0.11	哺乳類	ウナギ	骨	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1		
239	314	—	0811	2013/7/7	アザミ	0.26	哺乳類?	不明	不明	不明	不明	—	白骨	—	剥離	剥離片	剥離片	1

II. 炭化種実同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

2. 試料

試料は、北斗市押上1遺跡において採取された堆積物より水洗・選別により抽出されたものである。表VI-4-Ⅱ-1に詳細を示す。

3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

4. 結果

(1) 分類群

樹木8、樹木・草本を含むもの1、草本15の計19分類群が同定された。学名、和名および粒数を表VI-4-Ⅱ-2に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に、同定根拠となる形態的特徴を記載し、写真に示したのものについてはサイズを付記する。

〔樹木〕

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核(破片) クルミ科

炭化しているため黒色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。本遺跡では全て破片である。

クリ *Castanea crenata* S. et Z. 子葉(破片) ブナ科

炭化しているため黒色で広楕円形を呈し、下端に広い付き部がある。断面は楕円～半円形である。本遺跡では全て破片である。

ブナ科 Fagaceae 子葉(破片)

炭化しているため黒色で楕円形を呈し、表面は平滑である。この分類群はつき部、殻斗が欠落し破片のため、科レベルの同定までである。

キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. 種子(破片) ミカン科

炭化しているため黒色で半円形を呈し、一側面に細長いへそがある。表面には微細な網目模様がある。本遺跡では全て破片である。

ブドウ科 Vitaceae 種子(破片) ブドウ科

炭化しているため黒色で、腹面には孔がある。この分類群は破片でカラザの部分が欠損しているため科レベルの同定までである。

マタタビ *Actinidia polygama* Planch. ex Maxim. 種子(完形) マタタビ科

炭化しているため黒色で、楕円形を呈す。断面は両凸レンズ形、表面には穴が規則的に分布する。種皮はやや厚く堅い。長さ×幅：1.73mm×1.10mm。

ミズキ *Cornus controversa* Hems1. 核(破片) ミズキ科

炭化しているため黒色で横長の楕円形を呈す。表面には縦方向に深い筋が走る。本遺跡では破片である。

ニワトコ *Sambucus sieboldiana* Blume ex graedn 核 (完形・破片) スイカズラ科

黄褐色～茶褐色で楕円形を呈す。一端にへそがある。表面には横方向の隆起がある。長さ×幅: 2.30 mm×1.15 mm。

[草本]

ヒエ属 *Echinochloa* 果実 (完形) イネ科

炭化しているため黒色で類円形を呈し、胚の部分がくぼむ。長さ×幅: 1.61 mm×1.24 mm。

イネ科 Gramineae 穎 (完形)・果実 (完形)

穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平らで背面は丸く表面は滑らかである。全て未炭化である。長さ×幅: 3.28 mm×1.46 mm。

果実は炭化しているため黒色で楕円形から円形を呈す。胚の部分とはとれていくぼんでいる。長さ×幅: 1.14 mm×0.63 mm。

スゲ属 *Carex* 果実 (完形) カヤツリグサ科

茶褐色で倒卵形、扁平で表面はやや粗く断面は三角形である。全て未炭化である。長さ×幅: 1.81 mm×1.04 mm。

タデ属 *Polygonum* 果実 (完形) タデ科

黒褐色で卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。未炭化のもののみられる。長さ×幅: 1.89 mm×1.34 mm。

タデ属サナエタデ節 *Polygonum sect. Persicaria* 果実 (完形・破片) タデ科

黒褐色で頂端が尖る広卵形を呈す。表面は滑らかで光沢があり、断面は扁平で中央がややくぼむ。炭化している。長さ×幅: 1.93 mm×1.40 mm。

イラクサ科 Urticaceae 種子 (完形)

茶褐色を呈し、ゆがんだ卵形で両端は尖る。表面はざらつき、種皮は厚くやや堅い。全て未炭化である。

アカザ属 *Chenopodium* 種子 (完形・破片) アカザ科

円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。全て未炭化である。長さ×幅: 1.26 mm×1.24 mm。

ヒユ属 *Amaranthus* 種子 (完形) ヒユ科

円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、へそがある。断面は両凸レンズ形である。全て未炭化である。長さ×幅: 1.10 mm×0.94 mm。

ザクロソウ *Mollugo pentaphylla* L. 種子 (完形) ザクロソウ科

円形を呈し、一ヶ所が切れ込み、白い種柄がある。表面には微細な網状斑紋がある。全て未炭化である。長さ×幅: 0.63 mm×0.59 mm。

ナデシコ科 Caryophyllaceae 種子 (完形・破片)

円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。全て未炭化である。長さ×幅: 1.29 mm×1.24 mm。

ハギ属 *Lespedeza* 子葉 (完形・破片) マメ科

炭化しているため黒色で横卵形や横楕円形を呈す。へそは狭楕円形や狭卵形で、その縁は高い。へその位置は腹面の中心からややずれる。長さ×幅×厚さ: 3.06 mm×2.32 mm×1.72 mm。

マメ科 Leguminosae 子葉（完形） マメ科

炭化しているため黒色で楕円形を呈し、縦に一本の溝状の筋が走る。

アカネ科 Rubiaceae 種子（完形）

炭化しているため黒色で偏球形を呈し、背面は広楕円状円形である。中央に円形の穴がある。

シソ科 Lamiaceae 果実（完形・破片）

炭化しているため黒色で倒卵状3稜形を呈し、先端は切形で扇形。長さ×幅：1.72mm×1.27mm。

キク亜科 Asteroideae 果実（完形） キク科

茶褐色で楕円形を呈し、両端は切形となる。表面には縦方向に8本程度の筋が走る。未炭化である。長さ×幅：1.13mm×0.29mm。

不明種実

種実ではあるが、炭化の度合いが著しく表面模様は欠落しており破片のため不明種実までである。不明

炭化の度合いが著しく表面模様は欠落しており破片のため種実かどうかは不明である。

(2) 同定された分類群の特徴と傾向

北斗市押上1遺跡の種実類は、オニグルミ核（破片）、クリ子葉（破片）、ブナ科子葉（破片）、キハダ種子（破片）、ブドウ科種子（破片）、マタタビ種子（完形）、ミズキ核（破片）、ニワトコ核（完形・破片）の樹木種実、ウコギ科種子（完形）の樹木・草本を含むもの、ヒエ属果実（完形）、イネ科穎（完形）・果実（完形）、スゲ属果実（完形）、タデ属果実（完形）、タデ属サナエタデ節果実（完形・破片）、イラクサ科種子（完形）、アカザ属種子（完形・破片）、ヒユ属種子（完形）、ザクロソウ種子（完形）、ナデシコ科種子（完形・破片）、ハギ属子葉（完形・破片）マメ科子葉（完形）、アカネ科種子（完形）、シソ科果実（完形・破片）、キク亜科果実（完形）の草本種実が同定された。

これらの中で、食用になる樹木種実はオニグルミ2281が最も多く、次にブナ科12、クリ6、マタタビ3、ブドウ科1と続く。また、食用になる栽培および畑作物はヒエ属1があり、栽培の可能性のある草本種実としてはシソ科22が上げられる。

食用にならない樹木種実では、ニワトコ122が多く、キハダ5、ミズキ1があり、いずれも二次林種か人里周辺に生育する。草本種実で雑草になるものは、アカザ属397が最も多く、次にナデシコ科23、タデ属19、イネ科穎4・果実14、ザクロソウ9、スゲ属5、ヒユ属5、タデ属サナエタデ節3、アカネ科3、イラクサ科2、ハギ属2、マメ科1、キク亜科1がある。スゲ属、タデ属サナエタデ節は水生植物であり、タデ属、イネ科にも水生植物が含まれる。

5. まとめ

北斗市押上1遺跡から検出された種実を同定した結果、食用になる種実が多く、オニグルミ、ブナ科、クリ、マタタビが同定された。これらの中ではオニグルミの核片が極めて多い。栽培植物としては、ヒエ属が同定され、栽培の可能性のあるものとしてシソ科が同定された。樹木種実は二次林種ばかりでニワトコがやや多く、キハダ、ミズキがあった。草本種実は雑草になるものばかりであり、アカザ属397が多く、ナデシコ科、イネ科などがあり、スゲ属などの水生植物も含まれていた。

参考文献

笠原安夫（1985）日本雑草図説、養賢堂、494p.

笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類、弥生文化の研究第2巻生業、雄山閣 出版, p. 131-139.

南木睦彦 (1991) 栽培植物、古墳時代の研究第4巻生業と流通I、雄山閣出版株式会社, p. 165-174.

南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子、日本第四紀学会編、第四紀試料分析法、東京大学出版会, p. 276-283.

吉崎昌一 (1992) 古代雑穀の検出、月刊考古学ジャーナルNo. 355, ニューサイエンス社, p. 2-14.

渡辺誠 (1975) 縄文時代の植物食、雄山閣, 187p.

表VI-5-II-1 試料一覧

検出率 検出%	試料No.	遺体名	墓誌	フリット	内容	採出日付	種別	検出率 検出%	試料No.	遺体名	墓誌	フリット	内容	採出日付
1	1	0015 葬2			土葬	2013/7/25	71	80	0023	埋土		土葬	2014/7/20	
2	2	0015 葬3			土葬	2013/7/25	72	81	0012 葬1			土葬	2014/7/20	
3	3	0025 葬1			土葬	2013/7/25	73	82	0013	埋土	9-102	埋土	2014/7/21	
4	4	0015 葬2			土葬	2014/7/26	74	83	0015			土葬	2014/7/25	
5	5	0023 葬1			土葬	2013/7/25	75	84	0015 葬1			土葬	2013/7/25	
6	6	0015 葬2			土葬	2013/7/25	76	85	0015 葬1			土葬	2013/7/25	
7	7	0016 葬1			土葬	2013/7/27	77	86	0015 葬1			土葬	2013/7/25	
8	8	0016 葬1			土葬	2013/7/27	78	87	0015 葬1			土葬	2013/7/25	
9	9	0019 葬2			埋土	2013/8/4	79	88	0015 葬2			土葬	2013/7/26	
10	10	0011	埋土		埋土	2013/8/4	80	90	0017 葬1			土葬	2013/7/25	
11	11	0015 葬1			埋土	2013/8/8	81	91	0017 葬1			土葬	2013/7/26	
12	12	0015 葬2			埋土	2013/8/8	82	92	0018	K-163		土葬	2013/7/26	
13	13	0015 遺体	男	L-172	フタノタ蓋ニキナ	2013/8/2	83	93	0019 葬1			埋土	2013/8/13	
14	14	0015 葬1	埋土	9-100	土葬	2013/8/5	84	94	0019 葬1			土葬	2013/8/13	
15	15	0021	埋土	K-161	骨	2013/8/7	85	95	0019 葬2			土葬	2013/8/10	
16	16	0016 葬1			土葬	2013/8/10	86	96	0019 葬1			土葬	2013/8/12	
17	18	0016 葬2		9-160	土葬	2013/8/10	87	97	0021			埋土	2013/8/20	
18	19	0013 葬3			炭化物・骨	2013/8/8	88	98	0016			土葬	2013/8/19	
19	21	0013 葬5			炭化物	2013/8/8	89	99	0016 葬3			土葬	2013/8/20	
20	23	0013	埋土・生体		土葬	2013/7/15	90	100	0016 葬3			土葬	2013/8/20	
21	24	0013 葬1			土葬	2013/7/15	91	101	0016 葬3			土葬	2013/8/20	
22	25	0015			土葬	2013/7/23	92	103	0016 葬1			埋土	2013/8/24	
23	26	0013	埋土・生体		土葬	2013/7/15	93	104	0019	9-156		土葬	2013/8/25	
24	27	0013	埋土・生体		土葬	2013/7/15	94	105	0019	9-155		土葬	2013/8/24	
25	28	0013	埋土・生体		土葬	2013/7/15	95	106	0019 or 土葬	埋土		土葬	2013/8/20	
26	29	0013 葬2	埋土・生体		土葬	2013/8/7	96	107	0019			土葬	2013/8/18	
27	30	0013 葬2	埋土・生体		土葬	2013/8/2	97	108	0014 葬1			土葬	2013/8/22	
28	31	0013 葬2			土葬	2013/7/15	98	109	0013 葬10			炭化物	2013/8/22	
29	32	0019 葬1	埋土		埋土	2013/8/4	99	110	0019 葬1			土葬	2013/8/22	
30	33	0021 葬1	埋土		埋土	2013/8/4	100	111	0023			埋土	2013/8/20	
31	34	0019 葬1	埋土		埋土	2013/8/4	101	113	0019 葬1			土葬	2013/8/24	
32	35	0019 葬2	埋土		埋土	2013/8/4	102	114	0019 葬1			土葬	2013/8/24	
33	38	0019 葬2			土葬	2013/8/24	103	115	007	9-159		土葬	2013/8/25	
34	39	0023	埋土	9-160	埋土	2013/8/5	104	116	0023 葬1			土葬	2013/8/25	
35	40	0019 葬3			土葬	2013/8/24	105	118	0026			炭化物・骨	2013/8/27	
36	42	0013 葬2			土葬	2013/8/19	106	119	0019 葬2			土葬	2013/8/26	
37	43	0013 葬2			土葬	2013/7/15	107	120	0019 葬3			土葬	2013/8/28	
38	44	0013 葬2	埋土・生体		炭化物	2013/8/2	108	121	0019 葬4			土葬	2013/8/29	
39	45	0016		9-160-a	埋土	2013/8/11	109	122	0019 葬5			土葬	2013/8/29	
40	46	0016		9-160-a	埋土	2013/8/11	110	123	0017 葬1			土葬	2013/8/2	
41	47	0013	埋土・生体		土葬	2013/7/15	111	124	高直土遺構	男	L-156	早見野上段中土	2013/8/1	
42	48	0019	埋土		土葬	2013/7/25	112	129	0019 葬1			土葬	2013/7/19	
43	49	0013 葬3			土葬	2013/7/29	113	131	001	埋土	土葬	土葬	2013/8/29	
44	52	001 葬1		L-100	土葬	2013/10/20	114	132	001 葬1		9-164		2013/10/12	
45	53	0013 葬2			土葬	2013/10/21	115	141	0013 葬2				2014/7/16	
46	54	002 葬1		9-161	土葬	2013/10/12	116	142	0013 葬1				2014/7/16	
47	55	0013 葬1			土葬	2013/10/22	117	145	0019		9-155		2013/8/26	
48	57	0021 葬1			土葬	2013/8/23	118	147	0021	埋土	K-163		2013/7/28	
49	58	0013 葬1			土葬	2013/7/11	119	162	0013 葬2				2014/7/17	
50	59	0013 葬1			土葬	2013/7/14	120	171	0023	埋土			2013/7/12	
51	60	0013 葬1			土葬	2013/7/12	121	173	高直土遺構	男	9-160-a		2013/7/28	
52	61	0013	埋土・生体		土葬	2013/7/12	122	174	0013	埋土	埋土	埋土	2013/7/25	
53	62	0021 葬1			埋土	2013/7/28	123	179	0011 葬1	埋土		埋土	2013/8/8	
54	63	0021	埋土 (炭化物)	K-163	土葬	2013/7/28	124	180	0019 葬1	埋土		埋土	2013/8/29	
55	64	0014 葬1			土葬	2013/8/1	125	182	0013 葬2				2013/7/16	
56	65	0016			土葬	2013/8/1	126	190	0019 葬3				2013/8/29	
57	66	0023 葬1			土葬	2013/8/12	127	216	高直土遺構	男	9-170-d		2013/7/27	
58	67	0023 葬2			土葬	2013/8/11	128	217	0019				2013/8/27	
59	68	0026 葬1			土葬	2013/8/12	129	233	0023 葬1				2013/8/26	
60	69	0023 葬2			土葬	2013/8/12	130	235	0013 葬2				2013/8/26	
61	70	0027 葬1			土葬	2013/8/19	131	239	0023	埋土			2013/7/15	
62	71	0026 葬2			土葬	2013/8/19	132	240	0016 葬1		L-161		2013/8/2	
63	72	0021 葬1		L-155	土葬	2013/8/28	133	260	高直土遺構	男	9-160-d		2013/7/25	
64	73	0021		L-156	土葬	2013/8/10	134	261	高直土遺構	男	9-160-d		2013/7/25	
65	74	0021		9-162	埋土	2013/7/11	135	267	0023	埋土	9-160		2013/8/16	
66	75	0013 葬1			土葬	2013/7/16	136	267	0011 葬1				2014/7/11	
67	76	0013 葬2			土葬	2013/7/16	137	297	0013 葬2	埋土	9-163		2013/7/22	
68	77	0013 葬1			土葬	2013/7/16								
69	78	0013 葬1			土葬	2013/7/20								
70	79	0013 葬2			土葬	2013/7/22								

表VI-5-Ⅱ-2 北斗市押上1遺跡における種実同定結果(1)

種実No	内容	グリッド	遺構名	日付	分類群		部位	個数	備考	
					学名	和名				
1	土サンプル		M01 0P2	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	18		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	節	1		
					Artocarpus	ウロコ木	種子	1		
					Gramineae	イネ科	実莢	2	*	
					Chenopodium	アカザ属	種子	2	*	
					Udonaceae	ウドン	(縦切)	1	*	
2	土サンプル		M01 0P1	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	9		
					Gramineae	イネ科	実莢	1	*	
					Caryophyllaceae	ナゲシ科	種子	2	*	
3	土サンプル		M02 0P1	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	9		
4	土サンプル		M01 0P2	2011/7/26	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	19		
					Chenopodium	アカザ属	種子	8	*	
5	土サンプル		M02 0P1	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	12		
					<i>Arctostaphylos plumb. ex Maxim.</i>	マツタビ	種子	1		
					Carex	スズガ属	実莢	1	*	
					Chenopodium	アカザ属	種子	3	*	
6	土サンプル		M01 0P2	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	13		
7	土サンプル		M01 0P1	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	8		
8	土サンプル		M01 0P1	2011/7/25	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	9		
					Labiatae	シソ科	実莢(縦切)	2		
9	地上サンプル		M09 0P2	2011/8/6	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	49		
					Chenopodium	アカザ属	種子	2	*	
10	地上サンプル		M01	2011/8/6	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	2	*	
					Gramineae	イネ科	実莢	1	*	
					Chenopodium	アカザ属	種子	1	*	
11	地上サンプル		M01 0P1	2011/8/6	Chenopodium	アカザ属	種子	2	*	
					Caryophyllaceae	ナゲシ科	種子	2	*	
12	地上サンプル		M01 0P2	2011/8/6	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	15		
					Chenopodium	ナツシロ科	種子	1	*	
13	ワイイタ庭じり土	土-152	車道土遺構	2011/9/2	Udonaceae	ウドン	(縦切)	1		
14	土器中土	9-009	M01	2011/8/5	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	1		
15	土	9-061	9P1	2010/9/21					報告なし	
16	土サンプル		M06 0P1	2011/8/10	Chenopodium	アカザ属	種子	14	*	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> L.	ニワトコ	種子	1	*	
17	土サンプル		9-068	M09 0P2	2011/8/10	Chenopodium	アカザ属	種子	1	*
18	灰土物・土		M01 0P3	2011/8/9	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	3	9P1	
					Fagaceae	ブナ科	子葉(縦切)	4		
19	灰土物		M01 0P1	2011/8/9	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	20		
20	土サンプル		M01	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	17		
					<i>Sida coccinea</i> Brand.	ヒユ	節 (縦切)	1		
21	土サンプル		M01 0P1	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	19		
					Chenopodium	アカザ属	種子	1	*	
22	土サンプル		M01	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	3		
23	土サンプル		M01	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	46		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	種子	2	*	
					Chenopodium	アカザ属	種子	6	*	
					Rubiacae	アカネ科	種子	1	*	
					Labiatae	シソ科	実莢	1	*	
					Udonaceae seeds	ウドン実莢	(縦切)	2	*	
					Udonaceae	ウドン	(縦切)	1	*	
24	土サンプル		M01	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	14		
					Polypodium	タテヤマ	実莢	2	*	
25	土サンプル		M01	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	10		
					Chenopodium	アカザ属	種子	1	*	
26	土サンプル		M01 0P2	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	12		
27	土サンプル		M01 0P2	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	2	*	
28	土サンプル		M01 0P2	2011/7/15	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	29		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	節	1		
					Polypodium <i>var. Peruvianum</i>	タテヤマナメタテヤマ	実莢	2	*	
						(縦切)	1	*		
29	地上サンプル		M01 0P1	2011/8/6	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	1	*	
30	地上サンプル		M01 0P1	2011/8/6	Chenopodium	アカザ属	種子	1	*	
31	地上サンプル		M01 0P1	2011/8/6	Chenopodium	アカザ属	種子	1	*	
32	地上サンプル		M01 0P2	2011/8/6	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	13		
					Chenopodium	アカザ属	種子	4	*	
						(縦切)	1	*		
33	土サンプル		M01 0P2	2011/8/10	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	2		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	節	4	*	
					Polypodium	タテヤマ	実莢	4	*	
					Chenopodium	アカザ属	種子	5	*	
					Caryophyllaceae	ナゲシ科	(縦切)	1	*	
					Rubiacae	アカネ科	種子	1	*	
34	地上サンプル	9-069	M01	2011/8/5	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	3		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	節	1		
					Chenopodium	アカザ属	種子	2	*	
						(縦切)	1	*		
35	土サンプル		M01 0P1	2011/8/10	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	123		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	節	1		
36	土サンプル		M01 0P2	2011/8/10	<i>Agrostis alabasthica</i> Carr	オオグルシ	節 (縦切)	64		
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ニワトコ	節	2		
					Gramineae	イネ科	実莢	1	*	
					Chenopodium	アカザ属	種子	23	*	
						(縦切)	1	*		

表VI-5-Ⅱ-2 北斗市押上1遺跡における種実同定結果(2)

種別	内容	グリッド	遺構名	日付	分類群	科名	部位	個数	備考
37	土サンプル		M02 0F1	2011/7/14	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	2	
38	埋込物		M02 0F1	2011/8/2	<i>Polypodium</i>	ワサビ属	葉裏	1	※ 葉1
39	地上サンプル	N-303 a	M08	2011/8/11	<i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Chenopodium</i>	オウゴン アカザ属	殻 (縦片) 種子	5 3	※
40	地上サンプル	N-303 a	M08	2011/8/11	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ワサビ属 アカザ属	殻 (縦片) 種子 種子	18 3 1	※
41	土サンプル		M03	2011/7/15	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Actinidia polygama</i> Planch. ex Maxim.	オニグルミ ワサビ	殻 (縦片) 種子	26 1	
42	掘込跡体上段中上		M09	2011/7/23	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	22	
43	土サンプル		M02 0F1	2011/7/24	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	9	
44	土サンプル	N-301	M01 0F1	2010/10/26	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Crucianet</i> <i>Chenopodium</i>	オニグルミ イネ科 アカザ属	殻 (縦片) 葉 種子	20 4 2	※
45	土サンプル		M01 0F1	2010/10/26	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Chenopodium</i>	オニグルミ アカザ属	殻 (縦片) 種子	2 1	※
46	土サンプル	N-304	M02 0F1	2010/10/22	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	6	
47	土サンプル		M02 0F1	2010/10/22	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Rubuscor</i>	オニグルミ アムネ科	殻 (縦片) 種子	3 1	
48	土サンプル		M04 0F1	2011/8/2					種実なし
49	土サンプル		M01 0F1	2011/7/11	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ワサビ科 アカザ属	殻 (縦片) 殻 種子	104 5 1	※
50	土サンプル		M03 0F1	2011/7/14	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	1	
51	土サンプル		M01 0F1	2011/7/12	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ワサビ科 アカザ属	殻 (縦片) 殻 種子	12 1 15	※
					<i>Anacardium</i>	ニホ属	種子	5	※
					<i>Labiatae</i>	シソ科	葉裏	18	※
							縦片	1	
52	土サンプル		M03	2011/7/15	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Phellodendron amurense</i> Rupr. <i>Polypodium</i>	オニグルミ キハダ ワサビ属	殻 (縦片) 種子(縦片) 葉裏	27 9 1	※
53	土壌	土サンプル	M04 0F1	2011/7/26	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	3	
54	土サンプル	N-361	M04	2011/7/26	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Carex</i> <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ワサビ科 アカザ属 アカザ属	殻 (縦片) 殻 葉裏 種子	10 1 1 1	※
					<i>Mollugo pennsylvanica</i> L. <i>Caryophyllaceae</i>	ザトウコノク ナデシコ科	種子	2 1	※
55	土サンプル		M04 0F1	2011/8/3	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Chenopodium</i> <i>Caryophyllaceae</i>	オニグルミ アカザ属 ナデシコ科	殻 (縦片) 種子 種子	24 3 1	※
56	土サンプル		M5	2011/8/3	<i>Viburnum</i> <i>Chenopodium</i>	アザミ科 アカザ属	種子(縦片) 種子	1 2	※
57	土サンプル		M03 0F1	2011/8/12	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	6	
58	土サンプル		M03 0F2	2011/8/11	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Carex</i> <i>Polypodium</i> <i>Chenopodium</i>	オニグルミ アカザ属 ワサビ属 アカザ属	殻 (縦片) 葉裏 葉裏 種子	29 1 2 142	※
					<i>Mollugo pennsylvanica</i> L. <i>Caryophyllaceae</i>	ザトウコノク ナデシコ科	種子	2 1	※
59	土サンプル		M06 0F1	2011/8/12	<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子(縦片)	3	※ 葉1
60	土サンプル		M02 0F1	2011/8/12	<i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr.	ワサビ科	殻	1	
61	土サンプル		M07 0F1	2011/8/18	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Chenopodium</i>	オニグルミ アカザ属	殻 (縦片) 種子	1 1	※
62	土サンプル		M08 0F2	2011/8/18	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ワサビ科 アカザ属	殻 (縦片) 殻 種子	50 1 3	※
63	土サンプル	N-150	M09 0F1	2011/8/26	<i>Chenopodium</i> <i>Caryophyllaceae</i>	アカザ属 ナデシコ科	種子	2 1	※
64	土サンプル	N-150 + 011	M9	2011/8/10	<i>Chenopodium</i> <i>Unknown</i>	アカザ属 不明	種子	1 3	※
65	地上サンプル	N-363	M03	2011/7/1	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Polypodium</i> <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ワサビ属 アカザ属	殻 (縦片) 葉裏 種子	43 1 11	※ 魚骨片1
66	土サンプル		M03 0F1	2011/7/4	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Fagaceae</i> <i>Saxifraga aizoides</i> Blume ex. prodr. <i>Carex</i> <i>Chenopodium</i>	オニグルミ ブナ科 ワサビ科 アカザ属 アカザ属	殻 (縦片) 子葉(縦片) 葉裏 葉裏 種子	24 1 4 1 10	※
67	土サンプル		M01 0F1	2011/7/6	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Crucianet</i> <i>Chenopodium</i> <i>Unknown seeds</i>	オニグルミ イネ科 アカザ属 不明種実	殻 (縦片) 葉裏 種子 不明種実	1 1 6 3	※
68	土サンプル		M03 0F1	2011/7/6	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Polypodium</i>	オニグルミ ワサビ属	殻 (縦片) 葉裏	117 1	※
69	土サンプル		M03 0F1	2011/7/26	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car. <i>Actinidia</i> <i>Unknown</i>	オニグルミ オニグルミ 不明	殻 (縦片) 葉裏 不明	29 1 1	※
70	土サンプル	N-363	M03 0F1	2011/7/22	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	22	
71	土サンプル		M03	2011/7/26	<i>Aglypsis atlantidiana</i> Car.	オニグルミ	殻 (縦片)	6	

表VI-5-II-2 北斗市押上1遺跡における種実同定結果(3)

種別No	内容	グリッド	遺構名	日付	分類群		部位	個数	備考
					学名	和名			
72	土サンプル		M02 0F1	2011/7/26	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	1	
					<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子	1	*
73	焼土サンプル	B-302	M03	2011/7/10	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	49	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	5	
					<i>Echinocleilus</i>	ヒメ藻	葉莖	1	*
					<i>Carex</i>	スズメ草	葉莖	1	*
					Unknown seeds	不明種実	不明	1	*
74	土サンプル		M03	2011/7/20	<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
75	土サンプル		M03 0F1	2011/7/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	9	
					<i>Phlebotanhus amurensis</i> Rapp.	キハダ	種子(縦切)	1	*
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
76	土サンプル		M03 0F1	2011/7/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	17	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
77	土サンプル		M03 0F1	2011/7/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	12	*
78	土サンプル		M03 0F1	2011/7/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	11	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	4	*
							(縦切)	1	*
79	土サンプル		M03 0F2	2011/7/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	18	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子(縦切)	1	*
80	土サンプル		M07 0F1	2011/7/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	14	
					<i>Phlebotanhus amurensis</i> Rapp.	キハダ	種子(縦切)	1	*
81	土サンプル		M07 0F1	2011/7/20	<i>Artemisia polygama</i> Planch. ex Maxim.	マダダゴ	種子	1	*
82	土サンプル	B-303	M04	2011/7/24	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	38	
					<i>Fagopyrum</i>	クマノ花	葉莖	1	*
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
					<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子	1	*
					Unknown seeds	不明種実	不明	1	*
83	焼土サンプル		M06 0F1	2011/6/11	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	1	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
							(縦切)	1	*
84	土サンプル		M13	2011/6/10	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	8	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2	*
					<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子	1	*
85	土サンプル		M08 0F2	2011/6/9	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	29	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	2	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2	*
86	土サンプル		M03 0F1	2011/6/10	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	15	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
					Unknown	不明	(縦切)	1	*
87	焼土サンプル		M23	2011/6/26	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	11	
					<i>Phlebotanhus amurensis</i> Rapp.	キハダ	種子(縦切)	1	*
88	土サンプル		M9	2011/6/9	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	11	
					<i>Cortaderia cymata</i> S. et Z.	カマ	子葉(縦切)	6	
					<i>Fagopyrum</i>	クマノ花	子葉(縦切)	4	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2	*
89	土サンプル		M08 0F2	2011/6/26	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	14	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	4	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
90	土サンプル		M08 0F3	2011/6/26	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	29	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	2	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
					Unknown seeds	不明種実	不明	1	*
91	土サンプル		M08 0F3	2011/6/26	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	13	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	1	
92	焼土サンプル		M04 0F1	2011/6/24	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	3	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
					Unknown	不明	(縦切)	1	*
93	土サンプル	B-150	M09	2011/6/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	13	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	1	
94	土サンプル 炭化物	B-155	M09	2011/6/24	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	4	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	11	
					<i>Lespedeza</i>	ハナ藻	子葉	1	
					Unknown	不明	(縦切)	1	*
95	土サンプル		M02 or S 0F10	2010/10/28	<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
96	土サンプル		M1	2010/10/9	<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	1	*
97	土サンプル		M01 0F1	2011/6/22	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	11	
98	炭化物		M03 0F10	2011/6/22					種実なし
99	土サンプル		M08 0F1	2011/6/22	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	22	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	3	*
100	焼土サンプル		M22	2011/6/26	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	3	
101	土サンプル		M09 0F1	2011/6/24	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	4	
102	土サンプル		M09 0F1	2011/6/24	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	38	
					<i>Fagopyrum</i>	クマノ花	子葉(縦切)	1	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	2	*
					<i>Mollis perfoliata</i> L.	ザトウソウ	種子	3	*
					<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	種子	2	*
103	土サンプル	B-159	M7	2011/6/20	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	266	
104	土サンプル		M02 0F1	2011/6/20					
105	同炭化物等 土サンプル		M09	2011/6/27	<i>Agrostis alabastrella</i> Car.	オオグルシ	節 (縦切)	69	
					<i>Sambucus sieboldiana</i> Blume ex gracil.	ハワロコ	枝	21	
					<i>Chenopodium</i>	アカザ属	種子	3	*
							(縦切)	1	*
					<i>Lespedeza</i>	ハナ藻	子葉(縦切)	1	*

表VI-5-Ⅱ-2 北斗市押上1遺跡における種実同定結果(4)

種実No	内容	グランド	遺構名	日付	分類群		部位	個数	備考
					学名	和名			
106	土サンプル		M09-02	2011/6/24	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	13	
					<i>Sacchara vitifoliana</i> Blume ex griseb.	ニワトコ	殻	1	
					<i>Crataegus</i>	イバラ	果実	7	
					<i>Polyporus</i>	イナズメ	果実	5	一回目
					<i>Uromyces</i>	イナズメ科	種子	2	*
107	土サンプル		M09-03	2011/6/24	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	43	
					<i>Sacchara vitifoliana</i> Blume ex griseb.	ニワトコ	殻	7	
					<i>Caryophyllaceae</i>	ナゲシ科	種子	1	*
					<i>Leguminosae</i>	マメ科	子葉	1	
108	土サンプル		M09-04	2011/6/24	Unknown	不明	(縦切)	1	
109	土サンプル		M09-05	2011/6/24	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	1	
110	土サンプル		M07-01	2011/6/2	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	2	
111	弥生期土器中土サンプル	E-106	弥生土遺構	2011/6/1	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	6	
112			M0702	2010/11/10					検出なし
113			M0	2010/10/26	<i>Sacchara vitifoliana</i> Blume ex griseb.	ニワトコ	殻	1	
114			M-001	2010/10/12	Unknown	不明	(縦切)	1	
115			M013-02	2011/7/6	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	4	
116			M013-01	2011/7/6					検出なし
117			M-102	2011/6/24	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	20	
118			K-003	2011/7/26					検出なし
119			M013-02	2011/7/6	<i>Chomopodium</i>	アサギ属	種子	1	*
120			M013	2011/7/12	<i>Phellodendron amurense</i> Rupr.	カハダ	種子(縦切)	1	
121			M-001-y	2011/7/26	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻	3	
					<i>Chomopodium</i>	アサギ属	種子	1	*
							(縦切)	2	*
122			M013	2011/7/12	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	2	
123			M013-01	2011/6/6	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	1	
124			M09-01	2011/6/24	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	1	
125			M013-02	2011/7/6					検出なし
126			M09-02	2011/6/24					検出なし
127			M-100-y	2011/7/27					検出なし
128			M09	2011/6/27	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	3	
129			M013-01	2011/6/26					検出なし
130			M013-02	2011/7/6	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	1	
131			M013	2011/7/12					検出なし
132			E-001	2011/6/2	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	2	
133			N-001-y	2011/7/27	<i>Chomopodium</i>	アサギ属	種子	1	*
134			M-001-y	2011/7/26	<i>Apulone silvestris</i> Carr	オニグルミ	殻 (縦切)	1	
135			N-001	2011/6/5					検出なし、遺棄片
136			M013-01	2011/7/11					検出なし
137			M-001	2011/7/27	Unknown	不明	(縦切)	1	

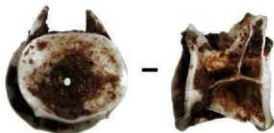
* 備考欄の#印は未同定

北斗市押上1遺跡の動物遺存体



1 ニシン科椎骨 腹椎 (No.94-1)

1.0mm



2 コイ科椎骨 腹椎 (No.21-2)

1.0mm



5 サケ科椎骨 腹椎/尾椎 (No.22-2)

1.0mm



4 サケ科遊離歯 (No.29-2)

1.0mm



5 タラ科歯骨 右? (No.161-2)

5.0mm



6 タイ類遊離歯 (No.21-1)

1.0mm



7 エイ・サメ類椎骨
(No.209-4・5)

5.0mm



8 ウ科尺骨 遠位部 左 (No.106-1)

1.0mm



9 カモ科尺骨 近位
左 (No.209-2)

5.0mm



10 ネコ下顎骨 左 (No.207)

5.0mm



11 エンジカ手根骨 尺側手根骨 左
(No.208-1)

5.0mm

北斗市押上1遺跡の種実



6 押上1遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

押上1遺跡は、北斗市の海岸から約2km内陸の低位段丘ないし扇状地扇端に立地しており、縄文時代中期末～後期前葉の遺構および遺物が出土している。遺跡から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、いずれも堅穴住居跡から出土した炭化材で、OH-26の柱穴HP-5覆土から出土した縄文時代後期の柱材？が1点（OA-1）、OH-19の炉跡から出土した縄文時代中期～後期の燃料材が1点（OA-2）、OH-12の柱穴HP-25覆土から出土した縄文時代後期の柱材？が1点（OA-3）、OH-27の柱穴HP-17覆土から出土した縄文時代後期の燃料材？が1点（OA-4）、OH-13の焼土から出土した縄文時代後期の燃料材？が1点（OA-5）、計5点である。なお、OA-5は同一袋内に複数の分類群が入っていたため、試料番号の後ろに補助番号を設けて複数を同定した。

木取りの確認および径、年輪数の計測後、手あるいはカッターナイフを用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料を作製した。直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定し、銀ペーस्टを塗布して乾燥させた後、金蒸着し、走査型電子顕微鏡（日本電子製 JSM-5900LV型）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

広葉樹のクリ、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節と呼ぶ）、タラノキの3分類群が確認された。OA-1はコナラ節、OA-2～OA-4はクリであった。OA-5ではコナラ節、クリ、タラノキの3分類群が確認されたが、コナラ節が大半であった。形状はすべて破片であった。樹種同定結果を表VI-6-1に示す。以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1a-1c (OA-3)、2a-2c (OA-4)、3a (OA-5-2)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

(2) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版4a-4c (OA-1)、5a-5c (OA-5-1)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(3) タラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seem. ウコギ科 図版6a-6c (OA-5-3)

年輪のはじめにやや大型の道管が数列並び、晩材部では小道管が単独もしくは数個複合して接線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は3～5列幅の異性で、不完全な鞘細胞

がみられる。

タラノキは温帯から暖帯に分布する落葉低木である。材の強さは中庸程度であるが、低木であるため、材としてはあまり利用されない。

4. 考察

住居跡OH-26とOH-12から出土した柱材？はクリとコナラ節であった。分析点数が少ないため柱材への樹種の利用傾向はわからないが、クリとコナラ節は高木および大径に成長する広葉樹で、材も重硬で強靱なため、燃料材から建築材、器具材など多用途に用いられる。

燃料材としては、すべての遺構からクリが確認された。OH-19の炉跡とOH-27の覆土から出土した燃料材はクリ、OH-13の焼土から出土した燃料材はコナラ節とクリ、タラノキであった。タラノキは先駆植物であり、伐採跡地などによく生育する樹木である。低木であるために、材としての利用は少ないが、若芽は食用、樹皮は薬用となる（伊東・佐野他, 2011）。本試料中タラノキも微量であったため、燃料材に混入したか、燃料材以外の用途に利用された可能性も考えられる。

近隣に位置する矢不來9遺跡では、縄文時代中期の焼土から出土した炭化材はクリ多く、他にハリギリ、イヌガヤ、サクラ属が確認されている（藤根・中村, 2008）。また、矢不來7遺跡では縄文時代後期後葉の燃料材ではクマシデ属を中心にクリ？、ブドウ属、コナラ節、住居構築材ではクリを中心にイヌガヤ、コナラ節、エゴノキ属、ヤナギ属、サクラ属、トネリコ属、ニレ属、クマシデ節、ハンノキ属、ブナ属、モクレン属、タラノキが用いられていた（植田, 2006）。本遺跡でもクリが多く確認されていることから、本遺跡周辺では縄文時代中期から後期において住居構築材と燃料材にクリを多用する傾向があると考えられ、本遺跡も周辺地域の木材利用傾向と一致すると言える。

表VI-6-1 樹種同定結果

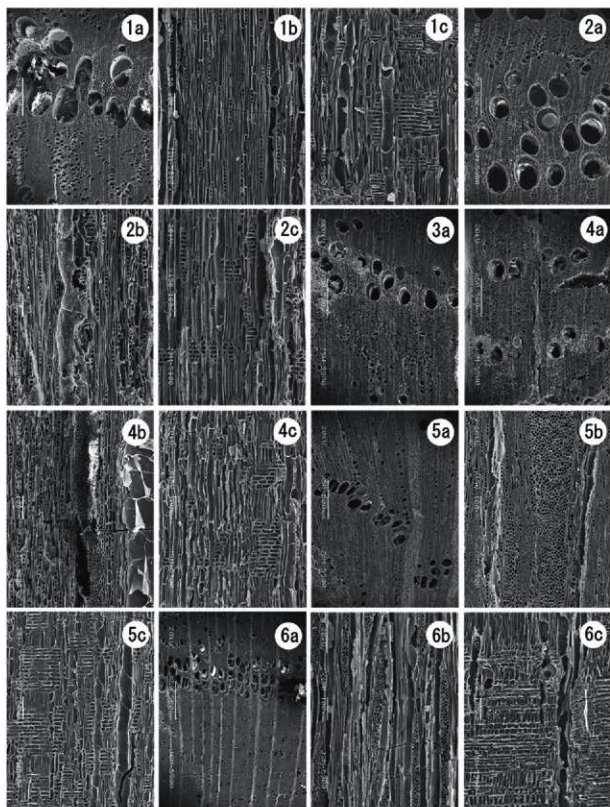
試料番号	採取地点	採取層位	推定時期	用途	樹種	形状	備考
OA-1	OH-26 HP-5	覆土	縄文時代後期	柱材？	コナラ属コナラ節	破片（1cm角、5年輪）	—
OA-2	OH-19 HP-2	炉跡	縄文時代中期～後期	燃料材	クリ	破片（1.5cm角、1年輪以下）	—
OA-3	OH-12 HP-25	覆土	縄文時代後期	柱材？	クリ	破片（1.5×1.0cm、8年輪）	—
OA-4	OH-27 HP-17	覆土	縄文時代後期	燃料材？	クリ	破片（1.5×1.0cm、3年輪）	—
OA-5-1	OH-13	焼土	縄文時代後期	燃料材？	コナラ属コナラ節	破片（0.5～2cm角、6年輪）	コナラ節>クリ>タラノキ
OA-5-2	HP-2				クリ	破片（1.5×0.5cm、3年輪）	
OA-5-3					タラノキ	破片（0.5×1.0cm、1年輪）	

引用文献

藤根久・中村賢太郎（2008）矢不來6遺跡・矢不來9遺跡・矢不來11遺跡出土炭化材の樹種同定。北斗市 矢不來6遺跡（2）・矢不來9遺跡・矢不來11遺跡（2）。北海道埋蔵文化財センター。

伊東隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和徳（2011）日本有用樹木誌。238p。海育社。

植田弥生（2006）矢不來7遺跡住居跡出土炭化材の樹種同定。北斗市矢不來7遺跡・矢不來8遺跡。北海道埋蔵文化財センター。



図版1 押上1遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (OA-3)、2a-2c. クリ (OA-4)、3a. クリ (OA-5-2)、4a-4c. コナラ属コナラ節 (OA-1)、
5a-5c. コナラ属コナラ節 (OA-5-1)、6a-6c. タロノキ (OA-5-3)

a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

VII 総括

1 押上1遺跡における集落変遷

(1) 押上1遺跡の住居形態

住居跡は、輪郭と炉の形態、その他の付属施設から、大きく3つに分類された。なお、下記で住居番号に付した数は、炉の数から推定した構築回数になる。改築がないと推定された住居には付していない。

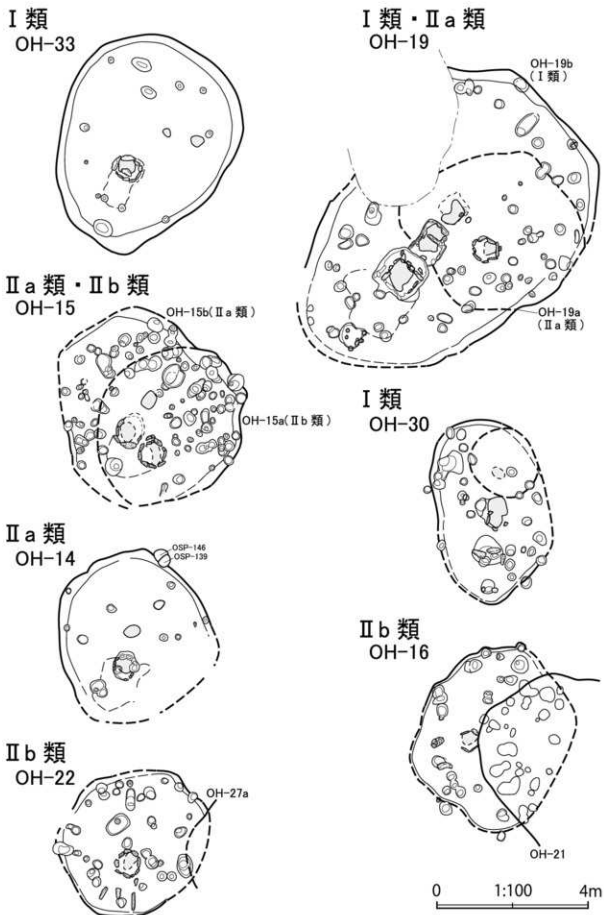
I類:舟形住居。方形の石囲炉をもつ。住居の掘り込みは、IV層（ローム層）に達する。先端には「先端ビット」と呼ばれる小土坑がある。住居の改築では、石囲炉が先端側へ新しく作られる。そのために、先端側に拡張した様に見える。新しい石囲炉を作るにあたっては、古い石囲炉の石はすべて取り除いている。それを繰り返した場合、古い炉と新しい炉が一直線に並ぶように残される。また、石囲炉と先端ビットとの間の床は叩き締められている。舟形住居は、北海道において縄文時代中期末葉に特徴的な住居形態で、大安在B式〜煉瓦台式にかけて主に構築されている（登別市千歳6遺跡、七飯町本町1遺跡、函館市大船遺跡、木古内町大平4遺跡、北斗市押上1遺跡の過年度調査など）。しかし、後期初頭においても継続的に構築されることが分かっている（松前町寺町貝塚、七飯町本町1遺跡、北斗市茂別遺跡など）。今回の調査では、OH-12の一部（2回）・19の一部（4回）・27の一部・30の一部（2回）・32（3回）・33・37（6回）・38・39（2回）・40が該当する。なお、OH-31・32は、I類からII類への過渡的形態であったと推定される。

IIa類:楕円形住居。掘り込みが浅く、円形の石囲炉をもつ。石囲炉に最も近い壁側の床を叩き締める。住居の改築にあたっては、以前の住居範囲に半分ほどかかる様に構築される。その際、以前の石囲炉の石は一部を取り除く程度で、完全に除去しない。ローム土で埋められた場合もある（OH-14F-1）。住居の掘り込みは、III層（漸移層）を掘り込む程度のほか、III層まで達しない場合もある。I類住居廃絶後の窪みを掘り込んで構築される例もある（OH-19a）。同様な住居は、北斗市茂辺地4遺跡、函館市湯川貝塚、西股遺跡などで確認されている。なお、掘り込みが検出されず、石囲炉だけが報告される例も多い。今回の調査では、OH-1・2（2回）・3~6・7（2回）・8~10・13（2回）・14（2回）・15の一部（2回）・19の一部・21（4回）・23（2回）・25（2回）・27の一部（2回）・28（3回）・29・31（3回）・36（2回）が該当する。

IIb類:「袖石」をもつ楕円形住居。基本はIIa類と変わらないが、石囲炉に隣接して、2個一対の「袖石」をもつ。「袖石」は、「配石」として報告される例が多いが、出入り口の両側に位置したものと推測されるので、「袖石」と呼ぶこととした。IIb類住居は、後期前葉涌元式に特徴的な形態で、八雲町栄浜1遺跡、浜松5遺跡、森町石倉1遺跡、鷺ノ木遺跡、鷺ノ木4遺跡、濁川左岸遺跡、北斗市館野遺跡などで確認されている。今回の調査ではOH-12の一部（2回）・15の一部・16・17・22が該当する。

改築は、I類の場合は、OH-19をみると、地点を変えずに増床を目的としていると考えられる。II類の場合は、OH-15やOH-27をみると、石囲炉を少し横に移して3回改築したことが想定される。その場合、元々掘り込みが浅いために、面積が増加したのか、同様な面積で建て直したのかは判然としない。

北海道南西部の縄文時代中期後葉〜後期初頭の堅穴住居は、輪郭がI類舟形からII類楕円形へ変遷し、さらに袖石が付加されたIIb類が出現したものとみられる。その後の後期前葉以降も楕円形の住居形態が継続するが、石囲炉は徐々に減少する。トリサキ式期では、1個の立石を持つ地床炉が出現（森町倉知川右岸遺跡）しており、「袖石」は一対の楕円小土坑に変化する（八雲町浜松5遺跡）。「袖石」に相当する土坑は、出入り口と関係を持ちながら後期後葉まで存在し続ける。このような変遷をみる



図Ⅶ-1 押上1遺跡の住居形態

と、I類の「先端ピット」も出入り口と関係がある施設と考えられる。その当否については、今後の課題である。

なお、このように住居跡の重複が著しく、遺物と遺構との細かな関係などについては、不確定な点があることを明示しておく。資料操作に当たってはご注意願いたい。

(2) 押上1遺跡の盛土遺構

今回の調査で東西2条の盛土遺構が存在することが判明した。そして、周囲の畑にみられたソイルマークと遺物散布によって、調査範囲外に広がるのが推定できた（図1・3、図II-2）。西盛土遺構は、確認された長さ20m、最大幅10m、推定長150m。東盛土遺構は、確認された長さ26m、最大幅23m、推定長150m。確認できた厚さは、両盛土遺構とも0.3m前後であったが、耕作によりかなり平準化されているので、当時は倍程度の層厚であったものと推定される。畑の畔には、一部高まりが残る部分もあり、畑の所有者の話によると、かつて盛土遺構部分は馬の背状に高まっていたとのことであった。

盛土遺構は、I類住居跡の窪みを埋土する行為を起点とし、そこから溢れる様に、周囲および外側へ盛土していったと推定される。東盛土遺構では、小沢を埋土しているが、斜面や低地へ広がることはなく、斜面への屈曲線手前に沿うように帯状に形成される。西盛土遺構も同様に帯状に形成されているが、断面観察によって西側（集落外側）へ盛り広げるような堆積状況であった。両盛土遺構に挟まれた範囲では、II層（黒色土）の厚さは薄く、一部では耕作土直下に漸移層がある状態であった。耕作の影響もあるが、あるいは縄文時代に削平されたのかもしれない。

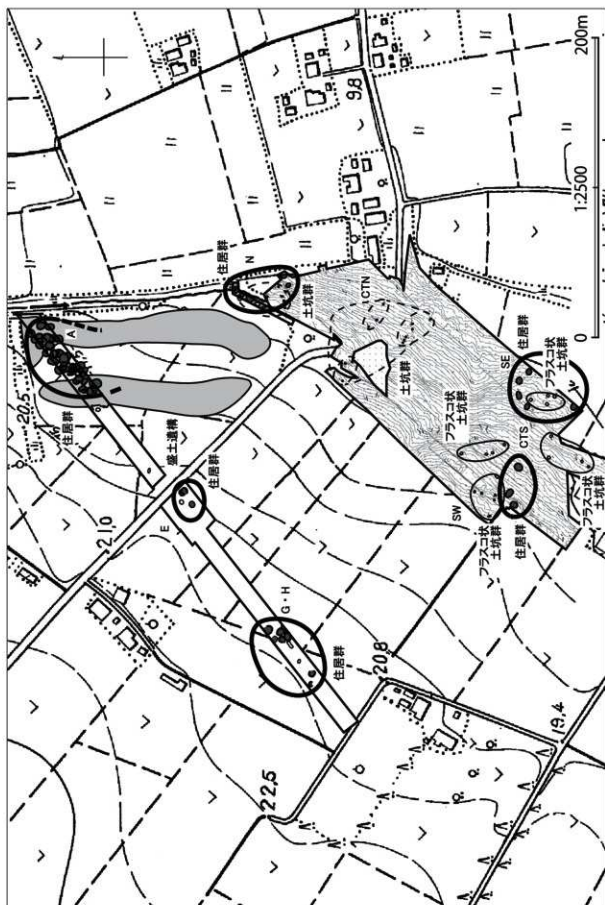
盛土遺構を構成するn層は、ローム粒、焼土粒を含むにぶい黄褐色～黒褐色土で、住居跡覆土にも同様な層が堆積していた。遺物を多く含み、特に土器は大きな破片状態、半完形状態で含まれ、焼骨も包含した。また、西盛土遺構では部分的に黄褐色土が主体となる層も確認された。つまり、盛土層は、住居などを掘削した際の掘り上げ土だけでなく、各種活動によって出た廃土、炉跡などから出た炭化物、焼土、焼骨、灰などを含む燃えさし、土器や石器などの遺物などが混在・集積した状態で確認される。さらに、腐敗して残っていない有機性廃棄物も多量に含まれていたと推定される。

盛土遺構からは、「第二の道具」が多く出土するので、祭祀的な場と捉えられることが多い。押上1遺跡でも、西盛土遺構から土偶片、三脚石器、異形石器、東盛土遺構から青竜刀形石器、石棒、異形石器、ヒスイ製垂飾が出土している。しかし、館野遺跡や茂別遺跡で多量に出土した円形～三角形の板状石製品、石刀などは出土していない。おそらく、時期差によると推定される。

青竜刀形石器には、①複数回火を受け、補修されていること、②一面だけ繰り返し火を受けていること、③「柄」部分と「刀」部分とで折断されて、離して廃棄されていること、④被熱による変色差から折断後も「刀部分」だけさらに火を受けている可能性、が観察された。小ピットに埋納されていた石棒も、表面がほぼ残らないほど焼けはじけているものがあり、これら石製品を繰り返し火にかけて、破壊してから、盛土遺構に廃棄・埋納する一連の行為が想定される。

後期前葉の盛土遺構の類例は、函館市石倉貝塚、北斗市館野遺跡で確認されている。両遺跡は、涌元式期・トリサキ式期に、盛土遺構、掘立柱建物群、墓坑群、環状配石が同心円状に配されたもので、配石・盛土遺構と呼称される。ほかに押上1遺跡と同時期の天祐寺式期には、北斗市茂別遺跡でも2条の盛土遺構が確認されている。ここでは、盛土間が塚と誤認されるほど掘削されていた。函館市垣ノ島遺跡もほぼ同じ時期の盛土遺構で、ここではコ字形に配置される。

後期前葉における盛土遺構と集落・墓の関係の変遷は以下のように推測される。後期初頭～前葉の押上1遺跡では、舟形住居による集落を起点に、継続して楕円形住居による集落が営まれ、その外側



図Ⅶ-2 押上1遺跡の遺構分布(国土基本図に加筆)

に盛土遺構を形成していった。配石は形成されなかったが、起点となった住居の窪みには、遺物と共に多量の大型礫が含まれていた。後期前葉涌元式期の館野遺跡では、楕円形住居による集落を起点に、配石・盛土遺構が形成された。館野遺跡ではその後、盛土遺構の内側の集落の痕跡を消して、環状配石、広場を整備し、掘立柱建物群、墓坑群からなる「墓地」を形成したものと推定される。そして、次段階の後期前葉トリサキ式期の石倉貝塚では集落を起点とせず、当初から「墓地」として形成されたものと推定される。

(3) 押上1遺跡の集落変遷

押上1遺跡は、今回の調査で4,539㎡、上磯町（現、北斗市）教育委員会により19,355㎡が調査された。結果、北東から南西方向へ大きく2本のトレンチを入れた格好となり、合わせて竪穴住居跡59軒、土坑82基、Tピット35基、小柱穴441基などの遺構が検出された（図VII-2）。時期は、縄文時代中期末葉ノグップⅡ式、煉瓦台式、後期初頭天祐寺式、涌元1式、涌元2式の土器が使用された期間を主体としている。

旧上磯町教育委員会の調査では、調査区北側に中期末葉と後期中葉（手稲式）の土器が分布し、調査区南側に後期前葉（涌元式）の土器が分布した。遺構は、調査区北側（N地点と仮称、以下同）、南西側（SW地点）、南東側（SE地点）、中央北側（CTN地点）、中央南側（CTS地点）に集中した。

住居跡群は大きく3か所に分かれる。N地点には、中期末葉煉瓦台式期の竪穴住居跡6軒と小形の土坑11基が確認された。住居跡はⅠ類。近接しており、一部重複している。SW地点には、後期初頭天祐寺式～涌元式期の竪穴住居跡3軒とフラスコ状土坑6基が隣接する。フラスコ状土坑1基の覆土中に、完形の土器が倒立状態で入れられていた。住居はⅡ類。SE地点には、後期初頭天祐寺式～涌元式の竪穴住居跡5軒とフラスコ状土坑5基、切断土器を埋納した小土坑がまとまる。住居はⅡ類で、1軒が袖石を持つⅡb類。

これらと別に土坑群も確認される。CTS地点には、涌元式期のものとみられる11基のフラスコ状土坑が列状に点在する。そのうちの1基から漆塗りの弓とみられるものが検出されている。CTN地点には、煉瓦台式～涌元式期のものとみられる16基の楕円形～円形の土坑が、大きく3群に分かれて存在する。楕円形土坑は、長さ84～126cm、幅58～100cm。円形土坑は、直径52～120cm。

図には示さなかったが、TピットがSW地点、CTS地点、CTN地点に点在する。合わせて31基検出されており、形態は溝状を呈する。底の大きさから、長さ242～375cmのものが多く、159～141cmが3基、468cmが1基となっている。一部のTピットから涌元式の土器片が出土しており、後期前葉以降で集落廃絶後に使用されたと推定される。

今回の調査区では、後期初頭天祐寺式～涌元式期の遺構集中が検出され、分布は大きく3か所に分かれた。そのうち、E地区、G・H地区の遺構集中は、数軒の竪穴住居跡と、数基の土坑、小柱穴からなる。住居はⅡ類に限られ、数軒からなる小集落が営まれていたと考えられる。一方、A地区では、2条の盛土遺構に挟まれる範囲に、重複した数十の竪穴住居跡、数千の小柱穴、数基の土坑が集中していた。住居はⅠ類・Ⅱ類両者がみられた。盛土遺構は、Ⅰ類住居を埋めて形成されているので、Ⅱ類住居による集落が営まれていた時期に形成されたものとみられる。

以上に示した住居形態や出土土器をみると、N地点→A地区→E・G・H地区、SW・SE地点と集落の形成地点が変遷したものと推測される。まとめると、①中期末葉煉瓦台式期にⅠ類住居の集落が形成される、②地点を少し移し後期初頭天祐寺式期にもⅠ類住居による集落が形成される、③引き続き天祐寺式期においてⅡ類住居が構築されるようになり、Ⅰ類住居を埋める様に盛土遺構を形成する、④涌元式期になると、集落は段丘上に分散し、数軒からなる集落が散在する、というような変遷を推定す

ることができる。涌元式期において、一つの地形面に複数の小集落が分散する様子は、森町石倉1遺跡でも確認された。

なお、墓については、中期末葉煉瓦台式期では集落に隣接して墓域があるが、後期初頭天祐寺式期以降は、集落内に数基構築されるほかは、やや離れた地点にフラスコ状土坑群、不定形土坑群が存在し、墓地としていたと推定される。館野遺跡や石倉貝塚において特殊な配石・盛土遺構という墓地遺構が出現する直前段階でもあり、墓域と集落とが区分され始めた状況を示すものと考えられる。

このように押上1遺跡では、居住域と墓域が隣接する縄文時代中期末葉の集落形態から、集落が分散・小規模化するだけでなく、居住域と墓域が分かれる後期前葉の集落形態へ変遷する状況をはっきり掴むことができた。他の遺跡で得られた成果と比較することが、今後の課題である。 (福井)

2 押上1遺跡の土器・土製品

(1) 押上1遺跡の土器

1) 出土土器の概要

今回の調査で出土した土器は、縄文時代後期初頭～前葉の天祐寺式～涌元式に相当するものが99%以上を占める。掲載土器のうち、復元・器形復元できた土器による器種組成は、深鉢80.3%、壺5.7%、浅鉢0.5%、ミニチュア土器13.5%である。壺とミニチュア土器は復元率が高いため、比率はやや高めに出ているものと思われる。

深鉢は、文様要素により、Ⅰ類：縄文主体のもの（85%）、Ⅱ類：粘土紐による区画・縄線文・沈線文・磨消縄文・刺突列・貼付文などの文様要素をもつもの（12%）、Ⅲ類：無文のもの（3%）に分けられる。

Ⅰ類は、A類：籠（たが）状の貼付帯が口縁部から底部にかけて多段に巡るもの（6%）、B類：籠状の貼付帯が口縁部に2条巡るもの（16%）、C類：籠状の貼付帯が口縁下部に1条巡るもの（3%）、D類：籠状の貼付帯が口縁上端に1条巡るもの（13%）、E類：口縁部に縄線が巡るもの（18%）、F類：地文のみが施文されるもの（29%）に細分される。

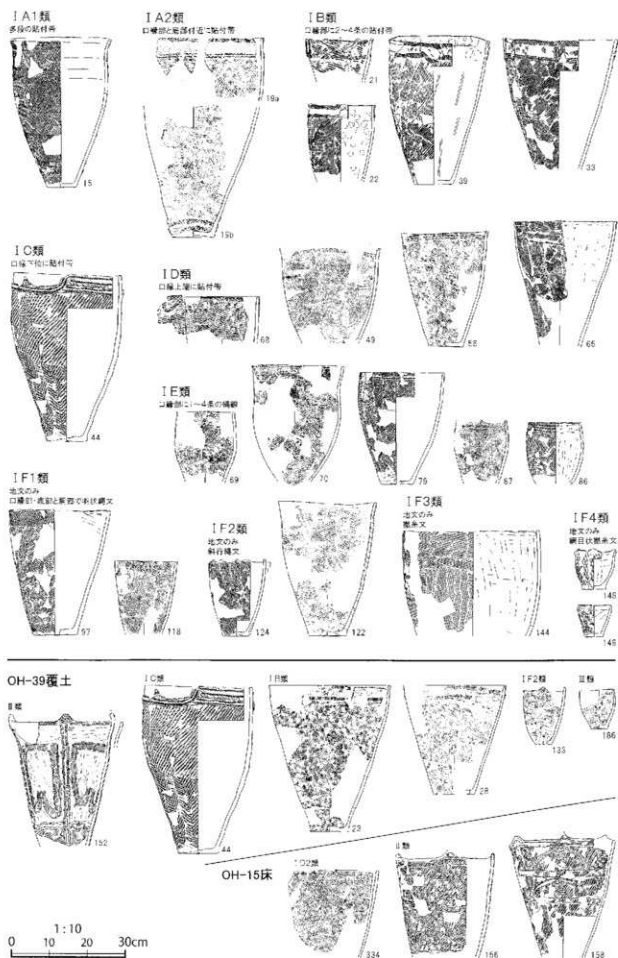
ⅠA～D類は籠状の貼付帯をもつ一群で、貼付帯は地文縄文の施文前に貼り付けられ、その上に縄文が施文される。施文順は、貼付帯の貼り付け→地文の縄文施文→貼付帯上の縄文施文である。縄文はひとつの原体を用い、貼付帯上には横回転で、胴部には縦回転で施され、貼付帯上の縄文と胴部の縄文とで羽状が構成されるものが多い。この施文手法を本文中では「手法A」とした。貼付帯上に縄線などが加えられるものもある。貼付帯は、器面と段差がある明瞭なものが多いが、ⅠB類とⅠD類の口縁上端の貼付帯の一部には、段差が小さく折り返し口縁状のものもある。ⅠA類には、口縁から底部にかけて4～5条の貼付帯をもつⅠ類と、口縁部と底部付近にそれぞれ2条の貼付帯をもつ2類がある。

ⅠE類では、縄線と地文と同じ原体を用いるものがほとんどである。

ⅠF類には、1類：羽状縄文、2類：斜行縄文、3類：撚糸文、4類：網目状撚糸文がある。1類は、ひとつの原体を用い、口縁部ないし底部付近では横回転で、胴部では縦回転で施文することにより、羽状を構成する。この施文手法を本文中では「手法B」とした。2類は9割が縦回転で、横回転はわずかである。3・4類にはⅠ類同様、口縁部と胴部で回転方向を変えて施文するものがある。ⅠF1・2類の施文手法はⅠE類やⅠD類の地文にも用いられる。

これらⅠ類に共通する施文の特徴として、①縦回転の多用、②原体の回転方向を変えることにより文様効果を得る手法、③ⅠA～D類では②の手法を用い、「貼付帯の貼り付け→縦回転による地文の縄文→横回転による貼付帯上の縄文」の順で施文されることが挙げられる。

ⅠA・ⅠB・ⅠC類と、ⅠD類のうち貼付帯が明瞭なものは、函館市天祐寺貝塚（石川1963）における、口縁部と胴部の「帯状の貼付帯」を特徴とする「第2類土器」に類似するもので、天祐寺式に相当する。



図VII-3 押上1遺跡の土器群(1)

ⅠD類のうち折り返し口縁状のものは涌元式に伴うもの、ⅠE・ⅠF類は、天祐寺式～涌元式に含まれるものと考えられる。

Ⅱ類は、粘土紐による区画・縄線文・沈線文・磨消縄文・刺突列・貼付文などの文様要素をもつもので、千代(1972)・高橋(1974)による「涌元1式」「涌元2式」に相当するものが多い。今回は該当資料が少なく検討が困難なため、一括して「涌元式」とした。また、天祐寺式に伴うとされる「大木10式の後とみられる沈線文土器」(大沼1981)が少数含まれており、掲載番号150などがこれに相当する。

粘土紐による区画をもつ151・152の類例は知内町湯の里3遺跡(道埋文1985)などに、沈線文の156・158の類例は矢不來2遺跡(道埋文1987)などにみられる。近年の編年案(大森司2004c)では、前者は東北地方の牛ヶ沢(3)式並行、後者は蛭沢Ⅰ期並行に位置付けられている。

壺は11個体掲載した。Ⅰ類:頸部の明瞭な壺が6個体、Ⅱ類:頸部の不明瞭な広口壺が5個体である。Ⅰ類は沈線文・磨消縄文でJ字状ないしはS字状文、渦巻文などが描かれる。Ⅱ類には、沈線文・磨消縄文でS字状などが施文されるものと、貼付帯や縄線が施文されるものがある。後者は、東北地方の影響を受けた器形に、在地の文様が施されたものである。なお、G地区出土の179は、A・B地区以外から出された唯一の復元個体である。文様構成などからトリサキ式に相当するものと考えられる。

浅鉢は1個体出土した。上面観が楕円形を呈し、長軸両端の口縁部に耳状把手をもつもので、貼付文と縄文が施されている。

ミニチュア土器は26個体掲載した。文様をもつもの7個体、無文のもの18個体、無文の壺1個体があり、無文が多数を占める。文様をもつものには、深鉢Ⅰ類で細分したD・E・F類があり、A・B・C類はみられない。

2) 出土状況

今回の調査では多くの遺構が検出されているが、床面出土の土器は少なく、複数個体の共伴が認められるのはOH-15のみであった。盛土遺構も確認されたが、土器の前後関係を層的に確認できる堆積状況ではなかった。その中で、OH-33・38・39の覆土の出土例は、多量の土器が出土し、破片が大きく個体・半個体が目立つ出土状況であったため、比較的多量とみられるものと考えられる。そこで、OH-33・38・39・15の4例について、細分ごとの出土状況を表Ⅶ-1にまとめた。

OH-33・38・39は共通して出土するものが多く、一方で、OH-33ではⅠA1類4個体、OH-38ではⅠ

	ⅠA1	ⅠA2	ⅠB	ⅠC	ⅠD	ⅠE	ⅠF1	ⅠF2	ⅠF4	Ⅱ類ほか
OH-33	4		6	1	3	6	5	1	1	磨消縄文1
OH-38		2	4		4	1	3	1	1	磨消縄文(広口壺)破片2
OH-39			2	1				1		粘土紐区画1+破片3
OH-15					破片1					沈線文2

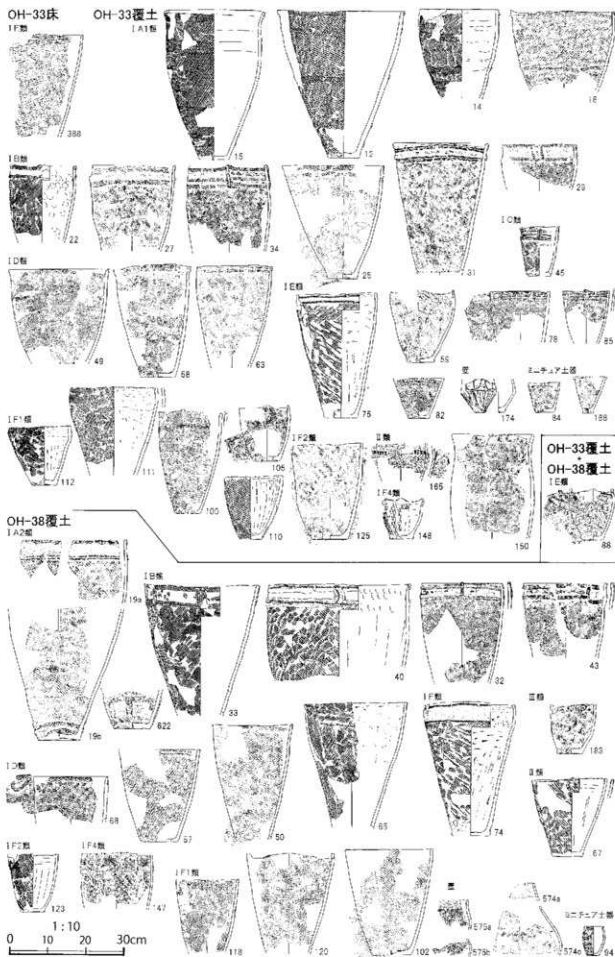
表Ⅶ-1 代表的な遺構の出土土器細別一覧

A2類2個体、OH-39では粘土紐区画の涌元式152が出土する特徴がみられる。OH-15はⅠ類の復元個体の出土がなく、沈線文の涌元式156・158が出土している。

ⅠA1類は天祐寺式の中で古い傾向とされるもの、ⅠB類・ⅠD類は新しい傾向とされるもので、ⅠA2類はその中間的な特徴をもつものである。また、152は東北地方の牛ヶ沢(3)式並行のもの、156・158は蛭沢Ⅰ期並行で152より新しく位置付けられるものである。

(2) 人体文土器

人の胴体と右手を表現したとみられる破片が1点出土している(451)。細い粘土紐の貼り付けによる施文手法は151・152などと共通しており、涌元式の中でも古く位置づけられるものである。類例は、岩手県滝沢市けや木の平地地遺跡(後期初頭・上村式)、新潟県糸魚川市(旧能生町)井の上遺跡に



みられる。いずれも口縁部に頭が配置され、胴部中ほどにかけて全身が表現される。一方、本例の施文位置は底部に近い部分とみられる。手の指の表現手法は井の上遺跡例と類似する。

(3) 注口土器

注口部を欠損する土器が1個体(603)、注口部分が2点(604・605)出土している。604・605は無文で薄く丁寧な作りであり、内面に赤色顔料が塗布される。後期初頭の注口土器の出土例は知内町湯の里遺跡にみられる。縄文地に沈線が施された注口部で、先端が開く形態である。東北地方の大木10式ないしそれに並行する時期には注口をもつ鉢形土器が比較的良好にみられ、青森県では八戸市菫窪遺跡(青森県教委1983)に出土例がある。また、中期末あるいは後期初頭とされる無文や無文に近い注口土器があり、鯉ヶ沢町餅ノ沢遺跡(青森県教委2000)では、赤色顔料入りの無文のもの、人面・沈線文をもつものの2個体、青森市三内遺跡(青森県教委1978)では無文の1個体の出土例がある。本例の注口部はここに挙げたものとは形態がやや異なる。全体像は不明であるが、後期初頭の例として注目される。

(4) 赤彩土器

赤色顔料の付着は壺と深鉢に認められる。一部に光沢のある塗膜をもつものがあり、漆の使用が想定される。575・581・582・589・646などがその顕著なものである。赤色層と黒色層の重なりが認められるものもある。600では刷毛状工具の痕跡が確認された。また、深鉢の633・636、壺の179・592・600・599などでは内面が彩色されている。これらは外面も彩色されるものが多く、179・633などのように広範囲にみられることから、パレット的な使用によって付着したのではなく、意図的に塗布されたものと考えられる。

(5) 底面の圧痕

深鉢・壺の底面に、土器製作時の敷物と考えられる編組製品や葉の圧痕のあるものが多く認められた。掲載した88個体の器種内訳を表VII-2のとおりである。復元個体の器種組成と比較すると、壺の比率が高く、ミニチュア土器の比率は低い。

編組製品には、網代編みのものともじり編みのものがある。葉には、網状脈のものも平行脈のものがある。前者は広葉樹などに一般的で、後者はササ類が代表的である。器種ごとの内訳を表VII-3に示す。深鉢では網状脈の葉を、壺では網代編み製品を使用する傾向が認められる。土器製作上の技術的要因、あるいは慣習的制約などの影響が考えられる。葉の圧痕についてはVII章4(2)で詳しく記載する。なお、このほかに未掲載の271個体に圧痕を確認している(網代12、網状脈222、平行脈37)。

	深鉢	壺	浅鉢	ミニチュア	器種不明	合計
底面個体数	73	8		1	6	88
圧痕比率	83.0%	9.1%		1.1%	6.8%	100.0%
復元個体数	155	11	1	26		193
個体比率	80.3%	5.7%	0.5%	13.5%		100.0%

表VII-2 復元土器および底面圧痕のある土器個体数一覧

(6) 土偶

土偶は3点出土した(751~753)。刺突列による装飾や、肩から脇に抜ける貫通孔など、中期末葉〜後期初頭の土偶の特徴をもつ。

類例は函館市戸井貝塚(戸井町教委1994)や北斗市館野遺跡(道埋文2012)にあり、全体像は青森県深浦町一本松遺跡(成田1997)や同階上町野場(5)遺跡(青森県教委1993)の出土例に類似するものと考えられる。人体文土器・赤彩土器の出土などと共に、盛土遺構が形成された本遺跡を特徴づけるものである。(柳瀬)

	深鉢	壺	器種不明	合計
編組				
網代	7	7	3	17
もじり編み	3			3
葉				
網状脈	41		2	43
平行脈	22	2	1	25
合計	73	9	6	88

表VII-3 土器底面圧痕種別一覧

3 押上1遺跡の石器

(1) 押上1遺跡の石器組成と特徴

定型石器（Rフレイク、フレイク、石核、礫以外の石器）では、スクレイパー（27%）、たたき石（22%）、石鏃（15%）を主とし、石錐（8%）、台石・石皿・砥石（7%）、両面調整石器（7%）、石斧（5%）が次いでいる。

縄文時代後期前葉の石器組成は、スクレイパー類とたたき石類が占める割合が高く、石鏃が次ぐとされ（菅野2004）、押上1遺跡の石器組成は、後期初頭の特徴がよく表れている。

石鏃は、有茎凸基としたものが主体で、長さ24～42mm、幅11～18mmにおおむね収まる。無茎鏃は、点数は多くないものの、長さ14～28mm、幅10～15mmと小さく、有茎鏃と使い分けられたようである。無茎鏃のアスファルトの付着状況から、矢柄との一体感がより必要とされた機能が推定される。なお、無茎鏃に幅20mmを超えるものが1点だけあり、戸井貝塚の報告で銛先鏃と推定されたものと類似する。

石槍は、幅広い無茎、細長い無茎、有茎に分類される。しかし、各形態とも安定していない。

石錐の多さ、多様さは、この遺跡の特徴といてよい。錐としての機能部周辺を中心に調整加工したものが63%を占めるが、丁寧に全体を整形したものと、石鏃を転用したものが各18%ある。このように、精巧なものから間に合わせまで存在することは、穿孔作業が頻繁であったためと推定される。

スクレイパーは、刃部が外湾するか直線的な削器を主体とする。また、刃部が内湾する削器、鋸歯縁石器、挿入石器も少なくない点数が含まれる。

ほかの剥片石器のうち、つまみ付きナイフは、つまみ部分を含め調整が粗く、便宜的な印象を受ける。縦型が主体であるが、斜め型も目立つ。筥状石器は、短冊形、洋梨形、三角形、凸型があるが、やや三角形が多い。両面調整石器も点数は多いが、石鏃や石槍、筥状石器の未成品を多く含んでいるとみられる。楔形石器は、あまり典型的なものは含まれていなかった。

石核の多さは、頁岩の産地であることを示している。大きさは、長さ2～16cm、幅1.4～13.5cmと多様である。石核・スクレイパーの長さと幅を比較すると、長さ4～6cm、幅3～4cmをピークにほぼ同様の山型度数分布を示す。頁岩は、近隣の戸切地川のみならず、遺物包含層下位の段丘礫層にも含まれる。そのような恵まれた石材環境に立地したため、多様な大きさの石核を残したものとみられる。

石斧は、厚さと大きさで10類に細分した。厚手超大型と薄手中型としたものが多いものの、厚手大型～超薄手超小型としたものまで偏りなく出土している。石材は、緑色片岩と青色片岩とで二分される状況で、ほかに粘板岩と、その他の石質が少量認められる。緑色片岩（緑色泥岩）は、平取町糠平川周辺が産地とされ、青色片岩は、旭川市神居古潭峡谷周辺が産地であるとされている。ほかに3点輝緑岩（ドレライト）製とみられるものがある。輝緑岩は、亀田半島が産地の可能性がある。

すり石類は、中期に比べ、石器組成に占める割合が低いが、それ以上に扁平打製石器が組成から抜け落ちることが、大きな変化と考えられる。扁平打製石器は、中期の各遺跡では石器組成のほぼ20%を占めるが、後期になるとほとんどみられなくなる。残存した可能性も指摘される（大森司2004a）が、中期までの組成に占める割合に比べると、ごく少ない。その「穴」を埋める役割を、たたき石が果たしたと考えられる。後期前葉には、断面三角形の特徴的なたたき石が残される（図VII-4）。同様のものは、森町濁川左岸遺跡の報告でも注意されている（大森司2004b）。押上1遺跡ではたたき石の19%を占める。このたたき石の使用面と、扁平打製石器の使用面の状況は、共通してザラツキがあるので、敲打によって平坦化したとみられる。

ほかのたたき石類では、長い礫の末端、広い面、側縁、角、丸い礫の角を使用するものが多く、また一つの礫に複数部位を用いたものも多かった。すり石は、礫の広い面に使用痕跡が残るものが多か

った。側縁に「すり痕」が残るものは、ザラツキを残しているものも多く、擦る作業に敲打も含まれたと思われる。

台石・石皿と砥石を今回は区別しなかった。すり面を持つものが66%と圧倒的に多く、すり面の状態から、面が平坦なもの、緩やかに窪むもの、緩やかに膨らむもの、溝状になるものなどがある。砂岩製で、面が平坦、使用痕跡が平滑なものが一番多い。

石製品では、石棒が7点出土している。紡錘形のもの、円柱状のものがあつた。紡錘形のもの、明瞭に加工されるものと、加工が不明瞭なものがある。青竜刀形石器は、典型的のものほかに、板状節理による扁平な礫縁を僅かに整形するものがあつた。烏帽子形石器としたものも、典型的なものではない。

線状痕の残るクレヨン様の赤色顔料が2点確認された。類例は、旧石器時代の千歳市柏台1遺跡、帯広市川西C遺跡などで知られる(福井2003)が、縄文時代では少なく、石川県蛇喰A遺跡で確認された例がある(高橋2000)。

(2) アスファルト付着石器

アスファルトの明瞭な付着は、石鑑145点、石錐10点(9点が石鑑転用品)、Rフレイク1点、有意の礫1点にみられた。

アスファルトは油田地域で産出する。北海道においても渡島半島の木古内・森・八雲、日高～石狩～羽幌～天北にかけて油田や油徴地が知られる。そのうち、アスファルト産地とされる木古内町釜谷から押上1遺跡へは直線距離で約16kmの距離がある。

押上1遺跡の石鑑への付着率は30.7%である。有茎鑑の内では132点で39%。無茎凹基の内では11点で60%。このような付着率は、産地から50km圏内のものである(福井2010)。また、有意の礫に付着していたアスファルトは、棒状礫の3分の2に厚く付着したもので、土器に入れたアスファルトをかき混ぜたと推定される。同様なものは、岩手県貝畑貝塚で出土している。

(3) 使用痕のある石器

石器使用痕としては、光沢、摩耗、使用線状痕が目視できた。

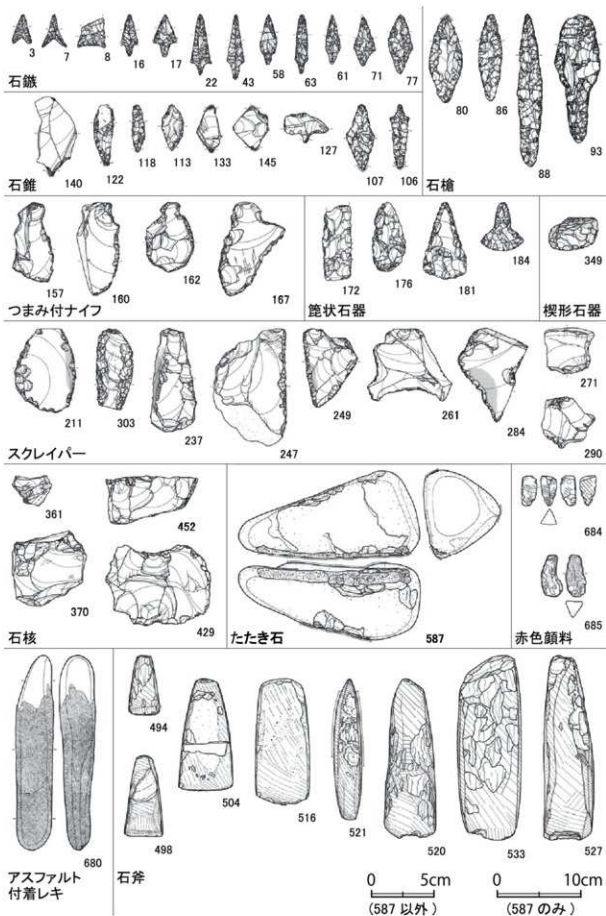
光沢は、スクレイパー33点、Rフレイク6点、石斧9点に観察された。スクレイパーでは全点の4%を占める。光沢は主に長辺にみられ、刃部形態は、直線的なもの、外湾するものがほとんどである。Rフレイクに光沢がみられる例も、縦長剥片の長軸辺で、その辺の直線的な部分に確認できる。八雲町野田生4遺跡(坂本2002:109)の検討では、イネ科植物の刈り取り作業が推定されている。石斧にみられた光沢は、基部と刃部にみられた。刃部の光沢は使用痕とみられ、基部の光沢は着柄に伴うものと推定される。

摩耗は、石錐の機能部で回転に伴う磨耗がかなりの数みられた。転用品は、磨耗によって認定したものもある。ほかに、石鑑の返し部分の側縁が磨耗しているものが、39点(うち3点は石鑑転用品)あつた。磨耗に横方向の線状痕はみられないので、錐に転用されて磨耗したのではなく、矢尻として複数回使用されたことによって磨耗した可能性がある。

(4) 石器石材

礫以外のすべての石器の石材を点数でみると、92%が頁岩を使用している。一方、重量でみると、50%が砂岩、27%が頁岩、17%が安山岩となる。

頁岩、砂岩、安山岩のほか、泥岩、礫岩、流紋岩、メノウ、珪質岩、凝灰岩、チャート、粘板岩などは、いずれも近隣の戸切地川から採取されたものと考えられる。剥片石器には、メノウ質頁岩と呼ばれる珪化岩も多用されるが、比較的近い距離にある七飯町のタラ沢川で採取されたとみられる。



図VII-4 押上1遺跡の石器群

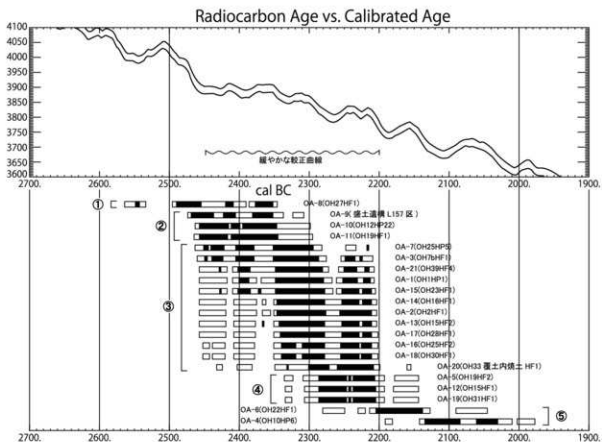
比較的遠距離の石材に、黒曜石と石斧に使用した石材がある。黒曜石は、白滝産も含まれるが、赤井川産が多いようである。石斧の石材である緑色片岩は平取町糠平川流域、青色片岩は石狩川中流域のものとみられる。(福井)

4 押上1遺跡の自然科学的分析成果

(1) 押上1遺跡の放射性炭素年代測定について

21点の炭化材について放射性炭素年代測定をおこなった。これらを、較正曲線(IntCal13)が緩やかな傾斜を示す2,450~2,200calBCとの対応関係をもとに区分すると、以下の大きく5つのグループに分けられた(図VII-5)。①群:OA-8(2,548~2,351calBC, 3,950±30yrBP)は、「緩やかな較正曲線」よりやや古いとみられるもの。②群:OA-9~11(2,468~2,344calBC, 3,910~3,890±30yrBP)は、「緩やかな較正曲線」の前半に対応関係をもつもの。③群:OA-1~3, 7, 13~18, 20・21(2,455~2,206calBC, 3,870~3,830±30yrBP)は、「緩やかな較正曲線」の全域と対応関係をもつが、半ば~後半に偏るもの。④群:OA-5, 12, 19(2,286~2,203calBC, 3,810~3,800±30yrBP)は、「緩やかな較正曲線」の後半に対応関係をもつもの。⑤群:OA-4, 6(2,205~2,029calBC, 3,760~3,680±30yrBP)は、「緩やかな較正曲線」より新しいもの。

この結果と試料採取した遺構との関係を見ると、①・②群がⅠ類住居の年代、③~⑤群がⅡ類住居の年代を示しており、住居形態の変遷と年代測定結果が整合的である。過年度の押上1遺跡の測定値や、北斗市館野遺跡、森町石倉1遺跡、倉知川右岸遺跡の測定値との比較からは、①・②群が天祐寺式、③群が天祐寺式~涌元式、④・⑤群が涌元式の年代を示しているとみられる。(福井)



図VII-5 押上1遺跡の年代測定値

(2) 押上1遺跡出土の植物種実と土器底面の葉痕について

浮遊水洗選別を行った土壌の内、盛土遺構、堅穴住居跡、土坑、焼土、フレイク集の中から採取した土壌において炭化種実が検出された。同定結果を整理したものを表に示した(表VII-4)。樹木種実とは二次林種、草本は雑草種が主体とされ、遺跡周辺の植生が人為的攪乱を著しく受けていた状況が推測される。

食用種では、オニグルミの出土量が圧倒的に多い。ほかの食用種として、ブナ科、クリ、マタタビ、キハダ、ブドウ属、栽培種としてヒエ属、栽培可能性種としてシソ科がある。ブナ科はコナラ、ミズナラなどのドングリ類。

ヒエ属は、山田・椿坂(2006)を参照すると、北海道内8遺跡で出土している。その後の調査においても、各地で確認されており、北海道内では10遺跡以上で確認されているとみられる。古くは、縄文時代早期中葉の中野B遺跡から出土しているが、縄文時代のヒエ属は、形態や大きさが栽培型

ヒエと異なり、縄文ヒエと吉崎(1997)によって仮称されている。当遺跡出土ヒエ属は、長さ1.61×幅1.24mmの大きさがあり、数値だけでみると、大きく、栽培型ヒエに近いものである。

シソ科は、山田・椿坂(2006)を参照すると、北海道の縄文時代では忍路土場遺跡の後期中葉の包含層で出土しており、擦文文化期以降は各地の遺跡で検出されている。ほかに、苫小牧市柏原5遺跡の後期後半～晩期初頭の包含層から出土している(椿坂1997)。なお、シソ科は、本州では縄文時代早期以降確認されている。

ニワトコがオニグルミに次いで多く検出されている。青森県三内丸山遺跡で捨て場からまとまって出土したことから注目を集めた。本遺跡では、堅穴住居の覆土、炉跡から出土している。(福井)

土器の底面に認められた葉の圧痕には、平行脈のものと同状脈のものがある。平行脈のものは、細脈間の細かい長方形の網状の組織があることや、葉の大きさ・形態から、ササ類の葉の圧痕と判断できるものが多い。網状脈のものについては、葉脈の形状によって分類し、現生の葉と比較した。土器底面の大きさを基準に、ホオノキ・トチノキ・ミズナラ・カシワ・オオヤマザクラ・オニグルミ・ヤマブドウ・フキ・イタドリ・クズを対照資料として選択した。主脈と側脈の角度、側脈の形状・間隔、細脈の形状・間隔・側脈との角度に着目して比較した。土器掲載番号687は、波状の特徴的な葉縁が観察され、カシワの葉と判断できた。これと共通した特徴をもつものは、カシワと判断して良いと考える。ほかには、ホオノキ・トチノキ・イタドリ・クズの葉に類似する圧痕が認められたが、細かい相違点もあり、同定には至らなかった。

また、土器の胎土中にワラビの葉の痕跡が認められるものが少数みられた。(柳瀬)

分類群	和名	部位	点数
樹木	オニグルミ	核(破片)	2281
	クリ	子葉(破片)	6
	ブナ科	子葉(破片)	12
	キハダ	種子(破片)	5
	ブドウ科	種子(破片)	1
	マタタビ	種子	3
	ミズキ	核(破片)	1
	ニワトコ	核	110
		核(破片)	12
草本	ヒエ属	果実	1
	イネ科	果実	14
	タデ属	果実	5
	タデ属サナエタデ節	果実	2
		果実(破片)	1
	ナデシコ科	種子(破片)	1
	ハギ属	子葉	1
		子葉(破片)	1
	マメ科	子葉	1
	アカネ科	種子	3
シソ科	果実	19	
	果実(破片)	3	
樹木・草本	ウコギ科	種子	1
	不明		18
	不明種実		1
		(破片)	8
総計			2511

表VII-4 押上1遺跡検出炭化種実一覧

(3) 押上1遺跡の出土炭化材の樹種について

炭化材のうち、堅穴住居に伴う柱穴から採取した3点、堅穴住居に伴う炉跡から採取した1点、堅穴住居覆土に形成された焼土から採取した3点の樹種同定を行った。結果、柱材の可能性のあるものについては、クリとコナラ節、燃料材と推定されるものはクリ、コナラ節、タラノキと同定された。

三野(2001)を参照すると、クリの建築材利用は、北海道西南部では前期にはじまり、中期にかけて多用されるが、後・晩期にはトネリコ属などクリ以外の利用も目立つとされた。また、コナラ節の建築材利用は、北海道中央部、東部の太平洋側地域において、中・後期に多用される傾向があるとされる。

今回は、柱穴に残存した残りのよい炭化材と、比較資料として炉跡・焼土で検出した炭化材の樹種の同定を行ったが、二次林を構成する樹木が、建築材、燃料材の両方に利用されていたことが判明した。

(福井)

(4) 押上1遺跡出土の動物遺存体と骨角器

今回の調査では、盛土遺構、堅穴住居跡、土坑、Tピット、焼土、フレイク集中、小柱穴から焼けた骨片が確認された。焼けて小片であることから、現地では採集したほか、土壌を水洗選別して、回収に努めた。また、4点の骨角器が含まれていた。断片的なものであるが、残片とみられるものと、刺突具がある。

動物遺存体の中では、サメ類の遊離歯が目を引く。ほとんどがアオザメのもので、1点メジロザメ類が含まれていた。盛土遺構およびその下位にある遺構の覆土などから焼けた状態で検出された。ほかに、アオザメの遊離歯が土器の底面に残されたものもあった。歯根が残っていないので、被熱した状態であったとみられる(図V-1-62-637)。

タイ科の出土も注目される。タイ科の中でもマダイ亜科に属するマダイ、チダイの分布は、現在は最北が青森県竜飛岬までで、北海道沿岸に生息しないとされる。一方、クロダイは、函館湾が北限とされる。縄文時代の津軽海峡沿岸での出土例をみると、縄文時代～続縄文時代の貝塚では出土しているが、擦文文化期以降の遺跡では出土が確認されない。北海道においては、ブリ、カツオなどとともに海水温指標になりえるのであろう。海成種としては、タラ科、ニシン科も含まれる。

ほかに、ウグイとみられるコイ科、サケ属が目立つ。河川と海と行き来するものであるが、河川で漁獲しやすい。

津軽海峡沿岸遺跡出土動物遺存体の一覧を表VII-6に示した。貝塚が残されなかった遺跡と貝塚が残された遺跡で大きく異なるのは、貝類出土の有無である(表では貝類については省いた)。また、貝塚が残されなかった遺跡では、鳥類が種同定にまで至らない。今回は残存状況が良かったため、ウ類、カモ類が同定された。魚類、哺乳類は、貝塚が残された遺跡、貝塚が残されなかった遺跡とで、同定される種の組成に大きな差がある。

地域は異なるものの、貝塚が検出された釧路町天塚1遺跡(福井2008)において、貝塚、盛土遺構から出土した動物遺

綱	科・属・種	点数
軟骨魚綱	エイ・サメ類	4
	サメ類	8
	サメ類?	1
	コイ科	4
	コイ科?	4
	サケ科	15
	サケ科?	4
	タイ類	27
	タラ科	7
	タラ科?	2
硬骨魚綱	チョウザメ?	1
	ニシン科	1
	ニシン科?	8
	ホウボウ科?	4
	不明	70
	ウ科	1
	カモ科	3
鳥綱	不明	7
	イノシシ/シカ	3
哺乳綱	エゾシカ	1
	ネコ	1
	不明	18
不明		30
骨?		1
総計		225

表VII-5 押上1遺跡検出動物遺存体一覧

表1 検出遺構一覧(1)

遺構種別	遺構名	調査区	地区	規模 (m)				構造 回数	特徴	備考	図番号	図版番号		
				長軸		短軸								
				確認 長 (R) 面	推定 長 (R) 面	確認 短 (R) 面	推定 短 (R) 面							
土壌遺構	OH101 土152-156	A	(20.00)		10.50		0.30		3,910±20yrB.P.	17~15	4~7			
	土遺構土壌遺構 K~N165-173	A	(24.00)		22.00		0.25			16~18	4~7			
穴状住居跡	OH101 K.L163-164	G		(3.80)		(3.90)	0.15	1	IIa		19・20	8		
	OH102 LM.N104-105	G		(5.12)		(4.18)	0.16	2	IIa		21~23	9		
	OH103 K.L105-106	G		(5.12)		(5.04)	0.12	1	IIa		24~25	10		
	OH104 MN102~104	G		(5.76)		(4.08)			IIa		26~27	11		
	OH105 LM103-104	G		(4.30)		(3.69)			IIa		28・29	12		
	OH106 MN102~104	G		(5.63)		(3.88)			IIa		30	12		
	OH107a N.O132-133 乾貯庫	A		(3.87)		(3.20)			IIa	3,960±20yrB.P.	31・32	14		
	OH107b N.O132-133 乾貯庫	A		(4.11)		(3.80)			IIa		31・32	14		
	OH108 N.O130-131 乾貯庫	A		(4.05)		(3.66)			IIa		33	15		
	OH109 K.L94-95	H		(3.00)		(2.32)			IIa		34	15・16		
	OH10	LM95-96	H		(3.98)		(3.72)			IIa	3,680±20yrB.P.	35・36	16・17	
	OH11	L164-165	A		5.90	4.12	3.25	2.73	0.24		不明	住居上層の厚みか	37・38	18
	OH112	K.L.M183-185	A		(6.35)	(5.43)	5.01	4.22	0.22	4	I・IIb	3,800±20yrB.P.	39~42	18~20
	OH113	LM161-163	A		8.18	7.22	5.93	4.94	0.53	2	IIa		43~47	20・21
	OH114	LM159-160	A		(4.31)	(4.05)	4.07	3.87	0.30	2	IIa		48・49	21~25
	OH115	LMN160-161	A		(5.15)	4.82	(5.05)	4.90	0.22	3	IIa・IIb	3,800±20yrB.P.	50~54	22~25・34
	OH116	K.L160-161	A		(4.78)	4.58	(3.98)	(3.90)	0.20	1	IIb	3,840±20yrB.P.	55・56	26
	OH117	K.L167-168	A		4.46	3.98	3.17	2.62	0.20	1	IIb		57・58	27
	OH119	LMN166~168	A		9.00	(8.53)	(6.28)	(5.30)	0.32	5	I・IIa	3,800±20yrB.P.	59~63	28・29
	OH120	L160	A		2.86	2.41	(2.03)	(1.77)	0.12	1	不明	小型	64	22~24
	OH121	K.L161-162	A		(5.30)	(4.90)	4.12	3.66	0.31	4	IIa		65~67	26・30
	OH122	MN158-159	A		4.02	3.84	3.73	3.46	0.18	1	IIb	3,760±20yrB.P.	68・69	23・24・30
	OH123	K.L.M156-157	A		4.59	3.85	2.99	2.32	0.27	2	IIa	3,850±20yrB.P.	70・71	31
	OH124	K.L163-164	A		(4.02)	(3.39)	(3.68)	(3.62)	0.45	1	不明	断片	72・73	32
OH125	MN165~167	A		(4.40)	(4.20)	(4.40)	(4.40)	0.22	2	IIa	3,840±20yrB.P.	74・75	33	
OH126	K161-162	A		(2.40)	(2.10)	(2.60)	(2.40)	0.30	1	不明	3,870±20yrB.P.、断片	76	26	
OH127	MN159-161	A		(6.20)	(5.80)	(6.80)	(6.20)	0.20	3	I・IIa	3,950±20yrB.P.	77・78	23・24・34	
OH128	MN159~160	A			(6.20)		(3.80)	0.13	3	IIa	3,840±20yrB.P.	79・80	23・24・35	
OH129	L158-159	A		(4.10)	(3.88)	(3.90)	(3.50)	0.20	1	不明	小型	81・82	26・33	
OH130	LMN157-158	A		(4.89)	(4.63)	(2.89)	(2.78)	0.20	3	I・不明	3,840±20yrB.P.、小型遺構	83・84	35・37	
OH131	K.L.M165-166	A		(5.47)	5.23	(5.01)	(4.60)	0.28	3	IIa	3,800±20yrB.P.	85・86	38	
OH132	LM158-159	A		5.12	(5.02)		(4.78)	0.20	3	I		87~88	39	
OH133	LMN169-170	A		5.88	5.28	4.88	4.28	0.45	1	I		89~92	40・41	
OH134	K164	A		(1.20)	(1.00)	(1.20)	(1.00)	0.22	1	不明	断片	90	42	
OH135	K169-170	A		(3.40)	(3.20)	(6.40)	(6.40)	0.40	1	不明	断片	91	43	
OH136	LM163-164	A		(5.00)	(4.80)	5.12	4.33	0.23	2	IIa		95~97	43	
OH137	MN162-163	A		(4.10)	(3.30)	(6.40)	(4.70)	0.40	6	I		98~99	44	
OH138	MN168-169	A		5.40	4.96	(2.20)	(2.00)	0.50	1	I		100・101	45	
OH139	LM155-156	A・B		5.36	5.05	4.98	3.58	0.30	2	I		102~104	46・47	
OH140	MN155~157	A・B		6.53	5.86	(2.62)	(2.26)	0.30	1	I	105・106	46~48		
OH141	MN155	B		1.92	1.96	1.78	1.47	0.13	1	不明	土塊か	107	46・48	
OH142	LM156	A		2.28	2.10	1.53	1.38	0.14	1	不明	小型	108	46・47	
OH143	K167-168	A		(2.80)	(2.80)	(1.25)	(1.18)	0.17	1	不明	断片	109	48	
OH144	K167-168	A			(4.05)		(1.80)	0.16	1	不明	断片	110	48	
土坑	OP01	M102	G		1.97	1.71	1.58	1.29	0.39	1	OP2を切る	111	21	
	OP02	M101-102	G		(0.87)	(0.72)	0.89	0.71	0.23	1	OP1に切られる	111	21	
	OP03	L103	G		(1.00)	0.72	0.63	0.43	0.20	1		111		
	OP04	M102-103	G		1.96	1.89	(1.32)	(1.02)	0.29	1		111		
	OP05	M102	G		1.98	(1.25)	1.35	1.01	0.33	1		111		
	OP06	L128	D		1.48	1.32	0.68	0.56	0.20	1		112	26	
	OP07	MN132	E		1.52	1.85	1.38	1.47	0.76	1		アラヌス坑	112	49
	OP08	L139	A		1.09	(0.80)	0.92	0.62	0.10	1		113	43	
	OP09	L153	B		1.01	0.67	0.93	0.63	0.41	1		113		
	OP10	M151	B		1.08	0.88	0.77	0.48	0.10	1		O.S.I.F	114	
	OP11	L99	H		0.94	0.88	0.62	0.43	0.23	1		114		
	OP12	K100	H		(0.54)	(0.35)	0.47	0.38	0.25	1		115		
	OP13	L156	A		1.42	1.37	2.56	1.83	0.93	1		O.H122層土を切る	115	49
	OP14	L160	A		1.07	0.96	0.61	0.45	0.16	1		O.H120層土を切る	116	
	OP16	M165	A		1.27	1.08	1.17	0.91	0.88	1			116	49
	OP17	M158-159	A		1.28	1.10	0.53	0.30	0.27	1			117	
	OP18	M170	A		0.53	0.62	0.41	0.50	0.18	1			117	
	OP19	K170	A		0.65	0.52	(0.20)	(0.30)	0.35	1			118	
	OP20	L160	A		0.61	0.47	0.58	0.42	0.12	1			118	
	OP21	L160	A		(0.95)	(0.92)	1.08	0.75	0.10	1			118	
	OP22	K1160	A		1.46	1.17	1.33	0.89	0.18	1			118	
	OP23	M161	A		(0.92)	0.73	(0.09)	0.43	0.13	1			119	
	OP24	M161	A		1.27	1.01	1.05	0.77	0.20	1			119	
	OP25	M165-166	A		1.18	1.08	1.07	0.88	0.23	1			119	
	OP26	MN167	A		1.05	0.87	0.97	0.88	0.10	1			120	
	OP27	M166	A		1.02	0.69	0.79	0.45	0.21	1			120	
OP28	MN161-162	A		1.51	1.68	1.45	1.49	0.68	1		アラヌス坑	121	49	
OP29	K.L167-168	A		1.13	0.98	0.76	0.59	0.29	1			121		
OP30	L159-160	A		1.01	0.87	0.65	0.49	0.19	1			121		
OP31	L158	A		0.87	0.69	0.54	0.39	0.41	1			121		
OP32	K.L168	A		(2.10)	(2.00)	1.74	1.48	0.17	1		OH1-18	122	27	
OP33	N164	A		0.98	0.88	0.81	0.61	0.60	1		OHOS P-187	122		

表1 検出遺構一覧(2)

遺構種別	遺構名	調査区	地区	規模 (m)			構造 回数	特徴	備考	図番号	図説番号			
				長軸	短軸	深さ								
				確認面長(図)	確認面短(図)	深さ								
トビット	OT P1	L103	G	(1.86)	(1.42)	0.77	0.23	1.21	1	溝状	123	50		
	OT P2	MN167・168	A	(2.72)	(2.90)	0.63	0.47	1.33	1	瓢箪型	123	50		
	OT P3	N170	A	(2.42)	(2.43)	0.45	0.38	0.98	1	瓢箪型	124	50		
	OT P4	L.M171	A	4.55	5.13	0.82	0.40	1.00	1	瓢箪型	124	50		
	礎土	OF 1	L153	B	0.77		0.37			-	1	目録中で確認	125	
		OF 2	L160	A	0.63		0.25			-	1	柱穴層上で確認	125	
		OF 3	L151	B	0.82		0.42			-	1	目録中で確認	125	
		OF 4	L168	A	0.36		0.17			-	1	柱穴層上で確認	125	
		OF 5	L170	A	0.82		0.42			-	1	土層層上で確認	126	
		OF 6	N169	A	0.61		0.39			-	1	目録中で確認	126	
		OF 7	M159・160	A	0.32		0.23			-	1	目録中で確認	126	
OF 8		K.L158・159	A	0.42		0.36			-	1	階層で確認、右側が浅	127	50	
OF 9		L158	A	0.53		0.41			-	1	階層で確認	127		
OF 10		L168	A	0.39		0.28			-	1	柱穴層上で確認	127		
OF 11		K.L168	A	0.35		0.22			-	1	土層層上で確認	127		
フレイグ集中	OF C1	L155	A	0.72		0.51			-	1	目録中で確認	128		
	OF C2	M171	A	0.25		0.22			-	1	目録中で確認	128		
	OF C3	MN169	A	0.76		0.62			-	1	柱穴層上で確認	128		
礎石	O.S.1	M151	B	1.40		0.80			-	1	目録中で確認	129		

表2 小ピット一覧(1)

遺構種別	調査区	地区	備考	遺構名	調査区	地区	備考	遺構名	調査区	地区	備考	遺構名	調査区	地区	備考	
O.S.P001	K181	A		O.S.P040	M102	G		O.S.P062	L151	A		O.S.P149	K167	A		
O.S.P002	N100	G		O.S.P040	M103	G		セクションなし	O.S.P062	L151・154	A		O.S.P150	L167	A	
O.S.P003	M100	G						O.S.P064	L50	II		O.S.P151	L167	A		
O.S.P004	MN100	G						O.S.P065	M102	II		O.S.P152	K167	A		
O.S.P005	N100	G		O.S.P050	N103	欠番		O.H111P10	O.S.P066	K102	II		O.S.P153	L167	A	
O.S.P006	N100	G						女し	O.S.P067	L50	II		O.S.P154	L167	A	
O.S.P007	N100	G		O.S.P051	N104	欠番		O.H111P10	O.S.P068	N106	II		O.S.P155	K167	A	
O.S.P008	N100	G		O.S.P052	M105	G		セクションなし	O.S.P069	M106・107	II		O.S.P156	K167	A	
O.S.P009	N101	G		O.S.P053	M101	G		O.S.P070	N107	II		O.S.P157	L167	A		
O.S.P010	N101	G		O.S.P054	M101	G		O.S.P071	N107・108	II		O.S.P158	K167	A		
O.S.P011	M101	G						O.S.P072	M106	II		O.S.P159	K167	A		
O.S.P012	M101	G		O.S.P055	M102	G		OP付印なし	O.S.P073	L50	II		O.S.P160	M155	A	
O.S.P013	N102	G						セクションなし	O.S.P074	K109	II		O.S.P161	N165	A	右側欠
O.S.P014	N102	G						O.S.P075	K109	II		O.S.P162	L170・171	A		
O.S.P015	N102	G		O.S.P056	M102	G		OP付印なし	O.S.P076	M109	II		O.S.P163	N170	A	
O.S.P016	N102	G						セクションなし	O.S.P078	M109	II		O.S.P164	N170	A	
O.S.P017	M102	G		O.S.P057	L159	A		O.S.P079	M109	II		O.S.P166	N170	A		
O.S.P018	M102	G		O.S.P058	L159	A		O.S.P080	M109	II		O.S.P167	L160	A		
O.S.P019	M102	G		O.S.P059	L159	A		O.S.P081	M109	II		O.S.P168	L160	A		
O.S.P020	M102	G		O.S.P060	K181	A		O.S.P082	M109	II		O.S.P169	L160	A		
O.S.P021	L102	G		O.S.P061	K181	A		O.S.P083	L100	II		O.S.P170	M160	A		
O.S.P022	M102	G		O.S.P062	L159	A		OP付印なし	O.S.P084	M109	II		O.S.P171	M160	A	
O.S.P023	M102	G						女し	O.S.P085	L109	II		O.S.P172	N167	A	
O.S.P024	MN100	G						セクションなし	O.S.P086	M100	II		O.S.P173	N167	A	
O.S.P025	M102	G		O.S.P063	L160	A		ホーム層付	O.S.P087	M100	II		O.S.P174	N167	A	
O.S.P026	M102	G						ホーム層付	O.S.P088	M100	II		O.S.P175	N167	A	
O.S.P027	M101・102	G						サで埋めらる	O.S.P089	M100	II		O.S.P176	N167	A	
O.S.P028	L105	G		O.S.P064	K160	A		O.S.P090	N100	II		O.S.P178	L167	A		
O.S.P029	L105	G		O.S.P065	K160	A		O.S.P091	M101	II		O.S.P177	L167	A		
O.S.P030	M105	G		O.S.P066	K160	A		S.P46付印なし	O.S.P092	L101	II		O.S.P178	L167	A	
O.S.P031	M103	欠番		O.H111P10				O.S.P093	L101	II		O.S.P179	L167	A		
O.S.P032	M103	欠番		O.S.P067	K159・160	A		O.S.P094	L101	II		O.S.P180	L167	A		
O.S.P033	M103	欠番		O.S.P068	L160	A		O.S.P095	L101	II		O.S.P181	M166	A		
O.S.P034	M103	欠番		O.H111P10				S.P46付印なし	O.S.P096	L101	II		O.S.P182	N165	A	
O.S.P035	M103	欠番		O.S.P069	L160	A		O.S.P097	L101	II		O.S.P183	N165	A		
O.S.P036	M103	欠番		O.S.P070	L160	A		O.S.P098	L101	II		O.S.P184	N165	A		
O.S.P037	M103	欠番		O.H111P10				O.S.P099	L100	II		O.S.P185	N165	A		
O.S.P038	M103	欠番		O.S.P071	L160	A		O.S.P100	L100	II		O.S.P186	N165	A		
O.S.P039	M103	欠番		O.S.P072	L160	A		O.S.P101	K181	II		O.S.P187			土層層上で確認 OP30へ	
O.S.P040	M103	欠番		O.S.P073	L160・160	A		O.S.P102	L102	II		O.S.P188	K165	A		
O.S.P041	M103	欠番		O.S.P074	L156	A		O.S.P103	L102	II		O.S.P189	N164	A		
O.S.P042	M103	欠番		セクションなし	O.S.P075	L156	A		O.S.P104	L102	II		O.S.P190	N164	A	
O.S.P043	M103	欠番		セクションなし	O.S.P076	L156	A		O.S.P105	L102	II		O.S.P191	N164	A	
O.S.P044	M103	欠番		セクションなし	O.S.P077	L156	A		O.S.P106	M109	II		O.S.P192	N164	A	
O.S.P045	M103	欠番		セクションなし	O.S.P078	L156	A		O.S.P107	M109	II		O.S.P193	M164	A	
O.S.P046	M103	欠番		セクションなし	O.S.P079	L156	A		O.S.P108	L100	A		O.S.P194	M164	A	
O.S.P047	M103	欠番		セクションなし	O.S.P080	L155	A		O.S.P109	L101	A		O.S.P195	M165	A	
O.S.P048	M103	欠番		セクションなし	O.S.P081	L156	A		O.S.P110	L101	A		O.S.P196	K165	A	
O.S.P049	M103	欠番		セクションなし	O.S.P082	L156	A		O.S.P111	K162	A		O.S.P197	L165	A	
O.S.P050	M103	欠番		セクションなし	O.S.P083	L156	A		O.S.P112	M109	II		O.S.P198	L165	A	
O.S.P051	M103	欠番		セクションなし	O.S.P084	L157	A		O.S.P113	欠番			O.S.P199	L165	A	
O.S.P052	M103	欠番		O.H111P10				O.S.P114	L157	A		O.S.P200	L165	A		
O.S.P053	M103	欠番		O.S.P085	N104	II		O.S.P115	L157	A		O.S.P201	L165	A		
O.S.P054	M103	欠番		O.S.P086	M151	A		O.S.P116	L157	A		O.S.P202	L165	A		
O.S.P055	M103	欠番		O.S.P087	M151	A		O.S.P117	L157	A						
O.S.P056	MN101	G		セクションなし	O.S.P088	M103	II		O.S.P118	L157	A					
O.S.P057	L102	G		O.S.P089	M151	A		O.S.P119	L157	A						

表2 小ピット一覧(2)

遺構名	調査区	地区	備考	遺構名	調査区	地区	備考	遺構名	調査区	地区	備考	遺構名	調査区	地区	備考
OS-P204	K105	A		OS-P296	N102	A		OS-P274	N157	A		OS-P451	K105	A	BOH1-111P5
OS-P205	K105	A		OS-P298	N102	A		OS-P275	N157	A					
OS-P206	K105	A		OS-P291	N102	A		OS-P276	L159	A		OS-P452	K105	A	BOH1-111P6
OS-P207	K105	A		OS-P295	N101	A		OS-P277	L159	A					
OS-P208	K104	A		OS-P292	N101	A		OS-P278	L159	A		OS-P453	K105	A	BOH1-111P7
OS-P209	K105	A		OS-P294	N101	A		OS-P279	L159	A					
OS-P210	M103	A		OS-P295	N101	A		OS-P280	L159	A		OS-P454	K105	A	BOH1-311P1
OS-P211	K103	A		OS-P296	N101	A		OS-P281	L159	A					
OS-P212	K105	A		OS-P297	M101	A		OS-P282	L159	A		OS-P455	L105	A	BOH1-311P2
OS-P213	M103	A		OS-P298	M101	A		OS-P283	L157	A					
OS-P214	M103	A		OS-P299	M101	A		OS-P284	L157	A		OS-P456	L103	G	BOH1-311P3
OS-P215	M103	A		OS-P300	M101	A		OS-P285	L157	A					
OS-P216	M104	A		OS-P301	M101	A		OS-P286	L157	A		OS-P457	M156	A	BOH1-2211P20
OS-P217	M104	A		OS-P302	M101	A		OS-P287	L157	A					
OS-P218	M104	A		OS-P303	M101	A		OS-P288	L157	A		OS-P458	K167	A	
OS-P219	N103	A		OS-P304			支差	OS-P289	K157	A		OS-P459	L168	A	
OS-P220	N103	A		OS-P305			支差	OS-P290	K157	A					
OS-P221	N103	A		OS-P306	K101	A		OS-P291			支差	OS-P460	L161	A	BOH1-1011P23
OS-P222	N103	A		OS-P307	K101	A		OS-P292	N161	A					
OS-P223	N103	A		OS-P308	K101	A		OS-P293	N161	A		OS-P461	K167	A	BOH1-1011P24
OS-P224	N103	A		OS-P309	L100	A		OS-P294	N161	A		OS-P462	L184	A	BOH1-2311P20
OS-P225	N103	A		OS-P310	L100	A		OS-P295	N161	支差	支差				
OS-P226	N103	A		OS-P311	L100	A		OS-P296	N161	A		OS-P463	N167	A	BOH1-2311P21
OS-P227	M105	A		OS-P312	L100	A		OS-P297	N161	A		OS-P464	N167	A	BOH1-2311P22
OS-P228	M105	A		OS-P313	L100	A		OS-P298	N161	A		OS-P465	K156	A	
OS-P229	M105	A		OS-P314	L100	A		OS-P299	N161	A		OS-P466	K156	A	
OS-P230	K106	A		OS-P315	K100	A		OS-P300	M157	A		OS-P467	K159	A	
OS-P231	K106	A		OS-P316	K100	A		OS-P301	M157	A		OS-P468	K159	A	
OS-P232	K106	A		OS-P317	K100	A		OS-P302	M157	A		OS-P469	K159	A	
OS-P233	L103	A		OS-P318	K100	A		OS-P303	M157	A		OS-P470	M163	A	
OS-P234	L103	A		OS-P319	K100	A		OS-P304	M157	A					
OS-P235	L103	A		OS-P320	K100	A		OS-P305	M156	A		OS-P471	L161	A	BOH1-1011P22
OS-P236	L103	A		OS-P321	K100	A		OS-P306	M156	A					
OS-P237	K102	A		OS-P322	K100	A		OS-P307	M156	A		OS-P472	N155	B	
OS-P238	K102	A		OS-P323	K109	A		OS-P308	M156	A					
OS-P239	K102	A		OS-P324	K109	A		OS-P309	M156	A					
OS-P240	K102	A		OS-P325	K106	A		OS-P310	M156	A					
OS-P241	K102	A		OS-P326	L100	A		OS-P311	M156	A					
OS-P242	K102	A		OS-P327	L109	A		OS-P312	M156	A					
OS-P243	L102	A		OS-P328	L109	A		OS-P313	M156	A					
OS-P244	L102	A		OS-P329	L109	A		OS-P314	K157	A					
OS-P245	K102	A		OS-P330	L109	A		OS-P315	N157	A					
OS-P246	K102	A		OS-P331	L109	A		OS-P316	M156	A					
OS-P247	K102	A		OS-P332	L109	A		OS-P317	M156	A					
OS-P248	K102	A		OS-P333	M159	A		OS-P318	K159	A					
OS-P249	K102	A		OS-P334	M159	A		OS-P319			支差				
OS-P250	K102	A		OS-P335	L109	A		OS-P320	K159	A					
OS-P251	K102	A		OS-P336	L109	A		OS-P321	K159	A					
OS-P252	L103	A		OS-P337	L109	A		OS-P322	K159	A					
OS-P253	L103	A		OS-P338	L109	A		OS-P323	K159	A					
OS-P254	K102	A		OS-P339	L109	A		OS-P324	K159	A					
OS-P255	L102	A		OS-P340	L109	A		OS-P325	K159	A					
OS-P256	L102	A		OS-P341	L109	A		OS-P326	K159	A					
OS-P257	L102	A		OS-P342	L109	A		OS-P327	K159	A					
OS-P258	L102	A		OS-P343	L109	A		OS-P328	K159	A					
OS-P259	L102	A		OS-P344	L109	A		OS-P329	K159	A					
OS-P260	N104	A		OS-P345	L109	A		OS-P330	K159	A					
OS-P261	N103	A		OS-P346	L109	A		OS-P331	K159	A					
OS-P262	M105	A		OS-P347	K156	A		OS-P332	K156	A					
OS-P263	N105	A		OS-P348	K156	A		OS-P333	M157	A					
OS-P264	M104	A		OS-P349	K156	A		OS-P334	M157	A					
OS-P265	L102	A		OS-P350	K156	A		OS-P335	M157	A					
OS-P266	L102	A		OS-P351	M159	A		OS-P336	M157	A					
OS-P267	K103	A		OS-P352	M159	A		OS-P337	K159	A					
OS-P268	K102	A		OS-P353	L109	A		OS-P338			支差				
OS-P269	K102	A		OS-P354	L109	A		OS-P339	K159	A					
OS-P270	L101	A		OS-P355	L109	A		OS-P340	K159	A					
OS-P271	M101	A		OS-P356	L109	A		OS-P341	L158	A					
OS-P272	M101	A		OS-P357			支差	OS-P342	L158	A					
OS-P273	M101	A		OS-P358	K160	A		OS-P343	M159	A					
OS-P274	M101	A		OS-P359	K156	A		OS-P344	L160	A		BOH1-1011P2			
OS-P275	L101	A		OS-P360	L156	A									
OS-P276	M101	A		OS-P361	L156	A		OS-P345			支差	OS-P468			
OS-P277	M101	A		OS-P362	L156	A									
OS-P278	M101	A		OS-P363	L157	A		OS-P346	L159	A		BOH1-001P17			
OS-P279	M101	A		OS-P364	L157	A									
OS-P280	M101	A		OS-P365	L157	A		OS-P347	L159	A		BOH1-201P18			
OS-P281	M102	A		OS-P366	L157	A									
OS-P282	M102	A		OS-P367	L157	A		OS-P348	L159	A		BOH1-201P19			
OS-P283	M102	A		OS-P368	L157	A		OS-P349	L159	A		BOH1-201P20			
OS-P284	N102	A		OS-P369	L157	A		OS-P350	L159	A		BOH1-201P21			
OS-P285	N102	A		OS-P370	M157	A									
OS-P286	N102	A		OS-P371	M157	A		OS-P351	L159	A		BOH1-201P22			
OS-P287	N102	A		OS-P372	M157	A									
OS-P288	N102	A		OS-P373	N157	A									

表3 遺構出土土器一覽

遺構別	遺構名	層別	土器 品目	土器 の 小 数	遺構別	遺構名	層別	土器 品目	土器 の 小 数	遺構別	遺構名	層別	土器 品目	土器 の 小 数	遺構別	遺構名	層別	土器 品目	土器 の 小 数	
																				遺構別
B308棟	O101	11F	土器	17	O102	11F	土器	66	O103	11F	土器	164	O104	11F	土器	164	O105	11F	土器	164
			土器	164			土器	164			土器	164								
	O106	11F	土器	76	O107	11F	土器	85	O108	11F	土器	85	O109	11F	土器	85	O110	11F	土器	85
			土器	85			土器	85			土器	85								
	O111	11F	土器	114	O112	11F	土器	114	O113	11F	土器	114	O114	11F	土器	114	O115	11F	土器	114
			土器	114			土器	114			土器	114								
	O116	11F	土器	131	O117	11F	土器	131	O118	11F	土器	131	O119	11F	土器	131	O120	11F	土器	131
			土器	131			土器	131			土器	131								
	O121	11F	土器	148	O122	11F	土器	148	O123	11F	土器	148	O124	11F	土器	148	O125	11F	土器	148
			土器	148			土器	148			土器	148								
O126	11F	土器	165	O127	11F	土器	165	O128	11F	土器	165	O129	11F	土器	165	O130	11F	土器	165	
		土器	165			土器	165			土器	165									
O131	11F	土器	182	O132	11F	土器	182	O133	11F	土器	182	O134	11F	土器	182	O135	11F	土器	182	
		土器	182			土器	182			土器	182									
O136	11F	土器	199	O137	11F	土器	199	O138	11F	土器	199	O139	11F	土器	199	O140	11F	土器	199	
		土器	199			土器	199			土器	199									
O141	11F	土器	216	O142	11F	土器	216	O143	11F	土器	216	O144	11F	土器	216	O145	11F	土器	216	
		土器	216			土器	216			土器	216									
O146	11F	土器	233	O147	11F	土器	233	O148	11F	土器	233	O149	11F	土器	233	O150	11F	土器	233	
		土器	233			土器	233			土器	233									
O151	11F	土器	250	O152	11F	土器	250	O153	11F	土器	250	O154	11F	土器	250	O155	11F	土器	250	
		土器	250			土器	250			土器	250									
O156	11F	土器	267	O157	11F	土器	267	O158	11F	土器	267	O159	11F	土器	267	O160	11F	土器	267	
		土器	267			土器	267			土器	267									
O161	11F	土器	284	O162	11F	土器	284	O163	11F	土器	284	O164	11F	土器	284	O165	11F	土器	284	
		土器	284			土器	284			土器	284									
O166	11F	土器	301	O167	11F	土器	301	O168	11F	土器	301	O169	11F	土器	301	O170	11F	土器	301	
		土器	301			土器	301			土器	301									
O171	11F	土器	318	O172	11F	土器	318	O173	11F	土器	318	O174	11F	土器	318	O175	11F	土器	318	
		土器	318			土器	318			土器	318									
O176	11F	土器	335	O177	11F	土器	335	O178	11F	土器	335	O179	11F	土器	335	O180	11F	土器	335	
		土器	335			土器	335			土器	335									
O181	11F	土器	352	O182	11F	土器	352	O183	11F	土器	352	O184	11F	土器	352	O185	11F	土器	352	
		土器	352			土器	352			土器	352									
O186	11F	土器	369	O187	11F	土器	369	O188	11F	土器	369	O189	11F	土器	369	O190	11F	土器	369	
		土器	369			土器	369			土器	369									
O191	11F	土器	386	O192	11F	土器	386	O193	11F	土器	386	O194	11F	土器	386	O195	11F	土器	386	
		土器	386			土器	386			土器	386									
O196	11F	土器	403	O197	11F	土器	403	O198	11F	土器	403	O199	11F	土器	403	O200	11F	土器	403	
		土器	403			土器	403			土器	403									
O201	11F	土器	420	O202	11F	土器	420	O203	11F	土器	420	O204	11F	土器	420	O205	11F	土器	420	
		土器	420			土器	420			土器	420									
O206	11F	土器	437	O207	11F	土器	437	O208	11F	土器	437	O209	11F	土器	437	O210	11F	土器	437	
		土器	437			土器	437			土器	437									
O211	11F	土器	454	O212	11F	土器	454	O213	11F	土器	454	O214	11F	土器	454	O215	11F	土器	454	
		土器	454			土器	454			土器	454									
O216	11F	土器	471	O217	11F	土器	471	O218	11F	土器	471	O219	11F	土器	471	O220	11F	土器	471	
		土器	471			土器	471			土器	471									
O221	11F	土器	488	O222	11F	土器	488	O223	11F	土器	488	O224	11F	土器	488	O225	11F	土器	488	
		土器	488			土器	488			土器	488									
O226	11F	土器	505	O227	11F	土器	505	O228	11F	土器	505	O229	11F	土器	505	O230	11F	土器	505	
		土器	505			土器	505			土器	505									
O231	11F	土器	522	O232	11F	土器	522	O233	11F	土器	522	O234	11F	土器	522	O235	11F	土器	522	
		土器	522			土器	522			土器	522									
O236	11F	土器	539	O237	11F	土器	539	O238	11F	土器	539	O239	11F	土器	539	O240	11F	土器	539	
		土器	539			土器	539			土器	539									
O241	11F	土器	556	O242	11F	土器	556	O243	11F	土器	556	O244	11F	土器	556	O245	11F	土器	556	
		土器	556			土器	556			土器	556									
O246	11F	土器	573	O247	11F	土器	573	O248	11F	土器	573	O249	11F	土器	573	O250	11F	土器	573	
		土器	573			土器	573			土器	573									
O251	11F	土器	590	O252	11F	土器	590	O253	11F	土器	590	O254	11F	土器	590	O255	11F	土器	590	
		土器	590			土器	590			土器	590									
O256	11F	土器	607	O257	11F	土器	607	O258	11F	土器	607	O259	11F	土器	607	O260	11F	土器	607	
		土器	607			土器	607			土器	607									
O261	11F	土器	624	O262	11F	土器	624	O263	11F	土器	624	O264	11F	土器	624	O265	11F	土器	624	
		土器	624			土器	624			土器	624									
O266	11F	土器	641	O267	11F	土器	641	O268	11F	土器	641	O269	11F	土器	641	O270	11F	土器	641	
		土器	641			土器	641			土器	641									
O271	11F	土器	658	O272	11F	土器	658	O273	11F	土器	658	O274	11F	土器	658	O275	11F	土器	658	
		土器	658			土器	658			土器	658									
O276	11F	土器	675	O277	11F	土器	675	O278	11F	土器	675	O279	11F	土器	675	O280	11F	土器	675	
		土器	675			土器	675			土器	675									
O281	11F	土器	692	O282	11F	土器	692	O283	11F	土器	692	O284	11F	土器	692	O285	11F	土器	692	
		土器	692			土器	692			土器	692									
O286	11F	土器	709	O287	11F	土器	709	O288	11F	土器	709	O289	11F	土器	709	O290	11F	土器	709	
		土器	709			土器	709			土器	709									
O291	11F	土器	726	O292	11F	土器	726	O293	11F	土器	726	O294	11F	土器	726	O295	11F	土器	726	
		土器	726			土器	726			土器	726									
O296	11F	土器	743	O297	11F	土器	743	O298	11F	土器	743	O299	11F	土器	743	O300	11F	土器	743	
		土器	743			土器	743			土器	743									
O301	11F	土器	760	O302	11F	土器	760	O303	11F	土器	760	O304	11F	土器	760	O305	11F	土器	760	
		土器	760			土器	760			土器	760									
O306	11F	土器	777	O307	11F	土器	777	O308	11F	土器	777	O309	11F	土器	777	O310	11F	土器	777	
		土器	777			土器	777			土器	777									
O311	11F	土器	794	O312	11F	土器	794	O313	11F	土器	794	O314	11F	土器	794	O315	11F	土器	794	
		土器	794			土器	794			土器	794									
O316	11F	土器	811	O317	11F	土器	811													

表4 盛土遺構出土
土器一覽

遺構別	土器	数量
150	土器	23
151	土器	2
152	土器	679
153	土器	151
154	土器	220
155	土器	230
156	土器	208
157	土器	155
158	土器	84
159	土器	155
160	土器	26
161	土器	241
162	土器	130
163	土器	26
164	土器	22
165	土器	178
166	土器	27
167	土器	93
168	土器	11
169	土器	83
170	土器	28
171	土器	19
172	土器	139
173	土器	309
174	土器	68
175	土器	244
176	土器	329
177	土器	49
178	土器	14
179	土器	141
180	土器	27
181	土器	289
182	土器	20
183	土器	30
184	土器	3
185	土器	1
186	土器	1
187	土器	1
188	土器	1
189	土器	1
190	土器	1
191	土器	1
192	土器	1
193	土器	1
194	土器	1
195	土器	1
196	土器	1
197	土器	1
198	土器	1
199	土器	1
200	土器	1

表5 包含層出土土器一覽

遺構別	土器	数量		遺構別	土器	数量	
		数量	土器			数量	土器
100	土器	143	3	190	土器	609	1
101	土器	23	1	191	土器	104	1
102	土器	2	0	192	土器	196	1
103	土器	29	0	193	土器	263	1
104	土器	49	144	194	土器	45	1
105	土器	17	150	195	土器	19	1
106	土器	1	140	196	土器	191	1
107	土器	2	147	197	土器	15	1
108	土器	1	140	198	土器	27	1
109	土器	1	1	199	土器	103	1
110	土器	2	1	200	土器	181	1
111	土器	1	1	201	土器	133	1
112	土器	1	1	202	土器	191	1
113	土器	1	1	203	土器	266	1
114	土器	1	1	204	土器	118	1
115	土器	1	1	205	土器	258	1
116	土器	1	1	206	土器	100	1
117	土器	1	1	207	土器	240	1
118	土器	1	1	208	土器	204	1
119	土器	1	1	209	土器	239	1
120	土器	1	1	210	土器	263	1
121	土器	1	1	211	土器	679	1
122	土器	1	1	212	土器	61	1
123	土器	1	1	213	土器	27	1
124	土器	1	1	214	土器	218	1
125	土器	1	1	215	土器	253	1
126	土器	1	1	216	土器	603	1
127	土器	1	1	217	土器	262	1
128	土器	1	1	218	土器	271	1
129	土器	1	1	219	土器	694	1
130	土器	1	1	220	土器	246	1
131	土器	1	1	221	土器	37	1
132	土器	1	1	222	土器	369	1
133	土器	1	1	223	土器	42	1
134	土器	1	1	224	土器	54	1
135	土器	1	1	225	土器	19	1
136	土器	1	1	226	土器	239	1
137	土器	1	1	227	土器	1160	1
138	土器	1	1	228	土器	103	1
139	土器	1	1	229	土器	40	1
140	土器	1	1	230	土器	263	1
141	土器	1	1	231	土器	292	1
142	土器	1	1	232	土器	302	1
143	土器	1	1	233	土器	103	1
144	土器	1	1	234	土器	243	1
145	土器	1	1	235	土器	33	1
146	土器	1	1	236	土器	800	1
147	土器	1	1	237	土器	162	1
148	土器	1	1	238	土器	104	1
149	土器	1	1	239	土器	35	1
150	土器	1	1	240	土器	256	1
151	土器	1	1	241	土器	2160	1
152	土器	1	1	242	土器	104	1
153	土器	1	1	243	土器	69	1
154	土器	1	1	244	土器	104	1
155	土器	1	1	245	土器	104	1
156	土器	1	1	246	土器	104	1
157	土器	1	1	247	土器	104	1
158	土器	1	1	248	土器	104	1
159	土器	1	1	249	土器	104	1
160	土器	1	1	250	土器	104	1
161	土器	1	1	251	土器	104	1
162	土器	1	1	252	土器	104	1
163	土器	1	1	253	土器	104	1
164	土器	1	1	254	土器	104	1
165	土器	1	1	255	土器	104	1
166	土器	1	1	256	土器	104	1
167	土器	1	1	257	土器	104	1
168	土器	1	1	258	土器	104	1
169	土器	1	1	259	土器	104	1
170	土器	1	1	260	土器	104	1
171	土器	1	1	261	土器	104	1
172	土器	1	1	262	土器	104	1
173	土器	1	1	263	土器	104	1
174	土器	1	1	264	土器	104	1
175	土器	1	1	265	土器	104	1
176	土器	1	1	266	土器	104	1
177	土器	1	1	267	土器	104	1
178	土器	1	1	268	土器	104	1
179	土器	1	1	269	土器	104	1
180	土器	1	1	270	土器	104	1
181	土器	1	1	271	土器	104	1
182	土器	1	1	272	土器	104	1
183	土器	1	1	273	土器	104	1
184	土器	1	1	274	土器	104	1
185	土器	1	1	275	土器	104	1
186	土器	1	1	276	土器	104	1
187	土器	1	1	277	土器	104	1
188	土器	1	1	278	土器	104	1
189	土器	1	1	279	土器	104	1
190	土器	1	1	280	土器	104	1
191	土器	1	1	281	土器	104	1
192	土器	1	1	282	土器	104	1
193	土器	1	1	283	土器	104	1
194	土器	1	1	284	土器	104	1
195	土器	1	1	285	土器	104	1
196	土器	1	1	286	土器	104	1
197	土器	1	1	287	土器	104	1
198	土器	1	1	288	土器	104	1
199	土器	1	1	289	土器	104	1
200	土器	1	1	290	土器	104	1

表6 遺構出土土製品一覽

遺構別	土製品	数量		遺構別	土製品	数量	
		数量	土製品			数量	土製品
100	土製品	1	1	190	土製品	1	1
101	土製品	1	1	191	土製品	1	1
102	土製品	1	1	192	土製品	1	1
103	土製品	1	1	193	土製品	1	1
104	土製品	1	1	194	土製品	1	1
105	土製品	1	1	195	土製品	1	1
106	土製品	1	1	196	土製品	1	1
107	土製品	1	1	197	土製品	1	1
108	土製品	1	1	198	土製品	1	1
109	土製品	1	1	199	土製品	1	1
110	土製品	1	1	200	土製品	1	1
111	土製品	1	1	201	土製品	1	1
112	土製品	1	1	202	土製品	1	1
113	土製品	1	1	203	土製品	1	1
114	土製品	1	1	204	土製品	1	1
115	土製品	1	1	205	土製品	1	1
116	土製品	1	1	206	土製品	1	1
117	土製品	1	1	207	土製品	1	1
118	土製品	1	1	208	土製品	1	1
119	土製品	1	1	209	土製品	1	1
120	土製品	1	1	210	土製品	1	1
121	土製品	1	1	211	土製品	1	1
122	土製品	1	1	212	土製品	1	1
123	土製品	1	1	213	土製品	1	1
124	土製品	1	1	214	土製品	1	1
125	土製品	1	1	215	土製品	1	1
126	土製品	1	1	216	土製品	1	1
127	土製品	1	1	217	土製品	1	1
128	土製品	1	1	218	土製品	1	1
129	土製品	1	1	219	土製品	1	1
130	土製品	1	1	220	土製品	1	1
131	土製品	1	1	221	土製品	1	1
132	土製品	1	1	222	土製品	1	1
133	土製品	1	1	223	土製品	1	1
134	土製品	1	1	224	土製品	1	1
135	土製品	1	1	225	土製品	1	1
136	土製品	1	1	226	土製品	1	1
137	土製品	1	1	227	土製品	1	1
138	土製品	1	1	228	土製品	1	1
139	土製品	1	1	229	土製品	1	1
140	土製品	1	1	230	土製品	1	1
141	土製品	1	1	231	土製品	1	1
142	土製品	1	1	232	土製品	1	1
143	土製品						

表9 遺構出土石器一覽(1)

遺構種類	遺構名	器種別	石楯	石楯	つらみかけ石(ヤブ)	遺状石器	スクレイパー	湖沼遺器石器	樺皮石器	貝(アモイタ)	割片	石楯	石楯	たたま石	十ヶ石	遺状打製石器	石楯	石楯	加工面のある石楯	台石・石楯・石楯	器種	計数	
住居跡	0001	石楯					1				0											0	
		石楯									5												5
0002	石楯	石楯									0												0
		石楯	1								0												0
0006	石楯	石楯																					0
		石楯																					0
0007	石楯	石楯									2												2
		石楯									1	21	1										23
0009	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0010	石楯	石楯									2	2	2										6
		石楯									2												2
0011	石楯	石楯	1	1		1	1				7	0	1	2	1								101
		石楯									1												
0012	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0013	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0014	石楯	石楯									2	12											14
		石楯	0		7	1	0	20	2	1	0	107	20	3	32	5							139
0015	石楯	石楯									1												1
		石楯									5	6	1										7
0016	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0017	石楯	石楯									1												1
		石楯	1	1	1	1	5	2	1	27	80	7	1	0									115
0019	石楯	石楯									2	9											11
		石楯									2	20											22
0020	石楯	石楯	10	1	12	1	30	2	2	100	004	20	5	30	4	2	1	3	10	0	1		1207
		石楯									0												
0021	石楯	石楯									2	0	42	2	1	1	1						62
		石楯									17												17
0022	石楯	石楯									2	2											4
		石楯	1	1	1	1	2	1	1	14	66	2		0									80
0023	石楯	石楯									1												1
		石楯	0	1			2	1	1	10	09	2		0	1								13
0024	石楯	石楯									1												1
		石楯	2	4			5	1		0	13	8	1	2									65
0025	石楯	石楯									1												1
		石楯									5	19	15	0	0								39
0026	石楯	石楯									2												2
		石楯	1	4			18	2	1	0	103	9	2	13	2								202
0027	石楯	石楯									1												1
		石楯	2	1			2				0	0	1	1									5
0028	石楯	石楯									2	0	0	1	1								5
		石楯									2	13											15
0029	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0030	石楯	石楯									2	1	1	1	1								6
		石楯									1												1
0031	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0032	石楯	石楯									2	102	2	1	11								107
		石楯									1												1
0033	石楯	石楯									1												1
		石楯									1												1
0034	石楯	石楯									0												0
		石楯									0	3	1										4
0035	石楯	石楯									0	1	2	1									3
		石楯									0	1	2	1									3
0036	石楯	石楯									0												0
		石楯									0												0

表9 遺構出土石器一覽表(3)

遺構種別	遺構名	部位種別	石鏃	石鏃	つまみ付石ナイフ	遺状石器	スクレイパー	湖沼遺器石器	楔形石器	片状石	片	石鏃	石鏃	たたま石	十字石	遺状打製石器	石鏃	加工面のある石	台石・石皿・砥石	磨石	肉鏡	中肉鏡	要わり石	赤色顔料	磨石	有孔磨石	骨製刀削石器	三脚石器	磨石	磨石	磨石	
中柱穴	09F199	礎土								1																					1	
	09F205	礎土														1															1	
	09F206	礎土								1																					1	
	09F215	礎土								1																					1	
	09F216	礎土																					1								1	
	09F217	礎土																													1	
	09F219	礎土								1		1																			2	
	09F227	礎土																													1	
	09F233	礎土										1																			1	
	09F234	礎土																													1	
	09F249	礎土								1																					1	
	09F255	礎土													2																2	
	09F259	礎土													1																1	
	09F263	礎土								2																					2	
	09F279	礎土								1	1																				2	
	09F282	礎土																													1	
	09F290	礎土																					1								1	
	09F306	礎土								2																					2	
	09F310	礎土								1	2																				3	
	09F314	礎土								2																					2	
	09F315	礎土								1																					1	
	09F318	礎土								1																					1	
	09F319	礎土				1				1																					2	
	09F320	礎土				1				6				1																	8	
	09F323	礎土								1				1																	2	
	09F328	礎土							1																						2	
	09F330	礎土								1																					1	
	09F332	礎土				1				6																					7	
	09F334	礎土								1																					1	
	09F335	礎土								1																					1	
	09F336	礎土								1																					1	
	09F337	礎土								1																					1	
	09F338	礎土								1																					1	
	09F346	礎土								1	2												1								4	
	09F350	礎土								2																					2	
	09F351	礎土								1																					1	
	09F357	礎土								1													1								1	
	09F360	礎土								1																					1	
	09F370	礎土							1	2																					4	
	09F371	礎土								1																					1	
	09F372	礎土								1					1																1	
	09F373	礎土								1																					1	
	09F375	礎土								1	6																				7	
	09F384	礎土				1				1																					2	
	09F387	礎土								5																					5	
	09F393	礎土								3																					3	
	09F403	礎土								1	1																				2	
	09F405	礎土						1		1																					2	
	09F406	礎土								1																					1	
	09F408	礎土								2																					2	
	09F411	礎土								2																					2	
	09F420	礎土					1			2	2	1		1									1								8	
	09F428	礎土								1																					1	
	09F429	礎土								1																					1	
	09F430	礎土								1																					1	
	09F435	礎土								1																					1	
	09F443	礎土								2																					2	
総計			93	8	91	4	6	327	54	363	1328	9817	287	55	323	34	4	2	1	9	159	49	1	38	15	6	11	27	52	2	1	1273

表15 掘載土器一覽（復元・図上復元）(2)

図番	図名	図種	遺物番号	遺物名称	形状	口径	全長	口径/全長	口径/底径	容積	状態	文様	製造様式	復元期	その他		
番号	番号	番号	番号	番号	番号	mm	mm	mm/mm	mm/mm	ml	mm	mm	mm	mm	mm		
8	37	36	30P-11	土師土	底平	17	11										
			30P-12	土師土	底平	2	4										
			30P-13	土師土	底平	4	4										
9	38	36	30P-47	1-2-1土師土	底平	69	66										
			30P-47	1-2-1土師土	底平	14	14										
			30P-47	1-2-1土師土	底平	14	14										
9	38	37	30P-17	土師土	底平	7	11										
			30P-17	土師土	底平	7	11										
			30P-17	土師土	底平	7	11										
			30P-17	土師土	底平	7	11										
9	38	38	30P-19	土師土	底平	10	10										
			30P-19	土師土	底平	10	10										
			30P-19	土師土	底平	10	10										
9	38	39	30P-20	1-2-1土師土	底平	32	32										
			30P-20	1-2-1土師土	底平	32	32										
			30P-20	1-2-1土師土	底平	32	32										
11	39	41	30P-21	土師土	底平	7	7										
			30P-21	土師土	底平	7	7										
			30P-21	土師土	底平	7	7										
11	39	41	30P-22	土師土	底平	19	26										
			30P-22	土師土	底平	19	26										
			30P-22	土師土	底平	19	26										
11	39	42	30P-23	土師土	底平	13	11										
			30P-23	土師土	底平	13	11										
			30P-23	土師土	底平	13	11										
11	39	43	30P-24	土師土	底平	7	7										
			30P-24	土師土	底平	7	7										
			30P-24	土師土	底平	7	7										
12	40	44	30P-25	1-2-1土師土	底平	4	4										
			30P-25	1-2-1土師土	底平	4	4										
			30P-25	1-2-1土師土	底平	4	4										
12	40	45	30P-26	1-2-1土師土	底平	40	68										
			30P-26	1-2-1土師土	底平	40	68										
			30P-26	1-2-1土師土	底平	40	68										
12	40	46	30P-27	1-2-1土師土	底平	14	14										
			30P-27	1-2-1土師土	底平	14	14										
			30P-27	1-2-1土師土	底平	14	14										
12	40	47	30P-28	土師土	底平	10	10										
			30P-28	土師土	底平	10	10										
			30P-28	土師土	底平	10	10										
12	40	48	30P-29	土師土	底平	2	2										
			30P-29	土師土	底平	2	2										
			30P-29	土師土	底平	2	2										
12	40	49	30P-30	土師土	底平	10	10										
			30P-30	土師土	底平	10	10										
			30P-30	土師土	底平	10	10										
13	41	51	30P-31	土師土	底平	17	17										
			30P-31	土師土	底平	17	17										
			30P-31	土師土	底平	17	17										
13	41	52	30P-32	土師土	底平	10	10										
			30P-32	土師土	底平	10	10										
			30P-32	土師土	底平	10	10										
13	41	53	30P-33	土師土	底平	10	10										
			30P-33	土師土	底平	10	10										
			30P-33	土師土	底平	10	10										
13	41	54	30P-34	土師土	底平	10	10										
			30P-34	土師土	底平	10	10										
			30P-34	土師土	底平	10	10										
13	41	55	30P-35	土師土	底平	10	10										
			30P-35	土師土	底平	10	10										
			30P-35	土師土	底平	10	10										
13	41	56	30P-36	土師土	底平	10	10										
			30P-36	土師土	底平	10	10										
			30P-36	土師土	底平	10	10										
13	41	57	30P-37	土師土	底平	14	14										
			30P-37	土師土	底平	14	14										
			30P-37	土師土	底平	14	14										
13	41	58	30P-38	土師土	底平	10	10										
			30P-38	土師土	底平	10	10										
			30P-38	土師土	底平	10	10										
13	41	59	30P-39	土師土	底平	10	10										
			30P-39	土師土	底平	10	10										
			30P-39	土師土	底平	10	10										
13	41	60	30P-40	土師土	底平	10	10										
			30P-40	土師土	底平	10	10										
			30P-40	土師土	底平	10	10										
13	41	61	30P-41	土師土	底平	10	10										
			30P-41	土師土	底平	10	10										
			30P-41	土師土	底平	10	10										
13	41	62	30P-42	土師土	底平	10	10										
			30P-42	土師土	底平	10	10										
			30P-42	土師土	底平	10	10										
13	41	63	30P-43	土師土	底平	10	10										
			30P-43	土師土	底平	10	10										
			30P-43	土師土	底平	10	10										
13	41	64	30P-44	土師土	底平	10	10										
			30P-44	土師土	底平	10	10										
			30P-44	土師土	底平	10	10										
13	41	65	30P-45	土師土	底平	10	10										
			30P-45	土師土	底平	10	10										
			30P-45	土師土	底平	10	10										
13	41	66	30P-46	土師土	底平	10	10										
			30P-46	土師土	底平	10	10										
			30P-46	土師土	底平	10	10										
13	41	67	30P-47	土師土	底平	10	10										
			30P-47	土師土	底平	10	10										
			30P-47	土師土	底平	10	10										
13	41	68	30P-48	土師土	底平	10	10										
			30P-48	土師土	底平	10	10										
			30P-48	土師土	底平	10	10										
13	41	69	30P-49	土師土	底平	10	10										
			30P-49	土師土	底平	10	10										
			30P-49	土師土	底平	10	10										

※計測誤差()は、口径・底径は標準誤差、断面は標準誤差

表16 掲載土器(破片)・土製品一覧(2)

調査年度	調査区画	調査位置	遺物番号	形状	土質	用途	分類	注記	出土層
H27	203	111	82-01	片	2	片			
			82-02	片	2	片			
			82-03	片	2	片			
			82-04	片	2	片			
			82-05	片	2	片			
			82-06	片	2	片			
			82-07	片	2	片			
			82-08	片	2	片			
			82-09	片	2	片			
			82-10	片	2	片			
			82-11	片	2	片			
			82-12	片	2	片			
H27	204	111	82-13	片	2	片			
			82-14	片	2	片			
			82-15	片	2	片			
			82-16	片	2	片			
			82-17	片	2	片			
			82-18	片	2	片			
			82-19	片	2	片			
			82-20	片	2	片			
			82-21	片	2	片			
			82-22	片	2	片			
			82-23	片	2	片			
			H27	205	111	82-24	片	2	片
82-25	片	2				片			
82-26	片	2				片			
82-27	片	2				片			
82-28	片	2				片			
82-29	片	2				片			
82-30	片	2				片			
82-31	片	2				片			
82-32	片	2				片			
82-33	片	2				片			
82-34	片	2				片			
H27	206	111				82-35	片	2	片
			82-36	片	2	片			
			82-37	片	2	片			
			82-38	片	2	片			
			82-39	片	2	片			
			82-40	片	2	片			
			82-41	片	2	片			
			82-42	片	2	片			
			82-43	片	2	片			
			82-44	片	2	片			
			82-45	片	2	片			
			H27	207	111	82-46	片	2	片
82-47	片	2				片			
82-48	片	2				片			
82-49	片	2				片			
82-50	片	2				片			
82-51	片	2				片			
82-52	片	2				片			
82-53	片	2				片			
82-54	片	2				片			
82-55	片	2				片			
82-56	片	2				片			
H27	208	111				82-57	片	2	片
			82-58	片	2	片			
			82-59	片	2	片			
			82-60	片	2	片			
			82-61	片	2	片			
			82-62	片	2	片			
			82-63	片	2	片			
			82-64	片	2	片			
			82-65	片	2	片			
			82-66	片	2	片			
			82-67	片	2	片			
			H27	209	111	82-68	片	2	片
82-69	片	2				片			
82-70	片	2				片			
82-71	片	2				片			
82-72	片	2				片			
82-73	片	2				片			
82-74	片	2				片			
82-75	片	2				片			
82-76	片	2				片			
82-77	片	2				片			
82-78	片	2				片			
H27	210	111				82-79	片	2	片
			82-80	片	2	片			
			82-81	片	2	片			
			82-82	片	2	片			
			82-83	片	2	片			
			82-84	片	2	片			
			82-85	片	2	片			
			82-86	片	2	片			
			82-87	片	2	片			
			82-88	片	2	片			
			82-89	片	2	片			
			82-90	片	2	片			
H27	211	111	82-91	片	2	片			
			82-92	片	2	片			
			82-93	片	2	片			
			82-94	片	2	片			
			82-95	片	2	片			
			82-96	片	2	片			
			82-97	片	2	片			
			82-98	片	2	片			
			82-99	片	2	片			
			82-100	片	2	片			
			82-101	片	2	片			
			H27	212	111	82-102	片	2	片
82-103	片	2				片			
82-104	片	2				片			
82-105	片	2				片			
82-106	片	2				片			
82-107	片	2				片			
82-108	片	2				片			
82-109	片	2				片			
82-110	片	2				片			
82-111	片	2				片			
82-112	片	2				片			
H27	213	111				82-113	片	2	片
			82-114	片	2	片			
			82-115	片	2	片			
			82-116	片	2	片			
			82-117	片	2	片			
			82-118	片	2	片			
			82-119	片	2	片			
			82-120	片	2	片			
			82-121	片	2	片			
			82-122	片	2	片			
			82-123	片	2	片			
			H27	214	111	82-124	片	2	片
82-125	片	2				片			
82-126	片	2				片			
82-127	片	2				片			
82-128	片	2				片			
82-129	片	2				片			
82-130	片	2				片			
82-131	片	2				片			
82-132	片	2				片			
82-133	片	2				片			
82-134	片	2				片			
H27	215	111				82-135	片	2	片
			82-136	片	2	片			
			82-137	片	2	片			
			82-138	片	2	片			
			82-139	片	2	片			
			82-140	片	2	片			
			82-141	片	2	片			
			82-142	片	2	片			
			82-143	片	2	片			
			82-144	片	2	片			
			82-145	片	2	片			
			82-146	片	2	片			
H27	216	111	82-147	片	2	片			
			82-148	片	2	片			
			82-149	片	2	片			
			82-150	片	2	片			
			82-151	片	2	片			
			82-152	片	2	片			
			82-153	片	2	片			
			82-154	片	2	片			
			82-155	片	2	片			
			82-156	片	2	片			
			82-157	片	2	片			
			82-158	片	2	片			
H27	217	111	82-159	片	2	片			
			82-160	片	2	片			
			82-161	片	2	片			
			82-162	片	2	片			
			82-163	片	2	片			
			82-164	片	2	片			
			82-165	片	2	片			
			82-166	片	2	片			
			82-167	片	2	片			
			82-168	片	2	片			
			82-169	片	2	片			
			82-170	片	2	片			
H27	218	111	82-171	片	2	片			
			82-172	片	2	片			
			82-173	片	2	片			
			82-174	片	2	片			
			82-175	片	2	片			
			82-176	片	2	片			
			82-177	片	2	片			
			82-178	片	2	片			
			82-179	片	2	片			
			82-180	片	2	片			
			82-181	片	2	片			
			H27	219	111	82-182	片	2	片
82-183	片	2				片			
82-184	片	2				片			
82-185	片	2				片			
82-186	片	2				片			
82-187	片	2				片			
82-188	片	2				片			
82-189	片	2				片			
82-190	片	2				片			
82-191	片	2				片			
82-192	片	2				片			
82-193	片	2				片			
H27	220	111	82-194	片	2	片			
			82-195	片	2	片			
			82-196	片	2	片			
			82-197	片	2	片			
			82-198	片	2	片			
			82-199	片	2	片			
			82-200	片	2	片			
			82-201	片	2	片			
			82-202	片	2	片			
			82-203	片	2	片			
			82-204	片	2	片			
			82-205	片	2	片			
H27	221	111	82-206	片	2	片			
			82-207	片	2	片			
			82-208	片	2	片			
			82-209	片	2	片			
			82-210	片	2	片</			

表17 掲載石器・骨角器等一覽(1)

分類	掲載番号	出土 遺跡名	調査区 遺跡名	遺物 種別	単位	石材	部分説明	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	図柄	付着物	欠片	備考
石器	1	旧石器	N315	1石	メノウ	燧石類基		18.196	(15.90)	3.51	0.32				
	2	旧石器	F153	137石	メノウ	燧石類基		18.166	12.903	2.96	0.33				
	3	遺構	F300	116層上	珪化岩	燧石類基		22.779	15.17	3.09	0.76				
	4	燧石遺構	F155	24層上	燧石	燧石類基		18.171	13.633	3.09	0.33				
	5	燧石遺構	F170	72層中	燧石	燧石類基		20.333	(14.23)	3.75	0.68				
	6	旧石器	F055	49層	燧石	燧石類基		22.50	13.93	2.54	0.49				
	7	遺構	F308	282層上	燧石	燧石類基		26.24	18.96	2.83	0.63				
	8	旧石器	F170	71石	燧石	燧石類基		(25.91)	22.729	4.09	1.95				
	13	遺構	F055	29層中	珪化岩	燧石類基		21.92	12.99	3.13	0.64				
	10	旧石器	F056	60石	燧石	燧石類基		30.653	15.11	3.36	1.55				
	11	燧石遺構	F170	41層中	燧石	五角形		136.783	13.96	5.23	2.27				
	12	燧石遺構	F155	151層中	燧石	燧石類基		(18.23)	(14.20)	3.29	0.64				
	14	燧石遺構	F155	29層中	珪化岩	燧石類基		21.92	12.99	3.13	0.64				
	14	旧石器	F150	51石	燧石	燧石類基		(24.56)	12.08	4.58	0.97				
	15	燧石遺構	N352	52層中	珪化岩	燧石類基		31.96	11.67	2.72	0.88				
	16	遺構	F304	43層上	珪化岩	燧石類基		33.12	12.13	3.25	1.03				燧石類
	17	遺構	F053	296層上	珪化岩	燧石類基		33.82	18.99	4.23	1.82				燧石類
	18	燧石遺構	F059	152層中	燧石	燧石類基		35.43	18.72	4.67	2.79				
	19	遺構	F053	210層上	燧石	燧石類基		(26.03)	16.78	4.74	2.00				
	20	燧石遺構	F156	30層中	燧石	燧石類基		36.22	14.84	4.82	1.93				燧石類
	21	遺構	F027	60層上	燧石	燧石類基		42.49	14.41	5.29	1.95				
	22	旧石器	F155	74石	燧石	燧石類基		48.65	16.12	4.69	2.39				
	22	遺構	F053	314石	燧石	燧石類基		46.98	13.81	4.99	1.85				
	24	旧石器	F154	78層	燧石	燧石類基		(43.75)	18.32	5.13	2.63				
	25	遺構	F029	46層上	燧石	燧石類基		24.01	10.18	2.47	0.55				
	26	燧石遺構	F170	26層中	燧石	燧石類基		44.12	15.29	4.22	2.47				燧石類
	27	遺構	F053	54層上	燧石	燧石類基		41.46	14.84	3.48	1.45				燧石類
	28	遺構	F053	313層上	燧石	燧石類基		(33.67)	16.26	3.90	1.51				
	29	燧石遺構	F154	85層中	珪化岩	燧石類基		25.47	(13.02)	6.21	1.72				
	30	燧石遺構	F059	32層中	燧石	燧石類基		27.32	10.42	4.14	0.83				
	31	燧石遺構	F155	27層中	燧石	燧石類基		28.54	12.38	4.82	1.15				
	32	遺構	F053	302層中	燧石	燧石類基		31.89	15.28	3.97	1.29				燧石類
	33	遺構	F029	47層上	燧石	燧石類基		30.37	13.11	6.96	1.85				燧石類
	34	燧石遺構	F059	122層中	燧石	燧石類基		(32.28)	14.05	4.05	1.48				
	35	遺構	F059	160層上	珪化岩	燧石類基		32.62	14.18	4.69	1.38				
	36	遺構	F053	425層中	燧石	燧石類基		(33.08)	14.14	4.28	1.28				燧石類
	37	遺構	F059	174層上	燧石	燧石類基		(36.13)	13.82	4.53	1.77				
	38	旧石器	F067	43石	燧石	燧石類基		38.47	13.36	4.32	1.94				
	39	燧石遺構	F153	96層中	燧石	燧石類基		44.41	16.29	5.17	2.45				
	40	遺構	F027	60層上	燧石	燧石類基		48.25	15.48	9.46	3.14				
	41	燧石遺構	F172	51層中	珪化岩	燧石類基		42.82	12.52	5.18	1.90				
	42	燧石遺構	F164	96層中	燧石	燧石類基		(40.33)	14.42	4.24	1.76				
	43	旧石器	F136	56石	燧石	燧石類基		51.45	13.95	1.03	3.00				燧石類
	44	遺構	F053	461層中	燧石	燧石類基		54.58	14.68	4.67	2.53				
	45	遺構	F053	295層上	燧石	燧石類基		34.41	15.23	5.14	19.10				
	46	燧石遺構	F152	23層中	燧石	燧石類基		36.11	13.59	4.46	1.17				
	47	遺構	F053	81層上	珪化岩	燧石類基		27.05	11.12	4.46	1.09				
	48	燧石遺構	F155	152層中	燧石	燧石類基		27.59	14.41	3.62	1.69				
	49	燧石遺構	F155	295層上	燧石	燧石類基		(29.15)	13.89	4.64	1.27				燧石類
	50	遺構	F029	177層上	燧石	燧石類基		31.71	13.39	4.73	1.52				
	51	燧石遺構	F153	93層中	燧石	燧石類基		(28.60)	16.90	7.29	2.79				
	52	燧石遺構	F053	169層中	燧石	燧石類基		32.12	16.18	3.95	1.29				
	53	燧石遺構	F171	74層中	燧石	燧石類基		38.70	14.69	3.24	1.69				
	54	遺構	F051	39層上	燧石	燧石類基		(32.92)	14.88	5.74	1.92				燧石類
	55	燧石遺構	F155	25層中	燧石	燧石類基		33.29	11.48	4.99	1.20				
	56	遺構	F029	50層上	珪化岩	燧石類基		34.08	13.78	5.81	1.18				
	57	遺構	F053	299層上	燧石	燧石類基		36.23	14.79	5.44	27.69				
	58	遺構	F053	295層上	燧石	燧石類基		35.38	13.48	4.68	1.19				
	59	燧石遺構	F053	41層中	燧石	燧石類基		(37.93)	13.14	5.62	2.30				燧石類
	60	燧石遺構	F168	40層中	燧石	燧石類基		41.00	11.00	3.77	1.52				
	61	遺構	F051	14層上	燧石	燧石類基		40.68	12.26	4.42	1.74				
	62	遺構	F053	194層上	珪化岩	燧石類基		42.62	11.96	3.56	1.68				
	63	遺構	F062	46層上	燧石	燧石類基		47.24	10.49	5.24	1.90				
	64	遺構	F067	81層上	燧石	燧石類基		50.54	12.31	6.11	3.23				
	65	遺構	F053	199層上	燧石	燧石類基		21.09	8.71	3.25	0.45				燧石類
	68	遺構	F053	295層上	燧石	燧石類基		(31.40)	10.70	6.39	1.88				燧石類
	69	遺構	F059	39層上	燧石	燧石類基		55.38	28.41	6.38	1.26				
	69	燧石遺構	F154	89層中	燧石	燧石類基		(28.67)	14.12	4.46	1.47				
	69	遺構	F053	199層中	燧石	燧石類基		(33.93)	14.86	5.96	2.20				燧石類
	70	旧石器	F063	12石	燧石	燧石類基		(29.15)	13.62	5.27	1.95				燧石類
	71	燧石遺構	F153	55層中	燧石	燧石類基		49.21	11.23	3.23	3.23				
	72	旧石器	F063	12層中	メノウ	燧石		24.91	12.68	5.11	1.30				
	73	燧石遺構	F172	50層中	燧石	五角		25.76	10.69	4.19	0.94				
	74	燧石遺構	F059	24層中	燧石	五角		38.69	17.74	7.12	3.81				
	75	遺構	F059	30層中	珪化岩	燧石類基		38.82	18.25	7.11	3.99				
	76	燧石遺構	F153	90層中	燧石	五角		41.36	21.34	11.39	6.24				
	77	燧石遺構	F059	35層中	燧石	五角		47.06	18.72	9.46	7.63				
	78	旧石器	F062	42層	燧石	円形		34.27	19.66	6.23	3.79				
	79	燧石遺構	F153	96層中	珪化岩	燧石類基		44.79	28.52	10.74	12.51				
	80	遺構	F053	64層上	燧石	燧石類基		62.61	28.57	11.23	21.81				燧石類
	81	旧石器	F059	20石	燧石	燧石類		61.28	27.12	13.22	20.30				
	82	旧石器	F056	70石	燧石	燧石類		73.77	28.73	12.82	24.24				
	83	燧石遺構	F152	32層中	燧石	燧石類		76.78	15.92	7.27	5.42				
	84	燧石遺構	F154	82層中	燧石	燧石類		52.29	21.11	9.52	7.38				
	85	遺構	F027	42層上	燧石	燧石類		54.44	19.66	8.71	9.22				
	86	遺構	F058	25層上	燧石	燧石類		69.16	18.91	8.47	10.25				
	87	旧石器	F052	111層	燧石	燧石類		68.23	23.06	9.31	13.22				
	88	旧石器	F064	26層	燧石	燧石類		121.74	20.19	9.47	19.84				
	89	燧石遺構	F117	46層中	燧石	燧石類		62.73	11.84	7.11	29.44				
	90	遺構	F053	217層上	燧石	燧石		66.71	24.48	9.30	10.99				
	91	遺構	F072	37石	燧石	燧石		64.76	30.18	10.58	10.79				
92	旧石器	F056	41層	燧石	燧石		67.19	30.63	9.23	10.99				燧石類	

表17 掲載石器・骨角器等一覽(2)

分類	発掘番号	取手/上刃	調査区/遺物名	測長	測幅	測厚	重量	材質	付着物	状況	備考		
				(mm)	(mm)	(mm)	(g)						
石鏡	90	石片類	9001	271				黒曜石	青森	102.36	36.36	15.70	80.95
	94	薄土遺鏡	9071	85mm厚	真直	鏡面	(53.24)	23.61	6.20	7.93			
	95	石片類	R.156	631				真直	鏡面	199.19	255.26	8.20	14.30
	96	薄土遺鏡	9002	104mm厚	真直	鏡面	(49.41)	40.38	11.30	23.89			
	97	石片類	3.960	941				柱状削	鏡面	148.52	15.51	4.72	0.63
	99	薄土遺鏡	9019	507mm厚	柱状削	石鏡面用品	20.72	10.60	4.17	0.70			
	99	薄土遺鏡	9019	40mm厚	真直	石鏡面用品	(26.82)	14.20	5.30	1.21	*****		
	100	薄土遺鏡	9019	114mm厚	真直	石鏡面用品	(25.92)	11.20	6.24	1.65			
	101	薄土遺鏡	9019	31mm厚	真直	石鏡面用品	(49.41)	8.84	3.84	1.14			
	102	石片類	90157	291				真直	鏡面	229.43	14.44	5.41	1.19
石鏡	103	薄土遺鏡	R.156	32mm厚	真直	石鏡面用品	37.94	16.13	6.90	2.84			
	104	薄土遺鏡	9069	126mm厚	真直	石鏡面用品	29.11	14.79	6.98	3.06	*****		
	105	石片類	3.153	179				真直	石鏡面用品	(42.99)	12.64	5.96	3.08
	106	薄土遺鏡	9003	322mm厚	真直	石鏡面用品	51.94	15.28	4.99	3.99	*****		
	107	薄土遺鏡	9002	378mm厚	真直	石鏡面用品	52.72	22.72	11.39	9.56			
	108	薄土遺鏡	9002	267mm厚	真直	鏡面	23.85	8.99	5.16	0.80			
	109	石片類	90152	1168				鏡面	24.72	12.63	6.12	2.00	
	110	石片類	1.955	948				鏡面	52.56	13.71	5.72	2.00	
	111	薄土遺鏡	9069	124mm厚	真直	鏡面	31.56	19.34	9.27	4.44			
	112	薄土遺鏡	9069	123mm厚	真直	鏡面	40.16	15.29	7.28	4.29			
112	薄土遺鏡	9069	54mm厚	真直	鏡面	27.13	10.16	7.80	3.70				
114	薄土遺鏡	9001	142mm厚	真直	鏡面	37.64	18.68	8.92	6.20				
115	薄土遺鏡	9000	117mm厚	真直	鏡面	49.52	17.71	10.33	8.41				
116	薄土遺鏡	9000	44mm厚	柱状削	鏡面	48.97	23.17	13.10	13.50				
117	石片類	90170	741				黒曜石	陸奥	(22.03)	10.16	5.66	1.10	
118	薄土遺鏡	9003	201mm厚	真直	鏡面	28.86	10.14	5.75	2.15	*****			
119	薄土遺鏡	R.172	33mm厚	真直	鏡面	41.45	13.04	6.46	3.31				
120	薄土遺鏡	R.152	96mm厚	真直	鏡面	36.27	19.80	5.07	3.70				
121	石片類	R.153	311				真直	鏡面	44.81	20.59	7.67	5.22	
122	薄土遺鏡	9002	134mm厚	真直	鏡面	46.19	16.14	6.71	4.90				
123	薄土遺鏡	9002	25mm厚	真直	鏡面	61.13	28.23	11.28	17.60				
124	薄土遺鏡	9003	200mm厚	真直	鏡面	54.76	(19.03)	8.23	7.60				
125	薄土遺鏡	9052	26mm厚	真直	鏡面	43.09	30.28	9.40	10.00				
126	薄土遺鏡	R.171	22mm厚	真直	鏡面	23.18	20.95	9.03	2.10				
127	薄土遺鏡	9005	28mm厚	真直	鏡面	31.14	25.72	8.70	3.80				
128	薄土遺鏡	9005	179mm厚	真直	鏡面	46.12	34.98	10.46	9.00				
129	薄土遺鏡	9009	485mm厚	真直	鏡面	38.72	46.92	9.81	10.90				
130	薄土遺鏡	9002	1077mm厚	真直	鏡面	48.21	38.19	10.13	10.40				
131	薄土遺鏡	9019	269mm厚	真直	鏡面	44.72	42.52	8.11	8.60				
132	薄土遺鏡	R.170	10mm厚	真直	鏡面	61.65	31.36	8.67	18.40				
133	薄土遺鏡	9005	118mm厚	真直	鏡面	37.08	19.56	4.83	2.90				
134	薄土遺鏡	R.155	205mm厚	真直	鏡面	40.65	25.47	9.61	7.30				
135	薄土遺鏡	9008	837mm厚	真直	鏡面	40.74	19.70	11.30	8.40				
136	薄土遺鏡	9005	62mm厚	真直	鏡面	57.72	22.28	5.95	6.60				
137	薄土遺鏡	9005	108mm厚	真直	鏡面	49.62	30.98	10.22	7.20				
138	薄土遺鏡	9000	517mm厚	真直	鏡面	36.41	34.62	6.84	7.10				
139	薄土遺鏡	9003	192mm厚	真直	鏡面	38.92	(24.31)	10.65	5.60				
140	石片類	1.982	241				真直	鏡面	63.43	(33.43)	11.28	20.64	
141	薄土遺鏡	9002	12mm厚	真直	鏡面	57.67	26.72	8.47	10.40				
142	薄土遺鏡	9003	1177mm厚	真直	鏡面	52.42	35.10	15.89	16.00				
143	薄土遺鏡	9019	293mm厚	真直	鏡面	59.39	33.33	13.48	13.90				
144	薄土遺鏡	9025	53mm厚	真直	鏡面	83.06	43.82	17.72	13.50				
145	薄土遺鏡	9001	149mm厚	真直	鏡面	49.62	30.98	10.46	9.80				
146	薄土遺鏡	R.156	1mm厚	真直	鏡面	41.13	43.62	9.47	12.20				
147	薄土遺鏡	9026	719mm厚	真直	鏡面	62.03	30.26	11.57	14.80				
148	薄土遺鏡	9025	56mm厚	真直	鏡面	53.10	40.09	10.47	15.10				
149	薄土遺鏡	R.154	23mm厚	真直	鏡面	71.65	24.72	14.23	17.50				
150	薄土遺鏡	9019	113mm厚	真直	鏡面	49.84	47.61	25.41	28.60				
151	薄土遺鏡	9023	54mm厚	真直	鏡面	64.40	42.77	19.19	40.20				
152	薄土遺鏡	9002	27mm厚	真直	鏡面	38.20	36.29	8.97	10.00				
153	薄土遺鏡	9009	1341mm厚	真直	鏡面	49.16	27.28	14.26	19.60				
154	薄土遺鏡	9006	11mm厚	真直	鏡面	43.84	28.69	5.27	5.40				
155	石片類	9007	204mm厚	真直	鏡面	55.79	24.30	6.46	5.50				
156	薄土遺鏡	R.156	4mm厚	真直	鏡面	49.19	33.46	10.13	11.00				
157	薄土遺鏡	9003	135mm厚	真直	鏡面	62.21	34.19	13.36	25.60				
158	薄土遺鏡	9001	29mm厚	真直	鏡面	49.48	33.36	13.31	22.84				
159	薄土遺鏡	9008	222mm厚	真直	鏡面	85.90	38.34	12.36	30.40				
160	薄土遺鏡	9002	162mm厚	真直	鏡面	73.44	35.23	13.91	33.80				
161	石片類	9038	371mm厚	真直	鏡面	68.26	29.36	7.43	13.00		赤色		
162	薄土遺鏡	9019	116mm厚	真直	鏡面	56.62	28.67	10.25	17.00				
163	薄土遺鏡	R.156	23mm厚	真直	鏡面	51.46	29.71	3.89	7.20				
164	石片類	3.861	281				真直	鏡面	52.72	36.72	4.29	6.50	
165	石片類	9000	291				真直	鏡面	48.23	40.86	11.33	17.60	
166	薄土遺鏡	9003	149mm厚	真直	鏡面	55.63	48.84	7.26	13.70				
167	石片類	R.154	72				真直	鏡面	73.68	46.67	9.84	31.10	
168	石片類	R.153	1311mm厚	真直	鏡面	56.79	54.62	12.31	22.60				
169	石片類	R.170	551				真直	鏡面	52.91	24.73	5.40	4.82	
170	薄土遺鏡	R.171	55mm厚	真直	鏡面	23.28	29.99	7.40	4.10				
171	薄土遺鏡	9019	96mm厚	真直	鏡面	40.87	17.28	7.27	4.90				
172	薄土遺鏡	9002	29mm厚	真直	鏡面	59.40	24.44	10.42	16.10				
173	薄土遺鏡	R.172	40mm厚	真直	鏡面	69.12	41.60	12.53	30.60				
174	薄土遺鏡	R.153	1mm厚	真直	鏡面	69.42	39.25	13.53	27.50				
175	薄土遺鏡	R.172	4mm厚	真直	鏡面	56.29	30.16	8.23	1.60				
176	薄土遺鏡	R.156	8mm厚	真直	鏡面	53.28	29.72	8.65	13.60				
177	薄土遺鏡	9000	46mm厚	真直	鏡面	53.61	29.72	11.74	12.90				
178	薄土遺鏡	9053	70mm厚	真直	鏡面	40.87	26.23	6.85	7.10				
179	薄土遺鏡	R.155	31mm厚	真直	鏡面	42.71	25.47	8.82	9.10				
180	薄土遺鏡	R.155	10mm厚	真直	鏡面	40.80	25.42	7.17	7.80				
181	薄土遺鏡	90153	170mm厚	真直	鏡面	61.26	35.08	9.44	16.00		1.5mm厚鏡面		
182	薄土遺鏡	9002	7mm厚	真直	鏡面	70.11	54.82	14.40	52.30				
183	薄土遺鏡	9003	174mm厚	真直	鏡面	67.27	37.85	13.01	34.90				
184	薄土遺鏡	R.154	90mm厚	真直	鏡面	38.69	33.67	6.29	3.40				
185	石片類	R.166	198				真直	鏡面	63.21	31.24	10.51	17.20	

表17 掲載石器・骨角器等一覽(3)

分類	発掘品目	取手/上刃	調査区・遺物	遺物	単位	石材	細分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	焼熱	付着物	欠片	備考
黒石石器	186	遺構	302	50層上	表前	玄武	55.71	33.81	14.62	17.34					
	187	遺構	300	243層上	表前	玄武	43.86	23.05	7.23	9.56					
スラレナイ	188	遺構	300	172層上	表前	玄武	65.07	40.32	15.72	22.30					
	189	遺構	300	62層上	表前	玄武	44.71	23.63	11.33	13.38					
表前	190	遺構	300	82層上	表前	玄武	79.84	71.82	15.98	65.10					
	191	遺構	302	286層上	表前	玄武	61.12	46.69	14.30	36.80					
表前	192	遺構	302	70層上	表前	玄武	86.63	71.15	21.20	120.70					
	192	遺構	302	40層上	表前	玄武	85.29	55.23	20.59	85.90					
表前	194	遺構	300	194層上	表前	玄武	71.71	49.24	21.69	9.29					
	195	遺構	302	20層上	表前	玄武	55.23	47.85	12.72	90.00					
表前	196	遺構	300	20層上	表前	玄武	52.06	36.81	9.86	16.60					
	197	遺構	300	196層上	表前	玄武	84.79	56.94	16.29	57.60					
表前	198	遺構	300	118層上	表前	玄武	75.28	59.28	18.07	62.80					
	199	遺構	300	79層上	埋込割	玄武	54.65	36.83	12.28	26.60					
表前	200	遺構	300	41層上	表前	玄武	61.90	39.70	13.84	38.50					
	201	遺構	302	54層上	表前	玄武	59.24	44.20	14.20	40.10					
表前	202	遺構	300	93層上	表前	玄武	62.98	24.64	11.86	23.20					
	203	遺構	300	23層上	表前	玄武	62.82	65.82	13.81	13.70					
表前	204	遺構	300	193層上	表前	玄武	69.69	69.96	11.25	42.20					
	205	遺構	300	349層上	表前	玄武	78.95	50.68	12.65	51.70					
表前	206	遺構	300	47層上	表前	玄武	75.28	63.24	16.80	60.10					
	207	遺構	300	60層上	表前	玄武	70.30	67.65	13.25	94.50					
表前	208	遺構	300	271層上	表前	玄武	47.63	44.58	10.51	22.10					
	209	遺構	300	22層上	表前	玄武	59.69	50.26	6.79	21.80					
表前	210	遺構	300	63層上	表前	玄武	61.15	56.43	12.41	39.70					
	211	遺構	300	23層上	表前	玄武	67.88	49.18	6.72	24.60					
表前	212	遺構	300	110層上	表前	玄武	69.71	51.52	15.86	60.70					
	213	遺構	300	266層上	表前	玄武	69.81	41.09	15.83	68.60					
表前	214	遺構	300	73層上	表前	玄武	69.82	57.50	31.45	105.20					
	215	遺構	300	75層上	表前	玄武	55.41	27.28	21.27	43.40					
表前	216	遺構	300	19層上	表前	玄武	67.13	23.11	8.86	9.29					
	217	遺構	300	42層上	表前	玄武	67.27	27.52	9.88	15.00					
表前	218	遺構	302	1層上	表前	玄武	69.86	41.82	10.86	22.80					
	219	遺構	300	117層上	表前	玄武	65.28	29.75	8.22	17.80					
表前	220	遺構	300	118層上	表前	玄武	66.27	41.83	18.07	66.80					
	221	遺構	300	294層上	表前	玄武	67.12	38.34	17.17	51.60					
表前	222	遺構	300	187層上	表前	玄武	75.82	33.92	12.23	23.60					
	223	遺構	302	55層上	表前	玄武	65.30	31.48	8.06	13.70					
表前	224	遺構	300	26層上	表前	玄武	66.717	46.69	11.28	25.20					
	225	遺構	300	83層上	表前	玄武	63.88	28.71	9.86	18.40					
表前	226	遺構	300	24層上	表前	玄武	60.43	46.02	13.42	36.90					
	227	遺構	302	42層上	表前	玄武	81.82	53.81	15.42	66.60					
表前	228	遺構	300	29層上	表前	玄武	65.59	41.26	11.86	35.70					
	229	遺構	300	93層上	表前	玄武	65.82	46.69	13.81	45.10					
表前	230	遺構	300	166層上	表前	玄武	62.24	46.86	16.57	51.30					
	231	遺構	300	34層上	表前	玄武	62.63	41.91	12.54	36.80					
表前	232	遺構	300	48層上	表前	玄武	68.25	34.06	11.91	24.80					
	233	遺構	300	20層上	表前	玄武	71.98	26.96	10.23	16.80					
表前	234	遺構	300	4層上	表前	玄武	60.42	52.47	16.23	55.60					
	235	遺構	302	44層上	表前	玄武	54.24	26.12	16.41	15.20					
表前	236	遺構	300	12層上	表前	玄武	83.96	66.69	26.25	150.90					
	237	遺構	300	28層上	表前	玄武	83.21	26.61	10.21	29.80					
表前	238	遺構	300	97層上	表前	玄武	81.82	46.86	11.28	25.80					
	239	遺構	300	12層上	表前	玄武	65.62	48.21	36.81	41.80					
表前	240	遺構	302	29層上	表前	玄武	63.24	62.67	17.86	44.80					
	241	遺構	302	43層上	埋込割	玄武	78.27	69.81	6.55	28.70					
表前	242	遺構	300	25層上	表前	玄武	84.25	24.26	13.28	79.50					
	243	遺構	300	71層上	表前	玄武	86.31	69.84	17.81	63.20					
表前	244	遺構	300	8層上	表前	玄武	84.40	35.88	11.07	50.40					
	245	遺構	300	9層上	表前	玄武	106.82	39.85	17.66	101.10					
表前	246	遺構	300	40層上	表前	玄武	75.63	24.23	13.70	43.20					
	247	遺構	300	142層上	表前	玄武	82.29	48.62	12.83	55.10					
表前	248	遺構	300	25層上	表前	玄武	120.29	53.32	13.41	79.20					
	249	遺構	300	38層上	表前	玄武	62.86	41.86	8.20	18.60					
表前	250	遺構	300	54層上	表前	玄武	39.27	44.27	11.23	22.00					
	251	遺構	300	34層上	表前	玄武	83.23	48.77	18.89	127.80					
表前	252	遺構	300	14層上	表前	玄武	71.12	52.32	17.68	144.80					
	253	遺構	300	54層上	表前	玄武	33.623	25.23	6.28	5.90					
表前	254	遺構	300	36層上	表前	玄武	151.88	33.60	17.93	74.90					
	255	遺構	300	62層上	表前	玄武	52.29	28.25	13.62	23.60					
表前	256	遺構	300	162層上	表前	玄武	53.61	28.68	7.67	8.20					
	257	遺構	300	49層上	表前	玄武	68.61	34.50	10.16	28.90					
表前	258	遺構	300	68層上	表前	玄武	87.11	56.15	19.68	77.80					
	259	遺構	300	227層上	表前	玄武	75.89	39.23	11.38	61.50					
表前	260	遺構	300	29層上	表前	玄武	69.86	43.79	11.42	68.20					
	261	遺構	300	29層上	表前	玄武	67.88	44.78	20.75	96.80					
表前	262	遺構	300	153層上	表前	玄武	68.41	36.26	12.89	15.20					
	263	遺構	300	40層上	表前	玄武	65.93	48.44	11.71	23.20					
表前	264	遺構	300	12層上	表前	玄武	81.58	27.21	12.87	48.60					
	265	遺構	300	344層上	表前	玄武	63.29	67.71	18.86	63.80					
表前	266	遺構	300	3層上	表前	玄武	56.82	55.67	9.63	20.20					
	267	遺構	300	108層上	表前	玄武	35.99	18.10	7.61	4.70					
表前	268	遺構	300	201層上	表前	玄武	25.78	18.21	11.08	5.50					
	269	遺構	300	28層上	表前	玄武	69.86	43.77	13.81	68.20					
表前	270	遺構	300	159層上	表前	玄武	69.62	49.72	15.27	25.00					
	271	遺構	300	14層上	表前	玄武	40.17	36.92	14.89	25.60					
表前	272	遺構	300	14層上	表前	玄武	46.73	35.63	11.86	21.60					
	273	遺構	300	31層上	埋込割	玄武	75.89	41.28	21.25	88.80					
表前	274	遺構	300	152層上	埋込割	玄武	28.18	41.84	11.86	23.20					
	275	遺構	300	35層上	埋込割	玄武	57.20	35.85	13.18	23.50					
表前	276	遺構	300	10層上	表前	燧石	48.22	45.51	20.22	29.20					
	277	遺構	300	374層上	表前	燧石	69.09	43.72	12.83	38.60					
表前	278	遺構	300	70層上	表前	燧石	78.06	48.04	13.94	89.00					

表17 掲載石器・骨角器等一覽(4)

分類	発掘番号	取り上り 位置	調査区・遺物 種別	単位	石材	部分	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	焼痕	付着物	欠片	備考
ヌレテライオン	279	掘土遺構 R170	108m層	流紋岩	割面緑石器	103.74	85.31	22.22	185.00					
	280	掘土遺構 R153	95m層	頁岩	割面緑石器	75.27	72.61	17.69	84.16					
	281	遺構 R309	48層上	頁岩	割面緑石器	62.86	65.41	14.25	43.70					
	282	掘土遺構 R170	108m層	頁岩	割面緑石器	81.68	81.19	17.38	25.19					
	283	遺構 R302	33層上	頁岩	割面緑石器	85.78	51.28	16.83	90.60					
	284	引当層 R036	41層	頁岩	割面緑石器	66.37	69.78	7.81	31.41					あり
	285	遺構 R302	31層上	頁岩	割面緑石器	78.11	86.63	15.89	70.00					
	286	遺構 R302	68層上	頁岩	割面緑石器	258.74	63.61	16.42	65.96					
	287	遺構 R309	49層上	頁岩	割面緑石器	173.38	61.28	18.71	8.18					
	288	遺構 R104	57層上	砂岩	割面緑石器	91.84	62.30	7.52	32.90					
	289	遺構 R019	158層上	頁岩	捨込石	126.91	37.64	10.50	9.10					
	290	遺構 R015	111層上	頁岩	捨込石	41.22	42.62	16.35	29.50					
	291	遺構 R106	43層上	頁岩	捨込石	61.28	23.17	22.61	58.38					
	292	遺構 R103	115層上	頁岩	捨込石	35.84	35.69	13.30	16.10					
	293	掘土遺構 R071	96m層	頁岩	捨込石	38.70	39.95	24.30	80.20					
	294	掘土遺構 R155	98m層	頁岩	捨込石	71.36	63.63	23.89	76.20					
	295	遺構 R049	72層上	頁岩	捨込石	60.89	58.21	11.09	19.10					
	296	遺構 R122	12層上	頁岩	捨込石	31.44	49.84	12.46	16.80					
	297	遺構 R302	72層上	頁岩	捨込石	157.23	37.64	10.50	12.20					あり
	298	遺構 R019	194層上	頁岩	捨込石	58.96	60.09	11.30	24.60					
	299	遺構 R049	49層上	頁岩	捨込石	62.82	35.99	21.08	63.20					
	300	遺構 R014	26層上	頁岩	捨込石	190.33	49.32	19.27	86.80					
	301	遺構 R019	210層上	凝灰岩	石の片	48.26	37.22	8.46	19.70					
	302	掘土遺構 R169	211m層	頁岩	その他	68.61	31.52	9.03	17.40					あり
	303	掘土遺構 R171	231m層	頁岩	その他	65.67	30.40	8.61	17.30					あり
	304	引当層 R064	47層	頁岩	その他	69.21	24.69	11.28	27.94					あり
	305	掘土遺構 R103	193層上	頁岩	その他	13.80	37.51	31.20	31.20					あり
	306	遺構 R170	151m層	頁岩	その他	85.12	47.74	18.86	52.30					
	307	遺構 R013	134層上	頁岩	その他	37.62	24.91	8.62	12.20					
	308	遺構 R017	46層上	頁岩	その他	72.73	35.70	11.80	29.90					
	309	掘土遺構 R156	92m層	頁岩	その他	47.46	138.35	9.75	14.20					
	310	掘土遺構 R155	101m層	頁岩	その他	128.50	58.11	10.20	16.10					
	311	掘土遺構 R170	109m層	頁岩	その他	61.72	33.53	9.63	22.30					
	312	遺構 R228	2層上	頁岩	その他	45.87	53.88	10.46	25.60					
	313	遺構 R228	2層上	頁岩	その他	37.28	41.72	11.71	20.30					
	314	掘土遺構 R115	113m層	頁岩	その他	62.78	66.72	11.86	45.50					焼所?
	315	遺構 R302	80層上	頁岩	その他	105.24	52.28	15.70	74.12					
	316	遺構 R308	119層上	頁岩	結核部	27.10	18.24	6.72	2.60					
	317	遺構 R309	102層上	頁岩	結核部	28.82	18.24	6.96	3.70					
318	遺構 R018	62層上	頁岩	結核部	31.44	23.14	8.71	6.20						
319	遺構 R308	21層上	珩化岩	結核部	42.86	30.28	8.30	7.20						
320	遺構 R017	196層上	頁岩	結核部	45.90	23.54	8.51	8.40						
321	引当層 R036	36層上	頁岩	結核部	45.65	23.21	10.26	11.30						
322	遺構 R015	27層上	頁岩	結核部	48.42	25.17	8.65	8.60						
323	遺構 R013	190層上	頁岩	結核部	38.56	37.74	13.84	10.20						
324	遺構 R038	274層上	頁岩	結核部	30.61	21.71	9.46	7.40						
325	遺構 R038	277層上	頁岩	結核部	36.81	21.70	9.26	12.00						
326	掘土遺構 R071	49層上	頁岩	結核部	62.23	30.88	9.44	16.50						
327	遺構 R019	66層上	頁岩	結核部	39.88	45.22	13.14	14.10						
328	遺構 R038	278層上	頁岩	結核部	60.78	31.06	12.67	19.30						
329	掘土遺構 R153	231m層	頁岩	結核部	55.54	35.85	14.26	22.50						
330	掘土遺構 R170	251m層	頁岩	結核部	134.23	26.20	8.80	19.56						
331	引当層 R047	42層	頁岩	結核部	47.87	59.22	12.79	23.27						
332	遺構 R038	279層上	頁岩	結核部	104.69	38.98	18.40	71.20						
333	掘土遺構 R170	129m層	頁岩	結核部	74.38	77.12	19.27	91.40						
334	遺構 R027	61層上	頁岩	結核部	99.83	51.51	21.23	95.10						
335	掘土遺構 R155	211m層	頁岩	結核部	87.71	49.22	23.22	88.40						
336	掘土遺構 R155	74m層	頁岩	結核部	28.73	18.28	4.80	2.60						
337	遺構 R017	39層上	頁岩	不定形	128.57	24.47	4.45	2.90						
338	遺構 R302	179層上	珩化岩	不定形	41.32	23.21	10.79	8.40						
339	遺構 R019	294層上	頁岩	不定形	486.23	25.41	46.73	41.80						
340	掘土遺構 R154	37m層	頁岩	不定形	75.84	47.82	12.46	25.10						
341	遺構 R011	14層上	頁岩	不定形	83.62	54.61	18.82	76.20						
342	遺構 R302	76層上	頁岩	不定形	81.23	57.32	24.26	130.00						
焼剥石	343	遺構 R039	145層上	珩化岩	二層に階段状の溝	24.44	20.23	9.39	4.40					
	344	遺構 R039	145層上	珩化岩	二層に階段状の溝	24.44	20.23	9.39	4.40					
	345	遺構 R039	145層上	珩化岩	二層に階段状の溝	44.38	25.64	11.86	11.50					
	346	遺構 R011	7層上	頁岩	二層に階段状の溝	28.18	28.00	6.35	2.70					
	347	掘土遺構 R152	80m層	頁岩	二層に階段状の溝	39.09	28.23	7.69	7.00					
	348	遺構 R011	7層上	頁岩	四層に階段状の溝	41.86	24.82	9.28	10.20					
	349	遺構 R153	208層上	頁岩	四層に階段状の溝	39.86	47.74	10.52	13.30					
	350	掘土遺構 R155	181m層	頁岩	四層に階段状の溝	52.72	27.92	11.54	14.30					
	351	掘土遺構 R069	301m層	頁岩	磨縁部溝もつ	65.27	44.87	16.20	43.80					
	352	遺構 R019	242層上	頁岩	磨縁部溝もつ	65.22	36.25	24.80	104.70					あり
	353	遺構 R019	252層上	頁岩	磨縁部溝もつ	63.24	42.24	15.88	28.30					
	354	引当層 R154	43層	頁岩	磨縁部溝もつ	54.82	32.72	5.77	2.30					+++++
355	遺構 R019	134層上	頁岩	磨縁部溝もつ	96.65	37.23	11.69	31.60						
356	掘土遺構 R155	142m層	頁岩	磨縁部二三次溝もつ	65.98	49.69	18.23	61.80						
357	引当層 R036	311層上	頁岩	磨縁部二三次溝もつ	126.93	23.92	7.48	9.40					あり	
358	遺構 R019	64層上	珩化岩	磨縁部二三次溝もつ	54.24	27.84	15.24	11.30					あり	
359	遺構 R038	84層上	頁岩	磨縁部二三次溝もつ	42.21	36.40	15.80	18.20						
360	掘土遺構 R170	107m層	頁岩	磨縁部二三次溝もつ	129.94	43.26	16.74	85.26						
361	掘土遺構 R156	221m層	頁岩	サイコロ状	31.26	21.04	18.70	12.90						
362	掘土遺構 R152	113層上	頁岩	サイコロ状	32.11	27.58	21.54	39.60						
363	掘土遺構 R152	171層上	頁岩	サイコロ状	36.83	35.11	26.72	36.60						
364	遺構 R019	417層上	頁岩	サイコロ状	44.65	31.66	22.32	24.40						
365	遺構 R019	279層上	頁岩	サイコロ状	36.36	28.20	26.35	34.20						
366	掘土遺構 R015	43層上	頁岩	サイコロ状	50.81	41.21	22.96	30.80						
367	遺構 R038	10層上	頁岩	サイコロ状	37.44	33.14	52.31	111.04						
368	遺構 R038	120層上	頁岩	サイコロ状	63.84	45.78	36.41	103.60						
369	引当層 R151	201層	珩化岩	サイコロ状	63.71	38.84	20.59	87.60						
370	掘土遺構 R155	94m層	頁岩	サイコロ状	61.41	53.14	47.27	181.20						
371	掘土遺構 R169	151m層	頁岩	サイコロ状	119.24	52.86	44.64	256.20						

表17 掲載石器・骨角器等一覽(5)

分類	発掘地区	取手/上刃	調査区/遺物	遺物	層位	石材	部分測定	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	焼痕	付着物	欠片	備考
石器	372	遺構	0019	6号層上	灰岩	ナイコウ状		59.68	41.71	40.34	106.20				
	373	遺構	0012	136号層上	灰岩	ナイコウ状		72.84	44.28	31.60	73.80				
	374	遺構	0016	29号層上	灰岩	ナイコウ状		78.79	53.24	45.07	119.80				
	375	遺構	0017	21号層上	灰岩	ナイコウ状		81.73	48.64	37.13	71.88				
	376	遺構	0013	21号層上	灰岩	ナイコウ状		66.16	46.96	45.73	82.80				
	377	遺構	0038	10号層上	灰岩	ナイコウ状		56.19	50.00	35.47	94.00				
	378	遺土遺構	0072	16号層上	灰岩	ナイコウ状		56.88	54.76	30.93	111.20				
	379	遺土遺構	0352	36号層上	灰岩	ナイコウ状		66.27	53.28	45.24	130.65				
	380	遺土遺構	0170	63号層上	灰岩	ナイコウ状		71.63	48.64	37.13	91.63				
	381	遺土遺構	1772	8号層上	灰岩	ナイコウ状		54.17	36.97	36.50	36.00				
	382	遺土遺構	1354	55号層上	灰岩	ナイコウ状		52.77	47.89	32.40	102.10				
	383	遺構	0030	18号層上	灰岩	ナイコウ状		63.96	47.03	33.26	111.20				
	384	遺土遺構	1772	12号層上	灰岩	ナイコウ状		99.88	70.52	43.29	227.50				
	385	遺構	0019	190号層上	灰岩	ナイコウ状		60.63	35.47	44.81	157.20				
	386	遺土遺構	0173	18号層上	灰岩	ナイコウ状		61.74	60.26	47.90	191.00				
	387	遺構	0023	81号層上	灰岩	ナイコウ状		64.22	63.08	42.81	170.70				
	388	遺土遺構	0011	25号層上	灰岩	ナイコウ状		51.81	27.71	29.12	192.80				
	389	遺土遺構	1354	90号層上	灰岩	ナイコウ状		61.82	57.14	49.29	199.20				
	390	遺土遺構	1354	28号層上	灰岩	ナイコウ状		99.62	55.26	48.78	226.40				
	391	遺土遺構	1355	128号層上	灰岩	ナイコウ状		88.12	77.05	46.95	327.00				
	392	遺構	0023	222号層上	灰岩	ナイコウ状		119.86	82.80	56.99	413.80				
	393	遺構	0023	148号層上	灰岩	ナイコウ状		86.84	68.86	70.81	410.70				
	394	遺構	0017	4号層上	灰岩	ナイコウ状		123.78	81.91	68.12	751.90				
	395	遺構	0010	28号層上	灰岩	塊状		83.91	63.63	27.28	145.90				
	396	遺構	0013	239号層上	灰岩	塊状		133.26	86.18	39.20	429.10				
	397	遺土遺構	1354	90号層上	灰岩	塊状		88.73	47.27	23.69	69.50				
	398	遺構	0029	33号層上	灰岩	塊状		63.27	17.89	18.65	31.40				
	399	遺構	0028	164号層上	灰岩	塊状		53.62	52.82	16.94	42.00				
	400	遺構	0011	1号層上	灰岩	塊状		30.30	47.20	22.05	45.70				
	401	遺構	0013	23号層上	灰岩	塊状		55.71	42.53	19.81	46.80				
	402	遺構	0012	123号層上	灰岩	塊状		69.19	60.52	23.67	61.70				
	403	遺構	0010	61号層上	灰岩	塊状		87.16	44.90	23.65	82.50				
	404	遺土遺構	0033	9号層上	灰岩	塊状		150.11	79.16	36.74	358.30				
	405	遺構	0017	25号層上	珪石岩	塊状		48.34	38.01	20.21	28.80				
	406	遺土遺構	1355	90号層上	灰岩	塊状		43.28	27.63	16.89	19.80				
	407	遺構	0010	34号層上	灰岩	塊状		73.44	52.18	42.12	96.10				
	408	遺土遺構	1371	34号層上	灰岩	塊状		60.38	59.42	28.45	126.70				
	409	遺構	0028	198号層上	灰岩	塊状		52.54	51.17	30.79	52.30				
	410	遺構	0026	12号層上	灰岩	塊状		49.22	48.63	15.23	26.20				
	411	遺構	0019	166号層上	灰岩	塊状		81.74	39.68	13.81	20.70				
	412	遺構	0024	18号層上	灰岩	塊状		61.62	46.91	15.11	48.60				
	413	遺構	0030	152号層上	珪石岩	塊状		51.90	41.97	15.25	36.40				
	414	遺構	0021	20号層上	灰岩	塊状		43.94	42.19	24.79	68.70				
	415	遺構	0020	171号層上	灰岩	塊状		54.58	47.42	16.45	28.28				
	416	遺構	0020	120号層上	灰岩	塊状		64.72	35.21	18.88	31.10				
	417	遺構	0023	51号層上	灰岩	塊状		52.87	51.49	23.65	57.00				
418	遺土遺構	1355	180号層上	灰岩	塊状		60.10	63.76	26.89	70.40					
419	遺土遺構	0070	40号層上	灰岩	塊状		29.47	26.14	17.11	65.50					
420	遺構	0016	35号層上	灰岩	塊状		63.87	44.24	24.83	83.20					
421	遺構	0023	100号層上	灰岩	塊状		55.30	47.60	25.80	51.20					
422	遺構	0027	67号12層上	灰岩	塊状		69.80	56.47	31.63	80.90					
423	遺構	0026	246号層上	灰岩	塊状		61.26	56.96	25.22	73.20					
424	遺構	0023	34号層上	灰岩	塊状		68.81	56.18	38.82	96.80					
425	遺構	0012	125号層上	灰岩	塊状		76.27	70.37	30.59	111.00					
426	遺構	0029	16号層上	灰岩	塊状		126.56	124.21	38.08	421.80					
427	遺構	0020	227号層上	灰岩	塊状		91.09	56.25	21.52	83.10					
428	遺構	0021	25号層上	灰岩	塊状		39.73	49.29	22.27	63.50					
429	遺構	0020	30号層上	灰岩	塊状		17.86	82.41	44.85	158.90					
430	遺構	0016	64号層上	灰岩	塊状		68.89	26.91	19.11	23.65					
431	遺構	0019	122号層上	灰岩	塊状		78.53	56.43	25.81	92.80					
432	遺土遺構	1355	30号層上	灰岩	塊状		41.28	41.11	15.29	27.60					
433	遺構	0020	125号12層上	灰岩	塊状		53.64	42.53	21.61	68.80					
434	遺構	0028	226号層上	灰岩	塊状		47.80	54.86	25.97	97.70					
435	遺構	0022	1号層上	灰岩	塊状		116.44	80.51	40.10	215.60				90号層上1号層上	
436	遺土遺構	1355	83号層上	灰岩	塊状		51.26	39.25	25.00	69.10					
437	遺構	0020	40号層上	灰岩	塊状		60.51	43.68	20.21	44.80					
438	遺構	0023	30号層上	灰岩	塊状		56.26	36.87	25.95	64.40				70号層上2号層上	
439	遺構	0013	54号層上	灰岩	塊状		67.79	68.20	30.47	76.40					
440	遺構	0013	188号12層上	灰岩	塊状		78.80	73.30	37.48	155.40					
441	刃部	0070	36号層上	灰岩	塊状		54.56	48.72	15.92	40.20					
442	遺構	0023	236号層上	灰岩	塊状		53.29	48.64	17.14	56.60					
443	遺土遺構	0071	27号層上	灰岩	塊状		65.86	63.60	29.42	109.10					
444	遺構	0012	103号層上	灰岩	塊状		95.78	68.06	29.70	173.50					
445	遺土遺構	0029	196号層上	灰岩	塊状		83.31	35.16	22.63	113.20					
446	遺土遺構	1355	118号層上	灰岩	塊状		101.27	58.18	19.71	115.88					
447	遺土遺構	0353	19号層上	灰岩	塊状		159.62	108.88	58.01	801.70					
448	遺構	0028	166号層上	灰岩	塊状		86.19	70.74	31.39	189.20					
449	遺構	0025	9号層上	灰岩	剥片剥離		69.89	39.87	28.16	68.90					
450	遺構	0017	7号層上	灰岩	剥片剥離		34.99	23.21	10.20	15.20					
451	遺構	0020	127号層上	灰岩	剥片剥離		54.74	27.01	12.80	11.90					
452	遺構	0019	171号12層上	灰岩	打面否定		72.37	36.24	38.20	108.65					
453	遺構	0029	21号層上	灰岩	打面否定		72.53	69.81	42.25	145.80					
454	遺土遺構	1355	45号層上	灰岩	打面否定		39.04	20.63	18.81	16.50					
455	遺構	0016	63号層上	灰岩	打面否定		91.24	88.94	53.66	267.60					
456	遺土遺構	1355	111号層上	灰岩	打面否定		41.18	37.69	31.40	63.50					
457	遺構	0019	41号層上	灰岩	打面否定		50.62	50.28	25.12	61.40					
458	遺土遺構	0071	54号層上	チャート	打面否定		35.71	33.29	28.15	21.40					
459	遺土遺構	0010	91号層上	チャート	打面否定		108.79	85.77	20.79	244.20					
460	遺構	0010	60号層上	灰岩	刃部		53.13	23.64	21.80	11.90					
461	遺構	0010	60号層上	灰岩	刃部		34.27	31.91	20.28	14.90					
462	遺構	0027	2号層上	灰岩	刃部		44.73	41.84	20.28	46.80					
463	遺構	0025	10号層上	灰岩	刃部		35.41	33.43	17.75	19.20					
464	遺構	0019	16号層上	灰岩	刃部		53.73	33.73	18.26	27.00					

表17 掲載石器・骨角器等一覽(6)

分類	発掘番号	取手/打刃 長(㎝)	調査区・調査 範囲	器物 種別	単位	石材	部分分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	焼痕	付着物	欠片	備考
石器	465	遺構 0001	151層上	頁岩	その他	68.38	37.66	21.68	42.90						
	466	遺構 0003	196層上	頁岩	その他	47.54	42.54	27.24	71.00						
	467	遺構 0003	205層上	頁岩	その他	62.51	43.15	35.85	98.70						
	468	遺構 0009	421層上	頁岩	その他	71.88	41.81	27.67	42.88						
	469	遺構 0072	196層上	頁岩	その他	74.44	50.20	35.49	140.50						
	470	遺構 0071	161層上	頁岩	その他	58.48	56.30	23.80	67.40						
	471	遺構 0028	245層上	頁岩	その他	36.96	32.70	10.30	12.50						
	472	遺構 0019	205層上	頁岩	その他	45.11	48.21	20.42	79.54						
	477	遺構 0019	101層上	頁岩	その他	49.28	55.18	29.57	168.45						
	478	遺構 0019	411層上	頁岩	その他	99.13	86.73	53.26	404.40						
	479	遺構 0024	535層上	頁岩	その他	151.88	77.56	47.64	618.00						
	480	遺構 0023	490層上	頁岩	その他	136.26	135.16	92.57	1700.00						
	481	遺構 0028	199層上	頁岩	その他	74.43	44.43	29.17	137.90						
	482	遺構 0021	472層上	頁岩	その他	117.52	51.11	20.71	128.40						
	483	遺構 0022	498層上	頁岩	その他	76.41	72.62	56.21	291.00						
	484	遺構 0019	481層上	頁岩	その他	115.33	106.09	72.35	800.00						
	485	遺構 0019	100層上	頁岩	その他	53.26	56.64	29.98	64.90						
	486	遺構 0028	143層上	頁岩	その他	148.69	87.27	53.29	623.50						
	487	遺構 0027	490層上	頁岩	その他	99.43	98.38	50.49	556.00						
	488	遺構 0023	211層上	チャート	その他	119.61	104.57	74.46	920.00						
	489	遺構 0071	401層上	頁岩	その他	87.26	67.79	51.28	356.10						
	490	遺構 0011	40層上	頁岩	その他	117.81	119.91	65.11	265.30						
	491	遺構 0020	60層上	頁岩	その他	103.34	81.38	67.91	320.40						
	492	出土層 0070	191層上	粘板岩	刮削石器小形	44.82	16.15	5.79	9.00						
	493	遺構 0020	42層上	緑色片岩	刮削石器小形	51.20	15.61	6.21	8.00						
	494	遺構 0020	85層上	緑色片岩	刮削石器小形	66.20	23.71	6.89	13.80						
	495	出土層 0161	101層上	粘板岩	刮削石器小形	52.90	21.70	6.42	10.50						
	496	遺構 0028	51層上	緑色片岩	刮削石器小形	56.13	28.20	14.49	49.43						
	497	出土層 1198	72層上	緑色片岩	刮削石器小形	56.59	34.20	13.45	40.14						
	498	遺構 0026	196層上	緑色片岩	刮削石器小形	65.25	31.05	12.11	35.00						
	499	遺構 0026	401層上	緑色片岩	刮削石器小形	48.08	31.28	8.01	32.10						
	500	遺構 0025	196層上	緑色片岩	刮削石器小形	61.38	32.41	11.01	33.10						
	501	遺構 0023	154層上	粘板岩	薄片小形	49.00	35.57	13.27	37.55						
	502	遺構 0023	196層上	青灰色片岩	薄片小形	87.62	33.65	12.25	96.50						
	503	遺構 0025	200層上	青灰色片岩	薄片小形	81.19	28.62	12.13	65.65						
	504	出土層 0028	128層表	緑色片岩	薄片小形	89.83	43.74	10.70	21.90						
	505	遺構 0028	255層上	青灰色片岩	薄片小形	69.67	40.43	16.13	71.70						
	506	遺構 0023	166層上	青灰色片岩	薄片小形	101.22	36.40	13.61	85.72						
	507	出土層 0055	271層上	青灰色片岩	薄片小形	110.15	35.98	11.74	87.22						
	508	遺構 0011	132層上	粘板岩	薄片小形	112.11	47.84	17.21	54.80						
	509	遺構 0013	297層上・自然	青灰色片岩	薄片小形	78.43	40.63	13.73	70.70						
	510	遺構 0023	172層上	青灰色片岩	薄片小形	102.83	41.20	12.59	87.32						
	511	遺構 0026	366層上	青灰色片岩	薄片小形	116.40	37.02	15.98	116.10						
	512	遺構 0028	194層上	粘板岩	薄片小形	94.51	40.63	13.67	89.40						
	513	遺構 0020	80層上	青灰色片岩	中層小形	194.21	52.62	15.38	73.50						
	514	出土層 0028	128層表	緑色片岩	中層小形	107.83	34.60	16.54	61.70						
	515	出土層 0028	137層表	青灰色片岩	中層小形	107.15	35.12	26.29	181.00						
	516	遺構 0026	320層上	粘板岩	中層小形	101.38	44.11	27.41	213.90						
	517	遺構 0026	325層上	粘板岩	中層小形	108.42	46.88	15.12	128.50						
	518	遺構 0012	194層上	青灰色片岩	厚層大形	94.30	42.46	17.87	130.00						
519	遺構 0019	500層上	緑色片岩	厚層大形	121.54	53.43	18.23	197.90							
520	遺構 0011	161層上	青灰色片岩	厚層大形	128.13	41.28	16.12	149.40							
521	遺構 0153	149層上	青灰色片岩	厚層大形	113.54	27.61	18.69	68.10							
522	出土層 1169	191層上	緑色片岩	厚層大形	126.76	51.52	23.44	248.80							
523	遺構 0073	281層上	緑色片岩	厚層大形	154.10	51.01	24.23	177.50							
524	遺構 0070	104層上	青灰色片岩	厚層大形	70.40	43.06	18.07	102.80							
525	遺構 0022	36層上	粘板岩	厚層大形	104.65	47.14	20.25	138.20							
526	遺構 0023	215層上	輝緑岩	厚層大形	275.82	44.49	27.38	156.40							
527	遺構 0168	59層上	青灰色片岩	厚層大形	148.47	40.69	32.17	319.90							
528	遺構 0003	311層上	青灰色片岩	厚層大形	145.13	45.24	31.78	328.90							
529	遺構 0023	82層上	緑色片岩	厚層大形	265.41	50.22	23.28	195.80							
530	出土層 0169	241層上	粘板岩	厚層大形	162.42	49.42	31.88	192.20							
531	遺構 0025	490層上	緑色片岩	厚層大形	71.50	54.69	24.62	172.90							
532	遺構 0009	55層上	緑色片岩	厚層大形	103.74	50.94	29.19	229.60							
533	遺構 0023	125層上	青灰色片岩	厚層大形	148.47	51.71	31.88	457.10							
534	遺構 0169	271層上	粘板岩	厚層大形	98.36	53.44	30.87	252.70							
535	遺構 0023	315層上	青灰色片岩	厚層大形	94.24	42.82	24.62	138.90							
536	遺構 0020	161層上	輝緑岩?	厚層大形	112.49	60.19	32.12	302.00							
537	出土層 1153	141層上	青灰色片岩	燐石	79.90	40.23	16.25	98.00							
538	出土層 0168	194層表	青灰色片岩	燐石	75.69	35.11	10.40	35.80							
539	遺構 0023	241層上	青灰色片岩	燐石	49.63	31.88	11.26	31.80							
540	遺構 0072	141層上	青灰色片岩	燐石	80.47	44.30	19.17	117.70							
541	遺構 0023	222層上	緑色片岩	燐石	103.22	34.40	20.37	119.50							
542	出土層 0136	411層表	青灰色片岩	燐石	99.89	25.96	13.02	45.60							
543	遺構 0023	196層上	緑色片岩	燐石	64.89	15.14	6.24	10.80							
544	遺構 0025	120層上	青灰色片岩	燐石	99.58	40.12	16.47	99.60							
545	出土層 0168	201層上	青灰色片岩	燐石	99.14	36.32	17.49	93.10							
546	遺構 0022	211層上	青灰色片岩	燐片	48.11	34.69	16.26	41.20							
547	遺構 0023	215層上	青灰色片岩	燐片	16.48	32.71	17.71	4.50							
548	遺構 0023	155層上	緑色片岩	燐片	32.60	22.62	11.23	3.20							
549	出土層 0168	171層上	緑色片岩	燐片	33.70	18.22	10.13	3.60							
550	遺構 0003	80層上	青灰色片岩	燐片	156.74	40.80	19.33	24.80							
551	出土層 0163	40層上	青灰色片岩	燐片	88.26	48.31	19.89	62.20							
552	遺構 0023	215層上	緑色片岩	燐片	99.83	42.79	19.80	45.70							
553	遺構 0015	154層上	青灰色片岩	燐片	59.20	43.43	10.32	36.50							
554	出土層 0136	201層上	緑色片岩	燐末燐殻	54.96	54.44	33.53	170.40							
555	遺構 0022	150層上	砂岩	燐末燐殻	64.04	47.78	26.33	107.70							
556	出土層 0164	120層上	チャート	燐末燐殻	102.48	70.97	52.40	325.10							

表17 掲載石器・骨角器等一覽(7)

分類	発掘番号	取付上寸	調査区・遺物名	種別	部位	石材	部分説明	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	焼熱	付着物	状況	備考
大石器	557	107	石丸型	3000	3号目	荊岩	細末地砕石	123.20	80.20	22.80	115.10				
	558	遺構	3009	47号層上	砂岩	細末地砕石	121.43	73.50	25.84	291.00					砥石裏石
	559	遺構	3020	163号層上	砂岩	細末地砕石	154.40	72.24	60.00	1017.00					
	560	遺構	3019	43号層上	砂岩	細末地砕石	120.20	81.70	61.90	215.20					
	561	遺構	3013	91号層上	砂岩	細末地砕石	143.60	85.40	50.70	525.20					
	562	遺構	3022	140号層上	砂岩	細末地砕石	139.60	80.60	20.80	145.50					
	563	遺構	3022	140号層上	砂岩	細末地砕石	95.00	28.70	21.20	94.00					
	564	遺構	3020	121号層上	砂岩	細末地砕石	84.90	21.90	22.60	95.20					
	565	遺構	3020	43号層上	砂岩	細末地砕石	120.20	81.70	61.90	215.20					
	566	遺構	3023	197号層上	砂岩	細末地砕石	124.20	83.70	60.10	888.00					
	567	遺構	3019	88号層上	荊岩	細末地砕石	146.20	72.20	29.40	314.70					
	568	遺構	3015	53号層上	火山岩	細末地砕石	101.20	64.00	59.20	481.20					
	569	遺土遺構	3010	12号層上	砂岩	細末地砕石	90.10	90.80	20.80	228.40					
	570	遺構	3013	80号層上	砂岩	細末地砕石	117.20	61.20	28.70	283.10					
	571	遺構	3029	29号層上	砂岩	細末地砕石	114.00	62.20	53.20	491.50					
	572	石丸型	3171	2号目	砂岩	正細砕石	113.20	77.20	29.00	428.90					
	573	遺構	3019	42号層上	砂岩	細末地砕石	128.20	65.40	21.20	298.00					
	574	遺構	3022	47号層上	砂岩	細末地砕石	102.20	64.00	20.20	218.10					
	575	遺構	3023	17号層上	砂岩	細末地砕石	102.40	88.20	63.80	734.60					
	576	遺土遺構	3049	23号層上	砂岩	細末地砕石	12.90	33.60	20.00	51.00					
	577	遺構	3025	49号層上	チャート	細末地砕石	28.19	28.22	63.07	169.60					
	578	石丸型	3188	2号目	砂岩	細末地砕石	84.80	72.60	43.20	324.60					
	579	遺構	3019	90号層上	荊岩	細末地砕石	71.50	47.00	47.60	310.90					
	580	遺構	3019	48号層上	砂岩	細末地砕石	62.20	60.90	48.40	23.40					
	581	遺構	3020	4号層上	砂岩	細末地砕石	152.00	53.00	37.20	289.60					
	582	遺構	3014	6号層上	砂岩	細末地砕石	87.60	27.00	29.60	200.10					
	583	遺構	3018	21号層上	荊岩	角柱細末地砕石	173.00	66.10	13.80	622.80					
	584	石丸型	3198	1号目	砂岩	三角柱細末地砕石	135.00	74.40	25.50	328.60					
	585	遺構	3025	111号層上	砂岩	三角柱細末地砕石	204.00	119.00	63.20	1700.00					
	586	遺構	3025	112号層上	砂岩	三角柱細末地砕石	211.20	87.20	81.80	2000.00					
	587	遺構	3025	14号層上	砂岩	三角柱細末地砕石	218.20	102.00	85.60	2140.00					
	588	遺構	3023	22号層上	砂岩	三角柱細末地砕石	200.60	88.20	28.20	629.00					
	589	遺構	3019	18号層上	砂岩	三角柱細末地砕石	187.00	58.20	23.10	391.40					
	590	遺構	3023	43号層上	砂岩	三角柱細末地砕石	174.00	62.20	27.20	815.70					
	591	石丸型	3158	2号目	砂岩	塊石	128.20	60.80	28.20	211.10					
	592	遺土遺構	3159	80号層上	砂岩	塊石	95.20	59.80	41.90	868.80					
	593	遺構	3023	27号層上	荊岩	塊石	139.20	62.00	22.20	208.00					
	594	遺構	3011	2号目	砂岩	塊石	127.00	83.00	24.00	285.20					
	595	石丸型	3132	2号目	砂岩	塊石	125.00	82.00	20.20	213.90					
	596	遺構	3023	61号層上	砂岩	塊石	173.60	70.20	41.80	704.10					
	597	遺土遺構	3171	2号層上	砂岩	塊石	201.60	61.20	41.00	603.20					
	598	遺構	3015	33号層上	砂岩	塊石	190.00	85.40	55.80	1098.00					
	599	遺土遺構	3136	2号層上	砂岩	塊石	210.00	66.00	47.20	713.20					
	600	遺構	3023	68号層上	砂岩	塊石	117.60	59.60	29.60	308.80					
	601	遺構	3021	30号層上	砂岩	塊石	111.00	49.80	41.20	312.10					
	602	遺構	3023	89号層上	砂岩	塊石	114.20	77.00	56.80	582.00					
	603	遺構	3021	49号層上	チャート	塊石	90.00	85.90	43.60	454.00					
	604	石丸型	3168	12号目	荊岩	塊石	103.20	77.00	51.20	654.60					
	605	遺土遺構	3155	15号層上	砂岩	塊石	67.60	78.80	61.20	312.20					
	606	遺構	3023	27号層上	砂岩	塊石	169.20	87.00	72.00	1090.00					
	607	遺土遺構	3070	258号層上	凝灰岩	塊石	95.20	72.10	28.81	159.71					
	608	石丸型	3169	7号目	火山岩	正細砕石	21.80	28.00	23.60	47.50					
	609	遺構	3021	190号層上	砂岩	正細砕石	68.00	43.10	38.80	144.20					
	610	遺土遺構	3169	25号層上	砂岩	正細砕石	29.80	54.20	51.60	229.50					
	611	遺構	3023	15号層上	砂岩	正細砕石	66.80	61.20	41.10	206.70					
	612	石丸型	3168	4号目	凝灰岩	正細砕石	73.00	62.80	28.00	166.00					
613	遺構	3025	122号層上	火山岩	正細砕石	72.20	27.20	54.60	263.60						
614	遺構	3023	285号層上	砂岩	正細砕石	96.60	69.20	50.70	274.20						
615	遺土遺構	3071	8号層上	砂岩	正細砕石	92.60	68.40	64.00	527.20						
616	遺構	3028	240号層上	凝灰岩	正細砕石	84.60	82.00	71.20	481.80						
617	遺土遺構	3072	9号層上	砂岩	正細砕石	124.80	91.00	81.20	698.20						
618	遺構	3028	4号層上	火山岩	正細砕石	101.90	91.00	17.10	683.20						
619	遺構	3022	12号層上	火山岩	正細砕石	113.90	89.00	70.80	1090.50						
620	遺構	3010	111号層上	火山岩	正細砕石	122.40	63.80	50.20	498.20						
621	遺構	3029	174号層上	火山岩	正細砕石	105.00	73.20	48.20	866.60						
622	遺構	3029	25号層上	火山岩	正細砕石	127.80	81.20	20.80	717.80						
623	遺構	3023	29号層上	砂岩	正細砕石	135.10	84.40	48.60	1023.00						
624	遺土遺構	3155	16号層上	砂岩	塊石砕石	71.60	68.20	27.50	139.00						
625	遺構	3023	8号層上	火山岩	塊石砕石	127.20	94.60	33.80	369.50						
626	遺構	3022	25号層上	砂岩	塊石砕石	142.80	85.00	46.80	800.00						
627	遺構	3019	21号層上	砂岩	塊石砕石	127.60	68.20	48.60	498.20						
628	遺構	3023	58号層上	凝灰岩	塊石砕石	150.60	74.80	36.50	628.90						
629	遺構	3020	1号層上	砂岩	塊石砕石	135.10	82.00	60.50	1049.90						
630	遺構	3010	9号層上	火山岩	塊石砕石	131.90	82.00	68.00	840.40						
631	遺構	3023	72号層上	砂岩	塊石砕石	89.20	81.60	49.80	583.80						
632	遺土遺構	3052	19号層上	砂岩	塊石	119.20	108.20	52.40	844.90						
633	石丸型	3164	3号目	凝灰岩	長方形・横四角	139.20	40.60	8.60	121.30						三ノ子字
634	遺構	3023	201号層上	砂岩	不整形	160.00	90.00	42.00	748.00						
635	遺土遺構	3172	11号層上	凝灰岩	半円形	160.00	95.00	25.00	825.00						
636	遺構	3019	106号層上	砂岩	横四角	178.60	123.60	29.80	1011.20						
637	遺構	3023	12号層上	砂岩	長方形・横四角	1117.00	80.70	17.60	351.70						
638	遺構	3023	267号層上	砂岩	長方形・横四角	246.00	123.00	29.50	1500.00						完成品
639	遺構	3019	54号層上	凝灰岩	長方形	154.80	49.60	13.60	70.20						
640	遺構	3023	72号層上	砂岩	長方形	138.80	89.60	29.50	1289.00						
641	遺構	3022	64号層上	片岩	砂岩	150.20	31.00	22.70	140.00						
642	遺構	3028	138号層上	凝灰岩	塊石	128.00	21.00	17.10	60.20						
643	石丸型	3152	2号目	砂岩	塊石	182.00	61.00	18.40	27.20						
644	遺土遺構	3155	14号層上	砂岩	塊石	103.00	63.00	2.80	62.90						
645	遺構	3023	296号層上	火山岩	塊石	155.00	84.60	27.20	864.20						
646	遺構	3019	66号層上	火山岩	塊石	1									

表17 掲載石器・骨角器等一覧(8)

分類	発掘番号	取手/打刃 長さ(mm)	遺跡区画・遺物 種別	単位	石材	部分分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	焼痕	付着物	欠片	備考
石和石製石器	650	遺跡 0029	160mm土	砂岩	磨り面もつもの	251.00	172.00	89.70	5400.00					
	651	古瓦層 0063	2層	砂岩	磨り面もつもの	211.30	104.60	66.70	1200.00					
	652	古瓦層 0256	9層表層	砂岩	磨り面もつもの	222.80	173.00	74.30	3400.00					
	653	古瓦層 0019	45層土	砂岩	磨り面もつもの	201.00	111.00	63.00	2300.00					
	654	遺跡 0019	45層土	凝灰岩	磨り面もつもの	262.00	223.00	55.40	3600.00					
	655	遺跡 0013	45層土	凝灰岩	磨り面もつもの	103.10	100.30	36.90	520.40					
	656	遺跡 0029	160mm土	火山岩	磨り面もつもの	291.00	24.10	58.00	1800.00	○				
	657	遺跡 0014	45層土	砂岩	磨り面もつもの	208.00	105.00	115.00	4900.00	○				打石
	658	遺土遺積 0068	11層土	凝灰岩	磨り面もつもの	112.00	98.00	49.00	67.00					磨り石
	659	遺跡 0030	40層土	火山岩	磨り面もつもの	309.00	158.00	87.00	6000.00	○				磨り石
	660	遺跡 0013	102層土	砂岩	磨り面もつもの	180.00	115.00	99.30	2900.00					
	661	遺跡 0017	30層土	火山岩	磨り面もつもの	226.00	160.00	135.00	7400.00					磨り石
	662	遺跡 0019	45層土	火山岩	磨り面もつもの	305.00	223.00	120.00	12500.00					
	663	遺跡 0013	16層土	砂岩	打石	270.00	99.00	79.00	2500.00					
	664	遺跡 0026	4層土	砂岩	打石	253.00	140.00	57.00	2100.00					
	665	遺跡 0015	80層土	火山岩	磨り面不明物	370.00	259.00	76.00	11100.00					
	666	遺跡 0021	51層土	砂岩	打石	423.00	271.00	149.00	22500.00					
	667	遺跡 0009	42層土	砂岩	打石	27.00	25.00	21.20	20.00					
	668	遺跡 0026	22層11層土	泥岩	打石	36.30	30.20	23.40	19.30					
	669	遺跡 0015	45層2層土	泥岩	打石	35.10	33.10	25.00	32.90					
	670	遺跡 0021	12層土	泥岩	打石	35.00	33.10	21.20	18.60					
	671	遺土遺積 0368	4層土	泥岩	打石	42.20	39.60	31.20	34.30					
	672	遺土遺積 0053	30層土	砂岩	打石	66.50	36.60	37.30	71.00					
673	遺跡 0017	63層土	火山岩	大型打石	188.00	121.50	116.30	4000.00						磨り石
674	遺跡 0021	88層土	砂岩	磨り石	51.10	50.40	11.20	37.50						打石
675	古瓦層 0366	25層表層	泥岩	磨り石	47.00	36.10	13.00	25.11						打石
676	古瓦層 0357	15層土	泥岩	磨り石	17.00	17.00	9.00	3.70						打石
677	遺土遺積 0019	140mm	泥岩	磨り石	84.50	19.00	16.00	58.00						
678	遺跡 0036	271層土	砂岩	磨り石	116.10	73.00	52.80	639.10						
679	遺跡 0011	12層土	凝灰岩	磨り石	217.00	63.10	69.30	1200.00						
680	古瓦層 0066	45層土	泥岩	有刃石	153.20	79.20	78.20	148.00						
681	遺跡 00P227	1層土	火山岩	磨り石	312.00	75.00	75.00	2300.00						柱状遺物
682	遺跡 0002	6層4層土	不明	赤色顔料	36.00	34.00	61.40	28.20						
683	遺跡 0019	491層土	不明	赤色顔料	24.70	18.40	18.90	4.20						
684	遺土遺積 1.137	22層土	凝灰岩	赤色顔料	21.11	17.94	12.24	3.59						
685	古瓦層 0062	4層土	凝灰岩	赤色顔料	15.80	13.00	6.00	3.90						遺物取手
石錐	686	古瓦層 0366	12層表層	砂岩	錐錐部	153.00	66.00	58.00	902.00					
	687	遺跡 0036	1層土	火山岩	錐錐部	166.00	98.00	79.00	1500.00					
	688	遺跡 0013	290層土	火山岩	錐錐部	172.82	66.90	62.20	905.00					
	689	遺跡 0019	264層土	砂岩	錐錐部	168.54	77.20	72.50	118.00					
	690	遺跡 0013	93層土	火山岩	錐錐部	415.00	139.20	106.90	8600.00					
	691	遺土遺積 0070	20層土	火山岩	打石	99.49	87.16	31.20	1009.20	○				
	692	遺跡 00P161	1層土	火山岩	打石	142.10	77.80	74.00	1800.00	○				
	693	遺土遺積 0070	15層土	砂岩	打石	189.26	111.00	116.20	3200.00	○				
	694	遺跡 0003	43層土	凝灰岩	人念整石	393.50	79.00	22.00	549.00	○				
	695	遺土遺積 0023	43層土	凝灰岩	人念整石	178.10	41.00	27.20	194.90					
	696	遺跡 0022	22層土	火山岩	磨製石	40.00	53.00	12.20	27.30					
	697	古瓦層 0354	29層土	火山岩	磨製石	41.80	59.00	11.80	40.10					
698	遺土遺積 0071	80層土	火山岩	磨製石	192.00	114.00	13.60	380.20					3点層合	
699	遺土遺積 0371	1層土	砂岩	磨製石	181.00	126.00	24.80	718.50						
700	遺跡 0008	280層土	砂岩	磨製石	21.80	20.20	3.80	1.60						
701	遺跡 0017	61層土	硬化岩	磨製石	21.40	36.40	5.60	2.18						
702	古瓦層 0256	227表層	硬化岩	三叉	21.20	30.60	4.60	1.43						
703	遺土遺積 0071	87層土	凝灰岩	尖の地	24.30	17.70	4.90	2.28						
704	古瓦層 0356	41層土	砂岩	尖の地	23.20	20.00	6.20	6.10						
705	古瓦層 0356	43層土	砂岩	尖の地	38.40	25.80	6.60	3.10						
711	遺土遺積 0072	230層土	泥岩	尖の地	58.10	44.10	22.00	17.20						
三脚石	706	古瓦層 0012	19層土	凝灰岩	三脚石のみ	39.60	39.10	8.00	7.70					
	707	遺跡 0023	310層土	凝灰岩	三脚石のみ	46.30	20.60	11.00	8.20					
	708	遺跡 0000	30層土	凝灰岩	三脚石のみ	72.10	67.60	12.00	38.60					
	709	古瓦層 0368	12層土	凝灰岩	三脚石のみ	54.80	53.40	11.90	25.20					
	710	古瓦層 0357	8層土	凝灰岩	磨り面のみ	64.40	67.80	14.10	58.30					
	711	古瓦層 0369	90層土	砂岩	磨り面のみ	48.20	30.00	16.60	44.01					
	714	古瓦層 0366	26層土	砂岩	磨り面のみ	43.30	27.30	5.80	18.01					
磨石	715	遺土遺積 1.72	6層土	凝灰岩	磨石	27.00	32.30	8.20	4.30					
	716	遺跡 0013	一部7層土	凝灰岩	磨石	2.70	2.30	2.30	0.91127g					3.01層合
	717	古瓦層 0355	19層土	コヤン岩	磨石	206.20	5.20	5.20	1.71					
	718	遺跡 00P114	1層土	砂岩	磨石	115.00	7.20	4.60	0.20					
	719	遺跡 0026	一部1層土	凝灰岩	磨石	28.70	5.20	4.70	0.62					
	720	遺跡 0029	一部1層土	凝灰岩	磨石	19.80	3.20	2.20	0.40					
アオザメ遺物類	721	遺土遺積 N108	一部土	アオザメ	上層部19	135.80	6.20	3.20	0.70					骨塊102
	722	遺跡 0026	一部土	アオザメ	上層部19	19.20	8.18	4.00	0.10					骨塊103
	723	遺跡 0013	一部土	アオザメ	上層部29	19.90	18.60	3.92	0.23					骨塊100
	724	古瓦層 0015	一部土	アオザメ	下層部19	19.82	6.70	4.72	0.12					骨塊230(1)
	725	遺跡 0026	一部土	アオザメ	第3層12層	15.02	6.87	3.68	0.98					骨塊104
	726	遺土遺積 0019	一部土	アオザメ	第3層12層	10.56	4.64	3.12	0.94					骨塊104
	727	遺跡 00P04	一部土	アオザメ	第3層12層	11.09	6.74	—	0.92					骨塊103
	728	遺土遺積 1.137	一部土	アオザメ	第3層12層	38.91	13.80	11.87	0.03					骨塊146

主要引用参考文献

- 青森県教育委員会1978『青森市三内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書37集
- 青森県教育委員会1983a『釜窪遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書84集
- 青森県教育委員会1983b『牛ヶ沢(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書86集
- 青森県教育委員会1993『野場(5)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書150集
- 青森県教育委員会2000『餅ノ沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書278集
- 石橋孝夫2014「石狩浜の漂着遺物とその履歴」『いしかり砂丘の風資料館紀要』第4巻
- 石川政治1963「函館市天祐寺貝塚」『石器時代』No.6 石器時代研究会
- 大森司統2003a「渡島半島の縄文時代後期前葉」『東北・北海道の十腰内I式再検討』海峡土器編年研究会
- 大森司統2003b「VI成果と課題3. 石器」『森町濁川左岸遺跡—B地区—』(財)北海道埋蔵文化財センター北理調報190
- 大森司統2004a「扁平打製石器」『森町濁川左岸遺跡:A地区』(財)北海道埋蔵文化財センター
- 大森司統2004b「たつき石」『森町濁川左岸遺跡:A地区』(財)北海道埋蔵文化財センター
- 大森司統2004c「VI成果と課題2. 土器・土製品」『森町濁川左岸遺跡—A地区』(財)北海道埋蔵文化財センター北理調報208
- 大沼忠春1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』第66巻第4号
- 大沼忠春1989「北筒式土器様式」『縄文土器大観1』
- 葛西朋2002『再葬土器棺墓の研究—縄文時代の洗骨層—』
- 「再葬土器棺墓の研究」刊行会
- 海峡土器編年研究会2003『東北・北海道の十腰内I式再検討』
- 上磯地方史研究会編1991『東浜遺跡とその周辺』
- 上磯町教育委員会1983『浜山』
- 上磯町教育委員会1990『矢不來3遺跡』
- 上磯町教育委員会2003『押上1遺跡』
- 上磯町教育委員会2004『押上1遺跡』
- 上磯町教育委員会2005『押上1遺跡』
- 上磯町教育委員会2006『押上1遺跡』
- 菅野修広2004「北海道噴火湾沿岸における縄文時代の生業と集落の関係について」『北海道考古学』第40輯(公財)北海道埋蔵文化財センター2013「木古内町大平4遺跡」『調査年報25』
- 甲野勇1932「北海道上磯町発見の縄紋式土器」『史前学雑誌』4-1
- 小林儀一郎1917「渡島國上磯郡泉澤産油地質調査報文」『鉱物調査報告』第24号 地質調査所
- (財)北海道埋蔵文化財センター1985『湯の里遺跡群』北理調報18
- (財)北海道埋蔵文化財センター1987『上磯町矢不來2遺跡』北理調報37
- (財)北海道埋蔵文化財センター1998『上磯町茂別遺跡』北理調報121
- (財)北海道埋蔵文化財センター2002『八雲町栄浜1遺跡』北理調報175
- (財)北海道埋蔵文化財センター2004『森町知川右岸遺跡』北理調報196
- (財)北海道埋蔵文化財センター2004『森町濁川左岸遺跡—A地区—』北理調報208
- (財)北海道埋蔵文化財センター2010『森町石倉1遺跡(2)』北理調報266
- (財)北海道埋蔵文化財センター2012『北斗市館野遺跡(2)』北理調報282
- 坂本尚史2002「スクレイパーの形態と機能について」『八雲町野田生4遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター北理調報171
- 坂本真弓2002「沢部型複式炉の現在—青森県内の複式炉集成から—」『海と考古学とロマン—市川金丸先生古稀記念献呈論文集—』
- 設楽博己編2001『落合計策縄文時代遺物コレクション』国立歴史民俗博物館資料図録1
- 知内町教育委員会1972『涌元遺跡』
- 市立函館博物館1994『市立函館博物館蔵品目録7考古資料篇』
- 鈴木克彦1999「北海道渡島・檜山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学』第35輯
- 鈴木克彦2000「北海道後志・胆振地域の中期末葉から後期前葉の編年」『北海道考古学』第36輯
- 関根達人2014「青森県における縄文時代の遺跡数の変遷」『第四紀研究』53-4 193-203
- 高橋正勝1974「知内町涌元遺跡出土の土器と北海道南西

部の縄文時代後期前半について』『北海道の文化』31
高橋真美2000『縄文時代の赤色顔料』『理文とやま』73
富山県埋蔵文化財センター pp. 6
滝沢村教育委員会1994『滝沢村の文化財』
立田理「刃部に光沢のある石器について」2002『八雲町
野田生2遺跡』(財)北海道埋蔵文化財センター北理調
報167
千代薫・落合治彦1963『北海道上磯町跡山遺跡調査略報』
『北海道の文化 特集号』
榎坂恭代1997『柏原5遺跡出土の植物遺体について』『柏
原5遺跡』苫小牧市教委 604-615
東海大学校地内遺跡調査団2007『編みと織りの考古学』
戸井町教育委員会1993『戸井貝塚III』
戸井町教育委員会1994『戸井貝塚IV』
長尾捨一・三谷勝利・斎藤尚史1959「木古内町泉沢・釜
谷地域の石油鉱床」『地下資源調査所報告』No.21
中田幹雄編1980『熊野喜藏氏資料目録・II 北海道開拓
記念館一括資料目録 第13集』北海道開拓記念館
仲谷一宏1979『志美第4遺跡出土のサメの歯について』『シ
ビクスII』石狩町教育委員会 pp. 218-224
七飯町教育委員会1986『七飯本町1・2遺跡』
成田滋彦1989『入江・十瀬内土器様式』『縄文土器大観4』
成田滋彦1997『深浦町一本松遺跡の土偶』『青森県史研究』
第1号
能生町役場1986『能生町史 上巻』
登別市教育委員会1982『札幌台地の縄文時代集落址：北
海道登別市千歳6遺跡発掘調査報告書』
函館市教育委員会1997『湯川貝塚』
函館市教育委員会1999『函館市石倉貝塚』
函館市教育委員会2010『坂ノ島遺跡』
福井淳一2003「北海道における旧石器時代の顔料」『旧
石器考古学』64 pp. 9-22
福井淳一2008「動物遺存体の出土状況」『釧路町天塚1遺
跡』(財)北海道埋蔵文化財センター 北理調報254
福井淳一2010「北海道における縄文文化～続縄文文化の
アスファルト利用について」『池上栢遺跡記念論文集』
pp. 485-494
福井淳一2014「北海道の「盛土遺構」とは何か」『北海
道考古学会2014年度研究大会 盛土遺構を掘る 予稿
集』
辺治文・土茂治・来曼1878『北海道地質総論』
北斗市教育委員会2009『ヤギナイ遺跡』
北斗市教育委員会2009『水無遺跡』

北斗市教育委員会・特定非営利活動法人函館市埋蔵文化
財事業団2013『北斗市茂辺地4遺跡』
北海道第四紀研究会1974『西股：函館市宇紅葉山西股遺
跡発掘調査報告書』
松下亘1989「北海道の再生土製円盤 その一部の実態と
青森県との対比」『北海道考古学 第25輯』
松前町教育委員会1988『寺町貝塚』
南茅部町教育委員会1996『大船C遺跡』
三野紀雄2001「先史時代における木材の利用 (5)：クリ
材について」『北海道開拓記念館研究紀要』第29号
森町教育委員会2006『鷺ノ木4遺跡』
森町教育委員会2008『鷺ノ木遺跡』
八雲町教育委員会1995『浜松5遺跡』
八雲町教育委員会1992『コタン温泉遺跡』
山田悟郎2001「北海道南部渡島半島の遺跡から出土する
植物遺体」『南北北海道考古学情報交換会20周年記念
論集-渡島半島の考古学』南北北海道考古学情報交換会
20周年記念論集作成実行委員会
山田悟郎・榎坂恭代2006「北海道の遺跡から出土したヒ
エ・アワ・キビ」『樺東先史古代の穀物2』熊本大学15
-26
吉崎昌一1997「縄文時代の栽培植物」
『第4紀研究』Vol. 36No. 5
ライマン1875『北海道泉澤石油地方略測報文』(『新撰北
海道史』第6巻 (1936) 所収)

報告書抄録

ふりがな	ほくとし おしあひいせき							
書名	北斗市 押上1遺跡							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財調査発掘調査報告書							
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北理調報)							
シリーズ番号	第312集							
編著者名	中山昭大・福井淳一・柳瀬由佳・立田 理							
編集機関	(公財)北海道埋蔵文化財センター (http://www.domaibun.or.jp)							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 (011)386-3231 mail@domaibun.or.jp							
発行年月日	西暦2015年1月30日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おしあひ いせき 押上1遺跡	ほっかいどうほくとし 北海道北斗市 おいくせき 大工川176-23 ほか	01236	B-06-73	41° 50′ 03″	140° 37′ 58″	20100906 ～ 20101201 20110509 ～ 20110909	4,539㎡	北海道新幹線 建設事業に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
押上1遺跡	集落跡	縄文時代 前期～中期		縄文土器(円筒土器下層式、円筒土器 上層式)				
		縄文時代 後期前葉	盛土遺構2条、竪穴住 居跡44、土坑32、Tピット 4、焼土11、集石1、 フレイク集中3、柱穴状 小ピット434	縄文土器(天祐寺式、涌元式) 石器(スクレイパー、たたき石、石鏃、 石錐、台石・石皿、石斧など) 土偶、土器片加工土製品、石棒、鳥 帽子形石器、背竜刀形石器、ヒスイ 製垂飾、赤色顔料、骨角器など 動物遺存体・植物遺存体			盛土遺構を検 出。石器にアス ファルト付着、 使用光沢みられ る。	
		縄文時代 後期後葉～ 晩期		縄文土器(後期後葉、晩期前葉～中 葉)				
要約	縄文時代後期前葉の集落。盛土遺構が検出された。竪穴住居跡は、大きくⅠ類：舟形、Ⅱ類：楕円形があり、Ⅱ類は袖石の有無で細別された。旧上磯町教育委員会による過年度の調査成果も含め、縄文時代中期末葉から後期前葉の集落の変遷が、土器型式、住居形態、土層堆積状況などから明らかとなった。住居形態が大きく変化し、集落が「集住」から「散住」に変遷する過程をみることができる。土器は、99%以上後期前葉のもの。剥片石器は、頁岩製主体。頁岩産地のため、多数の石核がある。							

(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第312集

北斗市 押上1遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—
第1分冊 本編

- 発行 平成27(2015)年1月30日
- 編集 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地-1
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238
[E-mail]mail@domaibun.or.jp
[URL]http://www.domaibun.or.jp
- 印刷 株式会社 キサツ
〒064-0921 札幌市中央区南21条西10丁目
TEL (011) 531-2111 FAX (011) 512-3555

